審査意見への対応を記載した書類（３月）

（目次）健康科学部　リハビリテーション学科

【大学等の設置の趣旨・必要性】

１．＜大学設置の趣旨が不明瞭＞（是正事項）
建学の理念と目的に「持続的に可能にする社会を創生する。そのために必要とされるプロフェッショナル人材を育成する。」と記載があるが、「持続的に可能にする社会を創生する」に当たって、リハビリテーションがどのように関わるのか、より詳細に説明すること。また、和歌山の地方創成にどのように関わるのか明らかにすること。…… 1

２．＜ディプロマ・ポリシー(DP)の設定について＞（是正事項）
学部としてDPが設定されているが、理学療法学専攻、作業療法学専攻はそれぞれ養成する人材像も授与する学位も異なるにもかかわらず、専攻ごとでなく学部で１つのDPとしていることについて、妥当性を説明するか、専攻ごとに設定すること。なお、設定した場合DPを踏まえた教育課程となるよう留意すること。…… 16

３．＜ディプロマ・ポリシー（DP)と教育課程の関係が不明確＞（是正事項）
DPに記載された「リハビリテーション専門職分野の最新かつ先端部分の情報を積極的に収集する」能力やカリキュラム・ポリシー（CP)のCP2に掲げられた「身体障害やスポーツ障害の予防・回復に関する理学療法」など対応する科目が不明なものがあるため、DP、CP、教育課程の整合を図示するなどして説明すること。…… 28

４．＜学生確保の見通し等＞（是正事項）
学生確保の見通し等について、添付資料が令和２年度開設を想定した資料となっているため、令和３年度開設を踏まえた、県内及び近隣大学等の志願者、受験者、入学者の動向、受験生へのアンケート調査結果、求人情報等を更新し、客観的根拠に基づいて、定員充足の見込み、人材需要の観点を再分析すること。その際には、近隣に設置されている類似の大学の状況を踏まえること。
…… 31

【教育課程等】

５．＜指定規則の改正対応＞（是正事項）
理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則等の改正を踏まえた、総単位数の見直し、臨床実習の在り方、専任教員の見直し等、各種対応がなされているか不明確なため、これらの改正の対応状況を明らかにする資料を添付し、説明すること。…… 72

６．＜科目区分の名称等が不整合＞（是正事項）
基礎科目に「人間発達学」の科目区分があるが、配置されている科目は「人間発達学」には該当しないので、科目区分の名称を改めること。また、職業専門科目区分の「人体の構造と機能及び心身の発達」の区分は心身の発達を系統立てて理解できるよう科目の配置を改めること。
…… 77

７．＜専攻ごとの展開科目の考え方＞（是正事項）
理学療法学専攻、作業療法学専攻における展開科目を通じて育成する人物像は同一の説明がされているが、展開科目の狙いや特色を明らかにしつつ、どのように展開科目を履修させようとしているのか明らかにすること。…… 81

８．＜「客観的臨床試験（OSCE)」の改善＞（是正事項）
客観的臨床試験（OSCE)について、以下の点を是正すること。

（１）作業療法評価学実習は２年前期にOSCEを学ぶ科目として配置されている一方、３年前期に配置された診療参加型臨床実習Ⅲでも実習前にOSCEを行うと説明されているため、本学におけるOSCEの扱い、考え方を明らかにすること。 …… 97

（２）理学療法学専攻では、（１）記載の作業療法評価学実習に相当するような科目が配置されていないため、理学療法学専攻と作業療法学専攻でOSCEをどのような考え方で科目を配置したのか明らかにすること。 …… 100

（３）「実習前OSCE」の検査測定の患者役は「受験者の後輩（２年生)」とされ、「終了後OSCE」の患者役については明示がないが、当該試験においては、患者役が重要な役割を担うため、「患者設定」の役割を適切に担える者を配置すること。 …… 104

９．＜科目名称と科目内容が不整合＞（是正事項）
診療参加型臨床実習Ⅰ～Ⅴのシラバスを確認すると、見学実習が主たる内容であり、特に、診療参加型臨床実習Ⅰは開講時期が１年前期であり、大学で十分な教育を受けていない者がどのように診療に参加するのかも不明である。科目名称と科目内容が不整合となっているため適切に改めること。 …… 106

１０．＜単位の実質化＞（是正事項）
卒業要件単位数を１４３単位以上と設定しているが、単位当たりの学習時間を確保し、学生が十分な教育効果をあげることができるよう、１年間に履修できる単位の上限数を定めたり、養成する人材像に照らし、学生負担を考慮しながら教育課程を適切に見直すこと。 …… 110

１１．＜編入学制度＞（是正事項）
学則では、編入学は３年次のみとし、条件に該当する者は入学を認め、欠員が生じた場合のみ編入学を実施すると記載があるが、どのような者を想定しているのか明らかにすること。また、３年次に編入が認められた者は、下の学年の科目を学ぶことが想定される。３年次編入学生が、専門職大学の教育を適切に履修できる教育体系か明らかにし、併せてその履修モデルを示すこと。また、必要に応じて編入学制度を見直すこと。 …… 123

１２．＜履修モデルの作成＞（是正事項）
養成する人材像に即した、入学から卒業までの履修モデルを図示した資料を添付すること。
…… 124

【教員組織等】

１３．＜ディプロマ・ポリシーと整合した教員組織か不明＞（是正事項）
ディプロマ・ポリシーに記載された「リハビリテーション専門職分野の最新かつ先端部分の情報を積極的に収集する」能力を教授するためには、各教員についても当該専攻分野の「最新かつ先端部分」の教育研究に取り組むことが求められるが、それを担保できる教員組織体制となっているか不明確なため、明らかにすること。 …… 141

【名称、その他】

１４．＜入試に関する説明が不整合＞（是正事項）
入試に関する記載について、以下の点を是正すること。

（1）各入試区分で受け入れる学生割合について合算すると、１００％を超過するため、適切に改めること。…… 145

（2）入学者選抜のⅢ（2）の推薦入試の説明では、推薦書、調査書、小論文および面接を課して総合的に決定するとされている一方でⅤの合否判定の説明では推薦について「原則として指定高等学校との信頼関係の上に立ち合格とする」と記載があり不整合である。修正するとともに、アドミッション・ポリシーにもとづいて選抜が行われていることを説明すること。…… 153

（3）外国籍の入学希望者の取扱いについて別途規定を定めると記載があるため、具体的な選抜方法、日本語能力や経費支弁能力の確認など、留学生の入学に関する選抜方法等について明確に説明すること。…… 158

１５．＜図書館の充実＞（是正事項）
図書館に、ディプロマ・ポリシーに掲げる「最新かつ先端部分の情報を積極的に収集し、創造的かつ応用的に取り組み、リハビリテーション学を発展させる」ための環境があるか、電子ジャーナル及び収集図書の一覧を提出して説明すること。また、最先端の情報を収集する仕組みについて明らかにすること。…… 161

１６．＜申請書類内の整合性について＞（是正事項）
申請書内で、教育課程等の概要に記載のない科目の説明がされていたり、用意したと説明のある資料が添付されていないなど、書類上の誤植や不備が多数みられるため、申請書類の記載を整合させること。…… 164

１７．＜指定規則における主たる実習施設について＞（改善事項）
理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則等が改正され、一定の要件を満たす、主たる実習施設を置くことが望ましいとされているため、検討状況を説明すること。…… 169

１８．＜学内の各種委員会の整備＞（改善事項）
学内に大学運営に必要な委員会が設置される計画だが、大学として教員間や学生間におけるハラスメント等の問題を扱う窓口や委員会について整備することが望ましい。…… 170

１９．＜校舎に関する整備＞（改善事項）
実地調査における審査委員の大学建築に関する意見にて下記の内容への対応について。

（1）作業療法実習室、レクレーション室、補装具室等、55 ㎡前後で、40 名での実習が困難だと考えられるため対応すること。…… 180

（2）情報処理室、一部の教室に関して、大きな柱があり、授業を阻害する恐れがあるため対応すること。…… 182

（3）校地校舎等の図面において共同研究室の机の配置図がなく、研究や教育において十分な設備がそろっているか判断できないため対応すること。…… 183

【大学等の設置の趣旨・必要性】

（是正事項）健康科学部　リハビリテーション学科

１．＜大学設置の趣旨が不明瞭＞
建学の理念と目的に「持続的に可能にする社会を創生する。そのために必要とされるプロフェッショナル人材を育成する。」と記載があるが、「持続的に可能にする社会を創生する」に当たって、リハビリテーションがどのように関わるのか、より詳細に説明すること。また、和歌山の地方創成にどのように関わるのか明らかにすること。

（対応）

１　「持続的に可能にする社会」を実現するには、何が課題か？

２　その課題に対して「リハビリテーションに何ができるか？」

３　そして、リハビリテーション、和歌山リハビリテーション専門職大学が「和歌山創生」にどう関わっていくか？

の論点から、回答をしたい。

１　「持続的に可能にする社会」を実現するには、何が課題か？

「人がいつまでも美しく輝いて生きていける社会」を持続的に可能にする。これが和歌山リハビリテーション専門職大学の理念である。現在和歌山の持続可能性を考える上で喫緊且つ最大の課題は、人口減少である。増田寛也氏（増田寛也「地方消滅８９６の自治体が消える」で消滅する自治体として和歌山もその一つとして挙げられている）が、２０１４年に著した「地方消滅」で日本社会特に和歌山などの地方が消滅の危機に瀕していると指摘した通り和歌山は、全国有数の少子高齢化の進む地方である。和歌山で 100 歳を越える人口が、７２６人（2018 年 9 月現在）となり、全国 3 位である。更に和歌山は、介護保険認定率 1 位、身体障害者手帳交付率 5 位で高止まりしており、これら医療費や介護費が市や県の財政を著しく圧迫している。国家予算の大部分は、医療費に割かれている。和歌山でも事情は変わらない。地域での医療の重複や過剰を無くすため地域包括ケアが構築され医療費の抑制に寄与している。その中心的な役割を担うのもリハビリテーション専門職であり、各方面からリハビリテーション専門職への期待が高まっている。リハビリテーション専門職大学は自治体の財政面の窮状を改善し、和歌山を「消滅から創生へ」導く大きな潜在力を有している。かたや「少子」に於いては、全国的にも年少人口が３８年間減り続けている状況で、和歌山が移民でも受け入れない限り、今しばらくは年少人口の増加は見込めず根本的な解決策を見いだすことは困難である。和歌山に若者を呼び込まないかぎり、年少人口を自前で増加させることは不可能である。しかも毎年 9 割にも及ぶ 18 才年齢の県外流出は和歌山にとって深刻な問題である。この少子高齢化を超克するため県や市が実行している様々な方策、対策の一つとして「大学誘致」があり、和歌山は、ここ数年で大学、学部の新設 5 校を誘致し、内 2 校は既に開学している。和歌山リハビリテーション専門職大学が認可されれば、5 校目の大学となる。保守傾向、大学志向の強い県民性も顧慮した誘致と考える。教員も全国から招聘し、その家族の多くは和歌山への定住若しくは往来が見込める。若者の、県外への流出抑制と県内への流入の促進に繋がると考えている。実際開学した 2 大学の入学者は、殆ど県内出身者となっている。具体的には、現時点に於いても進学

率と受験者の県内残留率は僅かではあるが上昇を示している。文科省の審査を通過した専任教員の多くは県外から招聘し定住する人も多い。家族の

２　その要因に対してリハビリテーションに何ができるか？

超少子高齢化時代を生き抜くためには、人口減少だけで無く、財政上の問題も大きい。どうすれば良いか？逆転の発想で、政府も「一億総活躍」を掲げているように、総ての人が、長く健康で自立し、自分らしく生き、社会のために活躍出来るような環境作りが急務である。平均寿命まで女性は１２．３５年、男性は８．８４年、病気や怪我で日常生活が制限されている。その期間を減らすことが「健康寿命の延伸」である。「人生１００歳時代」とも言われる今日の社会にあって、全ての人が是非とも、健康で自分らしい自立した生活を送り寿命を全うして欲しい。

日本老年医学会が２０１４年に提唱した「フレイル」という概念がある。健康な状態から要介護状態の中間に位置し、身体的機能や認知機能の低下がみられる状態のことを指すが、その時点で適切な治療や予防を行うことで要介護に進まないようにする為の啓発運動、診療が老年内科、整形外科、神経内科、脳外科、リハビリテーション科などの多くの医療現場で展開されている。勿論介護・福祉の現場でも広く取り上げられている。特に認知機能に関しては、「ＭＣＩ（軽度認知障害)」を検査、評価により認知症予備軍の段階で患者さん自身やその家族が知ることが出来る。両者とも、健康から介護レベルに至るまでの早期発見が重要であり、大事に至るまでに適切な治療、リハビリテーションを受けることにより、症状の進行予防、改善につながる事が実証されている。フレイルにしろＭＣＩにしろ、初期対応に、リハビリテーション専門職は欠かせない。この対象者（多くは高齢者）は、夥しい人数であり、認知症は２０２５年には 700 万人に達しＭＣＩ者数はほぼ同数いると推定されている。非常に多くの高齢者が対象となる為この予防活動の実践は、社会保障費の抑制につながり、自治体の財政基盤を安定化させることは間違いない。その施策を起案し指導、推進する中心的役割を受け持つのがリハビリテーション専門職である。保健医療分野では慢性的な人手不足が続いているが医療や介護を受けている高齢者を健康に導き、和歌山の将来を託せる若者、和歌山リハビリテーション専門職大学生などを地域に一人でも多く残すこと、そして県外から、高齢者や障害者にも優しく、住み心地の良い和歌山をアピールし、人を呼び込むことは、和歌山の持続可能性を高める。

３リハビリテーション、和歌山リハビリテーション専門職大学が

「和歌山創生」にどう関わっていくか？

日本のリハビリテーション専門職を充実させていく、この壮大な目的のために「専門職大学」が選択された。

リハビリテーションの社会的役割は、学生のみならず、教員にも正確に、「ヒューマニズムの実践だ」との“気づき”に導く。援助される側から、自立して活き活きと生きれるように、そして障害の有る他の人に手をさしのべる側に身を置くことが出来るように、リハビリテーシ

ョンの役割は、全ての人に寄り添い、支えていく、そして他職種協働のノウハウと実践力を兼ね備えたリハビリテーション専門家が必要である。全国から招集されたリハビリテーション領域の学者、研究者そして実務家教員が展開科目でブラッシュアップされたリハビリテーション専門職大学で教授するリハビリ専門家のアイデアと技術が必要不可欠である。新しいリハビリテーションのサービスの形を創造する事も求められている。

「地方創生危うし」の声も上がる中、地方の復権に寄与する仕組みを多く兼備した地方の専門職大学への期待は増すばかりである。

１９世紀初頭に和歌山では医聖華岡清州が、世界初の麻酔薬（通仙散）を研究、開発し世界で初めて全身麻酔で乳がん手術を行った。京都で学んだ後、ふるさと紀ノ川の畔に「春林軒」なる診療所兼「塾」を開き、多くの門下生が和歌山はもとより全国から集い、学者、研究者とその家族が日本各地から往来し賑わったと云います。知の巨人南方熊楠を出すまでもなく、新しい学び、新しい風を希求する風土が和歌山にあるようだ。

２０２０年２月から３月にかけて実施した「学生確保のアンケート」の中間報告に依れば、和歌山県の受験生やその家族のそして大阪南部高校生の専門職大学への興味、期待（魅力を感じる）を持つ生徒数の飛躍的な伸びは刮目すべきデータである。国が５５年ぶりに、大学制度の中に位置づけ「高等職業教育機関」として創成した、新しい学びの形「専門職大学」の情報が浸透し、この地域で存在感を増し、学生確保の見通しも明るい。和歌山リハビリテーション専門職大学を、県外からの学生が和歌山で住み続ける呼び水にしたい。

和歌山リハビリテーション専門職大学は、南近畿のリハビリテーションの学びの拠点となり、育った有能な人材が地方に残り、その若者らしい斬新な発想とエネルギッシュな行動で、旧来の枠にとらわれない新しい価値を生み出し、従来まで担ってきた役割を、これからも果たしていくのは勿論、地域全体に新しい風を巻き起こしていく起爆剤となることが期待されている。特に近年、急激な高齢化、社会環境や疾病構造の変化を反映してストレスに起因する精神疾患などへの医学的リハビリテーションの需要が増大してきている。現在社会に対する洞察や関連学問的知識のないままに、対処は不可能である。また疾患別リハビリテーションの実施は、循環器科、呼吸器科、整形外科、脳神経外科、精神科等標榜科横断的な連携が必須である。各科の代表と交渉できる、そしてチームとして機能するようにリーダーシップが、求められる。リハビリテーション専門家以外、医師、看護師も含め、適任パートは無い。またリハビリテーションが地方の財務状況を改善するメカニズムは既に述べた。

今地域リハビリテーションの臨床現場に於ける最大の問題は、「リハビリ（テーション）難民」の出現である。国が、医療費の中でも、リハビリテーションに関わる予算が肥大化ている為、医療保険でリハビリを受けれる期限を設けた。２０１９年４月からの実施である。疾患により５ヶ月間と６ヶ月間に分類され、その終了後は、介護保険によるデイサービスに移行するように指導されているが、その結果、デイサービスを閉じるリハビリセンターが続出し、医療リハビリを必要とする患者さんは、町中を彷徨っている、地方を揺るがす事態である。この問題の解決の糸口は、やはり地方の医療全体を俯瞰できる、この行き場を失っている「リハビリ難民」

の実態を知り分析できる、リハビリテーション専門職が、この機能不全が由って来る所を抉り出すことから見いだされる。ここでも多くのリハビリ専門職が求められている。

高齢者や障害者が、ノーマライゼーションの理念のもと若い人と生き生きと共生できる地方を実現し、和歌山をリハビリテーションの息づく町づくりのモデル地区にしたい。この企画には、様々な仕掛けを考案する素養と実践力が必要で有り、それらを培うのもリハビリテーション専門職大学の役割の一つである。リハビリ市民講座、「脳卒中友の会」、「認知症友の会」、「パーキンソン病友の会」などの患者友の会を大学として後援し学生と市民の接点を多くする。これらの、きめ細かい取組をして、高齢者、障害者、女性、幼き者など、弱者に優しい和歌山に魅力を感じる県外からの移住者を歓迎している。バリアーフリー、ノーマライゼイションのことばや概念が和歌山に息づき優しく、軟らかい住み心地良さを提供する。魅力あるリハビリ介護スペースを創出し、集う居場所を提供する。

若い感性で運営される「リハビリカフェ」や「フリーマーケット」の設置、老若男女、障害の有無に関わらず気安く町中に集えるスペースの創出、「カラオケ」「ダンス(踊り)」音楽ライブや美術など芸術を観賞できる空間を賑わいのある、市民会館、県民文化会館、図書館などの公共施設内に設置する企画を行政と協議する。

健康であることは、誰しもが望むところであり、本学の学部名にも取り入れている。

健康に関する研究として、「アンチエイジング」の科目も配置している。現在は、健康志向が強い。和歌山には、有名な温泉地が多く、白浜、龍神、勝浦、川湯を初めとして枚挙にいとまがない。全国にも「リハビリテーション温泉病院」が沢山ある。リハビリテーションに温泉は有効であることは周知の事実である。それを系統的、体系的に基礎研究をして、高齢者、障害者、老若男女すべての人に利用して貰いたい。喘息、リウマチなど慢性病に対する効能については、既に立証されている。「現在の湯治場」として県外の人にもアピールしたい。食に関しても飽食の時代から健康食にシフトしている。新鮮な魚、和歌山名産のクエや鯛、四季の蜜柑、桃や柿そして梅（梅干し）をふんだんに使った健康料理を提供するリハビリ・クアハウスなどの開設のアイデアの提供、更にリハビリ関連の、新しいモノ（評価ソフト（何処まで痴呆症か？体力は？等の自己チェック）、装具の新製品、介護器具、マッサージチェアーなど身近なリハビリツールの開発）やサービスを開発、研究し市や県に提言する（高齢者や障害者に優しい交通機関（市電）の再敷設など）シンクタンクの創設のための協議を行政に働きかける。様々な情報をＳＮＳを介して提供していく。

地方の全ての人を元気に盛り立てていく多岐に亘る、幅広い取組を持続的に推進し「地方創生」に繋げていきたい。

（新旧対照表）設置の趣旨等と記載した書類（1 ページ～9 ページ）

新	旧
Ⅲ. 健康科学部リハビリテーション学科設置の趣旨	**Ⅲ. 健康科学部リハビリテーション学科設置の趣旨**

1. 和歌山を取り巻く環境と社会的状況

1）専門職大学設置を計画している和歌山

和歌山の名の由来は、万葉集に「若の浦に潮満ちくれば潟をなみ芦辺をさして鶴鳴きわたる」と山部赤人が「和歌」に詠み、平安中期には、癒しの聖地であった「熊野」「高野山」参詣が盛んになり、その帰途に「若の浦」にある玉津島神社は詠歌上達の神と崇められ多くの歌人がその景勝地に立ち寄り「和歌」を吟じたことから、「若の浦」から「和歌浦」と変遷する中、羽柴（豊臣）秀吉の命を受けた弟秀長が和歌山城を築城したとき、秀吉が、その城の在る地名の「岡山」を併わせて「和歌山城」と命名したとされている。江戸時代は、徳川御三家の１つ「紀州藩」であったが、その時代は「和歌山」と「若山」の呼称が相半ばしていた。明治に入り「和歌山」は確定した。

和歌山の地勢は、本州の中央部に位置し近畿の底部を形成しており、南北に長く１周すれば600㎞にも及ぶ日本一大きな紀伊半島で、険しい山は海岸近くまでせりだし平坦部は大きな河川の裾野に申し訳程度に広がる。その昔熊野詣は海路か急峻な紀伊山地を縦走するしかなく、1,200㎞の海岸線も日本最長で、今も北から南に走る交通網は乏しい。南北地域格差が大きく、南紀北山村、古座の一部は既に限界集落化している。

１９世紀初頭に和歌山では医聖華岡清州が、世界初の麻酔薬（通仙散）を研究、開発し世界で初めて全身麻酔で乳がん手術を行った。京都で学んだ後、ふるさと紀ノ川の畔に「春林軒」なる診療所兼「塾」を開き、多くの門下生が和歌山はもとより全国から集い、学者、研究者とその家族が日本各地から往来し賑わったと云う。知の巨人南方熊楠を出すまでもなく、新しい学び、新しい風を希求する風土が和歌山にあるようだ。

その県都の和歌山市の北西部、紀ノ川の畔

1. 和歌山を取り巻く環境と社会的状況

1）専門職大学設置を計画している和歌山

和歌山の名の由来は、羽柴（豊臣）秀吉の命を受けた弟秀長が和歌山城を築城したとき、秀吉が、万葉集に「若の浦に潮満ちくれば潟をなみ芦辺をさして鶴鳴きわたる」と山部赤人が「和歌」に詠み、平安中期には、癒しの聖地であった「熊野」「高野山」参詣が盛んになり、その帰途に「若の浦」にある玉津島神社は詠歌上達の神と崇められ多くの歌人がその景勝地に立ち寄り「和歌」を吟じたことから、「若の浦」から「和歌浦」と変遷しており、その城の在る地名の「岡山」を併わせて「和歌山城」と命名したとされている。江戸時代は、徳川御三家の１つ「紀州藩」であったが、その時代は「和歌山」と「若山」の呼称が相半ばしていた。明治に入り「和歌山」は確定した。

和歌山の地勢は、本州の中央部に位置し近畿の底部を形成しており、南北に長く１周すれば600㎞にも及ぶ日本一大きな紀伊半島で、険しい山は海岸近くまでせりだし平坦部は大きな河川の裾野に申し訳程度に広がる。その昔熊野詣は海路か急峻な紀伊山地を縦走するしかなく、1,200㎞の海岸線も日本最長で、今も北から南に走る交通網は乏しい。南北地域格差が大きく、南紀北山村、古座の一部は既に限界集落化している。

その県都の和歌山市の北西部、紀ノ川の畔に、和歌山リハビリテーション専門職大学の設置を予定している。大阪中心地難波と和歌山を結ぶ南海本線の和歌山市駅から徒歩５分の交通至便の場所で、沿線には国立和歌山大学前駅がある。また専門職大学開校予定の令和３年春には、和歌山市駅周辺の再開発プロジェクトの完成時期を同時に迎えることになる。和歌山の多くの大学と歩いて行き交うことが出来る距離にある。文教地区と全国企業の支店ビルが建ち並ぶ商業地域が重なり中心市街地を形成している。

に、和歌山リハビリテーション専門職大学の設置を予定している。大阪中心地難波と和歌山を結ぶ南海本線の和歌山市駅から徒歩５分の交通至便の場所で、沿線には国立和歌山大学前駅がある。また専門職大学開校予定の令和３年春には、和歌山市駅周辺の再開発プロジェクトの完成時期を同時に迎えることになる。和歌山の多くの大学と歩いて行き交うことが出来る距離にある。文教地区と全国企業の支店ビルが建ち並ぶ商業地域が重なり中心市街地を形成している。	
Ⅳ. 和歌山リハビリテーション専門職大学設置の必要性 **1. 和歌山の特異な理由** **1）リハビリテーション最後進県** 10 年前リハビリテーション養成所が県内に１校も無いという和歌山県（日本で１番遅れた）に、和歌山国際厚生学院を４年制理学療法士養成校として設置した。既に実績として国家試験に合格した 250 人の理学療法士を、その 90%を超える卒業生を、県内全域に送り出している。極めて高い評価を受けている。また令和３年には最も作業療法士が少ない和歌山県で作業療法士養成所を併設すると共に、和歌山リハビリテーション専門職大学へ移行する。	**Ⅳ. 和歌山リハビリテーション専門職大学設置の必要性** **1. 和歌山の特異な理由** **1）リハビリテーション最後進県** 10 年前リハビリテーション養成所が県内に１校も無いという和歌山県（日本で１番遅れた）に、和歌山国際厚生学院を４年制理学療法士養成校として設置した。既に実績として国家試験に合格した 200 人の理学療法士を、その 90%を超える卒業生を、県内全域に送り出している。極めて高い評価を受けている。また令和３年には最も作業療法士が少ない和歌山県で作業療法士養成所を併設すると共に、和歌山リハビリテーション専門職大学へ移行する。
2）和歌山県下高校生のリハビリテーション専門職養成所への進学（＊６資料） この 8 年間の和歌山県内高校生の理学療法士、作業療法士養成所への進学状況であるが、年平均、理学療法士は 129 名、作業療法士は 47 名であり大学へは各々過半数の学生が進学している。（和歌山県のリサーチ） （図省略）	**2）和歌山県下高校生のリハビリテーション専門職養成所への進学（＊５資料）** この６年間の和歌山県内高校生の理学療法士、作業療法士養成所への進学状況であるが、年平均、理学療法士は126名、作業療法士は43名であり大学へは各々過半数の学生が進学している。（和歌山県のリサーチ） （図省略）

このデータから和歌山に新大学（専門職大学）が設置されれば、18 歳年齢の県外流失を大きく減らすことが出来る。また年少人口減少の影響と強い大学志向が見て取れる。	このデータから和歌山に新大学（専門職大学）が設置されれば、18 歳年齢の県外流失が最大毎年　110 人減らすことが出来る計算になる。また少子高齢化、人口減少の影響と強い大学志向が見て取れる。
3）和歌山はリハビリテーション専門職養成所を必要としている 和歌山県の高齢化率は、30%を越え全国第６位、介護認定率１位（介護度１、２、要支援）身体障害者手帳交付数は全国５位、療育手帳と精神障害者保健福祉手帳所持者数は増加傾向にあり、リハビリテーションが必須な県であるにも拘わらず、理学療法士、作業療法士の養成所が両者とも全国で一番遅れて開校する、リハビリ後進県である。 「地域包括ケアの理念と目指す姿」で政府の第５期介護保険事業計画策定においても、リハビリテーションは個々の職域、専門性を尊重しつつ相互に連携し高め合う現場において先導的役割を担うことが求められており、地域包括ケア推進リーダーとして位置づけられた。 また日本学術会議臨床医学委員会老化分科会「超高齢化社会のフロントランナ―日本」においても人と社会のつながりいう広い視野から高齢化する日本社会の将来ビジョンで「老齢疾患の予防法の確立とともに高齢者特有の複数疾患による複合病態への治療法の開発が重要であり、その研究の推進と医療専門職の育成が急務である」と提言している。 和歌山県も第７次和歌山県保健医療計画（＊７資料）を策定し、この急速な少子高齢化を受けて、リハビリテーションが多方面で中核的な役割を嘱望されていることを認識し、 ① リハビリテーション専門職の養成力確保 ② 人材確保と地域偏在の解消を喫緊の課題としている。 又2017年12月に和歌山県理学療法士協会が主	**3）和歌山はリハビリテーション専門職養成所を必要としている** 和歌山県の高齢化率は、30%を越え全国第６位、介護認定率１位（介護度１、２、要支援）身体障害者手帳交付数は全国５位、療育手帳と精神障害者保健福祉手帳所持者数は増加傾向にあり、リハビリテーションが必須な県であるにも拘わらず、理学療法士、作業療法士の養成所が両者とも全国で一番遅れて開校する、リハビリ後進県である。 「地域包括ケアの理念と目指す姿」で政府の第５期介護保険事業計画策定（＊６資料）においても、リハビリテーションは個々の職域、専門性を尊重しつつ相互に連携し高め合う現場において先導的役割を担うことが求められており、地域包括ケア推進リーダーとして位置づけられた。 また日本学術会議臨床医学委員会老化分科会「超高齢化社会のフロントランナ―日本」においても人と社会のつながりいう広い視野から高齢化する日本社会の将来ビジョンで「老齢疾患の予防法の確立とともに高齢者特有の複数疾患による複合病態への治療法の開発が重要であり、その研究の推進と医療専門職の育成が急務である」と提言している。 和歌山県も第７次和歌山県保健医療計画（＊７資料）を策定し、この急速な少子高齢化を受けて、リハビリテーションが多方面で中核的な役割を嘱望されていることを認識し、 ① リハビリテーション専門職の養成力確保 ② 人材確保と地域偏在の解消を喫緊の課題としている。

催し、県長寿社会課から招いた講師が「和歌山県がリハビリテーション専門職に期待すること」（＊８資料）と題して講演した。介護認定率が他府県より高く１位（　要支援、介護度１、２）、保険料基準額は全国２位で住民に負担を強いている。「フレイル」状態の人や、要支援、介護１の人は、早期に適切な支援（自立支援型ケア）を受けることにより自立した生活に繋げられる。高齢者の生活の質の向上を目指す。その状況を打開するために、折しも国民医療費が過去最高の 43 兆円を越えたと報道される中、医療費の抑制という観点からも、それら対策の実施が急がれる。

「フレイル」は、日本老年医学会が 2014 年に提唱した概念である。健康な状態から要介護状態の中間に位置し、身体的機能や認知機能の低下がみられる状態のことを指すが、その時点で適切な治療や予防を行うことで要介護に進まないようにする為の啓発運動、診療が老年内科、整形外科、神経内科、脳外科、リハビリテーション科などの多くの医療現場で展開されている。勿論介護・福祉の現場でも広く取り上げられている。特に認知機能に関しては、「ＭＣＩ（軽度認知障害)」検査、評価が「フレイル」同様の役割を担っている。両者とも、健康から介護レベルに至るまでの早期発見が重要であり、大事に至るまでに適切な治療を受けることにより、症状の進行予防、改善につながる事が実証されている。いずれの場合でも、リハビリテーションが担っている役割は大きい。この対象者（多くは高齢者）は、夥しい人数であり、認知症は 2025 年には 700 万人に達しＭＣＩ者数はほぼ同数いると推定されている。非常に多くの高齢者が対象となる。この予防活動の実践は、社会保障費の抑制につながり、自治体の財政基盤を安定化させることは間違いない。その施策を指導し推進する中心的役割を受け持つのがリハビリテーションである。医療や介

又2017年12月に和歌山県理学療法士協会が主催し、県長寿社会課から招いた講師が「和歌山県がリハビリテーション専門職に期待すること」（＊８資料）と題して講演した。介護認定率が他府県より高く１位（　要支援、介護度１、２）、保険料基準額は全国２位で住民に負担を強いている。「フレイル」状態の人や、要支援、介護１の人は、早期に適切な支援（自立支援型ケア）を受けることにより自立した生活に繋げられる。高齢者の生活の質の向上を目指す。その　状況を打開するために、折しも国民医療費が過去最高の 43 兆円を越えたと報道される中、医療費の抑制という観点からも、それら対策の実施が急がれる。

21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21）を提唱し生活習慣病対策、認知症対策、骨粗鬆症対策、健康増進対策を実践し、健康寿命の延伸を図ることは、住民の医療費、介護費を抑制し住民の負担を軽減し、安心して豊かに暮らせる「ふるさと」を創出するために大いに寄与する。講演の中で印象的だったのは、市内の高齢者の内、独居老人が 18,607 人いる。その 45%が自宅で住み、30%は施設に入居している。施設を選んだ理由の 77%の「子供や家族に迷惑かけたくない」という現在日本人的心情の吐露である。

「大家族制」から「核家族」そして「地域ぐるみ」へ変容している介護の主体を公的なシステムが地域包括ケアシステムや自立支援型在宅医療を中核に日本人的情緒も取り入れ、一部に負担が大きくのしかかることを避け持続可能性を高めるように制度設計されている。その主たる調整役のリハビリテーション専門職への期待は、非常に大きい。

護のお世話になる高齢者を減少させ、和歌山の将来を託す若者を地域に残すことが、和歌山の持続可能性を高める。

21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21）を提唱し生活習慣病対策、認知症対策、骨粗鬆症対策、健康増進対策を実践し、健康寿命の延伸を図ることは、住民の医療費、介護費を抑制し住民の負担を軽減し、安心して豊かに暮らせる「ふるさと」を創出するために大いに寄与する。講演の中で印象的だったのは、市内の高齢者の内、独居老人が 18,607 人いる。その 45%が自宅で住み、30%は施設に入居している。施設を選んだ理由の 77%の「子供や家族に迷惑かけたくない」という現在日本人的心情の吐露である。

「大家族制」から「核家族」そして「地域ぐるみ」へ変容している介護の主体を公的なシステムが地域包括ケアシステムや自立支援型在宅医療を中核に日本人的情緒も取り入れ、一部に負担が大きくのしかかることを避け持続可能性を高めるように制度設計されている。その主たる調整役のリハビリテーション専門職への期待は、非常に大きい。

4）和歌山への地域貢献

和歌山を疲弊させているのは、人口減少、少子高齢化と医療費を中心に社会保障費が肥大化し財政状況を悪化させていることにある。大学、大企業等が少なく生産年齢の若者が大阪や東京、県外に出奔し進学、就職する。いきおい税収も落ちてくる。悪循環が回っている。和歌山南部では、「限界集落」が既に出現し、日常生活もままならぬ状況になっている。「地方消滅」から「地方創生」に向かわせる為には綿密な長期計画策定が必須である。県や市が「和歌山創生」するための施策を多面的に根気強く展開している。国が２０１４年「人口急減、超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対

4）和歌山への地域貢献

和歌山の置かれている環境、状況を説明してきたが、「地方消滅」から「地方創生」に向かわせる為には綿密な長期計画策定が必須である。地域包括ケアシステムの構築、「健康日本 21」、高齢者の健康を損なう代表的な疾患（ガン、心疾患、COPD、脳卒中、糖尿病など）の発症予防や重症化予防の徹底化を目標として中短期、長期計画を実施している。人々が多く集うタウンを創出するためには、医療・福祉の充実も含めた厚生面インフラの整備が大切で

し、政府一体となって取り組み、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生することを目指す」施策を発表し、「令和１年改訂版　まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を閣議決定している。それを受けて「和歌山県（市）まち・ひと・しごと創生総合戦略」を
県、市各々に戦略を地域に合わせて策定している。地域再生計画（地方創生関連交付金などの支援措置を活用している計画）の内閣総理大臣の認定も受けている。
「しごと」を創る、「ひと」を増やす、「まち」を創るがメインコンセプトである。これらコンセプトを以て地方創生する為の指針が示されている。その中でリハビリテーション、和歌山リハビリテーション専門職大学がコミットできる施策を「選択」し、「集中」して関わっていく。和歌山リハビリテーション専門職大学の理念で実現する持続性の高い社会と和歌山創生の目指す社会は重なる部分が多い。国、県、市の「地方創生」のか施策項目の中で、リハビリテーションが関われる項目を列挙する。障害者や患者さん等の弱者に対する基本的な考え方、「障害のある人も無い人も、お互いに人格と個性を尊重し、誰もが共に支え合い住み慣れた地域で暮らせる社会実現を目指す。」に則り所在地の和歌山市と本学は「専門職大学と和歌山市との連携に関する基本協定書」を交わし専門職大学の基礎科目、展開科目の非常勤講師に市職員を招聘、「教育課程連携協議会」構成メンバーにも市スタッフの参画など協力、協働して「いつまでも輝いて生きれる町」を目指す。和歌山リハビリテーション専門職大学の理念で実現する持続性の高い社会と和歌山創生の目指す社会は重なる部分が多い。国、県、市の「地方創生」のか施策項目の中で、和歌山リハビリテーション専門職大学が関われる項目を列挙する。

ある。笑顔を取り戻し、住み慣れたふるさと和歌山（自分の家）で豊かに安心して暮らしたい、他府県からも魅力的な土地として移り住みたいと思われる土地にしたい。その為には、障害者や患者さん等の弱者に対する基本的な考え方「障害のある人も無い人も、お互いに人格と個性を尊重し、誰もが共に支え合い住み慣れた地域で暮らせる社会実現を目指す。」に則り所在地の和歌山市と本学は「専門職大学と和歌山市との連携に関する基本協定書」を交わし専門職大学の基礎科目、展開科目の非常勤講師に市職員を招聘、「教育課程連携協議会」構成メンバーにも市スタッフの参画など協力、協働して「美しく輝く町」を目指す。具体的な例として和歌山市の「紀州踊りぶんだら節」へ連（れん）を出し、和歌浦の歴史的な「和歌祭り」行列に参加する、地域障害児童のサッカーリーグ創設、市民セミナーの開催など地域に根ざしたイベントに参画し、市民と触れあう場を日常的に創出していく。

それらのプロジェクトにおいて、少子高齢化、人口減少時代の救世主として中核的な役割を果たすのはリハビリテーションであるとも云える。その社会からの付託に十分応えられるような人材を育成していく。そのことが「一億総活躍」、「地域貢献」延いては「地方創生」に通じると考えている。

・「ひとが集う、安心して暮らすことが出来る魅力的な地域をつくる」「わかちか広場」の整備　「和歌山らしい特徴を活かしながら魅力ある町を創生」 ・地域の特徴を活かした自律的で持続的な社会の創生 ・「和歌山の暮らしやすさの創出」「U、I、Jターンを始めとした移住・定住の推進」 ・「健康寿命の延伸」「健康都市和歌山の実現」「高い医療と福祉の充実」「地域包括ケアシステムの確立」 ・「人口減少社会に置いても地域住民が必要な行政サービスや、日常の生活サービスが享受出来る拠点及び交通インフラの整備」 ・「文化・芸術・スポーツの振興世界遺産の保存と活用」 ・「自然環境資源の魅力と価値を再認識し活用」 ・「高齢者が安心して暮らせる環境を実現するため、在宅医療体制を整備」、「老若男女、障害の有無に関わらず誰もが文化芸術活動に気軽に参加し、親しめる環境を整備」 ・「中心市街地の活性化」「都市の外延的拡大を抑制する」 ・「大学誘致」「高等教育機関の充実」 ・「大規模災害に備えた安全の推進」 「地方創生」に向けた施策実現の一翼を担う、この目的のために国が５５年ぶりに大学という制度の中に実践的な職業教育に重点を置いた仕組みとして制度化した「専門職大学」を選択した。 和歌山リハビリテーション専門職大学は、小さな大学である。しかし和歌山には、一つのモデルが存在する。 １９世紀初頭に和歌山では医聖華岡清州が、世界初の麻酔薬（通仙散）を研究、開発し世界で初めて全身麻酔で乳がん手術を行った。京都で学んだ後、ふるさと紀ノ川の畔に「春林軒」	

なる診療所兼「塾」を開き、多くの門下生が和歌山はもとより全国から集い、学者、研究者とその家族が日本各地から往来し賑わったと云う。知の巨人南方熊楠を出すまでもなく、新しい学び、新しい風を希求する風土が和歌山にあるようだ。「山椒は小粒でもピリリと辛い」、そんな気概が受け継がれている。 ２０２０年２月から３月にかけて実施した「学生確保のアンケート」の中間報告に依れば、和歌山県の受験生やその家族のそして大阪南部高校生の専門職大学への興味、期待（魅力を感じる）を寄せる生徒数の飛躍的な伸びは刮目すべきデータである。国が５５年ぶりに、大学制度の中に位置づけ「高等職業教育機関」として創成した、新しい学びの形「専門職大学」の情報が浸透し、この地域で存在感を増し、学生確保の見通しも明るい。和歌山リハビリテーション専門職大学を、県外からの学生が和歌山で住み続ける呼び水にしたい。 和歌山のリハビリテーションを取り巻く環境で幾つかの問題が生じている。その大きな課題にリハビリテーション専門職大学」が如何にコミット出来るかを例示する。 特に近年、急激な高齢化、社会環境や疾病構造の変化を反映してストレスに起因する精神疾患などへの医学的リハビリテーションの需要が増大してきている。現在社会に対する洞察や関連学問的知識のないままに、対処は不可能である。 また疾患別リハビリテーションの実践にも、循環器科、呼吸器科、整形外科、脳神経外科、精神科等標榜科横断的な連携が必須である。各科の代表と交渉できる、そしてチームとして機能するようにリーダーシップが求められる。リハビリテーション専門家以外、医師、看護師も含め、その任に当たるパートは少ない。 地域リハビリテーションの臨床現場に於ける、もう一つの問題は、「リハビリ（テーショ	

ン）難民」の出現である。国が、医療費の中でも、リハビリテーションに関わる予算が肥大化している為、医療保険でリハビリを受けることが出来る期限を設けた。２０１９年４月からの実施である。疾患により５ヶ月間と６ヶ月間に分類され、その終了後は、介護保険によるデイサービスに移行するように指導されている。その結果、デイサービスを閉じるリハビリセンターが続出し、医療リハビリを必要とする患者さんは、町中を彷徨っている、地方を揺るがす事態である。この問題の解決の糸口は、やはり地方の医療全体を俯瞰できる、この行き場を失っている「リハビリ難民」の実態を知り分析できる、医療経済や会計に明るいリハビリテーション専門職が、この機能不全が由って来る所を抉り出すことから見いだされる。ここでも多くのリハビリテーション専門職が求められている。 　高齢者や障害者が、バリアーフリー、ノーマライゼーションの概念のもと、若い人と生き生きと共生できる地方を実現し、和歌山をリハビリテーションの息づく町づくりのモデル地区にしたい。この企画には、様々な仕掛けを考案する素養と想像力と実践力が必要である。それらを培うのもリハビリテーション専門職大学の役割の一つである。地域の祭りやイヴェントなどの催しへの学生や教員の参加やリハビリ市民講座、「脳卒中友の会」、「認知症友の会」、「パーキンソン病友の会」などの患者友の会を大学として後援し学生と市民の接点を多くすることで、ゆくゆくは地域への赴任に繋ぐ。これらの、きめ細かい取組を通して、高齢者、障害者、女性、幼き者など、弱者に優しい和歌山に魅力を感じる県外からの移住者を増やしたい。 　若い感性で運営される「リハビリカフェ」や「フリーマーケット」の設置、老若男女、障害の有無に関わらず気安く町中に集えるスペースの創出、「カラオケ」「ダンス(踊り)」音楽ラ	

イブや美術など芸術を観賞できる空間（ドイツなどで商工会議所のフロアーに見受けられる）を、駅舎や市民会館、県民文化会館、図書館などの公共施設内の空きスペースに設置する企画を行政に提案し協議する。「教育課程連携協議会」での議題にもなる。 　健康であることは、誰しもが望むところであり、本学の学部名にも使用している。 健康に関する研究として、「アンチエイジング」の科目も配置している。現代は、健康志向が強い。地方創生のプログラムにも「健康寿命の延伸」が謳われている。例えば和歌山には、有名な温泉地が多く、白浜、龍神、勝浦、川湯（小栗判官の湯治場として有名）を初めとして枚挙にいとまがない。全国的にも「リハビリテーション温泉病院」がいくつかある。リハビリテーションに温泉は有効であることは周知の事実である。それを系統的、体系的に研究をして、その温泉の効能に関しての多角的なエヴィデンスと活用法に関するする研究所を紀南に設立したい。喘息やリウマチなど慢性病に対する効能については、既に立証されている。「現代の湯治場」として県外の人にもアピールしたい。食に関しても飽食の時代から健康食にシフトしている。新鮮な魚、和歌山名産のクエや鯛、四季の果物、蜜柑、桃や柿そして梅（梅干し）をふんだんに使った健康料理を提供するリハビリ・クアハウスなどの開設のアイデアの提供、更にリハビリ関連の、新しいモノ（評価ソフト（何処まで痴呆症か？体力は？等の自己チェック）、装具の新製品、介護器具、マッサージチェアーなど身近なリハビリツールの開発）やサービスを開発、研究し市や県に提言する（高齢者や障害者に優しい交通機関（市電）の再敷設など）シンクタンクの創設のための協議を行政に働きかけ、教育課程連携協議会の議題にも挙げていく。様々な情報をＳＮＳなどを介して「和歌山の魅力」発信していく。デザイン	

力、広報力も専門職大学で養われる。 　リハビリテーション、和歌山リハビリテーション専門職大学が「地方創生」において出来ることは決して少なくない。 地方の全ての人を元気に盛り立てていく多岐に亘る、幅広い取組を持続的に推進し「一億総活躍」、「地域貢献」延いては「地方創生」に繋げていきたい。 ｐ11 **■「専門職大学」と「専門学校」の違い** 　専門学校は大学制度の中に位置付くものでは無く、自由度の高い制度の特性を活かし多様で実践的な教育を行う。その分野においては優れた人材が輩出される。 　専門職大学は大学制度の中に位置づけられ、教育課程や教員組織は、大学として必要な高い水準が求められる。よって卒業時には学士（専門職）が授与される。（＊１１資料） 　教育機関における教育課程は、その構成の中で主要な部分を占める。 　既設の専門学校（理学療法学科）の卒業要件単位数は 135 単位であるのに対して、本学の専門職大学の両専攻共に 137 単位としている。専門職大学ではさらに選択科目を設置し、学生が興味のある分野を選択的に学べる環境があり、反対に既存の専門学校には選択科目を設置していないことも大きな違いと言える。下記に内容に関して大きく異なることを詳述する。	**■「専門職大学」と「専門学校」の違い** 　専門学校は大学制度の中に位置付くものでは無く、自由度の高い制度の特性を活かし多様で実践的な教育を行う。その分野においては優れた人材が輩出される。 　専門職大学は大学制度の中に位置づけられ、教育課程や教員組織は、大学として必要な高い水準が求められる。よって卒業時には学士（専門職）が授与される。（＊９資料） 　教育機関における教育課程は、その構成の中で主要な部分を占める。 　既設の専門学校（理学療法学科）の卒業要件単位数は 135 単位であるのに対して、本学の専門職大学の両専攻共に 143 単位としている。大枠で、元の専門学校も履修単位数が多かったが更に専門職大学はそれを上回った。下記に内容も大きく異なることを詳述する。

（是正事項）健康科学部　リハビリテーション学科

２．＜ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）の設定について＞
学部としてＤＰが設定されているが、理学療法学専攻、作業療法学専攻はそれぞれ養成する人材像も授与する学位も異なるにもかかわらず、専攻ごとでなく学部で１つのＤＰとしていることについて、妥当性を説明するか、専攻ごとに設定すること。なお、設定した場合 DP を踏まえた教育課程となるよう留意すること。

（対応）

本学のディプロマ・ポリシー（以下；ＤＰ）は専攻ごとではなく、学科として設定している。その理由としては、リハビリテーション専門職として関連する理学療法士・作業療法士が、共通の知識とともに学生同士が授業を通して繋がる機会を持ち、他者との人間関係を構築することが重要であるとの考え、2 職種間の相互理解と連携の必要性･重要性を養うものとしている。2 専攻で互いに補完・連携する能力を効果的に身につけること、また完成された人格の形成を目指す教養科目と専門基礎科目は双方に共通する多くの授業科目があることなどから、共通の目標を持ち専攻が別でも共通理解が得られるように学部単位でのＤＰを設定した。

ご指摘の通り、理学療法学専攻、作業療法学専攻はそれぞれ授与する学位、取得する国家資格も異なるため、より専門性の強い専門職大学設置ではＤＰを専攻別に改めた方がよいと考え、下記のようにＤＰを設置し訂正した。

【大学のディプロマ・ポリシー】

ディプロマ・ポリシー

本学の建学精神である「Live Longer Better」（全ての人が活き活きと美しく輝いて生きる）ことを可能にする社会の実現をするために、そしてリハビリテーション分野においても急速に進む多様化、複雑化、国際化等、時代の一歩先を視野に入れ、これからの社会に真に貢献できるリハビリテーション専門の職業人が要請されている。これらの建学の理念を実現するために、医療人に求められる次の能力を身につけ、本学の定めた卒業認定に必要な所定の単位を取得した学生に、「学士」の称号、それぞれ理学療法学士（専門職）、作業療法学士（専門職）を授与するものである。

DP1　医療分野における高い倫理観を有し、幅広い一般教養を身につけていること。

DP2　保健医療福祉分野の発展・向上に寄与する高度な専門知識・技能および実践力を身につけていること。

DP3　理学療法および作業療法に関わる関連職種や多職種と連携・協調し、リハビリテーション専門職分野における新たなサービスの創造に向けて柔軟な発想を有し、意欲的に取り組む能力を身につけていること。

DP4　リハビリテーション専門分野を生涯にわたって学び、創造的かつ応用的に実践し、リハビリテーションを発展させる姿勢を身につけていること。

DP5　地域社会への貢献を視野に入れ、リハビリテーションの多様なニーズに応える探究心や研究心を身につけていること。

リハビリテーション学科理学療法学専攻

ディプロマ・ポリシー（DP）

DP1　理学療法士として、医療分野における高い倫理観を有し、幅広い一般教養を身につけていること。

DP2　保健医療福祉分野の発展・向上に寄与する理学療法士として高度な専門知識・技能および実践力を身につけていること。

DP3　健康と医療・介護に関わる関連職種や多職種と連携・協調し、理学療法分野における新たなサービスの創造に向けて柔軟な発想を有し、意欲的に取り組む能力を身につけていること。

DP4　リハビリテーション専門分野を生涯のわたって学び、創造的かつ応用的に取り組み、理学療法学を発展させる能力を身につけていること。

DP5　理学療法士として、地域社会への貢献を視野に入れ、リハビリテーションの多様なニーズに応える探究心や研究心を身につけていること。

リハビリテーション学科作業療法学専攻

ディプロマ・ポリシー（DP）

DP1　作業療法士として、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職としてふさわしい人間性と高い倫理観を有し、幅広い一般教養を身につけていること。

DP2　保健医療福祉分野の発展・向上に寄与する作業療法士として高度な専門知識・技能および実践力を身につけていること。

DP3　保健医療福祉に関わる関連職種や多職種と連携・協調し、作業療法分野における新たなサービスの創造に向けて柔軟な発想を有し、意欲的に取り組む能力を身につけていること。

DP4　リハビリテーション専門分野を生涯のわたって学び、創造的かつ応用的に取り組み、作業療法学を発展させる姿勢能力を身につけていること。

DP5　作業療法士として、地域社会への貢献を視野に入れ、リハビリテーションの多様なニーズに応える探究心や研究心を身につけていること。

また、体系的な教育課程において授業科目とディプロマ・ポリシーの関連性を明確にするため本学の「ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム･ポリシーと授業科目の対応表」に示した。また、詳細

を別途資料カリキュラムマップに示す。

まず、ＤＰ1「医療分野における高い倫理観を有し、幅広い一般教養を身につけていること。」に対応する科目は、主に基礎科目であり、職業専門科目から「医療概論」「リハビリテーション概論」が挙げられる。

ＤＰ2「保健医療福祉分野の発展・向上に寄与する高度な専門知識・技能および実践力を身につけていること。」に対応する科目は「人体構造学」や「人体機能学」などの職業専門科目の中の専門基礎科目が挙げられる。

ＤＰ3「健康と医療に関わる関連職種や多職種と連携・協調し、新たなサービスの創造に向けて柔軟な発想を有し、意欲的に取り組む能力を身につけていること。」に対応する科目は、展開科目が主であり、多職種との連携・協調は「臨床実習」が該当する。

ＤＰ4「リハビリテーション専門分野の情報を積極的に収集し、創造的かつ応用的に取り組み、リハビリテーション学を発展させる能力を身につけていること。」については主に職業専門科目の評価学に対応し、応用的に取り組む姿勢に関しては、総合科目である「応用理学療法演習」「応用作業療法演習」にて培う。

ＤＰ5「地域社会への貢献を視野に入れ、リハビリテーションの多様なニーズに応える探究心や研究心を身につけていること。」に対応する科目は「地域理学療法学」「地域作業療法学」等による講義や実習により学ぶ。

以上のように、対応するものとする。

また、ディプロマ・ポリシーの変更及び、専攻ごとのディプロマ・ポリシーの設定により。カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーも再設定を下記のように行った。

理学療法学専攻　カリキュラム･ポリシー（CP）

CP1　理学療法士としての豊かな人間性と倫理観を育むため、幅広い知識を養うための科目を配置する。

CP2　疾病による身体障害やスポーツ障害の予防・回復に関する理学療法の専門的な知識と技術を身につけ、社会復帰や社会参加を目指す人々を支援する能力を修得するための科目を配置する。

CP3　理学療法士の知識・分析能力をさらに深化させ、他分野の知識等とも結びつけて新たなアイデアを生み、それらを社会に貢献する高度な実践力と豊かな創造力を養うための科目を配置する。

CP4　リハビリテーション専門分野を生涯にわたって学び、リハビリテーション並びに理学療法学を実践研究し、将来、教育及び研究の分野において指導的役割を担える基礎的能力を高めるための科目を配置する。

CP5　理学療法士として主体的に取り組み、地域住民の健康面での特性や課題、地域社会のニーズなどを的確に把握し、地域貢献する力を養うための科目を配置する。

カリキュラム･ポリシー（CP）

CP1　作業療法士としての豊かな人間性と倫理観を育むための科目、幅広い知識を養う科目を配置する。

CP2　保健医療分野および作業療法に関する知識・技術を修得するための講義科目、演習科目を設け、修得した知識・技術を実践する演習・実習科目を配置する。

CP3　様々な職種の職能や実践、連携状況の理解を深める科目を設け、ワークショップ等の方法を用い様々な職種の職能と連携を通して、課題を検討する科目を配置する。

CP4　リハビリテーション分野の取り組みを情報収集し課題を検討する科目を設定し、検討された課題から新たな作業療法による試みを模索・検討する科目を配置する。

CP5　地域社会における課題に対応する方略・方法を検討する科目を設定し、地域社会の課題解決に向けた作業療法による対応を実践する科目を配置する。

健康科学部　アドミッションポリシー（AP）

本学は、厚生（医療、保健、福祉）におけるリハビリテーションの総合的な教育研究の充実・発展に貢献することを目標に、深く人を理解し、高度の専門知識と技術をもって、厚生チームの一員として対象者や地域・社会の多様なニーズに応えて活躍したいと志望している人を選抜することを目的とする。

AP1　当専門職大学の建学の理念を深く理解している人

AP2　当専門職大学を修了する為に必要な基礎学力を有する人

AP3　社会に共生する人間としての自覚を有し自律的に行動出来る人

AP4　他者を思いやることが出来、他者と協調し協働できる人

AP5　地域に暮らしている人々の豊かな生活実現に向けて、強い目的意識と情熱を持ち続けられる人

リハビリテーション学科理学療法学専攻　アドミッションポリシー（AP）

AP1　理学療法士を強く志し、建学の理念を理解している人
AP2　本学を修了する為に必要な基礎学力を有する人
AP3　社会に共生する人間としての自覚を有し自律的に行動出来る人
AP4　他者を思いやることが出来、他者と協調し協働できる人
AP5　地域に暮らしている人々の豊かな生活実現に向けて、強い目的意識と情熱を持ち続けられる人

リハビリテーション学科作業療法学専攻　アドミッションポリシー（AP）

AP1　作業療法士を強く志し、建学の理念を理解している人
AP2　本学を修了する為に必要な基礎学力を有する人
AP3　社会に共生する人間としての自覚を有し自律的に行動出来る人
AP4　他者を思いやることが出来、他者と協調し協働できる人
AP5　地域に暮らしている人々の豊かな生活実現に向けて、強い目的意識と情熱を持ち続けられる人

以上のように、学部ディプロマ・ポリシーは一部変更、各専攻で新たに設置したことにより、カリキュラム・ポリシーの一部変更とアドミッション・ポリシーの各専攻の設定および一部変更を行った。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（目次）

新	旧
第１　設置の趣旨及び必要性 Ⅰ．和歌山リハビリテーション専門職大学の建学の理念と目的 Ⅱ．教育研究上の目的 Ⅲ．健康科学部リハビリテーション学科設置の趣旨 Ⅳ．和歌山リハビリテーション専門職大学の	第１　設置の趣旨及び必要性 Ⅰ．和歌山リハビリテーション専門職大学の建学の理念と目的 Ⅱ．教育研究上の目的 Ⅲ．健康科学部リハビリテーション学科設置の趣旨 Ⅳ．和歌山リハビリテーション専門職大学の

必要性 Ⅴ．ディプロマ・ポリシー・各専攻における養成する人材像 第４　教育課程の編成の考え方及び特色 Ⅰ．大学の教育課程編成の基本方針 Ⅱ．リハビリテーション学科理学療法学専攻の教育課程編成の基本方針 Ⅲ．リハビリテーション学科作業療法学専攻の教育課程編成の基本方針 Ⅳ．科目構成及び科目区分	必要性 Ⅴ．ディプロマ・ポリシー・ 第４　教育課程の編成の考え方及び特色 Ⅰ．大学の教育課程編成の基本方針 Ⅱ.各専攻における養成する人材像 Ⅲ．リハビリテーション学科理学療法学専攻の教育課程編成の基本方針 Ⅳ．リハビリテーション学科作業療法学専攻の教育課程編成の基本方針 Ⅴ．科目構成及び科目区分

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（17 ページ～67 ページ）

新	旧
ｐ17 **Ⅴ．ディプロマ・ポリシー、各専攻における養成する人材像** 健康科学部 ディプロマ・ポリシー（DP） DP１　医療分野における高い倫理観を有し、幅広い一般教養を身につけていること。 DP２　保健医療福祉分野の発展・向上に寄与する高度な専門知識・技能および実践力を身につけていること。 DP３　理学療法および作業療法に関わる関連職種や多職種と連携・協調し、リハビリテーション専門職分野における新たなサービスの創造に向けて柔軟な発想を有し、意欲的に取り組む能力を身につけていること。 DP４　リハビリテーション専門分野を生涯にわたって学び、創造的かつ応用的に実践し、リハビリテーションを発展させる姿勢を身につけていること。 DP５　地域社会への貢献を視野に入れ、リハビリテーションの多様なニーズに応える探究心や研究心を身につけていること。 大学を設置する目的、ディプロマ・ポリシー及び学部・学科の教育目的を踏まえた各専攻における養成する人材像は、次の通りである。	**Ⅴ．ディプロマ・ポリシー** DP１　医療分野における高い倫理観を有し、幅広い一般教養を身につけていること。 DP２　保健医療福祉分野の発展・向上に寄与する高度な専門知識・技能および実践力を身につけていること。 DP３　理学療法および作業療法に関わる関連職種や多職種と連携・協調し、リハビリテーション専門職分野における新たなサービスの創造に向けて柔軟な発想を有し、意欲的に取り組む能力を身につけていること。 DP４　リハビリテーション専門分野の最新かつ先端部分の情報を積極的に収集し、創造的かつ応用的に取り組み、リハビリテーション学を発展させる能力を身につけていること。 DP５　地域社会への貢献を視野に入れ、リハビリテーションの多様なニーズに応える探究心や研究心を身につけていること。

理学療法学専攻
　理学療法学専攻の養成する人材像は、「理学療法士として、高い倫理観と高度な専門知識と健康の増進及び心身機能の維持・回復を推進する技術力を有し、それを発展させる創造力・応用力及び教育・研究する態度を身につけ、保健医療福祉分野の多職種と連携・協調しながら地域社会に貢献できる人材」で ある。

作業療法学専攻
　作業療法学専攻の養成する人材像は、「作業療法士として、高い倫理観と高度な専門知識・技能および実践力を有し、保健医療福祉に関わる関連職種や多職種と連携・協調し、創造的かつ応用的に取り組み、地域社会に貢献できる人材」で ある。

各専攻における養成する人材像を踏まえ、各専攻のディプロマ・ポリシーは次の通りである。

リハビリテーション学科理学療法学専攻 ディプロマ・ポリシー（DP）

DP1　理学療法士として、医療分野における高い倫理観を有し、幅広い一般教養を身につけていること。
DP2　保健医療福祉分野の発展・向上に寄与する理学療法士として高度な専門知識・技能および実践力を身につけていること。
DP3　健康と医療・介護に関わる関連職種や多職種と連携・協調し、理学療法分野における新たなサービスの創造に向けて柔軟な発想を有し、意欲的に取り組む能力を身につけていること。
DP4　リハビリテーション専門分野を生涯のわたって学び、創造的かつ応用的に取り組み、理学療法学を発展させる能力を身につけていること。
DP5　理学療法士として、地域社会への貢献を視野に入れ、リハビリテーションの多様なニーズに応える探究心や研究心を身につけていること。

リハビリテーション学科作業療法学専攻 ディ

プロマ・ポリシー（DP） DP1　作業療法士として、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職としてふさわしい人間性と高い倫理観を有し、幅広い一般教養を身につけていること。 DP2　保健医療福祉分野の発展・向上に寄与する作業療法士として高度な専門知識・技能および実践力を身につけていること。 DP3　保健医療福祉に関わる関連職種や多職種と連携・協調し、作業療法分野における新たなサービスの創造に向けて柔軟な発想を有し、意欲的に取り組む能力を身につけていること。 DP4　リハビリテーション専門分野を生涯のわたって学び、および関連分野の情報を積極的に収集し、創造的かつ応用的に取り組み、作業療法学を発展させる姿勢能力を身につけていること。 DP5　作業療法士として、地域社会への貢献を視野に入れ、リハビリテーションの多様なニーズに応える探究心や研究心を身につけていること。	
p27～ **Ⅱ．リハビリテーション学科理学療法学専攻の教育課程編成の基本方針** **カリキュラム・ポリシー** 理学療法学専攻の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学のディプロマ・ポリシー、理学療法学専攻における養成する人材像を達成するために次のような方針で編成する。 CP1. 理学療法士としての豊かな人間性と倫理観を育むため、幅広い知識を養うための科目を配置する。 CP2. 疾病による身体障害やスポーツ障害の予防・回復に関する理学療法の専門的な知識と技術を身につけ、社会復帰や社会参加を目指す人々を支援する能力を修得するための科目を配置する。 CP3. 理学療法士の知識・分析能力をさらに深化させ、他分野の知識等とも結びつけて	**Ⅲ．リハビリテーション学科理学療法学専攻の教育課程編成の基本方針** **カリキュラム・ポリシー** 理学療法学専攻の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学のディプロマ・ポリシー、理学療法学専攻における養成する人材像を達成するために次のような方針で編成する。 CP1. 理学療法士としての豊かな人間性と倫理観を育むため、幅広い知識を養うための科目を配置する。 CP2. 疾病による身体障害やスポーツ障害の予防・回復に関する理学療法の専門的な知識と技術を身につけ、社会復帰や社会参加を目指す人々を支援する能力を修得するための科目を配置する。 CP3. 理学療法士の知識・分析能力をさらに深

新たなアイデアを生み、それらを社会に貢献する高度な実践力と豊かな創造力を養うための科目を配置する。 CP4. リハビリテーション専門分野の生涯にわたって学び、リハビリテーション並びに理学療法学を実践研究し、将来、教育及び研究の分野において指導的役割を担える基礎的能力を高めるための科目を配置する。 CP5. 理学療法士として主体的に取り組み、地域住民の健康面での特性や課題、地域社会のニーズなどを的確に把握し、地域貢献する力を養うための科目を配置する。 【成績評価】 GPA（Grade Point Average）にて評価を行う。成績評価は科目ごとに判定し、筆記試験、レポート、プレゼンテーションおよび実技試験などにより評価する。臨床実習においては，実習前 OSCE、実習後 OSCE、実習評価表、およびチェックシートにて目標とする能力を体得したかについて評価する。また、ポートフォリオを導入し、学習の取り組みについても評価する。以上の評価基準に基づき、卒業要件を満たしたものに学士（理学療法学士（専門職））の称号およびに、理学療法士国家試験受験資格を与える。	化させ、他分野の知識等とも結びつけて新たなアイデアを生み、それらを社会に貢献する高度な実践力と豊かな創造力を養うための科目を配置する。 CP4. リハビリテーション専門分野の最新かつ先端部分の情報を収集し、リハビリテーション並びに理学療法学を実践研究し、将来、教育及び研究の分野において指導的役割を担える基礎的能力を高めるための科目を配置する。 CP5. 理学療法士として主体的に取り組み、地域住民の健康面での特性や課題、地域社会のニーズなどを的確に把握し、地域貢献する力を養うための科目を配置する。 【成績評価】 GPA（Grade Point Average）にて評価を行う。成績評価は科目ごとに判定し、筆記試験、レポート、プレゼンテーションおよび実技試験などにより評価する。臨床実習においては，実習前 OSCE、実習後 OSCE、実習評価表、およびチェックシートにて目標とする能力を体得したかについて評価する。また、ポートフォリオを導入し、学習の取り組みについても評価する。以上の評価基準に基づき、卒業要件を満たしたものに学士（理学療法学士（専門職））の称号およびに、理学療法士国家試験受験資格を与える。
Ⅲ. リハビリテーション学科作業療法学専攻の教育課程編成の基本方針 **カリキュラム・ポリシー** 作業療法学専攻の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学のディプロマ・ポリシー、作業療法学専攻における養成する人材像を達成するために次のような方針で編成する。 CP1. 作業療法士としての豊かな人間性と倫理観を育むため、幅広い知識を養う科目を配置する	**Ⅳ. リハビリテーション学科作業療法学専攻の教育課程編成の基本方針** **カリキュラム・ポリシー** 作業療法学専攻の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学のディプロマ・ポリシー、作業療法学専攻における養成する人材像を達成するために次のような方針で編成する。 CP1. 作業療法士としての豊かな人間性と倫理観を育むため、幅広い知識を養う CP2. 作業療法の対象者を人生の質的側面

CP2. 保健医療分野および作業療法に関する知識・技術を修得するための講義科目、演習科目を設け、修得した知識・技術を実践する演習・実習科目を配置する。 CP3. 様々な職種の職能や実践、連携状況の理解を深める科目を設け、ワークショップ等の方法を用い様々な職種の職能と連携を通して、課題を検討する科目を配置する。 CP4. リハビリテーション分野の取り組みを情報収集し課題を検討する科目を設定し、検討された課題から新たな作業療法による試みを模索･検討する科目を配置する。 CP5. 地域社会における課題に対応する方略・方法を検討する科目を設定し、地域社会の課題解決に向けた作業療法による対応を実践する科目を配置する。	（Quality of Life）を尊重し、科学的な探究心を持つとともに、健康の維持・増進、疾病の治療、障害の発生予防などに寄与できる能力を修得する。 CP3. 作業療法士の知識・分析能力をさらに深化させ、他分野の知識等とも結びつけて新たなアイデアを生み、それらを社会に貢献する高度な実践力と豊かな創造力を養う。 CP4. リハビリテーション専門分野の最新かつ先端部分の情報を収集し、リハビリテーション並びに作業療法学を実践研究し、将来、教育及び研究の分野において指導的役割を担える基礎的能力を高める。 CP5. 作業療法士として主体的に取り組み、地域住民の健康面での特性や課題、地域社会のニーズなどを的確に把握し、地域貢献する力を養う。
【成績評価】 GPA（Grade Point Average）にて評価を行う。成績評価は科目ごとに設定し、筆記試験、レポート、プレゼンテーションおよび実技試験などにより評価する。臨床実習においては，実習前 OSCE、実習後 OSCE、実習評価表、およびチェックシートにて目標とする能力を体得したかについて評価する。また、ポートフォリオを導入し、学習の取り組みについても評価する。以上の評価基準に基づき、卒業要件を満たしたものに学士（作業療法学士（専門職））の称号および、作業療法士国家試験受験資格を与える。	【成績評価】 GPA（Grade Point Average）にて評価を行う。成績評価は科目ごとに設定し、筆記試験、レポート、プレゼンテーションおよび実技試験などにより評価する。臨床実習においては，実習前 OSCE、実習後 OSCE、実習評価表、およびチェックシートにて目標とする能力を体得したかについて評価する。また、ポートフォリオを導入し、学習の取り組みについても評価する。以上の評価基準に基づき、卒業要件を満たしたものに学士（作業療法学士（専門職））の称号および、作業療法士国家試験受験資格を与える。
p 66 **第９　入学者選抜の概要** **Ⅰ．入学者選抜の指針及びアドミッションポリシー** 健康科学部　アドミッションポリシー（AP） 本学は、厚生（医療、保健、福祉）におけるリハビリテーションの総合的な教育研究の充	**第９　入学者選抜の概要** **Ⅰ．入学者選抜の指針及びアドミッションポリシー** 本学は、厚生（医療、保健、福祉）におけるリハビリテーションの総合的な教育研究の充実・発展に貢献することを目標に、深く人を理解し、高度の専門知識と技術をもって、厚生チ

実・発展に貢献することを目標に、深く人を理解し、高度の専門知識と技術をもって、厚生チームの一員として対象者や地域・社会の多様なニーズに応えて活躍したいと志望している人を選抜することを目的とする。 AP1　当専門職大学の建学の理念を深く理解している人 AP2　当専門職大学を修了する為に必要な基礎学力を有する人 AP3　社会に共生する人間としての自覚を有し自律的に行動出来る人 AP4　他者を思いやることが出来、他者と協調し協働できる人 AP5　地域に暮らしている人々の豊かな生活実現に向けて、強い目的意識と情熱を持ち続けられる人	ームの一員として対象者や地域・社会の多様なニーズに応えて活躍したいと志望している人を選抜することを目的とする。 AP1. 当専門職大学の建学の理念「いつまでも美しく輝いて生きることの出来る社会の実現」と「和歌山を未来に繋ぐ」を深く理解しているひと AP2. 当専門職大学を修了する為に必要な基礎学力を有するひと AP3. 社会に共生する人間としての自覚を有し自律的に行動出来るひと AP4. 他者を思いやることが出来、他者と協調し協働できるひと AP5. 地域に暮らしている人々の豊かな生活実現に向けて、強い目的意識と情熱を持ち続けられるひと
p67 また、各専攻のアドミッション・ポリシーを下記に示す。 リハビリテーション学科理学療法学専攻　アドミッション・ポリシー（AP） AP1　理学療法士を強く志し、建学の理念を理解している人 AP2　本学を修了する為に必要な基礎学力を有する人 AP3　社会に共生する人間としての自覚を有し自律的に行動出来る人 AP4　他者を思いやることが出来、他者と協調し協働できる人 AP5　地域に暮らしている人々の豊かな生活実現に向けて、強い目的意識と情熱を持ち続けられる人 リハビリテーション学科作業療法学専攻　アドミッション・ポリシー（AP） AP1　作業療法士を強く志し、建学の理念を理	追加

解している人 AP2　本学を修了する為に必要な基礎学力を有する人 AP3　社会に共生する人間としての自覚を有し自律的に行動出来る人 AP4　他者を思いやることが出来、他者と協調し協働できる人 AP5　地域に暮らしている人々の豊かな生活実現に向けて、強い目的意識と情熱を持ち続けられる人	

（是正事項）健康科学部　リハビリテーション学科

３．＜ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）と教育課程の関係が不明確＞
ＤＰに記載された「リハビリテーション専門職分野の最新かつ先端部分の情報を積極的に収集する」能力やカリキュラム・ポリシー（ＣＰ）のＣＰ２に掲げられた「身体障害やスポーツ障害の予防・回復に関する理学療法」など対応する科目が不明なものがあるため、ＤＰ、ＣＰ、教育課程の整合を図示するなどして説明すること。

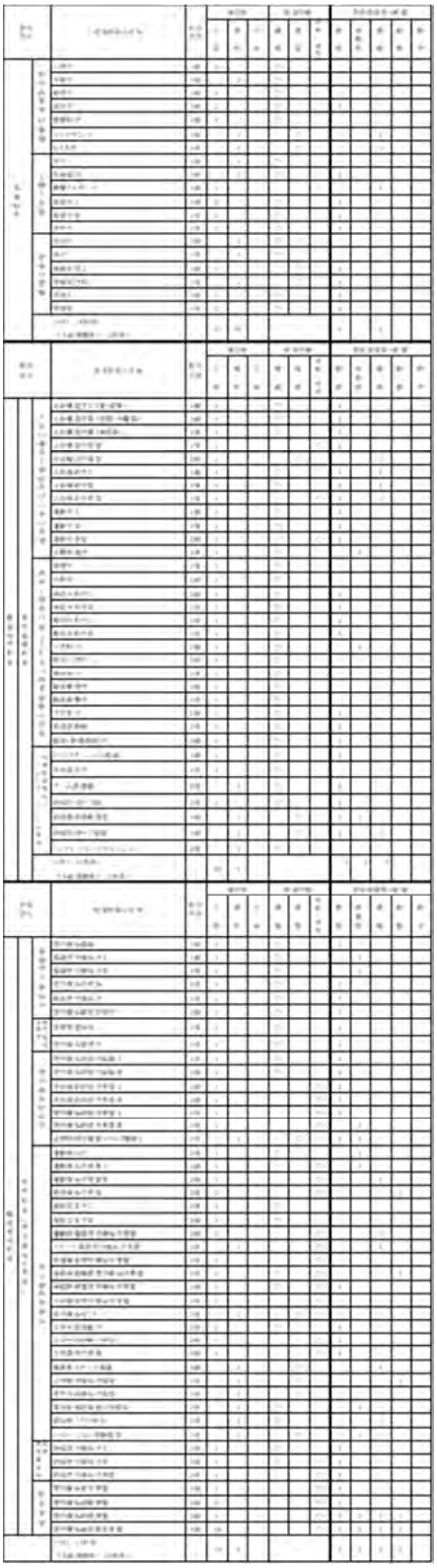
（対応）

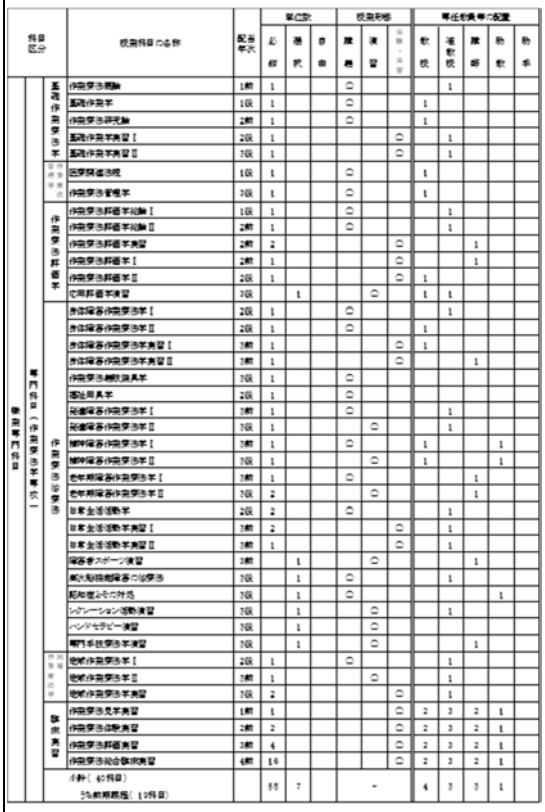
ご指摘の通り、ディプロマ・ポリシー（DP）に「リハビリテーション専門職分野の最新かつ先端部分の情報を積極的に収集し、･･･ 能力を身につけていること」と記載してあったが、「の最新かつ先端部分」を削除し、「リハビリテーション専門分野を生涯にわたって学び、創造的かつ応用的に実践し、リハビリテーションを発展させる姿勢を身につけていること。」に変更した。その理由としては、申請時の DP では、「最新かつ先端部分の情報を積極的に収集する」能力を身につけていることが、ことさら強調されて読みとれてしまう傾向があった。しかし、本学が意図したことは、収集した情報を活用し「創造的かつ応用的に取り組み、リハビリテーション学を発展させる」ことが主として重要であり、収集する情報の中には「最新かつ先端部分」も含まれるので、あえて記述するまでも無いと捉えて削除した。重視していることは、収集する「能力」や「取り組み」ではなく、「生涯にわたって学ぶ姿勢」であるので、この部分を改めた。発展させる姿勢には、「学」だけでなく、実践（臨床）も含むので、「学」を削除した。

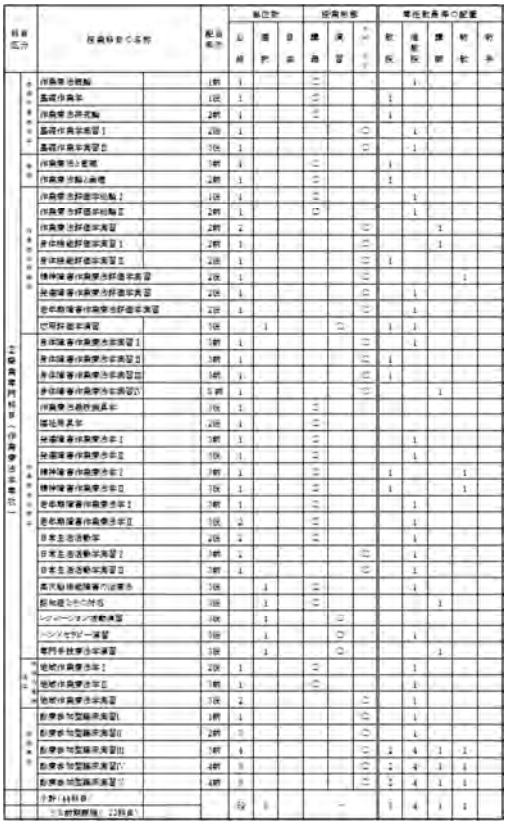
また、理学療法学専攻のカリキュラム・ポリシー（CP）の CP2 に掲げられた「身体障害やスポーツ障害の予防・回復に関する理学療法」など対応する科目が不明なものがあった。これについては、理学療法学専攻 DP「DP2　保健医療福祉分野の発展・向上に寄与する理学療法士として高度な専門知識・技能および実践力を身につけていること。」に対応し、予防については、主として職業専門科目「予防医学」、展開科目「健康支援学」において教授し、その回復については、理学療法治療学の各々の科目において教授する。スポーツ障害の理学療法については、理学療法学専攻の「健康スポーツ系履修モデル」において系統的に学修できるように、基礎科目「健康とスポーツ」、職業専門科目「スポーツ障害理学療法学実習」「徒手療法セミナー」「応用物理療法学演習」、展開科目「生涯スポーツ論」で教授する。また、近年、パラリンピックなどにおいて関心が高まっている障害者のスポーツについて、「障害者スポーツ演習」を新設し、体験しながら学修できるようにする。なお、障害者スポーツにおける傷害（障害）の予防や回復の内容も含まれている。

以上に例示したように、DP、CP 及び教育課程の整合については、専攻別の DP とそれに基づく CP を設定し、それに伴い教育課程も単位の実質化を含めて見直して整えた。専攻ごとの DP、CP 及び教育課程の関係については、各専攻「カリキュラム・マップ」（資料 3-1）に図示し、専攻別「ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム･ポリシーと授業科目の対応表」（資料 3-2）を作成したので添付する。

（新旧対照表）教育課程等の概要

新	旧
	









（是正事項）健康科学部　リハビリテーション学科

４．＜学生確保の見通し等＞
学生確保の見通し等について、添付資料が令和２年度開設を想定した資料となっているため、令和３年度開設を踏まえた、県内及び近隣大学等の志願者、受験者、入学者の動向、受験生へのアンケート調査結果、求人情報等を更新し、客観的根拠に基づいて、定員充足の見込み、人材需要の観点を再分析すること。その際には、近隣に設置されている類似の大学の状況を踏まえること。

（対応）

ご指摘の通り、学生確保の見通し等についての添付資料の内容が、令和 2 年度開設を想定したものとなっていたため、学生確保や人材需要の説得力が欠ける状態であった。そこで本学ではご意見を踏まえ、学生確保の見通しの下記 4 点の事項について、令和 3 年度開設を踏まえた内容を再調査の上、更新し、改めて再分析を行った。

① 県内及び近隣大学等の志願者、受験者、入学者の動向

(1) 既設の和歌山国際厚生学院　理学療法学科の令和元年入試の状況については、募集人員 40 名に対し、平成 30 年度は 43 名の志願者があり、そのうち 43 名が受験し、40 名が入学した。令和元年度は 55 名の志願者があり、そのうち 53 名が受験し、48 名が入学した。その結果、前年より志願倍率も受験者数も入学者数も上回り、定員を上回る学生の確保が前年に続き、可能となった。よって、専門学校の場合でも定員を上回る学生の確保ができていることから、大学志向の強い和歌山県にあって、本学が専門職大学に移行すれば入学定員を上回る志願者、入学者が確保できるものと考える。

(2) 近隣エリアの他大学類似学科（①大阪河﨑リハビリテーション大学、②関西医療大学、③大阪保健医療大学）の過去 3 年間の志願動向については、令和元年度入試の定員及び志願者数を合計すると、理学療法士養成学科（専攻）の定員は 190 名、志願者数はのべ 745 名、作業療法士養成学科（専攻）の定員は 130 名、志願者数はのべ 339 名である。他学科との併願などを考慮しても、近畿内私立大学で理学療法士、作業療法士の資格を取得できる学科に入学を希望している生徒は定員数より明らかに多い。入学定員を大幅に上回る志願者数の結果から、和歌山リハビリテーション専門職大学が設定する入学定員分の学生確保が、十分に見込めることが考えられる。

実際には、①②③いずれの大学も定員を上回る入学者を確保している。なお、宝塚医療大学　和歌山保健医療学部　リハビリテーション学科（理学療法学専攻 60 名、作業療法学専攻 40 名）は令和 2 年 4 月開学予定であるが、令和 2 年 3 月現在、入試状況が公開されていないため分析できない。

(3) 県内高校生の理学療法士及び作業療法士養成校への進学状況推移をみると、県内高校生の理学療法士養成校への進学状況推移では過去8年間で平均129人が進学し、また、県内高

校生の作業療法士養成校への進学状況推移では過去8年間で平均47人が進学している。

私立大学へ進学する高校生が平均して全体の半数を占めている。特に作業療法士養成校への進学状況は過去8年間で最高の数字（平成31年3月に卒業した県内高校生の作業療法士養成校への進学者数全体は64名で、そのうち私立大学への進学者数は44名）となっている。

よって、リハビリ系大学が一つもなかった和歌山県においては、4年制リハビリ系大学へ進学を希望する生徒は地理的な近さから前述の①②の大学に多数いると思われる。本学が専門学校から専門職大学になった場合、県内では宝塚医療大学　和歌山保健医療学部　リハビリテーション学科　理学療法学専攻（入学定員60名）・作業療法学専攻（入学定員40名）と競合するが、本学は既存のリハビリ系大学ではなく、リハビリ系専門職大学であることを差別化できれば、その受験層を取込めるものと考える。

② 受験生へのアンケート調査結果

(1)　第三者機関による高校生アンケート調査結果

新大学設置計画を実行するにあたっては、当然のことながら実際の学生募集の対象としている高校生の新学科に対するニーズについて、客観的データに基づいて認識しておく必要がある。そこで本学では、第三者機関による高校生を対象としたアンケート調査を実施している。

1. 調査目的

学校法人響和会が令和3年4月に開設を予定している和歌山リハビリテーション専門職大学に関して、高校生が期待する教育内容、進学意向等を的確に把握することを調査目的とする。

2. 調査対象

和歌山県の高等学校59校（私立9校含む）及び大阪南部の高等学校16校、合計75校に在籍する高校生2年生を対象に、第三者機関によるアンケート調査を実施した。アンケート調査の実施に当たっては、学校法人響和会が75校のリストアップを行い、そのうちアンケート実施の承諾の得られた75校宛に学校法人響和会がアンケート調査票を送付した。調査実施時には、回答者に対して新専門職大学、新学部学科に関する内容の周知を図る目的から、調査票以外にリーフレット等も提供した。その際には、和歌山県に所在する公立高等学校50校については、和歌山県教育委員会の理解、協力、賛同を得て実施した。その後、一般財団法人　日本開発構想研究所が実施高等学校60校よりアンケート調査票を回収し、集計分析を行った。

3. 実施時期

令和2年1月から3月にかけて調査を実施した。

4. 回収状況

和歌山県の高等学校59校及び大阪南部の高等学校16校の合計75校に対して合計11,891票のアンケート調査票を学校法人響和会が送付した。その結果、60校から合計9,195票の有効回答票を回収することができた。有効回答票の回収率は、77.3%であった。

5. 調査委託先

調査の客観性を担保する観点から、本調査は第三者機関に委託の上、実施した。委託先は、一般財団法人日本開発構想研究所（東京都港区）である。

調査結果は以下の通りである。

1）回答者の性別〔問1〕

回答者に「性別」について伺ったところ、「男性」が4,665人（50.9%）、「女性」が4,507人（49.1%）、となった。回答者の男女比は、ほぼ半々であった。

2）高校卒業後の希望進路〔問3〕

回答者に「高校卒業後の希望進路」について伺ったところ、「大学進学」が4,814人（52.5%）と最も多く、次いで「就職」が1,948人（21.3%）、「専門学校進学」が1,398人（15.3%）「専門職大学進学」が411人（4.5%）、「その他」が275人（3.0%）、「短期大学進学」が255人（2.8%）、「専門職短期大学進学」が60人（0.7%）の順となった。回答者の約半数強が「大学進学」を希望していることがわかったが、「専門職大学進学」が「短期大学進学」を上回っており、「専門職大学」の認知度は確実に上がっていると思われる。

3）和歌山リハビリテーション専門職大学について感じたこと〔問6〕

回答者に「和歌山リハビリテーション専門職大学について感じたこと」について伺ったところ、「新しい専門職大学に魅力を感じる」が2,140人（31.4%）と最も多く、次いで「その他」が1,552人（22.8%）、「自宅から通える」が1,198人（17.6%）、「交通の便が良い」が812人（11.9%）、「就職に有利である」が605人（8.9%）、「リハビリテーション関係の仕事に興味・関心がある」が502人（7.4%）、となった。「新しい専門職大学に魅力を感じる」が全体の約3割強を占めており、今後教育内容をはじめとした魅力をより積極的に広報し、既存の大学・専門学校との違いを説明していけば、本専門職大学への志願者が定員を超え、入学定員充足につながるものと考える。

4）和歌山リハビリテーション専門大学への進学希望〔問7〕

回答者に「和歌山リハビリテーション専門職大学への進学希望」について伺ったとこ

ろ、「進学を希望する」が255人（3.7%）、「進学先の候補の1つとして考える」が461人（6.8%）、「進学を希望しない」が4,261人（62.6%）、「わからない」が1,827人（26.9%）、となった。和歌山リハビリテーション専門職大学の入学定員合計は80名であり、「進学を希望する」のみで、入学定員の3.18倍の実数が得られた。

5）進学を希望する和歌山リハビリテーション専門職大学の専攻〔問8〕

回答者に「進学を希望する和歌山リハビリテーション専門職大学の専攻」について伺ったところ、「作業療法学専攻」が260人（37.1%）、「理学療法学専攻」が441人（62.9%）、となった。回答者の「進学を希望する和歌山リハビリテーション専門職大学の専攻」については、「作業療法学専攻」が全体の約4割弱、「理学療法学専攻」が全体の約6割強を占めるに至った。

6）クロス集計　進学を希望する和歌山リハビリテーション専門職大学の専攻〔問9〕×和歌山リハビリテーション専門職大学への進学希望〔問7〕

「問7 和歌山リハビリテーション専門職大学への進学希望」で「進学を希望する」を選択した255人の、「問8 進学を希望する和歌山リハビリテーション専門職大学の専攻」の回答を見てみると、「作業療法学専攻」が121人（47.5%）、「理学療法学専攻」が133人（52.2%）、となった。

「作業療法学専攻」の入学定員合計は40名であり、「問7 和歌山リハビリテーション専門職大学への進学希望」で「進学を希望する」と回答し、かつ「問8 進学を希望する和歌山リハビリテーション専門職大学の専攻」で「作業療法学専攻」を回答した者（121人）については、入学定員の3.02倍の実数が得られた。

他方で「理学療法学専攻」についても入学定員合計は40名であり、「問7 和歌山リハビリテーション専門職大学への進学希望」で「進学を希望する」と回答し、かつ「問8 進学を希望する和歌山リハビリテーション専門職大学の専攻」で「理学療法学専攻」を回答した者（133人）については、入学定員の3.32倍の実数が得られた。

以上の高校生アンケート調査結果により、和歌山リハビリテーション専門職大学が設定する入学定員分（理学療法学専攻 40 名・作業療法学専攻 40 名）の学生確保が、十分に見込めることが考えられる。

③　求人情報

1. 本学への求人数及び求人倍率

本学の過去 3 年間の求人数は毎年県内外から卒業者数を大きく上回る求人が寄せられている。

本学は専門学校　和歌山国際厚生学院の組織を基に同分野の専門職大学（4年制）を設置

するものであるが、専門学校の求人倍率は、直近の3年間の実績で理学療法学科卒業生の36.1倍～50.9倍と入学定員を大幅に超える求人数がある。また、平成30年度の求人件数に対する求人数は、理学療法学科で320施設等から1,431人の求人数となり、卒業生人数に対して40.9人の求人数となっている。

よって、本学が専門学校から専門職大学に移行した場合でも多数の求人数の申込があると考えられる。

④ 事業所へのアンケート調査結果

事業所アンケート調査結果概要

新大学設置計画の実行にあたっては、新大学卒業予定者に対する事業所の採用ニーズ等について、客観的データに基づいて認識しておく必要がある。そこで本学では、事業所を対象としたアンケート調査を実施している。調査の概要と結果は以下の通りである。

1. 調査目的

学校法人響和会が令和3年4月に開設を予定している和歌山リハビリテーション専門職大学に関して、事業所が期待する教育内容、採用意向等を的確に把握することを目的とする。

2. 調査対象

和歌山リハビリテーション専門職大学の母体となる和歌山国際厚生学院の卒業生に対して採用実績のある、病院、診療所、介護老人保健施設等、合計923事業所を対象に、アンケート調査を実施した。調査実施時には、回答者に対して新大学に関する内容の周知を図る目的から、調査票以外にリーフレット等も提供した。

3. 実施時期

令和2年2月から3月にかけて調査を実施した。

4. 調査票回収状況

本調査では、和歌山リハビリテーション専門職大学の母体となる和歌山国際厚生学院の卒業生に対して採用実績のある、病院、診療所、介護老人保健施設等、合計923事業所に対して合計923票（1事業所につき1票）のアンケート調査票を配布した。その結果、300事業所から合計300票（1事業所につき1票）の有効回答票を回収することができた。回収率は32.5%であった。

5. アンケート調査結果

1）単純集計

問5－① 和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「理学療法学専攻」卒業者に対する理学療法士職員としての採用意向

回答事業所に「和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「理学療法学専攻」卒業者に対する理学療法士職員としての採用意向」について伺ったところ、「採用したい」が41事業所（13.9%）、「採用を検討する」が94事業所（31.8%）、「採用を考えない」が75事業所（25.3%）、「わからない」が86事業所（29.1%）、となった。

回答事業所の「和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「理学療法学専攻」卒業者に対する理学療法士職員としての採用意向）」については、「採用を検討する」が最も多く、全体の約3割強を占めている。

理学療法学専攻の入学定員40名に照らせば、「採用したい」（41事業所）のみで入学定員の1.02倍に該当する実数が得られた。

問5－② 和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「理学療法学専攻」卒業者に対する理学療法士職員としての採用想定人数

回答事業所に「和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「理学療法学専攻」卒業者に対する理学療法士職員としての採用想定人数」について伺ったところ、「1人」が71事業所（53.4%）と最も多く、次いで「その他」が35事業所（26.3%）、「2人」が22事業所（16.5%）、「3人」が５事業所（3.8%）、と続いている。

回答事業所の「和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「理学療法学専攻」卒業者に対する理学療法士職員としての採用想定人数」については、「1人」が全体の約5割強を占め、最も多かった。

問6－① 和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「作業療法学専攻」卒業者に対する作業療法士職員としての採用意向

回答事業所に「和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「作業療法学専攻」卒業者に対する作業療法士職員としての採用意向」について伺ったところ、「採用したい」が38事業所（13.0%）、「採用を検討する」が81事業所（27.6%）、「採用を考えない」が81事業所（27.6%）、「わからない」が93事業所（31.7%）、となった。

回答事業所の「和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「作業療法学専攻」卒業者に対する作業療法士職員としての採用意向」については、「わからない」が最も多く、全体の約3割強を占めている。

作業療法学専攻の入学定員40名に照らせば、「採用したい」（38事業所）のみで入学定員の0.95倍に該当する実数が得られた。

問6－②　和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「作業療法学専攻」卒業者に対する作業療法士職員としての採用想定人数

回答事業所に「和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「作業療法学専攻」卒業者に対する作業療法士職員としての採用想定人数」について伺ったところ、「1人」が62事業所（52.5%）と最も多く、次いで「その他」が31事業所（26.3%）、「2人」が24事業所（20.3%）、「3人」が1事業所（0.8%）、と続いている。

回答事業所の「和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「作業療法学専攻」卒業者に対する作業療法士職員としての採用想定人数」については、「1人」が全体の約5割強を占め、最も多かった。

2）クロス集計

問5－② 和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「理学療法学専攻」卒業者に対する理学療法士職員としての採用想定人数　×　問5－①和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「理学療法学専攻」卒業者に対する理学療法士職員としての採用意向

クロス集計により、「問5－①和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「理学療法学専攻」卒業者に対する理学療法士職員としての採用意向」で、「採用したい」と回答した41事業所の、「問5－② 和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「理学療法学専攻」卒業者に対する理学療法士職員としての採用想定人数」の回答を見ると以下の通りとなった。

①「1人」の事業所は22事業所であった。

②「2人」の事業所は11事業所であった。

③「3人」の事業所は3事業所であった。

④「その他」を選んだ事業所は5事業所であった。

よって、④「その他」を選んだ5事業所を除くと、①「1人」×22事業所＝22人、②「2人」×11事業所＝「22人」、③「3人」×3事業所＝「9人」となり、①②③を足し上げると、合計「53人」の採用意向があり、理学療法学専攻による入学定員40名の1.32倍に該当する実数が得られた。

問6－② 和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「作業療法学専攻」卒業者に対する作業療法士職員としての採用想定人数　×　問6－①和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「作業療法学専攻」卒業者に対する作業療法士職員としての採用意向

クロス集計により、「問6－①和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リ

ハビリテーション学科「作業療法学専攻」卒業者に対する作業療法士職員としての採用意向」で、「採用したい」と回答した38事業所の、「問6－② 和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「作業療法学専攻」卒業者に対する作業療法士職員としての採用想定人数」の回答を見ると以下の通りとなった。

①「1人」の事業所は22事業所であった。

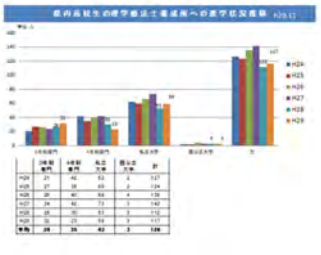
②「2人」の事業所は13事業所であった。

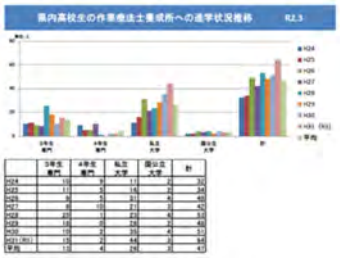
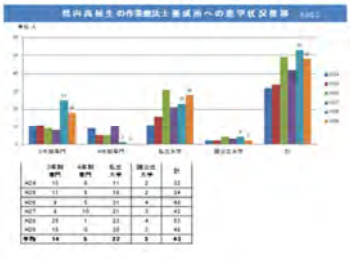
③「その他」を選んだ事業所は3事業所であった。

よって、③「その他」を選んだ3事業所を除くと、①「1人」×22事業所＝22人、②「2人」×13事業所＝「26人」となり、①②を足し上げると、合計「48人」の採用意向があり、作業療法学専攻による入学定員40名の1.2倍に該当する実数が得られた。

上記のクロス集計結果により、和歌山リハビリテーション専門職大学を開学し、卒業生が出た場合には、理学療法士、作業療法士いずれの職種においても本学の設定する入学定員分（理学療法学専攻40名・作業療法学専攻40名）以上の事業所からの採用ニーズがあることから、卒業後の進路見通しの目途が十分立っていると考えられる。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（4 ページ）

新	旧
2) 和歌山県下高校生のリハビリテーション専門職養成所への進学（＊５資料） この8年間の和歌山県内高校生の理学療法士、作業療法士養成所への進学状況であるが、年平均、理学療法士は129名、作業療法士は47名であり大学へは各々過半数の学生が進学している。（和歌山県のリサーチ） 	**2) 和歌山県下高校生のリハビリテーション専門職養成所への進学（＊５資料）** この６年間の和歌山県内高校生の理学療法士、作業療法士養成所への進学状況であるが、年平均、理学療法士は 126 名、作業療法士は 43 名であり大学へは各々過半数の学生が進学している。（和歌山県のリサーチ） 

（新旧対照表）学生の確保の見通し等を記載した書類（1 ページ～25 ページ）

新	旧
1．和歌山県における高齢化の進展（資料1） これから加速する社会の超高齢化に伴い、理学療法士・作業療法士の活動領域は広がっており、和歌山県内の高齢化等（県人口 93 万 5 千人に対し、65 歳以上の人口は 30 万 6 千人で高齢化率 32.7%【全国 7 位】）の状況から、～。略	1．和歌山県における高齢化の進展（資料1） これから加速する社会の超高齢化に伴い，理学療法士・作業療法士の活動領域は広がっており，和歌山県内の高齢化等（県人口 94 万 5 千人に対し、65 歳以上の人口は 30 万 4 千人で高齢化率 32.2%）の状況から，～。略
4．全国の高等学校卒業者における進学者数・進学率の推移（資料4-1） 文部科学省から発表された「令和元年度学校基本調査（速報値）」によると高等学校卒業後の状況は以下の通りである。 大学（学部）進学者数はほぼ52万人後半であるが、構成比はわずかながら上昇している。 高等学校卒業者の大学等進学意欲は年々増大する傾向にあり、構成比率は上昇すると考えられる。 また、保健系分野への全国的な進学ニーズの高さがうかがえる。 文部科学省発表の学校基本調査（関係学科別入学者数）より、保健系分野への進学者数は年々増加していることが証明される。過去5年間の増加率を平均すると毎年3%ずつ増加している. また、日本私立学校振興・共済事業団私学経	4．全国の高等学校卒業者における進学者数・進学率の推移（資料4-1） 文部科学省から発表された「平成30年度学校基本調査（速報値）」によると高等学校卒業後の状況は以下の通りである。 大学（学部）進学者数はほぼ52万人後半であるが，構成比はわずかながら上昇している。 高等学校卒業者の大学等進学意欲は年々増大する傾向にあり，構成比率は上昇すると考えられる。 また、保健系分野への全国的な進学ニーズの高さがうかがえる。 文部科学省発表の学校基本調査（関係学科別入学者数）より、保健系分野への進学者数は年々増加していることが証明される。過去5年間の増加率を平均すると毎年3%ずつ増加している. また、日本私立学校振興・共済事業団私学経

営情報センター集計の「私立大学・短期大学等　入試志願動向」よりリハビリテーション学科を含む保健系学部へのニーズは非常に高いと判断できる。通常、同系統の学部が増加すると、それに伴って志願者数が増加しない限り、志願倍率や入学定員充足率は減少するが、保健系については志願者数は年々増加しており、入学定員充足率も100%を割ることなく安定的に推移していることからもニーズの高さが立証される。よって、リハビリテーション学科を含む保健系学部へのニーズは非常に高いことから和歌山リハビリテーション専門職大学が設定する入学定員分の学生確保が、十分に見込めることが考えられる。 　また、中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向として、全国の 18 歳人口（資料 4-2）については、平成 30 年度は 118 万人であり、前年の平成 29 年度の 120 万人から減少し、平成に入ってからのピークであった平成 4 年の 205 万人からは、87 万人も減少していることがわかる。他方で、大学入学者数は一貫して増加傾向にあり、平成 30 年度は 18 歳人口 118 万人のうち 63 万人が大学へ入学している。 　次に、全国 47 都道府県に見る和歌山県の大学進学率（資料 4-3）については、令和元年度の和歌山県の大学進学率は 46.0%である。全国平均を 7.7 ポイント下回っているものの、47 都道府県のうち進学率の高い順に見れば 26 番目に位置しており、大学進学率については全国の中間に位置していると言えよう。 　また、大学進学率を近畿 2 府 4 県の経年推移で比較してみると（資料 4-4）、直近令和元年度では和歌山県は最下位の 46.0%ではあ	営情報センター集計の「私立大学・短期大学等　入試志願動向」よりリハビリテーション学科を含む保健系学部へのニーズは非常に高いと判断できる。通常、同系統の学部が増加すると、それに伴って志願者数が増加しない限り、志願倍率や入学定員充足率は減少するが、保健系については志願倍率は微増、入学定員充足率も100%を割ることなく安定的に推移していることからもニーズの高さが立証される。よって、リハビリテーション学科を含む保健系学部へのニーズは非常に高いことから和歌山リハビリテーション専門職大学が設定する入学定員分の学生確保が、十分に見込めることが考えられる。 　また、中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向として、全国の 18 歳人口（資料 **4-2**）については、平成 29 年度は 120 万人であり、前年の平成 28 年度の 119 万から微増はしたものの、平成に入ってからのピークであった平成 4 年の 205 万人からは、85 万人も減少していることがわかる。他方で、大学入学者数は一貫して増加傾向にあり、平成 29 年度は 18 歳人口 120 万人のうち 63 万人が大学へ入学している。 　次に、全国 47 都道府県に見る和歌山県の大学進学率（資料 **4-3**）については、平成 29 年度の和歌山県の大学進学率は 43.2%である。全国平均を 9.4 ポイント下回っているものの、47 都道府県のうち進学率の高い順に見れば 29 番目に位置しており、大学進学率については全国の中間に位置していると言えよう。 　また、大学進学率を近畿 2 府 4 県の経年推移で比較してみると（資料 **4-4**）、直近平成 29 年度では和歌山県は最下位の 43.2%では

るものの、平成 15 年度から平成 20 年度くらいまでは増加傾向、その後平成 20 年度から令和元年度までは概ね安定傾向にあると言えるだろう。なおこの令和元年度の 46.0%という数字は和歌山県での過去最高の大学進学率である。	あるものの、平成 15 年度から平成 20 年度くらいまでは増加傾向、その後平成 20 年度から平成 29 年度までは概ね安定傾向にあると言えるだろう。
他方で、地元の大学への進学者数を示す大学残留率を見てみると、まず全国 47 都道府県に見る和歌山県の大学残留率（資料 4-5）については、令和元年度の和歌山県の大学残留率は 14.3%であり、全国 47 都道府県中、46 位となっている。長らく全国最下位であったが、ついに最下位を脱した（最下位は鳥取県の 13.1%である）。	他方で、地元の大学への進学者数を示す大学残留率を見てみると、まず全国 47 都道府県に見る和歌山県の大学残留率（資料 **4-5**）については、平成 29 年度の和歌山県の大学残留率は 11.4%であり、全国 47 都道府県中、最下位となっている。しかも、全国 46 番目の島根県をさらに 3.4 ポイント引き離しての最下位である。
また、大学残留率を近畿 2 府 4 県の経年推移で比較してみると（資料 4-6）、以下の３点が言えよう。第一に、2 府 4 県とも平成 15 年度から特段大きな変動はなく安定傾向が見られる。第二に、2 府 4 県のうち、大阪府、京都府、兵庫県の大学残留率は全国平均よりも高い。これは、大阪府、京都府、兵庫県には政令指定都市があり、また多くの大学が設置されていることによると推察される。第三に、逆に滋賀県、奈良県、和歌山県は全国平均より大学残留率が低くなっている。この 3 県の中でも和歌山県の残留率は最低であったが、この数年で改善されてきている。	また、大学残留率を近畿 2 府 4 県の経年推移で比較してみると（資料 **4-6**）、以下の３点が言えよう。第一に、2 府 4 県とも平成 15 年度から特段大きな変動はなく安定傾向が見られる。第二に、2 府 4 県のうち、大阪府、京都府、兵庫県の大学残留率は全国平均よりも高い。これは、大阪府、京都府、兵庫県には政令指定都市があり、また多くの大学が設置されていることによると推察される。第三に、逆に滋賀県、奈良県、和歌山県は全国平均より大学残留率が低くなっている。この 3 県の中でも和歌山県の残留率は他県を引き離しているところである。
以上を鑑みれば、和歌山県は大学進学率について全国で中間に位置するものの、地元大学への進学者数を示す大学残留率は全国 47 都道府県中、46 位である。和歌山県では大学進学者を地元大学では受けきれておらず、大阪府、京都府、兵庫県などへの流出が考えられる。この数年の残留率の上昇は新たに和歌山県内に開学した 2 大学（東京医療保健大学和歌山看護学部と和歌山信愛大学教育学部）	以上を鑑みれば、和歌山県は大学進学率について全国で中間に位置するものの、地元大学への進学者数を示す大学残留率は全国 47 都道府県中、最下位である。和歌山県では大学進学者を地元大学では受けきれておらず、大阪府、京都府、兵庫県などへの流出が考えられる。同時に和歌山県に今後、新大学が開設されれば、他県に流出する大学進学者を含む若者を引き留めることが可能となると思

の影響と考えられ、和歌山県に今後、新大学が開設されれば、他県に流出する大学進学者を含む若者を引き留めることが可能となると思われる。 さらに、資料4-7における近畿2府4県の18歳人口予測と県内高校の大学への進学者数流出先について2019年197,547人から2031年は168,568人となり、28,979人の減少が予測される。減少率が高いのは、和歌山県で、2019年比較で22.3%の減少予測となる。減少数が多いのが、大阪府で83,004人から70,320人となり、12,684人の減少予測となる。ここでポイントとなるのが、県外流出率が全国2位である和歌山県内の高校生の流出先の毎年4割（1,800人前後）を占めているのが大阪府である。後述する高校生アンケート調査において、和歌山リハビリテーション専門職大学について感じたこと（資料9-1 問6参照）について「新しい専門職大学に魅力を感じる」と回答した高校生が3割を超え、「交通の便が良い」「自宅から通える」と回答した高校生が3割近くある調査結果を踏まえると、広報活動で認知度をアップさせ、南近畿初の４年制リハビリ系専門職大学を新設することで大阪府にあるリハビリ系私立大学へ毎年進学している高校生の多くを取込むことができると考える。	われる。 さらに、資料**4-7**における近畿２府６県の18歳人口予測と県内高校の大学への進学者数流出先について2018年199,747人から2030年は171,661人となり、28,086人の減少が予測される。減少率が高いのは、和歌山県で、2018年比較で21.8%の減少予測となる。減少数が多いのが、大阪府で83,780人から71,415人となり、12,365人の減少予測となる。ここでポイントとなるのが、県外流出率が全国一位である和歌山県内の高校生の流出先の毎年4割（1,800人前後）を占めているのが大阪府である。自宅通学に対し「とても魅力を感じる」及び「魅力を感じる」が 5,112 名で全体の 72.3%と多いアンケート結果（**資料9-1 問5　単純集計表1/2頁参照**）と、理学療法士・作業療法士の認知度については「名前を聞いたことがあるが詳しくは知らない」「知らない」が全体の 92.2%と認知度の低さが顕著なアンケート結果（**資料9-1 問8　単純集計表2/2頁参照**）を踏まえると、広報活動で認知度をアップさせ、和歌山県内初の4年制リハビリ系専門職大学を新設することで大阪府にあるリハビリ系私立大学へ毎年進学している高校生を数%取込むことができると考える。
5. 和歌山県内の進学者数・進学率の推移（資料5） 専門学校　和歌山国際厚生学院入学者における和歌山県出身者の割合は、ほぼ10割である。また、県内には大学が少なく、特に理学療法士及び作業療法士を養成する大学が一つもない、全国でも唯一の県であったが、令	**5. 和歌山県内の進学者数・進学率の推移（資料5）** 専門学校　和歌山国際厚生学院入学者における和歌山県出身者の割合は，ほぼ10割である。また，県内には大学が少なく、特に理学療法士及び作業療法士を養成する大学が一つもない、全国でも唯一の県である.

和2年4月から宝塚医療大学和歌山保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻（入学定員60名）・作業療法学専攻（入学定員40名）が開学予定である。この大学の入試志願者状況などは2020年3月現在時点では公表されていない。1校しかない状況から宝塚医療大学和歌山保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻・作業療法学専攻が開学される前まで県内唯一の理学療法士養成専門学校であった和歌山国際厚生学院が専門職大学へ移行するのは高齢化が進み全国7位の高齢化率となっている和歌山県の状況から考えて当然の流れである。2018年まで県外大学進学率が30年連続で全国1位となっているが、同じ医療系の大学として参考になるのが、和歌山市内に2018年1月に開学した東京保健医療大学和歌山看護学部である。この大学は看護師、保健師養成の私立4年制大学で入学定員90名のところ、入学者が104人で、そのうち100人（96.1%）が県内出身者で占められている．また、和歌山市内の専門職を養成する新設大学という点では、小学校教員養成の私立4年制大学で2019年4月に開学した和歌山信愛大学教育学部は入学定員80名のところ、入学者が83人で、そのうち80人（96.3%）が県内出身者で占められている。平成24年～令和元年までの理学療法士養成校に入学した者は平均129人、作業療法士養成校に入学した者は平均47人となっており、県内には私立の理学療法・作業療法養成大学は宝塚医療大学和歌山保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻・作業療法学専攻（令和2年4月開学予定）1校のみであるが、本学が専門職大学を設置した場合の都道府県出身者の比率も、和歌山県が多数を占めることが予想されるため、志願者のタ	そういった状況から県内唯一の理学療法士養成専門学校である和歌山国際厚生学院が大学へ移行するのは高齢化が進み全国7位の高齢化率となっている和歌山県の状況から考えて当然の流れである。2018年まで県外大学進学率が30年連続で全国1位となっているが、同じ医療系の大学として参考になるのが、和歌山市内に2018年4月に開学した東京保健医療大学和歌山看護学部である．この大学は看護師、保健師養成の私立4年制大学で入学定員90名のところ、入学者が104人で、そのうち100人（96.1%）が県内出身者で占められている． 平成24年～29年までの理学療法士養成校に入学した者は平均126人、作業療法士養成校に入学した者は平均43人となっており、県内には国公立及び私立の理学療法・作業療法養成大学はないので、 本学が大学を設置した場合の都道府県出身者の比率も，和歌山県が多数を占めることが予想されるため，志願者のターゲットは和歌

ーゲットは和歌山県及び大阪南部を想定できると考える。宝塚医療大学和歌山保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻・作業療法学専攻は近畿では25番目の私立4年制リハビリ系大学であるのに対し、本学は近畿ではびわこリハビリテーション専門職大学に次ぐ2番目の専門職大学となる（全国では5番目のリハビリ系専門職大学となる）。南近畿初のリハビリ系専門職大学となることから、宝塚医療大学リハビリテーション学科理学療法学専攻・作業療法学専攻とは異なり、大阪南部の高校生の志願者も取り込めるものと考える。 よって本校や県内新設私立大学にみる和歌山県出身者割合の高さにより和歌山リハビリテーション専門職大学が設定する入学定員分の学生確保が、十分に見込めることが考えられる。	山県に限定してよいと考える。 よって本校や県内新設私立看護大学にみる和歌山県出身者割合の高さにより和歌山リハビリテーション専門職大学が設定する入学定員分の学生確保が、十分に見込めることが考えられる。
6. 私立大学の理学療法士学校・作業療法士学校における入学定員の分布（資料6） 全国私立大学の理学療法士学校・作業療法士学校の入学定員の分布を調査したところ、下記のことが明らかになった。 第一に、理学療法士学校については、入学定員を40名とする学校が28校（31.8%）と最も多く、次に80名とするのが26校（29.5%）である。 第二に、作業療法士学校については、入学定員を40名とする学校が46校（71.9%）と最も多く、次に30名に設定している6校（9.4%）が続いている。 このような私立大学の理学療法士学校・作業療法士学校における入学定員の分布状況を鑑みれば、本学の入学定員数の設定は妥当であると思われる。よって私立大学の理学療法	**6. 私立大学の理学療法士学校・作業療法士学校における入学定員の分布（資料6）** 全国私立大学の理学療法士学校・作業療法士学校の入学定員の分布を調査したところ、下記のことが明らかになった。 第一に、理学療法士学校については、入学定員を40名とする学校が30校（36.6%）と最も多く，次に80名とするのが27校（32.9%）である。 第二に、作業療法士学校については、入学定員を40名とする学校が42校（72.4%）と最も多く，次に30名に設定している6校（10.4%）が続いている。 このような私立大学の理学療法士学校・作業療法士学校における入学定員の分布状況を鑑みれば、本学の入学定員数の設定は妥当であると思われる。よって私立大学の理学療法

士学校及び作業療法士学校においてどちらも入学定員が40人と設定する大学が多数を占める結果から、和歌山リハビリテーション専門職大学が設定する入学定員分の学生確保が、十分に見込めることが考えられる。	士学校及び作業療法士学校においてどちらも入学定員が40人と設定する大学が多数を占める結果から、和歌山リハビリテーション専門職大学が設定する入学定員分の学生確保が、十分に見込めることが考えられる。
7. 本学・他大学類似学科の志願状況（資料7・8） 本学の過去5年間の入試関連状況は以下の通りである。志願者数が少なかった平成28.29年度の2ケ年以外は例年、志願倍率は1.00倍を超えている。また和歌山県内の医療・福祉系産業への就業者の割合に増加傾向（資料15）が見られることから、その医療・福祉系産業に就職する専門職を養成する本学に今後も同等の志願者数が集まると予測できる。また、近隣エリアの他大学類似学科（①大阪河﨑リハビリテーション大学、②関西医療大学、③大阪保健医療大学）の過去3年間の入試関連状況は資料8の通りである。平成31年度では①②③全ての大学において志願者が募集定員を大きく上回る状況であり、この分野に対する高校生の関心の高さがうかがえる。 本学が所在する和歌山市（人口 354,782 人【令和 2 年 3 月 1 日現在】）のキャンパスの位置は、市街地の中心部に位置している(資料9-3高校生アンケート調査用リーフレットのアクセス欄参照)。交通は、南海和歌山市駅は南海電気鉄道の南海本線と和歌山港線の他、JR 西日本の紀勢本線が乗り入れている。近郊都市に居住する学生にとっても通学が可能である。 JR 和歌山駅から本学へのアクセスは、車で約 5 分、路線バスも約 10 分間隔で運行して	**7. 本学・他大学類似学科の志願状況（資料7）** 本学の過去5年間の入試関連状況は以下の通りである。志願者数が少なかった平成28.29年度の2ケ年以外は例年，志願倍率は1.00倍を超えている。和歌山県内の医療・福祉系学部への進学を希望する高校生（推計値）は増加傾向が見られることから，今後も同等の志願者数が集まると予測できる。 また，近隣エリアの他大学類似学科（①大阪河﨑リハビリテーション大学，②関西医療大学，③大阪保健医療大学）の過去3年間の入試関連状況は以下の通りである。ほぼ全ての大学において志願者が募集定員を大きく上回る状況であり，この分野に対する高校生の関心の高さがうかがえる。 本学が所在する和歌山市（人口 358,473 人）には①同系統の大学はない。②また，キャンパスの位置は，市街地の中心部に位置している。交通は，南海和歌山市駅は南海電気鉄道の南海本線と和歌山港線の他、JR 西日本の紀勢本線が乗り入れている。近郊都市に居住する学生にとっても通学が可能である。 JR 和歌山駅から本学へのアクセスは，車で約 5 分，路線バスも約 10 分間隔で運行している。

いる。 以上のとおり、キャンパスは住宅地の中心にあり、通学環境面でも恵まれた環境にある。和歌山県内の医療・福祉系産業への就業者の割合に増加傾向が見られること、近隣エリアの他大学類似学科の志願者が募集定員を大きく上回る状況、本学へのアクセスの利便性から和歌山リハビリテーション専門職大学が設定する入学定員分の学生確保が、十分に見込めることが考えられる。	以上のとおり，キャンパスは住宅地の中心にあり，通学環境面でも恵まれた環境にある。和歌山県内の医療・福祉系学部への進学を希望する高校生（推計値）は増加傾向が見られること，近隣エリアの他大学類似学科の志願者が募集定員を大きく上回る状況、本学へのアクセスの利便性から和歌山リハビリテーション専門職大学が設定する入学定員分の学生確保が、十分に見込めることが考えられる。
8．近畿圏の同系他私立大学における過去3年間の志願動向（資料8） 上記の大学について、平成31年度入試の定員及び志願者数を合計すると、理学療法養成学科（専攻）の定員は190名、志願者数はのべ745名、作業療法養成学科（専攻）の定員は130名、志願者数はのべ339名である。他学科との併願などを考慮しても、近畿内私立大学で理学療法士、作業療法士の資格を取得できる学科に入学を希望している生徒は定員数より明らかに多い。入学定員を大幅に上回る志願者数の結果から、和歌山リハビリテーション専門職大学が設定する入学定員分の学生確保が、十分に見込めることが考えられる。なお宝塚医療大学和歌山保健医療学部リハビリテーション学科は令和2年4月開学予定（理学療法学専攻60名、作業療法学専攻40名）であるが、令和2年3月現在、入試状況が公開されていないため分析できない。 また、上記の大学のうち、特に大阪河﨑リハビリテーション大学（大阪府貝塚市水間）と関西医療大学（大阪府泉南郡熊取町）は和歌山県から近い大阪府南部に位置し、ともに理学療法と作業療法の学部を持っており、JR	**8．近畿圏の同系他私立大学における過去3年間の志願動向（資料8）** 上記の大学について，平成30年度入試の定員及び志願者数を合計すると，理学療法養成学科（専攻）の定員は190名，志願者数はのべ724名，作業療法養成学科（専攻）の定員は130名，志願者数はのべ235名である。他学科との併願などを考慮しても，近畿内私立大学で理学療法士，作業療法士の資格を取得できる学科に入学を希望している生徒は定員数より明らかに多い。入学定員を大幅に上回る志願者数の結果から、和歌山リハビリテーション専門職大学が設定する入学定員分の学生確保が、十分に見込めることが考えられる。 また、上記の大学のうち、特に大阪河﨑リハビリテーション大学（大阪府貝塚市水間）と関西医療大学（大阪府泉南郡熊取町）は和歌山県から近い大阪府南部に位置し、ともに理学療法と作業療法の学部を持っており、JR

阪和線和歌山駅又は南海電気鉄道和歌山市駅から電車で利用すると約1時間以内の所にある。資料 5(2)の県内高校生の理学療法士及び作業療法士養成校への進学状況推移をみると私立大学へ進学する高校生が平均して全体の半数を占めている。特に作業療法士養成校への進学状況は過去8年間で最高の数字（平成 31 年 3 月に卒業した県内高校生の作業療法士養成校への進学者数全体は64名で、そのうち私立大学への進学者数は 44 名）となっている。よって、リハビリ系大学が一つもなかった和歌山県においては、4 年制リハビリ系大学へ進学を希望する生徒は地理的な近さから両大学に多数いると思われる。本学が専門学校から専門職大学になった場合、県内では宝塚医療大学和歌山保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻(入学定員 60 名)・作業療法学専攻(入学定員 40 名)（令和 2 年 4 月開学予定）と競合するが、本学は既存のリハビリ系大学ではなく、リハビリ系専門職大学であることを差別化できれば、その受験層を取込めるものと考える。ＡＯ入試のない関西医療大学は偏差値ランキングも高く、進学校の生徒の受験者が多い一方、関西医療大学より偏差値ランキングの低い大阪河﨑リハビリテーション大学は中堅校以下の受験生を取込んでいる。県外の大学では特にこの2大学は本学が専門職大学になることにより競合校になると思われる（両大学とも入学者の都道府県出身別データが公表されていないため推定の域を出ない)。	阪和線和歌山駅又は南海電気鉄道和歌山市駅から電車で利用すると約1時間以内の所にある。資料 5 の県内高校生の理学療法士及び作業療法士養成校への進学状況推移をみると私立大学へ進学する高校生が平均して全体の半数を占めている。 よって、リハビリ系大学が一つもない和歌山県においては、4 年制リハビリ系大学へ進学を希望する生徒は地理的な近さから両大学に多数いると思われる。本学が専門学校から大学になった場合、 その受験層を取込める。AO 入試のない関西医療大学は偏差値ランキングも高く、進学校の生徒の受験者が多い一方、関西医療大学より偏差値ランキングの低い大阪河﨑リハビリテーション大学は中堅校以下の受験生を取込んでいる。特にこの 2 大学は本学が大学になることにより競合校になると思われる（両大学とも入学者の都道府県出身別データが公表されていないため推定の域を出ない)。
9.（1）第三者機関による高校生アンケート調査結果概要（資料9-1） 新大学設置計画を実行するにあたっては、当	9.（1） 高校生アンケート調査結果概要（資料9-1） 新大学設置計画を実行するにあたっては、当

然のことながら実際の学生募集の対象としている高校生の新学科に対するニーズについて、客観的データに基づいて認識しておく必要がある。そこで本学では、第三者機関による高校生を対象としたアンケート調査を実施している。調査結果は以下の通りである。	然のことながら実際の学生募集の対象としている高校生の新学科に対するニーズについて、客観的データに基づいて認識しておく必要がある。そこで本学では、高校生を対象としたアンケート調査を実施している。調査結果は以下の通りである。
9．1．回答者の性別〔問1〕（資料9-1 P5 単純集計表参照） 回答者に「性別」について伺ったところ、「男性」が4,665人（50.9%）、「女性」が4,507人（49.1%）、となった。回答者の男女比は、ほぼ半々であった。	9．1．回答者の性別〔問1〕（資料9-1 単純集計表1/2頁参照） 回答者に「性別」について伺ったところ、「男性」が3488人（49.7%）、「女性」が3536人（50.3%）、となった。回答者の男女比は、ほぼ半々であった。
9．2．高校卒業後の希望進路〔問3〕（資料9-1 P7 単純集計表参照） 回答者に「高校卒業後の希望進路」について伺ったところ、「大学進学」が4,814人（52.5%）と最も多く、次いで「就職」が1,948人（21.3%）、「専門学校進学」が1,398人（15.3%）「専門職大学進学」が411人（4.5%）、「その他」が275人（3.0%）、「短期大学進学」が255人（2.8%）、「専門職短期大学進学」が60人（0.7%）の順となった。回答者の約半数強が「大学進学」を希望していることがわかったが、「専門職大学進学」が「短期大学進学」を上回っており、「専門職大学」の認知度は確実に上がっていると思われる。	9．2．高校卒業後の進路〔問3〕（資料9-1 単純集計表1/2頁参照） 回答者に「高校卒業後の進路」について伺ったところ、「大学」が3205人（45.5%）、「専門職大学」が102人（1.4%）、「短期大学」が194人（2.8%）、「専門学校」が1014人（14.4%）、「就職」が1233人（17.5%）、「未定」が1295人（18.4%）、となった。回答者の半数弱が「大学進学」となっており「専門職大学」の認知度は低かった。
9．3．和歌山リハビリテーション専門職大学について感じたこと［問6］（資料9-1 P11 単純集計表参照） 回答者に「和歌山リハビリテーション専門職大学について感じたこと」について伺ったところ、「新しい専門職大学に魅力を感じる」	9．3．自宅通学〔問5〕（資料9-1 単純集計表1/2頁参照） 和歌山県内の自宅から通学できることに魅力を感じるかについて 自宅通学に対し「とても魅力を感じる」及び「魅力を感じる」が 5,112 名で全体の

が2,140人（31.4%）と最も多く、次いで「その他」が1,552人（22.8%）、「自宅から通える」が1,198人（17.6%）、「交通の便が良い」が812人（11.9%）、「就職に有利である」が605人（8.9%）、「リハビリテーション関係の仕事に興味・関心がある」が502人（7.4%）、となった。「新しい専門職大学に魅力を感じる」が全体の約3割強を占めており、今後教育内容をはじめとした魅力をより積極的に広報し、既存の大学・専門学校との違いを説明していけば、本専門職大学への志願者が定員を超え、入学定員充足につながるものと考える。

9．4．和歌山リハビリテーション専門職大学への進学希望［問7］（資料9-1 P12単純集計表参照）

回答者に「和歌山リハビリテーション専門職大学への進学希望」について伺ったところ、「進学を希望する」が255人（3.7%）、「進学先の候補の１つとして考える」が461人（6.8%）、「進学を希望しない」が4,261人（62.6%）、「わからない」が1,827人（26.9%）、となった。和歌山リハビリテーション専門職大学の入学定員合計は80名であり、「進学を希望する」のみで、入学定員の3.18倍の実数が得られた。

72.3%と多いことから、リハビリ系大学が一つもない和歌山県において、自宅から通える４年制リハビリ系大学へ進学する魅力とともにリハビリ職の価値や将来性をアピールすることにより、多くの志願者を確保できる。

9．4．理学・作業療法士の認知度〔問8〕（資料9-1 単純集計表2/2頁参照）

「理学療法士」「作業療法士」についてどの程度知っているか(知名度調査)について
今回、県内の全ての公立高等学校および協力を得た私立高等学校を対象としたアンケート調査によると、理学療法士・作業療法士の認知度については「名前を聞いたことがあるが詳しくは知らない」 「知らない」が全体の 92.2%となり、高校生は理学療法士・作業療法士の仕事内容や魅力を把握していないのが現状である。こうした現状の中で、理学療法士・作業療法士の県内進学者の過去６年間の平均が169名（理学療法士養成学校126名、作業療法士養成学校43名）（**資料5参照**）であり、県内にリハビリ系の大学が設立されれば、県内の学生だけで定員は確保できるものと考えられる。加えて、本大学が南海本線終着の和歌山市駅から、徒歩５分という好立地にあり、本大学の教育内容をはじめとした魅力をより積極的に広報することにより、大阪南部の高校生が通学の利便性から、本大学への志願者が定員を超えて増えるものと考える。

9．5．進学を希望する和歌山リハビリテーション専門職大学の専攻［問8］（資料9-1 P13 単純集計表参照）

回答者に「進学を希望する和歌山リハビリテーション専門職大学の専攻」について伺ったところ、「作業療法学専攻」が260人（37.1%）、「理学療法学専攻」が441人（62.9%）、となった。

回答者の「進学を希望する和歌山リハビリテーション専門職大学の専攻」については、「作業療法学専攻」が全体の約4割弱、「理学療法学専攻」が全体の約6割強を占めるに至った。

9．6．クロス集計　進学を希望する和歌山リハビリテーション専門職大学の専攻［問9］×和歌山リハビリテーション専門職大学への進学希望［問7］（資料9-1 P14クロス集計表を参照）

「問7 和歌山リハビリテーション専門職大学への進学希望」で「進学を希望する」

9．5．専門職大学和歌山国際厚生学院大学への入学希望〔問11〕（資料9-1 単純集計表2/2頁参照）

回答者に「専門職大学和歌山国際厚生学院大学への入学希望」について伺ったところ、「入学を希望する」が55人（0.8%）、「併願校の合否によっては入学を検討する」が199人（3.0%）、「どちらとも言えない」が2220人（33.0%）、「入学を希望しない」が4246人（63.2%）、となった。

今回の調査からは、専門職大学和歌山国際厚生学院大学の健康科学部リハビリテーション学科の入学定員合計80人に照らせば、「入学を希望する」（55人）で入学定員数の0.69倍の実数が得られたことがわかった。

また「入学を希望する」と「併願校の合否によっては入学を検討する」を足しあげると254人（3.8%）となり、入学定員数の3.18倍の回答者が専門職大学和歌山国際厚生学院大学に対して、何らかの進学希望を持っていることがわかった。

以上の高校生アンケート調査結果により、専門職大学和歌山国際厚生学院が設定する入学定員分の学生確保が、十分に見込めることが考えられる。

9．⑵　和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科に関する追加アンケート調査概要

新専門職大学設置計画の実行にあたっては、実際の学生募集の対象としている高校生の

を選択した255人の、「問8 進学を希望する和歌山リハビリテーション専門職大学の専攻」の回答を見てみると、「作業療法学専攻」が121人（47.5%）、「理学療法学専攻」が133人（52.2%）、となった。

「作業療法学専攻」の入学定員合計は40名であり、「問7 和歌山リハビリテーション専門職大学への進学希望」で「進学を希望する」と回答し、かつ「問8 進学を希望する和歌山リハビリテーション専門職大学の専攻」で「作業療法学専攻」を回答した者（121人）については、入学定員の3.02倍の実数が得られた。

他方で「理学療法学専攻」についても入学定員合計は40名であり、「問7 和歌山リハビリテーション専門職大学への進学希望」で「進学を希望する」と回答し、かつ「問8 進学を希望する和歌山リハビリテーション専門職大学の専攻」で「理学療法学専攻」を回答した者（133人）については、入学定員の3.32倍の実数が得られた。

以上の高校生アンケート調査結果により、和歌山リハビリテーション専門職大学が設定する入学定員分の学生確保が、十分に見込めることが考えられる。

新専門職大学に対するニーズについて、客観的データに基づいて認識しておく必要がある。そこで本学では、初回アンケートで調査票を回収した和歌山県内の高等学校に加えて、今回は実際の学生募集の対象に含まれる大阪南部の高等学校、また初回のアンケート調査では調査票が回収されなかった和歌山県内の高等学校、これらの高等学校に在学する高校生を対象とする追加アンケート調査を実施した。調査の概要と結果は以下の通りである。

1. 調査結果（資料 9-5 単純集計表 参照、主要な設問を抜粋）

1. 1. 回答者の性別〔問 1〕

回答者に「性別」について伺ったところ、「男性」が 660 人（47.0%）、「女性」が 744 人（53.0%）、となった。回答者の約 5 割強が「女性」であることがわかった。

1. 2. 高校卒業後の進路〔問 3〕

回答者に「高校卒業後の進路」について伺ったところ、「大学進学」が 1106 人（79.1％）、「短期大学進学」が 20 人（1.4％）、「専門学校進学」が 216 人（15.4%）、「就職」が 44 人（3.1%）、「その他」が 13 人（0.9%）、となった。回答の約 8 割弱が「大学進学」を希望していることがわかった。

1. 3. 和歌山リハビリテーション専門職大学への進学希望〔問 6〕

回答者に「和歌山リハビリテーション専門職大学への進学希望」について伺ったところ、「開校されれば進学を希望する」が 51 人（3.9%）、「進学先の候補の１つとして考える」が 66 人（5.0%）、

「進学を希望しない」が 846 人（64.0％）、「わからない」が 359 人（27.2%）、となった。

	以上の通り、追加アンケート調査では「和歌山リハビリテーション専門職大学への進学希望」の 設問〔問 6〕においては、「開校されれば進学を希望する」の実数が 51 人であった。他方で、初 回の高校生アンケート「入学を希望する」の実数は 55 名であった。両者を足し上げると 106 人 の実数となり、和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科の入学 定員 80 人に照らせば、1.32 倍の実数が得られたことになる。 よって、本学では、今回の客観的データを用いた検証においては、和歌山リハビリテーション専門 職大学の入学定員分の学生確保の見通しは問題ない、と考えている。
10. 高等学校卒業者のみならず、社会人等の多様な学生の確保の見込みについての客観的な根拠（資料10） 過去5年間の和歌山国際厚生学院における社会人経験者の入学状況をみると、平成27年度には12人、　平成28年度には6人、平成29年度には3人、平成30年度には8人、令和元年度は5人と推移している（平成26年は7人）。 また、和歌山国際厚生学院の入学者選抜試験においても、社会人経験者の選考は社会人入試や社会人特別入試などを設け、複数回実施しており、社会人経験者を受け入れる体制を整えているところである。 この経年推移を見る限り若干名の入学者となっているものの、コンスタントに入学希望者が存在することが明らかになっており、今後の社会人経験者等の学生確保についても見込める状況となっている。	10. 高等学校卒業者のみならず、社会人等の多様な学生の確保の見込みについての客観的な根拠（資料10） 過去4年間の和歌山国際厚生学院における社会人経験者の入学状況をみると、平成27年度には12人、平成28年度には6人、平成29年度には3人、平成30年度には8人、と推移している（平成26年は7人）。 また、和歌山国際厚生学院の入学者選抜試験においても、社会人経験者の選考は社会人入試や社会人特別入試などを設け、複数回実施しており、社会人経験者を受け入れる体制を整えているところである。 この経年推移を見る限り若干名の入学者となっているものの、コンスタントに入学希望者が存在することが明らかになっており、今後の社会人経験者等の学生確保についても見込める状況となっている。

11. 既設専門学校和歌山国際厚生学院の令和元年度入試の状況について 既設の和歌山国際厚生学院の令和元年入試の状況については、専門職大学設置構想にかかるアンケート調査の実施により、リハビリ職の内容や魅力、将来性を高校生に周知する結果となり、本年度は応募者が増え、入学定員40名を大幅に上回る学生が確保できた。少子高齢化が進み、大学進学率が伸び、県外流出率全国2位で、大学志向が特に強い和歌山県にあって、既設の専門学校のままでも定員は充足しているので、専門職大学に移行すればさらに関心が高くなり、入学希望者が増えることはあっても定員が割れることはないと考える。既設の専門学校には作業療法士養成学科はないが、資料5の作業療法士養成学校への県内進学者過去8年間の平均が47名であり、理学療法士養成学校への県内進学者数の平均が129名と比べて約3分の1である現状を踏まえ、今後より積極的な広報活動によって、リハビリ職の知名度を上げていけば、作業療法士を希望する学生が増え、本専門職大学の作業療法学専攻を目指す受験者が増加するものと考えている。 さらに、リハビリ職の果たす役割が今後ますます重視されてくる社会の到来は必然であることから、理学療法学専攻希望の学生は当然増えることから、リハビリ職を強く希望する学生に作業療法士の使命、魅力、将来性を周知させ、入試の出願時において、第二希望専攻を認めるなど柔軟な入試を行うことにより、作業療法学専攻の定員は確実に充足できるものと考える。 ＊なお、資料5の県内高校生の理学療法士養成所への進学状況推移では過去8年間で平均129人が進学し、また、県内高校生の作業療	11. 既設専門学校和歌山国際厚生学院の平成31年入試の最新状況について 既設の和歌山国際厚生学院の平成31年入試の最新状況については、専門職大学設置構想にかかるアンケート調査の実施により、リハビリ職の内容や魅力、将来性を高校生に周知する結果となり、本年度は応募者が増え、入学定員40名を大幅に上回る学生が確保できた。少子高齢化が進み、大学進学率が伸び、県外流出率全国1位で、大学志向が特に強い和歌山県にあって、既設の専門学校のままでも定員は充足しているので、専門職大学に移行すればさらに関心が高くなり、入学希望者が増えることはあっても定員が割れることはないと考える。既設の専門学校には作業療法士養成学科はないが、資料5の作業療法士養成学校への県内進学者過去６年間の平均が43名であり、職種の認知度の低さが9割以上ある現状を踏まえ、今後より積極的な広報活動によって、リハビリ職の知名度を上げていけば、作業療法士を希望する学生が増え、本専門職大学の作業療法学専攻を目指す受験者が増加するものと考えている。 さらに、リハビリ職の果たす役割が今後ますます重視されてくる社会の到来は必然であることから、理学療法学専攻希望の学生は当然増えることから、リハビリ職を強く希望する学生に作業療法士の使命、魅力、将来性を周知させ、入試の出願時において、第二希望専攻を認めるなど柔軟な入試を行うことにより、作業療法学専攻の定員は確実に充足できるものと考える。 ＊なお、資料5の県内高校生の理学療法士養成所への進学状況推移では過去６年間で平均126人が進学し、また、県内高校生の作業療法士養

法士養成所への進学状況推移では過去8年間で平均47人が進学している。	成所への進学状況推移では過去６年間で平成43人が進学している。
イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	**イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要**
1.「和歌山県における高齢化の進展（資料1）」で用いたデータの概要 資料１として用いたデータは、e-stat 総務省 人口推計（統計表名：都道府県、年齢（5歳階級）、男女別人口－総人口、日本人人口（平成 30 年 10 月 1 日現在））である。同統計表から、都道府県別の総数と 65 歳以上の数を採取し、高齢化率を 65 歳以上人口（千人）／総人口（千人）にて算出している。その上で、47 都道府県を高齢化率の高い順（降順）により並べ替えることで、全国における和歌山県の高齢化率の把握を試みたところである。	1.「和歌山県における高齢化の進展（資料 1）」で用いたデータの概要 資料１として用いたデータは、e-stat 総務省 人口推計（統計表名：都道府県，年齢（5歳階級），男女別人口－総人口，日本人人口（平成 29 年 10 月 1 日現在））である。同統計表から、都道府県別の総数と 65 歳以上の数を採取し、高齢化率を 65 歳以上人口（千人）／総人口（千人）にて算出している。その上で、47 都道府県を高齢化率の高い順（降順）により並べ替えることで、全国における和歌山県の高齢化率の把握を試みたところである。
4.「全国の高等学校卒業者における進学者数・進学率の推移等（資料 4-1）」で用いたデータの概要 資料 4-1 データの出典①は、過去３年間（平成 29 年から令和元年）の全国における、高等学校卒業者の進学者数と進学率を表したものであり、文部科学省学校基本調査 web ページより和歌山県内の「高等学校卒業者数」「大学等進学者数」「大学（学部）進学者数」「専修学校（専門課程）進学者数」を抜粋したものである。 ②は、過去５年間（平成 27 年から令和元年）の全国の大学の保健関係学科入学者推移表を表したものであり、文部科学省学校基本調査 web ページより全国の大学の「関係学科	4.「全国の高等学校卒業者における進学者数・進学率の推移等（資料 4-1）」で用いたデータの概要 資料 4-1 データの出典①は、過去３年間（平成 28 年から平成 30 年）の全国における，高等学校卒業者の進学者数と進学率を表したものであり、文部科学省学校基本調査 web ページより和歌山県内の「高等学校卒業者数」「大学等進学者数」「大学（学部）進学者数」「専修学校（専門課程）進学者数」を抜粋したものである。 ②は、過去５年間（平成 26 年から平成 30 年）の全国の大学の保健関係学科入学者推移表を表したものであり、文部科学省学校基本調査 web ページより全国の大学の「関係学

別入学者数」を保健系分野のみ年度毎に抜粋したものである。 ③は、過去5年間（平成27年から令和元年）の全国の私立大学学部系統別の動向を表したものであり、日本私立学校振興・共済事業団　私学経営情報センターwebページより全国の私立大学の「入学志願動向」を保健系分野のみ年度毎に抜粋したものである。 資料4-2データの出典は、18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移を表したものであり、文部科学省資料から抜粋・引用したものである。 資料4-3データの出典は、全国47都道府県に見る和歌山県の大学進学率を表したものであり、学校基本調査（令和元年度）」（文部科学省）をもとに作成したものである。 資料4-4データの出典は、近畿地域における大学進学率の経年推移を表したものであり、「学校基本調査」（文部科学省）をもとに作成したものである。 資料4-5データの出典は、全国47都道府県に見る和歌山県の大学残留率を表したものであり、「学校基本調査（令和元年度）」（文部科学省）をもとに作成したものである。 資料4-6データの出典は、近畿地域における大学残留率の経年推移を表したものであり、「学校基本調査」（文部科学省）をもとに作成したものである。 資料4-7データの出典は、近畿2府4県の18歳人口予測と県内高校の大学への進学者数流出先を表したものであり、リクルート進学総研マーケットリポート2020年1月号から抜粋・引用したものである。	科別入学者数」を保健系分野のみ年度毎に抜粋したものである。 ③は、過去5年間（平成26年から平成30年）の全国の私立大学学部系統別の動向を表したものであり、日本私立学校振興・共済事業団　私学経営情報センターwebページより全国の私立大学の「入学志願動向」を保健系分野のみ年度毎に抜粋したものである。 資料4-2データの出典は、18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移を表したものであり、文部科学省資料から抜粋・引用したものである。 資料4-3データの出典は、全国47都道府県に見る和歌山県の大学進学率を表したものであり、学校基本調査（平成29年度）」（文部科学省）をもとに作成した者である。 資料4-4データの出典は、近畿地域における大学進学率の経年推移を表したものであり、「学校基本調査」（文部科学省）をもとに作成したものである。 資料4-5データの出典は、全国47都道府県に見る和歌山県の大学残留率を表したものであり、「学校基本調査（平成29年度）」（文部科学省）をもとに作成したものである。 資料4-6データの出典は、近畿地域における大学残留率の経年推移を表したものであり、「学校基本調査」（文部科学省）をもとに作成したものである。
5.「和歌山県内の進学者数・進学率の推移（資料5）」で用いたデータの概要	5.「和歌山県内の進学者数・進学率の推移（資料5）」で用いたデータの概要

データの出典は、⑴は本法人専門学校の入学者数と和歌山県出身者数・割合を示したものであり、「入学者」と「県内出身者」でパーセンテージを示したものである。「入学者」は本法人専門学校の入試状況であり、厚生労働省「学校養成所施設認定規則に基づく報告等について」で報告した数値を用い、「県内出身者」は入学者の中で入学志願書の住所欄が和歌山県であるものを抽出したものである。⑵は県内高校生の理学療法士養成校及び作業療法士養成校への進学状況推移を示したもので、和歌山県福祉保健部医務課作成（令和 2 年 3 月）資料である。⑶は出身高校の所在地県別大学入学者数を示したものであり文部科学省 web ページより抜粋した。⑷は過去 3 年間（平成 29 年から令和元年）の和歌山エリアにおける、高等学校卒業者の進学者数と進学率を表したものであり、文部科学省基本調査 web ページより和歌山県内の「高等学校卒業者数」「大学等進学者数」「大学（学部）進学者数」「専修学校（専門課程）進学者数」を抜粋したものである。

6.「私立大学の理学療法士学校・作業療法士学校における入学定員の分布（資料 6）」で用いたデータの概要

データの出典は、日本理学療法士協会及び日本作業療法士協会の web ページである。同 web ページより、私立大学の理学療法士学校と作業療法士学校における「入学定員数」と「学校数」の数値を拾うことで、入学定員設定に係る分布の表を作成した。また、この表においては、全学校数における、その定員設定を行った学校の比率をパーセンテージにより示すこととした。

データの出典は、1）本法人専門学校の入学者数と和歌山県出身者数・割合を示したものであり、「入学者」と「県内出身者」でパーセンテージを示したものである。「入学者」は本法人専門学校の入試状況であり、厚生労働省「学校養成所施設認定規則に基づく報告等について」で報告した数値を用い、「県内出身者」は入学者の中で入学志願書の住所欄が和歌山県であるものを抽出したものである。2）県内高校生の理学療法士養成所への進学状況推移を示したもので、和歌山県福祉保健部医務課作成（平成 29 年 11 月）資料である。　3）は出身高校の所在地県別大学入学者数を示したものであり文部科学省 web ページより抜粋した。4）過去 3 年間（平成 28 年から平成 30 年）の和歌山エリアにおける，高等学校卒業者の進学者数と進学率を表したものであり、文部科学省基本調査 web ページより和歌山県内の「高等学校卒業者数」「大学等進学者数」「大学（学部）進学者数」「専修学校（専門課程）進学者数」を抜粋したものである。

6.「私立大学の理学療法士学校・作業療法士学校における入学定員の分布（資料 6）」で用いたデータの概要

データの出典は、日本理学療法士協会の web ページである。同 web ページより、私立大学の理学療法士学校と作業療法士学校における「入学定員数」と「学校数」の数値を拾うことで、入学定員設定に係る分布の表を作成した。また、この表においては、全学校数における、その定員設定を行った学校の比率をパーセンテージにより示すこととした。

8.「近畿圏の同系他私立大学における過去３年間の志願動向（資料８)」で用いたデータの概要 データは本学に最も近隣の理学療法士、作業療法士の国家試験受験資格を取得できる私立大学３校のホームページより抜粋した。近隣の3校を選択した理由は本学の入学希望者の志願動向は、和歌山県下、大阪府下を中心に展開すると予測したためである。なお令和２年４月開学予定の宝塚医療大学和歌山保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻(入学定員 60 名)・作業療法学専攻(入学定員 40 名)の入試情報は令和２年３月時点では公開されていないため分析できなかった。	8.「近畿圏の同系他私立大学における過去３年間の志願動向（資料 8)」で用いたデータの概要 データは本学に最も近隣の理学療法士，作業療法士の国家試験受験資格を取得できる私立大学３校のホームページより抜粋した。近隣の3校を選択した理由は本学の入学希望者の志願動向は、和歌山県下、大阪府下を中心に展開すると予測したためである。
9．(1)「第三者機関による高校生アンケート調査」で用いたデータの概要 高校生を対象としたアンケート調査の概要、調査データの概要は以下の通りである。 (資料 9-1)「学校法人響和会における和歌山リハビリテーション専門職大学の設置に係る高校生アンケート調査結果報告書」(一般財団法人　日本開発構想研究所) (資料 9-2)「学校法人響和会による和歌山リハビリテーション専門職大学の設置に係る高校生アンケート調査で用いた調査票」(一般財団法人　日本開発構想研究所) (資料 9-3)「学校法人響和会による和歌山リハビリテーション専門職大学の設置に係る高校生アンケート調査で用いたリーフレット」(一般財団法人　日本開発構想研究所)	9．(1)「高校生アンケート調査結果概要（資料 9-1)」で用いたデータの概要 高校生を対象としたアンケート調査の概要、調査データの概要は以下の通りである。
9．1．調査目的 学校法人響和会が令和３年４月に開設を予	9．1．調査目的 平成 32 年４月に開設を計画している専門

定している和歌山リハビリテーション専門職大学に関して、高校生が期待する教育内容、進学意向等を的確に把握することを調査目的とする。	職大学和歌山国際厚生学院大学に関して、高校生が期待する教育内容、進学希望等を学園側が的確に把握し、今後の計画推進のための参考資料とすることを目的とする。
9．2．調査対象 和歌山県の高等学校 59 校（私立 9 校含む）及び大阪南部の高等学校 16 校、合計 75 校に在籍する高校生 2 年生を対象に、第三者機関によるアンケート調査を実施した。アンケート調査の実施に当たっては、学校法人響和会が 75 校のリストアップを行い、そのうちアンケート実施の承諾の得られた 75 校宛に学校法人響和会がアンケート調査票（資料 9-2）を送付した。調査実施時には、回答者に対して新専門職大学、新学部学科に関する内容の周知を図る目的から、調査票（資料 9-2）以外にリーフレット（資料 9-3）等も提供した。 その際には、和歌山県に所在する公立高等学校 50 校については、和歌山県教育委員会の理解、協力、賛同を得て実施した（資料 9-4 参照）。その後、一般財団法人　日本開発構想研究所が実施高等学校 60 校よりアンケート調査票を回収し、集計分析を行った。高校別の発送・回収状況については回収表（資料 9-1 P2～3）を参照。	9．2．調査対象 和歌山県の高等学校 53 校に在籍する高校生 2 年生を対象に、アンケート調査を実施した。調査実施時には、回答者に対して新専門職大学、新学部学科に関する内容の周知を図る目的から、調査票（資料 9-2）以外にリーフレット（資料 9-3）等も提供した。
9．3．実施時期 令和 2 年 1 月から 3 月にかけて調査を実施した。	9．3．実施時期 平成 30 年 5 月から 6 月にかけて調査を実施した。
9．4．回収状況 和歌山県の高等学校 59 校及び大阪南部の高等学校 16 校の合計 75 校に対して合計 11,891 票のアンケート調査票を学校法人響和会が送付した。その結果、60 校から合計	9．4．回収状況 和歌山県の高等学校 53 校に対して合計 9,191 票のアンケート調査票を配布した。その結果、48 校から合計 7,069 票の有効回答票を回収することができた。有効回答票の回収

9,195 票の有効回答票を回収することができた。有効回答票の回収率は、77.3%であった（資料 9-1 P1～3)。

9．5．調査委託先

調査の客観性を担保する観点から、本調査は第三者機関に委託の上、実施した。委託先は、一般財団法人日本開発構想研究所(東京都港区)である。

率は、76.9%であった（資料 9-4)。

9.⑵「和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科に関する追加アンケート調査結果概要（資料 9-5)」で用いたデータの概要

高校生を対象とした追加アンケート調査の概要、調査データの概要は以下の通りである。

1. **調査目的**

令和 2 年 4 月に開設を計画している和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科に関して、大阪南部の高等学校、また初回のアンケート調査では調査票が回収されなかった和歌山県内の高等学校、これら高等学校に在学する高校生が期待する教育内容、進学希望等を本学側が的確に把握し、初回に実施した和歌山県内の高等学校への調査結果と併せて、今後の計画推進のための参考資料とすることを目的とする。

2. **調査対象と実施方法**

大阪府南部の高等学校 9 校、初回のアンケート調査では調査票が回収されなかった和歌山県内の高等学校 4 校、合計 13 校に在学する高校 3 年生を対象に、アンケート調査を実施した。調査実施時には、回答者に対して新専門職大学、また新学部学科専攻に係る内容の周知を図る目的から、調査票（資料 9-6) 以外にリーフレット (資料 9-7) 等も提供を行った。

3. **実施時期**

令和元年 6 月 17 日(月)から令和元年 7 月 2 日(火)にかけて調査を実施した。

4. **回収状況**

大阪府南部の高等学校 9 校、初回のアンケート調査では調査票が回収されなかった和

	歌山県内の高等学校 4 校、合計 13 校に対して合計 2280 票のアンケート調査票を配布した。その結果、11 校から合計 1407 票の有効回答票を回収することができた。有効回答票の回収率は、61.71%であった。(資料 9-8 回収表参照)
10.「高等学校卒業者のみならず、社会人等の多様な学生の確保の見込みについての客観的な根拠（資料 10)」で用いたデータの概要 本データは、和歌山国際厚生学院 専門学校事務室が保管するデータである。本学としては、本専門職大学が高等学校卒業者のみならず、社会人等の多様な学生の確保の見込めることを示すデータとして、直近のデータが適切であると判断し、平成 27 年、平成 28 年、平成 29 年、平成 30 年、令和元年の過去 5 ヵ年の数値をピックアップすることとした。平成 27 年から平成 29 年にかけて減少傾向にあること、平成 29 年から平成 30 年にかけて上昇傾向にあること等変動は見られるが、社会人のニーズが一定程度存在することを示すデータとなっている。	**10.「高等学校卒業者のみならず、社会人等の多様な学生の確保の見込みについての客観的な根拠（資料 10)」で用いたデータの概要** 本データは、和歌山国際厚生学院 専門学校事務室が保管するデータである。本学としては、本専門職大学が高等学校卒業者のみならず、社会人等の多様な学生の確保の見込めることを示すデータとして、直近のデータが適切であると判断し、平成27年、平成28年、平成29年、平成30年の過去4ヵ年の数値をピックアップすることとした。平成27年から平成29年にかけて減少傾向にあること、平成29年から平成30年にかけて上昇傾向にあること等変動は見られるが、社会人のニーズが一定程度存在することを示すデータとなっている。
ウ　学生納付金の設定の考え方 学生納付金を授業料年額1,550千円、入学金200千円と設定するにあたり、和歌山県内の他私立大学の関連学部の学生納付金を参考にしながら、学生への授業料還元最大限を目途とし、本学としての収支が均衡する水準とした。 なお、現在の和歌山国際厚生学院の授業料年額は、1,550千円、入学金300千円と設定し	**ウ 学生納付金の設定の考え方** 学生納付金を授業料年額1,550千円, 入学金300千円と設定するにあたり，和歌山県内の他私立大学の関連学部の学生納付金を参考にしながら，学生への授業料還元最大限を目途とし，本学としての収支が均衡する水準とした。 なお，現在の和歌山国際厚生学院の授業料年額は，1,550千円，入学金300千円と設定しているが，上記授業料と比較した場合，値上

ているが、上記授業料と比較した場合、値上げはせず入学金を若干下げることとしたものである。

令和元年度の和歌山県内の私立大学の他、近畿圏内の関連学部の学生納付金は、資料11のとおりである。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

2. 具体的な活動内容

2. 1. 高校訪問などを通じた高等学校への密な情報提供

専門学校　和歌山国際厚生学院では、高校訪問を重点的に行っており、令和元年度は県内59校のうち全校に訪問し、さらに全校とも複数回訪問を行った実績がある。なお大阪府南部の高校へは16校に訪問している。
高校訪問については今後も継続して実施し、高校進路指導部との一層の連携強化を図る。特に通学距離圏にある高等学校には定期的に訪問し、進路指導担当教員に本学の実態を伝えるとともに、医療系の進路を希望している生徒への情報提供を依頼する。また、在学生の志願動向等を把握し、推薦入試等の候補者を選択してもらう。その際、同じ教職員が特定の高校の担当者となり、高校の教員と情報を通して深い絆を築いていけるようにする。

高校の進学指導教諭との面談では、高校生・保護者の大学志向の広がりやクラブ活動の先輩に続く傾向があるなどの情報の他、和歌山市内の高校生は通学に時間を要するのを嫌う、授業料も大学選択時の重要な要素となるなど、高校教諭から生の意見を聞くことができ入試広報戦略に活かせるものである。この活動は、大学となってからも引き続き行

げはせず同額としたものである。

平成30年度の和歌山県内の私立大学の他、近畿圏内の関連学部の学生納付金は，資料11のとおりである。

②学生確保に向けた具体的な取組状況

2. 具体的な活動内容

2. 1. 高校訪問などを通じた高等学校への密な情報提供専門学校　和歌山国際厚生学院では，高校訪問を重点的に行っており，平成29年度は県内59校のうち全校に訪問し，さらに全校とも複数回訪問を行った実績がある。なお大阪府泉北及び泉南の高校へは26校に訪問している。
高校訪問については今後も継続して実施し，高校進路指導部との一層の連携強化を図る。特に通学距離圏にある高等学校には定期的に訪問し，進路指導担当教員に本学の実態を伝えるとともに，医療系の進路を希望している生徒への情報提供を依頼する。また，在学生の志願動向等を把握し，推薦入試等の候補者を選択してもらう。その際，同じ教職員が特定の高校の担当者となり，高校の教員と情報を通して深い絆を築いていけるようにする。

高校の進学指導教諭との面談では，高校生・保護者の大学志向の広がりやクラブ活動の先輩に続く傾向があるなどの情報の他，和歌山市内の高校生は通学に時間を要するのを嫌う，授業料も大学選択時の重要な要素となるなど，高校教諭から生の意見を聞くことができ入試広報戦略に活かせるものである。この活動は，大学となってからも引き続き行なうこととしている。

なうこととしている。

大学の新しい情報については、訪問のほか、電話、郵送なども用いて密に情報提供を行い、生徒への情報提供を依頼する。また、高等学校主催の進路相談会、出前授業等については積極的に参加し、本学の周知及び理学療法士・作業療法士についての啓蒙活動を行う。

2．2．オープンキャンパスでの情報提供

令和元年度【令和2年度募集】は地方での開催も含めて16回開催し、のべ154名の参加があった（本校開学以来最高の参加者数でもあった【資料12】）。今後も年複数回のオープンキャンパスを開催し、本学（設置予定）の設置の趣旨、概要、アドミッションポリシー等の説明を行う。

実技の体験もプログラムに加え、参加者に体験してもらうことで、入学後の学習内容の理解につなげる。また、そうした実習をサポートする実習室や施設を見学してもらう。そのほか、奨学金や入試の特徴等について個別に相談できるコーナーを設け、新設大学に対する疑問を解消する場とする。

2．11．PR誌の作成・配布

PR誌については、大学化される本学の特色をわかりやすく紹介するため、内容や色合いも創意工夫し、他大学との差別化を図るとともに、冊子を完成させる予定である。また、地域貢献活動や学生にとっての関心事である卒後教育等の支援についても、医療現場で活躍中の卒業生からのメッセージを掲載する予定である。

本学は、近畿内同系列大学での作業療法学専攻への志願者数が理学療法学専攻と比べて少ないことも憂慮しており、その原因の一

大学の新しい情報については，訪問のほか，電話，郵送なども用いて密に情報提供を行い，生徒への情報提供を依頼する。また，高等学校主催の進路相談会，出前授業等については積極的に参加し，本学の周知及び理学療法士・作業療法士についての啓蒙活動を行う。

2．2．オープンキャンパスでの情報提供

平成29年度は地方での開催も含めて24回開催し，のべ106名（保護者等含む）の参加があった。今後も年複数回のオープンキャンパスを開催し，本学（設置予定）の設置の趣旨，概要，アドミッションポリシー等の説明を行う。

実技の体験もプログラムに加え，参加者に実技を体験してもらうことで，入学後の学習内容の理解につなげる。また，そうした実習をサポートする実習室や施設を見学してもらう。そのほか，奨学金や入試の特徴等について個別に相談できるコーナーを設け，新設大学に対する疑問を解消する場とする。

2．11．PR誌の作成・配布

PR誌については，大学化される本学の特色をわかりやすく紹介するため，内容や色合いも創意工夫し，他大学との差別化を図るとともに，冊子を完成させる予定である。また，地域貢献活動や学生にとっての関心事である卒後教育等の支援についても，医療現場で活躍中の卒業生からのメッセージを掲載する予定である。

本学は，近畿内同系列大学での作業療法学専攻等への入学者が伸びてこないことも憂慮しており，その原因の一つに高校生が作業療法士という職業を知らないこともあるの

つに高校生が作業療法士という職業を知らないこともあるのではないかと分析している。

（2） 人材需要の動向等社会の要請
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1．全国と和歌山県における、大学卒業者の就職者数と就職率（資料13）

和歌山エリアと全国（参考）における、過去3年間の大学卒業者の就職者数（非正規雇用を含む）と就職率は以下の通り。

大卒者の就職率は年々上昇傾向にあり、和歌山では平成31年3月卒業者の就職率が73.5%となった。

2．学部別の大学卒業者の就職者数と就職率（資料14）

関係学部別にみた平成31年3月の大学卒業者の就職者数（非正規雇用を含む）と就職率は以下の通り。

理学療法士、作業療法士コースを含む「保健その他」学部の就職率が2番目に高く89.2%。また、平成29年3月卒業者で89.6%、平成30年3月卒業者で89.3%と、いずれの年も就職率は9割近くとなっている。

3．医療・福祉産業従事者数と全有業者に占める割合（資料15）

和歌山エリアと全国（参考）の、医療・福祉系産業就業者数と全有業者に占める割合は以下の通り。

医療・福祉系産業就業者はここ10年間で右肩上がりに数が増加しており、また全就業者ではないかと分析している。

(2) 人材需要の動向等社会の要請
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1．全国と和歌山県における，大学卒業者の就職者数と就職率（資料12）

和歌山エリアと全国（参考）における，過去3年間の大学卒業者の就職者数（非正規雇用を含む）と就職率は以下の通り。

大卒者の就職率は年々上昇傾向にあり，和歌山では平成30年3月卒業者の就職率が約72%となった。

2．学部別の大学卒業者の就職者数と就職率（資料13）

関係学部別にみた平成30年3月の大学卒業者の就職者数（非正規雇用を含む）と就職率は以下の通り。

理学療法士，作業療法士コースを含む「保健その他」学部の就職率が2番目に高く89.3%。また，平成28年３月卒業者で88.3%，平成29年3月卒業者で89.6%と，いずれの年も就職率は9割近くとなっている。

3．医療・福祉産業従事者数と全有業者に占める割合（資料14）

和歌山エリアと全国（参考）の，医療・福祉系産業就業者数と全有業者に占める割合は以下の通り。

医療・福祉系産業就業者はここ10年間で右肩上がりに数が増加しており，また全就業者に占める割合も15%を超えている。

に占める割合も15%を超えている。

大学卒業者の就職率は年々上昇しており、また、保健その他学部卒業者の就職率は令和元年で約9割となる。また、社会的に見ても医療・福祉系の従事者の数・割合は増加傾向が顕著である。

以上のことから、医療・福祉産業の従事者は今後も増加することが予想される。

また、現在、我が国では高齢化の進行で65歳以上の高齢者人口は3,558万人、総人口に占める割合は28.1%と共に過去最高となっている。また、75歳以上の人口が1,798万人となっている（平成30年10月1日総務省）。高齢者数は団塊の世代が75歳以上となる令和7年（2025年）には3,677万人に達すると見込まれている。その後も65歳以上人口は増加傾向が続き、令和24年（2042年）に3,935万人でピークを迎え、その後は減少に転じると推計されている。高齢化の進行は、病気になる人、そしてリハビリテーションを必要とする人が増加することにつながり、理学療法士、作業療法士の職域も病院、介護福祉施設、デイサービス施設、サービス付高齢者住宅等へと広がりを見せていることからも、高齢者、障害者を支える理学療法士、作業療法士のニーズが高まると予想している。

4. 本学卒業生の就職動向及び他大学類似学科の就職状況

4. 1. 本学への求人数及び求人倍率（資料16）

本学の過去3年間の求人数及び求人倍率は以下の通り。毎年県内外から卒業者数を大きく上回る求人が寄せられている。

本学は専門学校　和歌山国際厚生学院の組織を基に同分野の専門職大学（4年制）を

大学卒業者の就職率は年々上昇しており，また，保健その他学部卒業者の就職率は平成30年で約9割となる。また，社会的に見ても医療・福祉系の従事者の数・割合は増加傾向が顕著である。

以上のことから，医療・福祉産業の従事者は今後も増加することが予想される。

また，現在，我が国では高齢化の進行で65歳以上の高齢者人口は3,515万人，総人口に占める割合は27.7%と共に過去最高となっている。また，80歳以上の人口が1,000万人を超えている（平成29年10月1日総務省），高齢者数は団塊の世代が75歳以上となる平成37年（2025年）には3,677万人に達し，平成54年（2042年）まで増加を続けると予想されている。

高齢化の進行は，病気になる人，そしてリハビリテーションを必要とする人が増加することにつながり，理学療法士，作業療法士の職域も病院，介護福祉施設，デイサービス施設，サービス付高齢者住宅等へと広がりを見せていることからも，高齢者，障害者を支える理学療法士，作業療法士のニーズが高まると予想している。

4. 本学卒業生の就職動向及び他大学類似学科の就職状況

4. 1. 本学への求人数及び求人倍率（資料15）

本学の過去3年間の求人数及び求人倍率は以下の通り。毎年県内外から卒業者数を大きく上回る求人が寄せられている。

本学は専門学校　和歌山国際厚生学院の組織を基に同分野の大学（４年制）を設置するものであるが，専門学校の求人倍率は，上

設置するものであるが、専門学校の求人倍率は、上記のとおり、直近の3年間の実績で理学療法学科卒業生の36.1倍～50.9倍と入学定員を大幅に超える求人数がある。 また、平成30年度の求人件数に対する求人数は、理学療法学科で320施設等から1,431人の求人数となり、卒業生人数に対して40.9人の求人数となっている。	記のとおり，直近の3年間の実績で理学療法学科卒業生の36.1倍～50.9倍と入学定員を大幅に超える求人がある。 また，平成29年度の求人件数に対する求人数は，理学療法学科で322施設等から1,218人の求人となり，一施設当たり36.1人の求人となっている。
4．2．本学独自の就職説明会の開催について 本学は、学生の就職支援の一環として、「就職説明会」を実施する。 就職説明会は、和歌山市内のホテルや公共施設等に会場を設け、県内各地の医療機関、介護老人保健施設等、並びに大阪府などの県外からも医療機関関係者が1施設等当たり1～3人程度参加して行われる予定としている。 説明会会場は、施設毎にブースが設けられ学生が各ブースで施設の説明を受け、質疑が行われる。 また、学生には事前に参加施設から施設概要や、学生へのメッセージが記載された資料を配布予定としている。	**4．2．本学独自の就職説明会の開催について** 本学は，学生の就職支援の一環として，「就職説明会」を実施する。 就職説明会は，和歌山市内のホテルに会場を設け，県内各地の医療機関，介護老人保健施設等，並びに大阪府などの県外からも医療機関関係者が１施設等当たり１～3人程度参加して行われる予定としている。 説明会会場は，施設毎にブースが設けられ学生が各ブースで施設の説明を受け，質疑が行われる。 また，学生には事前に参加施設から施設概要や，学生へのメッセージが記載された資料を配布予定としている。
4．3．卒業生ネットワークの活用について 専門学校　和歌山国際厚生学院は、これまで232名の国家試験合格者を輩出し、そのうち90%超に当たる209名を和歌山県内の保険医療機関、介護福祉施設に送り出している。専門職大学設置後も県内各地で活躍する卒業生のネットワークを最大限活用し、学生の職業生活への移行支援の一環として、卒業生を招いて交流・研修会を開催するなど、学生の職業生活に対する理解や療法士としての職業意識の涵養を図る。	**4．3．卒業生ネットワークの活用について** 専門学校　和歌山国際厚生学院は，これまで200名の国家試験合格者を輩出し，そのうち90%超に当たる184名を和歌山県内の保険医療機関，介護福祉施設に送り出している。専門職大学設置後も県内各地で活躍する卒業生のネットワークを最大限活用し，学生の職業生活への移行支援の一環として，卒業生を招いて交流・研修会を開催するなど，学生の職業生活に対する理解や療法士としての職業意識の涵養を図る。
	4．4．専門学校の就職実績と支援体制につい

4. 4. 専門学校の就職実績と支援体制について（資料17）

専門学校　和歌山国際厚生学院卒業生の就職状況は資料16に示すとおりであるが、平成27年度から令和元年度までの直近5年間における国家試験合格者の就職状況は100％である。

専門職大学となってからも、引き続き長年に渡り構築された実習施設等との信頼関係を保ち、既卒者に対しては、卒後支援講習会、臨床教育研究会の開催等の卒後教育を充実させ、卒業生の生涯学習支援を促進するため学部長を委員長とする研修委員会を設置する等、卒業生支援を充実させ専門職大学との連携・信頼関係を構築すると同時に、県内に広がる卒業生からの本学学生の就職支援体制を充実させる等、母体の専門学校の就職活動の経験を加味して、万全の就職指導が可能である。

5. 事業所アンケート調査結果概要（資料18-1、資料18-2、資料18-3）

新大学設置計画の実行にあたっては、新大学卒業予定者に対する事業所の採用ニーズ等について、客観的データに基づいて認識しておく必要がある。そこで本学では、事業所を対象としたアンケート調査を実施している。調査の概要と結果は以下の通りである。

5. 1. 調査目的

学校法人響和会が令和3年4月に開設を予定している和歌山リハビリテーション専門職大学に関して、事業所が期待する教育内容、採用意向等を的確に把握することを目的とする。

て（資料16）

専門学校　和歌山国際厚生学院卒業生の就職状況は資料16に示すとおりであるが，平成26年度から平成30年度までの直近5年間における国家試験合格者の就職状況は100％である。

専門職大学となってからも，引き続き長年に渡り構築された実習施設等との信頼関係を保ち，既卒者に対しては，卒後支援講習会，臨床教育研究会の開催等の卒後教育を充実させ，卒業生の生涯学習支援を促進するため学部長を委員長とする研修委員会を設置する等，卒業生支援を充実させ専門職大学との連携・信頼関係を構築すると同時に，県内に広がる卒業生からの本学学生の就職支援体制を充実させる等，母体の専門学校の就職活動の経験を加味して，万全の就職指導が可能である。

5. 第三者機関による事業所アンケート調査結果概要（資料17-1、資料17-2、資料17-3）

新大学設置計画の実行にあたっては、新大学卒業予定者に対する事業所の採用ニーズ等について、客観的データに基づいて認識しておく必要がある。そこで本学では、事業所を対象としたアンケート調査を実施している。調査の概要と結果は以下の通りである。

5. 1. 調査目的

平成32年4月に開設を計画している和歌山リハビリテーション専門職大学に関して、事業所が期待する教育内容、採用意向等を大学側が的確に把握し、今後の計画推進のための参考資料とすることを目的とする。

5. 2. 調査対象

5．2．調査対象

和歌山リハビリテーション専門職大学の母体となる和歌山国際厚生学院の卒業生に対して採用実績のある、病院、診療所、介護老人保健施設等、合計923事業所を対象に、アンケート調査を実施した。調査実施時には、回答者に対して新大学に関する内容の周知を図る目的から、調査票（資料18-1）以外にリーフレット（資料18-2）等も提供した。

5．3．実施時期

令和2年2月から3月にかけて調査を実施した。

5．4．調査票回収状況

本調査では、和歌山リハビリテーション専門職大学の母体となる和歌山国際厚生学院の卒業生に対して採用実績のある、病院、診療所、介護老人保健施設等、合計923事業所に対して合計923票（1事業所につき1票）のアンケート調査票を配布した。その結果、300事業所から合計300票（1事業所につき1票）の有効回答票を回収することができた。回収率は32.5%であった。

6．アンケート調査結果

6．1．単純集計（資料18-3参照）

問5－① 和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「理学療法学専攻」卒業者に対する理学療法士職員としての採用意向

回答事業所に「和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「理学療法学専攻」卒業者に対する理学療法士職員としての採用意向」について伺ったところ、「採用したい」が41事業所（13.9%）、「採用を検討する」が94事業所

和歌山リハビリテーション専門職大学の母体となる和歌山国際厚生学院の卒業生に対する採用実績のある、病院、診療所、介護老人保健施設等、合計928事業所を対象に、アンケート調査を実施した。調査実施時には、回答者に対して新大学に関する内容の周知を図る目的から、調査票（資料17-1）以外にリーフレット（資料17-2）等も提供した。

5．3．実施時期

平成30年7月から平成30年8月にかけて調査を実施した。

5．4．調査票回収状況

和歌山リハビリテーション専門職大学の母体となる和歌山国際厚生学院の卒業生に対する採用実績のある、病院、診療所、介護老人保健施設等、合計928事業所に対して合計928票（1事業所につき1票）を配布した。その結果、339事業所から合計339票の有効回答票を回収することができた。有効回答票の回収率は36.53%であった。

5．5．調査結果（主に健康科学部卒業生への採用意向に係る設問の結果を抜粋）（資料17-3 単純集計表参照）

5．5．1．施設の業態〔問1〕（資料17-3 単純集計表1頁参照）

回答施設の業態については、「介護施設」が122事業所（36.0%）と最も多く、次いで「診療所」が88事業所（26.0%）、「その他」が68事業所（20.1%）、「病院」が57事業所（16.8%）と続いている。全体の約4割弱が「介護施設」であった。

（31.8%）、「採用を考えない」が75事業所（25.3%）、「わからない」が86事業所（29.1%）、となった。

回答事業所の「和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「理学療法学専攻」卒業者に対する理学療法士職員としての採用意向）」については、「採用を検討する」が最も多く、全体の約3割強を占めている。

理学療法学専攻の入学定員40名に照らせば、「採用したい」（41事業所）のみで入学定員の1.02倍に該当する実数が得られた。

問5－②　和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「理学療法学専攻」卒業者に対する理学療法士職員としての採用想定人数

回答事業所に「和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「理学療法学専攻」卒業者に対する理学療法士職員としての採用想定人数」について伺ったところ、「1人」が71事業所（53.4%）と最も多く、次いで「その他」が35事業所（26.3%）、「2人」が22事業所（16.5%）、「3人」が5事業所（3.8%）、と続いている。

回答事業所の「和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「理学療法学専攻」卒業者に対する理学療法士職員としての採用想定人数」については、「1人」が全体の約5割強を占め、最も多かった。

問6－①　和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「作業療法学専攻」卒業者に対する作業療法士職員としての採用意向

5. 5. 2. 施設の所在地〔問2〕（資料17-3 単純集計表1頁参照）

回答施設の所在地については、「和歌山市」が134事業所（39.6%）と最も多く、次いで「町村名」が95事業所（28.1%）、「紀の川市」が28事業所（8.3%）、「橋本市」が18事業所（5.3%）、「海南市」と「田辺市」が16事業所（4.7%）と続いている。全体の約4割弱が「和歌山市」に所在する施設である。

5. 5. 3. 専門職大学和歌山国際厚生学院 卒業生に対する理学療法士としての採用意向〔問8-(ア)〕（資料17-3 単純集計表4頁参照）

回答施設の専門職大学和歌山国際厚生学院 卒業生に対する理学療法士としての採用意向については、「ぜひ採用したい」が49事業所（15.0%）、「関心がある」が109事業所（33.3%）、「少しは関心がある」が114事業所（34.9%）、「関心がない」55事業所（16.8%）、となった。

「理学療法学専攻」の入学定員40人に照らせば、「ぜひ採用したい」のみで入学定員の1.23倍に該当する採用意向の実数を得ることができた。

5. 5. 4. 専門職大学和歌山国際厚生学院 卒業生に対する作業療法士としての採用意向〔問8-(イ)〕（資料17-3 単純集計表4頁参照）

回答施設の専門職大学和歌山国際厚生学院 卒業生に対する作業療法士としての採用意向については、「ぜひ採用したい」が48事業所（15.5%）、「関心がある」が101事業所（32.6%）、「少しは関心がある」が109事業所（35.2%）、「関心がない」52事業所（16.8%）、となった。

回答事業所に「和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「作業療法学専攻」卒業者に対する作業療法士職員としての採用意向」について伺ったところ、「採用したい」が38事業所（13.0%）、「採用を検討する」が81事業所（27.6%）、「採用を考えない」が81事業所（27.6%）、「わからない」が93事業所（31.7%）、となった。

回答事業所の「和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「作業療法学専攻」卒業者に対する作業療法士職員としての採用意向」については、「わからない」が最も多く、全体の約3割強を占めている。

作業療法学専攻の入学定員40名に照らせば、「採用したい」（38事業所）のみで入学定員の0.95倍に該当する実数が得られた。

問6－②　和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「作業療法学専攻」卒業者に対する作業療法士職員としての採用想定人数

回答事業所に「和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「作業療法学専攻」卒業者に対する作業療法士職員としての採用想定人数」について伺ったところ、「1人」が62事業所（52.5%）と最も多く、次いで「その他」が31事業所（26.3%）、「2人」が24事業所（20.3%）、「3人」が1事業所（0.8%）、と続いている。

回答事業所の「和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「作業療法学専攻」卒業者に対する作業療法士職員としての採用想定人数」については、「1人」が全体の約5割強を占め、最も多

「作業療法学専攻」の入学定員40人に照らせば、「ぜひ採用したい」のみで入学定員の1.2倍に該当する採用意向の実数を得ることができた。

かった。

6．2．クロス集計（資料18-4参照）

問5－② 和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「理学療法学専攻」卒業者に対する理学療法士職員としての採用想定人数　×　問5－①和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「理学療法学専攻」卒業者に対する理学療法士職員としての採用意向

クロス集計により、「問5－①和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「理学療法学専攻」卒業者に対する理学療法士職員としての採用意向」で、「採用したい」と回答した41事業所の、「問5－② 和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「理学療法学専攻」卒業者に対する理学療法士職員としての採用想定人数」の回答を見ると以下の通りとなった。

① 「1人」の事業所は22事業所であった。
② 「2人」の事業所は11事業所であった。
③ 「3人」の事業所が3事業所であった。
④ その他」を選んだ事業所は5事業所であった。

よって、④「その他」を選んだ5事業所を除くと、①「1人」×22事業所＝22人、②「2人」×11事業所＝「22人」、③「3人」×3事業所＝「9人」となり、①②③を足し上げると、合計「53人」の採用意向があり、理学療法学専攻による入学定員40名の1.32倍に該当する実数が得られた。

問6－② 和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「作

業療法学専攻」卒業者に対する作業療法士職員としての採用想定人数×問6－①和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「作業療法学専攻」卒業者に対する作業療法士職員としての採用意向 クロス集計により、「問6－①和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「作業療法学専攻」卒業者に対する作業療法士職員としての採用意向」で、「採用したい」と回答した38事業所の、「問6－② 和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科「作業療法学専攻」卒業者に対する作業療法士職員としての採用想定人数」の回答を見ると以下の通りとなった。 ①「1人」の事業所は22事業所であった。 ② 「2人」の事業所は13事業所であった。 ③ 「その他」を選んだ事業所は3事業所であった。 よって、③「その他」を選んだ3事業所を除くと、①「1人」×22事業所＝22人、②「2人」×13事業所＝「26人」となり、①②を足し上げると、合計「48人」の採用意向があり、作業療法学専攻による入学定員40名の1.2倍に該当する実数が得られた。 上記のクロス集計結果により、和歌山リハビリテーション専門職大学を開学し、卒業生が出た場合には、理学療法士、作業療法士いずれの職種においても本学の設定する入学定員分(理学療法学専攻40名・作業療法学専攻40名)以上の事業所からの採用ニーズがあることから、卒業後の進路見通しの目途が十分立っていると考えられる。	

（是正事項）健康科学部　リハビリテーション学科

５．＜指定規則の改正対応＞
理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則等の改正を踏まえた、総単位数の見直し、臨床実習の在り方、専任教員の見直し等、各種対応がなされているか不明確なため、これらの改正の対応状況を明らかにする資料を添付し、説明すること。

（対応）

ご指摘の通り、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則等（以下；指定規則）の改正を踏まえた、総単位数の見直し、臨床実習の在り方、専任教員の見直し等の対応する「指定規則の一部を改正する対応表」資料を作成し添付する。また、総単位数に関しては、「教育課程と指定規則との対比表」（資料 5）を作成し添付する。

表　理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則の一部を改正する対応表（理学療法学専攻）

科目区分	教育内容	単位	単位数	追加内容	授業科目	授業回数
基礎分野	科学的思考の基盤	14	21			
	人間と生活					
	社会の理解				社会学	1～8回
					コミュニケーション技術	1～15回
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	12	12			
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	14	14	栄養	臨床栄養学	1～8回
				薬理	臨床薬理学	1～8回
				医用画像	臨床・画像診断学	1～15回
				救急救命	救急援助論	1～15回
				予防の基礎	予防医学	1～15回
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	4	4	自立支援	社会福祉学	5～8回
				就労支援	社会福祉学	9～11回
				地域包括ケアシステム	地域包括ケア論	1～15回
				多職種連携の理解	地域環境活動演習	1～15回
専門分野	基礎理学療法学	6	6			
	理学療法管理学	2	2	職場管理	組織学	9～14回
				理学療法教育・職業倫理	組織学	1～9回
	理学療法評価学	6	6	医用画像の評価	理学療法臨床診断学	1～15回
	理学療法治療学	20	21	喀痰等の吸引	内部障害理学療法学実習	12～14回
	地域理学療法学	3	4			
	臨床実習	20	23			
その他	展開科目		20			
	総合科目		4			
合計単位数		101	137			

表　理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則の一部を改正する対応表（作業療法学専攻）

科目区分	教育内容	単位	単位数	追加内容	授業科目	授業回数
基礎分野	科学的思考の基盤	14	21			
	人間と生活					
	社会の理解				社会学	1～8回
					コミュニケーション技術	1～15回
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	12	12			
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	14	14	栄養	臨床栄養学	1～8回
				薬理	臨床薬理学	1～8回
				医用画像	臨床・画像診断学	1～15回
				救急救命	救急援助論	1～15回
				予防の基礎	予防医学	1～15回
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	4	4	自立支援	社会福祉学	5～8回
				就労支援	社会福祉学	9～11回
				地域包括ケアシステム	地域包括ケア論	1～15回
				多職種連携の理解	地域環境活動演習	1～15回
専門分野	基礎理学療法学	5	6			
	理学療法管理学	2	2	職場管理	組織学	9～14回
				作業療法教育・職業倫理	組織学	1～9回
	理学療法評価学	5	6	医用画像の評価	応用評価学演習	2・4・6・8回
	理学療法治療学	19	21	喀痰等の吸引	身体障害作業療法学実習Ⅱ	7～8回
	地域理学療法学	4	4			
	臨床実習	22	23			
その他	展開科目		20			
	総合科目		4			
合計単位数		101	137			

実習の在り方について

今回の臨床実習についての理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則等（以下；指定規則）の改正では下記の通りとなる。

【総単位数の見直しについて】

　臨床実習の１単位の時間数の見直し

臨床実習時間外での学修を考慮し、臨床実習の１単位の時間数を、「１単位を４０時間以上の実習をもって構成することとし、実習時間外に行う学修等がある場合には、その時間も含め４５時間以内」に見直す。

【臨床実習の在り方について】

（1）臨床実習施設の要件

臨床実習施設の要件を以下のとおり見直し、養成施設は一定の要件を満たす主たる実習施設を置くことが望ましい等の努力規定を追加する。

（臨床実習施設の要件）

指定規則に定める臨床実習については、実習時間の３分の２以上は医療提供施設（医療法（昭和２３年法律第２０５号）第１条の２第２項に規定する医療提供施設（薬局、助産所を除く。）をいう。）において行うこと。ただし、医療提供施設における実習の２分の１以上は病院又は診療所で行うこ

と。また、訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションに関する実習を１単位以上行うこと。

（２）臨床実習指導者の要件

実習指導者は、理学療法、作業療法に関し相当の経験を有する理学療法士、作業療法士とし、免許を受けた後５年以上業務に従事した者であり、かつ、厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会等を修了した者とする。

（３）実習生に対する臨床実習指導者数

見学実習及び主たる実習施設での実習については、実習施設における実習人員と実習指導者数の対比が２対１程度でなくても可能とする。

（４）臨床実習の構成、方法等

臨床実習の構成は、原則として、見学実習、評価実習、総合臨床実習をもって構成することとし、評価実習、総合臨床実習については、実習生が診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で行う診療参加型臨床実習が望ましいとする努力規定等を追加する。

本学は１年次に「見学実習」１単位、2 年次に「体験実習」2 単位、3 年次に診療参加型実習として「評価実習」4 単位、4 年次も同じく診療参加型実習にて「総合臨床実習」16 単位と設定し直し、訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションに関する実習を 2 年次の「体験実習」にて行う予定である。

指定規則の改正に伴う内容に関しては順守し、規定通りに実習を行う。

上記の指定規則の改正に伴い、設置の趣旨等を記載した書類等の変更を下記の新旧対照表、シラバスに示す。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（10 ページ～11 ページ）（ページ 46～47 ページ）

新	旧
p８ **2. リハビリテーション専門職高等教育に対するニーズの多様化** **■「専門職大学」と「専門学校」の違い** 教育機関における教育課程は、その構成の中で主要な部分を占める。 既設の専門学校（理学療法学科）の卒業要件単位数は 135 単位であるのに対して、本学の専	**2. リハビリテーション専門職高等教育に対するニーズの多様化** **■「専門職大学」と「専門学校」の違い** 教育機関における教育課程は、その構成の中で主要な部分を占める。 既設の専門学校（理学療法学科）の卒業要件単位数は 135 単位であるのに対して、本学の専門

門職大学の両専攻共に 137 単位としている。専門職大学ではさらに選択科目を設置し、学生が興味のある分野を選択的に学べる環境があり、反対に既存の専門学校には選択科目を設置していないことも大きな違いと言える。下記に内容に関して大きく異なることを詳述する。	職大学の両専攻共に 143 単位としている。大枠で、元の専門学校も履修単位数が多かったが更に専門職大学はそれを上回った。下記に内容も大きく異なることを詳述する。
p 42	
第5　教員組織の編成の考え方及び特色	**第5　教員組織の編成の考え方及び特色**
Ⅰ．教員配置 専門職大学設置基準（平成 29 年文部科学省令第 33 号・第 34 号）に則り、健康科学部リハビリテーション学科の専任教員は、全専任教員中、実務教員を４割以上、そのうち研究能力を有する者を半数で構成している。全専任教員は 27 名で、うち博士号若しくは修士号を有する 24 名で構成することとした。専任教員には、当該分野の著書・学術論文などにより研究業績が認められる者、また、専門とする分野で相応の教育実績及び臨床経験を有する者を、教授、准教授、講師、助教として適切に配置している。実務教員は 9 名で構成し、9 名中 5 名が研究能力を有する者である。理学療法士および作業療法士の国家試験資格を持ち、５年以上の臨床経験を有するものは理学療法士７名、作業療法士８名とした。	**Ⅰ．教員配置** 専門職大学設置基準（平成 29 年文部科学省令第 33 号・第 34 号）に則り、健康科学部リハビリテーション学科の専任教員は、全専任教員中、実務教員を４割以上、そのうち研究能力を有する者を半数で構成している。全専任教員は 31 名で、うち博士号若しくは修士号を有する 28 名で構成することとした。専任教員には、当該分野の著書・学術論文などにより研究業績が認められる者、また、専門とする分野で相応の教育実績及び臨床経験を有する者を、教授、准教授、講師、助教として適切に配置している。実務教員は 9 名で構成し、9 名中 5 名が研究能力を有する者である。理学療法士および作業療法士の国家試験資格を持ち、５年以上の臨床経験を有するものは理学療法士７名、作業療法士８名とした。
Ⅱ．リハビリテーション学科理学療法学専攻 **1．専任教員の構成と年齢構成** 理学療法学専攻専任教員は14名である。完成時における年齢構成は、40歳代が2名、50歳代が6名、65歳から69歳までが1名、70歳以上が5名である。特に、65歳以上の教員が5名在職することについては、専門職大学の設置につき、本学の設置の趣旨に即した質の高い教育研究の展開と実績を積み上げるために、研究業績が顕著で、専門とする分野での豊富な教育経験と臨床経験を有する教員を必要としたためである。	**Ⅱ．リハビリテーション学科理学療法学専攻** **1．専任教員の構成と年齢構成** 理学療法学専攻専任教員は16名である。完成時における年齢構成は、30歳代が1名、40歳代が１名、50歳代が４名、65歳から69歳までが４名、70歳以上が４名である。特に、65歳以上の教員が８名在職することについては、専門職大学の設置につき、本学の設置の趣旨に即した質の高い教育研究の展開と実績を積み上げるために、研究業績が顕著で、専門とする分野での豊富な教育

Ⅲ．リハビリテーション学科作業療法学専攻 **1．専任教員の構成と年齢構成** 作業療法学専攻専任教員は13名である。完成時における年齢構成は、40歳代が2名、50歳代が4名、60歳から64歳までが1名、65歳から69歳までが3名、70歳以上が3名である。特に、65歳以上の教員が6名在職することについては、専門職大学の設置につき、本学の設置の趣旨に即した質の高い教育研究の展開と実績を積み上げるために、研究業績が顕著で、専門とする分野での豊富な教育経験と臨床経験を有する教員を必要としたためである。	経験と臨床経験を有する教員を必要としたためである。 **Ⅲ．リハビリテーション学科作業療法学専攻** **1．専任教員の構成と年齢構成** 作業療法学専攻専任教員は 15 名である。完成時における年齢構成は、40 歳代が１名、50 歳代が５名、60 歳から 64 歳までが０名、65 歳から 69 歳までが５名、70 歳以上が３名である。特に、65 歳以上の教員が８名在職することについては、専門職大学の設置につき、本学の設置の趣旨に即した質の高い教育研究の展開と実績を積み上げるために、研究業績が顕著で、専門とする分野での豊富な教育経験と臨床経験を有する教員を必要としたためである。

（是正事項）健康科学部　リハビリテーション学科

6．＜科目区分の名称等が不整合＞ 基礎科目に「人間発達学」の科目区分があるが、配置されている科目は「人間発達学」には該当しないので、科目区分の名称を改めること。また、職業専門科目区分の「人体の構造と機能及び心身の発達」の区分は心身の発達を系統立てて理解できるよう科目の配置を改めること。

（対応）

ご指摘踏まえて検討した結果、「人間発達学」という科目区分については、下記の通り、削除し、科目区分を再編成を行い 3 つの科目区分とした。「人間発達学」に関しては、下記の通り基礎科目から職業専門科目（専門基礎科目）である「人体の構造及び機能と心身の発達」に配置した。

基礎科目は医療分野における高い倫理観を有し、幅広い一般教養を身につけていることを目的とし、「国際情報」「人間発達学」「自然科学」「人文科学」「情報の探求」の 5 つの科目群に区分した。それぞれに必修科目と選択科目を設け 1 年次から 4 年次においてバランスよく科目履修できるよう配置した。しかし、基礎科目の中に「人間発達学」の科目群を配置することにより、職業専門科目区分の「人体の構造と機能及び心身の発達」の区分と重なり、学生が混乱する恐れがある。よって、基礎科目の科目区分を指定規則に則り「科学的思考の基礎」「人間と生活」「社会の理解」の３つの科目群に区分し、次のように構成した。

「基礎科目」

医療分野における高い倫理観を有し、幅広い一般教養を身につけていることを目的とし、
1 科学的思考の基礎、2 人間と生活、3 社会の理解の３つの科目群に区分した。それぞれに必修科目と選択科目を設け、1 年次にバランスよく科目履修できるよう配置した。「基礎科目」は 2 専攻共通の学生が 20 単位以上履修することとする。

1 科学的思考の基礎

科学的思考の基礎は、現象と物事の相互関係を知り、 正しく分析し、その結果を判断するためには、観察データから推論によって仮説を出し、 それを検証していくことを目的としている。本校は、科学的思考を育成するために「心理学」「生物学」「物理学」「統計学」「健康科学」「プログラミング」「ＩoT 入門」を１年次に配置した。また、ディプロマ・ポリシーを鑑み、人の心を理解することが重要なことから「心理学」。統計資料や研究論文を適切に読み解く能力が必要なことから「統計学」。リハビリテーション職は対象者の健康に関連した諸課題に向き合うことが求められることから「健康科学」の３科目は必修科目とした。

2 人間と生活

人間と生活では、人間を多面的・総合的に理解し、また倫理的な態度をもって適切な人間関係

を築くために必要な基礎能力を養う。科目としては「哲学」「老年学」「生命倫理」「教育学Ⅰ」「教育学Ⅱ」「健康とスポーツ」の６教科を１年次に履修するよう配置した。この中で、ディプロマ・ポリシーに準じ、老年期のライフステージを通した人間理解に必要な「老年学」。リハビリテーション分野において人間の可能性を伸ばすシステムと技法を修得に必要な「教育学Ⅰ」「教育学Ⅱ」。さらには、「健康とスポーツ」を加え４教科を必修科目とした。

3 社会の理解

理学療法士、作業療法士は患者・利用者等と密接に関わることから、患者・利用者等との良好な人間関係を構築するために必要な、人間関係論、コミュニケーション論等を含む「社会の理解」を教育内容に配置した。科目は「社会学」「法学」「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」の 6 教科、必修科目は「社会学」と「法学」とした。「社会学」は人間およびそれを取巻く社会事象を研究対象とし、現象の実態や原因となる因果関係を統計的な解釈で分析することを目的とし、人間関係論を科学的に捉えた学問である。「法学」は基礎法学と実際の問題に対して実定法に関して捉える実定法学を幅広く学習するため人間関係を構築するために必要と考える。

また、当初の申請時では「人体の構造と機能及び心身の発達」の区分にある授業科目は「人体構造学Ⅰ」「人体構造学Ⅱ」「人体構造学実習」「人体機能学」「人体機能学実習」「神経・筋生理学」「運動学Ⅰ」「運動学Ⅱ」「運動学実習」「体表解剖学」「体表解剖学演習」の 11 科目 12 単位必修であった。しかし、「心身の発達」に該当する科目がなかったため、検討を行い「人間発達学」を 1 年次に配置し、「神経・筋生理学」の科目を削除した。削除理由としては「神経・筋生理学」は実施予定である「人体機能学」「人体機能学実習」の授業で補い、単位当たりの学習時間を確保し、学生が十分な教育効果をあげることができるように配慮した結果である。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（28 ページ～29 ページ）

新	旧
1. 基礎科目 **Ⅴ．科目構成及び科目区分** 医療分野における高い倫理観を有し、幅広い一般教養を身につけていることを目的とし、「科学的思考の基礎」「人間と生活」「社会の理解」の３つの科目群に区分した。それぞれに必修科目と選択科目を設け、1 年次にバランスよく科目履修できるよう配置した。「基礎科目」は 2 専攻共通の学生が 20 単位以上履修する	**1. 基礎科目** **Ⅴ．科目構成及び科目区分** 豊かな人間性と幅広い教養と世界的研究・教育の拠点、自由な発想を持って将来の職種の幅を広げ、新たなサービスを創りだせる人材の育成を視野に入れ、学生自身が自覚できるよう「国際情報」「人間発達学」「自然科学」「人文科学」「情報の探求」の５つの科目群で構成した。「国際情報」では国際共通言語として使用され

こととする。

「科学的思考の基礎」
科学的思考の基礎は、現象と物事の相互関係を知り、 正しく分析し、その結果を判断するためには、観察データから推論によって仮説を出し、 それを検証していくことを目的としている。本校は、科学的思考を育成するために「心理学」「生物学」「物理学」「統計学」「健康科学」「プログラミング」「ＩoT 入門」を１年次に配置した。また、ディプロマ・ポリシーを鑑み、人の心を理解することが重要なことから「心理学」。統計資料や研究論文を適切に読み解く能力が必要なことから「統計学」。リハビリテーション職は対象者の健康に関連した諸課題に向き合うことが求められることから「健康科学」の３科目は必修科目とした。

「人間と生活」
人間と生活では、人間を多面的・総合的に理解し、また倫理的な態度をもって適切な人間関係を築くために必要な基礎能力を養う。科目としては「哲学」「老年学」「生命倫理」「教育学Ⅰ」「教育学Ⅱ」「健康とスポーツ」の６教科を１年次に履修するよう配置した。この中で、ディプロマ・ポリシーに準じ、老年期のライフステージを通した人間理解に必要な「老年学」。リハビリテーション分野において人間の可能性を伸ばすシステムと技法を修得に必要な「教育学Ⅰ」「教育学Ⅱ」。さらには、「健康とスポーツ」を加え４教科を必修科目とした。

「社会の理解」
理学療法士、作業療法士は患者・利用者等と密接に関わることから、患者・利用者等との良好な人間関係を構築するために必要な、人間関係論、コミュニケーション論等を含む「社会の理解」を教育内容に配置した。科目は「社会学」「法学」「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」の６教科、必修科目は「社会学」と「法学」とした。「社会学」は人間およびそれを取巻く社会事象を研究対象とし、現象の実態や原因となる因果関係を統計的な解釈で分析ている英語Ⅰ、英語Ⅱ、アジアで今後ますます中国の役割が増大する中で、コミュニケーションの幅が一気に広がるため中国語を必修科目としている。「国際文化論」「国際地域開発論」を選択科目とし、どちらか１単位選択とする。「人間発達学」ではリハビリテーション医学の基礎的知識として必要な人間の成長、発達のために、また医の根本を学ぶため哲学、生命倫理、スポーツ概論、健康科学を必修科目とし、配置した。
「自然科学」「人文科学」は豊かな人間性と幅広い教養を視野に入れるべく、「自然科学」では物理学、生物学、統計学はリハビリテーション分野に深いかかわりのある科目を必修とした。「人文科学」では心理学、教育学Ⅰ、教育学Ⅱ必修とし、社会学、法学のどちらか１単位選択する選択科目とした。
「情報の探求」は自由な発想を持って将来の職種の幅を広げ、新たなサービスを創りだせる人材の育成を視野に入れプログラミングとIoT入門を必修科目とした。プログラミングを習得するためには、目的を達成するためにどのような仕組みが必要か判断することが大切になり、プログラムを組む作業を通して、ロジカルに考慮できうる人材の育成を目指す。また世界の製造業のルールが激変するIoT：Internet of Thingsの入門を学ぶことにより、新たなサービスを創りだせる人材の育成を行う。「情報処理Ⅰ」を必修科目と配置し、「情報処理Ⅱ」「プログラミング」「IoT 入門」の３科目中２科目を選択科目とした。

することを目的とし、人間関係論を科学的に捉えた学問である。「法学」は基礎法学と実際の問題に対して実定法に関して捉える実定法学を幅広く学習するため人間関係を構築するために必要と考える。	

（是正事項）健康科学部　リハビリテーション学科

7．＜専攻ごとの展開科目の考え方＞
理学療法学専攻、作業療法学専攻における展開科目を通じて育成する人物像は同一の説明がされているが、展開科目の狙いや特色を明らかにしつつ、どのように展開科目を履修させようとしているのか明らかにすること。

（対応）

ご指摘の通り、ディプロマ・ポリシー（DP）が学部のみの設定であったため、展開科目を通じて養成する人材像も同一の説明が記載されていた。しかし、今回新たに専攻別に DP を設定し、養成する人材像も下記のように専攻別に設定した。また、各専攻の人材像と DP に基づき、展開科目は、各専攻で、入学から卒業までの履修モデルを改めて設定してその中に位置づけた。展開科目の狙いや特色を明らかにして、どのように展開科目を履修させようとしているのかについては、各専攻の人材像を提示した後に説明する。

【理学療法学専攻 養成する人材像】

「理学療法士として、高い倫理観と高度な専門知識と健康の増進及び心身機能の維持・回復を推進する技術力を有し、それを発展させる創造力・応用力及び教育・研究する態度を身につけ、保健医療福祉分野の多職種と連携・協調しながら地域社会に貢献できる人材」

【作業療法学専攻 養成する人材像】

「作業療法士として、高い倫理観と高度な専門知識・技能および実践力を有し、保健医療福祉に関わる関連職種や多職種と連携・協調し、創造的かつ応用的に取り組み、地域社会に貢献できる人材」

【展開科目について】

本学では、教育理念にある、リハビリテーション分野だけに留まらず、培った知識・技術をいかし自由な発想を持って将来の職種の幅を広げ、新たなサービスを創りだせる人材の育成を目指し、研究・教育の拠点、地域の生涯学習機会の拠点の２つの機能を併せ持ち、保健医療福祉の発展と向上に寄与できる人材を培う狙いで特色のある科目を設定した。専攻ごとに入学から卒業までの履修モデルを設定し、各々のコース中に有用な展開科目を配置した。その狙いや特色について説明する。

1．必修展開科目（5 科目）

「ふるさと・紀州学」、「組織論」、「地域活性企業論」、「コミュニケーション論」、「健康支援学」は、両専攻に共通する科目ではあるが、本学は 40 人クラスで開講されるため、基本的に各々の専攻ごとに授業を実施する。同じ講義内容ではあるが、各クラスでは、学生からの質問内容等の参加によって各専攻の学生の関心事の違いなどにより、若干の相違が生じることが推察される。担

当教員は、そうした相違にも配慮しながら、双方に良好な影響があたえられるように配慮して授業を進めていくことになる。
各々の科目について説明する。
「ふるさと・紀州学」では、地域における、現状の健康・福祉・医療について地域が直面する問題を取り上げ、地域の理解を深める。地域創生を概念に持ち専門職として何ができるかの探索し授業を展開する。
「健康支援学」では、健康に生活していくための支援の基礎知識として、生理学を中心に病気にならないための方法論を感染予防、疾病予防の観点から学ぶ。感染・疾病予防に関する体内外環境の重要性を概説した後、健康の維持・増進や廃用症候群について発症機序や身体機能に及ぼす影響を学び、健康維持や疾病予防に役立つ知見を深める科目である。
「組織論」では、経済学を通して組織における仕事の分担の仕方、協働の仕方を研究し、そのなかで管理の重要性を理解し、具体的方法について学修する。特に強制的な管理方法と配慮型の管理方法について理解を深め、現場における応用力を高める。
「地域活性企業論」では、地域活性化で注目を集めた地域の取り組みと、そのなかで企業はどのようにして、その役割を果たしてきたかを検証する。地域の特性を十分理解したうえで、具体的な地域活性の道を探り、自治体と企業に提案していけるような人材の養成を行う。
「コミュニケーション論」では、社会生活を営む人間の間で行われる知覚・感情・思考の伝達であるコミュニケーションを、社会通念上、場面ごとに必要な敬語、適切な接遇などの学習を通して学ぶ。様々な現場で求められる適切な表現法について考え、応用できる能力を身につける。また社会人として多くの人間との関係を築いていくうえで必要な能力を習得し日常生活面や様々な場面で適切な援助ができるように学ぶ。
これらの科目を必修とし、地域社会の現状に目を向け、保健医療福祉に関わる関連職種や多職種と連携・協調していくための基礎力を養い、創造力・応用力を向上させるように育成する。

2. 選択展開科目（12 科目中 5 科目選択）
各専攻の履修モデルにより選択科目は異なっており、各々のコースの学修にとって有用な科目を配置している。選択展開科目は、共通科目であり、専門職の見識の幅を広げることができる特色ある科目を設定している。40 人クラスで開講され、各専攻の学生が混在して同じクラスで学ぶことにより、相互の専門性を理解しつつ連携・協調への発展と新たな発想への転換をねらう。
以下、選択展開科目について説明する。
「経営と会計」では、経営者としての知識を身につけるべく、経営と会計の基礎を学ぶ。例を挙げると、決算書には経営者の考えや日々の行動が「数字」という形で反映される。起業を目指す時、これから経営に携わるという時に、「数字」を理解する上で必要な会計知識を紹介し、中身を読み解き、銀行の担当者や投資家との対応ができるように準備する。

「医療経済論」では、医療経済論は、医療制度を扱う経済学の応用分野である。経済学の基礎をまなびながら、医薬品・医療保険など医療にかかわるさまざまなことを経済学の手法を用いて分析することを学ぶ。

「地域防災論」では、和歌山県にいたる地震・津波・台風等の防災にかかわる内容の把握を行う。また災害で派遣される医療関連チーム（Disaster Medical Assistance Team：DMAT、Japan Medical Association Team：JMAT、Japan Rehabilitation Assistance Team：JRAT）の役割、活動等の理解を行う。

「支援ロボット論」では、少子高齢社会に進む流れの中、誰にでも使いやすい生活支援技術が求められる。低侵襲性計測技術、ロボット技術による生活支援、健康支援工学の各分野における最先端の研究開発事例を工学的に解説して生活者と支援技術の関わりを理解する。

「産業保健論」では、企業において、従業員の安全と健康を確保し、生産性の向上を図ることを目的として実施される活動を理解し、医療においても重要な役割を担っていつことを学ぶ。労働者の健康増進、保健管理も含めて学習する。

「地方自治と生活」では、地方自治の法と仕組みを学ぶ。地方自治は近年、大きく変動してきた。地方自治の行方は、まちづくり、地域福祉、環境保全といった地域の具体的・現実的な課題として、私たちの日々の生活にも直接かかわってくる。地方自治・地方分権をめぐる近年の動向や今後の展望を、これからの地域に生きる自分自身の関心事として捉えられるように学ぶ。

「生涯スポーツ論」では、生涯にわたるスポーツをテーマとしてとらえ、子供から高齢者までの人生プラン的視点から授業を行う。現代の社会・生活構造の変化を踏まえて多様化するスポーツの諸相について概説する。主として生涯スポーツの観点から、地域スポーツ、ニュースポーツの創造、総合型地域スポーツクラブ、スポーツと環境問題、グローバル世界とスポーツについて取り上げ基礎的な理解を深める。

「ソーシャルスキル論」では、ソーシャルスキルは、社会の中で自立し主体的であるとともに、他の人との協調を保って生きるために必要とされる生活上の能力である。このスキルを学び、地域の保健・医療・福祉・介護および行政等と連携協力することのできる人材養成を行う。加えて、その人らしく生活するためのヘルスケアサービスについても学ぶ。

「医用・福祉工学論」では、医療・福祉におけるシステムの実用化のためのシステム論、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術が必要不可欠であることを理解する。

「障害児教育論」では、障害児教育の歴史と基本理念、特別支援教育の成り立ち及び内容を学習する。そして、障害の特性とそれに合わせた教育について具体的に学ぶ。その上で、就学手続き、教育課程、進路保障といった関連重要事項についての基礎知識を身につける。地域社会における障害児教育の実態を知り将来どのように連携できるか考えていけるようにする。

「地域連携研究」では、和歌山を中心とした地域の連携を「観光」「都市づくり」「海外交流」の面からどのような連携を行っており、どのような課題があるのかを探求していく。特に持続可能な街づくりを中心に各企業やその他の団体の連携を調べて研究することを学ぶ。

「アンチエイジング」では、世界有数の長寿国の日本は、余命だけでなく健康寿命が価値をもつ意味が大きく取り上げられる。加齢に伴う自らの身体の変化を理解するとともに他者の加齢変化に対する理解も重要となっている。そこで身体内部のミクロレベルの変化、地域、国レベルで見る環境を理解しながら、自ら積極的に健康を維持するために方策についての理解を深めることを目的とする。

各専攻の入学から卒業までの履修モデルの中に各 5 科目の選択展開科目を設定した。その特色と狙いについて説明する。

〔理学療法学専攻の履修モデルと選択展開科目〕

理学療法学専攻の履修モデルは 3 コース、① 医療系理学療法履修モデル、② 健康スポーツ系理学療法履修モデル、③ 地域連携系理学療法履修モデル である。

① 医療系理学療法履修モデル

医療分野において理学療法士の必要性は更に高まっている。少子化超高齢化が進む一方で、医療が高度化し治療費が高額化する現在から将来を見据え、社会保障費の伸びをどのように抑制していくのか大きな社会問題となり国民的課題となっている。こうした社会情勢の中で、理学療法士が医療分野において、いかに対応していけば良いのか、医学の進歩に対応できるように関連領域の知見を学び、応用力と創造性に優れた理学療法学の発展が必要である。目指すのは、医療分野における、運動器、脳血管障害、神経・筋疾患、内部疾患（心臓・呼吸・循環・代謝）などの認定・専門理学療法士であり、あるいは、物理療法や徒手療法などの特殊テクニックのスペシャリストである。専門領域に特化して研究を推進していくこともできるようにその基礎的素養を身につける。

選択展開科目（5 科目）: 医療経済論、ソーシャルスキル論、支援ロボット論、医療・福祉工学論、アンチエイジング

これらの選択展開科目により、医療における経済学を理解し、医療・福祉分野におけるロボットの利用など関連する工学を学び、アンチエイジングを理解し、ソーシャルスキルを備えた理学療法士を目指す。

② 健康スポーツ系理学療法履修モデル

2020 年東京オリンピックで問題になったことのひとつに、日本には、現在、国際標準となっているロンドンやリオの各会場でも当たり前であった「救命救急のできるスポーツ理学療法士」が存在しないことがあげられる。法的には緊急時に手が出せず、医師、看護師、救命救急士の助けを借りなければならない現状があるからである。新指定規則の中にようやく「救命救急及び予防の基礎」が位置づけられ、今後は国際標準スポーツ理学療法士を養成していくことが課題となっている。また、社会保険費の高騰の中で、その対策として、いかに健康寿命を延伸していくかが問われている、そのための一次予防・二次予防・三次予防の充実が重要な課題となっている。一次予防において、いかにして健康を維持・増進し、心身の老化を遅らせるのか、子どもの健やかな発達を促進する、また働く世代における産業における保健や生涯にわたる身体運動・スポーツ

継続の必要性も高まっており、自ら起業し経営に臨むことも含めて関連領域を巻き込んだ理学療法士の介入によりこの課題に取り組んでいけるように育成したい。障害児から障害者の健康・スポーツにも目を向け、傷害の予防・回復における理学療法の基礎を学修する。目指すのは、健康スポーツ分野における理学療法のスペシャリストであり、その基礎的素養を身につけることである。

選択展開科目（5 科目）：経営と会計、ソーシャルスキル論、産業保健論、生涯スポーツ論、アンチエイジング

これらの選択展開科目により、企業経営や産業保健の知識を持ち、アンチエイジングと生涯の健康と運動・スポーツの専門的知識を持ち、ソーシャルスキルを備えた理学療法士を目指す。

③ 地域連携系理学療法履修モデル

地域においては、少子化・超高齢化など喫緊の問題に留まらず、気候変動の影響による災害とその規模の増大も含めて、子どもから老人まですべての人々の生活と疾病・障害・介護・福祉への対策が課題となっている、政府は、強力に地域包括支援システムを定着・発展させていこうとしている。地域における理学療法士は、地方行政をはじめ多職種・他部門の専門職と連携し、応用力と創造力をもって、不足している分野があれば補完してつないでいけるように課題に取り組む社会的要請がある。目指すのは、それらに応えて、乳児から高齢者まですべての人々の生活を守れるように、総合的に理学療法を活用できるゼネラリストへの基礎的素養を身につけることである。将来は、地域連携の隙間を埋める支援システム等の研究・開発が手がけられる創造力や応用力も期待される。

選択展開科目（5 科目）経営と会計、地方自治と生活、地域防災論、障害児教育論、地域連携研究

これらの選択展開科目を学ぶことにより、医療関係機関・施設の中だけでなく、今後、益々変化していく、社会情勢の変化や医療・介護保健制度の改定も視野に入れて、地域福祉・環境保全と言った地域の具体的、現実的な課題や、将来発生すると予測される災害に対する地域特有の課題やその対策についても把握していくことができる人材が地域で求められている。また、これまで積極的に社会参加できなかった障害を抱えた子どもや高齢者も参加できる共生社会を構築していくために必要不可欠な知識として、他職種と適切な共通言語で情報を共有できる知識を蓄え、新しいツールを開発・研究していくことができる人材の育成を目指す。

〔作業療法学専攻の履修モデルと選択展開科目〕

作業療法学専攻の履修モデルは 4 コース、① 医療系作業療法（身体機能支援）履修モデル、② 医療系作業療法（認知・行為支援）履修モデル、③ 社会生活系作業療法履修モデル、④ 地域連携系作業療法モデルの 4 つを掲げている。

① 医療系作業療法（身体機能支援）履修モデル

医療から健康・医療課題を捉え、疾病・障害を予防し、心身機能および社会生活活動の支援やその分野の探求心や研究心を養うモデルとして掲げている。このモデルでは主に身体機能の支援を中心に履修する科目を設定している。
選択展開科目（5 科目）では、医療的な経済視点を得るために医療経済論、サービス提供のための社会スキルを学ぶソーシャルスキル論、工学的な支援を学ぶ医用・福祉工学、支援ロボット論を、老化に対する支援を検討するアンチエイジング学ぶ。
以上の学びから作業療法を発展させていくために専門職連携総合演習Ａで専門職との連携を学び、地域への貢献方法を模索する。
② 医療系作業療法（認知・行為支援）履修モデル
医療から健康・医療課題を捉え、疾病・障害を予防し、心身機能および社会生活活動の支援やその分野の探求心や研究心を養うモデルとして掲げている。このモデルでは主に認知機能や生活・社会行為の支援を中心に履修する科目を設定している。
選択展開科目（5 科目）では、サービス提供のための社会スキルを学ぶソーシャルスキル論、工学的な支援を学ぶ医用・福祉工学、支援ロボット論、社会生活での余暇活動を検討する生涯スポーツ論、老化に対する支援を検討するアンチエイジングを学ぶ。
以上の学びから作業療法を発展させていくために専門職連携総合演習Ａで専門職との連携を学び、地域への貢献方法を模索する。
③ 社会生活系作業療法履修モデル
保健医療福祉に関わる関連職種や多職種と連携・協調し、心身機能および社会生活活動の維持・回復・改善を促進し、地域社会へ貢献する探求心や研究心を養うモデルとして掲げている。
選択展開科目（5 科目）では、サービス提供のための社会スキルを学ぶソーシャルスキル論、地域生活での安全を検討する地域防災論、障害児の教育に関することを学べる障害児教育論、社会生活での余暇活動を検討する生涯スポーツ論、地域での連携を学ぶ地域連携研究を学ぶ。
以上の学びから作業療法を発展させていくために専門職連携総合演習Ｂで専門職との連携を学び、地域での社会生活への支援・貢献方法を模索する。
④ 地域連携系作業療法モデル
近年の急速な介護・医療制度改革により、医療・介護の流れが「施設」から「施設」への流れから「施設」から「地域」への流れに大きくシフトしてきている。それに伴って、医療関係機関の機能分化だけでなく、病床の機能分化までもが求められてきているため、病床・機関・施設・地域間など、より細かな連携をシームレスな関係で構築していかなければならない。このような、より細かな連携をシームレスな関係で構築いていくためには、学生の段階から本学で、他領域の専門職や他施設の職員と効果的な対人行動や社会的スキルを培っていく必要がある。さらに、作業療法士としての専門的な力である作業活動を通して学ぶ、自立生活支援に向けて取り組んでいくための知識に加えて、支援していく対象者の生活の場となる地域の自然的、社会的、人文的特徴を踏まえた地域の現状を把握していく必要がある。また、地域の健常な子どもから高齢者だけでなく、障害児から障害者までのあらゆるレベルの人たちの声を漏れなく傾聴していく姿勢を培

っていくことで、作業療法士単独の視野だけでなく、支援に関わる専門職や地域が一丸となって、地域ぐるみの支援を目指したチームの牽引役に繋がっていく。
選択展開科目（5 科目）では、サービスの価格や事業の運営の基礎となる経営と会計、地方自治体が提供している住民サービス等を学ぶ地方自治と生活、保健活動を産業として捉える産業保健、障害児の教育に関することを学ぶ障害児教育論、地域での連携を学ぶ地域連携研究を学修する。
以上の学びから作業療法を発展させていくために専門職連携総合演習Ｂで専門職との連携を学び、社会での拠点作りや資源作り等を創造し、地域社会への支援・貢献方法を模索する。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（32 ページ～38 ページ）

新	旧
3. 展開科目 本学では、教育理念にある、リハビリテーション分野だけに留まらず、培った知識・技術をいかし自由な発想を持って将来の職種の幅を広げ、新たなサービスを創りだせる人材の育成を目指し、研究・教育の拠点、地域の生涯学習機会の拠点の２つの機能を併せ持ち保健医療福祉の発展と向上に寄与できる人材を培う狙いで特色ある科目を設定した。専攻ごとに入学から卒業までの履修モデルを作成し、各々のコース中に有用な展開科目を配置した。その狙いや特色について説明する。 1. 必修展開科目（5 科目） 「ふるさと・紀州学」、「組織論」、「地域活性企業論」、「コミュニケーション論」、「健康支援学」は、両専攻に共通する科目ではあるが、本学は 40 人クラスで開講されるため、各々の専攻ごとに授業が実施され、基本的な講義内容は同じである。学生からの質問内容によっては、各々の専攻による関心事により、若干の相違は生じる可能性がある。 各々の科目について説明する。 「ふるさと・紀州学」では、地域における、現状の健康・福祉・医療について地域が直面する問題を取り上げ、地域の理解を深める。地域創生を概念に持ち専門職として何ができるかの探索し授業を展開する。 「健康支援学」では、健康に生活していくための支援の基礎知識として、生理学を中心に病気にならないための方法論を感染予防、疾病予防	**3. 展開科目** 本学の教育理念にある、リハビリテーション分野だけに留まらず、培った知識・技術をいかし自由な発想を持って将来の職種の幅を広げ、新たなサービスを創りだせる人材の育成を目指し、研究・教育の拠点、地域の生涯学習機会の拠点の２つの機能を併せ持ち保健医療福祉の発展と向上に寄与できる人材を培うべく、科目配置を行った。共通展開科目と各専攻別の展開科目に分かれており、共通展開科目は、地域貢献に寄与できるよう、ふるさと・紀州学、アンチエイジング論、企業広報活動論、地域連携研究があり、世界的研究・教育の拠点に寄与できるように、医療経済論、国際文化論を配置した。各専攻別展開科目について、理学療法士専攻展開科目（理学療法展開科目）では、地域防災論、組織論、経営と会計、支援ロボット論、産業保健論、生涯スポーツ論と保健医療福祉の発展と向上に寄与できる人材を養えるよう配置した。作業療法専攻展開科目（作業療法展開科目）では、地方自治と生活、コミュニケーション論、地域活性企業論、地域福祉論、ソーシャルスキル論、福祉工学論と作業療法士特有のスキルを活かした保健医療福祉の発展

の観点から学ぶ。感染・疾病予防に関する体内外環境の重要性を概説した後、健康の維持・増進や廃用症候群について発症機序や身体機能に及ぼす影響を学び、健康維持や疾病予防に役立つ知見を深める科目である。

「組織論」では、経済学を通して組織における仕事の分担の仕方、協働の仕方を研究し、そのなかで管理の重要性を理解し、具体的方法について学修する。特に強制的な管理方法と配慮型の管理方法について理解を深め、現場における応用力を高める。

「地域活性企業論」では、地域活性化で注目を集めた地域の取り組みと、そのなかで企業はどのようにして、その役割を果たしてきたかを検証する。地域の特性を十分理解したうえで、具体的な地域活性の道を探り、自治体と企業に提案していけるような人材の養成を行う。

「コミュニケーション論」では、コミュニケーションは、社会生活を営む人間の間で行われる知覚・感情・思考の伝達である。社会通念上、場面ごとに必要な敬語、適切な接遇などの学習を通して学ぶ。様々な現場で求められる適切な表現法について考え、応用できる能力を身につける。また社会人として多くの人間との関係を築いていくうえで必要な能力を習得し日常生活面や様々な場面で適切な援助ができるように学修する。

これらの科目を必修とし、地域社会の現状に目を向け、保健医療福祉に関わる関連職種や多職種と連携・協調していくための基礎力を養い、創造力・応用力を向上させるようにする。

2. 選択展開科目（12 科目中 5 科目選択）

各専攻の履修モデルにより選択科目は異なり、各々のコースの学修にとって有用な科目を配置している。選択展開科目は、共通科目であり、専門職の見識の幅を広げることができる特色ある科目を設定し、40 人クラスで開講され、各専攻の学生が混在して同じクラスで学ぶことにより、相互の専門性を理解しつつ連携・協調への発展と新たな発想への転換をねらう。

以下、選択展開科目について説明する。

「経営と会計」では、経営者としての知識を身につけるべく、経営と会計の基礎を学ぶ。例を

と向上に寄与できる人材を養えるよう配置した。展開科目は全て選択科目とし、4 年後期にて履修する。全 24 単位中 20 単位以上の習得により、卒業要件を満たすとしている。これは、培った知識・技術をいかし自由な発想を持って将来の職種の幅を広げ、新たなサービスを創りだせる人材の育成を目指すために、学生自身興味をもち、履修させる狙いがある。

また、ICT だけでなく医療経済や会計学にも明るい持続可能なシステムを考案できるよう、医療経済に関する科目は展開科目（共通）で「医療経済論」があり、会計学に関する科目は展開科目（理学療法学専攻）で「経営と会計」があり、類似する科目として、展開科目（作業療法学専攻）である「地域活性企業論」や展開科目（共通）である「企業広報活動論」などがあり、実践的かつ創造的な専門職業人の育成に期待できると考える。

各授業の概要について、「医療経済論」は、医療制度を扱う経済学の応用分野である。経済学の基礎をまなびながら、医薬品・医療保険など医療にかかわるさまざまなことを経済学の手法を用いて分析することを学修する。「経営と会計」では、学習目標は経営者としての知識を身につけるべく、経営と会計の基礎を学ぶ。例を挙げると、決算書には経営者の考えや日々の行動が「数字」という形で反映される起業を目指している方、これから経営に携わる方向けに、ここでは「数字」を理解する上で必要な会計知識をご紹介し、中身を読み解き、銀行の担当者や投資家からの質問に答えられるように準備する。「地域活性企業論」は地域活性化で注目を集めた地域の取り組みと、そのなかで企業はどのようにして、その役割を果たしてきたかを検証する。地域の特性を

挙げると、決算書には経営者の考えや日々の行動が「数字」という形で反映される起業を目指している方、これから経営に携わる方向けに、ここでは「数字」を理解する上で必要な会計知識をご紹介し、中身を読み解き、銀行の担当者や投資家との対応ができるように準備する。

「医療経済論」では、医療経済論は、医療制度を扱う経済学の応用分野である。経済学の基礎をまなびながら、医薬品・医療保険など医療にかかわるさまざまなことを経済学の手法を用いて分析することを学修する。

「地域防災論」では、和歌山県にいたる地震・津波・台風等の防災にかかわる内容の把握を行う。また災害で派遣される医療関連チーム（Disaster Medical Assistance Team：DMAT、Japan Medical Association Team：JMAT、Japan Rehabilitation Assistance Team：JRAT）の役割、活動等の理解を行う。

「支援ロボット論」では、少子高齢社会に進む流れの中、誰にでも使いやすい生活支援技術が求められる。低侵襲性計測技術、ロボット技術による生活支援、健康支援工学の各分野における最先端の研究開発事例の工学的に解説を通じて、生活者と支援技術の関わりを理解する。

「産業保健論」では、産業保健とは、企業において、従業員の安全と健康を確保し、生産性の向上を図ることを目的として実施される活動を指し、医療においても重要な役割である。労働者の健康増進、保健管理も広く含めて学習する。

「地方自治と生活」では、地方自治の法としくみを学ぶ。地方自治は近年、大きく変動してきた。地方自治の行方は、まちづくり、地域福祉、環境保全といった地域の具体的・現実的な課題として、私たちの日々の生活にも直接かかわってくる。地方自治・地方分権をめぐる近年の動向や今後の展望を、これからの地域に生きる自分自身の関心事として捉えられるようにする。

「生涯スポーツ論」では、生涯にわたるスポーツをテーマとしてとらえ、子供から高齢者までの人生プラン的視点から授業を行う。現代の社会・生活構造の変化を踏まえて多様化するスポーツの諸相について概説する。主として生涯スポーツの意義と課題について理解する。

「企業広報活動論」では、企業広報活動の意義と課題について理解したうえで、具体的な地域活性の道を探り、自治体と企業に提案していけるような人材の養成を行っていく。「企業広報活動論」近年では、ソーシャルメディアの発達により、広報対応にも迅速性と、自社に直接関係しない人たちを含む社会全体とのコミュニケーション、エンゲージメントにより、幅広い信頼を得ることが求められるようになってきている。本講義では地域の企業・銀行等がどのような目的で、どのような過程を経て制作されるのかについて知り、その効果や問題、今後の課題について学修するとしており、ディプロマ・ポリシーの 3 番、理学療法および作業療法に関わる関連職種や多職種と連携・協調し、リハビリテーション専門職分野における新たなサービスの創造に向けて柔軟な発想を有し、意欲的に取り組む能力を身につけていることに精通すると考える。

社会的ニーズに関しては平成２８年３月中央教育審議会実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化に関する特別部会より報告された社会・経済の変化に伴う人材需要に即応した質の高い専門職業人養成のための新たな高等教育機関の制度化について（以下、審議経過報告）より、新たな機関は、技能と学問の双方を結びつけた教育を行う高等教育機関として、職業教育の高度化と魅力向上、産業・就業構造の転換や職業の盛衰等への対応、我が国産業競争力の強化と地方創生への貢献などを視野に入れつつ、求められる人材の養成を推進していくことが期待される。としており、リハビリテーション分野にも産業（経済）・就業構造の理解が重要だと考える。そこで「医療経済論」「産業保健論」「経済と会計」を配置した。　また、審議経過報告では新たな高等教育機関は、専門職業人の生産性

ポーツの観点から、地域スポーツ、ニュースポーツの創造、総合型地域スポーツクラブ、スポーツと環境問題、グローバル世界とスポーツについて取り上げ基礎的に理解を深める。
「ソーシャルスキル論」では、ソーシャルスキルとは社会の中で自立し主体的であるとともに、他の人との協調を保って生きるために必要とされる、生活上の能力である。地域の保健・医療・福祉・介護および行政等と連携協力することのできる人材養成を行う。加えて、その人らしく生活するためのヘルスケアサービスについても学修する。
「医療・福祉工学論」では、医療・福祉におけるシステムの実用化のためのシステム論、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術が必要不可欠であることを理解する。
「障害児教育論」では、障害児教育の現状を理解し、地域の健常な子どもから高齢者だけでなく、障害児から障害者までのあらゆるレベルの人たちの声を漏れなく傾聴していく姿勢を培っていき、専門職の知識・技術が活かせるようにする。
「地域連携研究」では、和歌山を中心とした地域の連携を「観光」「都市づくり」「海外交流」の面からどのような連携を行っており、どのような課題があるのかを探求していく。特に持続可能な街づくりを中心に各企業やその他の団体の連携を調べて研究することを学修する。
「アンチエイジング」では、世界有数の長寿国の日本は、余命だけでなく健康寿命が価値をもつ意味が大きく取り上げられる。加齢に伴う自らの身体の変化を理解するとともに他者の加齢変化に対する理解も重要となっている。そこで身体内部のミクロレベルの変化、地域、国レベルで見る環境を理解しながら、自ら積極的に健康を維持するために方策についての理解を深めることを目的とする。
各専攻の履修モデルに各5科目の選択展開科目を設定した。その特色と狙いについて説明する。
〔理学療法学専攻の履修モデルと選択展開科

向上、競争力強化に貢献することを役割としており、とりわけ、当該機関の教育においては、専門職業人のうちでも、その専門性をもって、企業等の現場レベルでの改善・革新を牽引していく層の養成・資質向上等に主な重点を置くこととなる。と発表しており、人を動かす牽引力が求められると考える。そこで「組織論」「コミュニケーション論」「ソーシャルスキル論」を配置した。 一方、厚生労働省においては、改革の基本コンセプトとして「地域共生社会」の実現を掲げ、「ニッポン一億総活躍プラン」（平成 28 年６月２日閣議決定）や、「『地域共生社会』の実現に向けて（当面の改革工程）」（平成 29 年２月７日　厚生労働省「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部決定）に基づいて、その具体化に向けた改革を進めており、１．地域課題の解決力の強化：生活に身近な地域において、住民が世代や背景を超えてつながり、相互に役割を持ち、「支え手」「受け手」という関係を超えて支え合う取組を育んでいく。これにより、我が国に暮らす国民一人ひとりが、生活における楽しみや生きがいを見出し、様々な困難を抱えた場合でも、社会から孤立せず、安心してその人らしい生活を送ることができる社会を実現することが望まれる。よって地域について学修する「地域活性企業論」「「地域福祉論」「地域防災論」「地方自治と生活」「地域連携研究」「ふるさと・紀州学」を配置した。また、同じく高齢者のみならず、生活上の困難を抱える障害者や子どもなどが地域において自立した生活を送ることができるよう、地域住民による支え合いと公的支援が連動し、地域を『丸ごと』支える包括的な支援体制を構築し、切れ目のない支援を実現していかなければならないと述べており、「健康」についての

目〕
理学療法学専攻の履修モデルは3コース、① 医療系理学療法履修モデル、② 健康スポーツ系理学療法履修モデル、③ 地域連携系理学療法履修モデル である。

① 医療系理学療法履修モデル

医療分野において理学療法士の必要性は更に高まっている。少子化超高齢化が進む一方で、医療が高度化し治療費が高額化する現在から将来を見据え、社会保障費の伸びをどのように抑制していくのか大きな社会問題となり国民的課題となっている。こうした社会情勢の中で、理学療法士が医療分野において、いかに対応していけば良いのか、医学の進歩に対応できるように関連領域の知見を学び、応用力と創造性に優れた理学療法学の発展が必要である。目指すのは、医療分野における、運動器、脳血管障害、神経・筋疾患、内部疾患（心臓・呼吸・循環・代謝）などの認定・専門理学療法士であり、あるいは、物理療法や徒手療法などの特殊テクニックのスペシャリストである。専門領域に特化して研究を推進していくこともできるようにその基礎的素養を身につける。

選択展開科目（5科目）：医療経済論、ソーシャルスキル論、支援ロボット論、医療・福祉工学論、アンチエイジング

これらの選択展開科目により、医療における経済学を理解し、医療・福祉分野におけるロボットの利用など関連する工学を学び、アンチエイジングを理解し、ソーシャルスキルを備えた理学療法士を目指す。

② 健康スポーツ系理学療法履修モデル

2020 年東京オリンピックで問題になったことのひとつに、日本には、現在、国際標準となっているロンドンやリオの各会場でも当たり前であった「救命救急のできるスポーツ理学療法士」が存在しないことである。法的には緊急時に手が出せず、医師、看護師、救命救急士の助けを借りなければならない現状がある。。新指定規則の中にようやく「救命救急及び予防の基礎」が位置づけられ、今後は国際標準スポーツ理学療法士を養成していくことが課題となっている。また、社会保険費の高騰の中で、そ学修が必要と考える。そこで「生涯スポーツ論」「健康支援学」「アンチエイジング」を配置した。最後に「支援ロボット論」であるが、　厚生労働省は、平成30年4月1日付けで老健局内に「介護ロボット開発・普及推進室」を設置するとともに、介護ロボットの開発・普及に関する専門家として老健局参与（介護ロボット担当）に9人を任命、さらには老健局参与（介護ロボット担当）の任命に当たっては、工学、介護・リハビリテーションのほか、産業調査、生産性向上の専門家を任命するとし、「ロボット技術の介護利用における重点分野」を発表した。内容はロボット介護機器の開発等により、自立支援等による高齢者等の生活の質の維持・向上と介護者の負担軽減の両方を実現することを目指すとしており、リハビリテーション、特に理学療法士分野におけるニーズは高いものと考え、配置した。

ディプロマポリシーで示した資質と能力を身に着けるべく、本学が特に重要視した4科目「組織論」「地域活性企業論」「ふるさと・紀州学」「健康支援学」を必修科目に設定した。4科目を必修科目にした理由は下記の通りである。

組織論における仕事の分担の仕方、協働の仕方を学び、そのなかで管理の重要性を理解し、具体的方法について学修する。特に強制的な管理方法と配慮型の管理方法について理解を深め、組織における応用力を高める授業であり、新たなサービスの創造に向けて柔軟な発想を有し、意欲的に取り組む能力の土台となるものである。

同じく、地域活性企業論は地域活性化で注目を集めた地域の取り組みと、そのなかで企業はどのようにして、その役割を果たしてきたかを学習する。地域の特性を十分理解したうえで、具体的な地域活性の道を探り、自治体と企業に提案していけるような人材の養

の対策として、いかに健康寿命を延伸していくかが問われている、そのための一次予防・二次予防・三次予防の充実が重要な課題となっている。一次予防において、いかにして健康を維持・増進し、心身の老化を遅らせるのか、子どもの健やかな発達を促進する、また働く世代における産業における保健や生涯にわたる身体運動・スポーツ継続の必要性も高まっており、自ら起業し経営に臨むことも含めて関連領域を巻き込んだ理学療法士の介入によりこの課題に取り組んでいけるように育成したい。障害児から障害者の健康・スポーツにも目を向け、傷害の予防・回復における理学療法の基礎を学修する。目指すのは、健康スポーツ分野における理学療法のスペシャリストであり、その基礎的素養を身につけることである。

選択展開科目（5 科目）: 経営と会計、ソーシャルスキル論、産業保健論、生涯スポーツ論、アンチエイジング

これらの選択展開科目により、企業経営や産業保健の知識を持ち、アンチエイジングと生涯の健康と運動・スポーツの専門的知識を持ち、ソーシャルスキルを備えた理学療法士を目指す。

③ 地域連携系理学療法履修モデル

地域においては、少子化・超高齢化など喫緊の問題に留まらず、気候変動の影響による災害とその規模の増大も含めて、子どもから老人まですべての人々の生活と疾病・障害・介護・福祉への対策が課題となっている、政府は、強力に地域包括支援システムを定着・発展させていこうとしている。地域における理学療法士は、地方行政をはじめ多職種・他部門の専門職と連携し、応用力と創造力をもって、不足している分野があれば補完してつないでいけるように課題に取り組む社会的要請がある。目指すのは、それらに応えて、乳児から高齢者まですべての人々の生活を守れるように、総合的に理学療法を活用できるゼネラリストへの基礎的素養を身につけることである。将来は、地域連携の隙間を埋める支援システム等の研究・開発が手がけられる創造力や応用力も期待される。

選択展開科目（5 科目）経営と会計、地方自治と生活、地域防災論、障害児教育論、地域連携

成を行いDP３の新たなサービスの創造に向けて柔軟な発想を有し、意欲的に取り組む能力と地域社会への貢献を視野に入れ、リハビリテーションの多様なニーズに応える探究心や研究心を身につけていることに対して企業を通じて学習する。

ふるさと・紀州学は健康・福祉・医療について地域が直面する問題を取り上げ、地域の理解を深める。地域創生を念頭に置き専門職として何ができるかを探る授業を展開する。授業内容はグループワークで課題解決に導けるように組み立て、地域社会の課題を明確にすることでリハビリテーションの多様なニーズを掘り起こし、地域貢献を視野に入れた探究心や研究心を養う。

健康支援学は健康に生活していくための支援の基礎知識として、生理学を中心に病気にならないための方法論を感染予防、疾病予防の観点から学ぶ。感染・疾病予防に関する体内外環境の重要性を概説した後、健康の維持・増進や廃用症候群について発症機序や身体機能に及ぼす影響を学び、健康維持や疾病予防に役立つ知見を深めることとしており、保健医療福祉分野の発展・向上に寄与する高度な専門知識・技能および実践力を養う。また建学の精神でもある「すべての人が「いつまでも　うつくしく輝いて　生きる」（Live Longer　Better）」に直結する授業である。

（1）理学療法学専攻 における展開科目を通じての育成する人物像

社会情勢がめまぐるしく変化し、厚生領域も複雑化していく中で、今後医療界においても職業の在り方や働き方も大きく様変わりしていく中、地域包括ケアシステムの構築、「健康日本 21」、高齢者の健康を損なう代表的な疾患（ガン、心疾患、COPD、脳卒中、糖尿病など）の発症予防や重症化予防の徹底化を目標として中短期、長期計画を実施している。人々が多く集うタウンを創出するためには、医療・福祉の充実も含めた厚生面インフラの整備が大切であることから、理学療法士が一躍を担う科目と

研究
これらの選択展開科目を学ぶことにより、医療関係機関・施設の中だけでなく、今後、益々変化していく、社会情勢の変化や医療・介護保健制度の改定も視野に入れて、地域福祉・環境保全と言った地域の具体的、現実的な課題や、将来発生すると予測される災害に対する地域特有の課題やその対策についても把握していくことができる人材が地域で求められている。また、これまで積極的に社会参加できなかった障害を抱えた子どもや高齢者も参加できる共生社会を構築していくために必要不可欠な知識として、他職種と適切な共通言語で情報を共有できる知識を蓄え、新しいツールを開発・研究していくことができる人材の育成を目指す。
〔作業療法学専攻の履修モデルと選択展開科目〕
作業療法学専攻の履修モデルは4コース、① 医療系作業療法（身体機能支援）履修モデル、② 医療系作業療法（認知・行為支援）履修モデル、③ 社会生活系作業療法履修モデル、④ 地域連携系作業療法モデルの 4 つを掲げている。
① 医療系作業療法（身体機能支援）履修モデル
医療から健康・医療課題を捉え、疾病・障害を予防し、心身機能および社会生活活動の支援やその分野の探求心や研究心を養うモデルとして掲げている。このモデルでは主に身体機能の支援を中心に履修する科目を設定している。
選択展開科目（5 科目）では、医療的な経済視点を得るために医療経済論、サービス提供のための社会スキルを学ぶソーシャルスキル論、工学的な支援を学ぶ医用・福祉工学、支援ロボット論を、老化に対する支援を検討するアンチエイジングを学ぶ。
以上の学びから作業療法を発展させていくために作業療法専門職連携総合演習Ａで専門職との連携を学び、地域への貢献方法を模索する。
② 医療系作業療法（認知・行為支援）履修モデル
医療から健康・医療課題を捉え、疾病・障害を予防し、心身機能および社会生活活動の支援やして設置している。

展開科目の編成は重要視した4科目「組織論」「地域活性企業論」「ふるさと・紀州学」「健康支援学」を必修科目に設定した。これは基礎展開科目として位置付けている。多職種連携に必要である「組織論」、地域社会に貢献するための授業として「地域活性企業論」、地域（和歌山）の活躍に必要な知識として「ふるさと・紀州学」、本校の建学の精神である健康について履修するための「健康支援学」を基盤として履修する。次に履修モデルの、基礎科学発展モデル、専門技術モデル、地域社会健康モデルより、それぞれの視野から創造的かつ応用的に取り組み、リハビリテーション学を発展させる、地域社会への貢献を視野に入れ、リハビリテーションの多様なニーズに応える力を養うように配置した。基礎科学発展モデルでは理学療法学・作業療法学の専門分野の技術に基づき、IT、AI 等の応用分野または、基礎科学いかした視点をもち、経済を学ぶことで企業等に発展できる能力を養うことで、企業や基礎科学からの視点を持つことが可能となる。専門技術モデルでは理学療法学・作業療法学の最新技術の基礎を修めた上に、技術の習熟度高めるとともに、応用力も高める。社会に出てからは学修したことに自信をもって、理学療法学・作業療法学においてリーダーシップをとれるような人材を育成するために設けたモデルであり、よりリハビリテーションの専門的な視点を持つことができる。地域社会健康コースでは地域の医療・福祉における健康増進に貢献できるように、地域との連携の仕組みや、健康増進に寄与するための学修等より、卒業後の具体的な仕事を指向していくために設けたモデルであり、地域に特化した視点を持つことが可能となる。
これら展開科目の配置により、ディプロマ・ポリシーの「創造的かつ応用的に取り組み、リハビリテーション学を発展させる」「地域社会への貢献を視野に入れ、リハビリテーションの多様なニーズに応える」に帰結できると考える。

その分野の探求心や研究心を養うモデルとして掲げている。このモデルでは主に認知機能や生活・社会行為の支援を中心に履修する科目を設定している。
選択展開科目（5 科目）では、サービス提供のための社会スキルを学ぶソーシャルスキル論、工学的な支援を学ぶ医用・福祉工学、支援ロボット論、社会生活での余暇活動を検討する生涯スポーツ論、老化に対する支援を検討するアンチエイジングを学ぶ。
以上の学びから作業療法を発展させていくために作業療法専門職連携総合演習Ａで専門職との連携を学び、地域への貢献方法を模索する。
③ 社会生活系作業療法履修モデル
保健医療福祉に関わる関連職種や多職種と連携・協調し、心身機能および社会生活活動の維持・回復・改善を促進し、地域社会へ貢献する探求心や研究心を養うモデルとして掲げている。
選択展開科目（5 科目）では、サービス提供のための社会スキルを学ぶソーシャルスキル論、地域生活での安全を検討する地域防災論、障害児の教育に関することを学べる障害児教育論、社会生活での余暇活動を検討する生涯スポーツ論、地域での連携を学ぶ地域連携研究を学ぶ。
以上の学びから作業療法を発展させていくために作業療法専門職連携総合演習Ｂで専門職との連携を学び、地域での社会生活への支援・貢献方法を模索する。
④ 地域連携系作業療法モデル
近年の急速な介護・医療制度改革により、医療・介護の流れが「施設」から「施設」への流れから「施設」から「地域」への流れに大きくシフトしてきている。それに伴って、医療関係機関の機能分化だけでなく、病床の機能分化までもが求められてきているため、病床・機関・施設・地域間など、より細かな連携をシームレスな関係で構築していかなければならない。このような、より細かな連携をシームレスな関係で構築いていくためには、学生の段階から本学で、他領域の専門職や他施設の職員と効果的な

図　展開科目 人材養成の構造
（理学療法学専攻）　【省略】

（2）作業療法学専攻における展開科目を通じての育成する人物像
社会情勢がめまぐるしく変化し、厚生領域も複雑化していく中で、今後医療界においても職業の在り方や働き方も大きく様変わりしていく中、地域包括ケアシステムの構築、「健康日本21」、高齢者の健康を損なう代表的な疾患（ガン、心疾患、COPD、脳卒中、糖尿病など）の発症予防や重症化予防の徹底化を目標として中短期、長期計画を実施している。人々が多く集うタウンを創出するためには、医療・福祉の充実も含めた厚生面インフラの整備が大切であることから、理学療法士が一躍を担う科目として設置している。

展開科目の編成は重要視した4科目「組織論」「地域活性企業論」「ふるさと・紀州学」「健康支援学」を必修科目に設定した。これは基礎展開科目として位置付けている。多職種連携に必要である「組織論」、地域社会に貢献するための授業として「地域活性企業論」、地域（和歌山）の活躍に必要な知識として「ふるさと・紀州学」、本校の建学の精神である健康について履修するための「健康支援学」を基盤として履修する。次に履修モデルの、基礎科学発展モデル、専門技術モデル、地域社会健康モデルより、それぞれの視野から創造的かつ応用的に取り組み、リハビリテーション学を発展させる、地域社会への貢献を視野に入れ、リハビリテーションの多様なニーズに応える力を養うように配置した。基礎科学発展モデルでは理学療法学・作業療法学の専門分野の技術に基づき、IT、AI 等の応用分野または、基礎科学いかした視点をもち、経済を学ぶことで企業等に発展できる能力を養うことで、企業や基礎科学からの視点を持つことが可能となる。専門技術モデルでは理学療法学・作業療法学の最新技術の基礎を修めた上に、技術の習熟度高めるとともに、応用力も高める。社会に出てからは学修したことに自信をもって、理学療法学・作業療法学にお

対人行動や社会的スキルを培っていく必要がある。さらに、作業療法士としての専門的な力である作業活動を通して学ぶ、自立生活支援に向けて取り組んでいくための知識に加えて、支援していく対象者の生活の場となる地域の自然的、社会的、人文的特徴を踏まえた地域の現状を把握していく必要がある。また、地域の健常な子どもから高齢者だけでなく、障害児から障害者までのあらゆるレベルの人たちの声を漏れなく傾聴していく姿勢を培っていくことで、作業療法士単独の視野だけでなく、支援に関わる専門職や地域が一丸となって、地域ぐるみの支援を目指したチームの牽引役に繋がっていく。

選択展開科目（5 科目）では、サービスの価格や事業の運営の基礎となる経営と会計、地方自治体が提供している住民サービス等を学ぶ地方自治と生活、保健活動を産業として捉える産業保健、障害児の教育に関することを学ぶ障害児教育論、地域での連携を学ぶ地域連携研究を学修する。

いてリーダーシップをとれるような人材を育成するために設けたモデルであり、よりリハビリテーションの専門的な視点を持つことができる。地域社会健康コースでは地域の医療・福祉における健康増進に貢献できるように、地域との連携の仕組みや、健康増進に寄与するための学修等より、卒業後の具体的な仕事を指向していくために設けたモデルであり、地域に特化した視点を持つことが可能となる。

これら展開科目の配置により、ディプロマ・ポリシーの「創造的かつ応用的に取り組み、リハビリテーション学を発展させる」「地域社会への貢献を視野に入れ、リハビリテーションの多様なニーズに応える」に帰結できると考える。

図　展開科目 人材養成の構造
（作業療法学専攻）【省略】

（3）理学・作業療法学専攻における展開科目の妥当性

理学療法士、作業療法士の職業人として学修しておかなければならない展開科目にかかる妥当性については、２職種間の相互理解と連携が非常に大切である。リハビリテーション専門職として関連する 2 職種間の相互理解と連携の必要性･重要性を理解するためには、授業を通して繋がる機会を持ち、共通知識とともに学生同士が他者との人間関係を構築することが重要であると考えた結果、両専攻の妥当性を視野に入れて展開科目を配置している。

学問領域の基礎が共通であることのメリットとしては、医療組織として仕事をする場合では、当然ながら上司や部下、他部門、そして同期同士などと情報共有しながら業務を進めていく必要がある。これらの接点は患者を中心とし、すべての部署で知識を共通して活用できれば、業務時間の短縮ができる。また、医療福祉関係資格（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、看護師、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士等）関連する職種間の相互理解のためにも、学問領域の基礎が共通であることを理解することが重要となる。展開科目も同様に 2 職

	種間の隣接他分野を学ぶことにより新たなアイデアや地域活性に役立つと考える。

（是正事項）健康科学部　リハビリテーション学科

８．＜「客観的臨床試験（ＯＳＣＥ）」の改善＞
客観的臨床試験（ＯＳＣＥ）について、以下の点を是正すること。

（１）作業療法評価学実習は２年前期にＯＳＣＥを学ぶ科目として配置されている一方、３年前期に配置された診療参加型臨床実習Ⅲでも実習前にＯＳＣＥを行うと説明されているため、本学におけるＯＳＣＥの扱い、考え方を明らかにすること。

（対応）

ご指摘にあったOSCEの扱いについて下記の通り考えをまとめる。

作業療法学専攻では、OSCEは実技試験とは異なり、作業療法評価の実施技能および評価から得られた情報の分析、介入方法を検討する専門知識と技能を総合的に確認する方法として捉えている。

そのため､作業療法評価を総合的に学ぶ2年次の作業療法評価学実習においてOSCEに関して理解を深めるように機会を設けている。

臨床実習は、学習者が体験を通して学ぶ内容や範囲を明確にするために、臨床参加型実習Ⅰを見学実習、臨床参加型実習Ⅱを体験実習、臨床体験型実習Ⅲを臨床評価実習、臨床参加型実習ⅣおよびⅤを臨床総合実習へと名称等を変更する。

OSCEにおいて作業療法の介入方法を検討する専門知識と技能を確認するために、3年次の臨床実習科目から4年次の臨床実習科目への実施の時期を変更し、4年次配当の総合臨床実習の前後において、OSCEを実施する予定である。臨床総合実習にて体験し得られた知識や技能を総合的に判定する機会として実施する予定である。

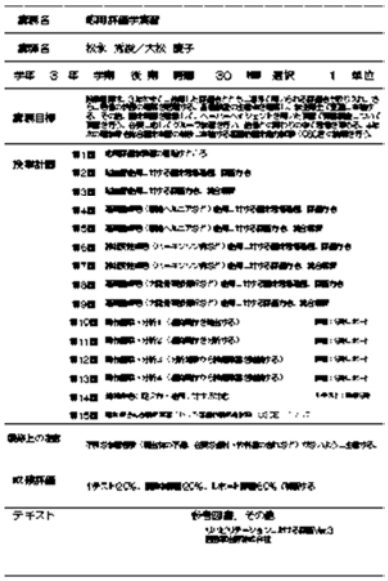
理学療法学専攻も同様にOSCEに関して理解を深める科目として2年次の理学療法評価学実習Ⅰ・Ⅱにて実施する。理学療法評価学実習Ⅰでは、脳血管疾患患者を中心とした基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位、歩行）の各動作において、理解を深める。 授業内容は、疾患別の寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位、歩行の観察、姿勢・動作・行為の観察視点と分析など特徴の理解を深め学習する。理学療法評価学実習Ⅱでは、整形外科疾患患者を中心とした基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位、歩行）の各動作において、理解を深める。 授業内容は、疾患別の寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位、歩行の観察、姿勢・動作・行為の観察視点と分析など特徴の理解を深め学習する。各授業の13～15回目にOSCE解説を設け、理解を深めるものとする。早期に実習及び臨床を意識することでより将来の目標に向けて学修意欲を高めるものと考える。なお、前回の申請では身体理学療法評価学Ⅲ、身体理学療法評価学Ⅳと表記していたが、今回のOSCE学習の授業内容を含めた為、学生が理解しやすいように理学療法評価学実習と名称を変更した。

なお、両専攻とも申請当初でOSCEは3年次の診療参加型臨床実習Ⅲ（評価実習）前と4年次の診療参加型臨床実習Ⅴ（総合臨床実習）後の2回行う予定であったが、4年次の臨床総合実習の前後2回で行うように変更した。理由については、3年次の評価実習で到達すべき水準と4年次の総合臨床実習で到達すべき水準に乖離があり、前後比較としてふさわしくないと

判断した結果である。

（新旧対照表）シラバス

新	旧
 シラバス　理学療法評価学実習Ⅰ	 シラバス　身体理学療法評価学Ⅲ
 シラバス　理学療法評価学実習Ⅱ	 シラバス　身体理学療法評価学Ⅳ



科目名　応用評価学演習

講師名　松永 秀俊／大松 重子

学年　3 年　学期　後 期　時間　30　時間　選択　1 単位

授業目標

授業計画

第1回
第2回
第3回
第4回
第5回
第6回
第7回
第8回
第9回
第10回
第11回
第12回
第13回
第14回
第15回

履修上の注意

成績評価

テキスト　参考図書、その他

シラバス　応用評価学演習



科目名　応用評価学演習

講師名　松永 秀俊／大松 重子

学年　3 年　学期　後 期　時間　30　時間　選択　1 単位

授業目標

授業計画

履修上の注意

成績評価

テキスト　参考図書、その他

シラバス　応用評価学演習

（是正事項）健康科学部　リハビリテーション学科

８．＜「客観的臨床試験（ＯＳＣＥ）」の改善＞
客観的臨床試験（ＯＳＣＥ）について、以下の点を是正すること。

（２）理学療法学専攻では、（１）記載の作業療法評価学実習に相当するような科目が配置されていないため、理学療法学専攻と作業療法学専攻でＯＳＣＥをどのような考え方で科目を配置したのか明らかにすること。

（対応）

本学のＯＳＣＥに対し、理学療法学専攻と作業療法学専攻でＯＳＣＥをどのような考え方で科目を配置したのか明らかにするため下記の通りまとめた。

ＯＳＣＥについて

ＯＳＣＥ（客観的臨床能力試験）は理学療法士、作業療法士の学生が模擬患者を対して、問診や評価、治療など行い客観的に臨床能力を図る目的で行っている。通常のペーパーテスト等による知識や理解力などの評価に加え、これまで評価が難しいとされていた態度や習慣などについても評価することが可能であり、本学では理学療法学専攻では理学療法総合臨床実習の前後、作業療法学専攻では作業療法総合臨床実習の前後で行う予定である。

ＯＳＣＥを学ぶ授業配置について

理学療法学専攻において作業療法評価学実習に相当するような科目が配置されていないため、ＯＳＣＥを学ぶ授業の配置が不十分であった。今回のご指摘いただいた内容を鑑み、理学療法学専攻においても作業療法学専攻と同様にＯＳＣＥを理解するための授業が必要と考え、下記の通り授業内容を訂正した。

本学では、ＯＳＣＥを実施する前に、授業科目としてＯＳＣＥを学ぶ機会を設けている。理学療法学専攻では、「理学療法評価学実習Ⅰ」の授業計画 13～15 回目に脳卒中片麻痺者に対する理学療法のＯＳＣＥを「理学療法評価学実習Ⅱ」の授業計画 13～15 回目に運動器疾患に対する理学療法のＯＳＣＥを、「応用評価学演習」の授業計画 15 回目に理学療法総合臨床実習における客観的臨床能試験（ＯＳＣＥ）について学ぶ機会を配置している。作業療法学専攻では「作業療法評価学実習」の 14 回目と 15 回目、「応用評価学演習」の授業計画 15 回目に作業療法総合臨床実習における客観的臨床能試験（ＯＳＣＥ）について学ぶ機会を配置している。

これにより、理学療法学専攻、作業療法学専攻とも同様の授業内容となる。

理学療法学専攻と作業療法学専攻でＯＳＣＥの考え方

本学は実習前後の評価としてＯＳＣＥの実施を必須としている。ＯＳＣＥを選択した理由は教育評価が難しいとされる情意領域に対しての客観的評価が可能となる点である。ＯＳＣＥの実施時間位については、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則の臨床実習の備考に「臨

床実習前の評価及び臨床実習後の評価を含む」という文言が明記され、これに則り本学も総合臨床実習の実習時間で実施する。実習前ＯＳＣＥと実習後ＯＳＣＥの役割は下記に示す。

①実習前ＯＳＣＥの役割

「臨床実習前の評価」として、学生が臨床実習に参加するうえで、相応しい知識、能力を有しているかを判定する診断的評価に位置付ける。

②実習後ＯＳＣＥの役割

実習で学んだ総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを判定する総括的評価に位置付ける。

なお、両専攻ともＯＳＣＥ方法（複数のステーションが配置され、各ステーションにて課題が設定されます。各課題ごとに標準模擬患者が設定され、受験者はステーションを巡り、受験）は同様である。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（91 ページ～92 ページ）

新	旧
Ⅶ. 成績評価体制及び単位認定方法 1）臨床実習報告書 （略） また本学では、実習評価は、出席表ならびに評価表を加味し、また、実習の評価結果は，出席表と臨床実習報告書，に基づき各学生が学んだ領域での客観的臨床能試験（Objective Structured Clinical Examination， OSCE）を 4 年次の理学・作業療法総合臨床実習前後 2 回実施し、学習効果判定を行う．その評価結果につきましては担当施設にご連絡するとしており、より学習効果を明確にできるよう配慮している。	**Ⅶ. 成績評価体制及び単位認定方法** 1）臨床実習報告書 （略） また本学では「実習評価は，出席表ならびに評価表を加味し，また，実習の評価結果は，出席表と臨床実習報告書，に基づき各学生が学んだ領域での客観的臨床能試験（Objective Structured Clinical Examination， OSCE）を診療参加型実習Ⅲの前に OSCE、診療参加型実習Ⅴ実習後に最終 OSCE の系 2 回実施し、学習効果判定を行う．その評価結果につきましては担当施設にご連絡します.」としており、より学習効果を明確にできるよう配慮している。

新旧対照表）シラバス

新	旧
	
シラバス　理学療法評価学実習Ⅰ	シラバス　身体理学療法評価学Ⅲ
	
シラバス　理学療法評価学実習Ⅱ	シラバス　身体理学療法評価学Ⅳ



シラバス　応用評価学演習



シラバス　応用評価学演習

（是正事項）健康科学部　リハビリテーション学科

８．＜「客観的臨床試験（ＯＳＣＥ)」の改善＞
客観的臨床試験（ＯＳＣＥ）について、以下の点を是正すること。

（3）「実習前ＯＳＣＥ」の検査測定の患者役は「受験者の後輩（２年生)」とされ、「終了後ＯＳＣＥ」の患者役については明示がないが、当該試験においては、患者役が重要な役割を担うため、「患者設定」の役割を適切に担える者を配置すること。

（対応）

ご指摘のあった通り、患者役に「受験者の後輩（2 年生)」を配置する計画していたため、考えを改め、下記の通り変更した。

実習前 OSCE の患者役に「受験者の後輩（2 年生)」を選択した理由としては、翌年に受けるであろう OSCE に参加することで、緊張感や必死さが伝わり、学術的・技術的な学習の必要さを肌で感じてもらうために実施している。既存の専門学校では、実施後の 2 年生に意見を伺うと「とても良い経験をした」「もっと勉強しなければ OSCE に合格することができない」等、患者と接触する前の知識や技術の必要性や目標を目の当たりにする良い機会として捉えていた。

しかしながら、OSCE とは「Objective Structured Clinical Examination」の頭文字を取ったもので、ペーパーテストによる知識重視の教育ではなく、判断力・技術力・マナーなど実際の現場で必要とされる臨床技能の習得を、適正に評価する方法である。学内で学ぶ技術内容の到達度や評価基準を明確にし、認知・精神運動・情意領域を含む教育方法と客観的な評価方法のシステム化を目的としているため、患者役は再現性のある役割が必要である。

また専門学校ではなく、専門職大学であることから、より明確な評価方法が求められることを鑑み、実習前 OSCE 及び実習後 OSCE の患者役は事前に打ち合わせを行った実務家専任教員が行うよう訂正した。理学療法学専攻の OSCE の患者役として、作業療法士の実務家専任教員を配置し、反対に作業療法学専攻の OSCE では理学療法士の実務家専任教員を配置する。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（93 ページ）

新	旧
p 87 ii　課題内容 教員は「患者名」「患者年齢」「診断名」「病期」「問題点（動作)」を伝える 学生は 5 分問診、15 分動作観察、評価、5 分	ii　課題内容 教員は「患者名」「患者年齢」「診断名」「病期」「問題点（動作)」を伝える 学生は 5 分問診、15 分動作観察、評価、5 分

問題点についてディスカッションの時間配置において実施する。 ①運動器リハビリテーション 課題 ｉ　患者設定（4 パターン） 2）客観的臨床能試験 ● **客観的臨床能力試験 Objective Structured Clinical Examination（OSCE）** １．ステーション数と課題 ステーション数は下記の 2 か所とする。 ②脳血管障害リハビリテーション 課題 ｉ　患者設定（90 パターン） ii　課題内容 教員は「患者名」「患者年齢」「診断名」「病期」「問題点（動作)」を伝える 学生は 5 分問診、15 分動作観察、評価、5 分問題点についてディスカッションの時間配置において実施する。 患者役は理学療法学専攻学生の場合は作業療法学専攻の専任教員、作業療法学専攻学生の場合は理学療法学専攻の専任教員が務める。	問題点についてディスカッションの時間配置において実施する。 ①運動器リハビリテーション 課題 ｉ　患者設定（4 パターン） 2）客観的臨床能試験 ● **客観的臨床能力試験 Objective Structured Clinical Examination（OSCE）** １．ステーション数と課題 ステーション数は下記の 2 か所とする。 ②脳血管障害リハビリテーション 課題 ｉ　患者設定（90 パターン） ii　課題内容 教員は「患者名」「患者年齢」「診断名」「病期」「問題点（動作)」を伝える 学生は 5 分問診、15 分動作観察、評価、5 分問題点についてディスカッションの時間配置において実施する。 （追加）

（是正事項）健康科学部　リハビリテーション学科

9．＜科目名称と科目内容が不整合＞
診療参加型臨床実習Ⅰ～Ⅴのシラバスを確認すると、見学実習が主たる内容であり、特に、診療参加型臨床実習Ⅰは開講時期が1年前期であり、大学で十分な教育を受けていない者がどのように診療に参加するのかも不明である。科目名称と科目内容が不整合となっているため適切に改めること。

（対応）

診療参加型臨床実習Ⅰ～Ⅴの名称を下記の名称に改めるとともに名称と講義目標とが整合性のあるものに修正した。

・診療参加型臨床実習Ⅰを理学療法見学実習に変更

医療人としての接遇・態度を身につけること、そして理学療法の対象となる人や疾患像を明確にすること、理学療法における施設特性を理解することである。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』レベルにおいて、理学療法過程を見学する。また、その施設の関連職種の業務や患者・利用者への関わり方の違いやチームアプローチについて理解する。その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。

・診療参加型臨床実習Ⅱを理学療法体験実習に変更

医療人としての接遇・態度を身につけること、そして理学療法の対象となる人や疾患像に対する理学療法士の関わりを説明できること、理学療法が展開される施設特性を理解できることである。臨床実習指導者の指導の下で、『見学』と対象者との会話等においての『体験』を行う。チームの一員として理学療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。その内の1週間は、通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションにおいて行う（1単位）。

・診療参加型臨床実習Ⅲを理学療法評価実習に変更

学内で学んだ理学療法評価とその考え方をベースにし、理学療法における臨床思考過程を学ぶ。特に、理学療法評価における目標設定や治療プログラムの立案にあたっては、臨床実習指導者の思考過程を具体的に提示してもらい理解を進める。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として理学療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。

・診療参加型臨床実習Ⅳ・Ⅴを理学療法総合臨床実習（16単位）に変更

8週間2ヵ所の臨実習施設において総合臨床実習を行う。これまでの実習を踏まえた理学療法の臨床思考過程と実践方法を診療チームの一員として学ぶ。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として一部理学療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（12 ページ、20 ページ、54 ページ）

新	旧
p 12 2）臨地実習における相違 ① 到達目標 ○専門職大学（各専攻ごと） 総合臨床実習：これまでに学内外で学んだ知識・技術を基に、理学療法の過程を臨床実習指導者のもと『見学』、『協同参加』、『監視』レベルで実施します．このなかで，学生個人のレベルに合わせて理学療法過程を臨床実習指導者の助言・指導のもとに経験を積むことを目標とします。経験すべき項目はチェックシートに記載の項目となる。	2）臨地実習における相違 ① 到達目標 ○専門職大学（各専攻ごと） 臨床総合実習：これまでに学内外で学んだ知識・技術を基に、理学療法の過程を臨床実習指導者のもと『見学』、『協同参加』、『監視』レベルで実施します．このなかで，学生個人のレベルに合わせて理学療法過程を臨床実習指導者の助言・指導のもとに経験を積むことを目標とします。経験すべき項目はチェックシートに記載の項目となる。
p 20 **2．高度な専門知識・技能を習得する専門教育** **【理学療法学専攻】** （略） 「臨床実習」では社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力・実践能力を身につけ、各障害、各病期、各年齢層を偏りなく対応できる能力を培う。また、段階的にチームの一員として連携の方法を習得し、責任と自覚を培うよう、理学療法見学実習、理学療法体験実習、理学療法評価実習、理学療法総合臨床実習を設置した。	**2．高度な専門知識・技能を習得する専門教育** **【理学療法学専攻】** （略） 「臨床実習」では社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力・実践能力を身につけ、各障害、各病期、各年齢層を偏りなく対応できる能力を培う。また、チームの一員として連携の方法を習得し、責任と自覚を培うよう、診療参加型臨床実習Ⅰ～Ⅴを設置した。
【作業療法学専攻】 「臨床実習」はでは社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力・実践能力を身につけ、各障害、各病期、各年齢層を偏りなく対応できる能力を培う。また、チームの一員として連携の方法を習得し、責任と自覚を培うよう、作業療法見学実習、作業療法体験実習、作業療法評価実習、作業療法総合臨床実習を設置した。	**【作業療法学専攻】** 「臨床実習」では社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力・実践能力を身につけ、各障害、各病期、各年齢層を偏りなく対応できる能力を培う。また、チームの一員として連携の方法を習得し、責任と自覚を培うよう、診療参加型臨床実習Ⅰ～Ⅴを設置した。
p 54 **Ⅱ．履修指導方法**	**Ⅱ．履修指導方法**

2. 臨床実習前ガイダンスの実施 １年次に「理学療法見学実習」「作業療法見学実習」、２年次に「理学療法体験実習」「作業療法体験実習」、３年次に「理学療法評価実習」「作業療法評価実習」、４年次に「理学療法総合臨床実習」「作業療法総合臨床実習」を実施する。臨床実習前に必ずガイダンスを行う。ガイダンスでは実習要項を参照し、本学の理念、各年次の実習方法と心構え、成績評価方法、事故の対処法や感染予防、個人情報の取り扱いについて説明や指導を行う。	**2. 臨床実習前ガイダンスの実施** １年次に「診療参加型臨床実習Ⅰ」、２年次に「診療参加型臨床実習Ⅰ」、３年次に「診療参加型臨床実習Ⅲ」、４年次に「診療参加型臨床実習Ⅳ」、「診療参加型臨床実習Ⅴ」を実施する。臨床実習前に必ずガイダンスを行う。ガイダンスでは実習要項を参照し、本学の理念、各年次の実習方法と心構え、成績評価方法、事故の対処法や感染予防、個人情報の取り扱いについて説明や指導を行う。

（新旧対照表）教育課程等の授業概要

新	旧
 理学療法学専攻授業概要	 理学療法学専攻授業概要
 作業療法学専攻授業概要	 作業療法学専攻授業概要

（新旧対照表）授業科目の概要

新	旧



臨床実習	理学療法見学実習	授業目標は医学人としての倫理・態度を身につけること、そして理学療法の対象となる人や疾患像を明確にすること、理学療法における障害特性を理解することである。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』レベルにおいて、理学療法過程を見学する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。
	理学療法体験実習	医学人としての倫理・態度を身につけること、そして理学療法の対象となる人や疾患像に対する理学療法士の関わりを説明できること、理学療法が展開される障害特性を理解できることである。臨床実習指導者の指導の下で、『見学』と対象者との会話等においての『体験』を行う。チームの一員として理学療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。その内の1週間は、連携リハビリテーション又は訪問リハビリテーションにおいて行う（1単位）。
	理学療法評価実習	学内で学んだ各種理学療法評価とその考え方をベースにし、理学療法における臨床思考過程を学ぶこととする。特に、理学療法評価後の目標設定や治療プログラムの立案にあたっては臨床実習指導者の思考過程を具体的に提示してもらうなかで理解を進める。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として理学療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。
	理学療法総合臨床実習	3週間2ヶ所の臨床実習施設において総合臨床実習を行う。これまでの実習を踏まえた理学療法の臨床思考過程と実践方法を指導チームの一員として学ぶこととする。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として一部理学療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。

理学療法学専攻　授業科目の概要



臨床実習	作業療法見学実習	授業目標は医学人としての倫理・態度を身につけること、そして臨床における見学を通して、作業療法の対象となる人や疾患像を明確にすること、作業療法における施設特性、作業療法の役割を理解することである。 実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』レベルにおいて、チームの一員として作業療法過程を見学する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。
	作業療法体験実習	医学人としての倫理・態度を身につけること、そして臨床での見学や体験を通して、作業療法の対象となる人や疾患像に対する作業療法士の関わりを説明できること、作業療法が展開される施設特性と提供される作業療法の内容を理解できることである。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『体験』のレベルにおいて、チームの一員として作業療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。その内の1週間は、連携リハビリテーション又は訪問リハビリテーションにおいて行う（1単位）。
	作業療法評価実習	学内で学んだ各種作業療法評価とその考え方をベースにし、臨床での作業療法評価の理解を通して、作業療法における臨床思考過程を学ぶこととする。特に、作業療法評価後の目標設定や治療プログラムの立案にあたっては臨床実習指導者の思考過程を具体的に提示してもらう理解を進める。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として作業療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。
	作業療法総合臨床実習	3週間の臨床実習施設2ヶ所での作業療法実習の体験を通して、これまでの実習を踏まえた作業療法の臨床思考過程と実践方法を指導チームの一員として学ぶこととする。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として一部作業療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。

作業療法学専攻　授業科目の概要



臨床実習	診療参加型臨床実習Ⅰ	授業目標は医療人としての倫理・態度を身につけること、そして理学療法の対象となる人や疾患像を明確にすること、理学療法における障害特性を理解することである。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』のレベルにおいて、チームの一員として理学療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。
	診療参加型臨床実習Ⅱ	医療人としての倫理・態度を身につけること、そして理学療法の対象となる人や疾患像に対する理学療法士の関わりを説明できること、理学療法が展開される障害特性を理解できることである。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』のレベルにおいて、チームの一員として理学療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。
	診療参加型臨床実習Ⅲ	学内で学んだ各種理学療法評価とその考え方をベースにし、理学療法における臨床思考過程を学ぶこととする。特に、理学療法評価後の目標設定や治療プログラムの立案にあたっては臨床実習指導者の思考過程を具体的に提示してもらうなかで理解を進める。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』のレベルにおいて、チームの一員として理学療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。
	診療参加型臨床実習Ⅳ	これまでの実習を踏まえた理学療法の臨床思考過程と実践方法を指導チームの一員として学ぶこととする。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』のレベルにおいて、チームの一員として一部理学療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。
	診療参加型臨床実習Ⅴ	これまでの実習を踏まえた理学療法の臨床思考過程と実践方法を指導チームの一員として学ぶこととする。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』のレベルにおいて、チームの一員として理学療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。

理学療法学専攻　授業科目の概要



臨床実習	診療参加型臨床実習Ⅰ	授業目標は医療人としての倫理・態度を身につけること、そして作業療法の対象となる人や疾患像を明確にすること、作業療法における障害特性を理解することである。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』のレベルにおいて、チームの一員として作業療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。
	診療参加型臨床実習Ⅱ	医療人としての倫理・態度を身につけること、そして作業療法の対象となる人や疾患像に対する作業療法士の関わりを説明できること、作業療法が展開される障害特性や作業を理解できることである。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』のレベルにおいて、チームの一員として作業療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。
	診療参加型臨床実習Ⅲ	学内で学んだ各種作業療法評価とその考え方をベースにし、作業療法における臨床思考過程を学ぶこととする。特に、作業療法評価後の目標設定や治療プログラムの立案にあたっては臨床実習指導者の思考過程を具体的に提示してもらうなかで理解を進める。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』のレベルにおいて、チームの一員として作業療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。
	診療参加型臨床実習Ⅳ	これまでの実習を踏まえた作業療法の臨床思考過程と実践方法を指導チームの一員として学ぶこととする。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』のレベルにおいて、チームの一員として一部作業療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。
	診療参加型臨床実習Ⅴ	これまでの実習を踏まえた作業療法の臨床思考過程と実践方法を指導チームの一員として学ぶこととする。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』のレベルにおいて、チームの一員として作業療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。

作業療法学専攻　授業科目の概要

（是正事項）健康科学部　リハビリテーション学科

１０．＜単位の実質化＞
卒業要件単位数を１４３単位以上と設定しているが、単位当たりの学習時間を確保し、学生が十分な教育効果をあげることができるよう、１年間に履修できる単位の上限数を定めたり、養成する人材像に照らし、学生負担を考慮しながら教育課程を適切に見直すこと。

（対応）

ご指摘の通り、卒業要件単位数を 143 単位以上と設定していた。4 年間の卒業に必要な総時間数は、理学療法学専攻 4,065 時間、作業療法学専攻 4,380 時間となっており、各年次の単位数、時間数もバラツキが大きくなっていた。また、1 年間に履修できる単位の上限数、すなわち CAP 制については、明記されていなかった。これらについての見直しを行った。

専攻ごとの人材像とディプロマ・ポリシー（DP）を設定し、DP を見据えたカリキュラム･ポリシー（CP）に改めた。人材像、DP 及び CP に整合する教育課程に見直すにあたり、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守しつつ、適切に単位当たりの学習時間を確保し、学生が十分な教育効果をあげることができるように学生負担を考慮しながら教育課程を再編成した。その結果、卒業要件単位数を両専攻とも 137 単位とし、CP に整合するように科目の重み付けを考慮して、単位と時間数を設定した。これにより両専攻とも卒業に必要な総時間数を 3,930 時間に減らすことができた。各専攻の単位数、時間数等については、申請時と今回補正による違いを比較できるように表（資料 10-1）を作成したので添付する。また、科目の変更等については新旧対照表（資料 10-2）に示し添付する。

また、無理なく 1 年間に履修できる単位の上限数を「設置の趣旨等を記載した書類」第 6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件、Ⅲ．成績評価 3. 成績の評価における GPA 制度に関連付けた CAP 制を追加し明記した。

CAP 制は、単位制度を実質化（1 単位当たり必要な 45 時間の学修時間を確保）し、学修すべき授業科目を精選することで十分な学修時間を確保し、授業内容を深く真に身につけることを目的として、学生が履修科目として登録することができる単位数の上限を定め、各年次にわたって適切に授業科目を履修してもらうためのものである。なお、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、単位数の上限を超えて履修登録を認め、また、成績の状況が十分でない学生については、逆に、履修登録の単位数の上限を制限することとなる。

履修登録単位数の上限設定については、次のとおり取り扱う。

1. 各学期の履修登録単位数の上限を 25 単位とする。

ただし、当該学期の直前の学期の GPA に基づき、次のとおり単位数の上限を変更して取り扱う。

（1）直前の学期の GPA が 3.0 以上の者　　29 単位
（2）直前の学期の GPA が 2.5 以上 3.0 未満の者　　27 単位
（3）直前の学期の GPA が 1.5 以上 2.5 未満の者　　25 単位
（4）直前の学期の GPA が 1.5 未満の者　　23 単位

2. 休学や病気欠席等のやむを得ない事由により、その学期のすべての授業科目を履修できなかった者の履修登録単位数の上限は、上記 1. (4) にかかわらず、25 単位とする。

3. に掲げる科目は、CAP 制に含まないものとする。

① 集中講義による授業科目

② 再試験登録科目

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（15、19、25、29、55 ページ）

新	旧
p 15 3) 大学において授業科目の到達目標や教育水準等の設定における相違 既存の専門学校では、各科目に対し「成績評価は 80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 69 点未満を可とする。60 点未満は不可として不合格とする。なお、不合格となった者は再試験を受けることができる。」としており、各科目の定期末試験やレポート課題を点数化し、成績を付けていた。 本学では、各科目の成績を出すだけでなく、成績評価に応じて下記の通りポイント（4.0～0.0pt）で表し、平均値で表すGPA（Grade Point Average）制度、CAP制を導入する。この GPA 制度、CAP制を導入することで、ただ単に進学や卒業に必要な単位を取得するのではなく、学生の「自己決定・自己責任の元での修学」を促すことができ、成績へのモチベーションとして期待される。また科目に対しても重要な科目に対する学修動機づけという大きなメリットが期待でき、学生が主体的かつ充実した学習効果をあげることが可能となる。各授業科目の成績評価は、S（100 点～90 点以上）、A（90 点未満～80 点以上）、B（80 点未満～70 点以上）、C（70 点未満～60 点以上）、D（59 点以下）の５つの分類をもって表し、C 以上を合格とする。また、CAP制は、単位制度を実質化（1単位当たり必要な45時間の学修時間を確保）し、学修すべき授業科目を精選することで十分な学修時間を確保	3) 大学において授業科目の到達目標や教育水準等の設定における相違 既存の専門学校では、各科目に対し「成績評価は 80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 69 点未満を可とする。60 点未満は不可として不合格とする。なお、不合格となった者は再試験を受けることができる。」としており、各科目の定期末試験やレポート課題を点数化し、成績を付けていた。 本学では、各科目の成績を出すだけでなく、成績評価に応じて下記の通りポイント（4.0～0.0pt）で表し、平均値で表すGPA（Grade Point Average）制度を導入する。この GPA 制度を導入することで、ただ単に進学や卒業に必要な単位を取得するのではなく、学生の「自己決定・自己責任の元での修学」を促すことができ、成績へのモチベーションとして期待される。また科目に対しても重要な科目に対する学修動機づけという大きなメリットが期待でき、学生が主体的かつ充実した学習効果をあげることが可能となる。各授業科目の成績評価は、S（100 点～90 点以上）、A（90 点未満～80 点以上）、B（80 点未満～70 点以上）、C（70 点未満～60 点以上）、D（59 点以下）の５つの分類をもって表し、C 以上を合格とする。また、授業への出席に関する取り扱いについてであるが、学生が履修した当該授業科目の単位の認定を受けるためには、授業時間数の70%の出席を原則とし、オ

し、授業内容を深く真に身につけることを目的として、学生が履修科目として登録することができる単位数の上限を定め、各年次にわたって適切に授業科目を履修してもらうためのものである。なお、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、単位数の上限を超えて履修登録を認め、また、成績の状況が十分でない学生については、逆に、履修登録の単位数の上限を制限することとなる。このことは、オリエンテーションや授業初回時のガイダンス、学生便覧等において、学生にその考え方を明確に伝え、理解させることとする。GPA は学生の履修状況を見る指標にもなるため、未履修科目が多い学生への履修指導にも利用していく予定であり、より教育内容を重視し、質・量ともに学位授与に資する内容としている。	リエンテーションや授業初回時のガイダンス、学生便覧等において、学生にその考え方を明確に伝え、理解させることとする。GPA は学生の履修状況を見る指標にもなるため、未履修科目が多い学生への履修指導にも利用していく予定であり、より教育内容を重視し、質・量ともに学位授与に資する内容としている。
p 16 4）和歌山リハビリテーション専門職大学誕生へ これに対して本学の専門職大学は、社会情勢がめまぐるしく変化し、課題も複雑化していく中で、今後、職業の在り方や働き方も大きく様変わりすることが想像でき、我が国が、成長・発展を持続していくためには、優れた専門技能等をもって、新たな価値を創造することができる専門職業人材の養成を目的としている。本学の建学精神である「Live Longer Better」（全ての人が活き活きと美しく輝いて生きる）ことを具現化するために、本学の定めた卒業認定に必要な所定の単位を取得し、医療人に求められる次の能力を身につけた学生に「学士」の称号を授与し、国の内外において急速に進む多様化、複雑化等、時代の一歩先を視野に入れ、これからの社会に真に貢献できるリハビリテーション専門の職業人を養成し、人々の健康寿命延伸に寄与することが目的である。 地域社会の課題や多様なニーズに応えていくため、これまでの和歌山国際厚生学院における専	4）和歌山リハビリテーション専門職大学誕生へ これに対して本学の専門職大学は、社会情勢がめまぐるしく変化し、課題も複雑化していく中で、今後、職業の在り方や働き方も大きく様変わりすることが想像でき、我が国が、成長・発展を持続していくためには、優れた専門技能等をもって、新たな価値を創造することができる専門職業人材の養成を目的としている。本学の建学精神である「Live Longer Better」（全ての人が活き活きと美しく輝いて生きる）ことを具現化するために、本学の定めた卒業認定に必要な所定の単位を取得し、医療人に求められる次の能力を身につけた学生に「学士」の称号を授与し、国の内外において急速に進む多様化、複雑化等、時代の一歩先を視野に入れ、これからの社会に真に貢献できるリハビリテーション専門の職業人を養成し、人々の健康寿命延伸に寄与することが目的である。 地域社会の課題や多様なニーズに応えていくため、これまでの和歌山国際厚生学院における専

門職養成における教育課程を発展的に改訂し、産業界及び地域社会と連携しつつ、体系的に教育課程を編成する。また、専攻に係る職業を取り巻く状況を 踏まえて必要な授業科目を設定し、当該職業の動向に即した教育課程の配置を行う。授業科目は、厚生労働省理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則において、国家試験受験資格に必要な科目に加え、専門職大学の授業科目である「展開科目」と、「総合科目」を配置した。卒業要件は、理学療法学専攻、作業療法学専攻共に137単位で編成している。	門職養成における教育課程を発展的に改訂し、産業界及び地域社会と連携しつつ、体系的に教育課程を編成する。また、専攻に係る職業を取り巻く状況を 踏まえて必要な授業科目を設定し、当該職業の動向に即した教育課程の配置を行う。授業科目は、厚生労働省理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則において、国家試験受験資格に必要な科目に加え、専門職大学の授業科目である「展開科目」と、「総合科目」を配置した。卒業要件は、理学療法学専攻、作業療法学専攻共に139単位で編成しており、既設の和歌山国際厚生学院と4単位多く設定し、より良い教育課程編成としている。
p 19 第２　学科・専攻の特色 本学では、臨床実習科目を 4 科目配置し総単位数は 23 単位（厚生労働省理学療法士作業療法士養成施設指定規則　理学療法士 20 単位、作業療法士 22 単位）である。また世界作業療法士連盟教育最低基準（Minimum Standard of Education）は「field work」を 1,000 時間と定めているが、本学の臨床実習総時間数は、1,035 時間であり、この基準を満たしている。	第2　学科・専攻の特色 本学では、臨床実習科目を５科目配置し総単位数は２４単位（厚生労働省理学療法士作業療法士養成施設指定規則18単位）である。また世界作業療法士連盟教育最低基準（Minimum Standard of Education）は「field work」を1,000時間と定めているが、本学の臨床実習総時間数は、1,080時間であり、この基準を満たしている。
p 25 **Ⅲ．卒業認定と学位授与の方針** 1．本学に４年以上在学し、所定の 137 単位以上を修得しなければならない。 【理学療法学専攻】 卒業に必要な単位数は、以下のように定める。基礎科目は「科学的思考の基礎」「人間と生活」「社会の理解」の必修科目 17 単位、選択科目 10 単位中 3 単位以上選択、合計 20 単位以上修得すること。職業専門科目は両専攻共通で中項目「専門基礎科目」に「人体の構造と機能及び心身の発達」「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」の 3 つの項目、中項目「専門科目（理学療	**Ⅲ．卒業認定と学位授与の方針** 1．本学に４年以上在学し、所定の 143 単位以上を修得しなければならない。 【理学療法学専攻】 基礎科目　「国際情報」「人間発達学」「自然科学」「人文科学」「情報の探求」の 22 科目 25 単位から必修 18 単位を含め 21 単位以上、基礎科目の選択科目 8 単位中 3 単位選択する。職業専門科目より、専攻共通の「人体の構造と機能及び心身の発達」は 11 科目から必修 13 単位を修得する。「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」は 13 科目から必修 14 単位を習得する。「保

法学専攻)」に「基礎理学療法学」「理学療法管理学」「理学療法評価学」「理学療法治療法」「地域理学療法学」「臨床実習」の 6 つの項目、必修科目 87 単位、選択科目 13 単位中 5 単位以上選択、合計 92 単位以上修得すること。展開科目は必修科目 10 単位、選択科目 24 単位中 10 単位以上選択し、合計 20 単位以上修得すること。総合科目は必修科目 4 単位、選択科目 3 単位中 1 単位以上選択し、合計 5 単位習得しなければならない。 【作業療法学専攻】 卒業に必要な単位数は、以下のように定める。基礎科目は「科学的思考の基礎」「人間と生活」「社会の理解」の必修科目 17 単位、選択科目 10 単位中 3 単位以上選択、合計 20 単位以上修得すること。職業専門科目は両専攻共通で中項目「専門基礎科目」に「人体の構造と機能及び心身の発達」「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」の 3 つの項目、中項目「専門科目（作業療法学専攻)」に「基礎作業療法学」「作業療法管理学」「作業療法評価学」「作業療法治療法」「地域作業療法学」「臨床実習」の 6 つの項目であり、必修科目 87 単位、選択科目 13 単位中 5 単位以上選択、合計 92 単位以上修得すること。展開科目は必修科目 10 単位、選択科目 24 単位中 10 単位以上選択し、合計 20 単位以上修得すること。総合科目は必修科目 4 単位、選択科目 3 単位中 1 単位以上選択し、合計 5 単位習得しなければならない。	健医療福祉とリハビリテーションの理念」は 5 科目から必修 5 単位、選択科目 3 単位中 1 単位、合計 6 単位を修得する。職業専門科目の理学療法学専攻では「基礎理学療法学」は 6 科目から必修 6 単位を習得、「理学療法管理学」では 2 科目から必修 2 単位、「理学療法評価学」では 6 科目から必修 6 単位を習得、「理学療法治療学」では 16 科目から必修 20 単位、「地域理学療法学」から 3 科目から必修 4 単位、「臨床実習」では 5 科目から必修 24 単位それぞれ修得する。また、職業専門科目の選択科目は 6 単位中 2 単位以上習得する。展開科目より必修科目は 4 科目 8 単位、選択科目は 14 科目 28 単位中 12 単位以上修得する。総合科目より「理学療法総合科目」は 6 科目から必修 4 単位、選択科目 1 単位を修得する。 【作業療法学専攻】 卒業に必要な単位数は、以下のように定める。基礎科目 「国際情報」「人間発達学」「自然科学」「人文科学」「情報の探求」の 22 科目 25 単位から必修 18 単位を含め 21 単位以上、基礎科目の選択科目 8 単位中 3 単位選択する。職業専門科目より、専攻共通の「人体の構造と機能及び心身の発達」は 11 科目から必修 13 単位を修得する。「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」は 13 科目から必修 14 単位を習得する。「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」は 5 科目から必修 5 単位、選択科目 3 単位中 1 単位、合計 6 単位を修得する。職業専門科目の作業療法学専攻では「基礎作業療法学」は 6 科目から必修 6 単位を習得、「作業療法管理学」では 2 科目から必修 2 単位、「作業療法評価学」では 6 科目から必修 6 単位を習得、「作業療法治療学」では 16 科目から必修 20 単位、「地域作業療法学」から 3 科目から必修 4 単位、「臨床実習」では 5 科目から必修 24 単位それぞれ修得する。また、職業専門科目の選択科目は 6 単位中 2 単位以上習得する。展開科目より必修科目は 4 科目 8 単位、選択科目は 14 科目 28 単位中 12 単位以上修得する。総合科目より「作業療法総合科目」は

	３科目から必修４単位、選択科目 1 単位を修得する。
p 29 **Ⅴ．科目構成及び科目区分** **2. 職業専門科目**	**Ⅴ．科目構成及び科目区分** **2. 職業専門科目**
【理学療法学専攻】 リハビリテーション医療従事者である理学療法士の養成を目的とし、理学療法士の国家試験合格を目指すため、また学問的探究心を備え、理学療法士としての高度な専門知識・技能および実践力を身につけ、将来にわたりリハビリテーション医療従事者としての専門性を探求していくため、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に準じ科目を設定した。中項目として「専門基礎科目」「専門科目」の 2 つに分け。「専門基礎科目」は「人体の構造と機能及び心身の発達」「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」と３つの小項目を設置した。「専門科目」は「基礎理学療法学」「理学療法管理学」「理学療法評価学」「理学療法治療学」「地域理学療法学」「臨床実習」と６つの小項目とした。 専門基礎科目の「人体の構造と機能及び心身の発達」はリハビリテーション医学において重要であり、心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解するため人体構造学と人体機能学、運動学を中心にそれぞれ演習や実習も含めて必修科目として設定した。 「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」は障害の原因である疾病や外傷などを理解することは重要なことである。そのため、特に、リハビリテーション医療に関連の深い病理学、内科学、神経内科学、整	**【理学療法学専攻】** リハビリテーション医療従事者である理学療法士の養成を目的とし、理学療法士の国家試験合格を目指すため、また学問的探究心を備え、理学療法士としての最新の知識と高度な技術を備え、将来にわたりリハビリテーション医療従事者としての専門性を探求していくため、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に準じ科目を設定した。中項目として「専門基礎科目」「専門科目」の２つに分け。「専門基礎科目」は「人体の構造と機能及び心身の発達」「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」と３つの小項目を設置した。「専門科目」は「基礎理学療法学」「理学療法管理学」「理学療法評価学」「理学療法治療学」「地域理学療法学」「臨床実習」と６つの小項目とした。 専門基礎科目の「人体の構造と機能及び心身の発達」はリハビリテーション医学において重要であり、心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解するため人体構造学と人体機能学、運動学を中心にそれぞれ演習や実習も含めて必修科目として設定した。 「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」は障害の原因である疾病や外傷などを理解することは重要なことである。そのため、特に、リハビリテーション医療に

形外科学、精神医学等を必修科目として設置した。また高度化する医療ニーズに対応し、保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化に則した理学療法を実践するためには、栄養学、臨床薬学、画像診断学、救急救命医学、予防等の基礎知識が必要なことから、臨床栄養学、臨床薬理学、救急援助論、予防医学を必修科目とした。 「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」は国民の保健医療福祉の推進のために、リハビリテーションの理念（自立支援、就労支援等を含む。）、社会保障論、地域包括ケアシステムを理解し、理学療法士が果たすべき役割、多職種連携について地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を培うために、リハビリテーション概論、社会福祉学、チーム医療論、地域包括ケア論の４科目を必修とした。 専門科目の「基礎理学療法学」は系統的な理学療法を構築できるよう、理学療法の過程に関して、必要な知識と技能を習得ため、理学療法概論、基礎理学療法学Ⅰ・Ⅱ、臨床理学療法学、理学療法臨床診断学を配置した。また世界的研究・教育の拠点を目指すべく、2年次後期より理学療法研究論を設置し、早期より論理的な思考を養えるように配置した。 「理学療法管理学」は医療保険制度、介護保険制度を理解し、職場管理、職業倫理、理学療法教育に必要な能力を培うように医療関連法規、理学療法管理学を設置した。 「理学療法評価学」は保健医療福祉とリハビリテーションの観点から、疾患別、障害別理学療法の適用に関する知識と技術を習得し、対象者の自立生活を支援するために必要な課題解決能力を培うように、理学療法評価学総論Ⅰ・Ⅱ、身体機能評価学実習Ⅰ・Ⅱ、理学療法評価学実習Ⅰ・Ⅱを配	関連の深い病理学、内科学、神経内科学、整形外科学、精神医学等を必修科目として設置した。また高度化する医療ニーズに対応し、保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化に則した理学療法を実践するためには、栄養学、臨床薬学、画像診断学、救急救命医学、予防等の基礎知識が必要なことから、栄養学、薬理学、救急援助論、予防医学を必修科目とした。 「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」は国民の保健医療福祉の推進のために、リハビリテーションの理念（自立支援、就労支援等を含む。）、社会保障論、地域包括ケアシステムを理解し、理学療法士が果たすべき役割、多職種連携について地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を培うために、リハビリテーション概論、社会福祉学、チーム医療論、地域包括ケア論の４科目を必修とした。 専門科目の「基礎理学療法学」は系統的な理学療法を構築できるよう、理学療法の過程に関して、必要な知識と技能を習得のため、理学療法概論、基礎理学療法学Ⅰ・Ⅱ、臨床理学療法学、理学療法臨床診断学を配置した。また世界的研究・教育の拠点を目指すべく、２年次後期より理学療法研究論を設置し、早期より論理的な思考を養えるように配置した。 「理学療法管理学」は医療保険制度、介護保険制度を理解し、職場管理、職業倫理、理学療法教育に必要な能力を培うように医療関連法規、理学療法管理学を設置した。 「理学療法評価学」は保健医療福祉とリハビリテーションの観点から、疾患別、障害別理学療法の適用に関する知識と技術を習得し、対象者の自立生活を支援するた

置した。また、臨床実習に向けての科目として、3年後期に応用評価学演習を選択科目として配置した。理学療法評価学の必修科目は全６単位中４単位実習科目として設置し、実習を主とした学芸を教授し、高度な実践力を身につける。

「理学療法治療学」は保健医療福祉とリハビリテーションの観点から、疾患別、障害別理学療法の適用に関する知識と技術を習得るし、対象者の自立生活を支援するために必要な課題解決能力を培うよう、必修科目として運動療法学、運動療法学実習Ⅰ・Ⅱ、物理療法学実習、義肢装具学Ⅰ・Ⅱ、運動器障害理学療法学実習、スポーツ障害理学療法学実習、発達障害理学療法学実習、中枢神経障害理学療法学実習、神経筋疾患理学療法学実習、内部障害理学療法学実習、徒手療法セミナー、日常生活活動学、日常生活活動学実習、生活環境学実習を配置し、選択科目にスポーツ障害理学療法学実習、徒手療法セミナー、障害者スポーツ演習、応用物理療法学演習、専門手技療法学演習、高次脳機能障害の治療法、認知症とその対処、レクレーション活動演習を配置した。

「地域理学療法学」では、患者及び障害児者、高齢者の地域における生活を支援していくために必要な知識や技術を習得し、問題課題解決能力を培うよう、地域理学療法学Ⅰ、地域理学療法学Ⅱ、地域理学療法学実習を必修科目として配置した。

「臨床実習」では社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力・実践能力を身につけ、各障害、各病期、各年齢層を偏りなく対応できる能力を培う。また、段階的にチームの一員として連携の方法を習得し、責任と自覚を培うよう、理学療法見学

めに必要な課題解決能力を培うように、理学療法評価学総論Ⅰ・Ⅱ、身体機能評価学実習Ⅰ～Ⅳを配置した。理学療法評価学は全６単位中４単位実習科目として設置し、実習を主とした学芸を教授し、高度な実践力を身につける。

「理学療法治療学」は保健医療福祉とリハビリテーションの観点から、疾患別、障害別理学療法の適用に関する知識と技術を習得し、対象者の自立生活を支援するために必要な課題解決能力を培うよう、運動療法学、運動療法学実習Ⅰ、運動療法学実習Ⅱ、運動療法学実習Ⅲ、義肢装具学Ⅰ、義肢装具学Ⅱ、筋骨格系障害理学療法学実習、スポーツ障害理学療法学実習、小児理学療法学実習、脳障害理学療法学実習、神経系障害理学療法学実習、内部障害系理学療法学実習、徒手療法セミナー、日常生活活動学、日常生活活動学実習Ⅰ、生活環境学実習を配置した。

「地域理学療法学」では、患者及び障害児者、高齢者の地域における生活を支援していくために必要な知識や技術を習得し、問題課題解決能力を培うよう、地域理学療法学Ⅰ、地域理学療法学Ⅱ、地域理学療法学実習を悲愁科目として配置した。

「臨床実習」では社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力・実践能力を身につけ、各障害、各病期、各年齢層を偏りなく対応できる能力を培う。また、チームの一員として連携の方法を習得し、責任と自覚を培うよう、診療参加型臨床実習Ⅰ～Ⅴを設置した。

【作業療法学専攻】

リハビリテーション医療従事者である作業療法士の養成を目的とし、作業療法士

実習、理学療法体験実習、理学療法評価実習、理学療法総合臨床実習を設置した。

【作業療法学専攻】

リハビリテーション医療従事者である作業療法士の養成を目的とし、作業療法士の国家試験合格を目指すため、また学問的探究心を備え、作業療法士としての高度な専門知識・技能および実践力を身につけ、将来にわたりリハビリテーション医療従事者としての専門性を探求していくため、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に準じ科目を設定した。中項目として「専門基礎科目」「専門科目」の 2 つに分け。「専門基礎科目」は「人体の構造と機能及び心身の発達」「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」と３つの小項目を設置した。「専門科目」は「基礎作業療法学」「作業療法管理学」「作業療法評価学」「作業療法治療学」「地域作業療法学」「臨床実習」と６つの小項目とした。

専門基礎科目の「人体の構造と機能及び心身の発達」はリハビリテーション医学において重要であり、心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解するため人体構造学と人体機能学、運動学を中心にそれぞれ演習や実習も含めて必修科目として設定した。

「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」は障害の原因である疾病や外傷などを理解することは重要なことである。そのため、特に、リハビリテーション医療に関連の深い病理学、内科学、神経内科学、整形外科学、精神医学等を必修科目として設置した。また高度化する医療ニーズに対応し、保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化に則した理学療法を実践するためには、

の国家試験合格を目指すため、また学問的探究心を備え、作業療法士としての最新の知識と高度な技術を備え、将来にわたりリハビリテーション医療従事者としての専門性を探求していくため、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に準じ科目を設定した。中項目として「専門基礎科目」「専門科目」の２つに分け。「専門基礎科目」は「人体の構造と機能及び心身の発達」「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」と３つの小項目を設置した。「専門科目」は「基礎作業療法学」「作業療法管理学」「作業療法評価学」「作業療法治療学」「地域作業療法学」「臨床実習」と６つの小項目とした。

専門基礎科目の「人体の構造と機能及び心身の発達」はリハビリテーション医学において重要であり、心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解するため人体構造学と人体機能学、運動学を中心にそれぞれ演習や実習も含めて必修科目として設定した。

「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」は障害の原因である疾病や外傷などを理解することは重要なことである。そのため、特に、リハビリテーション医療に関連の深い病理学、内科学、神経内科学、整形外科学、精神医学等を必修科目として設置した。また高度化する医療ニーズに対応し、保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化に則した理学療法を実践するためには、栄養学、臨床薬学、画像診断学、救急救命医学、予防等の基礎知識が必要なことから、栄養学、薬理学、救急援助論、予防医学を必修科目とした。

「保健医療福祉とリハビリテーション

栄養学、臨床薬学、画像診断学、救急救命医学、予防等の基礎知識が必要なことから、栄養学、薬理学、救急援助論、予防医学を必修科目とした。

「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」は国民の保健医療福祉の推進のために、リハビリテーションの理念（自立支援、就労支援等を含む。）、社会保障論、地域包括ケアシステムを理解し、理学療法士が果たすべき役割、多職種連携について地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を培うために、リハビリテーション概論、社会福祉学、チーム医療論、地域包括ケア論の４科目を必修とした。

専門科目の「基礎作業療法学」は系統的な作業療法を構築でき、作業療法の過程に関して、必要な知識と技能を習得するよう、作業療法概論、基礎作業学、作業療法研究論、基礎作業学実習Ⅰ・Ⅱを配置した。

「作業療法管理学」は医療保険制度、介護保険制度を理解し、職場管理、職業倫理、作業療法教育に必要な能力を培うため、医療関連法規、作業療法管理学の 2 科目を配置した。

「作業療法評価学」、作業療法評価についての知識や技術を身につけるよう、作業療法評価学総論Ⅰ、作業療法評価学総論Ⅱ、作業療法評価学実習、作業療法評価学Ⅰ、作業療法評価学Ⅱを配置し、選択科目として応用評価学演習を配置した。作業療法評価学は全 6 単位中 4 単位実習科目として設置し、実習を主とした学芸を教授し、高度な実践力を身につける。

「作業療法治療学」はは保健医療福祉とリハビリテーションの観点から、疾患別、障害別作業療法の適用について関する知識と技術（喀痰等の吸引を含む）を習得し、対象者の自立生活を支援するために必要な

の理念」は国民の保健医療福祉の推進のために、リハビリテーションの理念（自立支援、就労支援等を含む。）、社会保障論、地域包括ケアシステムを理解し、理学療法士が果たすべき役割、多職種連携について地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を培うために、リハビリテーション概論、社会福祉学、チーム医療論、地域包括ケア論の４科目を必修とした。

専門科目の「基礎作業療法学」は系統的な作業療法を構築でき、作業療法の過程に関して、必要な知識と技能を習得するよう、作業療法概論、基礎作業学、作業療法研究論、基礎作業学実習Ⅰ・Ⅱを配置した。

「作業療法管理学」は医療保険制度、介護保険制度を理解し、職場管理、職業倫理、作業療法教育に必要な能力を培うため、作業療法と管理、作業療法倫と倫理の２科目を配置した。

「作業療法評価学」、作業療法評価についての知識や技術を身につけるよう、作業療法評価学総論、作業療法評価学実習、身体機能評価学実習、精神障害作業療法評価学実習、発達障害作業療法評価学実習、老年期障害作業療法評価学実習を配置した。作業療法評価学は全８単位中６単位実習科目として設置し、実習を主とした学芸を教授し、高度な実践力を身につける。

「作業療法治療学」はは保健医療福祉とリハビリテーションの観点から、疾患別、障害別作業療法の適用について関する知識と技術（喀痰等の吸引を含む）を習得し、対象者の自立生活を支援するために必要な課題解決能力を培うよう、身体障害作業療法学実習、作業療法義肢装具学、福祉用具学、発達障害作業療法学、精神障害作業療法学、老年期障害作業療法学、日常生活

課題解決能力を培うよう、必修科目は身体障害作業療法学Ⅰ・Ⅱ、身体障害作業療法学実習Ⅰ・Ⅱ、作業療法義肢装具学、福祉用具学、発達障害作業療法学Ⅰ・Ⅱ、精神障害作業療法学Ⅰ・Ⅱ、老年期障害作業療法学Ⅰ・Ⅱ、日常生活活動学、日常生活活動学実習Ⅰ・Ⅱを配置し、選択科目で障害者スポーツ演習、高次脳機能障害の治療法、認知症とその対処、レクレーション活動演習、ハンドセラピー演習、専門手技療法学演習を配置した。 「地域作業療法学」は患者及び障害児者、高齢者の地域における生活を支援していくために必要な知識、技術を修得し、課題解決能力を養培うため地域作業療法学Ⅰ・Ⅱおよび実習を配置した。 「臨床実習」はでは社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力・実践能力を身につけ、各障害、各病期、各年齢層を偏りなく対応できる能力を培う。また、チームの一員として連携の方法を習得し、責任と自覚を培うよう、作業療法見学実習、作業療法体験実習、作業療法評価実習、作業療法総合臨床実習を設置した。	活動学、日常生活活動学実習を配置した。 「地域作業療法学」は患者及び障害児者、高齢者の地域における生活を支援していくために必要な知識、技術を修得し、課題解決能力を養培うため地域作業療法学および実習を配置した。 「臨床実習」はでは社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力・実践能力を身につけ、各障害、各病期、各年齢層を偏りなく対応できる能力を培う。また、チームの一員として連携の方法を習得し、責任と自覚を培うよう、診療参加型臨床実習Ⅰ～Ⅴを設置した。また世界作業療法士連盟教育最低基準（Minimum Standard of Education）は(field work)を1000時間と定めているが、本学の臨床実習総時間はそれを満たしている。
p55 **3. 成績の評価** 本学では、成績評価に応じて下記の通りポイント（4.0～0.0pt）で表し、平均値で表すGPA（Grade Point Average）制度を導入する。この GPA 制度を導入することで、ただ単に進学や卒業に必要な単位を取得するのではなく、学生が主体的かつ充実した学習効果をあげることが可能となる。各授業科目の成績評価は、S（100 点～90 点以上）、A（90 点未満～80 点以上）、B（80 点未満～70 点以上）、C（70 点未満～60 点以上）、D（59 点以下）の５つの分類をもって表し、C 以上	**3. 成績の評価** 本学では、成績評価に応じて下記の通りポイント（4.0～0.0pt）で表し、平均値で表すGPA（Grade Point Average）制度を導入する。この GPA 制度を導入することで、ただ単に進学や卒業に必要な単位を取得するのではなく、学生が主体的かつ充実した学習効果をあげることが可能となる。各授業科目の成績評価は、S（100 点～90 点以上）、A（90 点未満～80 点以上）、B（80 点未満～70 点以上）、C（70 点未満～60 点以上）、D（59

を合格とする。また、授業への出席に関する取り扱いについてであるが、学生が履修した当該授業科目の単位の認定を受けるためには、授業時間数の70%の出席を原則とし、オリエンテーションや授業初回時のガイダンス、学生便覧等において、学生にその考え方を明確に伝え、理解させることとする。GPAは学生の履修状況を見る指標にもなるため、未履修科目が多い学生への履修指導にも利用していく予定である。

さらに学生の自発的な学習時間を確保することを目的として、CAP制を導入する。

CAP制は、単位制度を実質化（1単位当たり必要な45時間の学修時間を確保）し、学修すべき授業科目を精選することで十分な学修時間を確保し、授業内容を深く真に身につけることを目的として、学生が履修科目として登録することができる単位数の上限を定め、各年次にわたって適切に授業科目を履修してもらうためのものである。なお、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、単位数の上限を超えて履修登録を認め、また、成績の状況が十分でない学生については、逆に、履修登録の単位数の上限を制限することとなる。

$$GPA = \frac{\text{(グレードポイント} \times \text{各科目の単位数) の合計}}{\text{履修登録単位数の合計}}$$

グレードポイント	評　価	点　数
4.0	S	90 点以上
3.0	A	80 点以上
2.0	B	70 点以上

点以下）の５つの分類をもって表し、C 以上を合格とする。また、授業への出席に関する取り扱いについてであるが、学生が履修した当該授業科目の単位の認定を受けるためには、授業時間数の70%の出席を原則とし、オリエンテーションや授業初回時のガイダンス、学生便覧等において、学生にその考え方を明確に伝え、理解させることとする。GPAは学生の履修状況を見る指標にもなるため、未履修科目が多い学生への履修指導にも利用していく予定である。

（追加）

$$GPA = \frac{\text{(グレードポイント} \times \text{各科目の単位数) の合計}}{\text{履修登録単位数の合計}}$$

グレードポイント	評　価	点　数
4.0	S	90 点以上
3.0	A	80 点以上
2.0	B	70 点以上
1.0	C	60 点以上
0.0	D	59 点未満
0.0		規定出席数不足

（追加）

1.0	C	60 点以上
0.0	D	59 点未満
0.0		規定出席数不足

履修登録単位数の上限設定については、次のとおり取り扱う。

（成績の評価方法及び履修登録単位数の上限並びに修学指導等に関する取扱要項）

1. 各学期の履修登録単位数の上限を25単位とする。

ただし、当該学期の直前の学期のGPAに基づき、次のとおり単位数の上限を変更して取り扱う。

(1) 直前の学期のGPAが3.0以上の者　29単位

(2) 直前の学期のGPAが2.5以上3.0未満の者　27単位

(3) 直前の学期のGPAが1.5以上2.5未満の者　25単位

(4) 直前の学期のGPAが1.5未満の者　23単位

2. 休学や病気欠席等のやむを得ない事由により、その学期のすべての授業科目を履修できなかった者の履修登録単位数の上限は、上記1.(4)にかかわらず、26単位とする。

3. に掲げる科目は、CAP制に含まないものとする。

① 集中講義による授業科目

② 再試験登録科目

（是正事項）健康科学部　リハビリテーション学科

１１．＜編入学制度＞ 学則では、編入学は３年次のみとし、条件に該当する者は入学を認め、欠員が生じた場合のみ編入学を実施すると記載があるが、どのような者を想定しているのか明らかにすること。また、３年次に編入が認められた者は、下の学年の科目を学ぶことが想定される。３年次編入学生が、専門職大学の教育を適切に履修できる教育体系か明らかにし、併せてその履修モデルを示すこと。また、必要に応じて編入学制度を見直すこと。

（対応）

ご指摘の通り、学則にて編入学は３年次のみとし、条件に該当する者は入学を認め、欠員が生じた場合のみ編入学を実施するとしていた。

申請当初は、学生の確保の見通しを鑑み、編入制度の導入を検討し、理学療法士及び作業療法士の資格を持つあるいはそれと同等の力を有する者と限定し、編入を認める内容であった。

しかし、3 年次の編入に関し、ディプロマ・ポリシー等、本来専門職大学としての果たすべき役割を再検討した結果、学士（専門職）称号授与の重みを考え、編入制度を取りやめることとした。

（新旧対照表）学則（6 ページ）

新	旧
第２３条（編入学又は転入学） ○編入学 本学ではいかなる場合も編入学を行わない。 ○転入学 本学ではいかなる場合も転入学を行わない。	第２３条（編入学又は転入学） ○編入学 本学では編入学は 3 年次のみとする。本学への編入学は、下記のいずれかに該当する方にのみ認められる。 １．専門課程短期大学を卒業した者（法第 108 条第 7 項） ２．専修学校の専門課程（修業年限が 3 年以上、総授業時数が理学療法学専攻 3,120 時間以上、作業療法学専攻 3,150 時間以上時間以上又は 101 単位以上であるものに限る）を修了した者（法第 132 条） 定員管理を厳密に行い、欠員が生じた場合のみ編入学を実施する。 ○転入学 本学ではいかなる場合も転入学を行わない。

（是正事項）健康科学部　リハビリテーション学科

１２．＜履修モデルの作成＞
養成する人材像に即した、入学から卒業までの履修モデルを図示した資料を添付すること。

（対応）

ご指摘の通り、履修モデルについては、選択科目については、 第 6 教育方法、7. 履修モデル に記載しているが、入学から卒業までの要件を満たす履修モデルは、記載していなかったので、学部のディプロマ・ポリシー（DP）を変更し、新たに設定した専攻ごとの DP に基づく、養成する人材像に即した、入学から卒業までの履修モデルを図（資料 12）を示したので添付し、各々の履修モデルについて説明を加える。

【理学療法学専攻】

理学療法学専攻の履修モデルは 3 コース、① 医療系理学療法履修モデル、② 健康スポーツ系理学療法履修モデル、③ 地域連携系理学療法履修モデル である。

① 医療系理学療法履修モデル

医療分野において理学療法士の必要性は更に高まっている。少子化超高齢化が進む一方で、医療が高度化し治療費が高額化する現在から将来を見据え、社会保障費の伸びをどのように抑制していくのか大きな社会問題となり国民的課題となっている。こうした社会情勢の中で、理学療法士が医療分野において、いかに対応していけば良いのか、医学の進歩に対応できるように関連領域の知見を学び、応用力と創造性に優れた理学療法学の発展が必要である。目指すのは、医療分野における、運動器、脳血管障害、神経・筋疾患、内部疾患（心臓・呼吸・循環・代謝）などの認定・専門理学療法士であり、あるいは、物理療法や徒手療法などの特殊テクニックのスペシャリストである。専門領域に特化して研究を推進していくこともできるようにその基礎的素養を身につける。

② 健康スポーツ系理学療法履修モデル

2020 年東京オリンピックで問題になったことのひとつに、日本には、現在、国際標準となっているおりロンドンやリオの各会場でも当たり前であった「救命救急のできるスポーツ理学療法士」が存在しないことである。法的には緊急時に手が出せず、医師、看護師、救命救急士の助けを借りなければならない現状がある。。新指定規則の中にようやく「救命救急及び予防の基礎」が位置づけられ、今後は国際標準スポーツ理学療法士を養成していくことが課題となっている。また、社会保険費の高騰の中で、その対策として、いかに健康寿命を延伸していくかが問われている、そのための一次予防・二次予防・三次予防の充実が重要な課題となっている。一次予防において、いかにして健康を維持・増進し、心身の老化を遅らせるのか、子どもの健やかな発達を促進する、また働く世代における産業における保健や生涯にわたる身体運動・スポーツ継続の必要性も高まっており、自ら起業し経営に臨むことも含めて関連領域を巻き込んだ理学療法士の介入によりこの課題に取り組んでいけるように育成したい。障害児から障害者の健康・スポーツにも目を向け、傷害の予防・回復における理学療法の基礎を学修する。目指

すのは、健康スポーツ分野における理学療法のスペシャリストであり、その基礎的素養を身につけることである。

③ 地域連携系理学療法履修モデル

地域においては、少子化・超高齢化・高齢者問題に留まらず、気候変動の影響による災害の増加も含めて。子どもから老人までの生活と疾病・障害・介護・福祉への対策が緊急の課題となっている、政府は、強力に地域包括支援システムを定着・発展させていこうとしている。地域における理学療法士は、地方行政をはじめ多職種・他部門の専門職と連携し、応用力と創造力をもって、不足している分野があれば補完してつないでいけるように課題に取り組む社会的要請がある。乳児から高齢者まですべての人々の生活を守れるように、総合的に理学療法を活用できるゼネラリストへ基礎的素養を身につけることである。将来は、地域連携の隙間を埋める支援システム等の研究・開発が手がけられる創造力や応用力も期待されるコースである。

【作業療法専攻】

作業療法専攻において、「養成する人材像」を育成していくために、4 つの履修コースを設定している。履修コースは、① 医療系作業療法（身体機能支援）履修モデル、② 医療系作業療法（認知・行為支援）履修モデル、③ 社会生活系作業療法履修モデル、④ 地域連携系作業療法モデルの 4 つの人材育成モデルを設定している。それぞれのコースの特長と履修する内容を以下に示す。

① 医療系作業療法（身体機能支援）履修モデル

医療的な視点から健康・医療課題を捉え、疾病・障害を予防し、身体機能および社会生活行為を支援し、探求心や研究心を持ち地域への貢献していく人材育成を目的とした履修モデルとして設定している。

基礎科目では、医療における倫理観を養成する生命倫理学、医療のおける・カルテや事例報告に活用できる情報処理Ⅱを学ぶ。

職業専門科目では、医学的な対応の基礎となる医学概論、チームでの対応を学ぶチーム医療論、リハビリテーションにおける特殊な手技等を学ぶハンドセラピー演習、専門手技療法演習を学ぶ。

展開科目では、医療的な経済視点を得るために医療経済論、サービス提供のための社会スキルを学ぶソーシャルスキル論、工学的な支援を学ぶ医用・福祉工学、支援ロボット論、老化に対する支援を検討するアンチエイジングを学ぶ。

以上の学びから作業療法を発想し、発展させていくために専門職連携総合演習Ａで専門職との連携を学び、地域社会への貢献方法を模索する。

② 医療系作業療法（認知・行為支援）履修モデル

医療的な視点から健康・医療課題を捉え、疾病・障害を予防し、認知機能および社会生活行為を支援し、探求心や研究心を持ち地域社会に貢献していく人材育成を目的とした履修モデルとして設定している。

基礎科目では、医療における倫理観を養成する生命倫理、電子カルテや事例報告に活用できる情報処理Ⅱを学ぶ。

職業専門科目では、チームでの対応を学ぶチーム医療論、健康増進方法を学ぶトータルヘルスポロモーション、認知機能や人の行為・行動の変化を学ぶ高次脳機能障害の治療法、リハビリテーションの対象者への直接支援や支援者への支援を学ぶ認知症とその対処、レクリエーション活動演習を学ぶ。

展開科目では、サービス提供のための社会スキルを学ぶソーシャルスキル論、工学的な支援を学ぶ医用・福祉工学、支援ロボット論、社会生活での余暇活動を検討する生涯スポーツ論、老化に対する支援を検討するアンチエイジングを学ぶ。

以上の学びから作業療法を発想し、発展させていくために専門職連携総合演習Ａで専門職との連携を学び、地域社会への貢献方法を模索する。

③ 社会生活系作業療法履修モデル

生活者の視点から社会生活における課題を健医療福祉に関わる関連職種や多職種と連携・協調し、心身機能および社会生活行為の維持・回復・改善を促進し、地域社会へ貢献していく人材育成を目的とした履修モデルとして設定している。

基礎科目では、人の生理・生物学的な反応を学ぶ生物学、人と社会の関係を捉える社会学などを学ぶ。

職業専門科目では、チームでの対応を学ぶチーム医療論、チームでの対応を学ぶチーム医療論、健康増進方法を学ぶトータルヘルスプロモーション、地域生活での支援方法を学ぶ地域包括ケア演習、障がい者の余暇活動や就労支援方法として活用されている活動を学ぶ障害者スポーツ演習、リハビリテーションの対象者への直接支援や支援者への支援を学ぶ認知症とその対処、レクリエーション活動演習を学ぶ。

展開科目では、サービス提供のための社会スキルを学ぶソーシャルスキル論、地域生活での安全を検討する地域防災論、障害児の教育に関することを学ぶ障害児教育論、社会生活での余暇活動を検討する生涯スポーツ論、地域での連携を学ぶ地域連携研究を学ぶ。

以上の学びから作業療法を発想し、発展させていくために専門職連携総合演習Ｂで専門職との連携を学び、地域での社会生活への支援・貢献方法を模索する。

④地域連携系作業療法履修モデル

地域社会の高齢者・障がい児・者の社会生活遂行における課題を医療福祉に関わる関連職種や多職種と連携・協調し、心身機能および社会生活行為の維持・回復・改善を社会的支援によって促進し、域社会へ貢献していく人材育成を目的とした履修モデルとして設定している。

基礎科目では、様々な道具や社会情報の活用を学ぶ IoT 入門、電子情報を有効に活用する形にするプログラミング、自身や社会活動における法律的な視点を学ぶ法学を学ぶ。

職業専門科目では、チームでの対応を学ぶチーム医療論、地域生活での支援方法を学ぶ地域包括ケア演習、地域の環境へ働きかけを学ぶ地域環境活動演習、リハビリテーションの対象者への直接支援や支援者への支援を学ぶ認知症とその対処などを学ぶ。

展開科目では、サービスの価格や事業の運営の基礎となる経営と会計、地方自治体が提供している住民サービス等を学ぶ地方自治と生活、保健活動を産業として捉える産業保健、障害児の教育に関することを学べる障害児教育論、地域での連携を学ぶ地域連携研究を学ぶ。

以上の学びから作業療法を発展させていくために専門職連携総合演習Ｃで専門職との連携を学び、社会での拠点作りや資源作り等を創造し、地域社会への支援・貢献方法を模索する。

医療系理学療法履修モデル

（健康科学部リハビリテーション学科　理学療法学専攻）

		1年次	2年次	3年次	4年次	合計
基礎科目	科学的思考の基礎	○ 心理学(2)				必修11科目17単位 選択 3科目 4単位
		○ 物理学(1)				
		○ 統計学(2)				
		○ 物質科学(1)				
		※プログラミング(1)				
		○ 生年学(1)				
		※生命倫理(2)				
		○ 教育学Ⅰ(2)				
		○ 教育学Ⅱ(2)				
		○ 物質とスポーツ(1)				
		○ 情報処理Ⅰ(1)				
		※情報処理Ⅱ(1)				
		○ 英語Ⅰ(2)				
		○ 英語Ⅱ(2)				
職業専門科目	専門基礎科目	○ 人体構造学Ⅰ(1)	○ 体表解剖学演習(1)			必修28科目28単位 選択 2科目 2単位
		○ 人体構造学Ⅱ(1)	○ 運動学実習(1)			
		○ 人体構造学Ⅲ(1)				
		○ 人体構造学実習(1)				
		○ 人体機能学(1)				
		○ 人体機能学(1)				
		○ 人体機能学実習(1)				
		○ 運動学Ⅰ(1)				
		○ 運動学Ⅱ(1)				
		○ 人間発達学(1)				
		○ 病理学(1)	○ 内科学(1)			
			○ 神経内科学Ⅰ(1)			
			○ 神経内科学Ⅱ(1)			
			○ 整形外科学Ⅰ(1)	○ 臨床薬理学(1)		
			○ 整形外科学Ⅱ(1)	○ 臨床・画像診断学(1)		
			○ リハビリテーション医学(1)			
			○ 小児科学(1)			
			○ 臨床心理学(1)			
			○ 精神医学(1)			
			○ 臨床栄養学(1)			
			○ 救急処置論(1)			
		※医学概論(1)	※チーム医療論(1)	○ 地域包括ケア論(1)		
		○ 社会福祉学(1)				
	専門科目	○ 理学療法概論(1)		○ 臨床理学療法学(1)		必修38科目58単位 選択 3科目 3単位
		○ 基礎理学療法学Ⅰ(1)	○ 理学療法研究法(1)	○ 予防理学療法学(1)		
		○ 基礎理学療法学Ⅱ(1)				
		○ 医療関連法規(1)		○ 理学療法管理学(1)		
		○ 理学療法評価学総論Ⅰ(1)	○ 理学療法評価学総論Ⅱ(1)			
			○ 身体機能評価学実習Ⅰ(1)			
			○ 身体機能評価学実習Ⅱ(1)			
			○ 理学療法評価学実習Ⅰ(1)			
			○ 理学療法評価学実習Ⅱ(1)			
				○ 運動療法学実習Ⅰ(1)		
				○ 運動療法学実習Ⅱ(1)		
				○ 物理療法学実習(1)		
			○ 運動療法学(1)	○ 装具学(1)		
			○ 物理療法学(1)	○ 運動器障害理学療法学実習(1)		
			○ 義肢学(1)	○ 発達障害理学療法学実習(1)		
			○ 日常生活活動学(1)	○ 中枢神経障害理学療法学実習(2)		
				○ 神経筋疾患理学療法学実習(2)		
				○ 内部障害理学療法学実習(2)		
				○ 日常生活活動学実習(1)		
				○ 生活環境学実習(1)		
				※ 応用義肢装具学実習(1)		
				※ 専門基礎総合実習(1)		
				※ 高次脳機能障害の治療法(1)		
			○ 地域理学療法学Ⅰ(1)	○ 地域理学療法学Ⅱ(1)		
				○ 地域理学療法学実習(1)		
		○ 理学療法見学実習(1)	○ 理学療法体験実習(2)	○ 理学療法評価実習(4)	○ 理学療法総合臨床実習(16)	
展開科目	理学療法展開科目		○ ふるさと・紀州学(2)			必修 5科目10単位 選択 5科目10単位
			○ 組織論(2)	○ 微医実感学(2)		
			○ 地域特性企業論(2)			
			○ コミュニケーション論(2)			
			※ 医療経済論(2)	※ 支援ロボット論(2)		
			※ ソーシャルスキル論(2)	※ 医用・福祉工学論(2)		
				※ アンチエイジング(2)		
総合科目	理学療法総合科目			○ 応用理学療法演習Ⅰ(1)	※ 専門職連携総合演習A(1)	必修 3科目 4単位 選択 1科目 1単位
				○ 応用理学療法演習Ⅱ(1)	○ 理学療法総合演習(2)	
合計		40単位	36単位	38単位	20単位	137単位

○ 必修科目　※ 選択科目

図 12. 理学療法学専攻の履修モデル①

健康スポーツ系理学療法履修モデル

（健康科学部リハビリテーション学科　理学療法学専攻）

			1年次	2年次	3年次	4年次	合計
基礎科目		科学的思考の基礎	○心理学(2) **※生物学(2)** ○物理学(1) ○統計学(2) ○保健科学(1) **※プログラミング(1)**				必修11科目17単位 選択 3科目 4単位
		人間と生活	○老年学(1) ○倫理学Ⅰ(2) ○倫理学Ⅱ(2) ○保健とスポーツ(1)				
		社会の理解	**※社会学(1)** ○情報処理Ⅰ(1) ○英語Ⅰ(2) ○英語Ⅱ(2)				
専門基礎科目		人体の構造と機能及び心身の発達	○人体構造学Ⅰ(1) ○人体構造学Ⅱ(1) ○人体構造学Ⅲ(1) ○人体構造学実習(1) ○人体機能学(2) ○人体機能学実習(1) ○運動学Ⅰ(1) ○運動学Ⅱ(1) ○人間発達学(1)	○体表解剖学演習(1) ○運動学実習(1)			必修25科目28単位 選択 2科目 2単位
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	○病理学(1)	○内科学(1) ○神経内科学Ⅰ(1) ○神経内科学Ⅱ(1) ○整形外科学Ⅰ(1) ○整形外科学Ⅱ(1) ○リハビリテーション医学(1) ○小児科学(1) ○臨床心理学(1) ○精神医学(1) ○臨床栄養学(1) ○救急救助論(1)	○臨床薬理学(1) ○臨床・画像診断学(1)		
		保健医療福祉とリハビリテーションの理念	**※リハビリテーション概論(1)** ○社会福祉学(1)	**※トータルヘルスプロモーション(1)**	○地域包括ケア論(1)		
専門科目		基礎理学療法学	○理学療法概論(1) ○基礎理学療法学Ⅰ(1) ○基礎理学療法学Ⅱ(1)	○理学療法研究法(1)	○臨床理学療法学(1) ○予防理学療法学(1)		必修36科目55単位 選択 3科目 3単位
		理学療法管理学	○医療関連法規(1)		○理学療法管理学(1)		
		理学療法評価学	○理学療法評価学総論Ⅰ(1)	○理学療法評価学総論Ⅱ(1) ○身体機能評価学実習Ⅰ(1) ○身体機能評価学実習Ⅱ(1) ○理学療法評価学実習Ⅰ(1) ○理学療法評価学実習Ⅱ(1)			
		理学療法治療学			○運動療法学実習Ⅰ(1) ○運動療法学実習Ⅱ(1) ○物理療法学実習(1) ○装具学(1) ○運動器障害理学療法学実習(1) **※スポーツ障害理学療法学実習(1)** ○発達障害理学療法学実習(1) ○中枢神経障害理学療法学実習(2) ○神経筋疾患理学療法学実習(2) ○内部障害理学療法学実習(2) **※徒手療法セミナー(1)** ○日常生活活動学実習(1) ○生活環境学実習(1) **※障害者スポーツ実習(1)**		
		地域理学療法学		○地域理学療法学Ⅰ(1)	○地域理学療法学Ⅱ(1) ○地域理学療法学実習(1)		
		臨床実習	○理学療法見学実習(1)	○理学療法体験実習(2)	○理学療法評価実習(4)	○理学療法総合臨床実習(16)	
展開科目	理学療法展開科目	必修展開科目		○ふるさと・紀州学(2) ○組織論(2) ○地域活性企業論(2) ○コミュニケーション論(2)	○保険支援学(2)		必修 5科目10単位 選択 5科目10単位
		選択展開科目		**※経営と会計(2)** **※ソーシャルスキル論(2)**	**※産業保健論(2)** **※生涯スポーツ論(2)** **※アンチエイジング(2)**		
科目	総合	理学療法総合科目			○応用理学療法演習Ⅰ(1) ○応用理学療法演習Ⅱ(1)	**※専門職連携総合演習B(1)** ○理学療法総合演習(2)	必修 3科目 4単位 選択 1科目 1単位
合計			40単位	39単位	37単位	20単位	137単位

○必修科目 ※選択科目

図 12.　理学療法学専攻の履修モデル②

地域連携系理学療法履修モデル

（健康科学部リハビリテーション学科　理学療法学専攻）

		1年次	2年次	3年次	4年次	合計
基礎科目	科学的思考の基礎	○心理学(2)				必修11科目17単位 選択 3科目 4単位
		○物理学(1)				
		○統計学(2)				
		○健康科学(1)				
		※ IoT入門(1)				
	人間と生活	※ 哲学(1)				
		○生命学(1)				
		○教育学Ⅰ(2)				
		○教育学Ⅱ(2)				
		○健康とスポーツ(1)				
	社会の理解	※ 法学(1)				
		○情報処理Ⅰ(1)				
		※ 情報処理Ⅱ(1)				
		○英語Ⅰ(2)				
		○英語Ⅱ(2)				
職業専門科目	専門基礎科目	○人体構造学Ⅰ(1)				必修28科目28単位 選択 3科目 3単位
		○人体構造学Ⅱ(1)				
		○人体構造学Ⅲ(1)				
	人体の構造と機能及び心身の発達	○人体構造学実習(1)	○体表解剖学演習(1)			
		○人体機能学(2)	○運動学実習(1)			
		○人体機能学実習(1)				
		○運動学Ⅰ(1)				
		○運動学Ⅱ(1)				
		○人間発達学(1)				
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	○病理学(1)	○内科学(1)			
			○神経内科学Ⅰ(1)			
			○神経内科学Ⅱ(1)			
			○整形外科学Ⅰ(1)	○臨床薬理学(1)		
			○整形外科学Ⅱ(1)	○臨床・画像診断学(1)		
			○リハビリテーション医学(1)			
			○小児科学(1)			
			○臨床心理学(1)			
			○精神医学(1)			
			○臨床栄養学(1)			
			○救急処置論(1)			
	保健医療福祉とリハビリテーションの概念	※ リハビリテーション概論(1)	※チーム医療論(1)	○地域包括ケア論(1)	※ 地域理療活動論(1)	
		○社会福祉学(1)			※ 地域包括ケア演習(1)	
	専門科目	○理学療法概論(1)		○臨床理学療法学(1)		必修36科目58単位 選択 2科目 2単位
	基礎理学療法学	○基礎理学療法学Ⅰ(1)	○理学療法研究法(1)	○予防理学療法学(1)		
		○基礎理学療法学Ⅱ(1)				
	理学療法管理学	○医療関連法規(1)		○理学療法管理学(1)		
	理学療法評価学	○理学療法評価学総論Ⅰ(1)	○理学療法評価学総論Ⅱ(1)			
			○身体機能評価学実習Ⅰ(1)			
			○身体機能評価学実習Ⅱ(1)			
			○理学療法評価学実習Ⅰ(1)			
			○理学療法評価学実習Ⅱ(1)			
	理学療法治療学			○運動療法学実習Ⅰ(1)		
				○運動療法学実習Ⅱ(1)		
				○物理療法学実習(1)		
			○運動療法学(1)	○装具学(1)		
			○物理療法学(1)	○運動器障害理学療法学実習(1)		
			○義肢学(1)	○発達障害理学療法学実習(1)		
			○日常生活活動学(1)	○中枢神経障害理学療法学実習(2)		
				○神経筋疾患理学療法学実習(2)		
				○内部障害理学療法学実習(2)		
				○日常生活活動学実習(1)		
				○生活環境学実習(1)		
				※ 義肢採寸とその対処(1)		
				※ レクレーション活動論(1)		
	地域理学療法学		○地域理学療法学Ⅰ(1)	○地域理学療法学Ⅱ(1)		
				○地域理学療法学実習(1)		
	臨床実習	○理学療法見学実習(1)	○理学療法体験実習(2)	○理学療法評価実習(4)	○理学療法総合臨床実習(18)	
関連科目	理学療法関連科目 必修関連科目		○ふるさと・紀州学(2)			必修 5科目10単位 選択 5科目10単位
			○組織論(2)	○微生物学(2)		
			○地域活性企業論(2)			
			○コミュニケーション論(2)			
	選択関連科目		※ 福祉と会計(2)	※ 地域防災論(2)		
			※ 地方自治と生活(2)	※ 障害児保育論(2)		
				※ 地域連携研究(2)		
科目	総合 理学療法総合科目			○応用理学療法演習Ⅰ(1)	※ 専門職連携総合演習C(1)	必修 3科目 4単位 選択 1科目 1単位
				○応用理学療法演習Ⅱ(1)	○理学療法総合演習(2)	
合計		40単位	39単位	37単位	20単位	137単位

○必修科目 ※選択科目

図 12. 理学療法学専攻の履修モデル③

【作業療法専攻】

作業療法専攻において、「養成する人材像」を育成していくために、4つの履修コースを設定している。履修コースは、① 医療系作業療法（身体機能支援）履修モデル、② 医療系作業療法（認知・行為支援）履修モデル、③ 社会生活系作業療法履修モデル、④ 地域連携系作業療法モデルの4つの人材育成モデルを設定している。それぞれのコースの特長と履修する内容を以下に示す。

① 医療系作業療法（身体機能支援）履修モデル

医療的な視点から健康・医療課題を捉え、疾病・障害を予防し、身体機能および社会生活行為を支援し、探求心や研究心を持ち地域への貢献していく人材育成を目的とした履修モデルとして設定している。

基礎科目では、医療における倫理観を養成する生命倫理学、公法・民事法から医療行為を影響する際に必要となる法制度を知るために法学を学び、医療のおける・カルテや事例報告に活用できる情報処理Ⅱを学ぶ。

職業専門科目では、医学的な対応の基礎となる医学概論、チームでの対応を学ぶチーム医療論、リハビリテーションにおける特殊な手技等を学ぶハンドセラピー演習、専門手技療法演習を学ぶ。

展開科目では、医療的な経済視点を得るために医療経済論、サービス提供のための社会スキルを学ぶソーシャルスキル論、工学的な支援を学ぶ医用・福祉工学、支援ロボット論、老化に対する支援を検討するアンチエイジングを学ぶ。

以上の学びから作業療法を発想し、発展させていくために作業療法専門職連携総合演習Ａで専門職との連携を学び、地域社会への貢献方法を模索する。

② 医療系作業療法（認知・行為支援）履修モデル

医療的な視点から健康・医療課題を捉え、疾病・障害を予防し、認知機能および社会生活行為を支援し、探求心や研究心を持ち地域社会に貢献していく人材育成を目的とした履修モデルとして設定している。

基礎科目では、医療における倫理観を養成する生命倫理、電子カルテや事例報告に活用できる情報処理Ⅱ、人と社会の関係を捉える社会学などを学ぶ。

職業専門科目では、チームでの対応を学ぶチーム医療論、健康増進方法を学ぶトータルヘルスポロモーション、認知機能や人の行為・行動の変化を学ぶ高次脳機能障害の治療法、リハビリテーションの対象者への直接支援や支援者への支援を学ぶ認知症とその対処、レクレーション活動演習を学ぶ。

展開科目では、サービス提供のための社会スキルを学ぶソーシャルスキル論、工学的な支援を学ぶ医用・福祉工学、支援ロボット論、社会生活での余暇活動を検討する生涯スポーツ論、老化に対する支援を検討するアンチエイジングを学ぶ。

以上の学びから作業療法を発想し、発展させていくために作業療法専門職連携総合演習Ａで専門職との連携を学び、地域社会への貢献方法を模索する。

③社会生活系作業療法履修モデル

生活者の視点から社会生活における課題を健医療福祉に関わる関連職種や多職種と連携・協調し、

心身機能および社会生活行為の維持・回復・改善を促進し、地域社会へ貢献していく人材育成を目的とした履修モデルとして設定している。

基礎科目では、人の生理・生物学的な反応を学ぶ生物学、様々な道具や社会情報の活用を学ぶ IoT 入門、人と社会の関係を捉える社会学などを学ぶ。

職業専門科目では、チームでの対応を学ぶチーム医療論、チームでの対応を学ぶチーム医療論、健康増進方法を学ぶトータルヘルスプロモーション、地域生活での支援方法を学ぶ地域包括ケア演習、障がい者の余暇活動や就労支援方法として活用されている活動を学ぶ障害者スポーツ演習、リハビリテーションの対象者への直接支援や支援者への支援を学ぶ認知症とその対処、レクレーション活動演習を学ぶ。

展開科目では、サービス提供のための社会スキルを学ぶソーシャルスキル論、地域生活での安全を検討する地域防災論、障害児の教育に関することを学ぶ障害児教育論、社会生活での余暇活動を検討する生涯スポーツ論、地域での連携を学ぶ地域連携研究を学ぶ。

以上の学びから作業療法を発想し、発展させていくために作業療法専門職連携総合演習Ｂで専門職との連携を学び、地域での社会生活への支援・貢献方法を模索する。

④地域連携系作業療法履修モデル

地域社会の高齢者・障がい児・者の社会生活遂行における課題を医療福祉に関わる関連職種や多職種と連携・協調し、心身機能および社会生活行為の維持・回復・改善を社会的支援によって促進し、域社会へ貢献していく人材育成を目的とした履修モデルとして設定している。

基礎科目では、様々な道具や社会情報の活用を学ぶ IoT 入門、電子情報を有効に活用する形にするプログラミング、人と社会の関係を捉える社会学、自身や社会活動における法律的な視点を学ぶ法学などを学ぶ。

職業専門科目では、チームでの対応を学ぶチーム医療論、地域生活での支援方法を学ぶ地域包括ケア演習、地域の環境へ働きかけを学ぶ地域環境活動演習、リハビリテーションの対象者への直接支援や支援者への支援を学ぶ認知症とその対処などを学ぶ。

展開科目では、サービスの価格や事業の運営の基礎となる経営と会計、地方自治体が提供している住民サービス等を学ぶ地方自治と生活、保健活動を産業として捉える産業保健、障害児の教育に関することを学べる障害児教育論、地域での連携を学ぶ地域連携研究を学ぶ。

以上の学びから作業療法を発展させていくために作業療法専門職連携総合演習Ｃで専門職との連携を学び、社会での拠点作りや資源作り等を創造し、地域社会への支援・貢献方法を模索する。

医療系作業療法(身体機能支援)履修モデル

(健康科学部リハビリテーション学科　作業療法学専攻)

		1年次	2年次	3年次	4年次	合計
基礎科目	科学的思考の基礎	○心理学(2)				必修11科目17単位 選択 3科目 4単位
		○物理学(1)				
		○統計学(2)				
		○健康科学(1)				
	人間と生活	**※生命倫理(2)**				
		○健康とスポーツ(1)				
		○教育学Ⅰ(2)				
		○教育学Ⅱ　(2)				
		○老年学(1)				
	社会の理解	**※法学(1)**				
		○情報処理Ⅰ(1)				
		※情報処理Ⅱ(1)				
		○英語Ⅰ(2)				
		○英語Ⅱ(2)				
職業専門科目 専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	○人体構造学Ⅰ(骨・筋系)(1)	○体表解剖学演習(1)			必修28科目28単位 選択 2科目 2単位
		○人体構造学Ⅱ(脈管・内臓系)(1)	○運動学実習(1)			
		○人体構造学Ⅲ(神経系)(1)				
		○人体構造学実習(1)				
		○人体機能学Ⅰ(1)				
		○人体機能学Ⅱ(1)				
		○人体機能学実習(1)				
		○運動学Ⅰ(1)				
		○運動学Ⅱ(1)				
		○人間発達学(1)				
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	○病理学(1)	○内科学(1)			
			○神経内科学Ⅰ(1)			
			○神経内科学Ⅱ(1)			
			○整形外科学Ⅰ(1)	○臨床薬理学(1)		
			○整形外科学Ⅱ(1)	○臨床・画像診断学(1)		
			○リハビリテーション医学(1)			
			○小児科学(1)			
			○臨床心理学(1)			
			○精神医学(1)			
			○臨床栄養学(1)			
			○救急援助論(1)			
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	**※医学概論(1)**				
		○社会福祉学(1)	**※チーム医療論(1)**	○地域包括ケア論		必修42科目58単位 選択 3科目 3単位
職業専門科目 専門科目	基礎作業療法学	○作業療法概論(1)	○作業療法研究論(1)	○基礎作業学実習Ⅱ		
		○基礎作業学(1)	○基礎作業学実習Ⅰ(1)			
	作業療法管理学	○医療関連法規(1)		○作業療法管理学		
	作業療法評価学	○作業療法評価学総論Ⅰ(1)	○作業療法評価学総論Ⅱ(1)	**※応用評価学演習(1)**		
			○作業療法評価学実習(2)			
			○作業療法評価学Ⅰ(1)			
			○作業療法評価学Ⅱ(1)			
	作業療法治療法		○福祉用具学(1)	○身体障害作業療法学実習Ⅰ(1)		
			○日常生活活動学(2)	○身体障害作業療法学実習Ⅱ(1)		
			○身体障害作業療法学Ⅰ(1)	○作業療法義肢装具学(1)		
			○身体障害作業療法学Ⅱ(1)	○発達障害作業療法学Ⅰ(1)		
				○発達障害作業療法学Ⅱ(1)		
				○精神障害作業療法学Ⅰ(1)		
				○精神障害作業療法学Ⅱ(1)		
				○老年期障害作業療法学Ⅰ(1)		
				○老年期障害作業療法学Ⅱ(1)		
				○日常生活活動学実習Ⅰ(2)		
				○日常生活活動学実習Ⅱ(1)		
				※ハンドセラピー演習(1)		
				※専門手技療法学演習(1)		
	地域作業療法学		○地域作業療法学Ⅰ(1)	○地域作業療法学Ⅱ(1)		
				○地域作業療法学実習(2)		
	臨床実習	○作業療法見学実習(1)	○作業療法体験実習(2)	○作業療法評価実習(4)	○作業療法総合臨床実習(16)	
展開科目	必修展開科目		○ふるさと・紀州学(2)	○健康支援学(2)		必修　5科目10単位 選択　5科目10単位
			○組織論(2)			
			○地域活性企業論(2)			
			○コミュニケーション論(2)			
	選択展開科目		**※医療経済論(2)**	**※支援ロボット論(2)**		
			※ソーシャルスキル論(2)	**※医用・福祉工学論(2)**		
				※アンチエイジング(2)		
科目総合	作業療法総合科目			○応用理学療法演習Ⅰ(1)	**※専門職連携総合演習A(1)**	必修　3科目　4単位 選択　1科目　1単位
				○応用理学療法演習Ⅱ(1)	○理学療法総合演習(2)	
合計		39単位	41単位	38単位	19単位	137単位

○必修科目　**※選択科目**

図 12.　作業療法学専攻の履修モデル①

医療系作業療法(認知・行為支援)履修モデル

(健康科学部リハビリテーション学科　作業療法学専攻)

		1年次	2年次	3年次	4年次	合計
基礎科目	科学的思考の基礎	○心理学				必修11科目17単位 選択 3科目 4単位
		○物理学(1)				
		○統計学(2)				
		○健康科学(1)				
		※生命倫理(2)				
		○健康とスポーツ(1)				
		○教育学Ⅰ(2)				
		○教育学Ⅱ　(2)				
		○老年学(1)				
	社会の理解	**※社会学(1)**				
		○情報処理Ⅰ(1)				
		※情報処理Ⅱ(1)				
		○英語Ⅰ(2)				
		○英語Ⅱ(2)				
職業専門科目 専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	○人体構造学Ⅰ(骨・筋系)(1)	○体表解剖学演習(1)			必修28科目28単位 選択 2科目 2単位
		○人体構造学Ⅱ(脈管・内臓系)(1)	○運動学実習(1)			
		○人体構造学Ⅲ(神経系)(1)				
		○人体構造学実習(1)				
		○人体機能学Ⅰ(1)				
		○人体機能学Ⅱ(1)				
		○人体機能学実習(1)				
		○運動学Ⅰ(1)				
		○運動学Ⅱ(1)				
		○人間発達学(1)				
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	○病理学(1)	○内科学(1)			
			○神経内科学Ⅰ(1)			
			○神経内科学Ⅱ(1)			
			○整形外科学Ⅰ(1)	○臨床薬理学(1)		
			○整形外科学Ⅱ(1)	○臨床・画像診断学(1)		
			○リハビリテーション医学(1)			
			○小児科学(1)			
			○臨床心理学(1)			
			○精神医学(1)			
			○臨床栄養学(1)			
			○救急援助論(1)			
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	○社会福祉学(1)	**※チーム医療論(1)**	○地域包括ケア論(1)		
			※トータルヘルスプロモーション(1)			
職業専門科目 専門科目	基礎作業療法学	○作業療法概論(1)	○作業療法研究論(1)	○基礎作業学実習Ⅱ(1)		必修42科目58単位 選択 3科目 3単位
		○基礎作業学(1)	○基礎作業学実習Ⅰ(1)			
	作業療法管理学	○医療関連法規(1)		○理学療法管理学(1)		
	作業療法評価学	○作業療法評価学総論Ⅰ(1)	○作業療法評価学総論Ⅱ(1)			
			○作業療法評価学実習(2)			
			○作業療法評価学Ⅰ(1)			
			○作業療法評価学Ⅱ(1)			
	作業療法治療法		○福祉用具学(1)	○身体障害作業療法学実習Ⅰ(1)		
			○日常生活活動学(2)	○身体障害作業療法学実習Ⅱ(1)		
			○身体障害作業療法学Ⅰ(1)	○作業療法義肢装具学(1)		
			○身体障害作業療法学Ⅱ(1)	○発達障害作業療法学Ⅰ(1)		
				○発達障害作業療法学Ⅱ(1)		
				○精神障害作業療法学Ⅰ(1)		
				○精神障害作業療法学Ⅱ(1)		
				○老年期障害作業療法学Ⅰ(1)		
				○老年期障害作業療法学Ⅱ(1)		
				○日常生活活動学実習Ⅰ(2)		
				○日常生活活動学実習Ⅱ(1)		
				※高次脳機能障害の治療法(1)		
				※認知症とその対処(1)		
				※レクレーション活動演習(1)		
	地域作業療法学		○地域作業療法学Ⅰ(1)	○地域作業療法学Ⅱ(1)		
				○地域作業療法学実習(2)		
	臨床実習	○作業療法見学実習(1)	○作業療法体験実習(2)	○作業療法評価実習(4)	○作業療法総合臨床実習(16)	
展開科目	必修展開科目		○ふるさと・紀州学(2)	○健康支援学(2)		必修 5科目10単位 選択 5科目10単位
			○組織論(2)			
			○地域活性企業論(2)			
			○コミュニケーション論(2)			
	選択展開科目		**※ソーシャルスキル論(2)**	**※支援ロボット論(2)**		
				※生涯スポーツ論(2)		
				※医用・福祉工学論(2)		
				※アンチエイジング(2)		
総合科目	作業療法総合科目			○応用理学療法演習Ⅰ(1)	**※専門職連携総合演習A(1)**	必修 3科目 4単位 選択 1科目 1単位
				○応用理学療法演習Ⅱ(1)	○理学療法総合演習(2)	
合計		38単位	39単位	41単位	19単位	137単位

○必修科目　**※選択科目**

図 12.　作業療法学専攻の履修モデル②

社会生活系作業療法履修モデル

（健康科学部リハビリテーション学科　作業療法学専攻）

		1年次	2年次	3年次	4年次	合計
基礎科目	科学的思考の基礎	○心理学(2)				必修11科目17単位 選択 4科目 4単位
		※生物学(2)				
		○物理学(1)				
		○統計学(2)				
		○健康科学				
		※IoT入門(1)				
		○健康とスポーツ(1)				
		○教育学Ⅰ(2)				
		○教育学Ⅱ (2)				
		○老年学(1)				
	社会の理解	**※社会学(1)**				
		○情報処理Ⅰ(1)				
		○英語Ⅰ(2)				
		○英語Ⅱ(2)				
職業専門科目 専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	○人体構造学Ⅰ(骨・筋系)(1)	○体表解剖学演習(1)			必修28科目28単位 選択 3科目 3単位
		○人体構造学Ⅱ(脈管・内臓系)(1)	○運動学実習(1)			
		○人体構造学Ⅲ(神経系)(1)				
		○人体構造学実習(1)				
		○人体機能学Ⅰ(1)				
		○人体機能学Ⅱ(1)				
		○人体機能学実習(1)				
		○運動学Ⅰ(1)				
		○運動学Ⅱ(1)				
		○人間発達学(1)				
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	○病理学(1)	○内科学(1)			
			○神経内科学Ⅰ(1)			
			○神経内科学Ⅱ(1)			
			○整形外科学Ⅰ(1)	○臨床薬理学(1)		
			○整形外科学Ⅱ(1)	○臨床・画像診断学(1)		
			○リハビリテーション医学(1)			
			○小児科学(1)			
			○臨床心理学(1)			
			○精神医学(1)			
			○臨床栄養学(1)			
			○救急援助論(1)			
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	○社会福祉学(1)	**※チーム医療論(1)**	○地域包括ケア論(1)	**※地域包括ケア演習(1)**	
			※トータルヘルスプロモーション(1)			
職業専門科目 専門科目	基礎作業療法学	○作業療法概論(1)	○作業療法研究論(1)	○基礎作業学実習Ⅱ(1)		必修42科目58単位 選択 3科目 3単位
		○基礎作業学(1)	○基礎作業学実習Ⅰ(1)			
	作業療法管理学	○医療関連法規(1)		○理学療法管理学(1)		
	作業療法評価学	○作業療法評価学総論Ⅰ(1)	○作業療法評価学総論Ⅱ(1)			
			○作業療法評価学実習(2)			
			○作業療法評価学Ⅰ(1)			
			○作業療法評価学Ⅱ(1)			
	作業療法治療法		○福祉用具学(1)	○身体障害作業療法学実習Ⅰ(1)		
			○日常生活活動学(2)	○身体障害作業療法学実習Ⅱ(1)		
			○身体障害作業療法学Ⅰ(1)	○作業療法義肢装具学(1)		
			○身体障害作業療法学Ⅱ(1)	○発達障害作業療法学Ⅰ(1)		
				○発達障害作業療法学Ⅱ(1)		
				○精神障害作業療法学Ⅰ(1)		
				○精神障害作業療法学Ⅱ(1)		
				○老年期障害作業療法学Ⅰ(1)		
				○老年期障害作業療法学Ⅱ(1)		
				○日常生活活動学実習Ⅰ(2)		
				○日常生活活動学実習Ⅱ(1)		
				※障害者スポーツ演習(1)		
				※認知症とその対処(1)		
				※レクレーション活動演習(1)		
	地域作業療法学		○地域作業療法学Ⅰ(1)	○地域作業療法学Ⅱ(1)		
				○地域作業療法学実習(2)		
	臨床実習	○作業療法見学実習(1)	○作業療法体験実習(2)	○作業療法評価実習(4)	○作業療法総合臨床実習(16)	
展開科目	必修展開科目		○ふるさと・紀州学(2)	○健康支援学(2)		必修 5科目10単位 選択 5科目10単位
			○組織論(2)			
			○地域活性企業論(2)			
			○コミュニケーション論(2)			
	選択展開科目		**※ソーシャルスキル論(2)**	**※地域防災論(2)**		
				※障害児教育論(2)		
				※地域連携研究(2)		
				※生涯スポーツ論(2)		
科目 総合	作業療法総合科目			○応用理学療法演習Ⅰ(1)	**※専門職連携総合演習B(1)**	必修 3科目 4単位 選択 1科目 1単位
				○応用理学療法演習Ⅱ(1)	○理学療法総合演習(2)	
合計		38単位	40単位	40単位	20単位	138単位

図 12. 作業療法学専攻の履修モデル③

地域連携系作業療法履修モデル

（健康科学部リハビリテーション学科　作業療法学専攻）

		1年次	2年次	3年次	4年次	合計
基礎科目	科学的思考の基礎	○心理学(2)				必修11科目17単位 選択 4科目 4単位
		○物理学(1)				
		○統計学(2)				
		○情報科学(1)				
		選プログラミング(1)				
		選ICT入門(1)				
		○情報とメディア(1)				
		○教育学Ⅰ(2)				
		○教育学Ⅱ (2)				
		○老年学(1)				
	社会の理解	選社会学(1)				
		選法学(1)				
		○情報処理Ⅰ(1)				
		○英語Ⅰ(2)				
		○英語Ⅱ(2)				
保健専門科目	専門基礎科目	○人体構造学Ⅰ(骨・筋系)(1)	○体表解剖学演習(1)			必修28科目28単位 選択 4科目 4単位
		○人体構造学Ⅱ(脈管・内臓系)(1)	○運動学実習(1)			
		○人体構造学Ⅲ(神経系)(1)				
		○人体構造学実習(1)				
		○人体機能学Ⅰ(1)				
		○人体機能学Ⅱ(1)				
		○人体機能学実習(1)				
		○運動学Ⅰ(1)				
		○運動学Ⅱ(1)				
		○人間発達学(1)				
		○病理学(1)	○内科学(1)			
			○神経内科学Ⅰ(1)			
			○神経内科学Ⅱ(1)			
			○整形外科学Ⅰ(1)	○臨床薬理学(1)		
			○整形外科学Ⅱ(1)	○臨床・画像診断学(1)		
			○リハビリテーション医学(1)			
			○小児科学(1)			
			○臨床心理学(1)			
			○精神医学(1)			
			○臨床栄養学(1)			
			○救急医助論(1)			
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	○社会福祉学(1)	選チーム医療論(1)	○地域包括ケア論(1)	選地域連携実習(1)	
			選ヘルスプロモーション(1)		選地域包括ケア演習(1)	
	専門科目	○作業療法概論(1)	○作業療法研究論(1)	○基礎作業学実習Ⅱ(1)		必修42科目58単位 選択 1科目 1単位
		○基礎作業学(1)	○基礎作業学実習Ⅰ(1)			
		○医療関連法規(1)		○理学療法管理学(1)		
		○作業療法評価学総論Ⅰ(1)	○作業療法評価学総論Ⅱ(1)			
			○作業療法評価学実習(2)			
			○作業療法評価学Ⅰ(1)			
			○作業療法評価学Ⅱ(1)			
			○福祉用具学(1)	○身体障害作業療法学実習Ⅰ(1)		
			○日常生活活動学(2)	○身体障害作業療法学実習Ⅱ(1)		
			○身体障害作業療法学Ⅰ(1)	○作業療法臨床応用学(1)		
			○身体障害作業療法学Ⅱ(1)	○発達障害作業療法学Ⅰ(1)		
				○発達障害作業療法学Ⅱ(1)		
				○精神障害作業療法学Ⅰ(1)		
				○精神障害作業療法学Ⅱ(1)		
				○老年期障害作業療法学Ⅰ(1)		
				○老年期障害作業療法学Ⅱ(1)		
				○日常生活活動学実習Ⅰ(2)		
				○日常生活活動学実習Ⅱ(1)		
				選認知症とその対処(1)		
	地域作業療法学		○地域作業療法学Ⅰ(1)	○地域作業療法学Ⅱ(1)		
				○地域作業療法学実習(2)		
	臨床実習	○作業療法見学実習(1)	○作業療法体験実習(2)	○作業療法評価実習(4)	○作業療法総合臨床実習(16)	
隣接科目	必修隣接科目		○ふるさと・祝州学(2)	○健康支援学(2)		必修 5科目10単位 選択 5科目10単位
			○組織論(2)			
			○地域福祉企画論(2)			
			○コミュニケーション論(2)			
	選択隣接科目		選保育と心理(2)	選疫学概論(2)		
			選地方自治と生活(2)	選障害児教育論(2)		
				選地域連携研究(2)		
科目総合	作業療法総合科目			○応用理学療法演習Ⅰ(1)	選専門職連携総合演習C(1)	必修 3科目 4単位 選択 1科目 1単位
				○応用理学療法演習Ⅱ(1)	○理学療法総合演習(2)	
合計		38単位	42単位	36単位	21単位	137単位

○必修科目　選選択科目

図 12. 作業療法学専攻の履修モデル④

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（43 ページ～45 ページ）

新	旧
9. 興味関心を中心とした選択科目：履修モデル（＊資料 18） 〔理学療法学専攻の履修モデル〕 理学療法学専攻の履修モデルは 3 コース、① 医療系理学療法履修モデル、② 健康スポーツ系理学療法履修モデル、③ 地域連携系理学療法履修モデル である。 ① 医療系理学療法履修モデル 医療分野において理学療法士の必要性は更に高まっている。少子化超高齢化が進む一方で、医療が高度化し治療費が高額化する現在から将来を見据え、社会保障費の伸びをどのように抑制していくのか大きな社会問題となり国民的課題となっている。こうした社会情勢の中で、理学療法士が医療分野において、いかに対応していけば良いのか、医学の進歩に対応できるように関連領域の知見を学び、応用力と創造性に優れた理学療法学の発展が必要である。目指すのは、医療分野における、運動器、脳血管障害、神経・筋疾患、内部疾患（心臓・呼吸・循環・代謝）などの認定・専門理学療法士であり、あるいは、物理療法や徒手療法などの特殊テクニックのスペシャリストである。専門領域に特化して研究を推進していくこともできるようにその基礎的素養を身につける。 ② 健康スポーツ系理学療法履修モデル 2020 年東京オリンピックで問題になったことのひとつに、日本には、現在、国際標準となっているロンドンやリオの各会場でも当たり前であった「救命救急のできるスポーツ理学	**9. 興味関心を中心とした選択科目：履修モデル** 社会的ニーズから、本学は学生が個々に社会的ニーズを把握し、興味関心に基づいた履修モデルを作成した。興味関心に基づいた履修モデルとは、選択科目の内容を把握し、どこに興味関心を抱くのか、また履修のねらいをまとめたものである。選択科目を決定する際にガイダンスを行い、社会的ニーズを理解させてから興味・関心に基づいた履修モデルを使用する予定である。

療法士」が存在しないことである。法的には緊急時に手が出せず、医師、看護師、救命救急士の助けを借りなければならない現状がある。新指定規則の中にようやく「救命救急及び予防の基礎」が位置づけられ、今後は国際標準スポーツ理学療法士を養成していくことが課題となっている。また、社会保険費の高騰の中で、その対策として、いかに健康寿命を延伸していくかが問われている、そのための一次予防・二次予防・三次予防の充実が重要な課題となっている。一次予防において、いかにして健康を維持・増進し、心身の老化を遅らせるのか、子どもの健やかな発達を促進する、また働く世代における産業における保健や生涯にわたる身体運動・スポーツ継続の必要性も高まっており、自ら起業し経営に臨むことも含めて関連領域を巻き込んだ理学療法士の介入によりこの課題に取り組んでいけるように育成したい。障害児から障害者の健康・スポーツにも目を向け、傷害の予防・回復における理学療法の基礎を学修する。目指すのは、健康スポーツ分野における理学療法のスペシャリストであり、その基礎的素養を身につけることである。 ③ 地域連携系理学療法履修モデル 地域においては、少子化・超高齢化など喫緊の問題に留まらず、気候変動の影響による災害とその規模の増大も含めて、子どもから老人まですべての人々の生活と疾病・障害・介護・福祉への対策が課題となっている、政府は、強力に地域包括支援システムを定着・発展させていこうとしている。地域における理学療法士は、地方行政をはじめ多職種・他部門の専門職と連携し、応用力と創造力をもって、不足している分野があれば補完してつないでいけるように課題に取り組む社会的要請がある。目指すのは、それらに応えて、乳児から高齢者まですべての人々の生活を守れるように、総合的に理	

学療法を活用できるゼネラリストへの基礎的素養を身につけることである。将来は、地域連携の隙間を埋める支援システム等の研究・開発が手がけられる創造力や応用力も期待される。

〔作業療法学専攻の履修モデル〕

作業療法学専攻の履修モデルは 4 コース、①医療系作業療法（身体機能支援）履修モデル、② 医療系作業療法（認知・行為支援）履修モデル、③ 社会生活系作業療法履修モデル、④地域連携系作業療法モデルの 4 つを掲げている。

① 医療系作業療法（身体機能支援）履修モデル

医療から健康・医療課題を捉え、疾病・障害を予防し、心身機能および社会生活活動の支援やその分野の探求心や研究心を養うモデルとして掲げている。このモデルでは主に身体機能の支援を中心に履修する科目を設定している。

② 医療系作業療法（認知・行為支援）履修モデル

医療から健康・医療課題を捉え、疾病・障害を予防し、心身機能および社会生活活動の支援やその分野の探求心や研究心を養うモデルとして掲げている。このモデルでは主に認知機能や生活・社会行為の支援を中心に履修する科目を設定している。

③ 社会生活系作業療法履修モデル

保健医療福祉に関わる関連職種や多職種と連携・協調し、心身機能および社会生活活動の維持・回復・改善を促進し、地域社会へ貢献する探求心や研究心を養うモデルとして掲げている。

④ 地域連携系作業療法モデル

近年の急速な介護・医療制度改革により、医療・介護の流れが「施設」から「施設」への流れから「施設」から「地域」への流れに大きくシフトしてきている。それに伴って、医療関係機関の機能分化だけでなく、病床の機能分化までもが求められてきているため、病床・機関・施設・地域間など、より細かな連携をシームレスな関係で構築していかなければならない。このような、より細かな連携をシームレスな関係で構築いていくためには、学生の段階から本学で、他領域の専門職や他施設の職員と効果的な対人行動や社会的スキルを培っていく必要がある。さらに、作業療法士としての専門的な力である作業活動を通して学ぶ、自立生活支援に向けて取り組んでいくための知識に加えて、支援していく対象者の生活の場となる地域の自然的、社会的、人文的特徴を踏まえた地域の現状を把握していく必要がある。また、地域の健常な子どもから高齢者だけでなく、障害児から障害者までのあらゆるレベルの人たちの声を漏れなく傾聴していく姿勢を培っていくことで、作業療法士単独の視野だけでなく、支援に関わる専門職や地域が一丸となって、地域ぐるみの支援を目指したチームの牽引役に繋がっていく。	

【教員組織等】

（是正事項）健康科学部　リハビリテーション学科

１３．＜ディプロマ・ポリシーと整合した教員組織か不明＞
ディプロマ・ポリシーに記載された「リハビリテーション専門職分野の最新かつ先端部分の情報を積極的に収集する」能力を教授するためには、各教員についても当該専攻分野の「最新かつ先端部分」の教育研究に取り組むことが求められるが、それを担保できる教員組織体制となっているか不明確なため、明らかにすること。

（対応）

ご指摘の通り、ディプロマ・ポリシー（DP）に「リハビリテーション専門職分野の最新かつ先端部分の情報を積極的に収集し、･･･ 能力を身につけていること」と記載してあったが、「の最新かつ先端部分」を削除し、「リハビリテーション専門分野を生涯にわたって学び、創造的かつ応用的に実践し、リハビリテーションを発展させる姿勢を身につけていること。」に変更した。その理由としては、申請時の DP では、「最新かつ先端部分の情報を積極的に収集する」能力を身につけていることが、ことさら強調されて読みとれてしまう傾向があった。しかし、本学が意図したことは、収集した情報を活用し「創造的かつ応用的に取り組み、リハビリテーション学を発展させる」ことが主として重要であり、収集する情報の中には「最新かつ先端部分」も含まれるので、あえて記述するまでも無いと捉えて削除した。重視していることは、収集する「能力」や「取り組み」ではなく、「生涯にわたって学ぶ姿勢」であるので、この部分を改めた。発展させる姿勢には、「学」だけでなく、実践（臨床）も含むので、「学」を削除した。

本学の教員は、DP を教授し、そのために教育研究を遂行することが求められている。独自の研究領域を有しテーマ定めて、「最新かつ先端部分」を含めた専門領域及び関連領域の情報を収集し、協力して積極的に教育研究に取り組む教員組織体制を確立することになっている。また、そのための環境として図書館の整備や施設・機器・備品の計画的な導入も予定している。

DP を教授し、そのための教育研究の大きな目的と教員組織体制については、「設置の趣旨等を記載した書類」の冒頭「第１ 設置の趣旨及び必要性」「Ⅰ．和歌山リハビリテーション専門職大学の建学の理念と目的」の次に記され、教員は、組織的に教育研究に取り組むこと体制となっているので、その部分を抜粋する。

Ⅱ．教育研究上の目的

1. 新大学の役割は、教育、研究拠点となり、地域を担う高度専門職業人材の育成である。

2. 新大学には、学生の自己省察力、社会を展望する力、創造力、デザイン力、新しいもの、価値をプロデュースする展開力を高め、地域社会に貢献する使命がある。

3. 学び続ける基盤として大学はある。生涯、学習を続け、人格の涵養と特に医療専門職は

日進月歩の医学の進歩に遅れないよう専門知識、技能をアップデートしていくことが必須であり、その修練の場が本専門職大学である。

4. 新大学の教育研究上の中心的学問分野は、リハビリテーション分野である。研究の対象とする主たる学問分野は、リハビリテーション学と関連する保健・医療・福祉の領域であり対象者はシンボリックに言うと「ゆりかごから、100 歳まで」と幅広い年齢層にわたる。

と記されている。

また、上記の同書類「第 5　教員組織の編成の考え方及び特色」において、専攻ごとに及び専攻を超えた教員組織が、教育研究を継続しそれを担保するための管理運営体制が記されているので、「設置の趣旨等を記載した書類」から、当該部分を抜粋する。

第 12　管理運営

Ⅰ. 管理運営体制の概要

大学の重要事項について、協議・連絡調整する組織として運営会議を、教育・研究に関する事項のうち、学校教育法第 93 条第２項各号に掲げる事項について、学長に意見を述べるため、また、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じて意見を述べるため教授会を置く

Ⅱ. 運営会議

（略）

Ⅲ. 教授会

（略）

（4）教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

（略）

③教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

また、教授会は、(4)に掲げる事項のほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

（略）

Ⅳ. 各種委員会

（略）

①自己点検・評価委員会：所掌事項の冒頭　教育研究

（略）

③研究委員会：所掌事項 教員の学術研究活動の推進に関する事項 に関する委員会を設置する

④研究倫理審査委員会:所掌事項 人を直接対象とする研究に関する倫理的審査及び公正な研究活動

の推進や研究費の取り扱いに関する不正防止等に関する事項 に関する委員会を設置する

（略）

⑧紀要委員会：所掌事項 紀要の編集に関する事項

⑬教員活動評価委員会：教員活動評価に関する事項

第 13　自己点検・評価

（略）

Ⅲ．点検･評価項目等

（略）

3. 研究活動に関する事項

（研究活動、学術論文の発表、学術誌への投稿、講演、学会活動、外部資金獲得の状況など）

（略）

8. 教育研究環境に関する事項

（教育研究環境としての人員配置、施設・設備の適切性、教育研究上の組織の適切性など）

（略）

また、学校教育法施行令第 40 条に定める期間（７年以内）毎に、文部科学省認証評価機関による認証評価を受けるものとする。

自己点検･評価委員会に関する必要事項は、「自己点検･評価委員会規程」に定める。

第 14　情報の公表

本学は、高齢化が急速に進む今日の社会を視野に入れ、障害を持つ患者さんや高齢者等にリハビリテーション科学の知識に興味･関心を持ってもらい､全ての人の笑顔を取り戻すため、より適切な支援を行い、医療や福祉の分野に貢献するため、教育研究等の一層の質の向上を図ることを目的に、「Live Longer Better」の教育理念のもと、本学の建学の精神及び教育研究活動に関する様々な情報を公表し、公的な教育機関としての責務と地域社会に対する説明責任を果たす。

（略）

と記されている。

ご指摘の通り「最新かつ先端部分」に対応する教員組織体制であるという記載はないが、本

学では、大学の教育研究上の目的を継続的に履行するために各規定を設け、各委員会において諸々問題があればその都度検討を加え教授会へ上申して解決が図られる。そのようにして専攻を超えて積極的な教育研究を推進する教員組織体制の確立を目指している。

【名称、その他】

（是正事項）健康科学部　リハビリテーション学科

１４．＜入試に関する説明が不整合＞
入試に関する記載について、以下の点を是正すること。

（１）各入試区分で受け入れる学生割合について合算すると、１００％を超過するため、適切に改めること。

（対応）

ご指摘の通り、各入試区分で受け入れる学生割合について合算すると、１００％を超過するため、下記の通り訂正した。また、令和3年度より変更される文部科学省の大学入学者選抜実施要項に則り、各入試の呼称及び内容を変更する。

Ⅲ．入試区分と募集定員

大きく分けて　（1）一般選抜、（2）学校推薦型選抜、（3）社会人選抜、（4）総合型選抜の4区分を設定する。

（1）一般選抜（Ⅰ－Ⅲ期選抜及び専門高校選抜）：定員の25％程度

次のいずれかに該当する者

① 高等学校（専門高校入試の場合、専門高等学校）又は中等教育学校を卒業した者、及び卒業見込みの者

② 通常の課程による12年の学校教育（専門高校入試の場合、専門高等学校）を修了した者、及び修了見込みの者

③ 学校教育法施行規則第150条の規定により高等学校（専門高校入試の場合、専門高等学校）を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び入学年度の前年度3月末までにこれに該当する見込みの者

④ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校（専門高校入試の場合、専門高等学校）を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学年度の４月１日現在18歳に達したもの

（目的および合否判断）

アドミッション・ポリシーに基づいて、大学の授業を理解する基礎学力とともに本学の教育課程を学修するに足る資質・能力を有する者を入学させることを目的に、入試において、国語・英語の２科目を必修および数学ＩＡ・物理Ⅰ・化学Ⅰ・生物Ⅰから１科目選択の合計３科目並びに面接、専門高校は、国語・英語から１科目選択および数学ＩＡ・物理Ⅰ・化学Ⅰ・生物Ⅰから１科目選択の合計２科目並びに面接から学力を総合判定する。

加えて、面接において、リハビリテーションの分野で、人々の豊かな生活の実現に向けて強い意欲と情熱を持ち続けられるか否か判定した上で、受け入れ学生を決定することを目的とする。

（2）学校推薦型選抜（指定校、学校長、専門高校・総合学科卒業生対象）

：定員の 50%以内。

【学校推薦型選抜】和歌山県内、大阪府南部の高等学校を中心に指定校を選定する。

（受験資格）　① 学業人物とも優秀であり、出身高等学校長より推薦された入学年度の前年度３月に卒業見込みの者

② 調査書の評定平均値が本学指定以上の者

③ 合格した場合は必ず入学する者

（目的および合否判定）

本学と信頼関係のある県内の高等学校を中心とした各学校を指定校に選定し、出身学校長から推薦された者で、調査書の評定平均値が本学の指定以上を有する者を対象に、医療分野と福祉・保健への興味・関心、健康を科学的に考え、究明する意欲や向上心等について、60 分 800 字程度の小論文および面接を課して、総合的に受け入れ学生を決定する。

（3）社会人選抜：定員若干名

※ただし、（2）の一般選抜の定員の中に含む

＜社会人の定義＞

次の①に該当する者で、なおかつ②または③に該当する者

① 入学年度の４月１日現在満 23 歳以上で、かつ、１年以上の社会経験のある者（主婦、家事手伝い、アルバイトなども可）

② 高等学校を卒業した者または学校教育法施行規則第 150 条の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者

③ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（目的および合否判定）

社会人の定義で定められた者で、社会において一定の職業に従事する中で、健康はじめ医療、福祉・保健等の大切さに気づき、リハビリテーションに興味・関心を抱いた者を対象に、次の試験科目を課す。

アドミッション・ポリシーの理念を踏まえ、「健康寿命の延伸にかかる自然および社会環境、食糧、医薬等」の各分野における具体的な課題について 60 分 800 字の小論文および社会人として他者と協調・協働できる一般教養試験、医療人として地域・社会に貢献への目的意識等についての面接および調査書内容を総合的に判断し受け入れ学生を個別に決定する。

（4）総合型選抜：定員の 25%程度

合格した場合は必ず入学する意思のある者で、次の何れかに該当する者

① 高等学校又は中等教育学校を卒業した者、及び卒業見込みの者

② 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者、及び終了見込みの者

③ 学校教育法施行規則第 150 条の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び入学年度の前年度末までにこれに該当する見込みの者

④ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者で、入学年度の４月１日現在 18 歳に達したもの

（目的および合否判定）

上記に定められた開設２年目以降におけるＡＯ入試出願資格を有する者で、リハビリテーション分野を通して医療・福祉の充実・発展、人々の健康寿命延伸に寄与したいと希望している者を対象に、他者との協調・協働について適正検査を行い、面接および調査書内容を総合的に判断し受け入れ学生を個別に決定する。

（5）募集定員

	入学定員	学校推薦型選抜	総合型選抜	一般選抜	社会人選抜
理学療法学専攻	40 人	20 人	10 人	10 人	若干名
作業療法学専攻	40 人	20 人	10 人	10 人	若干名

＊特別入試の募集定員の若干名は一般入試の定員に含まれる。

（6）外国籍の入学希望者の取り扱い

外国籍を有する入学希望者については、別途定める規定に則り取り扱う

Ⅳ．入学試験科目等

（1）一般選抜

① Ⅰ－Ⅲ期入試：国語（古文、漢文を除く）、コミュ英Ⅰの２科目必修及び数学Ⅰ、物理基礎、化学基礎、生物基礎から１科目選択の計３科目並びに面接

② 専門高校入試：国語（古文、漢文を除く）、コミュ英Ⅰの２科目必修及び数学Ⅰ、物理基礎、化学基礎、生物基礎から１科目選択の計３科目並びに面接

（2）学校推薦型選抜

小論文と面接及び調査書

（3）社会人選抜

小論文、面接及び調査書

（4）総合型選抜

小論文、書類審査、面接及び活動検査

Ⅴ．合否判定

試験区分	合　否　判　定
・一般選抜 （Ⅰ－Ⅲ期入試） （専門高校入試）	科目試験と面接結果を点数化し成績上位者順に合格者を決定する。

・学校推薦型選抜	・調査書内容を中心に小論文及び面接の結果を点数化したものを総合的に判断し、合否を判定する。
・社会人選抜	小論文及び面接の結果を点数化したものと調査書内容を総合的に判断し、合否を判定する。
・総合型選抜	小論文、活動検査及び面接の結果を点数化したものと調査書内容を総合的に判断し、合否を判定する。

（新旧対照表）設置の趣旨を記載した書類（67 ページ～70 ページ）

新	旧
Ⅲ．入試区分と募集定員 大きく分けて　（1）一般選抜、（2）学校推薦型選抜、（3）社会人選抜、（4）総合型選抜の 4 区分を設定する。 **（1）一般選抜**（Ⅰ－Ⅲ期選抜及び専門高校選抜）：定員の 25%程度 次のいずれかに該当する者 ① 高等学校（専門高校入試の場合、専門高等学校）又は中等教育学校を卒業した者、及び卒業見込みの者 ② 通常の課程による 12 年の学校教育（専門高校入試の場合、専門高等学校）を修了した者、及び修了見込みの者 ③ 学校教育法施行規則第 150 条の規定により高等学校（専門高校入試の場合、専門高等学校）を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び入学年度の前年度3月末までにこれに該当する見込みの者	**Ⅲ．入試区分と募集定員** 大きく分けて　（1）一般入試、（2）推薦入試、（3）特別入試の 3 区分を設定する。なお、開設 2 年目以降については AO 入試を加えることを検討する。 **（1）一般入試**（Ⅰ－Ⅲ期入試及び専門高校入試）：定員の 40%程度 次のいずれかに該当する者 ① 高等学校（専門高校入試の場合、専門高等学校）又は中等教育学校を卒業した者、及び卒業見込みの者 ② 通常の課程による 12 年の学校教育（専門高校入試の場合、専門高等学校）を修了した者、及び修了見込みの者 ③ 学校教育法施行規則第 150 条の規定により高等学校（専門高校入試の場合、専門高等学校）を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び入学年度の前年度3月末までにこ

④ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校（専門高校入試の場合、専門高等学校）を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学年度の４月１日現在 18 歳に達したもの （目的および合否判断） アドミッション・ポリシーに基づいて、大学の授業を理解する基礎学力とともに本学の教育課程を学修するに足る資質・能力を有する者を入学させることを目的に、入試において、国語・英語の２科目を必修および数学ＩＡ・物理Ⅰ・化学Ⅰ・生物Ⅰから１科目選択の合計３科目並びに面接、専門高校は、国語・英語から１科目選択および数学ＩＡ・物理Ⅰ・化学Ⅰ・生物Ⅰから１科目選択の合計２科目並びに面接から学力を総合判定する。 加えて、面接において、リハビリテーションの分野で、人々の豊かな生活の実現に向けて強い意欲と情熱を持ち続けられるか否か判定した上で、受け入れ学生を決定することを目的とする。 **（２）学校推薦型選抜**（指定校、学校長、専門高校・総合学科卒業生対象） 定員の 50%以内。 **【学校推薦型選抜】**和歌山県内、大阪府南部の高等学校を中心に指定校を選定する。 （受験資格） ① 学業人物とも優秀であり、出身高等学校長より推薦された入学年度の前年度３月に卒業見込みの者 ② 調査書の評定平均値が本学指定以上の者 ③ 合格した場合は必ず入学する者 （目的および合否判定） 本学と信頼関係のある県内の高等学校を中心とした各学校を指定校に選定し、出身学校長から推薦された者で、調査書の評定平均値が本	れに該当する見込みの者 ④ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校（専門高校入試の場合、専門高等学校）を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学年度の４月１日現在 18 歳に達したもの （目的および合否判断） アドミッション・ポリシーに基づいて、大学の授業を理解する基礎学力とともに本学の教育課程を学修するに足る資質・能力を有する者を入学させることを目的に、入試において、国語・英語の２科目を必修および数学ＩＡ・物理Ⅰ・化学Ⅰ・生物Ⅰから１科目選択の合計３科目並びに面接、専門高校は、国語・英語から１科目選択および数学ＩＡ・物理Ⅰ・化学Ⅰ・生物Ⅰから１科目選択の合計２科目並びに面接から学力を総合判定する。 加えて、面接において、リハビリテーションの分野で、人々の豊かな生活の実現に向けて強い意欲と情熱を持ち続けられるか否か判定した上で、受け入れ学生を決定することを目的とする。 **（２）推薦入試**（指定校、学校長、専門高校・総合学科卒業生対象）：定員の 50%以内。 **【推薦入試】**和歌山県内の高等学校を中心に指定校を選定する。 （受験資格） ① 学業人物とも優秀であり、出身高等学校長より推薦された入学年度の前年度３月に卒業見込みの者 ② 調査書の評定平均値が本学指定以上の者 ③ 合格した場合は必ず入学する者 （目的および合否判定） 本学と信頼関係のある県内の高等学校を中心とした各学校を指定校に選定し、出身学校長から推薦された者で、調査書の評定平均値が本学の指定以上を有する者を対象に、医療分野と

学の指定以上を有する者を対象に、医療分野と福祉・保健への興味・関心、健康を科学的に考え、究明する意欲や向上心等について、60 分 800 字程度の小論文および面接を課して、総合的に受け入れ学生を決定する。

（3）社会人選抜：定員若干名
※ただし、（2）の一般選抜の定員の中に含む
＜社会人の定義＞
次の①に該当する者で、なおかつ②または③に該当する者
① 入学年度の４月１日現在満 23 歳以上で、かつ、１年以上の社会経験のある者（主婦、家事手伝い、アルバイトなども可）
② 高等学校を卒業した者または学校教育法施行規則第 150 条の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者
③ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
（目的および合否判定）
社会人の定義で定められた者で、社会において一定の職業に従事する中で、健康はじめ医療、福祉・保健等の大切さに気づき、リハビリテーションに興味・関心を抱いた者を対象に、次の試験科目を課す。
アドミッション・ポリシーの理念を踏まえ、「健康寿命の延伸にかかる自然および社会環境、食糧、医薬等」の各分野における具体的な課題について 60 分 800 字の小論文および社会人として他者と協調・協働できる一般教養試験、医療人として地域・社会に貢献への目的意識等についての面接および調査書内容を総合的に判断し受け入れ学生を個別に決定する。

（4）総合型選抜：定員の 25%程度
福祉・保健への興味・関心、健康を科学的に考え、究明する意欲や向上心等について、60 分 800 字の小論文および面接を課して、総合的に受け入れ学生を決定する。

（3）特別入試（社会人）：定員若干名
【社会人入試】
＜社会人の定義＞
次の①に該当する者で、なおかつ②または③に該当する者
① 入学年度の４月１日現在満 23 歳以上で、かつ、１年以上の社会経験のある者（主婦、家事手伝い、アルバイトなども可）
② 高等学校を卒業した者または学校教育法施行規則第 150 条の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者
③ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
（目的および合否判定）
社会人の定義で定められた者で、社会において一定の職業に従事する中で、健康はじめ医療、福祉・保健等の大切さに気づき、リハビリテーションに興味・関心を抱いた者を対象に、次の試験科目を課す。
アドミッション・ポリシーの理念を踏まえ、「健康寿命の延伸にかかる自然および社会環境、食糧、医薬等」の各分野における具体的な課題について 60 分 800 字の小論文および社会人として他者と協調・協働できる一般教養試験、医療人として地域・社会に貢献への目的意識等についての面接および調査書内容を総合的に判断し受け入れ学生を個別に決定する。

（4）AO 入試：定員の 20%程度
合格した場合は必ず入学する意思のある者で、次の何れかに該当する者

合格した場合は必ず入学する意思のある者で、次の何れかに該当する者
① 高等学校又は中等教育学校を卒業した者、及び卒業見込みの者
② 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者、及び終了見込みの者
③ 学校教育法施行規則第 150 条の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び入学年度の前年度末までにこれに該当する見込みの者
④ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者で、入学年度の４月１日現在18 歳に達したもの
（目的および合否判定）
上記に定められた開設２年目以降におけるＡＯ入試出願資格を有する者で、リハビリテーション分野を通して医療・福祉の充実・発展、人々の健康寿命延伸に寄与したいと希望している者を対象に、他者との協調・協働について適正検査を行い、面接および調査書内容を総合的に判断し受け入れ学生を個別に決定する。

（5）募集定員

	入学定員	[illegible]	総合型選抜	一般選抜	社会人選抜
理学療法学専攻	40人	20人	10人	10人	若干名
作業療法学専攻	40人	20人	10人	10人	若干名

Ⅳ．入学試験科目等

（1）一般選抜

① Ⅰ－Ⅲ期入試：国語（古文、漢文を除く）、コミュ英Ⅰの２科目必修及び数学Ⅰ、物理基礎、化学基礎、生物基礎から１科目選択の計３科目並びに面接
② 専門高校入試：国語（古文、漢文を除く）、コミュ英Ⅰの２科目必修及び数学Ⅰ、物

① 高等学校又は中等教育学校を卒業した者、及び卒業見込みの者
② 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者、及び終了見込みの者
③ 学校教育法施行規則第 150 条の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び入学年度の前年度末までにこれに該当する見込みの者
④ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者で、入学年度の４月１日現在18 歳に達したもの
（目的および合否判定）
上記に定められた開設２年目以降におけるＡＯ入試出願資格を有する者で、リハビリテーション分野を通して医療・福祉の充実・発展、人々の健康寿命延伸に寄与したいと希望している者を対象に、他者との協調・協働について適正検査を行い、面接および調査書内容を総合的に判断し受け入れ学生を個別に決定する。

（5）募集定員

	入学定員	推薦入試	AO入試	一般入試	特別入試
理学療法学専攻	40人	20人	10人	10人	若干名
作業療法学専攻	40人	20人	10人	10人	若干名

Ⅳ．入学試験科目等

（1）一般入試

① Ⅰ－Ⅲ期入試：国語（古文、漢文を除く）、コミュ英Ⅰの２科目必修及び数学Ⅰ、物理基礎、化学基礎、生物基礎から１科目選択の計３科目並びに面接
② 専門高校入試：国語（古文、漢文を除く）、コミュ英Ⅰの２科目必修及び数学Ⅰ、物理基礎、化学基礎、生物基礎から１科目選択の計３科目並びに面接

（2）推薦入試

理基礎、化学基礎、生物基礎から１科目選択の計３科目並びに面接 **（２）学校推薦型選抜** 小論文と面接及び調査書 **（３）社会人選抜** 小論文、面接及び調査書 **（４）総合型選抜** 小論文、書類審査、面接及び活動検査	小論文と面接及び調査書 **（３）特別入試** 小論文、面接及び調査書 **（４）AO 入試** 書類審査、面接及び活動検査

（是正事項）健康科学部　リハビリテーション学科

１４．＜入試に関する説明が不整合＞
入試に関する記載について、以下の点を是正すること。

（２）入学者選抜のⅢ（２）の推薦入試の説明では、推薦書、調査書、小論文および面接を課して総合的に決定するとされている一方でⅤの合否判定の説明では推薦について「原則として指定高等学校との信頼関係の上に立ち合格とする」と記載があり不整合である。修正するとともに、アドミッション・ポリシーにもとづいて選抜が行われていることを説明すること。

（対応）

ご指摘の通り、設置の趣旨等を記載した書類「入学者選抜Ⅲ（２）」の推薦入試の説明と「Ⅴ合否判定」の記載が不整合であるため、「Ⅴ合否判定」の「原則として指定高等学校との信頼関係の上に立ち合格とする」を「小論文及び面接の結果を点数化したものと調査書内容を中心に判断し、合否を判定する。」に修正した。

また、本専門職大学の入学者選抜がアドミッション・ポリシーにもとづいて選抜が行われていることを下記の通り説明する。

1 求める学生像

和歌山リハビリテーション専門職大学では、リハビリテーション分野における総合的な教育研究の充実・発展に貢献していくための学業を、成就する基礎能力と高いく志を持ち、厚生（医療、保健、福祉）の観点から、AP1 当専門職大学の建学の理念を深く理解している人、AP2 当専門職大学を修了する為に必要な基礎学力を有する人、AP3 社会に共生する人間としての自覚を有し自律的に行動出来るひと、AP4 他者を思いやることが出来、他者と協調し協働できる人、AP5 地域に暮らしている人々の豊かな生活実現に向けて、強い目的意識と情熱を持ち続けられる人を求めます。さらに、専攻ごとに学びの特色に応じて求める学生像を定めています。

(1)推薦入試（指定校、公募型）：定員の 50%以内。

【推薦入試】和歌山県内の高等学校を中心に指定校を選定する。

調査書により受験者の知識・技能の習得状況、特別活動における主体性や協働性、特定分野での卓越した能力などを把握する。

（受験資格）

① 学業人物とも優秀であり、出身高等学校長より推薦された入学年度の前年度３月に卒業見込みの者
② 調査書の評定平均値が本学指定以上の者
③ 合格した場合は必ず入学する者

(2)特別入試（社会人）：定員若干名

※ただし、(1) の推薦入試（指定校、公募型）：定員の 50%以内の中に含む

【社会人入試】

＜社会人の定義＞

次の①に該当する者で、なおかつ②または③に該当する者が受験できる

① 入学年度の4月1日現在満23歳以上で、かつ、1年以上の社会経験のある者（主婦、家事手伝い、アルバイトなども可）
② 高等学校を卒業した者または学校教育法施行規則第150条の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者
③ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

和歌山リハビリテーション専門職大学アドミッション・ポリシー

理念・理解 AP1	当専門職大学の建学の理念を深く理解している人
知識・教養 AP2	当専門職大学を修了する為に必要な基礎学力を有する人
共生・自律 AP3	社会に共生する人間としての自覚を有し自律的に行動出来る人
協調・協働 AP4	他者を思いやることが出来、他者と協調し協働できる人
意識・情熱 AP5	地域に暮らしている人々の豊かな生活実現に向けて、強い目的意識と情熱を持ち続けられる人

2 理学療法学専攻

理学療法学専攻で求める人材像は、「理学療法士養成課程を学んでいくために必要となる、当専門職大学の建学の理念を深く理解しているとともに、修了する為に必要な基礎学力を有し、社会に共生する人間としての自覚を持って自律的に行動できる人。併せて、他者を思いやることが出来、理学療法士養成課程の中で、他者と協調し協働していくことの重要性を学んでいくことで、地域に暮らしている人々の豊かな生活実現の達成に向けて、強い目的意識と情熱を持ち続けられる人」を選抜する。

理学療法学専攻アドミッション・ポリシー

理念・理解 AP1	理学療法士養成課程を学んでいくために必要となる、当専門職大学の建学の理念を深く理解している人
知識・教養 AP2	当専門職大学を修了する為に、理学療法士養成課程で必要となる基礎学力を有する人

共生・自律 AP3	社会に共生する人間としての自覚を有し理学療法士養成課程の中で自律的に行動していくことが出来る人
協調・協働 AP4	他者を思いやることが出来、理学療法士養成課程の中で関わる他者と協調し協働できる人
意識・情熱 AP5	理学療法分野を学ぶことで、地域に暮らしている人々の豊かな生活実現に向けて、強い目的意識と情熱を持ち続けられる人

3 作業療法学専攻

作業療法学専攻で求める人材像は、「作業療法士養成課程を学んでいくために必要となる、当専門職大学の建学の理念を深く理解しているとともに、修了する為に必要な基礎学力を有し、社会に共生する人間としての自覚を持って自律的に行動できる人。併せて、他者を思いやることが出来、作業療法士養成課程の中で、他者と協調し、協働していくことの重要性を学んでいくことで、地域に暮らしている人々の豊かな生活の実現に向けて、強い目的意識と情熱を持ち続けられる人」を選抜する。

作業療法学専攻アドミッション・ポリシー

理念・理解 AP1	作業療法士を強く志し、建学の理念を深く理解している人
知識・教養 AP2	本学を修了する為に、作業療法士養成課程で必要となる基礎学力を有する人
共生・自律 AP3	社会に共生する人間としての自覚を有し作業療法士養成課程の中で自律的に行動していくことが出来る人
協調・協働 AP4	他者を思いやることが出来、作業療法士養成課程の中で関わる他者と協調し協働できる人
意識・情熱 AP5	作業療法分野を学ぶことで、地域に暮らしている人々の豊かな生活実現に向けて、強い目的意識と情熱を持ち続けられる人

上記の条件に当てはまる資質を有する者に対して、「豊かな学力」を把握するとともに、各専攻の発展性のある人材育成を目指していくための知識・思考・柔軟・主体・意欲等を判断していくために、調査書、小論文、面接などを組み合わせ、多面的、多角的、総合的に評価を行う。試験項目は下記の通りとする。

Ⅳ．入学試験科目等

（1）一般選抜

① Ⅰ－Ⅲ期入試：国語（古文、漢文を除く）、コミュ英Ⅰの２科目必修及び数学Ⅰ、物理基礎、化学基礎、生物基礎から１科目選択の計３科目並びに面接

② 専門高校入試：国語（古文、漢文を除く）、コミュ英Ⅰの２科目必修及び数学Ⅰ、物理基礎、化学基礎、生物基礎から１科目選択の計３科目並びに面接

（2）学校推薦型選抜

小論文と面接及び調査書

（3）社会人選抜

小論文、面接及び調査書

（4）総合型選抜

小論文、書類審査、面接及び活動検査

Ⅴ．合否判定

試験区分	合　否　判　定
・一般選抜 （Ⅰ－Ⅲ期入試） （専門高校入試）	科目試験と面接結果を点数化し成績上位者順に合格者を決定する。
・学校推薦型選抜	・調査書内容を中心に小論文及び面接の結果を点数化したものを総合的に判断し、合否を判定する。
・社会人選抜	小論文及び面接の結果を点数化したものと調査書内容を総合的に判断し、合否を判定する。
・総合型選抜	小論文、活動検査及び面接の結果を点数化したものと調査書内容を総合的に判断し、合否を判定する。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（67ページ～70ページ）

新	旧
Ⅳ．入学試験科目等 （1）一般選抜 ① Ⅰ－Ⅲ期入試：国語（古文、漢文を除く）、コミュ英Ⅰの２科目必修及び数学Ⅰ、物理基礎、化学基礎、生物基礎から１科目選択の計３科目並びに面接 ② 専門高校入試：国語（古文、漢文を除く）、コミュ英Ⅰの２科目必修及び数学Ⅰ、物	Ⅳ．入学試験科目等 （1）一般入試 ① Ⅰ－Ⅲ期入試：国語（古文、漢文を除く）、コミュ英Ⅰの２科目必修及び数学Ⅰ、物理基礎、化学基礎、生物基礎から１科目選択の計３科目並びに面接 ② 専門高校入試：国語（古文、漢文を除く）、コミュ英Ⅰの２科目必修及び数学Ⅰ、物

理基礎、化学基礎、生物基礎から１科目選択の計３科目並びに面接 **（２）学校推薦型選抜** 小論文と面接及び調査書 **（３）社会人選抜** 小論文、面接及び調査書 **（４）総合型選抜** 小論文、書類審査、面接及び活動検査 **Ⅴ．合否判定** ・学校推薦型選抜 ・調査書内容を中心に小論文及び面接の結果を点数化したものを総合的に判断し、合否を判定する。	理基礎、化学基礎、生物基礎から１科目選択の計３科目並びに面接 **（２）推薦入試** 小論文と面接及び調査書 **（３）特別入試** 小論文、面接及び調査書 **（４）AO 入試** 書類審査、面接及び活動検査 **Ⅴ．合否判定** ・推薦入試 面接において特異な状況がある場合は当該出身高等学校に問い合わせを行うが、原則として指定高等学校との信頼関係の上に立ち合格とする。

（是正事項）健康科学部　リハビリテーション学科

１４．＜入試に関する説明が不整合＞
入試に関する記載について、以下の点を是正すること。

（３）外国籍の入学希望者の取扱いについて別途規定を定めると記載があるため、具体的な選抜方法、日本語能力や経費支弁能力の確認など、留学生の入学に関する選抜方法等について明確に説明すること。

ご指摘の通り、外国籍の入学希望者の取扱いについて別途規定を定めると記載があり、下記の通り再度検討し訂正した。

外国籍の入学希望者の取扱いについて

本学では外国籍が入試を希望する際は、規定通り他の受験生（日本人）と同じ対応の AO 入試もしくは一般入試の参加を促すこととしている。そのため、AO 入試もしくは一般入試を受験し、合格できる日本語の能力や日本の文化の理解を有している場合は特別な語学試験がなくても対応可能と考える。しかし、留学生に関する在留資格などの問題に対応するため、入学後の在籍管理を行い、入学試験願書の提出時に学長宛に経費支弁書の提出を義務化する。

下記に「外国籍の入学希望者の取扱い規定」を添付する。

外国籍の入学希望者の取扱い規定

1. 外国籍を有し、国内外を問わず 12 年間の学校教育を修了または終了見込みの者で、そのうち日本の教育制度に基づく中学・高校の在籍期間が通算 4 年未満である者。
2. 入学後は、「出入国管理及び難民認定法」に定める「留学」の在留資格を取得できる者。
ただし、「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格「永住者」もしくは平和条約国籍離脱者等入管特例法に定める「特別永住者」は出願できない。
3. 本学入学から卒業までの学費、生活費等が確実に支弁できる者。（経費支弁書必須）※1

※1　経費支弁書について

本学では外国人留学生対象に経費支弁書を入学試験願書と同封し学長宛てに提出することとしている。長期の日本滞在の間には、多額の留学費用が必要であるため、経緯支弁書は学費や生活費を責任持って直接支払う能力を経費支弁書をもって確認する。経費支弁者は、学習者の両親、あるい

はそれに代ることができる親族（3 親等以内）などの保護者であるのが望ましいと考える。将来返済を前提とした留学費用の貸与も認められないため、単なる知人や友人などは通常経費支弁者とは不適とする。

在籍管理について

本学では、入学した学生には留学によって 4 月 1 日以降の在留を許可されたことを示す住民票、在留カードのコピー及び旅券のコピーを 4 月 30 日までに提出させる。在留中に留学期間を更新する学生について、在留期間満了日の 1 ヶ月前までにその更新許可を申請したことを、旅券に記載された記録によって確認する。留学による在留期間更新を許可された学生は、これを示す住民票、在留カードのコピー及び旅券のコピーを 1 週間以内に提出する。住所を変更した学生は、これを示す住民票、および在留カードのコピーを添えて 1 週間以内に届け出る。査証の種類、在留資格および在留期間、資格外活動許可等を確認するため、毎月 1 回学生に旅券の提示をさせる。やむを得ない事情によって一時的に帰国する場合を除き日本国に在留する期間は休学を認めない。留学による在留期間更新を許可されなかった学生は遅滞なく届け（事実が確定してから 2 週間以内）、所定の手続を経て退学する。連続して 1 カ月間授業を欠席するなど出席状況が極めて不良、あるいは本試験を欠席または受験停止となるなど成績が極めて不良の学生は、所定の手続を経て退学させる。在学中に所在不明あるいは連絡不能となった学生及び学費未納の学生は所定の手続を経て除籍する。退学や除籍になったことにより、その学生が不法滞在にならないよう、確実に帰国するように空港まで見届けることをもって大学としての在籍管理終了とする。なお、所在が確認できなくなってから 2 週間をかけてその行方を調査しても所在が確認できない場合は除籍処分にした上で、地方入国管理署にその旨を届け出ることとする。文科省への定期報告及び前月に退学、除籍、所在不明となった者を毎月 10 日までに文科省へ FAX 又は郵便により報告する。

学修指導や学修支援の方策について

学習・生活習慣に課題がある留学生の個別ニーズを適切に把握・支援するため、学生相談体制の充実、具体的には就職相談窓口の充実など学生の就職支援の環境整備、学生に関わる事件・事故等に適切に対応する体制の整備や、学内外の関係機関との連携・協力の促進を行う。

・就職相談窓口の充実など学生の就職支援の環境整備

窓口を事務所内として、県内、県外、海外（留学生の母国）に分け、希望を聞きつつ就職相談に適宜応じる。対応は就職担当の事務員とする。

・学生に関わる事件・事故等に適切に対応する体制の整備

文化の違いによるものに関しては、指導員として専任教員 1 名が留学生に対し担当する。事件・事故に関しては日本の法律に則り適宜対処する。また、必要であれば母国の両親に連絡する。

・学内外の関係機関との連携・協力の促進

学内の対応に関しては、基本的に他の学生（日本人）と同じ対応で行い、就学相談に関しては上記に示した通り窓口を設け対応する。留学生の臨地実習については、事前に実習地と相談し、必要であれば実習前オリエンテーションとして実習地に事前に教員同伴で伺う。

上記の規定に基づき、外国籍の入学希望者の取り扱いを行い、整合性のある運営に努めたい。

（是正事項）健康科学部　リハビリテーション学科

１５．＜図書館の充実＞
図書館に、ディプロマ・ポリシーに掲げる「最新かつ先端部分の情報を積極的に収集し、創造的かつ応用的に取り組み、リハビリテーション学を発展させる」ための環境があるか、電子ジャーナル及び収集図書の一覧を提出して説明すること。また、最先端の情報を収集する仕組みについて明らかにすること。

（対応）

ディプロマ・ポリシーに掲げる「最新かつ先端部分の情報を積極的に収集し、創造的かつ応用的に取り組み、リハビリテーション学を発展させる」とあったが、新しいディプロマ・ポリシーにより、リハビリテーション専門分野を生涯にわたって学び、創造的かつ応用的に実践し、リハビリテーションを発展させる姿勢を身につけられるための環境として、電子ジャーナル、データベース及び収集図書を整備して、教育研究が滞りなく推進できるように、図書館の整備を行う。

1）図書等の整備（資料 15-1）

学年進行に合わせて専門図書及び各関連分野の共通図書を整備していく。カリキュラムに沿って段階的に整備する。

○開学年度の図書は次のとおり。

一般図書　：　830 冊

専門図書　：5,755 冊（うち外国図書 726 冊）、電子ジャーナル 9 種類、
データベース 2 種類、学術雑誌 134 種類

内訳　理学療法学専門図書　1,903 冊
作業療法学専門図書　136 冊
共通専門図書　3,716 冊

○新たに整備する図書は下表に示す。

区分	開設前年度	開設年度	2 年次	3 年次	4 年次	合計
理学療法学専門図書	92 冊	5 冊	20 冊	39 冊	59 冊	215 冊
作業療法学専門図書	136 冊	405 冊	389 冊	389 冊	172 冊	1,491 冊
共通専門図書	72 冊	12 冊	16 冊	16 冊	11 冊	127 冊
(内 外国図書)	(33 冊)	(10 冊)	(10 冊)	(10 冊)	(0 冊)	(63 冊)
合　計	300 冊	422 冊	425 冊	444 冊	242 冊	1,833 冊

○完成年度の図書は次のとおりとする。（資料 15-2）

一般図書　：　830 冊

専門図書　：7,288 冊（うち外国図書 756 冊）、電子ジャーナル 9 種類、
データベース 2 種類、学術雑誌 134 種類

内訳　理学療法学専門図書　2,026 冊

作業療法学専門図書　1,491 冊
共通専門図書　　3,771 冊

上記の新たに整備する図書等の内容は別紙にて明細を示す。
また既存図書のうち「専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧」も別紙にて添付。

情報を収集する仕組みとして、幅広い学術文献の検索を可能とするため、データベースとして医学中央雑誌 Web、メディカルオンラインを採用している。

さらに、他館との協力体制については、蔵書検索システム WebOPAC で全国の大学図書館、各研究機関などと相互協力を行い、迅速な資料提供を受けられる体制を早期に整える。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（64 ページ～65 ページ）

新	旧
2. 図書等の資料の整備計画 理学療法士及び作業療法士を養成する大学として必要な図書・雑誌等の学術資料の整備を進めていく。図書は、専門学校和歌山国際厚生学院の蔵書を引き継ぐため、今後はカリキュラムに沿った整備をすすめ、充実させていく。 ○専門学校の蔵書を専門職大学に引き継ぐ図書等 1）蔵書数：6,285 冊 （内訳）一般図書：　830 冊 専門図書：5,455 冊（うち外国図書 693 冊） 内訳　理学療法学専門図書　1,811 冊 作業療法学専門図書　0 冊 共通専門図書　3,644 冊 2）学術雑誌：134 種類（うち外国雑誌 5 種類） 3）電子ジャーナル：１種類 ○令和 2 年度中に新規に整備する図書は次のとおり。 専門図書：300 冊（うち外国図書 33 冊）、電子ジャーナル８種類、データベース 2 種類 内訳　理学療法学専門図書　92 冊 作業療法学専門図書　136 冊 共通専攻図書　72 冊 このため、開設前年度（令和 2 年度）までに、6,585 冊（うち外国図書 726 冊）の蔵書となる。 1）図書等の整備 学年進行に合わせて専門図書及び各関連分野	**2. 図書等の資料の整備計画** 理学療法士及び作業療法士を養成する大学として必要な図書・雑誌等の学術資料の整備を進めていく。図書は、専門学校和歌山国際厚生学院の蔵書を引き継ぐため、今後はカリキュラムに沿った整備をすすめ、充実させていく。 ○専門学校の蔵書を専門職大学に引き継ぐ図書等 1）蔵書数：6,285 冊 （内訳）一般図書：830 冊 専門図書：5,455 冊（うち外国図書 693 冊） 内訳　理学療法学専門図書　1,811 冊 作業療法学専門図書　0 冊 共通専門図書　3,644 冊 2）学術雑誌：134 種類（うち外国雑誌 5 種類） 3）電子ジャーナル：１種類 ○令和 2 年度中に新規に整備する図書は次のとおり。 専門図書：300 冊（うち外国図書 33 冊）、電子ジャーナル８種類 内訳　理学療法学専門図書　92 冊 作業療法学専門図書　136 冊 共通専攻図書　72 冊 このため、開設前年度（令和 2 年度）までに、6,585 冊（うち外国図書 726 冊）の蔵書となる。 1）図書等の整備 学年進行に合わせて最新の専門図書及び共

の共通図書を整備していく。カリキュラムに沿って下表により、段階的に整備する。

区分	開設前年度	開設年度	2年次	3年次	4年次	合計
理学療法学専門図書	92冊	5冊	20冊	39冊	59冊	215冊
作業療法学専門図書	136冊	405冊	389冊	389冊	172冊	1,491冊
共通専門図書	72冊	12冊	16冊	16冊	11冊	127冊
(内 外国図書)	(33冊)	(10冊)	(10冊)	(10冊)	(0冊)	(63冊)
合　計	300冊	422冊	425冊	444冊	242冊	1,833冊

○完成年度の図書は次のとおりとする。

一般図書　：　830冊

専門図書　：7,288冊（うち外国図書756冊）、電子ジャーナル９種類、データベース２種類、学術雑誌 134 種類（うち外国雑誌５種類）

内訳　理学療法学専門図書　2,026冊
作業療法学専門図書　1,491冊
共通専門図書　3,771冊

情報を収集する仕組みとして、幅広い学術文献の検索を可能とするため、データベースとして医学中央雑誌 Web、メディカルオンラインを採用している。これと、蔵書検索システム WebOPAC により、迅速な資料提供を受けられるようにしていく。

通図書（予防医学、社会福祉学等を中心とする図書）を整備していく。カリキュラムに沿って段階的に整備する。

○完成年度の図書は次のとおりとする。

専門図書　：7,288冊（うち外国図書756冊）、電子ジャーナル９種類

内訳　理学療法学専門図書　2,026冊
作業療法学専門図書　1,491冊
共通専門図書　3,771冊

区分	開設前年度	開設年度	2年次	3年次	4年次	合計
理学療法学専門図書	92冊	5冊	20冊	39冊	59冊	215冊
作業療法学専門図書	136冊	405冊	389冊	389冊	172冊	1,491冊
共通専門図書	72冊	12冊	16冊	16冊	11冊	127冊
(内 外国図書)	(33冊)	(10冊)	(10冊)	(10冊)	(0冊)	(63冊)
合　計	300冊	422冊	425冊	444冊	242冊	1,833冊

（是正事項）健康科学部　リハビリテーション学科

１６．＜申請書類内の整合性について＞ 申請書内で、教育課程等の概要に記載のない科目の説明がされていたり、用意したと説明のある資料が添付されていないなど、書類上の誤植や不備が多数みられるため、申請書類の記載を整合させること。

（対応）

ご指摘の通り、申請書内にて誤植や不備が多数あったため下記の通り、是正した。

教育課程等に記載のない科目について

教育課程等の概要に記載のない科目の説明に関しては、是正項目５（指定規則の対応）や是正項目１０（単位の実質化）による科目変更により、文章を変更したため齟齬がなくなった。

設置の趣旨等を記載した書類　20 ページ

2. 高度な専門知識・技能を習得する専門教育

【理学療法学専攻】

「地域理学療法学」では、患者及び障害児者、高齢者の地域における生活を支援していくために必要な知識や技術を習得し、問題課題解決能力を培うよう、地域理学療法学Ⅰ、地域理学療法学Ⅱ、地域理学療法学実習を悲愁科目として配置した。の悲愁科目を必修科目に訂正した。

設置の趣旨等を記載した書類　p 25

2. 卒業と認定された者に対して卒業証書・学位記並びに学士の学位を授与する。（学則第 16 条）に関して、学位の授与は学則第 17 条に関わるため下記のように訂正した。

2. 卒業と認定された者に対して卒業証書・学位記並びに学士の学位を授与する。（**学則第 16 条及び第 17 条**）

設置の趣旨等を記載した書類　p 57

第 7　教育課程連携協議会について

Ⅰ．教育課程連携協議会の設置

教育課程連携協議会は、専門職大学設置基準第 11 条、教育課程連携協議会規程に定めるところにより設置する。

② 学内における位置づけ

本教育課程連携協議会は、学長の直属の諮問機関とする。構成委員メンバーは、別途、学則規則に定める。

教育課程連携協議会は、原則として年３回実施する。また、必要に応じて学長が随時、招集し開催できるものとする。

Ⅳ. 開催回数

原則として年１回開催することを原則とする。とあるが、開催数が原則として年３回実施と原則として年１回開催が混在していたため、原則として年１回に統一した。

設置の趣旨等を記載した書類　ｐ62

6. 演習室が整備されないことに対しての対応

演習室について

本学の授業で行われる演習科目とそれに対応する教室は以下の通りである。

職業専門科目（専攻共通）
体表解剖学演習・・・・・・・・治療室
職業専門科目（理学療法学専攻）
　徒手療法セミナー・・・・・・・治療室
総合科目（理学療法総合科目）
応用理学療法演習Ⅰ・・・・・・大教室、機能訓練室、基礎医学実習室、治療室
応用理学療法演習Ⅱ・・・・・・大教室、機能訓練室、基礎医学実習室、治療室
総合科目（作業療法総合科目）
応用作業療法演習Ⅰ・・・・・・大教室、作業療法実習室（1）（2）（3）
応用作業療法演習Ⅱ・・・・・・大教室、作業療法実習室（1）（2）（3）

の文章について、大教室とは過去に配置していた教室であったが、用途変更により削除しているにもかかわらず文章に残っていた。また演習科目も是正項目１０（単位の実質化）により変更したことから、下記の通り訂正した。

6. 演習室が整備されないことに対しての対応

演習室について

本学の授業で行われる演習科目とそれに対応する教室は以下の通りである。

基礎科目（専攻共通）
　プログラミング・・・・・・・・情報処理・語学学習室
ＩoT 入門・・・・・・・・・・・ 情報処理・語学学習室
職業専門科目（専攻共通）
体表解剖学演習・・・・・・・・治療室
職業専門科目（理学療法学専攻）
　徒手療法セミナー・・・・・・・治療室
　障害者スポーツ演習・・・・・・治療室
応用物理療法学演習・・・・・・治療室
専門手技療法学演習・・・・・・治療室
レクレーション活動演習・・・・レクリエーション室
職業専門科目（作業療法学専攻）
障害者スポーツ演習・・・・・・治療室
ハンドセラピー演習・・・・・・治療室
専門手技療法学演習・・・・・・治療室
レクレーション活動演習・・・・レクリエーション室

総合科目（理学療法総合科目）
専門職連携総合演習Ａ・・・・・作業療法実習室（1）（2）（3）
専門職連携総合演習Ｂ・・・・・作業療法実習室（1）（2）（3）
専門職連携総合演習Ｃ・・・・・作業療法実習室（1）（2）（3）
応用理学療法演習Ⅰ・・・・・・機能訓練室、基礎医学実習室、治療室
応用理学療法演習Ⅱ・・・・・・機能訓練室、基礎医学実習室、治療室
総合科目（作業療法総合科目）
専門職連携総合演習Ａ・・・・・作業療法実習室（1）（2）（3）
専門職連携総合演習Ｂ・・・・・作業療法実習室（1）（2）（3）
専門職連携総合演習Ｃ・・・・・作業療法実習室（1）（2）（3）
応用作業療法演習Ⅰ・・・・・・作業療法実習室（1）（2）（3）
応用作業療法演習Ⅱ・・・・・・作業療法実習室（1）（2）（3）

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（20、25、57、62 ページ）

新	旧
p 18 **2. 高度な専門知識・技能を習得する専門教育** **【理学療法学専攻】** 「地域理学療法学」では、患者及び障害児者、高齢者の地域における生活を支援していくために必要な知識や技術を習得し、問題課題解決能力を培うよう、地域理学療法学Ⅰ、地域理学療法学Ⅱ、地域理学療法学実習を必修科目として配置した。	**2. 高度な専門知識・技能を習得する専門教育** **【理学療法学専攻】** 「地域理学療法学」では、患者及び障害児者、高齢者の地域における生活を支援していくために必要な知識や技術を習得し、問題課題解決能力を培うよう、地域理学療法学Ⅰ、地域理学療法学Ⅱ、地域理学療法学実習を悲愁科目として配置した。
p 25 2. 卒業と認定された者に対して卒業証書・学位記並びに学士の学位を授与する。（**学則第 16 条及び第 17 条**）	2. 卒業と認定された者に対して卒業証書・学位記並びに学士の学位を授与する。（学則第 16 条）
p 36 **5. ２職種間の相互理解を目指す教育** 展開科目の合同選択科目を設置した理由としては、本学のディプロマ・ポリシーである専門職分野における新たなサービスの創造に向けて柔軟な発想を有し、意欲的に取り組む能力を	**5. ２職種間の相互理解を目指す教育** 単会科目の合同選択科目を設置した理由としては、本学のディプロマ・ポリシーである専門職分野における新たなサービスの創造に向けて柔軟な発想を有し、意欲的に取り組む能力を

身につけていることを基準とし、 p52 **第７　教育課程連携協議会について** **Ⅰ．教育課程連携協議会の設置** 教育課程連携協議会は、専門職大学設置基準第 11 条、教育課程連携協議会規程に定めるところにより設置する。 ② 学内における位置づけ 本教育課程連携協議会は、学長の直属の諮問機関とする。構成委員メンバーは、別途、学則規則に定める。 教育課程連携協議会は、原則として年１回実施する。また、必要に応じて学長が随時、招集し開催できるものとする。 **Ⅳ．開催回数** 原則として年 1 回開催することを原則とする。 p57 **6. 演習室が整備されないことに対しての対応** **演習室について** 本学の授業で行われる演習科目とそれに対応する教室は以下の通りである。 基礎科目（専攻共通） プログラミング・・・・・・・・情報処理・語学学習室 ＩoT 入門・・・・・・・・・・・ 情報処理・語学学習室 職業専門科目（専攻共通） 体表解剖学演習・・・・・・・・治療室 職業専門科目（理学療法学専攻） 徒手療法セミナー・・・・・・・治療室 障害者スポーツ演習・・・・・・治療室 応用物理療法学演習・・・・・・治療室 専門手技療法学演習・・・・・・治療室 レクレーション活動演習・・・・レクリエーシ	身につけていることを基準とし、 **第７　教育課程連携協議会について** **Ⅰ．教育課程連携協議会の設置** 教育課程連携協議会は、専門職大学設置基準第 11 条、教育課程連携協議会規程に定めるところにより設置する。 ② 学内における位置づけ 本教育課程連携協議会は、学長の直属の諮問機関とする。構成委員メンバーは、別途、学則規則に定める。 教育課程連携協議会は、原則として年３回実施する。また、必要に応じて学長が随時、招集し開催できるものとする。 **Ⅳ．開催回数** 原則として年１回開催することを原則とする。 **6. 演習室が整備されないことに対しての対応** **演習室について** 本学の授業で行われる演習科目とそれに対応する教室は以下の通りである。 職業専門科目（専攻共通） 体表解剖学演習・・・・・・・・治療室 職業専門科目（理学療法学専攻） 徒手療法セミナー・・・・・・・治療室 総合科目（理学療法総合科目） 応用理学療法演習Ⅰ・・・・・・大教室、機能訓練室、基礎医学実習室、治療室 応用理学療法演習Ⅱ・・・・・・大教室、機能訓練室、基礎医学実習室、治療室 総合科目（作業療法総合科目） 応用作業療法演習Ⅰ・・・・・・大教室、作業療法実習室（1）（2）（3） 応用作業療法演習Ⅱ・・・・・・大教室、作業

ョン室 職業専門科目（作業療法学専攻） 障害者スポーツ演習・・・・・・治療室 ハンドセラピー演習・・・・・・治療室 専門手技療法学演習・・・・・・治療室 レクレーション活動演習・・・・レクリエーション室 総合科目（理学療法総合科目） 専門職連携総合演習Ａ・・・・・作業療法実習室（1）（2）（3） 専門職連携総合演習Ｂ・・・・・作業療法実習室（1）（2）（3） 専門職連携総合演習Ｃ・・・・・作業療法実習室（1）（2）（3） 応用理学療法演習Ⅰ・・・・・・機能訓練室、基礎医学実習室、治療室 応用理学療法演習Ⅱ・・・・・・機能訓練室、基礎医学実習室、治療室 総合科目（作業療法総合科目） 専門職連携総合演習Ａ・・・・・作業療法実習室（1）（2）（3） 専門職連携総合演習Ｂ・・・・・作業療法実習室（1）（2）（3） 専門職連携総合演習Ｃ・・・・・作業療法実習室（1）（2）（3） 応用作業療法演習Ⅰ・・・・・・作業療法実習室（1）（2）（3） 応用作業療法演習Ⅱ・・・・・・作業療法実習室（1）（2）（3）	療法実習室（1）（2）（3）

（改善事項）健康科学部　リハビリテーション学科

１７．＜指定規則における主たる実習施設について＞
理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則等が改正され、一定の要件を満たす、主たる実習施設を置くことが望ましいとされているため、検討状況を説明すること。

（対応）

ご指摘にあった通り、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則等が改正され、一定の要件を満たす、主たる実習施設を置くことが望ましいとされているため下記の通り、検討状況を示す。

本学校法人には、学校とは別に学校法人立の十一番丁てらしたクリニックを同市内（自転車で 10 分）に併設している。このクリニックは理学療法士 8 名、作業療法士 4 名が勤務しており、施設基準においても脳血管疾患等リハビリテーション科（Ⅰ）、廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）、運動器リハビリテーション料（Ⅰ）である。施設基準（Ⅰ）を取っているクリニックは和歌山県内では本施設を含めて、2 件しかなく、リハビリに特化したクリニックである。

理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則等が改正では、「理学療法士養成施設においては、理学療法に関し相当の経験を有する理学療法士、作業療法士養成施設においては、作業療法に関し相当の経験を有する作業療法士とし、免許を受けた後５年以上業務に従事した者であり、かつ厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会、厚生労働省及び公益財団法人医療研修推進財団が実施する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会及び一般社団法人日本作業療法士協会が実施する臨床実習指導者中級・上級研修の講習会を修了した者であることとしており、現段階において、この条件を満たすものは理学療法士 1 名、作業療法士 2 名である。設置予定である 2021 年含めて、本大学の診療参加型実習（評価実習並びに総合実習）の予定が 2023 年であることから順次上記の条件を満たすものを増やす予定であり、計画上では 2023 年に理学療法士 3 名、作業療法士 3 名になる予定である。また、予定している主たる実習施設は、臨床実習を行うのに必要な設備（休憩室、更衣室、ロッカー、机等）を備えている。

（改善事項）健康科学部　リハビリテーション学科

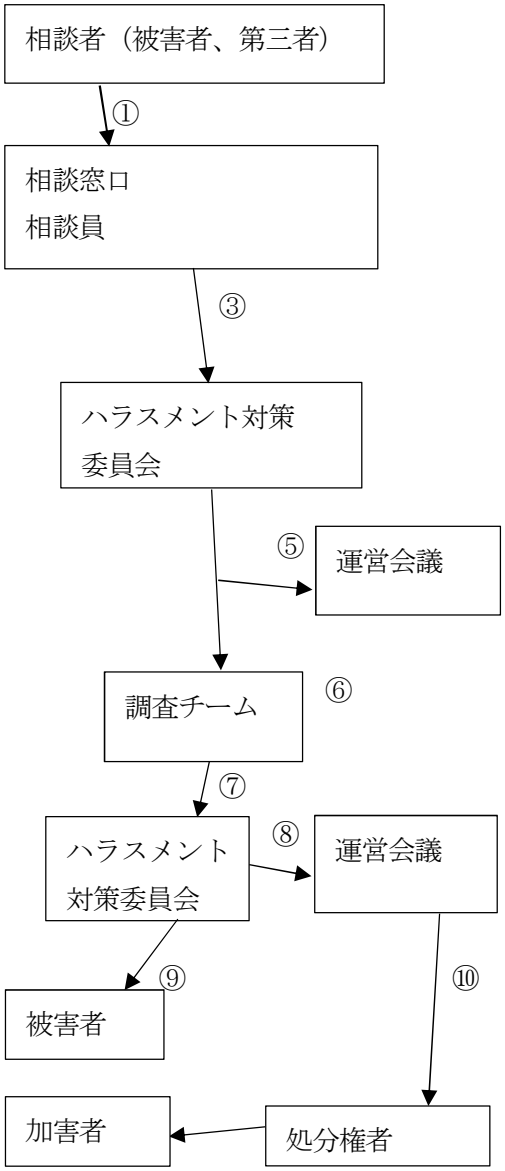
１８．＜学内の各種委員会の整備＞ 学内に大学運営に必要な委員会が設置される計画だが、大学として教員間や学生間におけるハラスメント等の問題を扱う窓口や委員会について整備することが望ましい。

（対応）

専門職大学として教員間や学生間におけるハラスメント等の問題を扱う窓口や委員会については、学内にハラスメント対策委員会を設置し、問題発生時は迅速に対応する。

ハラスメント対応の流れは下記にフロー図を示す。これは、別添のハラスメント対策委員会規程、ハラスメント防止対策規程、ハラスメント取扱細則に従うものである。

【和歌山リハビリテーション専門職大学ハラスメント対応の流れ】



①被害者や周りの第三者が相談する。

②相談員はプライバシーを尊重しつつ被害者の了解のもと複数で事情聴取を行います。

③相談等受付票を作成し、ハラスメント対策委員会へ報告する。

④ハラスメント対策委員会は、精査の要否を判断し、必要に応じ調査チームを設置し、事実関係の精査を行う。

⑤調査チームを設置したときは、運営会議に報告を行う。

⑥調査チームは、事実関係の調査を行い、必要に応じ、当事者間の斡旋・調停を行う。

⑦確認した事項等を報告する。

⑧ハラスメント対策委員会は、運営会議に報告を行う。

⑨被害者に報告を行う。

⑩審議結果を処分権者に通知する。

ハラスメント対策委員会規程

（目的）

第 1 条　この規程は，ハラスメント対策委員会（以下「委員会」という。）に関して必要な事項を定める。

2　委員会は，ハラスメントに関する重要事項を審議する。

（組織）

第 2 条　委員会は，次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 理事長

(2) 学長

(3) 学部長

(4) 事務局長

(5) 前各号に掲げるもののほか，理事長が必要と認める者

2　委員会に委員長を置き，理事長をもって充てる。

3　委員長に事故があるとき，又は委員長が欠けたときは，委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代理する。

（任期）

第 3 条　第2条第5項の委員の任期は2年とし，再任を妨げない。ただし，補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（審議事項）

第 4 条　委員会は、学校法人響和会のハラスメントに関して、ハラスメント防止対策規程およびハラスメント細則により審議する。

（会議）

第 5 条　委員会は，必要に応じて委員長が召集する。

2　委員会は，委員の過半数の出席をもって成立する。

3　委員長は，必要に応じて，委員以外の者の出席を求めることができる。

（報告）

第 6 条　審議の結果は，運営会議に報告し，承認を得るものとする。

（事務）

第 7 条　委員会の事務は，事務局において処理する。

（雑則）

第 8 条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に必要な事項は，別に定める。

（雑則）

第 9 条　この規程の改正は，理事会の決議による。

附　則　　この規程は，令和　年　月　日から施行する。

ハラスメント防止対策規程

（目的）

第１条　この規程は、学校法人響和会（以下「法人」という。）及び法人が設置するすべての学校及び施設に在籍する教員・職員（非常勤の教職員を含む。以下「教職員」という。）及び学生について、日本国憲法にのっとり、個人の尊厳を尊重し、人権が尊重され、かつ快適な環境の下で就労、修学、教育・研究する機会と権利を保障するため、ハラスメントの防止及び啓発を図り、あわせてハラスメントが生じた場合の対応や適切な措置等について必要な事項を定めることを目的とする。

（定義）

第２条　この規程に定めるハラスメントとは、次の各号に掲げるセクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント及びその他のハラスメントをいう。

(1) セクシュアル・ハラスメント

教職員及び学生が他の教職員及び学生・生徒を不快にさせる性的な言動を行い、これにより教職員の就労上及び学生の修学上の環境が害されること又はセクシュアル・ハラスメントへの対応に起因して不利益を受けること。

(2) アカデミック・ハラスメント

教育・研究の場において指導的立場にある者が、指導を受ける者に対し、客観的に見て正当性のない差別的言動を行い、自由な修学活動、研究活動及び職務遂行活動を妨げること。

(3) パワー・ハラスメント

職権上優位的立場にある者が、職務遂行上従属的立場にある者に対し、その権限を不当に行使し、損害や不利益を与え、又は職場環境に著しい悪影響を及ぼすこと。

(4) その他のハラスメント

年齢、身体的特性、家族関係、出身地、国籍、民族、人種、信条その他の個人的属性等に関し、相手の意に反して行われる発言や行動により、相手に不利益や損害を与え、又は個人の人権を侵害すること。

（法人の責務）

第３条　法人は、ハラスメント防止のためのガイドラインを定め、教職員、学生に対し啓発指導を行うほか、ハラスメントによる問題が生じた場合には、必要な措置を講じるものとする。

（教職員及び学生の責務）

第４条　教職員及び学生は、この規程に従いハラスメントの防止及び排除に努めなければならない。

（指導的立場又は管理的立場にある者の責務）

第5条　教職員及び学生を監督・指導する立場にある者は、次の事項に注意してハラスメントの防止及び排除に努めるとともに、ハラスメントに起因する問題が生じた場合には迅速かつ適切に対処しなければならない。

(1) 日常の業務を通じた指導等により、ハラスメントに関し教職員及び学生の注意を喚起し、ハラスメントに関する認識を深めさせること。

(2)教職員及び学生の言動に充分な注意を払うことによりハラスメントに起因する問題が生じることがないよう平等かつ十全な配慮をすること。

（ハラスメント対策委員会）

第6条　教職員及び学生の人権の尊重、ハラスメントの防止及びハラスメントに起因する問題処理等のため法人にハラスメント対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（任務）

第7条　ハラスメント対策委員会は、次の各号に掲げる事項を任務とする。

(1) ハラスメントの防止に関する指針の作成に関すること。

(2) ハラスメント防止等の周知徹底を期するための啓発活動及び研修に関すること。

(3) ハラスメントに起因する問題が生じた際の措置に関し、運営会議教育研究審議会へ審査を上申すること。

(4) その他ハラスメントの防止に関すること。

（守秘義務、不利益の保護）

第8条　ハラスメント対策委員会の構成員及び事務担当者は、各種個人情報を保護し、ハラスメントに関して知り得たことを他に漏らしてはならない。

2　苦情の相談や事実関係の確認に協力したことを理由として、不利益な取扱いをしてはならない。

3　懲戒処分の対象となった以外の事案については、全部又は一部を、公告、公表をしないものとする。

（相談員）

第9条　ハラスメント問題に対処する相談窓口として、法人事務局の総務課に相談員を置く。

（調査チーム）

第10条　ハラスメント対策委員会の下に､ハラスメントに関する申立てを調査するため調査チームを置く。調査チームは、相談員及び運営委員会がハラスメント対策委員会の議を経て提出した事案について調査の手続を行う。

2　調査チームはハラスメント取扱細則に従う。

（規程の改廃）

第 11 条　この規程の改廃は、ハラスメント対策委員会の議を経て理事長が行う。

附則　　この規程は、令和　　年　　月　　日から施行する。

ハラスメント取扱細則

（目的）

第１条　この細則は、学校法人響和会（以下「法人」という。）における職場でのあらゆるハラスメント行為の防止に関する取り扱いを定めるものであり、性別や職務上の地位に関係なく、すべての従事者と学生が互いの人権を尊重しあい、すべての従事者と学生にとって快適な職場環境及び学習環境の実現を目的とする。

（適用）

第２条　この細則は、理事、職員、パート、アルバイト等、法人内での職制、身分、性別を問わず、法人の業務に従事する全ての者と学生に適用する。

（定義）

第３条　本細則中の用語の定義は次のとおりとする。

（１）ハラスメント

セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント及びその他のハラスメントをいう。

（２）ハラスメント行為

①　職務上の地位を利用して性的な関係を強要し、それを拒否した人に対し減給、降格などの不利益を負わせる事や、性的な言動により、働く者を不快にさせ、職場環境を損なう行為をいう。

②　同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内での優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与えたり、職場環境を悪化させたりする行為をいう。

（３）職場

①　法人事務所内及び他機関業務現場

②　業務で使用する車中

③　取引先等の他機関事業場

④　打合せ、接待、法人行事等で利用する飲食店、宴席等

⑤　その他業務を遂行するすべての場所

⑥　学校内

（４）性的な言動

性的な内容の発言、および性的なことに関する行動のすべてをいう。

（５）職場内での優位性

従事者や学生を管理監督する地位にある者又はこれに準ずる者がその地位又は職務権限を利用し、これに抗し難い地位にある者に対して、就業上、著しい不利益を与える行為又は業務を妨げる行為、また従事者や学生を管理監督する地位に

ある者又はこれに準ずる者が不適切な行動又は差別的な取扱いにより、就業上の環境を害する行為をいう。ここでの優位性は、職務上の地位に限らず、人間関係や専門知識、経験などの様々な関係を含む。

（6）職場のモラル・ハラスメント

言葉や態度、身振りや文書などによって、人間の人格や尊厳を傷つけたり、肉体的、精神的に傷を負わせて、その人間が職場や学校を辞めざるを得ない状況に追い込んだり、職場や学校の雰囲気を悪くさせる行為をいう。

（7）ハラスメントの防止及び排除

ハラスメントが行われることを未然に防ぐとともに、ハラスメントが現に行われている場合にその行為を制止し、その状態を解消することをいう。

（責務）

第4条　全ての従事者と学生は、この細則の趣旨を正しく理解し、ハラスメントのない明るく和やかな職場を実現するために行動しなければならない。

2　従事者や学生を管理監督する地位にある者は、良好な就業環境を確保するため、日常の指導等によりハラスメントの防止及び排除に尽力するとともに、部下の言動に留意し、ハラスメントまたはこれを誘発する言動があった場合は、注意を喚起しなければならない。

3　従事者や学生を管理監督する地位にある者は、ハラスメントに関する相談または苦情（以下「相談等」という。）があった場合は、速やかに対応してその解決に努めるとともに、当該相談等に係る問題の内容または状況から判断し必要があると認めたときは、上司及び人事担当者と協議の上、対応するものとする。

（禁止行為）

第5条　従業者は、他の従業者の意に反し、次に掲げるハラスメント行為を行ってはならない。学生に対しても同様とする。学生同士に対しても同様とする。

（1）性的な事実関係を尋ねること

（2）性的な内容の情報を意図的に流布すること

（3）性的な関係を強要すること

（4）必要なく体にさわること

（5）わいせつな図書、雑誌、図面、または写真を配布したり、掲示したりすること

（6）性的な言動によって職務の円滑な遂行を妨げるなど、就業環境を悪化させること

（7）あらゆる身体的暴力行為を行うこと

（8）ひどい罵倒、中傷、暴力、執拗等の理不尽な言動により相手に精神的苦痛を与えること

（9）職場内や学校内の人間関係からの切り離しをすること

（１０）達成不可能な職務を一方的に与えること
（１１）職場放棄、正当な業務命令拒否など合理的な理由もなく、一方的に職務を取りあげたり、職務を与えないこと
（１２）合理的な理由もなく、一方的に人事評価をおとしめること
（１３）相手の考えを嘲弄し確信を揺るがせる、相手に言葉をかけない、人前で笑い者にする、他人の前で悪口を言う、釈明する機会を奪う、相手の欠陥をからかう、不愉快なほのめかしをして、それがどういうことか説明しない、相手の判断力や決定に疑いをさしはさむ等の精神的苦痛を相手に与えること
（１４）その他全各号に準ずる言動を行うこと

（黙秘の禁止）
第６条　すべての従事者や学生は、前号に掲げるハラスメント行為を認知しながら黙秘してはならない。

（ハラスメント調査チームの設置）
第７条　法人は、ハラスメント対策委員会及び調査チームを設置する。
２　理事長はハラスメント対策責任者を任命する。
３　ハラスメント対策責任者はハラスメント対策委員会が推薦し、理事会の承認を経て、理事長が委嘱する。

（外部相談窓口の設置）
第８条　法人は、第５条に定めるハラスメントが行われたこと、または行われようとしていることでの従事者や学生からの相談等に対応するため外部相談窓口を置くものとする。
２　外部相談窓口の担当者は弁護士とし、理事長が委嘱する。

（相談等の申し出）
第９条　ハラスメントの被害を受けたと感じた従事者や学生および他の従事者に対するハラスメントを不快に思う従事者や学生は、自らの選択によって、外部相談窓口または法人事務局総務課の相談窓口の相談員（以下、あわせて「相談窓口」という。）のいずれかに、相談もしくは被害申告（あわせて「相談等」という。）をすることができる。
２　ハラスメントが現実に生じた場合だけでなく、発生の恐れがある場合も事前防止の観点から相談等の申し出をすることができる。
３　相談等の申し出は、相談窓口に、電話、電子メール、書面その他適切な方法にて連絡する。

4　相談等は実名ですることが望ましいが匿名での対応も認める。ただし、相手方を指定する要求（具体的処分を求める場合など）については原則として匿名での対応を認めないこととする。

（申し出後の扱い）

第 10 条　相談等の申し出を受けた相談員は、相談者の意思を尊重しながら、事実関係の聴取を行い、必要により助言をし、法人としての調査及び対応を求めるか否かについての相談者の意向を確認する。

2　相談員は相談者のプライバシー、その他の意向に配慮しながらハラスメント対策委員会に相談があったことの報告を行うものとし、その際に何らかの法人対応が必要と判断した場合は、その後の対応について意見を述べることができる。

3　事務局長が相談等を受けた場合において、相談者の意思を確認した上で、その後の相談対応を外部窓口に引き継ぐことができる。

（法人の対応方法）

第 11 条　ハラスメント対策委員会は、相談等に関する事実関係を確認するための調査を実施する権限を有する。

2　ハラスメント対策委員会は、相談員から報告があった場合、速やかに、相談等に関する調査の必要性の有無、その他相談等への対応を協議しなければならない。

3　（1）ハラスメント対策委員会は、本条第 1 項の事実関係の確認につき、必要に応じて、調査チームに行わせることができる。

（2）調査チームは、必要に応じて、相談員に、前項の事実関係の確認の依頼を行うことができる。

4　ハラスメント対策委員会は、調査の結果、以下の対応を取ることができる。

（1）ハラスメント行為を行った行為者および関係者に対して注意および改善措置を講ずること。

（2）必要に応じて理事会に調査結果および進捗状況を報告する。

（3）相談担当者もしくは顧問弁護士に、行為者と被害者もしくは関係者等との間の調停の依頼。

（4）従事者が第 5 条の規程に違反し、あるいは第 4 条に定める義務を怠った判断をしたときは、就業規則に定める懲戒規程により、懲戒処分を行うことを理事長に進言する。

（プライバシーの保護）

第 12 条　法人は、相談等を申し出た従事者や学生のプライバシー保護に十分留意しなければならない。

（不利益取り扱いの禁止）

第 13 条　法人は、ハラスメントに関する相談等を申し出たことを理由として、その従事者や学生に対し不利益な取り扱いをしてはならない。

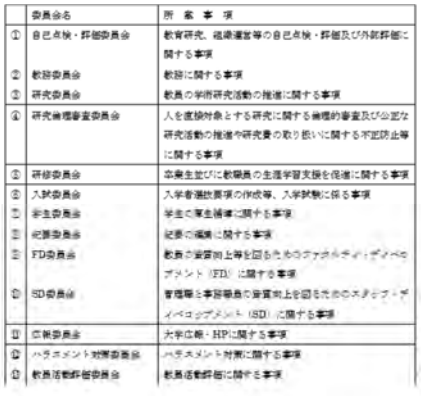
（細則の変更）

第 14 条　この細則の改廃は、ハラスメント対策委員会の決議による。

附則　この細則は令和　年　月　日から施行する。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（101 ページ）

新	旧
p 95 **Ⅳ．各種委員会** 教授会のほか、学長の決定を支援する等、大学運営に必要な委員会として、自己点検・評価委員会、FD委員会、研究委員会、研究倫理審査委員会、紀要委員会、広報委員会、入試委員会を置く。 このほか、教授会の下に教務委員会、学生委員会、研修委員会を置くとともに、必要に応じてその他の委員会を置く。 それぞれの委員会の所掌事項は下表のとおりとし、運営に関する事項は、各委員会規程に定める。	**Ⅳ．各種委員会** 教授会のほか、学長の決定を支援する等、大学運営に必要な委員会として、自己点検・評価委員会、FD委員会、研究委員会、研究倫理審査委員会、紀要委員会、広報委員会、入試委員会を置く。 このほか、教授会の下に教務委員会、学生委員会、研修委員会を置くとともに、必要に応じてその他の委員会を置く。 それぞれの委員会の所掌事項は下表のとおりとし、運営に関する事項は、各委員会規程に定める。



	委員会名	所　掌　事　項
①	自己点検・評価委員会	教育研究、組織運営等の自己点検・評価及び外部評価に関する事項
②	教務委員会	教務に関する事項
③	研究委員会	教員の学術研究活動の推進に関する事項
④	研究倫理審査委員会	人を直接対象とする研究に関する倫理的審査及び公正な研究活動の推進や研究費の取り扱いに関する不正防止等に関する事項
⑤	研修委員会	学長並びに教職員の生涯学習支援を促進に関する事項
⑥	入試委員会	入学者選抜要項の作成等、入学試験に係る事項
⑦	学生委員会	学生の厚生補導に関する事項
⑧	紀要委員会	紀要の編集に関する事項
⑨	FD委員会	教員の資質向上等を図るためのファカルティ・ディベロプメント（FD）に関する事項
⑩	SD委員会	管理職と事務職員の資質向上を図るためのスタッフ・ディベロップメント（SD）に関する事項
⑪	広報委員会	大学広報・HPに関する事項
⑫	ハラスメント対策委員会	ハラスメント対策に関する事項
⑬	教員活動評価委員会	教員活動評価に関する事項



	委員会名	所　掌　事　項
①	自己点検・評価委員会	教育研究、組織運営等の自己点検・評価及び外部評価に関する事項
②	教務委員会	教務に関する事項
③	研究委員会	教員の学術研究活動の推進に関する事項
④	研究倫理審査委員会	人を直接対象とする研究に関する倫理的審査及び公正な研究活動の推進や研究費の取り扱いに関する不正防止等に関する事項
⑤	研修委員会	学長並びに教職員の生涯学習支援を促進に関する事項
⑥	入試委員会	入学者選抜要項の作成等、入学試験に係る事項
⑦	学生委員会	学生の厚生補導に関する事項
⑧	紀要委員会	紀要の編集に関する事項
⑨	FD委員会	教員の資質向上等を図るためのファカルティ・ディベロプメント（FD）に関する事項
⑩	SD委員会	管理職と事務職員の資質向上を図るためのスタッフ・ディベロップメント（SD）に関する事項
⑪	広報委員会	大学広報・HPに関する事項

（改善事項）健康科学部　リハビリテーション学科

１９．＜校舎に関する整備＞ 実地調査における審査委員の大学建築に関する意見にて下記の内容への対応について。 （1）作業療法実習室、レクレーション室、補装具室等、55 ㎡前後で、40 名での実習が困難だと考えられるため対応すること。

作業療法実習室とレクリエーション室、補装具室が狭く、実習室が困難とご指摘があり、下記の通り変更を行った。（資料 19）

3 階に設置予定だった、レクリエーション室の面積が 55.06m² であった。しかし、面積が狭くレクリエーションの実習が難しいと判断した。よって、2 階の学生自習室予定であった場所の一部を変更しレクリエーション室とした。床面積は 107.11m² まで増加し、レクリエーションを行ううえでも十分な面積を確保することができた。

また、同じく 3 階に作業療法実習室(1)～(3)を設置予定であった。それぞれ 52.46m²、58.09m²、56.48m² であり、実習室としては十分な広さではない。よって、同 3 階の共同研究室予定であった場所を作業療法実習室(2)と作業療法実習室(3)に変更した。床面積はそれぞれ、83.81m² と 100.05m² となった。また作業療法実習室(2)と作業療法実習室(3)の間の壁を可動式仕切とした。可動式仕切にすることで、場所を広く使用するような実習の場合は、壁を移動させ、作業療法実習室(2)と作業療法実習室(3)を同時に使うことが可能となり、より多くの実習が可能となった。

3 階の補装具室に関しては 44.64m² であり、装具や道具を設置して、実習を行うにはあまりにも面積が足らない状況であった。

よって、2 階の相談室、学生控室予定であった場所を補装具室に変更することで 98.47m² の面積を確保した。また相談室と学生控室は補装具室の場所に変更した。

2 階の基礎医学実習室に関しては、74.07m² であった。この面積では解剖台を 10 台置くスペースがないため 2 階の日常動作訓練室の場所と入れ替え、112.12m² の面積を確保した。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（60 ページ）

新	旧
Ⅱ．校舎等施設の整備計画 **3. 実習室** 実習室は、理学療法士作業療法士養成施設指導要領に記載されている教育上必要な	**Ⅱ．校舎等施設の整備計画** **3. 実習室** 実習室は、理学療法士作業療法士養成施設指導要領に記載されている教育上必要な

機械器具を中心に、設備等の充実を図った。なお、実習の態様や学生数に応じた広さを確保しており、実習等に支障が生じないように整備している。また、作業療法実習室(2)と作業療法実習室(3)の壁に関しては、可動式の間仕切り（壁）を採用し、広い空間を必要とする実習において対応することが可能となる。	機械器具を中心に、設備等の充実を図った。なお、実習の態様や学生数に応じた広さを確保しており、実習等に支障が生じないように整備している。

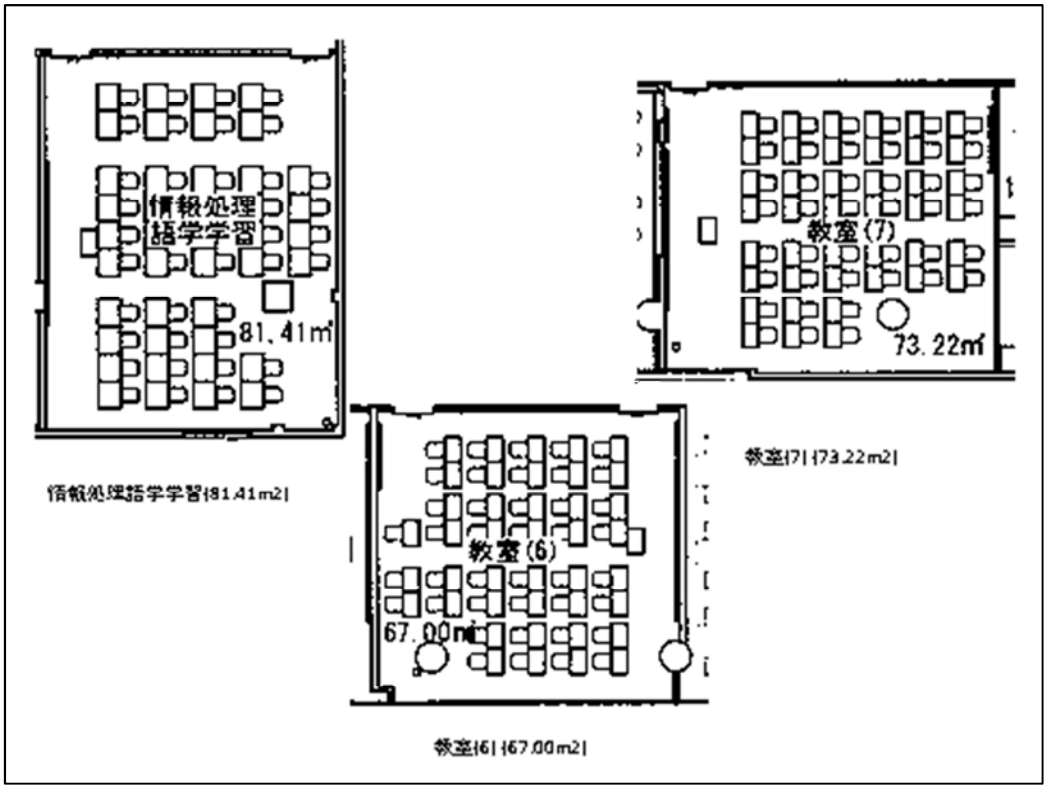
１９．＜校舎に関する整備＞
実地調査における審査委員の大学建築に関する意見にて下記の内容への対応について。
（2）情報処理室、一部の教室に関して、大きな柱があり、授業を阻害する恐れがあるため対応すること。

ご指摘の通り、一部の教室に柱があり、授業を行う上で支障が出ると考える。その教室は下記の通りである。

2階　　情報処理語学学習(81.41m2)
　　教室(6) (67.00m2)

3階　　教室(7) (73.22m2)

上記の教室に関しては、下記のように机等を配置すれば、柱で学生が教員や黒板が見えない等の問題が解決される。



柱のある教室及び実習室の間取り

１９．＜校舎に関する整備＞
実地調査における審査委員の大学建築に関する意見にて下記の内容への対応について。
（3）校地校舎等の図面において共同研究室の机の配置図がなく、研究や教育において十分な設備が揃っているか判断できないため対応すること。

ご指摘の通り、提出した書類には机等の配置図ではなく、平面図のみであったため、今回机等をプロットした図を添付した。

各、教室・実習室とも 40 名の授業は可能となり、研究室も、個室 10 名、共同研究室合わせて 18 名分、計 28 名分の研究室を設置している。また、共同研究室に関しては、パーティションを配置し、個人情報に配慮した空間を用意した。

また、共同研究室については、教育研究活動が行いやすいように 1 人あたりの 13～17m2 の面積を確保した。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（61 ページ）

新	旧
p 56 **4. 研究室等** 教員研究室は、個室の他、共同の研究室 3 室（327.44 ㎡）を確保している。なお 3 階の個人研究室 10 部屋に、学部長 1 名（玉井）、学科長 1 名（田中）、両専攻長 2 名（吉崎、長辻）と教授 6 名（碓井、松永、幸福、渡辺、新宅、鍵井）を配置する。3 階の共同研究室（3）は教授 4 名（八木、京、大泉、薮内）、共同研究室（4）は准教授 2 名（栗川、山田）講師 2 名（中川、柏木）、の計 4 名。1 階の共同研究室（1）は准教授 2 名（丹葉、大松）、講師 2 名（川、井口）、助教 1 名（小島）計 5 名を配置し、共同研究室（2）は講師 3 名（久禮、松井、河西）、助教 1 名（福井）の計 4 名とする。共同研究室は 1 名 15m²以上になるようパーティションで個人スペースを作りプライベートに配慮する。	**4. 研究室等** 教員研究室は、個室の他、共同の研究室 3 室（327.44 ㎡）を確保している。なお 3 階の個人研究室 10 部屋に、学部長 1 名（玉井）、学科長 1 名（田中）、両専攻長 2 名（松永、長辻）と教授 6 名（岡本、大泉、吉崎、幸福、渡辺、新宅）を配置する。3 階の共同研究室（3）は教授 5 名（八木、京、碓井、薮内、池田）、准教授 2 名（栗川、山田）講師 4 名（久禮、中川、加藤、柏木）、助教 1 名（米田）の計 12 名。1 階の共同研究室（1）は准教授 2 名（丹葉、大松）、講師 2 名（川、井口）、助教 1 名（小島）計 5 名を配置し、共同研究室（2）は教授 1 名（鍵井）、講師 2 名（松井、河西）、助教 1 名（福井）の計 4 名とする。共同研究室は 1 名 15m²以上になるようパーティションで個人スペー

必要な机・椅子・書棚、電話、パソコン及びミーティングセットを整備して研究室にふさわしい教育研究環境を整える。	スを作りプライベートに配慮する。必要な机・椅子・書棚、電話、パソコン及びミーティングセットを整備して研究室にふさわしい教育研究環境を整える。

資　料　目　次

【別添資料 3-1】　理学・作業両専攻カリキュラムマップ

【別添資料 3-2】　理学・作業療法学専攻 DPC 及び CP と科目対応表

【別添資料 5】　教育課程と指定規則との対比表

【別添資料 10-1】 単位数コマ数時間数比較表

【別添資料 10-2】 新旧対照表

【別添資料 12】　履修モデル

【別添資料 15-1】 図書室書籍一覧

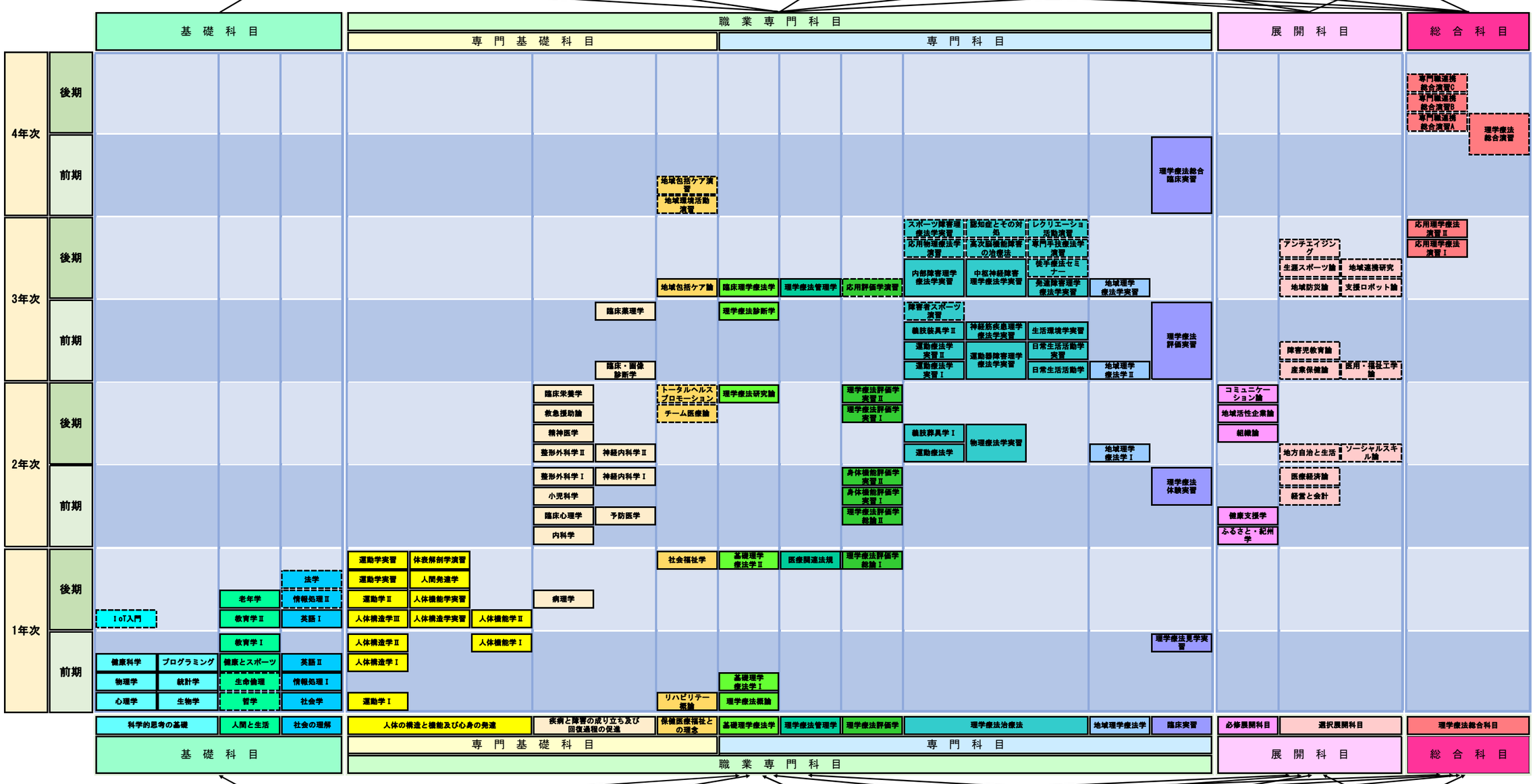
【別添資料 15-2】 購入図書明細書

人が「いつまでも美しく輝いて生きる（Live Longer Better）」ことが可能な社会の創出と、和歌山を未来に繋ぐ（「地方消滅」から「地方創生」へ）ことを実践する理学療法士へ

資料3-1

理学療法学専攻 ディプロマ・ポリシー（DP）

- **DP1**　理学療法士として、医療分野における高い倫理観を有し、幅広い一般教養を身につけていること。
- **DP2**　保健医療福祉分野の発展・向上に寄与する理学療法士として高度な専門知識・技能および実践力を身につけていること。
- **DP3**　健康と医療・介護に関わる関連職種や多職種と連携・協調し、理学療法分野における新たなサービスの創造に向けて柔軟な発想を有し、意欲的に取り組む能力を身につけていること。
- **DP4**　リハビリテーション専門分野を生涯にわたって学び、創造的かつ応用的に実践し、理学療法を発展させる姿勢を身につけていること。
- **DP5**　理学療法士として、地域社会への貢献を視野に入れ、リハビリテーションの多様なニーズに応える探究心や研究心を身につけていること。



理学療法学専攻 カリキュラム・ポリシー（CP）

- **CP1**　理学療法士としての豊かな人間性と倫理観を育むため、幅広い知識を養うための科目を配置する。
- **CP2**　疾病による身体障害やスポーツ障害の予防・回復に関する理学療法の専門的な知識と技術を身につけ、社会復帰や社会参加を目指す人々を支援する能力を修得するための科目を配置する。
- **CP3**　理学療法士の知識・分析能力をさらに深化させ、他分野の知識等とも結びつけて新たなアイデアを生み、それらを社会に貢献する高度な実践力と豊かな創造力を養うための科目を配置する。
- **CP4**　リハビリテーション専門分野を生涯にわたって学び、リハビリテーション並びに理学療法学を実践研究し、将来、教育及び研究の分野において指導的役割を担える基礎的能力を高めるための科目を配置する。
- **CP5**　理学療法士として主体的に取り組み、地域住民の健康面での特性や課題、地域社会のニーズなどを的確に把握し、地域貢献する力を養うための科目を配置する。

理学療法学専攻アドミッション・ポリシー（AP）

AP1　理学療法士を強く志し、建学の理念を深く理解している人
AP2　本学を修了する為に必要な基礎学力を有する人
AP3　社会に共生する人間としての自覚を有し自律的に行動出来る人
AP4　他者を思いやることが出来、他者と協調し協働できる人
AP5　地域に暮らしている人々の豊かな生活実現に向けて、強い目的意識と情熱を持ち続けられる人

理学療法学専攻カリキュラム・マップ

：必修科目
：選択科目

人が「いつまでも美しく輝いて生きる（Live Longer Better）」ことが可能な社会の創出と、和歌山を未来に繋ぐ（「地方消滅」から「地方創生」へ）ことを実践する作業療法士へ

作業療法学専攻
ディプロマ・ポリシー
（DP）

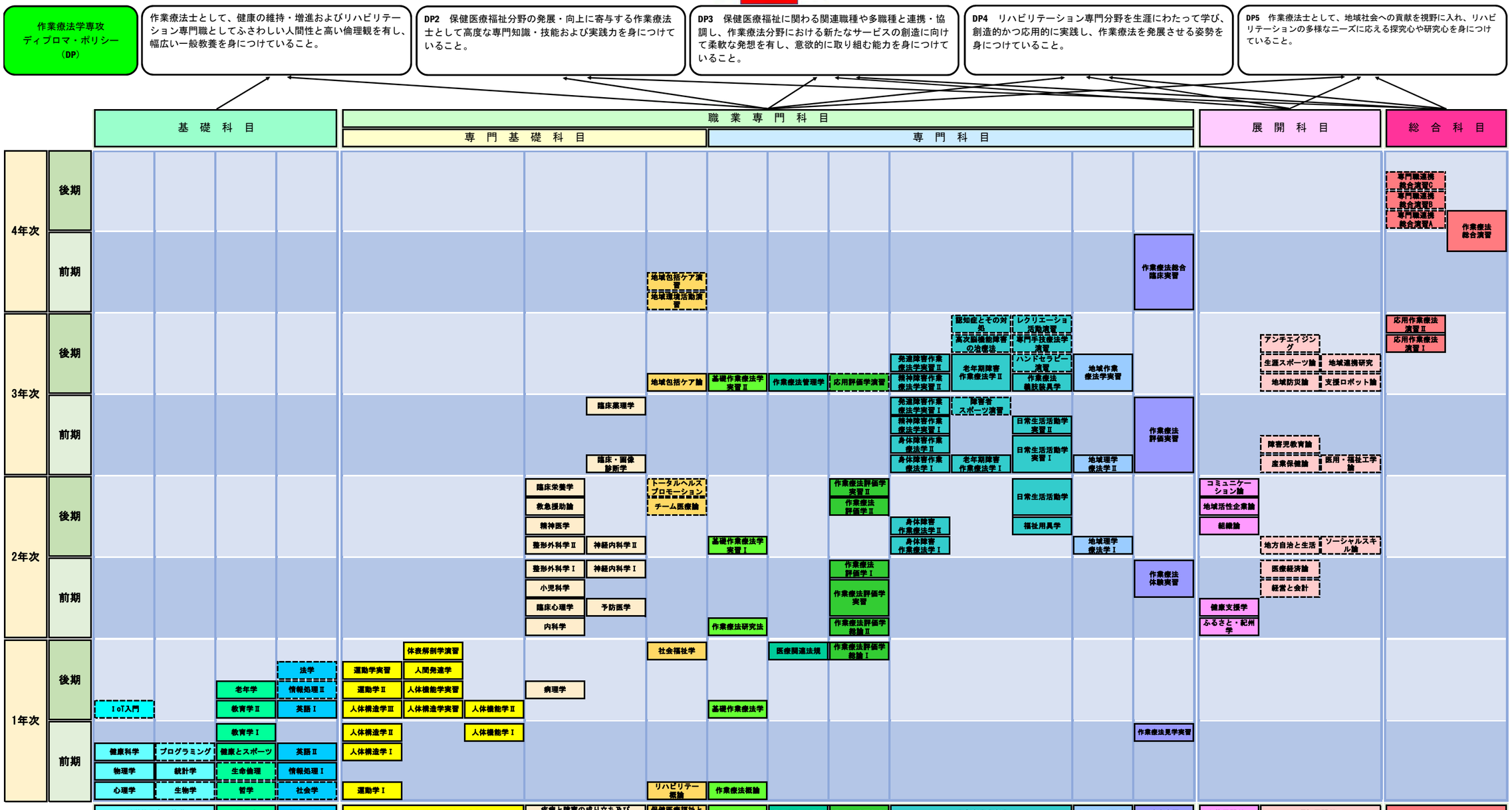
作業療法士として、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職としてふさわしい人間性と高い倫理観を有し、幅広い一般教養を身につけていること。

DP2　保健医療福祉分野の発展・向上に寄与する作業療法士として高度な専門知識・技能および実践力を身につけていること。

DP3　保健医療福祉に関わる関連職種や多職種と連携・協調し、作業療法分野における新たなサービスの創造に向けて柔軟な発想を有し、意欲的に取り組む能力を身につけていること。

DP4　リハビリテーション専門分野を生涯にわたって学び、創造的かつ応用的に実践し、作業療法を発展させる姿勢を身につけていること。

DP5　作業療法士として、地域社会への貢献を視野に入れ、リハビリテーションの多様なニーズに応える探究心や研究心を身につけていること。



作業療法学専攻
カリキュラム・ポリシー
（CP）

CP1　作業療法士としての豊かな人間性と倫理観を育むための科目、幅広い知識を養う科目を配置する。

CP2　保健医療分野および作業療法に関する知識・技術を修得するための講義科目、演習科目を設け、修得した知識・技術を実践する演習・実習科目を配置する。

CP3　様々な職種の職能や実践、連携状況の理解を深める科目を設け、ワークショップ等の方法を用い様々な職種の職能と連携を通して、課題を検討する科目を配置する。

CP4　リハビリテーション分野の取り組みを情報収集し課題を検討する科目を設定し、検討された課題から新たな作業療法による試みを模索・検討する科目を配置する。

CP5　地域社会における課題に対応する方略・方法を検討する科目を設定し、地域社会の課題解決に向けた作業療法による対応を実践する科目を配置する。

作業療法学専攻アドミッションポリシー（AP）

AP1　作業療法士を強く志し、建学の理念を深く理解している人
AP2　本学を修了する為に必要な基礎学力を有する人
AP3　社会に共生する人間としての自覚を有し自律的に行動出来る人
AP4　他者を思いやることが出来、他者と協調し協働できる人
AP5　地域に暮らしている人々の豊かな生活実現に向けて、強い目的意識と情熱を持ち続けられる人

作業療法学専攻カリキュラム・マップ

：必修科目
：選択科目

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム･ポリシーと授業科目の対応表(理学療法学専攻)

資料3-2

カリキュラム･ポリシー	1年次	2年次	3年次	4年次	ディプロマ・ポリシー
CP1　理学療法士としての豊かな人間性と倫理観を育むため、幅広い知識を養うための科目を配置する。	【基礎科目】				DP1　理学療法士として、医療分野における高い倫理観を有し、幅広い一般教養を身につけていること。
	○ 心理学(2)				
	※生物学(2)				
	※物理学(1)				
	○ 統計学(2)				
	○ 健康科学(1)				
	※プログラミング(1)				
	※IoT入門(1)				
	※哲学(1)				
	○ 老年学(1)				
	※生命倫理(2)				
	○ 教育学Ⅰ(2)				
	○ 教育学Ⅱ(2)				
	○ 健康とスポーツ(1)				
	※社会学(1)				
	※法学(1)				
	○ 情報処理Ⅰ(1)				
	※情報処理Ⅱ(1)				
	○ 英語Ⅰ(2)				
	○ 英語Ⅱ(2)				
	【職業専門科目】				
	○リハビリテーション概論(1)				
CP2　疾病による身体障害やスポーツ障害の予防・回復に関する理学療法の専門的な知識と技術を身につけ、社会復帰や社会参加を目指す人々を支援する能力を修得するための科目を配置する。	【職業専門科目】	【職業専門科目】	【職業専門科目】		DP2　保健医療福祉分野の発展・向上に寄与する理学療法士として高度な専門知識・技能および実践力を身につけていること。
	○ 人体構造学Ⅰ(1)	○ 体表解剖学演習(1)	○ 臨床薬理学(1)		
	○ 人体構造学Ⅱ(1)	○ 運動学実習(1)	○ 臨床･画像診断学(1)		
	○ 人体構造学Ⅲ(1)	○ 内科学(1)	○ 臨床理学療法学(1)		
	○ 人体構造学実習(1)	○ 神経内科学Ⅰ(1)	○ 理学療法診断学(1)		
	○ 人体機能学(2)	○ 神経内科学Ⅱ(1)	○ 運動療法学実習Ⅰ(1)		
	○ 神経･筋生理学(1)	○ 整形外科学Ⅰ(1)	○ 運動療法学実習Ⅱ(1)		
	○ 人体機能学実習(1)	○ 整形外科学Ⅱ(1)	○ 義肢装具学Ⅱ(1)		
	○ 運動学Ⅰ(1)	○ 予防医学(1)	○ 運動器障害理学療法学実習(1)		
	○ 運動学Ⅱ(1)	○ 小児科学(1)	※スポーツ障害理学療法学実習(1)		
	○ 人間発達学(1)	○ 臨床心理学(1)	○ 発達障害理学療法学実習(1)		
	○ 病理学(1)	○ 精神医学(1)	○ 中枢神経障害理学療法学実習(2)		
	○ 医療関連法規(1)	○ 臨床栄養学(1)	○ 神経筋疾患理学療法学実習(2)		
		○ 救急援助論(1)	○ 内部障害理学療法学実習(2)		
		○ 運動療法学(1)	※徒手療法セミナー(1)		
		○ 物理療法学(2)	○ 日常生活活動学実習(1)		
		○ 義肢装具学Ⅰ(1)	○ 生活環境学実習(1)		
		○ 日常生活活動学(1)	※障害者スポーツ実習(1)		
		※チーム医療論(1)	※高次脳機能障害の治療法(1)		
			※認知症とその対処(1)		
			※レクレーション活動演習(1)		
CP3　理学療法士の知識・分析能力をさらに深化させ、他分野の知識等とも結びつけて新たなアイデアを生み、それらを社会に貢献する高度な実践力と豊かな創造力を養うための科目を配置する。	【職業専門科目】	【展開科目	【職業専門科目】	【職業専門科目】	DP3　健康と医療・介護に関わる関連職種や多職種と連携・協調し、理学療法分野における新たなサービスの創造に向けて柔軟な発想を有し、意欲的に取り組む能力を身につけていること。
	○ 理学療法概論(1)	○ ふるさと･紀州学(2)	○ 理学療法管理学(1)	○ 理学療法総合臨床実習(16)	
	○ 基礎理学療法学Ⅰ(1)	○ 組織論(2)	○ 理学療法評価実習(4)	【総合科目】	
	○ 基礎理学療法学Ⅱ(1)	○ 地域活性企業論(2)	○ 健康支援学(2)	※専門職連携総合演習A(1)	
	○ 理学療法見学実習(1)	○ コミュニケーション論(2)	※地域防災論(2)	※専門職連携総合演習B(1)	
		※経営と会計(2)	※支援ロボット論(2)	※専門職連携総合演習C(1)	
		※医療経済論(2)	※産業保健論(2)		
		※地方自治と生活(2)	※生涯スポーツ論(2)		
		※ソーシャルスキル論(2)	※医用･福祉工学論(2)		
			※障害児教育論(2)		
			※地域連携研究(2)		
			※アンチエイジング(2)		
CP4　リハビリテーション専門分野を生涯にわたって学び、リハビリテーション並びに理学療法学を実践研究し、将来、教育及び研究の分野において指導的役割を担える基礎的能力を高めるための科目を配置する。	【職業専門科目】	【職業専門科目】	【職業専門科目】	【総合科目】	DP4　リハビリテーション専門分野を生涯のわたって学び、創造的かつ応用的に取り組み、理学療法学を発展させる能力を身につけていること。
	○ 理学療法評価学総論Ⅰ(1)	○ 理学療法評価学総論Ⅱ(1)	※応用評価学演習(1)	○ 理学療法総合演習(2)	
		○ 身体機能評価学実習Ⅰ(1)	※応用物理療法学演習(1)		
		○ 身体機能評価学実習Ⅱ(1)	※専門手技療法学演習(1)		
		○ 理学療法評価学実習Ⅰ(1)	【総合科目】		
		○ 理学療法評価学実習Ⅱ(1)	○ 応用理学療法演習Ⅰ(1)		
		○ 理学療法研究法(1)	○ 応用理学療法演習Ⅱ(1)		
CP5　理学療法士として主体的に取り組み、地域住民の健康面での特性や課題、地域社会のニーズなどを的確に把握し、地域貢献する力を養うための科目を配置する。	【職業専門科目】	【職業専門科目】	【職業専門科目】	【職業専門科目】	DP5　理学療法士として、地域社会への貢献を視野に入れ、リハビリテーションの多様なニーズに応える探究心や研究心を身につけていること。
	○ 社会福祉学(1)	※トータルヘルスプロモーション(1)	○ 地域理学療法学Ⅱ(1)	※地域環境活動演習(1)	
		○ 地域理学療法学Ⅰ(1)	○ 地域理学療法学実習(1)	※地域包括ケア演習(1)	
		○ 理学療法体験実習(2)	○ 地域包括ケア論(1)		

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム･ポリシーと授業科目の対応表(作業療法学専攻)

カリキュラム･ポリシー	1年次	2年次	3年次	4年次	ディプロマ・ポリシー
CP1　作業療法士としての豊かな人間性と倫理観を育むための科目、幅広い知識を養う科目を設ける。	【基礎科目】				DP1　作業療法士として、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職としてふさわしい人間性と高い倫理観を有し、幅広い一般教養を身につけていること。
	○ 心理学(2)				
	※生物学(2)				
	○物理学(1)				
	○ 統計学(2)				
	○ 健康科学(1)				
	※プログラミング(1)				
	※IoT入門(1)				
	※哲学(1)				
	○ 老年学(1)				
	※生命倫理(2)				
	○ 教育学Ⅰ(2)				
	○ 教育学Ⅱ(2)				
	○ 健康とスポーツ(1)				
	※社会学(1)				
	※法学(1)				
	○ 情報処理Ⅰ(1)				
	※情報処理Ⅱ(1)				
	○ 英語Ⅰ(2)				
	○ 英語Ⅱ(2)				
	【職業専門科目】				
	○リハビリテーション概論(1)				
CP2　保健医療分野および作業療法に関する知識・技術を修得するための講義科目、演習科目を設け、修得した知識・技術を実践する演習・実習科目を設ける。	【職業専門科目】	【職業専門科目】	【職業専門科目】		DP2　保健医療福祉分野の発展・向上に寄与する作業療法士として高度な専門知識・技能および実践力を身につけていること。
	○ 人体構造学Ⅰ(1)	○ 体表解剖学演習(1)	○ 臨床薬理学(1)		
	○ 人体構造学Ⅱ(1)	○ 運動学実習(1)	○ 臨床･画像診断学(1)		
	○ 人体構造学Ⅲ(1)	○ 内科学(1)	○身体障害作業療法学実習Ⅰ(1)		
	○ 人体構造学実習(1)	○ 神経内科学Ⅰ(1)	○身体障害作業療法学実習Ⅱ(1)		
	○ 人体機能学(2)	○ 神経内科学Ⅱ(1)	○作業療法義肢装具学(1)		
	○ 神経･筋生理学(1)	○ 整形外科学Ⅰ(1)	○発達障害作業療法学Ⅰ(1)		
	○ 人体機能学実習(1)	○ 整形外科学Ⅱ(1)	○発達障害作業療法学Ⅱ(1)		
	○ 運動学Ⅰ(1)	○ 予防医学(1)	○精神障害作業療法学Ⅰ(1)		
	○ 運動学Ⅱ(1)	○ 小児科学(1)	○精神障害作業療法学Ⅱ(1)		
	○ 人間発達学(1)	○ 臨床心理学(1)	○老年期障害作業療法学Ⅰ(1)		
	○ 病理学(1)	○ 精神医学(1)	○老年期障害作業療法学Ⅱ(1)		
	○ 医療関連法規(1)	○ 臨床栄養学(1)	○日常生活活動学実習Ⅰ(2)		
		○ 救急援助論(1)	○日常生活活動学実習Ⅱ(1)		
		○作業療法研究論(1)	※障害者スポーツ演習(1)		
		○基礎作業学実習Ⅰ(1)	※高次脳機能障害の治療法(1)		
		○福祉用具学(1)	※認知症とその対処(1)		
		○日常生活活動学(2)	※レクレーション活動演習(1)		
		※チーム医療論(1)			
CP3　様々な職種の職能や実践、連携状況の理解を深める科目を設け、ワークショップ等の方法を用い様々な職種の職能と連携を通して、課題を検討する科目を設定する。	【職業専門科目】	【展開科目	【職業専門科目】	【職業専門科目】	DP3　保健医療福祉に関わる関連職種や多職種と連携・協調し、作業療法分野における新たなサービスの創造に向けて柔軟な発想を有し、意欲的に取り組む能力を身につけていること。
	○作業療法概論(1)	○ ふるさと･紀州学(2)	○作業療法管理学(1)	○作業療法総合臨床実習(16)	
	○基礎作業学(1)	○ 組織論(2)	○作業療法評価実習(4)	【総合科目】	
	○作業療法見学実習(1)	○ 地域活性企業論(2)	○ 健康支援学(2)	※専門職連携総合演習A(1)	
		○ コミュニケーション論(2)	※地域防災論(2)	※専門職連携総合演習B(1)	
		※経営と会計(2)	※支援ロボット論(2)	※専門職連携総合演習C(1)	
		※医療経済論(2)	※産業保健論(2)		
		※地方自治と生活(2)	※生涯スポーツ論(2)		
		※ソーシャルスキル論(2)	※医用･福祉工学論(2)		
			※障害児教育論(2)		
			※地域連携研究(2)		
			※アンチエイジング(2)		
CP4　リハビリテーション分野の取り組みを情報収集し課題を検討する科目を設定し、検討された課題から新たな作業療法による試みを模索・検討する科目を設定する。	【職業専門科目】	【職業専門科目】	【職業専門科目】	【総合科目】	DP4　リハビリテーション専門分野を生涯のわたって学び、および関連分野の情報を積極的に収集し、創造的かつ応用的に取り組み、作業療法学を発展させる姿勢能力を身につけていること。
	○作業療法評価学総論Ⅰ(1)	○作業療法評価学総論Ⅱ(1)	※応用評価学演習(1)	○ 理学療法総合演習(2)	
		○作業療法評価学実習(2)	※ハンドセラピー演習(1)		
		○作業療法評価学Ⅰ(1)	※専門手技療法学演習(1)		
		○作業療法評価学Ⅱ(1)	【総合科目】		
		○身体障害作業療法学Ⅰ(1)	○応用作業療法演習Ⅰ(1)		
		○身体障害作業療法学Ⅱ(1)	○応用作業療法演習Ⅱ(1)		
CP5　地域社会における課題に対応する方略・方法を検討する科目を設定し、地域社会の課題解決に向けた作業療法による対応を実践する科目を設定する。	【職業専門科目】	【職業専門科目】	【職業専門科目】	【職業専門科目】	DP5　作業療法士として、地域社会への貢献を視野に入れ、リハビリテーションの多様なニーズに応える探究心や研究心を身につけていること。
	○ 社会福祉学(1)	※トータルヘルスプロモーション(1)	○地域作業療法学Ⅱ(1)	※地域環境活動演習(1)	
		○地域作業療法学Ⅰ(1)	○地域作業療法学実習(2)	※地域包括ケア演習(1)	
		○作業療法体験実習(2)	○ 地域包括ケア論(1)		

資料5

教育課程と指定規則との対比表

（理学療法士学校）（和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科理学療法学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	1単位あたりの時間数	履修方法および卒業要件	理学療法士課程 基礎分野 科学的思考の基盤	基礎分野 人間と生活	基礎分野 社会の理解	専門基礎分野 人体の構造と機能及び心身の発達	専門基礎分野 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	専門基礎分野 保健医療福祉とリハビリテーションの理念	専門分野 基礎理学療法学	専門分野 理学療法管理学	専門分野 理学療法評価学	専門分野 理学療法治療学	専門分野 地域理学療法学	専門分野 臨床実習	合計
									14			12	14	4	6	2	6	20	3	20	101
基礎科目	科学的思考の基礎	心理学	1前	2				必修18単位＋選択3単位以上	○												
		生物学	1前		2				○												
		物理学	1前	1					○												
		統計学	1前	2					○												
		健康科学	1前	1					○												
		プログラミング	1前		1				○												
		IoT入門	1後		1				○												
	人間と生活	哲学	1前		1				○												
		生命倫理	1前		2				○												
		健康とスポーツ	1前	1					○												
		教育学Ⅰ	1前	2					○												
		教育学Ⅱ	1後	2					○												
		老年学	1後	1					○												
	社会の理解	社会学	1前		1				○												
		法学	1後		1				○												
		情報処理Ⅰ	1前	1					○												
		情報処理Ⅱ	1後		1				○												
		英語Ⅰ	1前	2					○												
		英語Ⅱ	1後	2					○												
	小計								27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
職業専門科目	専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達	人体構造学Ⅰ（骨・筋系）	1前	1				卒業要件は、必修科目のほか左記の選択科目を修得すること。必修87単位＋選択5単位				○									
		人体構造学Ⅱ（脈管・内臓系）	1前	1								○									
		人体構造学Ⅲ（神経系）	1後	1								○									
		人体構造学実習	1後	1								○									
		体表解剖学演習	2前	1								○									
		人体機能学Ⅰ	1前	1								○									
		人体機能学Ⅱ	1後	1								○									
		人体機能学実習	1後	1								○									
		運動学Ⅰ	1前	1								○									
		運動学Ⅱ	1後	1								○									
		運動学実習	2前	1								○									
		人間発達学	1後	1								○									
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	1後	1									○								
		内科学	2前	1									○								
		神経内科学Ⅰ	2前	1									○								
		神経内科学Ⅱ	2後	1									○								
		整形外科学Ⅰ	2前	1									○								
		整形外科学Ⅱ	2後	1									○								
		小児科学	2前	1									○								
		臨床心理学	2前	1									○								
		精神医学	2後	1									○								
		臨床薬理学	3前	1									○								
		臨床栄養学	2後	1									○								
		予防医学	2前	1									○								
		救急援助論	2後	1									○								
		臨床・画像診断学	3前	1									○								
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1前	1										○							
		社会福祉学	1後	1										○							
		チーム医療論	2後		1									○							
		地域包括ケア論	3後	1										○							
		地域環境活動演習	4前		1									○							
		地域包括ケア演習	4前		1									○							
		トータルヘルスプロモーション	2後		1									○							
	小計								0	12	14	7	0	0	0	0	0	0	0		
	専門科目 基礎理学療法学	理学療法概論	1前	1											○						
		基礎理学療法学Ⅰ	1前	1											○						
		基礎理学療法学Ⅱ	1後	1											○						
		理学療法研究論	2後	1											○						
		臨床理学療法学	3後	1											○						
		理学療法臨床診断学	3前	1											○						
	理学療法管理学	医療関連法規	1後	1												○					
		理学療法管理学	3後	1												○					
	理学療法評価学	理学療法評価学総論Ⅰ	1後	1													○				
		理学療法評価学総論Ⅱ	2前	1													○				
		身体機能評価学実習Ⅰ	2前	1													○				
		身体機能評価学実習Ⅱ	2前	1													○				
		理学療法評価学実習Ⅰ	2後	1													○				
		理学療法評価学実習Ⅱ	2後	1													○				
		応用評価学演習	3後		1												○				
	理学療法治療法	運動療法学	2後	1														○			
		運動療法学実習Ⅰ	3前	1														○			
		運動療法学実習Ⅱ	3前	1														○			
		物理療法学実習	2後	2														○			
		義肢装具学Ⅰ	2後	1														○			
		義肢装具学Ⅱ	3前	1														○			
		運動器障害理学療法学実習	3前	2														○			
		スポーツ障害理学療法学実習	3後		1													○			
		発達障害理学療法学実習	3後	1														○			
		中枢神経障害理学療法学実習	3後	2														○			
		神経筋疾患理学療法学実習	3前	1														○			
		内部障害理学療法学実習	3後	2														○			
		徒手療法セミナー	3後		1													○			
		日常生活活動学	2後	1														○			
		日常生活活動学実習	3前	1														○			
		生活環境学実習	3前	1														○			
		障害者スポーツ演習	3前		1													○			
		応用物理療法学演習	3後		1													○			
		専門手技療法学演習	3後		1													○			
		高次脳機能障害の治療法	3後		1													○			
		認知症とその対処	3後		1													○			
		レクリエーション活動演習	3後		1													○			
	地域理学療法学	地域理学療法学Ⅰ	2後	1															○		
		地域理学療法学Ⅱ	3前	1															○		
		地域理学療法学実習	3後	1															○		
	臨床実習	理学療法見学実習	1前	1																○	
		理学療法体験実習	2前	2																○	
		理学療法評価実習	3前	4																○	
		理学療法総合臨床実習	4前	16																○	
	小計								0	0	0	0	6	2	7	26	3	23			
展開科目	必修展開科目	ふるさと・紀州学	2前	2				必修10単位＋選択10単位以上													
		健康支援学	3前	2																	
		組織論	2後	2																	
		地域活性企業論	2後	2																	
		コミュニケーション論	2後	2																	
	選択展開科目	経営と会計	2前		2																
		医療経済論	2前		2																
		地域防災論	3後		2																
		支援ロボット論	3後		2																
		産業保健論	3前		2																
		地方自治と生活	2後		2																
		生涯スポーツ論	3後		2																
		ソーシャルスキル論	2後		2																
		医用・福祉工学論	3前		2																
		障害児教育論	3前		2																
		地域連携研究	3後		2																
		アンチエイジング	3後		2																
	小計																				
総合科目	理学療法総合科目	専門職連携総合演習A	4前		1			必修4単位＋選択1単位													
		専門職連携総合演習B	4前		1																
		専門職連携総合演習C	4前		1																
		応用理学療法演習Ⅰ	3後	1														○			
		応用理学療法演習Ⅱ	3後	1														○			
		理学療法総合演習	4通	2																	
	小計								0	0	0	0	2	0	0	2	0	0			
卒業単位数								137	27	12	14	7	8	2	7	28	3	23	131		
指定規則に対する増単位数									13	0	0	3	2	0	1	8	0	3	30		

教育課程と指定規則との対比表

（作業療法士学校）（和歌山リハビリテーション専門職大学健康科学部リハビリテーション学科作業療法学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	1単位あたりの時間数	履修方法および卒業要件	作業療法士課程 基礎分野 科学的思考の基盤	基礎分野 人間と生活	基礎分野 社会の理解	専門基礎分野 人体の構造と機能及び心身の発達	専門基礎分野 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	専門基礎分野 保健医療福祉とリハビリテーションの理念	専門分野 基礎作業療法学	専門分野 作業療法管理学	専門分野 作業療法評価学	専門分野 作業療法治療学	専門分野 地域作業療法学	専門分野 臨床実習	合計
									14			12	14	4	5	2	5	19	4	22	101
基礎科目	科学的思考の基礎	心理学	1前	2				必修17単位＋選択3単位以上	○												
		生物学	1前		2				○												
		物理学	1前	1					○												
		統計学	1前	2					○												
		健康科学	1前	1					○												
		プログラミング	1前		1				○												
		IoT入門	1後		1				○												
	人間と生活	哲学	1前		1				○												
		生命倫理	1前		2				○												
		健康とスポーツ	1前	1					○												
		教育学Ⅰ	1前	2					○												
		教育学Ⅱ	1後	2					○												
		老年学	1後	1					○												
	社会の理解	社会学	1前		1				○												
		法学	1後		1				○												
		情報処理Ⅰ	1前	1					○												
		情報処理Ⅱ	1後		1				○												
		英語Ⅰ	1前	2					○												
		英語Ⅱ	1後	2					○												
	小計								27			0	0	0	0	0	0	0	0	0	
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	人体構造学Ⅰ（骨・筋系）	1前	1				卒業要件は、必修科目のほか左記の選択科目を修得すること。				○									
		人体構造学Ⅱ（脈管・内臓系）	1前	1								○									
		人体構造学Ⅲ（神経系）	1後	1								○									
		人体構造学実習	1後	1								○									
		体表解剖学演習	2前	1								○									
		人体機能学Ⅰ	1前	1								○									
		人体機能学Ⅱ	1後	1								○									
		人体機能学実習	1後	1								○									
		運動学Ⅰ	1前	1								○									
		運動学Ⅱ	1後	1								○									
		運動学実習	2前	1								○									
		人間発達学	1後	1								○									
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	1後	1									○								
		内科学	2前	1									○								
		神経内科学Ⅰ	2前	1									○								
		神経内科学Ⅱ	2後	1									○								
		整形外科学Ⅰ	2前	1									○								
		整形外科学Ⅱ	2後	1									○								
		小児科学	2前	1									○								
		臨床心理学	2前	1									○								
		精神医学	2後	1									○								
		臨床薬理学	3前	1									○								
		臨床栄養学	2後	1									○								
		予防医学	2前	1									○								
		救急援助論	2後	1									○								
		臨床・画像診断学	3前	1									○								
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1前	1										○							
		社会福祉学	1後	1										○							
		チーム医療論	2後		1									○							
		地域包括ケア論	3後	1										○							
		地域環境活動演習	4前		1									○							
		地域包括ケア演習	4前		1									○							
		トータルヘルスプロモーション	2後		1									○							
	小計								0			12	14	7	0	0	0	0	0	0	
専門科目	基礎作業療法学	作業療法概論	1前	1				必修87単位＋選択5単位							○						
		基礎作業学	1後	1											○						
		作業療法研究論	2前	1											○						
		基礎作業学実習Ⅰ	2後	1											○						
		基礎作業学実習Ⅱ	3後	1											○						
	作業療法管理学	医療関連法規	1後	1												○					
		作業療法管理学	3後	1												○					
	作業療法評価学	作業療法評価学総論Ⅰ	1後	1													○				
		作業療法評価学総論Ⅱ	2前	1													○				
		作業療法評価学実習	2前	2													○				
		作業療法評価学Ⅰ	2前	1													○				
		作業療法評価学Ⅱ	2後	1													○				
		応用評価学演習	3後		1												○				
	作業療法治療法	身体障害作業療法学Ⅰ	2後	1														○			
		身体障害作業療法学Ⅱ	2後	1														○			
		身体障害作業療法学実習Ⅰ	3前	1														○			
		身体障害作業療法学実習Ⅱ	3前	1														○			
		作業療法義肢装具学	3後	1														○			
		福祉用具学	2後	1														○			
		発達障害作業療法学Ⅰ	3前	1														○			
		発達障害作業療法学Ⅱ	3後	1														○			
		精神障害作業療法学Ⅰ	3前	1														○			
		精神障害作業療法学Ⅱ	3後	1														○			
		老年期障害作業療法学Ⅰ	3前	1														○			
		老年期障害作業療法学Ⅱ	3後	2														○			
		日常生活活動学	2後	2														○			
		日常生活活動学実習Ⅰ	3前	2														○			
		日常生活活動学実習Ⅱ	3前	1														○			
		障害者スポーツ演習	3前		1													○			
		高次脳機能障害の治療法	3後		1													○			
		認知症とその対処	3後		1													○			
		レクリエーション活動演習	3後		1													○			
		ハンドセラピー演習	3後		1													○			
		専門手技療法学演習	3後		1													○			
	地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ	2後	1															○		
		地域作業療法学Ⅱ	3前	1															○		
		地域作業療法学実習	3後	2															○		
	臨床実習	作業療法見学実習	1前	1																○	
		作業療法体験実習	2前	2																○	
		作業療法評価実習	3前	4																○	
		作業療法総合臨床実習	4前	16																○	
	小計								0			0	0	0	5	2	7	24	4	23	
展開科目	必修展開科目	ふるさと・紀州学	2前	2				必修10単位＋選択10単位以上													
		健康支援学	3前	2																	
		組織論	2後	2																	
		地域活性企業論	2後	2																	
		コミュニケーション論	2後	2																	
	選択展開科目	経営と会計	2前		2																
		医療経済論	2前		2																
		地域防災論	3後		2																
		支援ロボット論	3後		2																
		産業保健論	3前		2																
		地方自治と生活	2後		2																
		生涯スポーツ論	3後		2																
		ソーシャルスキル論	2後		2																
		医用・福祉工学論	3前		2																
		障害児教育論	3前		2																
		地域連携研究	3後		2																
		アンチエイジング	3後		2																
	小計								0			0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総合科目	作業療法総合科目	専門職連携総合演習A	4前		1			必修4単位＋選択1単位													
		専門職連携総合演習B	4前		1																
		専門職連携総合演習C	4前		1																
		応用作業療法演習Ⅰ	3後	1														○			
		応用作業療法演習Ⅱ	3後	1														○			
		作業療法総合演習	4通	2											○						
	小計								0			0	0	0	0	0	0	2	0	0	
卒業要件単位数								137	25			12	14	7	7	2	7	24	4	23	125
指定規則に対する増単位数									11			0	0	3	2	0	2	5	0	1	24

理学療法学専攻

資料10-1

補正時		単位数				コマ数				時間数				実習・演習等 単位数			
		必修前期	必修後期	選択前期	選択後期	必修前期	必修後期	選択前期	選択後期	必修前期	必修後期	選択前期	選択後期	必修前期	必修後期	選択前期	選択後期
1年次	総数	20	16	7	3	212	203	40	38	435	405	105	75	3	2	0	1
	必要	20	16	2	1	212	203	16	15	435	405	30	30	3	2	0	1
	学期	36		3		415		31		840		60		5		1	
	年間	39				446				900				6			
2年次	総数	15	20	4	6	218	248	30	60	435	495	60	120	6	4	0	0
	必要	15	20	2	3	203	248	15	30	435	495	30	60	6	4	0	0
	学期	35		5		451		45		930		90		10		0	
	年間	40				496				1020				10			
3年次	総数	18	11	7	18	248	165	60	195	555	360	120	390	10	6	2	4
	必要	18	11	3	6	248	165	30	90	555	360	60	180	10	6	2	4
	学期	29		9		413		120		915		240		16		6	
	年間	38				533				1155				22			
4年次	総数	17	1	5	0	255	15	75	0	750	30	150	0	16	0	5	0
	必要	17	1	2	0	255	15	30	0	750	30	60	0	16	0	3	0
	学期	18		2		270		30		780		60		16		3	
	年間	20				300				840				19			
4年間	総数	70	48	23	27	933	631	205	293	2175	1290	435	585	35	12	7	5
	必要	70	48	9	10	918	631	91	135	2175	1290	180	270	35	12	5	5
	学期	118		19		1549		226		3465		450		47		10	
	年間	**137**				**1775**				**3915**				**57**			

申請時		単位数				コマ数				時間数				実習・演習等 単位数			
		必修前期	必修後期	選択前期	選択後期	必修前期	必修後期	選択前期	選択後期	必修前期	必修後期	選択前期	選択後期	必修前期	必修後期	選択前期	選択後期
1年次	総数	17	18	2	5	225	270	30	75	525	540	60	150	1	2	2	2
	必要	17	18	1	2	225	270	15	30	465	60	30	60	1	2	2	1
	学期	35		3		495		45		525		90		3		3	
	年間	38				540				615				6			
2年次	総数	16	13	0	0	240	195	0	0	510	390	0	0	4	3	0	0
	必要	16	13	0	0	240	195	0	0	510	390	0	0	4	3	0	0
	学期	29		0		435		0		900		0		7		0	
	年間	29				435				900				7			
3年次	総数	21	21	0	8	315	315	0	8	690	630	0	240	14	9	0	4
	必要	21	21	0	3	315	315	0	45	690	630	0	90	14	9	0	3
	学期	42		3		630		45		1320		90		23		3	
	年間	45				675				1410				26			
4年次	総数	17	1	5	28	255	15	75	210	720	30	30	420	16	0	5	0
	必要	17	1	1	12	255	15	15	180	720	30	30	360	16	0	2	0
	学期	18		13		270		195		750		390		16		2	
	年間	31				465				1140				18			
4年間	総数	71	53	7	41	1035	795	105	293	2445	1590	90	810	35	14	7	6
	学期	124		19		1830		285		3495		570		49		8	
	年間	**143**				**2115**				**4065**				**57**			

作業療法学専攻

補正時		単位数				コマ数				時間数				実習・演習 単位数			
		必修前期	必修後期	選択前期	選択後期	必修前期	必修後期	選択前期	選択後期	必修前期	必修後期	選択前期	選択後期	必修前期	必修後期	選択前期	選択後期
1年次	総数	19	16	7	3	197	203	69	38	390	405	105	75	2	1	1	1
	必要	19	16	1	2	197	203	15	23	390	405	30	45	2	1	1	1
	学期	35		3		400		38		795		75		3		2	
	年間	38				438				870				5			
2年次	総数	17	19	4	6	240	270	30	60	510	480	60	120	7	4	0	0
	必要	17	19	2	3	240	240	15	30	510	480	30	60	7	4	0	0
	学期	36		5		480		45		990		90		11		0	
	年間	41				525				1080				11			
3年次	総数	17	12	7	16	233	180	60	165	525	360	120	330	10	9	1	4
	必要	17	12	3	6	233	180	30	90	525	360	60	180	11	5	2	4
	学期	29		9		413		120		885		240		16		6	
	年間	38				533				1125				22			
4年次	総数	17	1	5	0	255	15	75	0	750	30	150	0	16	5	0	0
	必要	17	1	2	0	255	15	30	0	750	30	60	0	16	2	0	0
	学期	18		2		270		30		780		60		18		0	
	年間	20				300				840				18			
4年間	総数	70	48	23	25	925	668	234	263	2175	1275	435	525	35	19	2	5
	必要	70	48	8	11	925	638	90	143	2175	1275	180	285	36	12	3	5
	学期	118		19		1563		233		3450		465		48		8	
	年間	**137**				**1796**				**3915**				**56**			

申請時		単位数				コマ数				時間数				実習単位数			
		必修前期	必修後期	選択前期	選択後期	必修前期	必修後期	選択前期	選択後期	必修前期	必修後期	選択前期	選択後期	必修前期	必修後期	選択前期	選択後期
1年次	総数	17	18	2	5	225	225	30	75	465	450	60	150	2	2	1	2
	必要	17	18	1	2	225	225	15	30	465	450	30	60	2	2	1	2
	学期	35		3		450		45		915		90		4		3	
	年間	38				495				1005				7			
2年次	総数	17	16	0	0	255	240	0	0	555	480	0	0	4	6	0	0
	必要	17	16	0	0	255	240	0	0	555	480	0	0	4	6	0	0
	学期	33		0		495		0		1035		0		10		0	
	年間	33				495				1035				10			
3年次	総数	19	19	0	8	270	195	0	120	630	390	0	240	11	4	0	4
	必要	19	19	0	3	270	195	0	90	630	390	0	180	11	4	0	3
	学期	38		3		465		90		1020		180		15		3	
	年間	41				555				1200				18			
4年次	総数	17	1	5	28	255	15	75	210	720	30	150	420	16	0	5	0
	必要	17	1	1	12	255	15	15	180	720	30	30	360	16	0	4	0
	学期	18		13		270		195		750		390		16		4	
	年間	31				465				1140				20			
4年間	総数	70	54	7	41	1005	675	105	405	2370	1350	210	810	33	12	6	6
	必要	70	54	2	17	1005	675	30	300	2370	1350	60	600	33	12	5	5
	学期	124		19		1680		330		3720		660		45		10	
	年間	**143**				**2010**				**4380**				**55**			

教育課程等の概要

（健康科学部リハビリテーション学科　理学療法学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
基礎科目	科学的思考の基礎	心理学	1前	2			○								兼1
		生物学	1前		2		○								兼1
		物理学	1前	1			○								兼1
		統計学	1前	2			○			1					
		健康科学	1前	1			○								兼1
		プログラミング	1前		1		○					1			PT/OT協同
		IoT入門	1後		1		○					1			PT/OT協同
	人間と生活	哲学	1前		1		○								兼1
		生命倫理	1前		2		○			1					
		健康とスポーツ	1前	1				○				1			
		教育学Ⅰ	1前	2			○			1					
		教育学Ⅱ	1後	2			○			1					
		老年学	1後	1			○			1					
	社会の理解	社会学	1前		1		○								兼1 PT/OT協同
		法学	1後		1		○			1					兼1 PT/OT協同
		情報処理Ⅰ	1前	1			○			1					
		情報処理Ⅱ	1後		1			○		1					
		英語Ⅰ	1前	2			○				1				
		英語Ⅱ	1後	2			○				1				
		小計（ 19科目）		17	10		－			8		3			兼7
		うち前期課程（ 13科目）													

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
職業専門科目	専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達	人体構造学Ⅰ（骨・筋系）	1前	1			○			1					
		人体構造学Ⅱ（脈管・内臓系）	1前	1			○			1					
		人体構造学Ⅲ（神経系）	1後	1			○			1					
		人体構造学実習	1後	1				○		1	1				
		体表解剖学演習	2前	1				○				1			
		人体機能学Ⅰ	1前	1			○			1		1			
		人体機能学Ⅱ	1後	1			○			1		1			
		人体機能学実習	1後	1					○	1		1			
		運動学Ⅰ	1前	1			○			1					
		運動学Ⅱ	1後	1			○			1					
		運動学実習	2前	1					○	1					
		人間発達学	1後	1			○			1					
	専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	1後	1			○								兼1
		内科学	2前	1			○								兼1
		神経内科学Ⅰ	2前	1			○			1					
		神経内科学Ⅱ	2後	1			○			1					
		整形外科学Ⅰ	2前	1			○			1					
		整形外科学Ⅱ	2後	1			○			1					
		小児科学	2前	1			○			1					
		臨床心理学	2前	1			○								兼1
		精神医学	2後	1			○								兼1
		臨床薬理学	3前	1			○								兼1
		臨床栄養学	2後	1			○								兼1
		予防医学	2前	1			○			1					
		救急援助論	2後	1			○			1					
		臨床・画像診断学	3前	1			○			1					
	理学療法リハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1前	1			○			1					
		社会福祉学	1後	1			○								兼1
		チーム医療論	2後		1		○			1					
		地域包括ケア論	3後	1			○			1					
		地域環境活動演習	4前		1			○		1	1				PT/OT協同
		地域包括ケア演習	4前		1			○		1	1				PT/OT協同
		トータルヘルスプロモーション	2後		1		○								PT/OT協同
		小計（ 34科目）		29	4		－			24	3	4			兼7
		うち前期課程（ 17科目）													

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
職業専門科目	基礎理学療法学	理学療法概論	1前	1			○			1					
		基礎理学療法学Ⅰ	1前	1			○				1				
		基礎理学療法学Ⅱ	1後	1			○				1				
		理学療法研究論	2後	1			○			1					
		臨床理学療法学	3後	1			○			1					
		理学療法臨床診断学	3前	1			○			1					
	理学療法管理学	医療関連法規	1後	1			○			1					兼1
		理学療法管理学	3後	1			○			1					
	理学療法評価学	理学療法評価学総論Ⅰ	1後	1			○			1					
		理学療法評価学総論Ⅱ	2前	1			○			1					
		身体機能評価学実習Ⅰ	2前	1					○	1					
		身体機能評価学実習Ⅱ	2前	1					○	1					
		理学療法評価学実習Ⅰ	2後	1					○	1					
		理学療法評価学実習Ⅱ	2後	1					○		1				
		応用評価学演習（OSCE解説）	3後		1			○		1	1				PT/OT協同
	理学療法治療法	運動療法学	2後	1			○				1				
		運動療法学実習Ⅰ	3前	1					○		1				
		運動療法学実習Ⅱ	3前	1					○			1			
		物理療法学実習	2後	2					○				1		
		義肢装具学Ⅰ	2後	1			○								兼1
		義肢装具学Ⅱ	3前	1			○								兼1
		運動器障害理学療法学実習	3前	2					○			1			
		スポーツ障害理学療法学実習	3後		1				○			1			
		発達障害理学療法学実習	3後	1					○						兼1　講師：林 勝彦
		中枢神経障害理学療法学実習	3後	2			○		○				1		講義1単位、実技1単位
		神経筋疾患理学療法学実習	3前	1					○	1					実技1単位
		内部障害理学療法学実習	3後	2					○						兼1
		徒手療法セミナー	3後		1			○							兼1
		日常生活活動学	2後	1			○			1					
		日常生活活動学実習	3前	1					○	1					
		生活環境学実習	3前	1					○	1					
		障害者スポーツ演習	3前		1			○				1			
		応用物理療法学演習	3後		1			○					1		
		専門手技療法学演習	3後		1			○							兼1 PT/OT協同
		高次脳機能障害の治療法	3後		1		○				1				PT/OT協同
		認知症とその対処	3後		1		○					1			PT/OT協同
		レクリエーション活動演習	3後		1			○			1				PT/OT協同
	理学療法学概論	地域理学療法学Ⅰ	2後	1			○			1					
		地域理学療法学Ⅱ	3前	1			○			1					
		地域理学療法学実習	3後	1					○	1					
	臨床実習	理学療法見学実習	1前	1					○	1					臨
		理学療法体験実習	2前	2					○	1					臨
		理学療法評価実習	3前	4					○	3	2	1	1		臨
		理学療法総合臨床実習	4前	16					○	3	2	1	1		臨
		小計（ 45科目）		58	9		－			27	12	7	5		兼7
		うち前期課程（ 20科目）													

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
展開科目	必修展開科目	ふるさと・紀州学	2前	2			○						1		PT/OT協同
		健康支援学	3前	2			○			1					PT/OT協同
		組織論	2後	2			○			1					PT/OT協同
		地域活性企業論	2後	2			○			1					PT/OT協同
		コミュニケーション論	2後	2			○				1				PT/OT協同
	選択展開科目	経営と会計	2前		2		○			1					PT/OT協同
		医療経済論	2前		2		○			1					PT/OT協同
		地域防災論	3後		2		○								兼1 PT/OT協同
		支援ロボット論	3後		2		○			1					PT/OT協同
		産業保健論	3前		2		○								兼1 PT/OT協同
		地方自治と生活	2後		2		○					1			PT/OT協同
		生涯スポーツ論	3後		2		○					1			PT/OT協同
		ソーシャルスキル論	2後		2		○								兼1 PT/OT協同
		医用・福祉工学論	3前		2		○			1					PT/OT協同
		障害児教育論	3前		2		○			1					PT/OT協同
		地域連携研究	3後		2		○								兼1 PT/OT協同
		アンチエイジング	3後		2		○			1					PT/OT協同
		小計（ 17科目）		10	24		－			9	1	2	1		兼4
		うち前期課程（ 6科目）													
総合科目	総合科目	専門職連携総合演習A	4前		1			○		3	1				PT/OT協同・集中講座
		専門職連携総合演習B	4前		1			○		1	1	1	1		PT/OT協同・集中講座
		専門職連携総合演習C	4前		1			○		2	2				PT/OT協同・集中講座
		応用理学療法演習Ⅰ	3後	1				○		1	1	1	1		
		応用理学療法演習Ⅱ	3後	1				○		1	1	1	1		
		理学療法総合演習	4通	2				○		2		2	1		
		小計（ 6科目）		4	3		－			10	6	5	4		
		うち前期課程（ 4科目）													

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
理学療法学専攻	合計（ 121科目）		118	48	0	－			78	22	21	10		兼25
	うち前期課程(60科目)													

学位又は称号	理学療法学士（専門職）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基礎科目：必修科目16単位、選択科目11単位中4単位以上選択 職業専門科目：必修科目87単位、選択科目15単位中5単位以上選択 展開科目：必修科目10単位、選択科目28単位中10単位以上選択 総合科目：必修科目4単位、選択科目3単位中1単位選択 全136単位以上取得にて卒業要件とする	1学年の学期区分	2期（前期・後期）
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要

（健康科学部リハビリテーション学科　理学療法学専攻）

資料10-2

	科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
	基礎科目	科学的思考の基礎	心理学	1後	1			○								兼1
1後→1前、1→2単位			生物学	1後	1	2		○								兼1
1後→1前、1→2単位、必→選			物理学	1前	1			○								兼1
1→2単位			統計学	1前	1			○			1					
			健康科学	1前	1			○								兼1
			プログラミング	1前		1			○				1			
			IoT入門	1後		1			○				1			
必→選		人間と生活	哲学	1前		1		○								兼1
1→2単位、必→選			生命倫理	1前	1			○			1					
科目名変更			スポーツ概論	1前	1			○					1			
			教育学Ⅰ	1前	2			○			1					
			教育学Ⅱ	1後	2			○			1					
新設																
		社会の理解	社会学	1前		1		○								兼1
			法学	1後		1		○			1					兼1
			情報処理Ⅰ	1前	1				○		1					
			情報処理Ⅱ	1後		1			○		1					
			英語Ⅰ	1前	2			○				1				
			英語Ⅱ	1後	2			○				1				
中止			中国語	1後	1			○			1		3			
中止			国際文化論	1後		1		○					1			
中止			国際地域開発論	1後		1		○			1					
中止			遺伝分子学入門	3後		1		○			1					
			小計（ 22科目）		18	8		－			8		3			兼7
			うち前期課程（ 11科目）													

	科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
2→1単位、2前→1後、科目名追加	職業専門科目	専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達	人体構造学Ⅰ	1前				○			1					
1後→1前、科目名追加			人体構造学Ⅱ	1後				○			1		1			
新設																
			人体構造学実習	1後					○		1	1				
			体表解剖学演習	2前				○					1			
2→1単位、1後→1前後 科目名変更			人体機能学	1後				○			1		1			
新設																
中止			神経・筋生理学	1後				○			1					
			人体機能学実習	1後						○	1		1			
2前→1前			運動学Ⅰ	2前				○			1					兼1
2後→1後			運動学Ⅱ	2後				○			1					兼1
2後→2前			運動学実習	2後						○	1					
新設																
中止			体表解剖学	2前				○	○				1			
2→1単位、2前→1後		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	1後				○								兼1
科目名変更			内科学Ⅰ	2前				○								兼1
中止			内科学Ⅱ	2後				○								兼1
			神経内科学1	2前				○			1					兼1
			神経内科学Ⅱ	2後				○			1					兼1
			整形外科学Ⅰ	2前				○			1					兼1
			整形外科学Ⅱ	2後				○			1					兼1
新設																
			臨床心理学	2前	1			○								兼1
			精神医学	2後	1			○								兼1
科目名変更			薬理学	3前				○								兼1
科目名変更			栄養学	2後	1			○								兼1
			予防医学	3前				○			1					
3前→2後			救急援助論	3前	1			○			1					
新設																
中止			医学概論	1前	1			○			1					
			リハビリテーション概論	1前	1			○			1					兼1
			社会福祉学	1後				○								兼1
2前→2後、必→選			チーム医療論	2前				○			1					
			地域包括ケア論	3後				○			1					
			地域環境活動演習	4前					○		1	1				
			地域包括ケア演習	4前					○		1	1				
3後→2後			トータルヘルスプロモーション	3後				○			1					
			小計（ 32科目）	－	1	3		－			8	1	3			兼15
			うち前期課程（ 14科目）													

	科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
1後→1前	職業専門科目	基礎理学療法学	理学療法概論	1前	1			○			1					
2前→1後			基礎理学療法学Ⅰ	1後	1			○				1				
			基礎理学療法学Ⅱ	2前	1			○				1				
			理学療法研究論	2後	1			○			1					
			臨床理学療法学	3後	1			○			1					
			理学療法臨床診断学	3前	1			○			1					
2前→1後		理学療法管理学	医療関連法規	2前	1			○			1					兼1
			理学療法管理学	3後	1			○			1					
		理学療法評価学	理学療法評価学総論Ⅰ	1後	1			○			1					
			理学療法評価学総論Ⅱ	2前	1			○			1					
			身体機能評価学実習Ⅰ	2前	1					○	1					
			身体機能評価学実習Ⅱ	2前	1					○	1					
科目名変更			身体機能評価学実習Ⅲ	2後	1					○	1					
科目名変更			身体機能評価学実習Ⅳ	2後	1					○		1				
科目名追加			応用評価学演習	3後		1			○		1	1				PT/OT協同
3前→2後		理学療法治療法	運動療法学	3前	1			○				1				
			運動療法学実習Ⅰ	3前	1					○		1				
			運動療法学実習Ⅱ	3前	1					○			1			
3講→2後			物理療法学実習	3前	1					○				1		
			義肢装具学Ⅰ	2後	1			○								兼1
			義肢装具学Ⅱ	3前	1			○								兼1
科目名変更　1→2単位			筋骨格系障害理学療法学実習	3前	1					○			1			
			スポーツ障害理学療法学実習	3後	1					○			1			
科目名変更			小児理学療法学実習	3後	1					○						兼1
科目名変更			脳障害理学療法学実習	3後	2			○		○				1		講義1単位、実技1単位
科目名変更　2→1単位			神経系障害理学療法学実習	3前	2			○		○	1					講義1単位、実技1単位
科目名変更			内部障害系理学療法学実習	3前	2					○						兼1
必→選			徒手療法セミナー	3後	1				○							兼1
			日常生活活動学	2後	1			○			1					
			日常生活活動学実習	3前	1					○	1					
2→1単位			生活環境学実習	3前	2					○	1					
新設																
			応用物理療法学演習	3後		1			○					1		
			専門手技療法学演習	3後		1			○							兼1 PT/OT協同
			高次脳機能障害の治療法	3後		1		○				1				PT/OT協同
			認知症とその対処	3後		1		○					1			PT/OT協同
			レクリエーション活動演習	3後		1			○			1				PT/OT協同
		理学療法学概論	地域理学療法学Ⅰ	2後	1			○			1					
3後→3前			地域理学療法学Ⅱ	3後	1			○			1					
2→1単位			地域理学療法学実習	3後	2					○	1					
科目名変更		臨床実習	診療参加型臨床実習Ⅰ	1前	1					○	1					臨
3→2単位、科目名変更			診療参加型臨床実習Ⅱ	2前	3					○	1					臨
科目名変更			診療参加型臨床実習Ⅲ	3前	4					○	3	2	1	1		臨
8→16単位、科目名変更			診療参加型臨床実習Ⅳ	4前	8					○	3	2	1	1		臨
中止			診療参加型臨床実習Ⅴ	4前	8					○	3	2	1	1		臨
			小計（ 44科目）		62	6		－			30	14	7	6		兼7
			うち前期課程（ 22科目）													

	科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
3後→2前	展開科目	必修展開科目	ふるさと・紀州学	3後	2			○						1		PT/OT協同
3後→3前			健康支援学	3後	2			○			1					PT/OT協同
3後→2後			組織論	3後	2			○			1					PT/OT協同
3後→2後			地域活性企業論	3後	2			○			1					PT/OT協同
選一必、4後→2後			コミュニケーション論	4後		2		○				1				PT/OT協同
4後→2前		選択展開科目	経営と会計	4後		2		○			1					PT/OT協同
4後→2前			医療経済論	4後		2		○			1					PT/OT協同
4後→3後			地域防災論	4後		2		○								兼1 PT/OT協同
4後→3後			支援ロボット論	4後		2		○			1					PT/OT協同
4後→3前			産業保健論	4後		2		○								兼1 PT/OT協同
4後→2後			地方自治と生活	4後		2		○					1			PT/OT協同
4後→3後			生涯スポーツ論	4後		2		○					1			PT/OT協同
4後→2後			ソーシャルスキル論	4後		2		○								兼1 PT/OT協同
4後→3前、科目名変更			コミュニケーション論	4後		2		○				1				PT/OT協同
新設			福祉工学論	4後		2		○			1					PT/OT協同
4後→3後			地域連携研究	4後		2		○								兼1 PT/OT協同
4後→3後			アンチエイジング	4後		2		○			1					PT/OT協同
中止			地域福祉論	4後		2		○								兼1 PT/OT協同
中止			中国経済学	4後		2		○								兼1 PT/OT協同
			小計（ 18科目）		8	28		－			3	2	2	1		兼4
			うち前期課程（ 0科目）													
	総合科目	総合科目	専門職連携総合演習A	4前		1			○		3	1				PT/OT協同・集中講座
			専門職連携総合演習B	4前		1			○		1	1	1	1		PT/OT協同・集中講座
			専門職連携総合演習C	4前		1			○		2	2				PT/OT協同・集中講座
			応用理学療法演習Ⅰ	3後	1				○		1	1	1	1		
			応用理学療法演習Ⅱ	3後	1				○		1	1	1	1		
科目名変更			理学療法総合研究	4通	2			○			2		2	1		
			小計（ 6科目）		4	3		－			4	2	3	1		
			うち前期課程（ 4科目）													

	科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
	理学療法学専攻	合計（ 122科目）		124	48	0	－			16	5	7	2		兼23
		うち前期課程(51科目)													

学位又は称号	理学療法学士	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基礎科目：必修科目18単位、選択科目8単位中3単位以上選択 職業専門科目：必修科目94単位、選択科目9単位中3単位以上選択 展開科目：必修科目8単位　選択科目28単位中12単位以上選択 総合科目：必修科目4単位、選択科目3単位中1単位選択 全143単位以上取得にて卒業要件とする	1学年の学期区分	2期（前期・後期）
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要

（健康科学部リハビリテーション学科　作業療法学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考
基礎科目	科学的思考の基礎	心理学	1前	2			○								兼1
		生物学	1前		2		○								兼1
		物理学	1前	1			○								兼1
		統計学	1前	2			○			1					
		健康科学	1前	1			○								兼1
		プログラミング	1前		1		○					1			PT/OT協同
		IoT入門	1後		1		○					1			PT/OT協同
	人間と生活	哲学	1前		1		○								兼1
		生命倫理	1前		2		○			1					
		健康とスポーツ	1前	1				○				1			
		教育学Ⅰ	1前	2			○			1					
		教育学Ⅱ	1後	2			○			1					
		老年学	1後	1			○			1					
	社会の理解	社会学	1前		1		○								兼1 PT/OT協同
		法学	1後		1		○			1					兼1 PT/OT協同
		情報処理Ⅰ	1前	1			○			1					
		情報処理Ⅱ	1後		1			○		1					
		英語Ⅰ	1前	2			○			1					
		英語Ⅱ	1後	2			○			1					
		小計（ 19科目） うち前期課程（ 13科目）		17	10		－			10		3			兼7

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考
職業専門科目	専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達	人体構造学Ⅰ（骨・筋系）	1前	1			○			1					
		人体構造学Ⅱ（脈管・内臓系）	1前	1			○			1					
		人体構造学Ⅲ（神経系）	1後	1			○			1					
		人体構造学実習	1後	1					○	1	1				
		体表解剖学演習	2前	1				○				1			
		人体機能学Ⅰ	1前	1			○			1		1			
		人体機能学Ⅱ	1後	1			○			1		1			
		人体機能学実習	1後	1					○	1		1			
		運動学Ⅰ	1前	1			○			1					
		運動学Ⅱ	1後	1			○			1					
		運動学実習	2前	1					○	1					
		人間発達学	1後	1			○			1					
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	1後	1			○								兼1
		内科学	2前	1			○								兼1
		神経内科学Ⅰ	2前	1			○			1					
		神経内科学Ⅱ	2後	1			○			1					
		整形外科学Ⅰ	2前	1			○			1					
		整形外科学Ⅱ	2後	1			○			1					
		小児科学	2前	1			○			1					
		臨床心理学	2前	1			○								兼1
		精神医学	2後	1			○								兼1
		臨床薬理学	3前	1			○								兼1
		臨床栄養学	2後	1			○								兼1
		予防医学	2前	1			○			1					
		救急援助論	2後	1			○			1					
		臨床・画像診断学	3前	1			○			1					
	理学療法・作業療法・リハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1前	1			○			1					
		社会福祉学	1後	1			○								兼1
		チーム医療論	2後		1		○			1					
		地域包括ケア論	3後	1			○			1					
		地域環境活動演習	4前		1			○		1	1				PT/OT協同
		地域包括ケア演習	4前		1			○		1	1				PT/OT協同
		トータルヘルスプロモーション	2後		1		○								PT/OT協同
		小計（ 34科目） うち前期課程（ 17科目）		29	4		－			24	3	4			兼7

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考
職業専門科目	専門科目 基礎作業療法学	作業療法概論	1前	1			○				1				
		基礎作業学	1後	1			○			1					
		作業療法研究論	2前	1			○			1					
		基礎作業学実習Ⅰ	2後	1					○		1				
		基礎作業学実習Ⅱ	3後	1					○		1				
	作業療法評価学 評価と管理	医療関連法規	1後	1			○			1					兼1
		作業療法管理学	3後	1			○			1					
	作業療法評価学	作業療法評価学総論Ⅰ	1後	1			○				1				
		作業療法評価学総論Ⅱ	2前	1			○				1				
		作業療法評価学実習	2前	2					○			1			
		作業療法評価学Ⅰ	2前	1					○						
		作業療法評価学Ⅱ	2後	1					○						
		応用評価学演習	3後		1			○		1	1				PT/OT協同
	作業療法治療法	身体障害作業療法学Ⅰ	2後	1					○		1				
		身体障害作業療法学Ⅱ	2後	1					○	1					
		身体障害作業療法学実習Ⅰ	3前	1					○	1					
		身体障害作業療法学実習Ⅱ	3前	1					○			1			
		作業療法義肢装具学	3後	1			○								兼1
		福祉用具学	2後	1			○								兼1
		発達障害作業療法学Ⅰ	3前	1			○				1				
		発達障害作業療法学Ⅱ	3後	1				○			1				
		精神障害作業療法学Ⅰ	3前	1			○			1			1		
		精神障害作業療法学Ⅱ	3後	1				○		1			1		
		老年期障害作業療法学Ⅰ	3前	1			○				1				
		老年期障害作業療法学Ⅱ	3後	2				○			1				
		日常生活活動学	2後	2			○				1				
		日常生活活動学実習Ⅰ	3前	2					○		1				
		日常生活活動学実習Ⅱ	3前	1					○		1				
		障害者スポーツ演習	3前		2				○			1			PT/OT協同
		高次脳機能障害の治療法	3後		1		○				1				PT/OT協同
		認知症とその対処	3後		1		○					1			PT/OT協同
		レクリエーション活動演習	3後		1			○							兼1 PT/OT協同
		ハンドセラピー演習	3後		1			○			1				
		専門手技療法学演習	3後		1			○				1			PT/OT協同
	作業療法学 作業療法	地域作業療法学Ⅰ	2後	1			○				1				
		地域作業療法学Ⅱ	3前	1				○			1				
		地域作業療法学実習	3後	2					○		1				
	臨床実習	作業療法見学実習	1前	1					○	1					臨
		作業療法体験実習	2前	2					○	1					臨
		作業療法評価実習	3前	4					○	3	2	1	1		臨
		作業療法総合臨床実習	4前	16					○	3	2	1	1		臨
		小計（ 40科目） うち前期課程（ 19科目）		58	8		－			17	23	7	4		兼2

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考
展開科目	必修展開科目	ふるさと・紀州学	2前	2			○						1		PT/OT協同
		健康支援学	3前	2			○			1					PT/OT協同
		組織論	2後	2			○			1					PT/OT協同
		地域活性企業論	2後	2			○			1					PT/OT協同
		コミュニケーション論	2後	2			○				1				PT/OT協同
	選択展開科目	経営と会計	2前		2		○			1					PT/OT協同
		医療経済論	2前		2		○			1					PT/OT協同
		地域防災論	3後		2		○								兼1 PT/OT協同
		支援ロボット論	3後		2		○			1					PT/OT協同
		産業保健論	3前		2		○								兼1 PT/OT協同
		地方自治と生活	2後		2		○					1			PT/OT協同
		生涯スポーツ論	3後		2		○					1			PT/OT協同
		ソーシャルスキル論	2後		2		○								兼1 PT/OT協同
		医用・福祉工学論	3前		2		○			1					PT/OT協同
		障害児教育論	3前		2		○			1					PT/OT協同
		地域連携研究	3後		2		○								兼1 PT/OT協同
		アンチエイジング	3後		2		○			1					PT/OT協同
		小計（ 18科目） うち前期課程（ 8科目）		10	24		－			9	1	2	1		兼4
総合科目	総合作業療法	専門職連携総合演習A	4前		1			○		3	1				PT/OT協同・集中講座
		専門職連携総合演習B	4前		1			○		1	1	1	1		PT/OT協同・集中講座
		専門職連携総合演習C	4前		1			○		2	2				PT/OT協同・集中講座
		応用作業療法演習Ⅰ	3後	1				○		1	1	1	1		
		応用作業療法演習Ⅱ	3後	1				○		1	1	1	1		
		作業療法総合演習	4通	2				○		2		2	1		
		小計（ 6科目） うち前期課程（ 4科目）		4	3		－			10	6	5	4		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考
作業療法学専攻	合計（ 121科目） うち前期課程(60科目)		118	49	0	－			70	33	21	9		兼25

学位又は称号	作業療法学士（専門職）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基礎科目；必修科目17単位、選択科目11単位中4単位以上選択 職業専門科目；必修科目86単位、選択科目15単位中5単位以上選択 展開科目；必修科目10単位、選択科目28単位中10単位以上選択 総合科目；必修科目4単位、選択科目3単位中1単位選択 全137単位以上取得にて卒業要件とする	1学年の学期区分	2期（前期・後期）
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要

（健康科学部リハビリテーション学科　作業療法学専攻）

	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考
1後→1前、1→2単位	心理学	1後	1			○								兼1
1後→1前、1→2単位、必→選	生物学	1後	1	2		○								兼1
	物理学	1前	1	1		○								兼1
1→2単位	統計学	1前	1			○			1					
	健康科学	1前	1			○								兼1
	プログラミング	1前		1			○				1			
	IoT入門	1後		1			○				1			
必→選	哲学	1前	1	1		○								兼1
1→2単位、必→選	生命倫理	1前	1			○			1					
科目名変更	スポーツ概論	1前	1			○					1			
	教育学Ⅰ	1前	2			○			1					
	教育学Ⅱ	1後	2			○			1					
新設														
	社会学	1前		1		○								兼1
	法学	1後		1		○			1					兼1
	情報処理Ⅰ	1前	1				○		1					
	情報処理Ⅱ	1後		1			○		1					
	英語Ⅰ	1前	2			○				1				
	英語Ⅱ	1後	2			○				1				
中止	中国語	1後	1			○			1		3			
中止	国際文化論	1後		1		○					1			
中止	国際地域開発論	1後		1		○			1					
中止	遺伝分子学入門	3後		1		○			1					
	小計（ 22科目） うち前期課程（ 11科目）		18	8		－			8		3			兼7

	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考
2→1単位、2前→1後、科目名追加	人体構造学Ⅰ	1前				○			1					
1後→1前、科目名追加	人体構造学Ⅱ	1後				○				1				
新設														
	人体構造学実習	1後						○	1	1				
	体表解剖学演習	2前				○			1					
1後→1前後	人体機能学	1後				○			1		1			
1後→1前後	人体機能学	1後				○			1		1			
中止	神経・筋生理学	1後				○			1					
	人体機能学実習	1後						○	1		1			
2前→1前	運動学Ⅰ	2前				○			1					兼1
2後→1後	運動学Ⅱ	2後				○			1					兼1
2後→2前	運動学実習	2後						○	1					
新設														
中止	体表解剖学	2前				○	○				1			
2→1単位、2前→1後	病理学	1後				○								兼1
	内科学Ⅰ	2前				○								兼1
中止	内科学Ⅱ	2後				○								兼1
	神経内科学Ⅰ	2前				○			1					兼1
	神経内科学Ⅱ	2後				○			1					兼1
	整形外科学Ⅰ	2前				○			1					兼1
	整形外科学Ⅱ	2後				○			1					兼1
新設														
	臨床心理学	2前	1			○								兼1
	精神医学	2後	1			○								兼1
科目名変更	薬理学	3前				○								兼1
科目名変更	栄養学	2後	1			○								兼1
	予防医学	3前				○			1					
3前→2後	救急援助論	3前	1			○			1					
新設														
中止	医学概論	1前	1			○			1					
必→選	リハビリテーション概論	1前	1			○			1					
	社会福祉学	1後	1			○								兼1
2前→2後、必→選	チーム医療論	2前	1			○			1					
	地域包括ケア論	3後	1			○			1					
	地域環境活動演習	4前		1			○		1	1				PT/OT協同
	地域包括ケア演習	4前		1			○		1	1				PT/OT協同
3後→2後	トータルヘルスプロモーション	3後		1		○								PT/OT協同
	小計（ 32科目） うち前期課程（ 14科目）		－	5	3		－		8	1	3			兼15

	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考
	作業療法概論	1前	1			○				1				
	基礎作業学	1後	1			○			1					
	作業療法研究論	2前	1			○			1					
	基礎作業学実習Ⅰ	2後	1					○		1				
	基礎作業学実習Ⅱ	3後	1					○		1				
科目名変更	作業療法と管理	3前	1			○			1					兼1
科目名変更	作業療法論と倫理	2前	1			○			1					
	作業療法評価学総論Ⅰ	1後	1			○				1				
	作業療法評価学総論Ⅱ	2前	1			○				1				
	作業療法評価学実習	2前	2					○			1			
新設														
新設														
中止	身体機能評価学実習Ⅰ	2前	1					○			1			
中止	身体機能評価学実習Ⅱ	2後	1					○	1					
中止	精神障害作業療法評価学実習	2後	1					○				1		
中止	発達障害作業療法評価学実習	2後	1					○			1			
中止	老年期障害作業療法評価学実習	2後	1					○			1			
	応用評価学演習	3後		1			○		1	1				PT/OT協同
変更	身体障害作業療法学実習Ⅰ	3前	1					○			1			
変更	身体障害作業療法学実習Ⅱ	3前	1					○	1					
変更	身体障害作業療法学実習Ⅲ	3前	1					○	1					
変更	身体障害作業療法学実習Ⅳ	3前	1					○			1			
	作業療法義肢装具学	3後	1			○								兼1
	福祉用具学	2後	1			○								兼1
	発達障害作業療法学Ⅰ	3前	1			○				1				
講義→演習	発達障害作業療法学Ⅱ	3後	1			○				1				
	精神障害作業療法学Ⅰ	3前	1			○			1			1		
講義→演習	精神障害作業療法学Ⅱ	3後	1			○			1			1		
	老年期障害作業療法学Ⅰ	3前	1			○				1				
講義→演習	老年期障害作業療法学Ⅱ	3後	2			○				1				
	日常生活活動学	2後	2			○				1				
	日常生活活動学実習Ⅰ	3前	2					○		1				
	日常生活活動学実習Ⅱ	3前	1					○		1				
新設														
	高次脳機能障害の治療法	3後		1		○				1				PT/OT協同
	認知症とその対処	3後		1		○					1			PT/OT協同
	レクリエーション活動演習	3後		1			○							兼1 PT/OT協同
	ハンドセラピー演習	3後		1			○			1				
	専門手技療法学演習	3後		1			○				1			PT/OT協同
	地域作業療法学Ⅰ	2後	1			○				1				
3後→3前、講義→演習	地域作業療法学Ⅱ	3前	1			○				1				
	地域作業療法学実習	3後	2					○		1				
科目名変更	診療参加型臨床実習Ⅰ	1前	1					○	1					臨
3→2単位、科目名変更	診療参加型臨床実習Ⅱ	2前	3					○	1					臨
科目名変更	診療参加型臨床実習Ⅲ	3前	4					○	3	2	1	1		臨
8→16単位、科目名変更	診療参加型臨床実習Ⅳ	4前	8					○	3	2	1	1		臨
中止	診療参加型臨床実習Ⅴ	4前	8					○	3	2	1	1		臨
	小計（ 44科目） うち前期課程（ 22科目）		62	6		－			3	4	1	1		兼2

	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考
3後→2前	ふるさと・紀州学	3後	2			○						1		PT/OT協同
3後→3前	健康支援学	3後	2			○			1					PT/OT協同
3後→2後	組織論	3後	2			○			1					PT/OT協同
3後→2後	地域活性企業論	3後	2			○			1					PT/OT協同
選一必、4後→2後	コミュニケーション論	4後		2		○				1				PT/OT協同
4後→2前	経営と会計	4後		2		○			1					PT/OT協同
4後→2前	医療経済論	4後		2		○			1					PT/OT協同
4後→3後	地域防災論	4後		2		○								兼1 PT/OT協同
4後→3後	支援ロボット論	4後		2		○			1					PT/OT協同
4後→2前	産業保健論	4後		2		○								兼1 PT/OT協同
4後→2後	地方自治と生活	4後		2		○					1			PT/OT協同
4後→3後	生涯スポーツ論	4後		2		○					1			PT/OT協同
4後→2後	ソーシャルスキル論	4後		2		○								兼1 PT/OT協同
4後→3前、科目名変更	コミュニケーション論	4後		2		○			1					PT/OT協同
新設	福祉工学論	4後		2		○			1					PT/OT協同
4後→3後	地域連携研究	4後		2		○								兼1 PT/OT協同
4後→3後	アンチエイジング	4後		2		○			1					PT/OT協同
中止	地域福祉論	4後		2		○								兼1 PT/OT協同
中止	中国経済学	4後		2		○								兼1 PT/OT協同
	小計（ 18科目） うち前期課程（ 0科目）		8	28		－			3	2	2	1		兼4
	専門職連携総合演習A	4前		1			○		3	1				PT/OT協同・集中講座
	専門職連携総合演習B	4前		1			○		1	1	1	1		PT/OT協同・集中講座
	専門職連携総合演習C	4前		1			○		2	2				PT/OT協同・集中講座
	応用作業療法演習Ⅰ	3後	1				○		1	1	1	1		
	応用作業療法演習Ⅱ	3後	1				○		1	1	1	1		
科目名変更	作業療法総合研究	4通	2			○			2		2	1		
	小計（ 6科目） うち前期課程（ 4科目）		4	3		－			4	2	3	1		

	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考
	合計（ 122科目） うち前期課程(51科目)		124	48	0	－			16	5	7	2		兼23

学位又は称号	作業療法学士（専門職）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基礎科目；必修科目18単位、選択科目8単位中3単位以上選択 職業専門科目；必修科目94単位、選択科目9単位中3単位以上選択 展開科目；必修科目8単位　選択科目28単位中12単位以上選択 総合科目；必修科目4単位、選択科目3単位中1単位選択 全143単位以上取得にて卒業要件とする	1学年の学期区分	2期（前期・後期）
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

医療系理学療法履修モデル

12資料

（健康科学部リハビリテーション学科　理学療法学専攻）

			1年次	2年次	3年次	4年次	合計
基礎科目		科学的思考の基礎	○ 心理学(2)				必修11科目17単位 選択 2科目 3単位
			○ 物理学(1)				
			○ 統計学(2)				
			○ 健康科学(1)				
			○ 老年学(1)				
			※生命倫理(2)				
			○ 教育学Ⅰ(2)				
			○ 教育学Ⅱ(2)				
			○ 健康とスポーツ(1)				
			○ 情報処理Ⅰ(1)				
			※情報処理Ⅱ(1)				
			○ 英語Ⅰ(2)				
			○ 英語Ⅱ(2)				
職業専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能 及び心身の発達	○ 人体構造学Ⅰ(1)	○ 体表解剖学演習(1)			必修29科目29単位 選択 1科目 1単位
			○ 人体構造学Ⅱ(1)	○ 運動学実習(1)			
			○ 人体構造学Ⅲ(1)				
			○ 人体構造学実習(1)				
			○ 人体機能学(1)				
			○ 人体機能学(1)				
			○ 人体機能学実習(1)				
			○ 運動学Ⅰ(1)				
			○ 運動学Ⅱ(1)				
			○ 人間発達学(1)				
		疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	○ 病理学(1)	○ 内科学(1)			
				○ 神経内科学Ⅰ(1)			
				○ 神経内科学Ⅱ(1)			
				○ 整形外科学Ⅰ(1)	○ 臨床薬理学(1)		
				○ 整形外科学Ⅱ(1)	○ 臨床・画像診断学(1)		
				○ 予防医学(1)			
				○ 小児科学(1)			
				○ 臨床心理学(1)			
				○ 精神医学(1)			
				○ 臨床栄養学(1)			
				○ 救急援助論(1)			
		保健医療福祉と リハビリテーションの理念	○ リハビリテーション概論(1)	**※チーム医療論(1)**	○ 地域包括ケア論(1)		
			○ 社会福祉学(1)				
	専門科目	基礎理学療法学	○ 理学療法概論(1)		○ 臨床理学療法学(1)		必修36科目58単位 選択 4科目 4単位
			○ 基礎理学療法学Ⅰ(1)	○ 理学療法研究論(1)	○ 理学療法診断学(1)		
			○ 基礎理学療法学Ⅱ(1)				
		理学療法管理学	○ 医療関連法規(1)		○ 理学療法管理学(1)		
		理学療法評価学	○ 理学療法評価学総論Ⅰ(1)	○ 理学療法評価学総論Ⅱ(1)			
				○ 身体機能評価学実習Ⅰ(1)			
				○ 身体機能評価学実習Ⅱ(1)			
				○ 理学療法評価学実習Ⅰ(1)			
				○ 理学療法評価学実習Ⅱ(1)			
		理学療法治療学			○ 運動療法学実習Ⅰ(1)		
					○ 運動療法学実習Ⅱ(1)		
					○ 物理療法学実習(1)		
				○ 運動療法学(1)	○ 義肢装具学Ⅱ(1)		
				○ 物理療法学(1)	○ 運動器障害理学療法学実習(2)		
				○ 義肢装具学Ⅰ(1)	○ 発達障害理学療法学実習(1)		
				○ 日常生活活動学(1)	○ 中枢神経障害理学療法学実習(2)		
					○ 神経筋疾患理学療法学実習(1)		
					○ 内部障害理学療法学実習(2)		
					○ 日常生活活動学実習(1)		
					○ 生活環境学実習(1)		
					※ 応用物理療法学演習(1)		
					※ 徒手療法セミナー(1)		
					※ 専門手技療法学演習(1)		
					※ 高次脳機能障害の治療法(1)		
		地域 理学療法学		○ 地域理学療法学Ⅰ(1)	○ 地域理学療法学Ⅱ(1)		
					○ 地域理学療法学実習(1)		
		臨床実習	○ 理学療法見学実習(1)	○ 理学療法体験実習(2)	○ 理学療法評価実習(4)	○ 理学療法総合臨床実習(16)	
展開科目	理学療法展開科目	必修展開科目		○ ふるさと・紀州学(2)			必修 5科目10単位 選択 5科目10単位
				○ 組織論(2)	○ 健康支援学(2)		
				○ 地域活性企業論(2)			
				○ コミュニケーション論(2)			
		選択展開科目		**※ 医療経済論(2)**	**※ 支援ロボット論(2)**		
				※ ソーシャルスキル論(2)	**※ 医用・福祉工学論(2)**		
					※ アンチエイジング(2)		
総合科目		理学療法 総合科目			○ 応用理学療法演習Ⅰ(1)	**※ 専門職連携総合演習A(1)**	必修 3科目 4単位 選択 1科目 1単位
					○ 応用理学療法演習Ⅱ(1)	○ 理学療法総合演習(2)	
合計			39単位	39単位	40単位	19単位	137単位

○ 必修科目　**※ 選択科目**

健康スポーツ系理学療法履修モデル

（健康科学部リハビリテーション学科　理学療法学専攻）

			1年次	2年次	3年次	4年次	合計
基礎科目		科学的思考の基礎	○ 心理学(2)				必修11科目17単位 選択 3科目 4単位
			※生物学(2)				
			○ 物理学(1)				
			○ 統計学(2)				
			○ 健康科学(1)				
			※プログラミング(1)				
		人間と生活	○ 老年学(1)				
			○ 教育学Ⅰ(2)				
			○ 教育学Ⅱ(2)				
			○ 健康とスポーツ(1)				
		社会の理解	**※社会学(1)**				
			○ 情報処理Ⅰ(1)				
			○ 英語Ⅰ(2)				
			○ 英語Ⅱ(2)				
職業専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能 及び心身の発達	○ 人体構造学Ⅰ(1)	○ 体表解剖学演習(1)			必修29科目29単位 選択 1科目 1単位
			○ 人体構造学Ⅱ(1)	○ 運動学実習(1)			
			○ 人体構造学Ⅲ(1)				
			○ 人体構造学実習(1)				
			○ 人体機能学(1)				
			○ 人体機能学(1)				
			○ 人体機能学実習(1)				
			○ 運動学Ⅰ(1)				
			○ 運動学Ⅱ(1)				
			○ 人間発達学(1)				
		疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	○ 病理学(1)	○ 内科学(1)			
				○ 神経内科学Ⅰ(1)			
				○ 神経内科学Ⅱ(1)			
				○ 整形外科学Ⅰ(1)	○ 臨床薬理学(1)		
				○ 整形外科学Ⅱ(1)	○ 臨床・画像診断学(1)		
				○ 予防医学(1)			
				○ 小児科学(1)			
				○ 臨床心理学(1)			
				○ 精神医学(1)			
				○ 臨床栄養学(1)			
				○ 救急援助論(1)			
		保健医療福祉と リハビリテーションの理念	○ リハビリテーション概論(1)	**※ トータルヘルスプロモーション(1)**	○ 地域包括ケア論(1)		
			○ 社会福祉学(1)				
	専門科目	基礎理学療法学	○ 理学療法概論(1)		○ 臨床理学療法学(1)		必修36科目58単位 選択 4科目 4単位
			○ 基礎理学療法学Ⅰ(1)	○ 理学療法研究論(1)	○ 理学療法診断学(1)		
			○ 基礎理学療法学Ⅱ(1)				
		理学療法管理学	○ 医療関連法規(1)		○ 理学療法管理学(1)		
		理学療法評価学	○ 理学療法評価学総論Ⅰ(1)	○ 理学療法評価学総論Ⅱ(1)			
				○ 身体機能評価学実習Ⅰ(1)			
				○ 身体機能評価学実習Ⅱ(1)			
				○ 理学療法評価学実習Ⅰ(1)			
				○ 理学療法評価学実習Ⅱ(1)			
		理学療法治療学			○ 運動療法学実習Ⅰ(1)		
					○ 運動療法学実習Ⅱ(1)		
					○ 物理療法学実習(1)		
				○ 運動療法学(1)	○ 義肢装具学Ⅱ(1)		
				○ 物理療法学(1)	○ 運動器障害理学療法学実習(2)		
				○ 義肢装具学Ⅰ(1)	**※スポーツ障害理学療法学実習(1)**		
				○ 日常生活活動学(1)	○ 発達障害理学療法学実習(1)		
					○ 中枢神経障害理学療法学実習(2)		
					○ 神経筋疾患理学療法学実習(1)		
					○ 内部障害理学療法学実習(2)		
					※ 応用物理療法学演習(1)		
					※ 徒手療法セミナー(1)		
					○ 日常生活活動学実習(1)		
					○ 生活環境学実習(1)		
					※障害者スポーツ実習(1)		
		地域 理学療法学		○ 地域理学療法学Ⅰ(1)	○ 地域理学療法学Ⅱ(1)		
					○ 地域理学療法学実習(1)		
		臨床実習	○ 理学療法見学実習(1)	○ 理学療法体験実習(2)	○ 理学療法評価実習(4)	○ 理学療法総合臨床実習(16)	
展開科目	理学療法展開科目	必修展開科目		○ ふるさと・紀州学(2)			必修 5科目10単位 選択 5科目10単位
				○ 組織論(2)	○ 健康支援学(2)		
				○ 地域活性企業論(2)			
				○ コミュニケーション論(2)			
		選択展開科目		**※ 経営と会計(2)**	**※ 産業保健論(2)**		
				※ ソーシャルスキル論(2)	**※ 生涯スポーツ論(2)**		
					※ アンチエイジング(2)		
科目総合		理学療法 総合科目			○ 応用理学療法演習Ⅰ(1)	**※ 専門職連携総合演習B(1)**	必修 3科目 4単位 選択 1科目 1単位
					○ 用理学療法演習Ⅱ(1)	○ 理学療法総合演習(2)	
合計			39単位	39単位	40単位	19単位	137単位

○必修科目　**※選択科目**

地域連携系理学療法履修モデル

（健康科学部リハビリテーション学科　理学療法学専攻）

		1年次	2年次	3年次	4年次	合計
基礎科目	科学的思考の基礎	○ 心理学(2)				必修11科目17単位 選択 3科目 4単位
		○ 物理学(1)				
		○ 統計学(2)				
		○ 健康科学(1)				
		※ IoT入門(1)				
	人間と生活	**※ 哲学(1)**				
		○ 老年学(1)				
		○ 教育学Ⅰ(2)				
		○ 教育学Ⅱ(2)				
		○ 健康とスポーツ(1)				
	社会の理解	**※ 法学(1)**				
		○ 情報処理Ⅰ(1)				
		※ 情報処理Ⅱ(1)				
		○ 英語Ⅰ(2)				
		○ 英語Ⅱ(2)				
職業専門科目 専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	○ 人体構造学Ⅰ(1)	○ 体表解剖学演習(1)			必修29科目29単位 選択 3科目 3単位
		○ 人体構造学Ⅱ(1)	○ 運動学実習(1)			
		○ 人体構造学Ⅲ(1)				
		○ 人体構造学実習(1)				
		○ 人体機能学(1)				
		○ 人体機能学(1)				
		○ 人体機能学実習(1)				
		○ 運動学Ⅰ(1)				
		○ 運動学Ⅱ(1)				
		○ 人間発達学(1)				
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	○ 病理学(1)	○ 内科学(1)			
			○ 神経内科学Ⅰ(1)			
			○ 神経内科学Ⅱ(1)			
			○ 整形外科学Ⅰ(1)	○ 臨床薬理学(1)		
			○ 整形外科学Ⅱ(1)	○ 臨床・画像診断学(1)		
			○ 予防医学(1)			
			○ 小児科学(1)			
			○ 臨床心理学(1)			
			○ 精神医学(1)			
			○ 臨床栄養学(1)			
			○ 救急援助論(1)			
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	○ リハビリテーション概論(1)	**※チーム医療論(1)**	○ 地域包括ケア論(1)	**※ 地域環境活動演習(1)**	
		○ 社会福祉学(1)			**※ 地域包括ケア演習(1)**	
職業専門科目 専門科目	基礎理学療法学	○ 理学療法概論(1)		○ 臨床理学療法学(1)		必修36科目58単位 選択 2科目 2単位
		○ 基礎理学療法学Ⅰ(1)	○ 理学療法研究論(1)	○ 理学療法診断学(1)		
		○ 基礎理学療法学Ⅱ(1)				
	理学療法管理学	○ 医療関連法規(1)		○ 理学療法管理学(1)		
	理学療法評価学	○ 理学療法評価学総論Ⅰ(1)	○ 理学療法評価学総論Ⅱ(1)			
			○ 身体機能評価学実習Ⅰ(1)			
			○ 身体機能評価学実習Ⅱ(1)			
			○ 理学療法評価学実習Ⅰ(1)			
			○ 理学療法評価学実習Ⅱ(1)			
	理学療法治療学			○ 運動療法学実習Ⅰ(1)		
				○ 運動療法学実習Ⅱ(1)		
				○ 物理療法学実習(1)		
			○ 運動療法学(1)	○ 義肢装具学Ⅱ(1)		
			○ 物理療法学(1)	○ 運動器障害理学療法学実習(2)		
			○ 義肢装具学Ⅰ(1)	○ 発達障害理学療法学実習(1)		
			○ 日常生活活動学(1)	○ 中枢神経障害理学療法学実習(2)		
				○ 神経筋疾患理学療法学実習(1)		
				○ 内部障害理学療法学実習(2)		
				○ 日常生活活動学実習(1)		
				○ 生活環境学実習(1)		
				※ 認知症とその対処(1)		
				※ レクレーション活動演習(1)		
	地域理学療法学		○ 地域理学療法学Ⅰ(1)	○ 地域理学療法学Ⅱ(1)		
				○ 地域理学療法学実習(1)		
	臨床実習	○ 理学療法見学実習(1)	○ 理学療法体験実習(2)	○ 理学療法評価実習(4)	○ 理学療法総合臨床実習(16)	
展開科目 理学療法展開科目	必修展開科目		○ ふるさと・紀州学(2)			必修 5科目10単位 選択 5科目10単位
			○ 組織論(2)	○ 健康支援学(2)		
			○ 地域活性企業論(2)			
			○ コミュニケーション論(2)			
	選択展開科目		**※ 経営と会計(2)**	**※ 地域防災論(2)**		
			※ 地方自治と生活(2)	**※ 障害児教育論(2)**		
				※ 地域連携研究(2)		
科目 総合	理学療法総合科目			○ 応用理学療法演習Ⅰ(1)	**※ 専門職連携総合演習C(1)**	必修 3科目 4単位 選択 1科目 1単位
				○ 用理学療法演習Ⅱ(1)	○ 理学療法総合演習(2)	
合計		39単位	39単位	40単位	19単位	137単位

○必修科目　**※選択科目**

医療系作業療法（身体機能支援）履修モデル

（健康科学部リハビリテーション学科　作業療法学専攻）

		1年次	2年次	3年次	4年次	合計
基礎科目	科学的思考の基礎	○心理学(2)				必修11科目17単位 選択 2科目 3単位
		○物理学(1)				
		○統計学(2)				
		○健康科学(1)				
	人間と生活	**※生命倫理(2)**				
		○健康とスポーツ(1)				
		○教育学Ⅰ(2)				
		○教育学Ⅱ　(2)				
		○老年学(1)				
		○情報処理Ⅰ(1)				
		※情報処理Ⅱ(1)				
		○英語Ⅰ(2)				
		○英語Ⅱ(2)				
職業専門科目 専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	○人体構造学Ⅰ(骨・筋系)(1)	○体表解剖学演習(1)			必修29科目29単位 選択 2科目 2単位
		○人体構造学Ⅱ(脈管・内臓系)(1)	○運動学実習(1)			
		○人体構造学Ⅲ(神経系)(1)				
		○人体構造学実習(1)				
		○人体機能学Ⅰ(1)				
		○人体機能学Ⅱ(1)				
		○人体機能学実習(1)				
		○運動学Ⅰ(1)				
		○運動学Ⅱ(1)				
		○人間発達学(1)				
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	○病理学(1)	○内科学(1)			
			○神経内科学Ⅰ(1)			
			○神経内科学Ⅱ(1)			
			○整形外科学Ⅰ(1)	○臨床薬理学(1)		
			○整形外科学Ⅱ(1)	○臨床・画像診断学(1)		
			○予防医学(1)			
			○小児科学(1)			
			○臨床心理学(1)			
			○精神医学(1)			
			○臨床栄養学(1)			
			○救急援助論(1)			
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	○リハビリテーション概論(1)	**※チーム医療論(1)**			
		○社会福祉学(1)	**※トータルヘルスプロモーション(1)**	○地域包括ケア論(1)		
職業専門科目 専門科目	基礎作業療法学	○作業療法概論(1)	○作業療法研究論(1)	○基礎作業学実習Ⅱ(1)		必修42科目58単位 選択 3科目 3単位
		○基礎作業学(1)	○基礎作業学実習Ⅰ(1)			
	作業療法管理学	○医療関連法規(1)		○作業療法管理学(1)		
	作業療法評価学	○作業療法評価学総論Ⅰ(1)	○作業療法評価学総論Ⅱ(1)	**※応用評価学演習(1)**		
			○作業療法評価学実習(2)			
			○作業療法評価学Ⅰ(1)			
			○作業療法評価学Ⅱ(1)			
	作業療法治療法		○福祉用具学(1)	○身体障害作業療法学実習Ⅰ(1)		
			○日常生活活動学(2)	○身体障害作業療法学実習Ⅱ(1)		
			○身体障害作業療法学Ⅰ(1)	○作業療法義肢装具学(1)		
			○身体障害作業療法学Ⅱ(1)	○発達障害作業療法学Ⅰ(1)		
				○発達障害作業療法学Ⅱ(1)		
				○精神障害作業療法学Ⅰ(1)		
				○精神障害作業療法学Ⅱ(1)		
				○老年期障害作業療法学Ⅰ(1)		
				○老年期障害作業療法学Ⅱ(2)		
				○日常生活活動学実習Ⅰ(2)		
				○日常生活活動学実習Ⅱ(1)		
				※ハンドセラピー演習(1)		
				※専門手技療法学演習(1)		
	地域作業療法学		○地域作業療法学Ⅰ(1)	○地域作業療法学Ⅱ(1)		
				○地域作業療法学実習(2)		
	臨床実習	○作業療法見学実習(1)	○作業療法体験実習(2)	○作業療法評価実習(4)	○作業療法総合臨床実習(16)	
展開科目	必修展開科目		○ふるさと・紀州学(2)	○健康支援学(2)		必修　5科目10単位 選択　5科目10単位
			○組織論(2)			
			○地域活性企業論(2)			
			○コミュニケーション論(2)			
	選択展開科目		**※医療経済論(2)**	**※支援ロボット論(2)**		
			※ソーシャルスキル論(2)	**※医用・福祉工学論(2)**		
				※アンチエイジング(2)		
総合科目	作業療法総合科目			○応用作業療法演習Ⅰ(1)	**※専門職連携総合演習A(1)**	必修　3科目　4単位 選択　1科目　1単位
				○応用作業療法演習Ⅱ(1)	○作業療法総合演習(2)	
合計		39単位	42単位	38単位	19単位	137単位

○必修科目　**※選択科目**

医療系作業療法（認知・行為支援）履修モデル

（健康科学部リハビリテーション学科　作業療法学専攻）

		1年次	2年次	3年次	4年次	合計
基礎科目	科学的思考の基礎	○心理学				必修11科目17単位 選択 3科目 3単位
		○物理学（1）				
		○統計学（2）				
		○健康科学（1）				
		※生命倫理（2）				
		○健康とスポーツ（1）				
		○教育学Ⅰ（2）				
		○教育学Ⅱ　（2）				
		○老年学（1）				
		○情報処理Ⅰ（1）				
		※情報処理Ⅱ（1）				
		○英語Ⅰ（2）				
		○英語Ⅱ（2）				
職業専門科目 専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	○人体構造学Ⅰ（骨・筋系）（1）	○体表解剖学演習（1）			必修29科目29単位 選択 2科目 2単位
		○人体構造学Ⅱ（脈管・内臓系）（1）	○運動学実習（1）			
		○人体構造学Ⅲ（神経系）（1）				
		○人体構造学実習（1）				
		○人体機能学Ⅰ（1）				
		○人体機能学Ⅱ（1）				
		○人体機能学実習（1）				
		○運動学Ⅰ（1）				
		○運動学Ⅱ（1）				
		○人間発達学（1）				
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	○病理学（1）	○内科学（1）			
			○神経内科学Ⅰ（1）			
			○神経内科学Ⅱ（1）			
			○整形外科学Ⅰ（1）	○臨床薬理学（1）		
			○整形外科学Ⅱ（1）	○臨床・画像診断学（1）		
			○予防医学（1）			
			○小児科学（1）			
			○臨床心理学（1）			
			○精神医学（1）			
			○臨床栄養学（1）			
			○救急援助論（1）			
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	○リハビリテーション概論（1）	**※チーム医療論（1）**	○地域包括ケア論（1）		
		○社会福祉学（1）	**※トータルヘルスプロモーション（1）**			
職業専門科目 専門科目	基礎作業療法学	○作業療法概論（1）	○作業療法研究論（1）	○基礎作業学実習Ⅱ（1）		必修42科目58単位 選択 3科目 3単位
		○基礎作業学（1）	○基礎作業学実習Ⅰ（1）			
	作業療法管理学	○医療関連法規（1）		○作業療法管理学（1）		
	作業療法評価学	○作業療法評価学総論Ⅰ（1）	○作業療法評価学総論Ⅱ（1）			
			○作業療法評価学実習（2）			
			○作業療法評価学Ⅰ（1）			
			○作業療法評価学Ⅱ（1）			
	作業療法治療法		○福祉用具学（1）	○身体障害作業療法学実習Ⅰ（1）		
			○日常生活活動学（2）	○身体障害作業療法学実習Ⅱ（1）		
			○身体障害作業療法学Ⅰ（1）	○作業療法義肢装具学（1）		
			○身体障害作業療法学Ⅱ（1）	○発達障害作業療法学Ⅰ（1）		
				○発達障害作業療法学Ⅱ（1）		
				○精神障害作業療法学Ⅰ（1）		
				○精神障害作業療法学Ⅱ（1）		
				○老年期障害作業療法学Ⅰ（1）		
				○老年期障害作業療法学Ⅱ（2）		
				○日常生活活動学実習Ⅰ（2）		
				○日常生活活動学実習Ⅱ（1）		
				※高次脳機能障害の治療法（1）		
				※認知症とその対処（1）		
				※レクリエーション活動演習（1）		
	地域作業療法学		○地域作業療法学Ⅰ（1）	○地域作業療法学Ⅱ（1）		
				○地域作業療法学実習（2）		
	臨床実習	○作業療法見学実習（1）	○作業療法体験実習（2）	○作業療法評価実習（4）	○作業療法総合臨床実習（16）	
展開科目	必修展開科目		○ふるさと・紀州学（2）	○健康支援学（2）		必修　5科目10単位 選択　5科目10単位
			○組織論（2）			
			○地域活性企業論（2）			
			○コミュニケーション論（2）			
	選択展開科目		**※ソーシャルスキル論（2）**	**※支援ロボット論（2）**		
				※生涯スポーツ論（2）		
				※医用・福祉工学論（2）		
				※アンチエイジング（2）		
総合科目	作業療法総合科目			○応用作業療法演習Ⅰ（1）	**※専門職連携総合演習A（1）**	必修 3科目 4単位 選択 1科目 1単位
				○応用作業療法演習Ⅱ（1）	○作業療法総合演習（2）	

社会生活系作業療法履修モデル

（健康科学部リハビリテーション学科　作業療法学専攻）

		1年次	2年次	3年次	4年次	合計
基礎科目	科学的思考の基礎	○心理学(2)				必修11科目17単位 選択 2科目 3単位
		※生物学(2)				
		○物理学(1)				
		○統計学(2)				
		○健康科学				
		○健康とスポーツ(1)				
		○教育学Ⅰ(2)				
		○教育学Ⅱ　(2)				
		○老年学(1)				
	社会の理解	**※社会学(1)**				
		○情報処理Ⅰ(1)				
		○英語Ⅰ(2)				
		○英語Ⅱ(2)				
職業専門科目 専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	○人体構造学Ⅰ(骨・筋系)(1)	○体表解剖学演習(1)			必修29科目29単位 選択 2科目 2単位
		○人体構造学Ⅱ(脈管・内臓系)(1)	○運動学実習(1)			
		○人体構造学Ⅲ(神経系)(1)				
		○人体構造学実習(1)				
		○人体機能学Ⅰ(1)				
		○人体機能学Ⅱ(1)				
		○人体機能学実習(1)				
		○運動学Ⅰ(1)				
		○運動学Ⅱ(1)				
		○人間発達学(1)				
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	○病理学(1)	○内科学(1)			
			○神経内科学Ⅰ(1)			
			○神経内科学Ⅱ(1)			
			○整形外科学Ⅰ(1)	○臨床薬理学(1)		
			○整形外科学Ⅱ(1)	○臨床・画像診断学(1)		
			○予防医学(1)			
			○小児科学(1)			
			○臨床心理学(1)			
			○精神医学(1)			
			○臨床栄養学(1)			
			○救急援助論(1)			
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	○リハビリテーション概論(1)	**※チーム医療論(1)**	○地域包括ケア論(1)	**※地域包括ケア演習(1)**	
		○社会福祉学(1)				
職業専門科目 専門科目	基礎作業療法学	○作業療法概論(1)	○作業療法研究論(1)	○基礎作業学実習Ⅱ(1)		必修42科目58単位 選択 3科目 3単位
		○基礎作業学(1)	○基礎作業学実習Ⅰ(1)			
	作業療法管理学	○医療関連法規(1)		○作業療法管理学(1)		
	作業療法評価学	○作業療法評価学総論Ⅰ(1)	○作業療法評価学総論Ⅱ(1)			
			○作業療法評価学実習(2)			
			○作業療法評価学Ⅰ(1)			
			○作業療法評価学Ⅱ(1)			
	作業療法治療法		○福祉用具学(1)	○身体障害作業療法学実習Ⅰ(1)		
			○日常生活活動学(2)	○身体障害作業療法学実習Ⅱ(1)		
			○身体障害作業療法学Ⅰ(1)	○作業療法義肢装具学(1)		
			○身体障害作業療法学Ⅱ(1)	○発達障害作業療法学Ⅰ(1)		
				○発達障害作業療法学Ⅱ(1)		
				○精神障害作業療法学Ⅰ(1)		
				○精神障害作業療法学Ⅱ(1)		
				○老年期障害作業療法学Ⅱ(2)		
				○老年期障害作業療法学Ⅱ(1)		
				○日常生活活動学実習Ⅰ(2)		
				○日常生活活動学実習Ⅱ(1)		
				※障害者スポーツ演習(1)		
				※認知症とその対処(1)		
				※レクリエーション活動演習(1)		
	地域作業療法学		○地域作業療法学Ⅰ(1)	○地域作業療法学Ⅱ(1)		
				○地域作業療法学実習(2)		
	臨床実習	○作業療法見学実習(1)	○作業療法体験実習(2)	○作業療法評価実習(4)	○作業療法総合臨床実習(16)	
展開科目	必修展開科目		○ふるさと・紀州学(2)	○健康支援学(2)		必修 5科目10単位 選択 5科目10単位
			○組織論(2)			
			○地域活性企業論(2)			
			○コミュニケーション論(2)			
	選択展開科目		**※ソーシャルスキル論(2)**	**※地域防災論(2)**		
				※障害児教育論(2)		
				※地域連携研究(2)		
				※生涯スポーツ論(2)		
総合科目	作業療法総合科目			○応用作業療法演習Ⅰ(1)	**※専門職連携総合演習B(1)**	必修 3科目 4単位 選択 1科目 1単位
				○応用作業療法演習Ⅱ(1)	○作業療法総合演習(2)	

地域連携系作業療法履修モデル

（健康科学部リハビリテーション学科　作業療法学専攻）

		1年次	2年次	3年次	4年次	合計
基礎科目	科学的思考の基礎	○心理学(2)				必修11科目17単位 選択 3科目 3単位
		○物理学(1)				
		○統計学(2)				
		○健康科学(1)				
		※プログラミング(1)				
		※IoT入門(1)				
		○健康とスポーツ(1)				
		○教育学Ⅰ(2)				
		○教育学Ⅱ　(2)				
		○老年学(1)				
		※法学(1)				
		○情報処理Ⅰ(1)				
		○英語Ⅰ(2)				
		○英語Ⅱ(2)				
職業専門科目 専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	○人体構造学Ⅰ(骨・筋系)(1)	○体表解剖学演習(1)			必修29科目29単位 選択 4科目 4単位
		○人体構造学Ⅱ(脈管・内蔵系)(1)	○運動学実習(1)			
		○人体構造学Ⅲ(神経系)(1)				
		○人体構造学実習(1)				
		○人体機能学Ⅰ(1)				
		○人体機能学Ⅱ(1)				
		○人体機能学実習(1)				
		○運動学Ⅰ(1)				
		○運動学Ⅱ(1)				
		○人間発達学(1)				
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	○病理学(1)	○内科学(1)			
			○神経内科学Ⅰ(1)			
			○神経内科学Ⅱ(1)			
			○整形外科学Ⅰ(1)	○臨床薬理学(1)		
			○整形外科学Ⅱ(1)	○臨床・画像診断学(1)		
			○予防医学(1)			
			○小児科学(1)			
			○臨床心理学(1)			
			○精神医学(1)			
			○臨床栄養学(1)			
			○救急援助論(1)			
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	○リハビリテーション概論(1)	**※チーム医療論(1)**	○地域包括ケア論(1)	**※地域環境活動演習(1)**	
		○社会福祉学(1)	**※トータルヘルスプロモーション(1)**		**※地域包括ケア演習(1)**	
職業専門科目 専門科目	基礎作業療法学	○作業療法概論(1)	○作業療法研究論(1)	○基礎作業学実習Ⅱ(1)		必修42科目58単位 選択 1科目 1単位
		○基礎作業学(1)	○基礎作業学実習Ⅰ(1)			
	作業療法管理学	○医療関連法規(1)		○作業療法管理学(1)		
	作業療法評価学	○作業療法評価学総論Ⅰ(1)	○作業療法評価学総論Ⅱ(1)			
			○作業療法評価学実習(2)			
			○作業療法評価学Ⅰ(1)			
			○作業療法評価学Ⅱ(1)			
	作業療法治療法		○福祉用具学(1)	○身体障害作業療法学実習Ⅰ(1)		
			○日常生活活動学(2)	○身体障害作業療法学実習Ⅱ(1)		
			○身体障害作業療法学Ⅰ(1)	○作業療法義肢装具学(1)		
			○身体障害作業療法学Ⅱ(1)	○発達障害作業療法学Ⅰ(1)		
				○発達障害作業療法学Ⅱ(1)		
				○精神障害作業療法学Ⅰ(1)		
				○精神障害作業療法学Ⅱ(1)		
				○老年期障害作業療法学Ⅰ(1)		
				○老年期障害作業療法学Ⅱ(2)		
				○日常生活活動学実習Ⅰ(2)		
				○日常生活活動学実習Ⅱ(1)		
				※認知症とその対処(1)		
	地域作業療法学		○地域作業療法学Ⅰ(1)	○地域作業療法学Ⅱ(1)		
				○地域作業療法学実習(2)		
	臨床実習	○作業療法見学実習(1)	○作業療法体験実習(2)	○作業療法評価実習(4)	○作業療法総合臨床実習(16)	
展開科目	必修展開科目		○ふるさと・紀州学(2)	○健康支援学(2)		必修 5科目10単位 選択 5科目10単位
			○組織論(2)			
			○地域活性企業論(2)			
			○コミュニケーション論(2)			
	選択展開科目		**※経営と会計(2)**	**※産業保健論(2)**		
			※地方自治と生活(2)	**※障害児教育論(2)**		
				※地域連携研究(2)		
総合科目	作業療法総合科目			○応用作業療法演習Ⅰ(1)	**※専門職連携総合演習C(1)**	必修 3科目 4単位 選択 1科目 1単位
				○応用作業療法演習Ⅱ(1)	○作業療法総合演習(2)	
合計		38単位	42単位	36単位	21単位	137単位

○必修科目　**※選択科目**

既存図書のうち専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧

資料15-1

No	ISBN	書籍名/雑誌名	版次	著者	出版社	出版年月
1	978-4-89592-838-0	臨床のための解剖学	第2版	著:キース L. ムーア、アーサー F. デイリー、アン M. R. アガー, 監訳:佐藤達夫、坂井健	MEDSI	201602
2	978-4-89592-845-8	脳卒中症候群		編:ルイス R. カプラン、ヤン ファン ヘイン, 監訳:星野晴彦	MEDSI	201603
3	978-4-524-26176-5	エッセンシャル・キネシオロジー　機能的運動学の基礎と臨床		著:Paul Jackson Mansfield、Donald A. Neumann, 監訳:弓岡光穂、溝田勝彦、村田伸	エルゼビア・ジャパン	201508
4	978-4-88282-942-3	股関節と膝関節疾患のためのピラティス　予防・改善と手術前後の運動アプローチ		著:ベス・A・カプレニク、ブレッド・ルバイン、ウィリアム・L・ジャッフェ, 監訳:武田淳也	ガイアブックス	201506
5	978-4-905168-43-0	アスレティックケア　リハビリテーションとコンディショニング		編著:小山貴之	ナップ	201605
6	978-4-7583-1694-1	ROM測定法　臨床での測定精度を高める！　代償運動のとらえ方と制動法の理解と実践		著:齋藤慶一郎	メジカルビュー社	201603
7	978-4-7583-1693-4	リハに役立つ脳画像　コツさえわかればあなたも読める		監修:酒向正春, 著:大村優慈	メジカルビュー社	201603
8	978-4-7583-1684-2	リハビリテーションのためのニューロサイエンス　脳科学からみる機能回復		監修:西条寿夫、伊佐正, 編集:浦河将	メジカルビュー社	201509
9	978-4-7583-1686-6	リハビリテーションのための画像の読み方		編集:本間光信、高橋仁美	メジカルビュー社	201504
10	978-4-7583-1702-3	リハビリテーションリスク管理ケーススタディ		著:宮越浩一	メジカルビュー社	201603
11	978-4-7583-1499-2	基本動作の評価と治療アプローチ		監修:武田功, 編集:弓岡光穂、廣瀬浩昭	メジカルビュー社	201503
12	978-4-7583-1362-9	足の運動療法　術前・術後にも効果的な外来テクニック		編著:高倉義典, 著:高倉義幸、小俣順子	メジカルビュー社	201504
13	978-4-7583-1698-9	地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーション　エビデンスを実践につなげる		監修:藤島一郎、大城昌平, 編集:吉本好延	メジカルビュー社	201606
14	978-4-7583-1706-1	脳卒中理学療法の理論と技術	改訂第2版	編集:原寛美、吉尾雅春	メジカルビュー社	201606
15	978-4-8404-5363-9	動画でわかる呼吸コンディショニングテクニック		著:堀 竜次	メディカ出版	201503
16	978-4-89632-566-9	フィジカルアセスメントがみえる		編集:医療情報科学研究所	メディックメディア	201504
17	978-4-260-02204-0	ADLとその周辺　評価・指導・介護の実際		監修:伊藤利之、鎌倉矩子, 編集:水落和也、渡邉愼一、高畑進一	医学書院	201601
18	978-4-260-02086-2	グラント解剖学図譜	第7版	著:ANNE M. R. AGUR、ARTHUR F. DALLEY, 監訳:坂井健雄, 訳:小林靖〔ほか〕	医学書院	201601
19	978-4-260-02009-1	ニューロリハビリテーション		編集:道免和久	医学書院	201505
20	978-4-260-02419-8	下肢運動器疾患の診かた・考えかた関節機能解剖学的リハビリテーション・アプローチ		編集:中図健	医学書院	201605
21	978-4-260-02161-6	解いてなっとく使えるバイオメカニクス		著:前田哲男、木山良二、大渡昭彦	医学書院	201509
22	978-4-260-02392-4	今日の治療方針　私はこう治療している 2016 (デスク判)		監修:山口徹、北原光夫, 総編集:福井次矢、高木誠、小室一成, 赤水尚史〔ほか〕責任編集	医学書院	201601
23	978-4-260-02014-5	今日の診断指針 (デスク判)	第5版	総編集:金澤一郎、永井良三, 浅利靖〔ほか〕責任編集	医学書院	201503
24	978-4-260-02202-6	今日の整形外科治療指針		編集:土屋弘行、紺野愼一、田中康仁、田中栄、松田秀一	医学書院	201605
25	978-4-260-02127-2	今日の理学療法指針		総編集:内山靖, 編集:綱本和、臼田滋、高橋哲也、淵岡聡、間瀬教史	医学書院	201506
26	978-4-260-02064-0	内科診断学		編集:福井次矢、奈良信雄	医学書院	201602
27	978-4-260-02145-6	認知リハビリテーション実践ガイド		著:MCKAY MOORE SOHLBERG、LYN S. TURKSTAR, 監訳:村松太郎	医学書院	201506
28	978-4-260-02533-1	脳神経外科レジデントマニュアル		監修:若林俊彦, 編集:夏目敦至、永谷	医学書院	201605
29	978-4-260-02488-4	脳卒中の下肢装具　病態に対応した装具の選択法		著:渡邉英夫、平山史朗、藤崎拡憲	医学書院	201603
30	978-4-260-02413-6	理学療法臨床実習サポートブック　レポート作成に役立つ素材データ付		著:岡田慎一郎、上村忠正、永井絢也、長谷川真人、村上京子、守澤幸晃	医学書院	201511

既存図書のうち専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧

No	ISBN	書籍名/雑誌名	版次	著者	出版社	出版年月
31	978-4-260-02497-6	臨床研究の教科書　研究デザインとデータ処理のポイント		著:川村孝	医学書院	201603
32	978-4-263-21942-3	EBM物理療法	第4版	原著:Michelle H. Cameron, 訳:渡部一郎	医歯薬出版	201509
33	978-4-263-21528-9	ICFコアセット　臨床実践のためのマニュアル		原著編集:Jerome E. Bickenbach、Alarcos Cieza、Alexandra Rauch、Gerold Stucki , 監訳:日本リハビリテー	医歯薬出版	201503
34	978-4-263-21497-8	エビデンスに基づく理学療法　実践的なQ&Aによる評価と治療指標を総まと		編:内山靖	医歯薬出版	201506
35	978-4-263-21715-3	テキスト物理療法学　基礎と臨床		編著:濱出茂治、烏野大	医歯薬出版	201605
36	978-4-263-21943-0	フレイルの予防とリハビリテーション		編:島田裕之	医歯薬出版	201509
37	978-4-263-21873-0	リハビリテーションにおける評価		編:上月正博、正門由久、吉永勝訓	医歯薬出版	201604
38	978-4-263-21732-0	運動学習理論に基づくリハビリテーションの実践	第2版	編著:長谷公隆, 浅井憲義〔ほか〕執筆	医歯薬出版	201606
39	978-4-263-21944-7	在宅リハビリテーション栄養		監修:日本リハビリテーション栄養研究会, 監修:若林秀隆	医歯薬出版	201509
40	978-4-263-21499-2	自信がもてる！リハビリテーション臨床実習　脳卒中ケースで臨場感を体験		監修:里宇明元, 編集:川上途行〔ほか〕	医歯薬出版	201503
41	978-4-263-21535-7	神経科学の最前線とリハビリテーション　脳の可塑性と運動		監修:里宇明元、牛場潤一, 編集:岡野ジェイムス洋尚〔ほか〕	医歯薬出版	201506
42	978-4-263-21718-4	動作のメカニズムがよくわかる実践！動作分析		監修:上杉雅之, 編集:西守隆	医歯薬出版	201603
43	978-4-263-21493-0	認知症のリハビリテーション栄養		編著:若林秀隆	医歯薬出版	201501
44	978-4-263-21540-1	膜・筋膜　人体の張力ネットワーク　最新知見と治療アプローチ		原著:Robert Schleip、Thomas W. Findley、 Leon Chaitow、Peter A. Huijing, 監訳:竹田仁	医歯薬出版	201506
45	978-4-263-21716-0	臨床につながる整形外科学　理学療法・作業療法専門基礎分野		編:芳賀信彦	医歯薬出版	201603
46	978-4-7529-3115-7	ビジュアルで学ぶ筋膜リリーステクニック Volume1 肩、骨盤、下肢、足部		著:Til Luchau, 監訳:齋藤昭彦	医道の日本社	201603
47	978-4-7529-3110-2	ボディ・ナビゲーションムーブメント　筋肉と骨と神経を組み立て解剖と機能を		著:Andrew Biel, 監訳:阪本桂造	医道の日本社	201503
48	978-4-7809-1210-4	マインドマップでつながる！わかる！解剖・機能・症状・疾患		総監修:辰元宗人	学研メディカル秀潤社	201507
49	978-4-7809-1191-6	回復期リハディジーズ　疾患ごとの看護実践がみえる		編集:和田玲	学研メディカル秀潤社	201509
50	978-4-7639-1079-0	リハビリテーションのための脳・神経科学入門		著:森岡周	協同医書出版社	201605
51	978-4-307-75042-4	認知症のリハビリテーション　ケア、薬物療法から施設入所まで		著:瀬川造	金原出版	201504
52	978-4-307-75046-2	脳卒中上肢機能評価ARATパーフェクトマニュアル		監修:安保正博, 編集:中野枝里子、田中智子	金原出版	201506
53	978-4-7653-1657-6	イラストと写真でわかる実践装具療法　装具の選択と疾患別使用例		編集:久保俊一、田島文博, イラスト作画・写真編集:徳永大作	金芳堂	201511
54	978-4-7719-0464-4	リハビリメイク　見えてくる、メイクアップセラピーという選択肢		監修:百束比古, 編著:青木律、かづきれいこ	克誠堂出版	201606
55	978-4-89590-508-4	イラストわかりやすい移動のしかた　患者と介助者のために	第4版	著:井口恭一	三輪書店	201503
56	978-4-89590-542-8	サスペンション・エクササイズ　レッドコードエクササイズからの進化		編:宮下智	三輪書店	201604
57	978-4-89590-530-5	トータル・ヒップ・ケア　股関節チームで支える人工関節全置換術		編集:中川法一	三輪書店	201510
58	978-4-89590-517-6	姿勢と歩行　協調からひも解く		著:樋口貴広、建内宏重	三輪書店	201506
59	978-4-89590-523-7	手のスプリントのすべて		著:やさききよし	三輪書店	201507
60	978-4-89590-515-2	重複障害のリハビリテーション		編著:上月正博	三輪書店	201506
61	978-4-89590-555-8	上肢の理学療法　局所機能と全身運動を結びつけるインタラクティブ・アプロー		編集:地神裕史、斉藤秀之	三輪書店	201606
62	978-4-89590-507-7	人工関節のリハビリテーション　術前・周術期・術後のガイドブック		監修:杉本和隆, 編集:美崎定也、相澤純也	三輪書店	201503
63	978-4-89590-521-3	前庭リハビリテーション　めまい・平衡障害に対するアプローチ		編:浅井友詞、中山明峰	三輪書店	201505
64	978-4-89590-554-1	日常生活から高次脳機能障害を理解する認知関連行動アセスメント		編:森田秋子	三輪書店	201606
65	978-4-89590-497-1	脳血管障害の解剖学的診断		著:後藤潤、後藤昇	三輪書店	201412
66	978-4-89590-499-5	脳卒中のリハビリテーション　生活機能に基づくアプローチ		監訳:清水一、宮口英樹、松原麻子, 編著:Glen Gillen	三輪書店	201505
67	978-4-89590-522-0	発達障害の運動療法　ASD・ADHD・LDの障害構造とアプローチ		著:新田收	三輪書店	201506

既存図書のうち専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧

No	ISBN	書籍名/雑誌名	版次	著者	出版社	出版年月
68	978-4-89590-509-1	臨床OT ROM治療 運動・解剖学の基本的理解から介入ポイント・実技・症例への展開		編集:山本伸一	三輪書店	201505
69	978-4-7878-2155-3	眼で見る小児のリハビリテーション	改訂第3版	著:栗原まな	診断と治療社	201501
70	978-4-7878-2179-9	五十肩のリハビリテーション 病期に合わせた適切な運動療法 正しいストレッチとマッサージを学ぶ		編集:山本良彦	診断と治療社	201504
71	978-4-7878-2077-8	小児リハビリテーション評価マニュアル		監修:高橋秀寿, 編集:問川博之	診断と治療社	201504
72	978-4-89013-460-1	マーティン カラー神経解剖学 テキストとアトラス		著:ジョン・H・マーティン, 監訳:野村嶬、金子武嗣、伊藤和夫〔ほか〕訳	西村書店	201511
73	978-4-89013-465-6	脳卒中症候学 症例編 診療の深みを理解する		編集:田川皓、橋本洋一郎、稲宮雄一郎	西村書店	201606
74	978-4-86519-214-8	医療・看護・介護で役立つ嚥下治療エッセンスノート		編著:福村直毅	全日本病院出版会	201511
75	978-4-8058-5232-3	PT・OT・STのための認知行動療法ガイドブック リハビリテーションの効果を高		著:大嶋伸雄	中央法規出版	201506
76	978-4-8058-5273-6	生活行為向上リハビリテーション実践マニュアル		監修:全国デイ・ケア協会	中央法規出版	201510
77	978-4-498-06716-5	CPX・運動療法ハンドブック 心臓リハビリテーションのリアルワールド	改訂3版	編著:安達仁	中外医学社	201507
78	978-4-498-06718-9	がんのリハビリテーションQ&A		編著:辻哲也	中外医学社	201506
79	978-4-498-07678-5	リハビリテーションのための臨床神経生理学		編集:正門由久	中外医学社	201505
80	978-4-498-22805-4	高次脳機能障害 その評価とリハビリテーション	第2版	編著:武田克彦、長岡正範	中外医学社	201605
81	978-4-498-06720-2	骨折の機能解剖学的運動療法 その基礎から臨床まで 総論・上肢		監修:青木隆明、林典雄, 著:松本正知	中外医学社	201510
82	978-4-498-06722-6	骨折の機能解剖学的運動療法 その基礎から臨床まで 体幹・下肢		監修:青木隆明、林典雄, 著:松本正知	中外医学社	201510
83	978-4-521-74262-5	モーションエイド 姿勢・動作の援助理論と実践法		著:下元佳子	中山書店	201509
84	978-4-521-74153-6	今日からなれる！評価の達人 リハビリテーション・ポケットナビ		編著:玉置彰、高橋仁美	中山書店	201505
85	978-4-521-74259-5	循環器臨床サピア4 心臓リハビリテーション 実践マニュアル 評価・処方・患	改訂第2版	総編集:永井良三	中山書店	201508
86	978-4-521-74304-2	動画でわかる呼吸リハビリテーション	第4版	編集:高橋仁美、宮川哲夫、塩谷隆信	中山書店	201603
87	978-4-524-26877-1	リハビリテーションスタッフのための整形外科手術動画集 一歩進んだ術後リハのために		監修:伊藤恵康, 編集:齊藤正史、岩部昌平、宮本梓	南江堂	201603
88	978-4-524-25745-4	治療を支える疾患別リハビリテーション栄養 リハと栄養はベストカップル		編集:森脇久隆、大村健二、若林秀隆	南江堂	201603
89	978-4-524-26945-7	障害と活動の測定・評価ハンドブック 機能からQOLまで		編集:岩谷力、飛松好子	南江堂	201511
90	978-4-86227-011-5	筋ジストロフィーのすべて		監修:貝谷久宣, 編集:月刊雑誌『難病と在宅ケア』	日本プランニングセンター	201505
91	978-4-7878-2194-2	ロコモティブシンドロームのすべて		監修:中村耕三、田中栄, 編集:大江隆史、葛谷雅文、星野雄一	日本医師会	201507
92	978-4-8306-4543-3	データに基づく臨床動作分析		編著:藤澤宏幸	文光堂	201605
93	978-4-8306-4518-1	運動療法のための運動器超音波機能解剖拘縮治療との接点 WEB動画付き		監修:杉本勝正, 著:林典雄	文光堂	201504
94	978-4-8306-4520-4	急性期作業療法マネジメント 生活の行為を紡ぐ作業療法プラクティスシームレスにつなぐ早期のアプローチ		常任編集:小林毅、東祐二、渡辺愛記	文光堂	201504
95	978-4-8306-4542-6	高次脳機能障害に対する理学療法		編集:阿部浩明	文光堂	201605
96	978-4-8306-4535-8	姿勢制御と理学療法の実際		編集:浅井仁、奈良勲	文光堂	201604
97	978-4-8306-4538-9	実践EBM心臓リハビリテーション エビデンス診療ギャップとその対応		編集:松尾善美、上嶋健治	文光堂	201605
98	978-4-8306-4536-5	神経症候障害学 病態とエビデンスに基づく治療と理学療法		編集:内山靖、廣瀬隆一	文光堂	201605
99	978-4-8306-4521-1	脳卒中患者に対する課題指向型トレーニング		編集:瀬見泰蔵	文光堂	201504
100	978-4-8306-4516-7	脳卒中後の運動機能回復レビュー PT・OTがしっておきたい基礎知識		監修:瀬見泰蔵, 著:今井樹	文光堂	201412
101	978-4-8306-4524-2	理学療法士のための在宅療養者の診かた 評価をプログラムに反映させる		編集:杉元雅晴	文光堂	201505
102	978-4-8306-4537-2	理学療法評価学 障害・関節別評価のポイントと実際		編集:市橋則明	文光堂	201605
103	978-4-8306-4397-2	筋緊張に挑む 筋緊張を深く理解し,治療技術をアップする！		常任編集:斉藤秀之、加藤浩	文光堂	201506

既存図書のうち専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧

No	ISBN	書籍名/雑誌名	版次	著者	出版社	出版年月
104	978-4-8306-4541-9	臨床実践変形性膝関節症の理学療法 教科書にはない敏腕PTのテクニック		監修:松尾善美, 編集:橋本雅至	文光堂	201605
105	978-4-7581-0214-8	PT症例レポート赤ペン添削ビフォー&アフター		編集:相澤純也、美崎定也、石黒幸治	羊土社	201602
106	978-4-7581-1786-9	その患者さん、リハ必要ですよ！！病棟で、外来で、今すぐ役立つ！評価・オーダー・運動療法、実践リハビリテーションのコツ		編:若林秀隆	羊土社	201606
107	978-4-7581-0794-5	呼吸・心臓リハビリテーション ビジュアル実践リハ カラー写真でわかるリハの根拠と手技のコツ	改訂第2版	監修:居村茂幸, 編著:高橋哲也、間瀬教史	羊土社	201506
108	978-4-7639-1079-0	リハビリテーションのための脳・神経科学入門	改訂第2版	著:森岡周	協同医書出版社	201605
109	978-4-8470-6079-3	長引く痛みの原因は、血管が9割		著:奥野祐次	ワニ・プラス	201502
110	978-4-7583-1026-0	DVDで動きがわかる モーション解剖アトラス 上肢・体幹		編著:青木光広	メジカルビュー社	20080610
111	978-4-7583-1034-5	DVDで動きがわかる モーション解剖アトラス 下肢・骨盤		監修:山下敏彦 編集:青木光広, 鈴木大輔	メジカルビュー社	20091010
112	978-4-7583-1037-6	DVDで動きがわかる モーション解剖アトラス 脊椎		監修:山下敏彦 編集:青木光広, 鈴木大輔, 竹下庸雄, 吉本三徳	メジカルビュー社	20101010
113	978-4-7583-1362-9	足の運動療法:術前・術後にも効果的な外来テクニック		編著:高倉義典	メジカルビュー社	20150401
114	978-4-7583-0441-2	リハビリテーション英語の基本用語と表現		編著:清水雅子, 服部しのぶ	メジカルビュー社	20150201
115	978-4-7583-1495-4	改訂第2版 呼吸リハビリテーションの理論と技術	改訂第2版	監修:本間生夫 編集:田中一正, 柿崎藤泰	メジカルビュー社	20141230
116	978-4-7583-1491-6	改訂第2版 リハ実践テクニック 関節リウマチ	改訂第2版	監修:西林保朗 編集:佐浦隆一, 八木範彦	メジカルビュー社	20141210
117	978-4-7583-1493-0	ウィメンズヘルス リハビリテーション		編集:ウィメンズヘルス理学療法研究会	メジカルビュー社	2141210
118	978-4-7583-1048-2	解剖からアプローチする からだの機能と運動療法 下肢・骨盤		編集:内山英一, 青木光広	メジカルビュー社	20140201
119	978-4-263-21497-8	エビデンスに基づく理学療法 評価と治療指標を総まとめ	第2版	編者 内山 靖	医歯薬出版	20150601
120	4-263-22157-5	症候・病態生理・検査 図説 クリニカルサインと臨床検査		編者 中野昭一	医歯薬出版	20050415
121	4-263-70270-0	運動・生理・生化学・栄養 ＜普及版＞ 図説 運動の仕組みと応用		編者 中野昭一	医歯薬出版	20050620
122	978-4-263-70266-6	解剖・生理・栄養 ＜普及版＞ 図説 ヒトのからだ		編者 中野昭一	医歯薬出版	20120110
123	4-263-70267-0	病態生理・生化学・栄養 ＜普及版＞ 図説 病気の成り立ちとからだ Ⅰ 症候別病態生理編		編者 中野昭一	医歯薬出版	20061220
124	978-4-263-70268-0	病態生理・生化学・栄養 ＜普及版＞ 図説 病気の成り立ちとからだ Ⅱ 疾患別病態生理編		編者 中野昭一	医歯薬出版	20140125
125	4-263-70269-7	普及版 生理・生化学・栄養 図説 からだの仕組みと働き		編者 中野昭一	医歯薬出版	20010901
126	978-4-260-01690-2	今日のリハビリテーション指針		編集:伊藤利之, 江藤文夫, 木村彰男 編集協力:上月正博, 仲泊聡, 田内光, 清水康夫	医学書院	20130515
127	978-4-89590-406-3	脊椎装具に強くなる Basics&Tips		編集:米延策雄, 菊池臣一	三輪書店	20120520
128	978-4-89590-328-8	理論がわかる！ 実践できる！ 非特異的腰痛のプライマリ・ケア		編集:米延策雄, 菊池臣一	三輪書店	20090501
129	978-4-89590-458-2	山嵜勉形 態構築アプローチの理論と技術		山嵜勉	三輪書店	20131105
130	978-4-89590-418-6	荒木茂 マッスルインバランスの考え方による腰痛症の評価と治療		荒木茂	三輪書店	20130701
131	978-4-89590-405-6	山田英司 変形性膝関節症に対する保存的治療戦略		山田英司	三輪書店	20120501
132		病の起源 : がん -人類進化が生んだ病-		NHKエンタープライズ	NHKエンタープライズ	2013
133		病の起源 : 脳卒中 -早すぎた進化の代償-		NHKエンタープライズ	NHKエンタープライズ	2013
134		病の起源 : 心臓病 -高性能ポンプの落とし穴-		NHKエンタープライズ	NHKエンタープライズ	2014
135		病の起源 : うつ病 -防衛本能がもたらす宿命-		NHKエンタープライズ	NHKエンタープライズ	2014
136	978-4-7581-1176-8	必ず診療に役立つ スポーツ傷害の画像診断		帖佐悦男 編	羊土社	20131110

既存図書のうち専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧

No	ISBN	書籍名/雑誌名	版次	著者	出版社	出版年月
137	978-4-521-73961-8	運動器スペシャリストのための 整形外科外来診療の実際 Practical Guide to Clinical		日本臨床整形外科学会 編	中山書店	20140610
138	978-4-8306-5162-5	腰痛のリハビリテーションとリコンディショニング ―リスクマネジメントに基づいたアプローチ―		監修:福林徹, 小林寛和 編集:片寄正樹	文光堂	20130117
139	978-4-524-26916-7	ナショナルチームドクター・トレーナーが書いた種目別スポーツ傷害の診療	改訂第2版	編集主幹:林光俊 編集:岩崎由純	南江堂	20140515
140	978-4-524-26039-3	DVDで学ぶ運動器徒手検査法		編:山本謙吾	南江堂	20141020
141	978-4-904613-19-1	オーチスのキネシオロジー 身体運動の力学と病態力学 原著第2版		原著: Carol A. Oatis 監訳:山﨑敦, 佐藤俊輔, 白星伸一, 藤川孝	ラウンドフラット	20140617
142	978-4-89590-509-1	臨床OT ROM治療 運動・解剖学の基本的理解から介入ポイント・実技・症例への展開		編集:山本伸一	三輪書店	20150515
143	978-4-524-26117-8	人体解剖カラーアトラス		著:Peter H.Abrahams, Jonathan D.Spratt, Marios Loukas, Albert N.Van Schoor 訳:佐藤達夫	エルゼビア・ジャパン	20150110
144	978-4-86243-521-7	リハビリテーション医学 Vol.1 脳卒中(急性期)のリハビリテーション	第2版	総監修:米本恭三 原案監修:安保正博	医学映像教育センター	2012
145	978-4-86243-522-4	リハビリテーション医学 Vol.2 摂食・嚥下障害		総監修:米本恭三 監修:才藤栄一 原案:柴田斉子	医学映像教育センター	2013
146	978-4-86243-523-1	リハビリテーション医学 Vol.3 排尿障害		総監修:米本恭三 原案監修:正門由久 制作協力:髙坂哲	医学映像教育センター	2013
147	978-4-86243-524-8	リハビリテーション医学 Vol.4 切断と義肢		総監修:米本恭三 原案監修:飛松好子	医学映像教育センター	2013
148	978-4-86243-525-5	リハビリテーション医学 Vol.5 呼吸器リハビリテーション		総監修:米本恭三 原案監修:里宇明元	医学映像教育センター	2013
149	978-4-86243-526-2	リハビリテーション医学 Vol.6 脊髄損傷		総監修:米本恭三 原案監修:田嶋文博	医学映像教育センター	2014
150	978-4-86243-527-9	リハビリテーション医学 Vol.7 神経・筋疾患		総監修:米本恭三 原案監修:柳澤信夫 制作協力:長谷川一子, 丸谷龍思	医学映像教育センター	2014
151	978-4-86243-528-6	リハビリテーション医学 Vol.8 小児の発達障害		総監修:米本恭三 原案監修:君塚葵	医学映像教育センター	2013
152	978-4-86243-529-3	リハビリテーション医学 Vol.9 認知症		総監修:米本恭三 原案監修:三村將	医学映像教育センター	2014
153	978-4-86243-530-9	リハビリテーション医学 Vol.10 失語症		総監修:米本恭三 原案監修:安保雅博, 渡辺基	医学映像教育センター	2015
154	978-4-86243-531-6	リハビリテーション医学 Vol.11 脳卒中の回復期		総監修:米本恭三 原案監修:水間正澄, 菅原英和	医学映像教育センター	2015
155	978-4-86243-532-3	リハビリテーション医学 Vol.12 疼痛		総監修:米本恭三 原案監修:栢森良二	医学映像教育センター	2013
156	978-4-86243-533-0	リハビリテーション医学 Vol.13 関節リウマチ		総監修:米本恭三 原案監修:水落和也	医学映像教育センター	2015
157	978-4-489-02115-2	SPSSによる医学・歯学・薬学のための統計解析	第3版	石村 貞夫・謝 承泰・久保田 基夫	東京図書	201111
158	978-4-498-10900-1	EZRでやさしく学ぶ統計学		神田 善伸	中外医学社	201204
159	978-4-88003-861-2	新版 学会・論文発表のための統計学 統計パッケージを誤用しないために		浜田 知久馬	真興交易株式会社医書出版部	201203
160	978-4-7532-2582-8	新編 ウイルスの今日的意味		柳 雄介	医薬ジャーナル社	201209
161	978-4-8306-2056-0	臨床感染症ブックレット 7 入院患者における重症・難治性感染症を診る		笠原 敬/前﨑 繁文・大曲 貴夫	文光堂	201207
162	978-4-7849-5473-5	インフルエンザ診療ガイド 2012-13		菅谷 憲夫	日本医事新報社	201210
163	978-4-7532-2520-0	病原菌の今日的意味	改訂4版	松本 慶蔵	医薬ジャーナル社	201111
164	978-4-7532-2530-9	ロタウイルス胃腸炎の予防と治療の新しい展開		神谷 齊・庵原 俊昭	医薬ジャーナル社	201201
165	978-4-87402-170-5	予防接種の手びき	第13版	木村 三生夫・平山 宗宏・堺 春美	近代出版	201110
166	978-4-525-42081-9	がんの浸潤・転移 臨床と基礎		高井 義美	南山堂	201110
167	978-4-88378-839-2	エビデンスに基づいたがん薬物療法エキスパートマニュアル		石岡 千加史・井上 忠夫	総合医学社	201204
168	978-4-7581-2028-9	理系なら知っておきたい ラボノートの書き方 改訂版	第2版	岡崎 康司・隅藏 康一	羊土社	201201

既存図書のうち専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧

No	ISBN	書籍名/雑誌名	版次	著者	出版社	出版年月
169	978-4-525-77835-4	図解薬剤学	改訂5版	森本 雍慶・関 俊暢・関川 彬・福島 昭二・岸本 修一・宮崎 正三・伊藤 邦彦・夏目 秀視・山下 伸二・曽根 知道・西田 孝洋・藤田 卓也・杉林 堅次・長谷川 高明・灘井 雅行・加藤 美紀	南山堂	201208
170	978-4-8407-4360-0	錠剤・カプセル剤粉砕ハンドブック	第6版	佐川 賢一・木村 利美/佐川賢一・伊東 俊雅	じほう	201208
171	978-4-8079-1624-5	スタンダード薬学シリーズ7 製剤化のサイエンス	第2版	日本薬学会	東京化学同人	201209
172	978-4-260-01539-4	てんかん学ハンドブック	第3版	兼本 浩祐	医学書院	201204
173	978-4-260-01546-2	成人期の自閉症スペクトラム診療実践マニュアル		神尾 陽子	医学書院	201205
174	978-4-260-01556-1	思春期・青年期のうつ病治療と自殺予防		高橋 祥友/David A.Brent・Kimberly D.Poling・Tina R.Goldstein	医学書院	201205
175	978-4-335-65146-5	「うつ」の構造		神庭 重信・内海 健	弘文堂	201112
176	978-4-916166-29-6	脳とこころのプライマリケア5 意識と睡眠		千葉 茂	シナジー	201206
177	978-4-916166-30-2	脳とこころのプライマリケア6 幻覚と妄想		堀口 淳	シナジー	201111
178	978-4-7911-0817-6	動機づけ面接法 応用編		松島 義博・後藤 恵・猪野 亜朗/ウイリアム R ミラー・ステファン ロルニック	星和書店	201209
179	978-4-7911-0810-7	トラウマと身体		日本ハコミ研究所/パット オグデン・ケクニ ミントン・クレア ペイン	星和書店	201207
180	978-4-498-22804-7	高次脳機能障害 その評価とリハビリテーション		武田 克彦・長岡 正範	中外医学社	201209
181	978-4-320-05722-7	脳「かたち」と「はたらき」		徳野 博信/C.Watson・M.Kirkcaldie・G.Paxinos	共立出版	201205
182	978-4-7878-1916-1	シリーズ ボツリヌス治療の実際 ボツリヌス治療実践マニュアル		梶 龍兒/目崎 高広	診断と治療社	201201
183	978-4-7878-1955-0	KCGH STROKE 100 脳卒中症例100		菊池 晴彦・北 徹/坂井 信幸・幸原 伸夫	診断と治療社	201210
184	978-4-88117-067-0	"知りたい"めまい"知っておきたい"めまい薬物治療		肥塚 泉	全日本病院出版会	201210
185	978-4-7532-2573-6	インフォームドコンセントのための図説シリーズ 肝炎ウイルス-B型・C型		熊田 博光	医薬ジャーナル社	201208
186	978-4-7532-2567-5	慢性肝疾患における鉄毒性と除鉄治療 C型慢性肝炎を中心に		日本鉄バイオサイエンス学会	医薬ジャーナル社	201209
187	978-4-524-26316-5	CDによる聴診トレーニング 呼吸音編	改訂第2版	川城 丈夫	南江堂	201110
188	978-4-904307-43-4	画像による呼吸器疾患診断アプローチ クイズ収載		四元 秀毅・岩井 和郎・鈴木 光	アトムス	201205
189	978-4-7532-2575-0	インフォームドコンセントのための図説シリーズ 脳梗塞の予防と再発防止	改訂第3版	山口 武典/社団法人 日本脳卒中協会・公益財団法人 循環器病研究振興	医薬ジャーナル社	201209
190	978-4-88378-840-8	アレルギー・リウマチ膠原病診療最新ガイドライン		足立 満・笠間 毅	総合医学社	201204
191	978-4-8306-2028-7	臨床に直結する腎疾患治療のエビデンス ベッドサイドですぐに役立つリファレンスブック	第2版	小林 正貴・南学 正臣・吉村 吾志夫	文光堂	201210
192	978-4-7849-4295-4	新 腎不全・透析患者指導ガイド		湯村 和子	日本医事新報社	201210
193	978-4-498-12483-7	Annual Review 腎臓 2013		富野 康日己・柏原 直樹・成田 一衛	中外医学社	201301
194	978-4-7581-1718-0	改定版 糖尿病治療薬ハンドブック	第2版	河盛 隆造・綿田 裕孝/日吉 徹	羊土社	201206
195	978-4-7581-1723-4	改定版 糖尿病診療ハンドブック	第2版	河盛 隆造・綿田 裕孝/日吉 徹	羊土社	201206
196	978-4-7581-2031-9	糖尿病学イラストレイテッド 発症機序・病態と治療薬の作用機序		春日 雅人	羊土社	201203
197	978-4-7719-0389-0	For Professional Anesthesiologists 心肺蘇生		槇田 浩史	克誠堂出版	201112
198	978-4-525-23612-0	楽しくイラストで学ぶ 水・電解質の知識	改訂第2版	北岡 建樹	南山堂	201206
199	978-4-524-26336-3	運動器の計測線・計測値ハンドブック		紺野 愼一	南江堂	201211
200	978-4-524-26416-2	運動器の痛み プライマリケア 下腿・足の痛み		菊地 臣一	南江堂	201211
201	978-4-7792-0954-3	ロコモティブシンドローム		中村 耕三	メディカルレビュー	201207
202	978-4-260-01602-5	変形性関節症の診かたと治療	第2版	井上 一/尾崎 敏文・西田 圭一郎	医学書院	201209
203	978-4-260-01676-6	肩 その機能と臨床	第4版	信原 克哉	医学書院	201210
204	978-4-498-05468-4	日常診療で出会う腰痛の診かた		高橋 和久	中外医学社	201205
205	978-4-524-26402-5	仙腸関節の痛み 診断のつかない腰痛		村上 栄一	南江堂	201203
206	978-4-524-26497-1	みえる腰痛 体性感覚構造図 運動器疼痛の診断のための示説		高橋 弦	南江堂	201204
207	978-4-7653-1510-4	人工股関節全置換術		菅野 伸彦	金芳堂	201201

既存図書のうち専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧

No	ISBN	書籍名/雑誌名	版次	著者	出版社	出版年月
208	978-4-7583-1044-4	骨折 プレート治療マイスター		澤口 毅	メジカルビュー社	201205
209	978-4-88117-063-2	達人が教える外傷骨折治療		糸満 盛憲・戸山 芳昭	全日本病院出版会	201205
210	978-4-88378-841-5	運動器診療最新ガイドライン		中村 耕三	総合医学社	201205
211	978-4-89590-400-1	股関節と骨盤のスポーツ障害 プライマリー・ケアとリハビリテーション		相澤 純也・美﨑 定也・新田 收/Peter H.Seidenberg・Jimmy D.Bowen	三輪書店	201204
212	978-4-905168-13-3	整形外科・スポーツ障害診察ハンドブック		別府 諸兄	ナップ	201203
213	978-4-263-24267-4	カラー写真で学ぶ実践スポーツ障害のみかた 上肢・体幹編		武田 康志・竹内 義享・上村 英記・堀口 忠弘	医歯薬出版	201110
214	978-4-498-07310-4	肩と肘のスポーツ障害 診断と治療のテクニック		菅谷 啓之	中外医学社	201209
215	978-4-263-24280-3	運動器疾患ワークブック		目崎 登/小林 直行	医歯薬出版	201204
216	978-4-260-01558-5	アナトミー・トレイン 徒手運動療法のための筋筋膜経線	第2版	板場 英行・石井 慎一郎	医学書院	201205
217	978-4-263-21390-2	PNF基本的手技と機能的訓練		市川 繁之	医歯薬出版	201202
218	978-4-263-21399-5	姿勢調節障害の理学療法	第2版	奈良 勲・内山 靖	医歯薬出版	201203
219	978-4-263-21400-8	日常生活活動の分析 身体運動学的アプローチ		藤澤 宏幸	医歯薬出版	201203
220	978-4-263-21401-5	イラストでわかるスペシャルシーティング 姿勢評価アプローチ		上杉 雅之	医歯薬出版	201204
221	978-4-524-26439-1	実践理学療法スーパーバイズマニュアル 写真で学ぶ臨床実習のポイント		新田 收・小林 賢・小山 貴之・小宮山 一樹・三森 由香子	南江堂	201110
222	978-4-525-20921-6	在宅医療の技とこころ リハビリテーションとしての在宅医療		藤井 博之・山口 明・田中 久美子	南山堂	201110
223	978-4-7878-1880-5	PT・OT・ST・ナースを目指す人のための リハビリテーション総論 要点整理と用語解説	改訂第2版	椿原 彰夫	診断と治療社	201111
224	978-4-88117-060-1	症例から学ぶ実践脳卒中リハビリテーション		宮野 佐年・三上 真弘	全日本病院出版会	201111
225	978-4-89590-396-7	PT・OT・STのための脳損傷の回復期リハビリテーション 運動・認知・行動からのアプローチ		森田 秋子	三輪書店	201201
226	978-4-89590-409-4	イメージの科学 リハビリテーションへの応用に向けて		編集:森岡 周・松尾 篤	三輪書店	201205
227	978-4-900637-43-6	実践音声治療マニュアル		城本 修・生井 友紀子/Alison Behrman・John Haskell	インテルナ出版	201204
228	978-4-904613-19-1	オーチスのキネシオロジー 身体運動の力学と病態力学 原著第2版		山﨑 敦・佐藤 俊輔・白星 伸一・藤川 孝満/Carol A. Oatis	ラウンドフラット	201206
229	978-4-260-01498-4	運動器疾患の「なぜ？」がわかる臨床解剖学		工藤 慎太郎	医学書院	201205
230	978-4-521-73428-6	即解こんなときどうする！リハビリテーションスタッフのためのトラブルシュー		高橋 仁美・金子 操・砥上 恵幸	中山書店	201110
231	978-4-904862-00-1	スポーツ外傷・障害に対する術後のリハビリテーション		内山 英司・岩羽 弘志/園部 俊晴・今屋 健・勝木 秀治	運動と医学の出版社	201111
232	978-4-944026-80-7	写真で学ぶ新しいコンセプトによる脳卒中リハビリテーション 自立度向上と介助量軽減のために		青木 信彦/古田 晃・岡田 公男・隠明寺 眞理	メディカルプレス	201110
233	978-4-89013-426-7	リハビリテーションと理学療法エッセンシャル 臨床で役立つ診断と治療		乗松 尋道・豊島 良太/Walter R.Frontera・Julie K.Silver	西村書店	201209
234	978-4-7639-2132-1	高次脳機能障害のための認知リハビリテーション 統合的な神経心理学的アプローチ		尾関 誠・上田 幸彦/McKay Moore Sohlberg・Catherine A.Mateer	協同医書出版社	201204
235	978-4-89590-415-5	ブラッシュアップ理学療法 88の知が生み出す臨床技術		福井 勉	三輪書店	201206
236	978-4-8306-4387-3	筋骨格系理学療法を見直す はじめに技術ありきの現状からどう新展開する		対馬 栄輝	文光堂	201110
237	978-4-7878-1905-5	高次脳機能障害 診断・治療・支援のコツ		橋本 圭司	診断と治療社	201110
238	978-4-8159-1902-3	よくわかる嚥下障害	改訂第3版	藤島 一郎	永井書店	201209
239	978-4-89590-395-0	I・ADL 作業療法の戦略・戦術・技術	第3版	生田 宗博	三輪書店	201201
240	978-4-498-14503-0	小児診療基本手技マニュアル	第2版	市川 光太郎	中外医学社	201204
241	978-4-87055-122-0	子どもの病気 理解と接しかた		岩田 力・近喰 ふじ子	医学出版社	201205
242	978-4-498-14520-7	小児生活習慣病ハンドブック		清水 俊明	中外医学社	201208
243	978-4-260-01475-5	CT・MRI実践の達人		聖路加国際病院放射線科レジデント	医学書院	201207
244	978-4-7809-0849-7	よくわかる脳MRI 画像診断 別冊 KEY BOOK シリーズ	第3版	青木 茂樹・相田 典子・井田 正博・大場 洋	秀潤社	201209
245	978-4-524-26809-2	絵でみる超音波	改訂第3版	長井 裕	南江堂	201206

既存図書のうち専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧

No	ISBN	書籍名/雑誌名	版次	著者	出版社	出版年月
246	978-4-525-20211-8	日本プライマリ・ケア連合学会基本研修ハンドブック		日本プライマリ・ケア連合学会	南山堂	201209
247	978-4-260-01623-0	どうする？家庭医のための”在宅リハ”総合診療ブックス		佐藤 健一	医学書院	201209
248	978-4-87163-456-4	新・病態生理できった内科学 5 血液疾患	第3版	村川 裕二	医学教育出版社	201111
249	978-4-8306-2027-0	この1冊で極める不明熱の診断学 不明熱の不明率を下げるためのガイドブック		野口 善令/横江 正道	文光堂	201206
250	978-4-525-04021-5	The臨床推論 研修医よ、診断のプロをめざそう！		大西 弘高	南山堂	201208
251	978-4-8306-1730-0	息切れの診かた 症例で読み解く呼吸困難の診療		原田 博雅・松尾 汎	文光堂	201208
252	978-4-89590-435-3	関節可動域制限 病態の理解と治療の考え方	第2版	沖田 実	三輪書店	201305
253	978-4-89985-176-9	摂食嚥下ケアがわかる本 食の楽しみをささえるために		松田 暉・野﨑 園子	エピック	201303
254	978-4-8306-0201-6	生理学	改訂18版	真島 英信	文光堂	198608
255	978-4-263-24267-4	カラー写真で学ぶ 実践スポーツ障害のみかた 上肢・体幹編 触診からのアプ		武田 康志・竹内 義享・上村 英記・堀口 忠弘	医歯薬出版	201110
256	978-4-263-24268-1	カラー写真で学ぶ 実践スポーツ障害のみかた 下肢編 触診からのアプローチ		武田 康志・竹内 義享・上村 英記・堀口 忠弘	医歯薬出版	201102
257	978-4-7639-1060-8	理学療法ハンドブック 第1巻 改訂第4版 理学療法ハンドブック 第2巻 改訂第4版 理学療法ハンドブック 第3巻 改訂第4版 理学療法ハンドブック 第4巻 改訂第4版	改訂第4版	編集：細田多穂・柳沢健	協同医書出版社	201002
258	978-4-260-00020-8	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学	第1版	編集：伊藤 元・高橋 正明/シリーズ監修：奈良 勲・鎌倉 矩子	医学書院	201201
259	978-4-260-01223-2	介助にいかすバイオメカニクス	第1版	著：勝平 純司・山本 澄子・江原 義弘・櫻井 愛子・関川 伸哉	医学書院	201105
260	978-4-260-33402-0	もっと！らくらく動作介助マニュアル　寝返りからトランスファーまで	第1版	監修：中村 惠子/著：山本 康稔・佐々木 良	医学書院	200504
261	978-4-260-01498-4	運動器疾患の「なぜ？」がわかる臨床解剖学	第1版	編著：工藤 慎太郎	医学書院	201205
262	978-4-260-01535-6	脳卒中の下肢装具　病態に対応した装具の選択法 第2版	第2版	著：渡邉 英夫	医学書院	201205
263	978-4-260-00568-5	ADLとその周辺　評価・指導・介護の実際 第2版	第2版	編集：伊藤 利之・鎌倉 矩子	医学書院	200806
264	978-4-260-01540-0	学生のための医療概論 第3版 増補版	第3版 増補版	編集：千代 豪明・黒田 研二	医学書院	201201
265	978-4-260-33095-4	新訂 目でみるからだのメカニズム	新訂版	著：堺 章	医学書院	200010
266	978-4-260-01338-3	プロメテウス解剖学アトラス　口腔・頭頸部	第1版	監訳：坂井 建雄・天野 修	医学書院	201203
267	978-4-260-00107-6	イラストでまなぶ生化学	第1版	著：前場 良太	医学書院	200509
268	4-260-33392-5	医療英語マスターシリーズ　ネイティブ感覚でわかる医療動詞	第1版	著：飯田 恭子	医学書院	200503
269	978-4-260-00593-7	今日からはじめられるボダージュ先生の医学英語論文講座	第1版	著：Georges Bordage/訳：大滝 純司・水嶋 春朔・當山 紀子	医学書院	200906
270	978-4-260-00476-3	日本人のための医学英語論文執筆ガイド Thinking in Englishでネイティブレベル	第1版	著：Amanda Tompson・相川 直樹	医学書院	200804
271	978-4-260-00184-7	やさしい医学英語	第1版	編集：青野 淳子・Daniel P Considine	医学書院	200604
272	978-4-260-00560-9	Laboratory medicine　異常値の出るメカニズム 第5版	第5版	編集：河合 忠・屋形 稔・伊藤 喜久	医学書院	200803
273	978-4-260-00370-4	PT・OT・STのための神経学レクチャーノート	第1版	著：森 惟明	医学書院	200612
274	978-4-260-00703-0	PT・OT・STのための脳画像のみかたと神経所見 第2版　CD-ROM付	第2版	著：森 惟明・鶴見 隆正	医学書院	201008
275	978-4-260-00259-2	高次脳機能障害ハンドブック　診断・評価から自立支援まで	第1版	編集：中島 八十一・寺島 彰	医学書院	200610
276	978-4-260-00076-5	呼吸理学療法標準手技	第1版	監修：千住 秀明・眞渕 敏・宮川 哲夫/編集：石川 朗・神津 玲・高橋 哲也	医学書院	200805
277	978-4-260-00628-6	拘縮の予防と治療 第2版	第2版	編集：奈良 勲・浜村 明徳	医学書院	200807
278	978-4-260-00778-8	動画で学ぶ脊髄損傷のリハビリテーション	第1版	編集：田中 宏太佳・園田 茂	医学書院	201005
279	978-4-260-00446-6	義肢装具のチェックポイント 第7版	第7版	監修：日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会	医学書院	200706
280	978-4-260-00342-1	こどものリハビリテーション医学 第2版	第2版	監修：陣内 一保・安藤 徳彦/編集：伊藤 利之・三宅 捷太/小池 純子	医学書院	200803
281	978-4-260-00591-3	老人のリハビリテーション 第7版	第7版	監修：福井 圀彦/著：前田 真治	医学書院	200804

既存図書のうち専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧

No	ISBN	書籍名/雑誌名	版次	著者	出版社	出版年月
282	978-4-260-00644-6	神経心理学コレクション　街を歩く神経心理学	第1版	著:高橋 伸佳	医学書院	200907
283	978-4-260-01238-6	病院早わかり読本 第4版	第4版	編著:飯田 修平	医学書院	201103
284	978-4-260-00946-1	Disease　人類を襲った30の病魔	第1版	著:Mary Dobson/訳:小林 力	医学書院	201001
285	978-4-260-00177-9	臨床老年医学入門 すべてのヘルスケア・プロフェッショナルのために	第1版	監修:日野原 重明/著:道場 信孝	医学書院	200511
286	978-4-260-34215-5	学生のための化学	第1版	著:戸田 年総	医学書院	199601
287	978-4-260-00976-8	人体の構造と機能からみた 病態生理ビジュアルマップ 1 呼吸器疾患/循環器疾患	第1版	編集:佐藤 千史・井上 智子	医学書院	201009
288	978-4-260-00977-5	人体の構造と機能からみた 病態生理ビジュアルマップ 2 消化器疾患	第1版	編集:佐藤 千史・井上 智子	医学書院	201009
289	978-4-260-00978-2	人体の構造と機能からみた 病態生理ビジュアルマップ 3 代謝疾患/内分泌疾患/血液・造血器疾患/腎・泌尿器疾患	第1版	編集:佐藤 千史・井上 智子	医学書院	201101
290	978-4-260-00979-9	人体の構造と機能からみた 病態生理ビジュアルマップ 4 膠原病/自己免疫疾患/感染症/神経・筋疾患/精神疾患	第1版	編集:佐藤 千史・井上 智子	医学書院	201012
291	978-4-260-00980-5	人体の構造と機能からみた 病態生理ビジュアルマップ 5 運動器疾患/皮膚疾患/女性生殖器疾患/眼疾患/耳鼻咽喉疾患	第1版	編集:佐藤 千史・井上 智子	医学書院	201012
292	978-4-260-00956-0	人体の構造と機能 第3版	第3版	著:Elaine Nicpon Marieb/訳:林正 健二・小田切 陽一・武田 多一・淺見 一羊・武田 裕子	医学書院	201003
293	978-4-260-24331-5	脳卒中の運動訓練プログラム	第1版	著:Janet H.Carr・Roberta B.Shepherd/監訳:横山 巖/訳:額谷 一夫・村山 浩一・山本正義	医学書院	199110
294	978-4-263-21395-7	カラー版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版	原著第2版 第2版	原著者:Donald A. Neumann 監訳者:嶋田智明, 有馬慶美	医歯薬出版	201203
295	978-4-263-21401-5	イラストでわかるスペシャルシーティング　姿勢評価アプローチ	第1版	原著:Jean Anne Zollars 監訳:上杉雅之, 成瀬 進	医歯薬出版	201204
296	セット 978-4-263-21340-7 Ⅰ巻 978-4-263-21181-6 Ⅱ巻 978-4-263-21182-3 Ⅲ巻 978-4-263-21183-0	カラー版 カパンジー機能解剖学 Ⅰ 上肢 原著第6版	原著第6版 第2版	著:A. I. Kapandji 訳:塩田 悦仁	医歯薬出版	200605 201001改題
297		カラー版 カパンジー機能解剖学 Ⅱ 下肢 原著第6版	原著第6版 第3版			201004 201004改題
298		カラー版 カパンジー機能解剖学 Ⅲ 脊椎・体幹・頭部 原著第6版	原著第6版 第2版			200801 201001改題
299	978-4-263-21343-8	EBM物理療法 原著第3版	原著第3版 第3版	編著:Michelle H. Cameron/訳:渡部 一郎	医歯薬出版	201003
300	978-4-263-21318-6	エビデンスに基づく理学療法 活用と臨床思考過程の実際	第1版	編:内山 靖	医歯薬出版	200806
301	978-4-263-21403-9	リハビリテーションのための疾患ガイド	第1版	編:水間 正澄・筒井 廣明・橋本 通・川手 信行	医歯薬出版	201206
302	978-4-8306-4376-7	最新物理療法の臨床適応	第1版	編集:庄本 康治	文光堂	201203
303	978-4-8306-0108-8	スタンダード生化学	第1版	編:原 諭吉・太田 英彦	文光堂	200403
304	978-4-8306-1265-7	透析療法実践マニュアル	第1版	編集:多川 斉・杉本 徳一郎	文光堂	199904
305	978-4-8306-2001-3	図解 水・電解質テキスト　一般検査からきわめる診断・治療のアプローチ	第1版	著:深川 雅史・重松 隆・安田 隆	文光堂	200606
306	978-4-8306-5151-9	アスレティックリハビリテーションガイド 競技復帰・再発予防のための実践的アプローチ	第1版	編:福林 徹	文光堂	200805
307	978-4-8306-5135-9	スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド	第1版	編:臨床スポーツ医学編集委員会	文光堂	200305
308	978-4-8306-4306-4	理学療法のとらえかた Clinical Reasoning	第1版	編集:奈良 勲	文光堂	200108
309	978-4-8306-4313-2	理学療法のとらえかた Clinical Reasoning Part2	第1版	編集:奈良 勲	文光堂	200309
310	978-4-8306-4321-8	理学療法のとらえかた Clinical Reasoning Part3	第1版	編集:奈良 勲・内山 靖	文光堂	200504
311	978-4-8306-4335-4	理学療法のとらえかた Clinical Reasoning Part4	第1版	編集:奈良 勲・内山 靖	文光堂	200704

既存図書のうち専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧

No	ISBN	書籍名/雑誌名	版次	著者	出版社	出版年月
312	978-4-8306-4325-5	ケースで学ぶ理学療法臨床思考　臨床推論能力スキルアップ	第1版	編集:嶋田 智明/編集協力:有馬 慶美・武田 貴好	文光堂	200601
313	978-4-8306-4339-2	障害別・ケースで学ぶ理学療法臨床思考　PBLで考え進める	第1版	編集:嶋田 智明/編集協力:有馬 慶美・郷 貴大	文光堂	200711
314	978-4-8306-4350-7	続 障害別・ケースで学ぶ理学療法臨床思考　CBLで考え、学ぶ	第1版	編集:嶋田 智明/編集協力:有馬 慶美・舩山 貴子	文光堂	200905
315	978-4-8306-4336-1	脳卒中に対する標準的理学療法介入 何を考え、どう進めるか？	第1版	編集:潮見 泰藏	文光堂	200705
316	978-4-8306-4387-3	筋骨格系理学療法を見直す　はじめに技術ありきの現状からどう新展開する	第1版	編集:対馬 栄輝	文光堂	201110
317	978-4-8306-4352-1	理学療法プログラムデザイン　ケース別アプローチのポイントと実際	第1版	監修:武富 由雄/編集:市橋 則明	文光堂	200905
318	978-4-8306-4342-2	運動療法学　障害別アプローチの理論と実際	第1版	編集:市橋 則明	文光堂	200802
319	978-4-8306-4384-2	運動療法学各論　高齢者の機能障害に対する運動療法	第1版	編集:市橋 則明	文光堂	201005
320	978-4-8306-4384-2	運動療法学各論　高齢者の機能障害に対する運動療法	第1版	編集:市橋 則明	文光堂	201005
321	978-4-8306-4391-0	臨床実践 動きのとらえかた　何をみるのか その思考と試行	第1版	編集:山岸　茂則	文光堂	201205
322	978-4-904613-02-3	CGで見る筋肉図鑑　筋ナビ ver. 1.01 資格試験対策用クイズ付	－	監修:村上 徹	ラウンドフラット	2009
323	978-4-904613-19-1	オーチスのキネシオロジー　身体運動の力学と病態力学 原著第2版　DVD付	第1版	著:Carol A. Oatis/監訳:山﨑 敦・佐藤 俊輔・白星 伸一・藤川 孝満	ラウンドフラット	201206
324	978-4-525-20871-4	ベッドサイドの高齢者の診かた	第1版	編集:葛谷 雅文・秋下 雅弘	南江堂	200803
325	978-4-8392-3144-6	最新介護福祉全書 第4巻　介護 コミュニケーション技術	第1版	編集:松井 奈美	メヂカルフレンド社	200812
326	4-8079-0564-3	バイオサイエンス化学　生命から学ぶ化学の基礎	第1版	著:新井 孝夫・大森 大二郎・立屋敷 哲・丹羽 治樹	東京化学同人	200303
327	4-87054-115-7	看護＆介護ブックス 寝たきりにさせない看護技術 急性期ベッドサイドから在宅までのリハビリ	第1版	責任編集:長谷川 幹/編集:中島 鈴美	医学芸術社	200106
328	4-7532-1933-X	脳梗塞後遺症の新しい診断・治療指針 急性期・慢性期	第1版	編:亀山 正邦	医薬ジャーナル社	200111
329	978-4-86034-858-8	脳卒中のリハビリテーション	第1版	原著:Paul E. Kaplan・Rene Cailliet・Candia P. Kaplan/訳:齋藤 昭彦	エルゼビア・ジャパン	200809
330	978-4-287-81043-9	レジデント 2011年 10月号 Vol.4 No.10 脳卒中急性期患者へのアプローチ	第1版	医学出版	医学出版	201110
331	978-4-89590-290-8	ポケット版 急性期リハビリテーションマニュアル	第1版	著:聖マリアンナ医科大学病院リハビリテーション部	三輪書店	200712
332	978-4-89590-407-0	リハビリテーション効果を最大限に引き出すコツ 応用行動分析で運動療法とADL訓練は変わる 第2版	第2版	編集:山﨑 裕司・山本 淳一	三輪書店	201205
333	978-4-89590-409-4	イメージの科学　リハビリテーションへの応用に向けて	第1版	編集:森岡 周・松尾 篤	三輪書店	201205
334	978-4-8082-6032-3	イラスト 運動生理学 第4版	第4版	著:朝山 正己・彼末 一之・三木 健寿・今村 裕行・大西 範和・藤原 素子・宮側 敏明・村上 太郎・森 悟・寄本 明	東京教学社	201110
335	978-4-88003-846-9	運動生理学のニューエビデンス	第1版	編集:宮村 実晴	真興交易株式会社医書出版部	201011
336	978-4-901933-24-7	スポーツ・運動生理学概説	第1版	編著:山地 啓司・大築 立志・田中 宏暁	明和出版	201103
337	978-4-434-07569-8	運動生理学の基礎と発展 改訂版	改訂版	編著:春日規克・竹倉宏明	フリースペース	201009
338	978-4-7644-1061-9	日本運動生理学会 運動生理学シリーズ 5　筋力をデザインする	第1版	編:吉岡 利忠・後藤 勝正・石井 直方	杏林書院	200309
339	978-4-931411-65-4	筋機能改善の理学療法とそのメカニズム　理学療法の科学的基礎を求めて	第2版	編集:望月 久・山田 茂	ナップ	200705
340	978-4-521-73168-1	循環器臨床サピア 8　心不全の急性期対応	第1版	責任編集:北風 政史/編集:金 智隆	中山書店	201006
341	978-4-521-73228-2	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト	第1版	総編集:石川 朗/責任編集:玉木 彰	中山書店	201012
342	978-4-521-73227-5	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト	第1版	総編集:石川 朗/責任編集:木村 雅彦	中山書店	201011
343	978-4-521-73225-1	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト	第1版	総編集:石川 朗/責任編集:永冨 史子	中山書店	201103
344	978-4-521-73226-8	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト	第1版	総編集:石川 朗/責任編集:佐竹 將宏	中山書店	201104

既存図書のうち専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧

No	ISBN	書籍名/雑誌名	版次	著者	出版社	出版年月
345	978-4-521-73229-9	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト	第1版	総編集:石川 朗/責任編集:河村 廣幸	中山書店	201109
346	978-4-521-73230-5	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト	第1版	総編集:石川 朗/責任編集:河村 廣幸	中山書店	201111
347	978-4-521-73231-2	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト	第1版	総編集:石川 朗/責任編集:大畑 光司・玉木 彰	中山書店	201112
348	978-4-521-73232-9	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト	第1版	総編集:石川 朗/責任編集:大畑 光司・玉木 彰	中山書店	201203
349	978-4-924547-49-0	福祉住環境コーディネーター検定試験2級 公式テキスト 改訂版	改訂版	編:東京商工会議所	東京商工会議所	201101
350	978-4-903835-41-9	地域医療連携 生き残るための戦略と戦術 vol.1 循環器疾患と医療連携	第1版	講師:田城 孝雄	SCICUS	200901
351	978-4-903835-42-6	地域医療連携 生き残るための戦略と戦術 vol.2 がんと医療連携	第1版	講師:田城 孝雄	SCICUS	200901
352	978-4-903835-43-3	地域医療連携 生き残るための戦略と戦術 vol.3 脳卒中と医療連携	第1版	講師:田城 孝雄	SCICUS	200901
353	978-4-903835-44-0	地域医療連携 生き残るための戦略と戦術 vol.4 糖尿病と医療連携	第1版	講師:田城 孝雄	SCICUS	200901
354	978-4-903835-45-7	地域医療連携 生き残るための戦略と戦術 vol.5 在宅医療と医療連携	第1版	講師:田城 孝雄	SCICUS	200901
355	978-4-903835-46-4	地域医療連携 生き残るための戦略と戦術 vol.6 地域ネットワークの作り方	第1版	講師:田城 孝雄	SCICUS	200901
356	978-4-89632-324-5	病気がみえる Vol.1 消化器 第4版	第4版	編集:医療情報科学研究所	メディックメディア	201004
357	978-4-89632-343-6	病気がみえる Vol.2 循環器 第3版	第3版	編集:医療情報科学研究所	メディックメディア	201008
358	978-4-89632-415-0	病気がみえる Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第3版	第3版	編集:医療情報科学研究所	メディックメディア	201203
359	978-4-89632-211-8	病気がみえる Vol.4 呼吸器	第1版	編集:医療情報科学研究所	メディックメディア	200711
360	978-4-89632-253-8	病気がみえる Vol.5 血液	第1版	編集:医療情報科学研究所	メディックメディア	200811
361	978-4-89632-309-2	病気がみえる Vol.6 免疫・膠原病・感染症	第1版	編集:医療情報科学研究所	メディックメディア	200911
362	978-4-89632-358-0	病気がみえる Vol.7 脳・神経	第1版	編集:医療情報科学研究所	メディックメディア	201103
363	978-4-89632-414-3	病気がみえる Vol.8 腎・泌尿器	第1版	編集:医療情報科学研究所	メディックメディア	201203
364	978-4-89632-261-3	病気がみえる Vol.9 婦人科・乳腺外科 第2版	第2版	編集:医療情報科学研究所	メディックメディア	200904
365	978-4-89632-262-0	病気がみえる Vol.10 産科 第2版	第2版	編集:医療情報科学研究所	メディックメディア	200904
366	978-4-260-11727-2	頭痛・めまい・しびれの臨床 病態生理学的アプローチ		著:植村研一	医学書院	198805
367	978-4-260-00609-5	臨床研究マスターブック		編集:福井次矢	医学書院	200804
368	4-260-24435-3	臨床運動学ワークブック		監訳:辻下守弘/清水ミシェル・アイズマ	医学書院	200501
369	978-4-469-26564-4	最新スポーツ心理学 その軌跡と展望		編:日本スポーツ心理学会	大修館書店	200412
370	978-4-260-00816-7	JJNブックス 絵でみる脳と神経 しくみと障害のメカニズム 第3版	第3版	著:馬場元毅 イラストレーション:馬場テ	医学書院	200902
371	978-4-260-00976-8	人体の構造と機能からみた病態生理ビジュアルマップ 1 呼吸器疾患/循環器疾患		編集:佐藤千史/井上智子	医学書院	201009
372	978-4-260-00977-5	人体の構造と機能からみた病態生理ビジュアルマップ 2 消化器疾患		編集:佐藤千史/井上智子	医学書院	201009
373	978-4-260-00978-2	人体の構造と機能からみた病態生理ビジュアルマップ 3 代謝疾患/内分泌疾患/血液・造血器疾患/腎・泌尿器疾患		編集:佐藤千史/井上智子	医学書院	201101
374	978-4-260-00979-9	人体の構造と機能からみた病態生理ビジュアルマップ 4 膠原病/自己免疫疾患/感染症/神経・筋疾患/精神疾患		編集:佐藤千史/井上智子	医学書院	201012

既存図書のうち専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧

No	ISBN	書籍名/雑誌名	版次	著者	出版社	出版年月
375	978-4-260-00980-5	人体の構造と機能からみた病態生理ビジュアルマップ 5 運動器疾患/皮膚疾患/女性生殖器疾患/眼疾患/耳鼻咽喉疾患		編集:佐藤千史/井上智子	医学書院	201012
376	978-4-260-33043-5	これだけは知っておきたい疾病のなりたち		訳:井上泰	医学書院	200001
377	978-4-260-33251-4	図解知っておきたい病態生理		著:西崎統	医学書院	200212
378	978-4-8306-3733-9	初学者のための わかりやすいMRIの読みかた 正常像と典型例でひもとく入門ガイド		編:町田喜久雄/本田憲業	文光堂	200306
379	978-4-8306-1536-8	筋電図判読テキスト 第2版	第2版	著:廣瀬和彦	文光堂	200710
380	978-4-8306-3032-3	Visual Series　目でみる小児救急		編集:五十嵐隆	文光堂	200901
381	978-4-8306-1721-8	肺機能テキスト 第2版	第2版	著:毛利昌史/工藤翔二/久田哲哉	文光堂	200305
382	978-4-263-44247-0	摂食・嚥下リハビリテーション 第2版	第2版	監修:才藤栄一/向井美惠　編集:鎌倉や	医歯薬出版株式会社	200709
383	978-4-7644-0068-9	歩行のニューロリハビリテーション　歩行の再獲得をめざした理論と臨床		著:中澤公孝	杏林書院	201008
384	978-4-931199-37-8	一事例の実験デザイン　ケーススタディの基本と応用　改版	改版	著:D. H. バーロー(David H. Barlow)/M.	二瓶社	199308
385	978-4-431-70983-1	スイスボール　理論と実技, 基礎から応用まで		著:B. カリエール　監訳:富田昌夫　訳:[illegible]	m、v4	200303
386	978-4-263-21532-6	ボディタイナミクス入門 : 歩き始めと歩行の分析		著:江原義弘/山本澄子	医歯薬出版株式会社	200210
387	978-4-263-21533-3	ボディタイナミクス入門 : 片麻痺者の歩行と短下肢装具		著:山本澄子/江原義弘/萩原章由/溝部	医歯薬出版株式会社	200503
388	4-260-24423-X	療育マニュアル		編集:落合靖男	医学書院	200401
389	978-4-263-21170-0	PT・OT基礎から学ぶ : 解剖学ノート解答集付 第2版	第2版	編:中島雅美	医歯薬出版株式会社	200503
390	978-4-263-21170-0	PT・OT基礎から学ぶ : 解剖学ノート解答集付 第2版	第2版	編:中島雅美	医歯薬出版株式会社	200503
391	978-4-263-21118-2	PT・OT基礎から学ぶ 生理学ノート 解答集付		編:中島雅美	医歯薬出版株式会社	200108
392	978-4-263-21138-0	PT・OT基礎から学ぶ 運動学ノート 解答集付		編:中島雅美/中島喜代彦	医歯薬出版株式会社	200207
393	978-4-263-21930-0	PT・OT基礎から学ぶ 病理学ノート 解答集付		編:中島雅美/野口敦　編集協力:神原武	医歯薬出版株式会社	200402
394	978-4-263-21151-9	PT・OT基礎から学ぶ 内科学ノート 解答集付		編:中島雅美/松本貴子　編集協力:中島	医歯薬出版株式会社	200311
395	4-263-21293-2	PT・OT基礎から学ぶ 精神医学ノート 解答集付		編:中島雅美/松本貴子　編集協力:富田	医歯薬出版株式会社	200603
396	978-4-263-21323-0	PT・OT基礎から学ぶ 神経内科学ノート 解答集付		編:中島雅美/奥村哲生　編集協力:中島	医歯薬出版株式会社	200810
397	978-4-7639-1064-6	治療的音楽活動のススメ		著:山崎郁子	協同医書出版社	201109
398	978-4-260-24433-6	脳卒中の運動療法 エビデンスに基づく機能回復トレーニン		訳:潮見泰藏/齊藤昭彦　原著:Janet H.	医学書院	200410
399	978-4-524-24316-7	まんが呼吸理学療法の第一歩　集中治療における呼吸管理　改定第2版	改定第2版	監修:並木昭義　共著:石川朗/松本真希	南江堂	200707
400	978-4-521-73157-5	マンガでわかる生理学		著:小山富康	中山書店	200909
401	978-4-88117-040-3	多関節運動連鎖からみた変形性関節症の保存療法　刷新的理学療法		編集:井原秀俊/加藤浩/木藤伸宏	全日本病院出版会	2008005
402	978-4-260-00703-0	PTOTのための脳画像のみかたと神経所見　第2版	第2版	著:森惟明/鶴見隆正	医学書院	201008
403	978-4-431-10034-8	SJF関節ファシリテーション		編:宇都宮初夫	シュプリンガージャパン	200811
404	978-4-524-24259-7	運動器リハビリテーションクルズス　スペシャリストを目指す人のために		編集:岩谷力/黒澤尚/江藤文夫/赤居正	南江堂	200808
405	978-4-524-26075-1	運動器リハビリテーションシラバス　セラピストのための実践マニュアル 改定第2版	改定第2版	監修:日本運動器リハビリテーション学会	南江堂	201006
406	978-4-931411-74-6	Sports Physical Therapy Seminar Series 1 ACL損傷予防プログラムの科学的基礎		監修:福林徹/蒲田和芳　編集:渡邊裕之	ナップ	200805
407	978-4-7583-1107-6	リハ実践テクニック　関節リウマチ		編集:八木範彦/西林保朗	メジカルビュー	200902
408	978-4-260-00628-6	拘縮の予防と治療　第2版	第2版	編集:奈良勲/浜村明徳	医学書院	200807
409	978-4-8306-4338-5	図解理学療法技術ガイド　理学療法臨床の場で必ず役立つ実践のすべて 第3版	第3版	編集主幹:石川齊/武富由雄　編集委員	文光堂	200709

既存図書のうち専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧

No	ISBN	書籍名/雑誌名	版次	著者	出版社	出版年月
410	978-4-89592-627-0	ハリソン内科学 1 第3版	第3版	日本語版監修:福井次矢/黒川清 編:A	メディカル・サイエンス・インターナ	200912
411		ハリソン内科学 2 第3版				
412	978-4-498-00037-7	イラスト解剖学 第7版	第7版	著:松村譲兒	中外医学社	201103
413	978-4-307-75025-7	理学療法評価学 改定第3版	改定第3版	著:松澤正	金原出版株式会社	201103
414	978-4-263-21589-0	理学療法士・作業療法士 国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学	第4版	編:医歯薬出版	医歯薬出版株式会社	201107
415	978-4-263-21457-2	第42-46回理学療法士・作業療法士国家試験問題 解答と解説 2012 第21版	第21版	編:医歯薬出版	医歯薬出版株式会社	201107
416	978-4-7809-1033-9	リハビリテーションビジュアルブック		監修:落合慈之 編集:稲川利光	学研メディカル秀潤社/学研マーケティング	201104
417	978-4-7809-1014-8	腎・泌尿器疾患ビジュアルブック		監修:落合慈之 編集:渋谷祐子/亀山周	学研メディカル秀潤社/学研マーケティング	201010
418	978-4-7809-1015-5	糖尿病・代謝・栄養疾患ビジュアルブック		監修:落合慈之 編集:林道夫/渋谷祐子	学研メディカル秀潤社/学研マーケティング	201009
419	978-4-7809-1003-2	循環器疾患ビジュアルブック		監修:落合慈之 編集:大西哲/田鎖治/	学研メディカル秀潤社/学研マーケティング	201002
420	978-4-7809-1009-4	脳神経疾患ビジュアルブック		監修:落合慈之 編集:森田明夫/吉澤和	学研メディカル秀潤社/学研マーケティング	200911
421	978-4-05-153019-8	消化器疾患ビジュアルブック		監修:落合慈之 編集:小西敏郎/松橋信	学研メディカル秀潤社/学研マーケティング	200905
422	978-4-86243-194-3	健康・保健シリーズ 子どもの発達と支援 vol.1 運動機能の発達		原案監修:松村京子 制作著:医学映像	医学映像教育センター	2005
423	978-4-86243-195-0	健康・保健シリーズ 子どもの発達と支援 vol.2 情動の発達		原案監修:松村京子 制作著:医学映像	医学映像教育センター	2005
424	978-4-86243-196-7	健康・保健シリーズ 子どもの発達と支援 vol.3 社会性の発		原案監修:松村京子 制作著:医学映像	医学映像教育センター	2005
425	978-4-86243-197-4	健康・保健シリーズ 子どもの発達と支援 vol.4 ことばの発		原案監修:松村京子 制作著:医学映像	医学映像教育センター	2005
426	978-4-86243-198-1	健康・保健シリーズ 子どもの発達と支援 vol.5 認知・思考の発達		原案監修:松村京子 制作著:医学映像	医学映像教育センター	2005
427	978-4-86243-189-9	ダウン症児のめざめ vol.1 運動・感覚の発達援助		原案監修:安藤忠 制作著:医学映像教	医学映像教育センター	2002
428	978-4-86243-190-5	ダウン症児のめざめ vol.2 ことばと情緒の発達運動		原案監修:大貝茂 制作著:医学映像教	医学映像教育センター	2002
429	978-4-86243-191-2	ダウン症児のめざめ vol.3 日常生活動作の発達援助		原案監修:安藤忠 制作著:医学映像教	医学映像教育センター	2003
430	978-4-86243-192-9	ダウン症児のめざめ vol.4 コミュニケーション機能の発達援助		総監修:安藤忠 監修:大貝茂 原案:細	医学映像教育センター	2005
431	978-4-86243-193-6	プレヒテル教授の早期乳児の神経機能評価法 診断的手段としてのGeneral Movements Spontaneous Motor Activity as a Diagnostic Tool 日本語版		著:Heinz F. R. Prechtl 日本語版監修・	医学映像教育センター	2002
432	978-4-86243-400-5	健康・保健シリーズ 目で見る運動生理学 vol.1 神経・骨格筋系の科学 第2版	第2版	原案監修:川上泰雄	医学映像教育センター	2011
433	978-4-86243-401-2	健康・保健シリーズ 目で見る運動生理学 vol.2 呼吸・循環器系の科学 第2版	第2版	原案監修:宮地元彦	医学映像教育センター	2010
434	978-4-86243-402-9	健康・保健シリーズ 目で見る運動生理学 vol.3 ホメオスタシスの科学 第2版	第2版	原案監修:永島計	医学映像教育センター	2010

既存図書のうち専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧

No	ISBN	書籍名/雑誌名	版次	著者	出版社	出版年月
435	978-4-86243-403-6	健康・保健シリーズ 目で見る運動生理学 vol.4　栄養・エネルギーの科学　第2版	第2版	原案監修:樋口満	医学映像教育センター	2011
436	978-4-86243-404-3	健康・保健シリーズ 目で見る運動生理学 vol.5　トレーニングの科学　第2版	第2版	原案監修:内藤久士	医学映像教育センター	2011
437	978-4-86243-405-0	健康・保健シリーズ 目で見る運動生理学 vol.6　スポーツ医学　健康の維持・増進、生活習慣病と運動　第2版	第2版	原案監修:石田浩之	医学映像教育センター	2010
438		基礎医学ビデオシリーズ リハビリテーション医学 vol.1　脳卒中のリハビリテーション 急性期		原案監修:宮野佐年　総監修:米本恭三	医学映像教育センター	1997
439		基礎医学ビデオシリーズ リハビリテーション医学 vol.6　脊髄損傷		原案監修:安藤徳彦　総監修:米本恭三	医学映像教育センター	1998
440		基礎医学ビデオシリーズ リハビリテーション医学 vol.7　神経・筋疾患		原案監修:眞野行生　総監修:米本恭三	医学映像教育センター	1998
441	978-4-524-25398-2	理学療法スーパーバイズマニュアル 臨床実習生・新人理学療法士指導のために		編集:新田收・小林賢・小山貴之	南江堂	201006
442	4-501-32180-6 978-4-501-32180-2	バイオメカニズム・ライブラリー 生体情報工学		編:バイオメカニズム学会　著:赤澤堅造	東京電機大学出版局	200104
443	978-4-501-32700-2	バイオメカニズム・ライブラリー 生体のふるえと振動知覚　メカニカルバイブレーションの機能評価		編:バイオメカニズム学会　著:坂本和義,清水豊,水戸和幸,高野倉雅人	東京電機大学出版局	200905
444	4-501-32540-2 978-4-501-32540-4	バイオメカニズム・ライブラリー 人体を測る　寸法・形状・運動		編:バイオメカニズム学会　著:持丸正明・河内まき子	東京電機大学出版局	200611
445	4-501-32510-0 978-4-501-32510-7	バイオメカニズム・ライブラリー 表面筋電図		編:バイオメカニズム学会　著:木塚朝博,増田正,木竜徹,佐渡山亜兵	東京電機大学出版局	200603
446	978-4-7639-1056-1	理学療法ハンドブック 第1巻　改訂第4版	改訂第4版	編集:細田多穂・柳沢健	協同医書出版社	201002
447	978-4-7639-1057-8	理学療法ハンドブック 第2巻　改訂第4版	改訂第4版	編集:細田多穂・柳沢健	協同医書出版社	201002
448	978-4-7639-1058-5	理学療法ハンドブック 第3巻　改訂第4版	改訂第4版	編集:細田多穂・柳沢健	協同医書出版社	201002
449	978-4-7639-1059-2	理学療法ハンドブック 第4巻　改訂第4版	改訂第4版	編集:細田多穂・柳沢健	協同医書出版社	201002
450	978-4-89590-313-4	〈PT・OTのための測定評価DVD series〉3　MMT　頭部・頚部・上肢		監修:福田修 編:伊藤俊一,仙石泰仁	三輪書店	200810
451	978-4-89590-314-1	〈PT・OTのための測定評価DVD series〉4　MMT　体幹・下肢		監修:福田修 編:伊藤俊一,仙石泰仁	三輪書店	200810
452	978-4-263-21287-5	筋骨格系のキネシオロジー		原著:Donald A.Neumann 監訳:嶋田智明,平田総一郎	医歯薬出版	200506
453	978-4-263-21346-9	基礎バイオメカニクス		著:山本澄子,石井慎一郎,江原義弘	医歯薬出版	201004
454	978-4-8306-4380-4	理学療法士のための6ステップ式臨床動作分析マニュアル　第2版	第2版	編:黒川幸雄,大西秀明,小林量作,佐藤成登志	文光堂	201004
455	978-4-7583-0664-5	運動療法のための 機能解剖学的触診技術 下肢・体幹		監修:青木隆明 著:林典雄	メジカルビュー社	200603
456	978-4-591-05190-0	人体絵本 めくってわかる　からだのしくみ		作:ジュリアーノ・フォルナーリ 訳:加藤季子	ポプラ社	199704
457	978-4-469-26421-0	目でみる動きの解剖学　スポーツにおける運動と身体のメカニズム　新装版	新装版	著:ロルフ・ヴィルヘード 訳:金子公宥,松本迪子	大修館書店	199904
458	978-4-89013-305-5	カラー人体解剖学 構造と機能 ミクロからマクロまで		著:F.H.マティーニ,M.J.ティモンズ,M.P.マッキンリ 監訳:井上貴央 訳:新井良	西村書店	200304
459	978-4-89592-555-6	臨床のための解剖学		著:Keith L.Moore(キース・L.ムーア),Arthur F.Dalley(アーサー・F.ディリー) 監訳:佐藤達夫,坂井建雄	メディカル・サイエンス・インターナショナル	200804
460	978-4-7583-0683-6	関節機能解剖学に基づく 整形外科運動療法ナビゲーション　下肢・体幹		編:整形外科リハビリテーション学会	メジカルビュー社	200809
461	978-4-86034-847-2	グレイ解剖学 原著第1版 Anatomy for Students		原著:Richard L.Drake,Wayne Vogl,Adam W.M.Mitchell 訳:塩田浩平,瀬口春道,大谷浩,杉本哲夫	エルゼビアジャパン	200709
462	978-4-15-320002-9	ハヤカワ新書juice 002 ミラーニューロンの発見 「物まね細胞」が明かす驚きの脳科学		著:マルコ・イアコボーニ 訳:塩原通緒	早川書房	200905
463	978-4-260-33095-4	目でみるからだのメカニズム　新訂	新訂	著:堺章	医学書院	200010

既存図書のうち専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧

No	ISBN	書籍名/雑誌名	版次	著者	出版社	出版年月
464	978-4-89592-605-8	ウエスト 呼吸生理学入門 正常肺編 Respiratory Physiology THE ESSENTIALS Eight Edition		著:John B.West(ｼﾞｮﾝ B.ｳｴｽﾄ) 訳:桑平一郎	メディカルサイエンスインターナショナル	200905
465	978-4-89592-606-5	ウエスト 呼吸生理学入門 疾患肺編 Pulmonary Physiology THE ESSENTIALS Seventh Edition		著:John B.West(ｼﾞｮﾝ B.ｳｴｽﾄ) 訳:堀江孝至	メディカルサイエンスインターナショナル	200905
466	978-4-260-00061-1	神経病理インデックス		著:新井信隆	医学書院	200509
467	978-4-9900940-2-7	神経内科のスピード学習と専門医学習 第2版 改訂版	第2版 改訂版	著:泉義雄,五十棲一男	医薬出版	200702
468	978-4-621-07936-2	ルービンカラー病理学Q&A		著:Bruce A.Fenderson,Raphael Rubin,Emanuel Rubin 監訳:坂本穆彦 訳:井野辺恵,井村穣二 他	丸善	200801
469	978-4-89013-353-6	カラー ルービン病理学 臨床医学への基盤		編:エマニュエル・ルービン 監訳:鈴木利光,中村栄男,深山正久,山川光徳,吉	西村書店	200711
470	978-4-87962-280-8	『画像診断』別冊KEY BOOKｼﾘｰｽﾞ よくわかる脳MRI 新版	新版	編著:青木茂樹,相田典子,井田正博,大場洋	学研メディカル秀潤社	200410
471	978-4-89592-550-1	CT/MRI画像解剖ポケットアトラス 第1巻 頭部・頸部 第3版	第3版	著:Torsten B.Moeller(ﾄﾙｽﾃﾝ・B.ﾒｰﾗｰ),Emil Reif(ｴﾐｰﾙ・ﾚｲﾌ) 監訳:町田徹 訳:小久保宇	メディカルサイエンス・インターナショナル	200803
472	978-4-87962-373-7	所見からせまる脳MRI 新版	新版	編著:土屋一洋,青木茂樹,大場洋,下野太郎	学研メディカル秀潤社	200810
473	978-4-89592-552-5	CT/MRI画像解剖ポケットアトラス 第3巻 脊椎・四肢・関節 第3版	第3版	著:Torsten B.Moeller(ﾄﾙｽﾃﾝ・B.ﾒｰﾗｰ),Emil Reif(ｴﾐｰﾙ・ﾚｲﾌ) 監訳:町田徹 訳:小林有香	メディカルサイエンスインターナショナル	200803
474	978-4-89592-599-0	脳脊髄のMRI 第2版	第2版	編:細矢貴亮,宮坂和男,佐々木真理,百島祐貴	メディカルサイエンスインターナショナル	200904
475	978-4-89592-469-6	関節のMRI		編:福田国彦,杉本英治,上谷雅孝,江原茂	メディカルサイエンスインターナショナル	200704
476	978-4-89592-554-9	腹部のMRI 第2版	第2版	編:荒木力	メディカルサイエンスインターナショナル	200804
477	978-4-89592-359-0	胸部のCT 第2版	第2版	編:村田喜代史,上甲剛,池添潤平	メディカルサイエンスインターナショナル	200403
478	978-4-89592-298-2	頭頸部のCT・MRI		編:多田信平,黒崎喜久	メディカルサイエンスインターナショナル	200203
479	978-4-7583-0835-9	これだけおさえれば大丈夫 4 骨軟部画像診断の勘ドコロ		監修:高橋雅士 編:佐志隆士	メジカルビュー社	200604
480	978-4-8306-4336-1	脳卒中に対する標準的理学療法介入 何を考え、どう進めるか？		編:潮見泰藏	文光堂	200705
481	978-4-260-00749-8	アナトミー・トレイン 徒手運動療法のための筋筋膜経線		著:Thomas W.Myers(ﾄｰﾏｽ・W.ﾏｲﾔｰｽ) 訳:松下松雄	医学書院	200901
482	978-4-8306-4366-8	実践MOOK・理学療法プラクティス 肩関節運動機能障害 何を考え、どう対処するか		編:嶋田智明,大峯三郎,立花孝	文光堂	200905
483	978-4-8058-2580-8	移動・移乗の知識と技術 援助者の腰痛予防と患者の活動性の向上を目指して		著:Per Halvor Lunde(ﾍﾟﾔ・ﾊﾙｳﾞｫｰﾙ・ﾙﾝﾃﾞ) 監訳:中山幸代,幅田智也 訳:和子・マイヤー	中央法規出版	200505
484	978-4-8306-4361-3	実践MOOK・理学療法プラクティス これだけは知っておきたい 脳卒中の障害・病態とその理学療法アプローチ		編:嶋田智明,大峯三郎	文光堂	200805
485	978-4-263-21336-0	脳卒中最前線 急性期の診断からリハビリテーションまで 第4版	第4版	編:福井圀彦,藤田勉,宮坂元麿	医歯薬出版	200909
486	978-4-431-71078-3	ステップス・トゥ・フォロー 改訂第2版	改訂第2版	著:Patricia M.Davies(P.M.ﾃﾞｰﾋﾞｽ) 監訳:冨田昌夫 訳:額谷一夫	シュプリンガー・ジャパン株式会社	200508
487	978-4-414-80203-0	作業療法士・理学療法士 臨床実習ガイドブック		編著:京極真,鈴木憲雄	誠信書房	200902

既存図書のうち専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧

No	ISBN	書籍名/雑誌名	版次	著者	出版社	出版年月
488	978-4-524-25054-7	誰でもわかる動作分析　私もこれで理解できました		著:小島正義	南江堂	200808
489	978-4-524-26256-4	誰でもわかる動作分析Ⅱ　これでますます理解できました		監修:村井貞夫 編著:小島正義	南江堂	201006
490	978-4-8306-4353-8	理学療法士臨床判断フローチャート		編:松尾善美 監修:奈良勲	文光堂	200905
491	978-4-7965-2072-0 4-7965-2072-4	呼吸リハビリテーションマニュアル　運動療法		編:日本呼吸管理学会呼吸リハビリテーションガイドライン作成委員会,日本呼吸器学会ガイドライン施行管理委員会,日本理学療法士協会呼吸リハビリテーションガイドライン作成委員会	照林社	200307
492	978-4-05-152341-1 4-05-152341-1	呼吸リハビリテーション　基礎概念と呼吸介助手技		著:黒澤一,佐野裕子	学習研究社	200607
493	978-4-521-73055-4	動画でわかる呼吸リハビリテーション	第2版	編:高橋仁美,宮川哲夫,塩谷隆信	中山書店	200809
494	978-4-260-00076-5	呼吸理学療法標準手技		監修:千住秀明,眞渕敏,宮川哲夫 編:石川朗,神津玲,高橋哲也	医学書院	200805
495	978-4-524-24749-3	DVDで学ぶ呼吸理学療法テクニック 呼吸と手技のタイミングがわかる動画		編:玉木彰	南江堂	200806
496	978-4-431-10058-4	クラインフォーゲルバッハのリハビリテーション　機能的運動療法 基礎編		著:S.Klein-Vogelbach(S.ｸﾗｲﾝﾌｫｰｹﾞﾙﾊﾞｯﾊ),B.Suppe(B.ｽﾞｯﾍﾟｰ) 編:I.Spirgi-Gantert(I.ｼｭﾌﾟﾙｷﾞｰｶﾞﾝﾃﾙﾄ),B.Suppe(B.ｽﾞｯﾍﾟｰ) 訳:野澤絵奈	シュプリンガー・ジャパン株式会社	200907
497	978-4-431-71309-8	クラインフォーゲルバッハのリハビリテーション　機能的運動療法　治療テクニック編		著:S.Klein-Vogelbach(S.ｸﾗｲﾝﾌｫｰｹﾞﾙﾊﾞｯﾊ),G.Mohr(G.ﾓｱｰ),I.Spirgi-Gantert(I.ｼｭﾌﾟﾙｷﾞｰｶﾞﾝﾃﾙﾄ),R.Stuvermann(R.ｽﾁｭｰﾌｧﾏﾝ) 編:I.Spirgi-Gantert(I.ｼｭﾌﾟﾙｷﾞｰｶﾞﾝﾃﾙﾄ),B.Suppe(B.ｽﾞｯﾍﾟｰ) 訳:野澤絵奈	シュプリンガー・ジャパン株式会社	200708
498	978-4-501-41480-1 4-501-41480-4	看護動作を助ける　基礎人間工学		著:小川鑛一	東京電機大学出版局	199903
499	978-4-7583-0682-9	関節機能解剖学に基づく 整形外科運動療法ナビゲーション 上肢		編:整形外科リハビリテーション学会 編集委員:林典雄,浅野昭裕,岸田敏嗣,鵜飼建志	メジカルビュー社	200804
500	978-4-7583-0683-6	関節機能解剖学に基づく 整形外科運動療法ナビゲーション 下肢・体幹		編:整形外科リハビリテーション学会 編集委員:林典雄,浅野昭裕,岸田敏嗣,鵜飼建志	メジカルビュー社	200809
501	978-4-902249-15-6	活動分析アプローチ　中枢神経系障害の評価と治療		編:山本伸一,伊藤克浩,小菅久美子,高橋栄子	青海社	200506
502	978-4-260-00799-3	神経診断学を学ぶ人のために		著:柴崎浩	医学書院	200910
503	978-4-260-00895-2	神経伝導検査と筋電図を学ぶ人のために　第2版	第2版	著:木村淳,幸原伸夫	医学書院	201005
504	978-4-8404-2888-0	動画でわかる 関節運動療法		監修:河井秀夫 編:矢田定明	メディカ出版	200903
505	978-4-87502-423-1	脳と心を癒す　音楽運動療法入門		著:野田燎	工作舎	200911
506	978-4-260-01033-7	片麻痺回復のための運動療法　促通反復療法「川平法」の理論と実際　第2	第2版	著:川平和美	医学書院	201005
507	978-4-263-21861-7	リハビリテーションにおける評価法ハンドブック　障害や健康の測り方		編著:赤居正美	医歯薬出版	200909
508	978-4-7639-1017-2 4-7639-1017-5	理学療法のための臨床問題解決法　ブレイクスルーと理学療法診断に向けて		著:和島英明	協同医書出版社	199710
509	978-4-8306-4383-5	理学療法臨床診断学への志向 ARIMAの問題解決モデル		著:有馬慶美	文光堂	201004
510	978-4-8306-4354-5	理学療法臨床実習サブノート		著:加藤勝行 監修:丸山仁司	文光堂	200907
511	978-4-260-12707-3	臨床のためのEBM入門　決定版JAMAユーザーズガイド		編:Gordon Guyatt,Drummond Rennie 監訳:古川壽亮,山崎力　訳:古川壽亮,小出大介,林同文,大川康宏,中野有美,山崎力,竹内浩,岸本和幸,奥田幸子,前田貴生,渡辺範雄,金井高広,小嶋雅代	医学書院	200308
512	978-4-263-21311-7	日常生活活動のキネシオロジー　運動学実習マニュアル付　第2版	第2版	原著:David Paul Greene,Susan L.Roberts 監訳:嶋田智明	医歯薬出版	200803
513	978-4-263-21344-5	日常生活活動(ADL)　評価と支援の実際　新版	新版	編:伊藤利之,江藤文夫　編集協力:中村春基,宮永敬市	医歯薬出版	201004
514	978-4-8306-4359-0	図解理学療法検査・測定ガイド　第2版	第2版	編:奈良勲,内山靖	文光堂	200911
515	978-4-263-21072-7	理学療法・作業療法のための神経生理学プログラム演習 第2巻 運動発達と反射　反射検査の手技と評		著:Marylou R.Barnes,Carolyn A.Crutchfield,Carolyn B.Heriza 監訳:真野行生 訳:愛知理学療法士中枢神経	医歯薬出版	198301
516	978-4-431-70615-1	ライト・イン・ザ・ミドル 成人片麻痺の選択的な体幹活動		著:Patricia.M.Davies(P.M.ﾃﾞｰﾋﾞｽ) 監訳:冨田昌夫 訳:額谷一夫	シュプリンガー・ジャパン株式会社	199109
517	4-900943-66-5	症例報告の書き方　臨床家のためのハウ・ツー・マニュアル　第2版	第2版	監訳:丸山仁司 企画:理学療法科学学会 著:American Physical Therapy Association	アイペック	200609

既存図書のうち専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧

No	ISBN	書籍名/雑誌名	版次	著者	出版社	出版年月
518	978-4-86415-001-9-C3047	Physical Therapy for Shoulder Disorders 肩関節疾患と理学療法		編集:関西理学療法学会 監修:鈴木俊明,三浦雄一郎,森原徹,渡邊裕文 共著:後藤淳,大工谷新一 他	アイペック	200912
519	4-900943-79-7-C3047	The Electromyography Research for Physical Therapy and Acupuncture 理学療法・鍼灸治療における筋電図研究のすべて		編集:関西理学療法学会 監修:藤原哲司,鈴木俊明,大工谷新一,渡邊裕文,三浦雄一郎,谷万喜子 共著:赤松圭介,伊藤正憲 他	アイペック	200712
520	978-4-900943-91-9-C3047	Physical Therapy for Parkinson Disease パーキンソン病と理学療法		編集:関西理学療法学会 監修:鈴木俊明,後藤淳,渡邊裕文,嘉戸直樹 共著:赤松圭介,石濱崇史 他	アイペック	200812
521	978-4-86243-201-8	赤ちゃんの一年 姿勢と運動の発達 前編 0-6カ月		制作著作:家森百合子,鈴木順子,弓削マリ子	医学映像教育センター	2001
522	978-4-86243-202-5	赤ちゃんの一年 姿勢と運動の発達 後編 7カ月以降		制作著作:家森百合子,鈴木順子,弓削マリ子	医学映像教育センター	2002
523	978-4-915814-27-3	理学療法テキスト Ⅰ 理学療法学概論 第3版	第3版	監修:千住秀明 編:田原弘幸,高橋精一郎	神陵文庫	201001
524	978-4-915814-26-6	理学療法テキスト Ⅳ 中枢神経疾患の理学療法 第2版	第2版	監修:千住秀明 編:山本総勝	神陵文庫	200909
525	978-4-915814-24-2	理学療法テキスト Ⅸ 物理療法 第2版	第2版	監修:千住秀明 編:沖田実	神陵文庫	201003
526	978-4-915814-28-0	機能障害科学入門		監修:千住秀明 編集:沖田実,松原貴子,森岡周	神陵文庫	201005
527	978-0-262-01341-3	The Cognitive Neurosciences 4th Edition	4th Edition	編集:Michael S. Gazzaniga, 他	The MIT Press	2009
528	(13) 978-1-4511-0911-5 (10) 1-4511-0911-3	DeLisa's Physical Medicine and Rehabilitation Principles and Practice Volume I International Edition 5th Edition	5th Edition	著:Joel A. DeLisa 編集:Walter R Frontera	Lippincott Williams & Wilkins	201011
529	(13) 978-1-4511-0911-5 (10) 1-4511-0911-3	DeLisa's Physical Medicine and Rehabilitation Principles and Practice Volume II International Edition 5th Edition	5th Edition	著:Joel A. DeLisa 編集:Walter R Frontera	Lippincott Williams & Wilkins	201011
530	978-0-07-159030-3 0-07-159030-7	JAMA evidence JAMA & ARCHIVES JOURNALS The Rational Clinical Examination : Evidence-Based Clinical Diagnosis		著:David L.Simel,Drummond Rennie,Sheri A.Keitz	McGraw-Hill Professional	200808
531	4-89706-441-4	臨床研修イラストレイテッド 1		奈良信雄	羊土社	200404
532	4-939091-85-6	温泉療養学		民間活力開発機構	民間活力開発機構	200609
533	4-8306-4317-X	図解理学療法技術ガイド アドバンス版		細田多穂、中山彰一	文光堂	200501
534	4-8306-4326-9	図解理学療法検査・測定ガイド		奈良勲、内山靖	文光堂	200603
535	4-8306-5135-0	スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド	新版	臨床スポーツ医学編集委員会	文光堂	200305
536	4-8306-4314-5	脊・関節系理学療法クイックリファレンス		岡西哲夫、岡田誠	文光堂	200309
537	4-8306-4318-8	セラピストのための運動学習ABC		大橋ゆかり	文光堂	200409
538	4-8306-4320-X	理学療法士・作業療法士のための 急性期リハビリテーションハンドブック チーム医療で必要なクリニカルポイント		Jaime C. Paz、Michele P. West、	文光堂	200505
539	4-8306-4312-9	理学療法士プロフェッショナル・ガイド 臨床の現場で役立つマネジメントのす		細田多穂	文光堂	200305
540	4-8306-4322-6	練達PTタケトミのからだの動きの診かたポイントとコツ 実践理学療法評価		武富由雄	文光堂	200505
541	4-8306-4325-0	ケースで学ぶ理学療法臨床思考 臨床推論能力スキルアップ		嶋田智明	文光堂	200601
542	4-8306-4335-8	理学療法のとらえかた Clinical reasoning Part4		奈良勲、内山靖	文光堂	200704
543	4-8306-4331-5	評価から治療手技の選択 考える理学療法 中枢神経疾患編		丸山仁司、竹井仁、黒沢和生	文光堂	200610
544	4-8306-4315-3	評価から治療手技の選択 考える理学療法		丸山仁司	文光堂	200405
545	4-8306-4334-X	脳卒中・片麻痺理学療法マニュアル		長沢弘	文光堂	200703
546	4-8306-4321-8	理学療法のとらえかた Clinical reasoning Part3		奈良勲	文光堂	200504
547	4-8306-4306-4	理学療法のとらえかた Clinical reasoning		奈良勲	文光堂	200108
548	4-8306-4313-7	理学療法のとらえかた Clinical reasoning Part2		奈良勲	文光堂	200309
549	4-8306-4310-2	神経系理学療法実践マニュアル		内山靖、臼田滋、潮見泰蔵	文光堂	200305
550	4-8306-4316-1	内部障害系理学療法実践マニュアル		丸山仁司	文光堂	200405

既存図書のうち専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧

No	ISBN	書籍名/雑誌名	版次	著者	出版社	出版年月
551	4-8306-4308-0	理学療法士のための運動処方マニュアル		奈良勲	文光堂	200209
552	4-8301-0964-5	温泉考　訓解		原双桂、小笠原真澄、小笠原春夫	文化書房博文社	200202
553	4-8293-0423-5	筋機能調整療法　高次保健介護のための東西共生医学		無敵剛介、吉富賢一	不昧堂出版	200401
554	4-915962-36-9	頭寒足熱　ほのぼの元気！！		日本流通産業新聞社	日本流通産業新聞社	200609
555	4-535-56131-1	エビデンスベイスト心理治療マニュアル		V. B. V. ハッセル、M. ハーセン、坂野	日本評論社	200011
556	4-7792-0003-2	酸素療法ガイドライン		日本呼吸器学会肺生理専門委員会、日	日本呼吸器学会	200607
557	4-7849-6013-9	運動療法ガイド　正しい運動処方を求めて	改訂4	井上一、武藤芳照、福田澗	日本医事新報社	200608
558	4-307-25135-0	運動療法学		柳沢健	金原出版	200605
559	4-7849-6172-0	転倒予防教室　転倒予防への医学的対応		武藤芳照	日本医事新報社	200212
560	4-7849-5352-3	在宅呼吸ケアのデザイン		木田厚瑞	日本医事新報社	200104
561	4-7849-6051-1	発症部位別にみた脳卒中者のリハビリテーション　入院から地域連携まで	増補2	長谷川幹、半田理恵子	日本医事新報社	200001
562	4-524-22293-6	ゴールドスタンダード整形外科　薬物療法と運動・理学療法		鳥巣岳彦、落合直之	南江堂	200307
563	4-524-24218-X	DVDで学ぶ理学療法特殊テクニック215の動画でよくわかる		柳沢健	南江堂	200702
564	4-524-27744-7	別冊整形外科　No. 44　私のすすめる診療器械・器具		二ノ宮節夫	南江堂	200310
565	4-524-23628-7	臨床実習フィールドガイド		石川朗、内山靖、新田収	南江堂	200408
566	4-524-24039-X	目でみる運動機能検査法　機能解剖と評価		竹内義享、沢田規	南江堂	200504
567	4-524-23979-0	整形外科学テキスト	改訂2	二瓶隆一、木村哲彦	南江堂	200601
568	4-524-22442-4	スリングエクササイズセラピー　自重免荷と固有受容感覚を利用した効果的運動療法		中島雅美	南江堂	200404
569	4-524-23514-0	今日の病態栄養療法		渡辺明治、福井富穂	南江堂	200310
570	4-524-23872-7	5分でできる糖尿病食事指導の早見表糖尿病食から糖尿病性腎症食，透析食		保坂嘉之、西村登喜子	南江堂	200501
571	4-924763-13-6	虚弱高齢者のための介護予防食テキストブック　状態別介護予防食の栄養学と調理の実際		手嶋登志子、田中甲子、地域保健研究会	東京法規出版	200411
572	4-88563-129-7	TEXT　BOOK　食事療法を中心とした腎不全治療　「取手方式」のすすめ	改訂3	椎貝達夫	東京医学社	200103
573	4-254-47040-1	森林医学		森本兼曩、宮崎良文、平野秀樹	朝倉書店	200605
574	4-254-61043-2	最新調理　基礎と応用		高木節子、加田静子	朝倉書店	200509
575	4-254-33501-6	理学療法学生のための症例レポートの書き方		宮原英夫、小林寿絵	朝倉書店	200406
576	4-498-06318-X	皮膚疾患治療エッセンス		古江増隆	中外医学社	200001
577	4-498-07606-0	コメディカルのための専門基礎分野テキスト　病理学		神山隆一	中外医学社	200411
578	4-498-07608-7	コメディカルのための専門基礎分野テキスト　公衆衛生学		柳川洋、萱場一則	中外医学社	200410
579	4-8058-2563-4	管理栄養士がすすめる介護食七変化メニュー500		西堀すき江、五十嵐桂葉、あいち栄養指	中央法規出版	200509
580	4-8058-2482-4	高齢者施設の栄養管理業務ガイドブック　栄養士に求められる新たな役割		藤本真美子、松崎政三	中央法規出版	200407
581	4-8041-1004-6	高齢者の疾病と栄養改善へのストラテジー エビデンスに基づく対策とチームワークのために		斉藤昇、高橋竜太郎	第一出版	200309
582	4-8041-0931-5	透析患者と食事管理		沢西謙次	第一出版	200006
583	4-8278-1233-0	なっとくザ・食教育　おいしく食べて楽しく学習		杉浦守邦、岸本直美	東山書房	200201
584	4-88730-580-X	学生のための物理療法学		大塚彰、金井秀作、後藤昌弘	大学教育出版	200410
585	4-88378-165-8	呼吸管理Q&A　研修医からの質問301		相馬一亥、岡元和文	総合医学社	200409
586	4-88117-027-9	中高年・疾病予防〈健康づくり〉のための運動の実際		愛知医科大学運動療育センター、丹羽滋	全日本病院出版会	200510
587	4-88138-159-8	事例に学ぶ森林療法のすすめ方　医学・教育からツーリズム、市民レベルでの活動まで		上原巌	全国林業改良普及協会	200510

既存図書のうち専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧

No	ISBN	書籍名/雑誌名	版次	著者	出版社	出版年月
588	4-335-65104-X	精神科臨床と精神療法		馬場謙一	弘文堂	200002
589	978-4-7583-0677-5	理学療法士　グリーン・ノート　専門編		柳澤健	メジカルビュー社	200710
590	4-89013-338-0	筋:機能とテスト　姿勢と痛み		F・P・ケンダル、栢森良二	西村書店	200510
591	4-89013-351-8	肝再生と肝不全　拡大肝切除術の確立を目指して		嶋田紘、渡会伸治	西村書店	200612
592	4-7911-0485-4	月光のプリズム　心理療法からみた心の諸相		石坂好樹	星和書店	200210
593	4-7911-0492-7	EMDR症例集		崎尾英子	星和書店	200302
594	4-7911-0602-4	電気けいれん療法の実践的倫理		Jan-Otto　Ottosson、Max　Fink、中	星和書店	200605
595	4-7900-0303-5	物理療法		中村一直、中村一直	杉山書店	200504
596	4-89007-134-2	振動音響療法　音楽療法への医用工学的アプローチ		トニー・ウィグラム、チェリル・ディレオ、小	人間と歴史社	200303
597	4-7878-1465-6	高密度焦点式超音波療法　前立腺癌に対する低侵襲治療		内田豊昭	診断と治療社	200512
598	4-915814-19-X	脳血管障害片麻痺に対する理学療法評価	改訂	鈴木俊明、大沼俊博	神陵文庫	200405
599	4-915814-16-5	呼吸リハビリテーション入門　理学療法士の立場から		千住秀明(1949ー)	神陵文庫	200408
600	4-88003-647-1	低反応レベルレーザーと直線偏光近赤外線　光線療法の基礎と臨床		小川節郎	真興交易(株)医書出版部	200107
601	4-88003-763-X	トリガーポイント　その基礎と臨床応用		森本昌宏	真興交易(株)医書出版部	200604
602	4-88003-748-6	小児虐待医学的対応マニュアル　医療現場で子どもを守るために		桃井真里子	真興交易(株)医書出版部	200603
603	4-88003-710-9	食品の効きめ事典　糖尿病，がん，肥満など24疾患		清水俊雄	真興交易(株)医書出版部	200308
604	978-4-7882-7011-4	栄養調理六法 平成20年版		栄養調理関係法令研究会	新日本法規出版	200712
605	978-4-8348-4116-9	新食品成分表　2008		新食品成分表編集委員会	一橋出版	200712
606	4-88158-305-0	精神科医・臨床心理士のための精神療法入門　理論と実践		BatemanA、BrownD、PedderJ	新樹会創造出版	200609
607	4-88002-639-5	記憶と精神療法　内観療法と回想法		川原隆造、黒川由紀子、兼子幸一	新興医学出版社	200409
608	4-88002-664-6	理学療法士・作業療法士のための　小児の反射と発達の診かた		前川喜平、鶴見隆正、清水順市	新興医学出版社	200703
609	4-09-103394-6	食の医学館　体に効く食品を全網羅		本多京子	小学館	200203
610	978-4-7895-1008-0	五訂増補食品成分表　2008		香川芳子	女子栄養大学出版部	200710
611	4-07-227212-4	毎日の高脂血症献立　コレステロール中性脂肪を下げる		鈴木吉彦、忍田聡子、石川俊次	主婦の友社	200002
612	4-07-227330-9	一生使える毎日の糖尿病献立新・和食編　めんどうな栄養計算がいっさいいら		塩沢和子、鈴木吉彦	主婦の友社	200003
613	4-07-229949-9	一生使える毎日の低脂肪低カロリー低塩分のおいしい献立　決定版カード式		鈴木吉彦	主婦の友社	200012
614	4-88412-241-0	集学的癌治療の研究と臨床		加納永一	篠原出版新社	200203
615	4-925089-36-6	先端医療シリーズ<29脳神経外科>脳神経外科の最新医療		菊池晴彦、兵頭明夫	寺田国際事務所／先端医療技術研究所	200409
616	4-88282-379-9	自然療法　1		ジョゼフ・E. ピゾルノ・Jr、マイケル・T. マ	産調出版	200501
617	4-88282-380-2	自然療法　2		ジョゼフ・E. ピゾルノ・Jr、マイケル・T. マ	産調出版	200501
618	4-88282-381-0	自然療法　3		ジョゼフ・E. ピゾルノ・Jr、マイケル・T. マ	産調出版	200501
619	4-89590-261-7	実践PTノート　運動器傷害の理学療法		小柳磨毅	三輪書店	200701
620	4-89590-155-6	理学療法MOOK 9　スポーツ傷害の理学療法		福井勉、小柳磨毅	三輪書店	200111
621	4-89590-235-8	理学療法MOOK 12　循環器疾患のリハビリテーション		山田純生	三輪書店	200510
622	4-89590-217-X	理学療法MOOK 11　健康増進と介護予防		鶴見隆正、大淵修一	三輪書店	200410
623	4-89590-248-X	理学療法MOOK 13　QOLと理学療法　患者満足度をいかに高めるか		清水和彦、黒川幸雄	三輪書店	200605
624	4-89590-113-0	理学療法MOOK 5　物理療法		篠原英記、鶴見隆正	三輪書店	200004

既存図書のうち専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧

No	ISBN	書籍名/雑誌名	版次	著者	出版社	出版年月
625	4-89590-130-0	理学療法MOOK 7 義肢装具		鶴見隆正、畠中泰司	三輪書店	200010
626	4-89590-260-9	〈PT・OTのための測定評価 DVD Series〉 1 ROM測定		福田修、伊藤俊一、星文彦	三輪書店	200612
627	4-89590-238-2	宗形テクニック 痛みに効くセルフコントロール術		宗形美代子	三輪書店	200512
628	4-89590-129-7	理学療法MOOK 6 運動分析		高橋正明、山本澄子	三輪書店	200009
629	4-89590-167-X	理学療法MOOK 10 高齢者の理学療法		森本栄、黒川幸雄	三輪書店	200207
630	4-89590-223-4	理学療法MOOK 1 脳損傷の理学療法		吉尾雅春	三輪書店	200504
631	4-89590-224-2	理学療法MOOK 2 脳損傷の理学療法		吉尾雅春	三輪書店	200504
632	4-89590-213-7	手作り自助具の工作技術		松元義彦	三輪書店	200406
633	4-914908-27-1	国家試験問題 解剖学生理学 理学療法士・作業療法士・柔道整復師・はり師・きゅう 平成19年度版		木村明彦、五味敏昭	犀書房	200607
634	4-7719-0314-X	在宅酸素療法	改訂2	谷本普一	克誠堂出版	200611
635	4-06-174004-0	食べて治す・防ぐ医学事典 おいしく・健康・大安心		日野原重明、中村丁次	講談社	200201
636	978-4-567-70708-4	ひとりで学べる理学療法士国家試験問題と詳解 2008年版		理学療法学研究会	広川書店	200705
637	4-905690-74-9	高齢者ソフト食 安全でおいしい介護食レシピ		黒田留美子	厚生科学研究所	200107
638	4-7724-0698-0	精神疾患の早期発見・早期治療		パトリック・D. マクゴーリ、ヘンリー・J. シ	金剛出版	200106
639	4-7724-0845-2	精神科デイケアの始め方・進め方		窪田彰	金剛出版	200409
640	4-7724-0781-2	精神疾患早期介入の実際 早期精神病治療サービスガイド		J. エドワーズ、P. D. マクゴーリ、水野雅	金剛出版	200306
641	4-7724-0816-9	精神障害者のための宿泊訓練ガイドブック		野中猛、斎藤敏靖	金剛出版	200403
642	4-307-25127-X	理学療法評価学		松沢正	金原出版	200401
643	4-307-75005-5	リハビリテーションMOOK 5 運動療法・物理療法・作業療法		千野直一、安藤徳彦	金原出版	200211
644	4-7639-1021-3	理学療法ハンドブック 第1巻	改訂3	細田多穂、柳沢健	協同医書出版社	200004
645	4-7639-1023-X	理学療法ハンドブック 第3巻	改訂3	細田多穂、柳沢健	協同医書出版社	200005
646	4-7639-1022-1	理学療法ハンドブック 第2巻	改訂3	細田多穂、柳沢健	協同医書出版社	200005
647	4-7639-1027-2	バトラー・神経系モビライゼーション 触診と治療手技		DavidS. Butler、伊藤直栄、斉藤武利	協同医書出版社	200005
648	4-7639-1030-2	計測法入門 計り方，計る意味		内山靖、小林武、間瀬教史	協同医書出版社	200110
649	4-7639-1031-0	切断のリハビリテーション 知っておきたい全プロセス		BarbaraEngstrom、CatherineVande	協同医書出版社	200205
650	4-7639-1046-9	リズム，音楽，脳 神経学的音楽療法の科学的根拠と臨床応用		マイケル・H. タウト、三好恒明	協同医書出版社	200609
651	4-7639-1044-2	臨床判断学入門		内山靖、小林武、前田真治	協同医書出版社	200605
652	4-7639-1026-4	理学療法・作業療法のSOAPノートマニュアル 問題志向型診療記録の書き		GingeKettenbach、柳沢健、竹井仁	協同医書出版社	200005
653	4-320-05536-5	光による医学治療 第5巻		三宅養三	共立出版	200009
654	4-7529-3064-1	トリガーポイントと筋筋膜療法マニュアル		DimitriosKostopoulos、Konstantine	医道の日本社	200208
655	4-7529-3060-9	ペルビック・アプローチ 骨盤帯の構造・機能から診断・治療まで		DianeLee、丸山仁司	医道の日本社	200104
656	4-7529-1091-8	鍼通電療法テクニック 運動器系疾患へのアプローチ		山口真二郎、大島宣雄	医道の日本社	200106
657	4-263-25203-9	DVD版 嚥下障害		藤島一郎	医歯薬出版	200209
658	4-263-21292-4	EBM物理療法		MichelleH. Cameron、渡部一郎	医歯薬出版	200601
659	4-263-21285-1	運動機能障害症候群のマネジメント 理学療法評価・MSBアプローチ・ADL		ShirleyA. Sahrmann、竹井仁、鈴木勝	医歯薬出版	200504
660	4-263-21290-8	磁気刺激法の基礎と応用		真野行生、辻貞俊	医歯薬出版	200512
661	4-263-21167-7	環境と理学療法		内山靖	医歯薬出版	200410
662	4-263-21175-8	生活環境論		木村哲彦、安梅勅江	医歯薬出版	200703
663	4-263-21276-2	装具学		日本義肢装具学会、加倉井周一	医歯薬出版	200303
664	4-263-21284-3	最新リハビリテーション医学		米本恭三、石神重信、石田暉	医歯薬出版	200503
665	4-263-21157-X	姿勢調節障害の理学療法		奈良勲、内山靖	医歯薬出版	200404
666	4-263-21286-X	系統理学療法学 神経障害系理学療法学		丸山仁司	医歯薬出版	200504
667	4-263-21295-9	系統理学療法学 筋骨格障害系理学療法学		居村茂幸	医歯薬出版	200605

既存図書のうち専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧

No	ISBN	書籍名/雑誌名	版次	著者	出版社	出版年月
668	4-263-21132-4	理学療法概論		奈良勲	医歯薬出版	200204
669	4-263-70288-3	一品料理500選　治療食への展開		宗像伸子	医歯薬出版	200204
670	4-263-70415-0	一品料理献立集　基本献立と治療食・軟菜食・行事食		医歯薬出版株式会社	医歯薬出版	200311
671	4-263-21133-2	Q&Aフローチャートによる下肢切断の理学療法		細田多穂	医歯薬出版	200204
672	4-263-24200-9	上肢骨折の保存療法		武田功、竹内義享、大村晋司	医歯薬出版	200504
673	4-263-21280-0	理学療法テクニック　発達的アプローチ		中村隆一、対馬均、星文彦	医歯薬出版	200410
674	4-263-21482-X	PTマニュアル　脊髄損傷の理学療法		武田功、奥田邦晴、岩崎洋	医歯薬出版	200602
675	4-263-21509-5	PTマニュアル　スポーツ理学療法		浦辺幸夫	医歯薬出版	200605
676	4-263-21155-3	理学療法学教育論		奈良勲	医歯薬出版	200403
677	4-263-21112-X	神経学的理学療法　問題点と解決法のポイント		SusanEdwards、真野行生	医歯薬出版	200105
678	4-263-21481-1	PTマニュアル　関節リウマチの運動療法		椎野泰明	医歯薬出版	200310
679	4-263-21174-X	系統理学療法学　内部障害系理学療法学		居村茂幸	医歯薬出版	200606
680	4-263-44224-5	小児の摂食・嚥下リハビリテーション		田角勝、向井美惠	医歯薬出版	200609
681	4-263-21508-7	PTマニュアル　小児の理学療法		河村光俊	医歯薬出版	200206
682	4-263-23260-7	糖尿病合併症の食事指導Q&A		馬場茂明	医歯薬出版	200104
683	4-263-21480-3	PTマニュアル　地域理学療法		伊藤日出男、香川幸次郎	医歯薬出版	200207
684	4-263-21507-9	PTマニュアル　脳血管障害の理学療法　片麻痺患者の運動療法を中心に		奈良勲	医歯薬出版	200008
685	4-263-70456-8	栄養食事療法必携		中村丁次、中村丁次	医歯薬出版	200503
686	4-263-23353-0	学生のための精神医学		太田保之、上野武治	医歯薬出版	200603
687	4-263-70287-5	らくらく選べる糖尿病の献立　食品交換表による料理交換カード3連式		忍田聡子、鈴木吉彦	医歯薬出版	200208
688	4-263-70286-7	栄養食事療法必携		中村丁次、中村丁次	医歯薬出版	200203
689	4-263-23801-X	患者さんとスタッフのための糖尿病食事のすべて		増子マキ子、阿部隆三、清野弘明	医歯薬出版	200405
690	4-260-00035-7	理学療法学事典		奈良勲、内山靖、伊橋光二	医学書院	200604
691	4-260-12244-4	PDTハンドブック　光線力学的治療のアドバンストテクニック		加藤治文、奥仲哲弥、中島進	医学書院	200209
692	4-260-26624-1	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野 内科学		奈良勲、鎌倉矩子、大成浄志	医学書院	200403
693	4-260-11873-0	ECT実践ガイド　米国精神医学会タスクフォースレポート		米国精神医学会電気けいれん療法検討	医学書院	200205
694	4-260-26676-4	標準理学療法学　専門分野 理学療法評価学		奈良勲、内山靖、内山靖	医学書院	200403
695	4-260-26629-2	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野 解剖学		奈良勲、鎌倉矩子、野村嶬	医学書院	200403
696	4-260-00023-3	標準理学療法学 専門分野 基礎理学療法学		奈良勲、内山靖、奈良勲	医学書院	200605
697	4-260-24424-8	PT・OTのための脳画像のみかたと神経所見		森惟明、鶴見隆正	医学書院	200404
698	4-260-26673-X	標準理学療法学　専門分野 臨床実習とケーススタディ		奈良勲、鶴見隆正、鶴見隆正	医学書院	200108
699	4-260-26677-2	標準理学療法学　専門分野 物理療法学		奈良勲、網本和、嶋田智明	医学書院	200407
700	4-260-00223-6	標準理学療法学　専門分野 運動療法学　総論		奈良勲、吉尾雅春、中山彰一	医学書院	200603
701	4-260-00041-1	標準理学療法学　専門分野 理学療法研究法		奈良勲、内山靖、内山靖	医学書院	200605
702	4-260-24394-2	物理療法実践ガイド		KarenW. Hayes、奈良勲、篠原英記	医学書院	200105
703	4-260-26630-6	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野 精神医学		奈良勲、鎌倉矩子、上野武治	医学書院	200411
704	4-260-00153-1	在宅酸素療法マニュアル　新しいチーム医療を目指して		木田厚瑞	医学書院	200608
705	4-260-26632-2	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野 老年学		奈良勲、鎌倉矩子、大内尉義	医学書院	200504
706	4-260-26625-X	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野 小児科学		奈良勲、鎌倉矩子、富田豊	医学書院	200301
707	4-260-10283-4	開業医のための呼吸器クリニック		谷本普一	医学書院	200304

既存図書のうち専門科目に関わる主たる図書及び学術雑誌等一覧

No	ISBN	書籍名/雑誌名	版次	著者	出版社	出版年月
708	4-260-24412-4	拘縮の予防と治療		奈良勲、浜村明徳	医学書院	200302
709	4-260-33071-3	精神科クリニカルパス		パトリシアC. ダイクス、末安民生、伊藤	医学書院	200005
710	4-260-33403-4	リンパ浮腫の治療とケア		小川佳宏、佐藤佳代子、佐藤佳代子	医学書院	200504
711	4-260-11851-X	ECTマニュアル　科学的精神医学をめざして		本橋伸高	医学書院	200012
712	4-260-26619-5	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野 臨床心理学		奈良勲、鎌倉矩子、町沢静夫	医学書院	200104
713	4-938936-60-7	ベッドサイドで活かす呼吸理学療法		宮川哲夫	ディジットブレーン	200301
714	4-8404-1744-X	Q&Aでわかる！呼吸ケアスタッフのための酸素療法マニュアル 酸素療法・在宅酸素療法の臨床実践に直結！		石原英樹	メディカ出版	200612
715	4-8404-1786-5	小児呼吸器の看護マニュアル		土居悟	メディカ出版	200608
716	4-89635-204-1	クライオセラピー　理論，テクニック，生理学		KennethL. Knight、魚住広信	メディカル葵出版	200101
717	4-89600-844-8	認定病態栄養専門師のための病態栄養ガイドブック	改訂	日本病態栄養学会	メディカルレビュー社	200504
718	4-7583-0108-5	循環器NewTrendsシリーズ7　心不全治療への挑戦		堀正二	メジカルビュー社	200305
719	4-7583-0624-9	投球障害肩　こう診てこう治せ　整形外科医と理学療法士からのアドバイス		筒井広明、山口光国	メジカルビュー社	200410
720	4-7583-0653-2	理学療法士イエロー・ノート　専門編		柳沢健	メジカルビュー社	200504
721	4-7583-0652-4	理学療法士・作業療法士ブルー・ノート　基礎編		柳沢健	メジカルビュー社	200504
722	4-7583-0663-X	運動療法のための機能解剖学的触診技術　上肢		林典雄、青木隆明	メジカルビュー社	200512
723	4-7583-0664-8	運動療法のための機能解剖学的触診技術　下肢・体幹		林典雄、青木隆明	メジカルビュー社	200603
724	4-7583-0312-6	呼吸運動療法の理論と技術		本間生夫、田中一正、柿崎藤泰	メジカルビュー社	200310
725	4-89269-545-9	電気けいれん療法		リチャード・エイブラムス、一瀬邦弘	へるす出版	200511
726	4-89479-108-0	ヘルスケアのための自然療法ハンドブック		リーダーズ・ダイジェスト、川口健夫	フレグランスジャーナル	200612
727	4-89479-090-4	ニールズヤードの自然療法	新版	スーザン・カーティス、ロミー・フレイザー	フレグランスジャーナル	200505
728	4-938335-10-7	フォームローラーエクササイズ　フォームローラーを用いた運動療法		CarolineCorningCreager、日暮清、溝	ブックハウス・エイチ	200306
729	4-931411-42-8	慢性疾患を有する人への運動指導テキスト　診断・治療からフィットネスまで		アメリカスポーツ医学会、坂本雅昭、杉山	ナップ	200410
730	4-431-70983-5	スイスボール　理論と実技，基礎から応用まで		B. カリエール、富田昌夫、額谷一夫	シュプリンガー・フェアラーク東京	200303
731	4-434-07417-2	楽楽栄養計算　食事編		堤裕昭	オーエムエス出版	200604
732	4-86034-840-0	理学療法のクリティカルパス　症例から学ぶグローバルスタンダード　下巻		DavidC. Saidoff、AndrewL. McDon	エルゼビア・ジャパン	200512
733	4-86034-839-7	理学療法のクリティカルパス　症例から学ぶグローバルスタンダード　上巻		DavidC. Saidoff、AndrewL. McDon	エルゼビア・ジャパン	200412
734	4-86034-864-8	テニスパフォーマンスのための医学的実践ガイド		BabettePluim、MarcSafran、別府諸	エルゼビア・ジャパン	200609
735	4-86034-830-3	エクササイズ　疾患予防のための運動		ManuV. Chakravarthy、FrankW. Booth、前島伸一郎	エルゼビア・ジャパン	200401
736	4-326-65296-9	ケアの社会学　臨床現場との対話		三井さよ	勁草書房	200408
737	4-947682-09-4	糖尿病S氏の豊かな食卓　Happiness needs unhappiness		坂本素行	料理王国社	200104
738	4-263-70548-3	妊娠・授乳期の食事		堀口雅子	医歯薬出版株式会社	200302
739	4-260-24410-8	理学療法の本質を問う		奈良勲	医学書院	200207
740	4-263-70424-X	腎臓病食品交換表　治療食の基準	補訂7	黒川清、中尾俊之	医歯薬出版株式会社	200503

購入図書明細書（1年次）

資料15-2

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
1	1_基礎分野・周辺領域	1301	1_冊子	わかりやすい物理学	ヌーヴェルヒロカワ	1
2	1_基礎分野・周辺領域	1303	1_冊子	好きになる解剖学: Part2 関節を動かし骨や筋を確かめよう (好きになるシリーズ)	講談社	1
3	1_基礎分野・周辺領域	1305	1_冊子	生理学, 第3版	医歯薬出版	1
4	1_基礎分野・周辺領域	1307	1_冊子	臨床病態学: 2, 第2版	ヌーヴェルヒロカワ	1
5	1_基礎分野・周辺領域	1309	2_電子	最新健康科学概論　電子書籍<同時アクセス1>	朝倉書店	1
6	1_基礎分野・周辺領域	1310	2_電子	現代生命科学入門　電子書籍<同時アクセス1>	慶應義塾大学出版会	1
7	1_基礎分野・周辺領域	1311	2_電子	生命倫理学の基本構図 (シリーズ生命倫理学 1) 電子書籍<同時アクセス1>	丸善出版	1
8	1_基礎分野・周辺領域	1313	2_電子	周産期・新生児・小児医療 (シリーズ生命倫理学 7) 電子書籍<同時アクセス1>	丸善出版	1
9	1_基礎分野・周辺領域	1314	2_電子	救急医療 (シリーズ生命倫理学 10)　電子書籍<同時アクセス1>	丸善出版	1
10	1_基礎分野・周辺領域	1315	2_電子	臨床倫理 (シリーズ生命倫理学 13)　電子書籍<同時アクセス1>	丸善出版	1
11	1_基礎分野・周辺領域	1317	2_電子	医療倫理教育 (シリーズ生命倫理学 19)　電子書籍<同時アクセス1>	丸善出版	1
12	1_基礎分野・周辺領域	1318	2_電子	医療系スタッフのための情報システム入門 ―コンピュータで何ができるか―(臨床工学ライブラリーシ	学研メディカル秀潤社	1
13	3_理学療法学	1778	1_冊子	Comprehensive Respiratory Therapy Exam Preparation Guide, 3rd ed.	Jones & Bartlett Publishers Inc.	1
14	3_理学療法学	1779	1_冊子	Integrative Therapies in Rehabilitation: Evidence for Efficacy in Therapy, Prevention, and Wellness, 4th	Slack, Inc.	1
15	3_理学療法学	1780	1_冊子	Mosby's Pathology for Massage Therapists, 4th ed.	Mosby	1
16	3_理学療法学	1781	1_冊子	Principles of Musculoskeletal Treatment and Management - Volume 2: Vol. 2, 3rd ed.	Elsevier	1
17	3_理学療法学	1782	1_冊子	Surgical Recall, International Edition, 8th ed.	Lippincott Williams &	1
18	4_作業療法学	1319	1_冊子	心理学と精神医学の分野での報告書の書き方, 改訂	悠書館	1
19	4_作業療法学	1321	1_冊子	ブリーフセラピーの技法を越えて: 情動と治療関係を活用する解決志向アプローチ	金剛出版	1
20	4_作業療法学	1322	1_冊子	認知行動療法の基礎	金剛出版	1
21	4_作業療法学	1323	1_冊子	現代の認知行動療法: CBTモデルの臨床実践	診断と治療社	1
22	4_作業療法学	1325	1_冊子	認知療法・認知行動療法事例検討ワークショップ: 2	星和書店	1
23	4_作業療法学	1326	1_冊子	EMDRがもたらす治癒: 適用の広がりと工夫	二瓶社	1
24	4_作業療法学	1327	1_冊子	家族療法の秘訣	日本評論社	1
25	4_作業療法学	1329	1_冊子	誰が風を見たか: ある精神科医の生涯, 増補版	星和書店	1
26	4_作業療法学	1330	1_冊子	職場のうつ: 対策実践マニュアル	星和書店	1
27	4_作業療法学	1331	1_冊子	すぐに折れる!高齢者の楽しい折り紙レクリエーション	ナツメ社	1
28	4_作業療法学	1333	1_冊子	介護老人保健施設在宅支援推進マニュアル: 総論・入所編	リベルタス・クレオ	1
29	4_作業療法学	1334	1_冊子	誰も気づかなかった介護の真実: 疑似体験から聞こえてきた心の声	講談社ビーシー	1
30	4_作業療法学	1335	1_冊子	幻聴妄想かるた	医学書院	1
31	4_作業療法学	1338	1_冊子	自閉症の哲学: 構想力と自閉症からみた「私」の成立	花伝社	1

購入図書明細書（1年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
32	4_作業療法学	1339	1_冊子	発達分野のコンサルテーションスキル: 地域で働く作業療法士に役立つ	三輪書店	1
33	4_作業療法学	1341	1_冊子	医療従事者のための同意能力評価の進め方・考え方	新興医学出版社	1
34	4_作業療法学	1342	1_冊子	摂食・嚥下障害への作業療法アプローチ: 基礎理解から疾患別対応まで	医歯薬出版	1
35	4_作業療法学	1343	1_冊子	睡眠	ぱーそん書房	1
36	4_作業療法学	1345	1_冊子	一般臨床医のためのメンタルな患者の診かた・手堅い初期治療	医学書院	1
37	4_作業療法学	1346	1_冊子	慢性疼痛の認知行動療法: “消えない痛み”へのアプローチ	日本医事新報社	1
38	4_作業療法学	1347	1_冊子	精神科退院支援ビギナーズノート, 全訂新版	中山書店	1
39	4_作業療法学	1349	1_冊子	心療内科ケーススタディー: プライマリケアにおける心身医療	新興医学出版社	1
40	4_作業療法学	1350	1_冊子	オートノミートレーニング: 健康、幸福、社会の安定－全ての鍵となる自律性を高めるために	星和書店	1
41	4_作業療法学	1351	1_冊子	心身相関医学の最新知識	日本評論社	1
42	4_作業療法学	1353	1_冊子	CRA薬物・アルコール依存へのコミュニティ強化アプローチ	金剛出版	1
43	4_作業療法学	1354	1_冊子	アルコール依存のための治療ガイド: 生き方を変える「コミュニティ強化アプローチ」〈CRA〉	金剛出版	1
44	4_作業療法学	1355	1_冊子	アルコール・薬物依存症の再発予防ガイド: ソブラエティを生きる	星和書店	1
45	4_作業療法学	1357	1_冊子	“私らしさ”を支えるための高齢期作業療法10の戦略	医学書院	1
46	4_作業療法学	1359	1_冊子	精神科で取り組む肺血栓塞栓症予防: 突然死を防ぐ	中山書店	1
47	4_作業療法学	1361	1_冊子	精神科診療室の窓を開けて	アルタ出版	1
48	4_作業療法学	1363	1_冊子	睡眠薬の適正使用・休薬ガイドライン	じほう	1
49	4_作業療法学	1365	1_冊子	外来精神医学という方法（笠原嘉臨床論集）	みすず書房	1
50	4_作業療法学	1367	1_冊子	精神医学を再考する: 疾患カテゴリーから個人的経験へ	みすず書房	1
51	4_作業療法学	1385	1_冊子	狩野力八郎著作集: 1 精神分析になじむ	金剛出版	1
52	4_作業療法学	1387	1_冊子	病棟に頼らない地域精神医療論: 精神障害者の生きる力をサポートする	金剛出版	1
53	4_作業療法学	1388	1_冊子	狂気論（ぐんま精神医学セレクション 4）	群馬病院出版会	1
54	4_作業療法学	1389	1_冊子	思索と想い: 精神医学の小径で	慶應義塾大学出版会	1
55	4_作業療法学	1390	1_冊子	みんなの精神医学用語辞典	弘文堂	1
56	4_作業療法学	1391	1_冊子	〈正常〉を救え: 精神医学を混乱させるDSM-5への警告	講談社	1
57	4_作業療法学	1394	1_冊子	精神医学と制度精神療法	春秋社	1
58	4_作業療法学	1395	1_冊子	精神科領域のチーム医療実践マニュアル	新興医学出版社	1
59	4_作業療法学	1396	1_冊子	メディカルスタッフのための精神医学概論: 症状論から学ぶ	新樹会創造出版	1
60	4_作業療法学	1397	1_冊子	睡眠医学アトラス: 検査と臨床	真興交易（株）医書出版部	1
61	4_作業療法学	1398	1_冊子	アディクションとしての自傷:「故意に自分の健康を害する」行動の精神病理	星和書店	1
62	4_作業療法学	1399	1_冊子	外来精神医療,いま何が求められているのか: 説明と同意に基づく納得診療の実際	星和書店	1
63	4_作業療法学	1400	1_冊子	精神科医の戦略＆戦術ノート: 精神科救急病棟で学んだこと	星和書店	1
64	4_作業療法学	1401	1_冊子	精神科臨床の足音: 〈私〉を〈希望〉に調律する日々	星和書店	1

購入図書明細書（1年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
65	4_作業療法学	1402	1_冊子	統合失調症回復への糸口	星和書店	1
66	4_作業療法学	1403	1_冊子	わが国における精神病に関する最近の施設: 現代語訳	青弓社	1
67	4_作業療法学	1404	1_冊子	ここからスタート!睡眠医療を知る: 睡眠認定医の考え方	全日本病院出版会	1
68	4_作業療法学	1405	1_冊子	精神医学のおくゆき: 深化するパラダイム（精神医学セミナー 3）	創元社	1
69	4_作業療法学	1406	1_冊子	精神医学へのいざない: 脳・こころ・社会のインターフェイス（精神医学セミナー 1）	創元社	1
70	4_作業療法学	1407	1_冊子	精神科医のこころざし	中央公論事業出版	1
71	4_作業療法学	1408	1_冊子	こころの苦しみへの理解: トータルメンタルヘルスガイドブック	中央法規出版	1
72	4_作業療法学	1409	1_冊子	精神医学, 3版（コメディカルのための専門基礎分野テキスト）	中外医学社	1
73	4_作業療法学	1410	1_冊子	専門医がやさしく語るはじめての精神医学, 改訂第2版	中山書店	1
74	4_作業療法学	1411	1_冊子	不眠の科学	朝倉書店	1
75	4_作業療法学	1412	1_冊子	分裂病と人類, 新版（UPコレクション）	東京大学出版会	1
76	4_作業療法学	1414	1_冊子	睡眠障害国際分類	日本睡眠学会	1
77	4_作業療法学	1415	1_冊子	こころの病気のサイエンス	日本評論社	1
78	4_作業療法学	1416	1_冊子	精神医学の実在と虚構	日本評論社	1
79	4_作業療法学	1417	1_冊子	精神医療の光と影	日本評論社	1
80	4_作業療法学	1418	1_冊子	鶴見俊輔に学んだ精神医療	日本評論社	1
81	4_作業療法学	1419	1_冊子	夢をかなえる精神科リハビリテーション: 当事者が教えてくれる「たしかなこと」	日本評論社	1
82	4_作業療法学	1420	1_冊子	街角のセーフティネット: 精神障害者の生活支援と精神科クリニック（メンタルヘルス・ライブラリー 25）	批評社	1
83	4_作業療法学	1421	1_冊子	精神科医の本音トークがきける本: うつ病の拡散、司法精神医学の課題から震災下のこころのケアまで, 増	批評社	1
84	4_作業療法学	1422	1_冊子	相模原事件はなぜ起きたのか: 保安処分としての措置入院（メンタルヘルス・ライブラリー 39）	批評社	1
85	4_作業療法学	1423	1_冊子	巨大なる空転: 日本の精神科地域処遇はなぜ進まないのか	風媒社	1
86	4_作業療法学	1424	1_冊子	早わかり精神医療10講義	萌文社	1
87	4_作業療法学	1425	1_冊子	これだけは知っておきたい精神科の診かた、考え方: 初期対応から専門医への紹介まで、すべての診療科	羊土社	1
88	4_作業療法学	1426	1_冊子	新・精神病理学総論: 人間存在の全体	学樹書院	1
89	4_作業療法学	1427	1_冊子	語り・妄想・スキゾフレニア: 精神病理学的観点から	金剛出版	1
90	4_作業療法学	1429	1_冊子	精神病理学の歴史: 精神医学の大いなる流れ	星和書店	1
91	4_作業療法学	1430	1_冊子	さまよえる自己: ポストモダンの精神病理（筑摩選書 0044）	筑摩書房	1
92	4_作業療法学	1431	1_冊子	精神病理学から何が見えるか（メンタルヘルス・ライブラリー 34）	批評社	1
93	4_作業療法学	1432	1_冊子	精神疾患/神経・筋疾患: 病気と薬物療法	オーム社	1
94	4_作業療法学	1433	1_冊子	OPRS-IV客観的精神科評価尺度ガイド: 観察者による精神科領域の症状評価尺度ガイド, 第4版	じほう	1
95	4_作業療法学	1434	1_冊子	危険ドラッグ対応ハンドブック: 精神科救急医療ガイドライン追補版	へるす出版	1
96	4_作業療法学	1435	1_冊子	精神疾患は脳の病気か?: 向精神薬の科学と虚構, 新装版	みすず書房	1
97	4_作業療法学	1436	1_冊子	DSM-5をつかうということ: その可能性と限界	メディカル・サイエンス・インター	1

購入図書明細書（1年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
98	4_作業療法学	1439	1_冊子	森田療法の世界	やどかり出版	1
99	4_作業療法学	1440	1_冊子	自立支援アパートと往診家族療法: 個人の意志を尊重する精神科医療障害者および老人の介護	ルネッサンス・アイ	1
100	4_作業療法学	1441	1_冊子	DSM-5ケースファイル	医学書院	1
101	4_作業療法学	1442	1_冊子	DSM-5鑑別診断ハンドブック	医学書院	1
102	4_作業療法学	1444	1_冊子	ICD-10ケースブック: 精神および行動の障害の診断トレーニング	医学書院	1
103	4_作業療法学	1445	1_冊子	こころの病を診るということ: 私の伝えたい精神科診療の基本	医学書院	1
104	4_作業療法学	1446	1_冊子	サイコーシス・リスクシンドローム: 精神病の早期診断実践ハンドブック	医学書院	1
105	4_作業療法学	1447	1_冊子	ロンドン大学精神医学研究所に学ぶ精神科臨床試験の実践	医学書院	1
106	4_作業療法学	1448	1_冊子	今日の精神疾患治療指針, 第2版	医学書院	1
107	4_作業療法学	1449	1_冊子	精神科の薬がわかる本, 第3版	医学書院	1
108	4_作業療法学	1451	1_冊子	精神科薬物治療: こんなときどうするべきか (精神科臨床エキスパート)	医学書院	1
109	4_作業療法学	1452	1_冊子	精神療法の基本: 支持から認知行動療法まで	医学書院	1
110	4_作業療法学	1453	1_冊子	動画で学ぶ支持的精神療法入門	医学書院	1
111	4_作業療法学	1455	1_冊子	医療スタッフのための動機づけ面接法: 逆引きMI学習帳	医歯薬出版	1
112	4_作業療法学	1456	1_冊子	成人精神疾患の治療における音楽療法: 理論的な基礎と臨床実践	一麦出版社	1
113	4_作業療法学	1457	1_冊子	精神神経疾患ビジュアルブック	学研メディカル秀潤社	1
114	4_作業療法学	1459	1_冊子	研修医・コメディカルのための精神疾患の薬物療法講義	金剛出版	1
115	4_作業療法学	1460	1_冊子	森田療法を学ぶ: 最新技法と治療の進め方	金剛出版	1
116	4_作業療法学	1461	1_冊子	精神疾患診断のエッセンス: DSM-5の上手な使い方	金剛出版	1
117	4_作業療法学	1462	1_冊子	精神療法の深さ: 成田善弘セレクション	金剛出版	1
118	4_作業療法学	1463	1_冊子	方法としての行動療法, 新訂増補	金剛出版	1
119	4_作業療法学	1465	1_冊子	心身医療のための認知行動療法ハンドブック	新興医学出版社	1
120	4_作業療法学	1466	1_冊子	精神科作業療法研究のイロハ: エビデンスを探し,読みこなし,臨床研究に役立てるために	新興医学出版社	1
121	4_作業療法学	1468	1_冊子	臨床医のための精神科面接の基本	新興医学出版社	1
122	4_作業療法学	1469	1_冊子	RLAIブック: リスペリドン持効性注射製剤	星和書店	1
123	4_作業療法学	1470	1_冊子	現代精神医学を迷路に追い込んだ過剰診断: 人生のあらゆる不幸に診断名をつけるDSMの罪	星和書店	1
124	4_作業療法学	1471	1_冊子	持効性注射製剤治療のすべて	星和書店	1
125	4_作業療法学	1472	1_冊子	精神疾患のバイオマーカー	星和書店	1
126	4_作業療法学	1473	1_冊子	日常診療における精神療法:10分間で何ができるか	星和書店	1
127	4_作業療法学	1474	1_冊子	AGPA集団精神療法実践ガイドライン	創元社	1
128	4_作業療法学	1475	1_冊子	集団精神療法の実践事例30: グループ臨床の多様な展開	創元社	1
129	4_作業療法学	1476	1_冊子	忘れられた森田療法: 歴史と本質を思い出す	創元社	1
130	4_作業療法学	1477	1_冊子	精神科外来処方navi	中外医学社	1

購入図書明細書（1年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
131	4_作業療法学	1478	1_冊子	精神科必須薬を探る, 第2版	中外医学社	1
132	4_作業療法学	1480	1_冊子	精神療法と薬物療法のほどよいブレンド	中山書店	1
133	4_作業療法学	1481	1_冊子	西園精神療法ゼミナール: 2 力動的精神療法	中山書店	1
134	4_作業療法学	1482	1_冊子	精神科医×薬剤師クロストークから読み解く精神科薬物療法: 多職種連携から生まれる新しいコミュニケー	南山堂	1
135	4_作業療法学	1483	1_冊子	プライマリケアのためのこころの診かた	日本医事新報社	1
136	4_作業療法学	1484	1_冊子	現場から考える精神療法: うつ、統合失調症、そして発達障害	日本評論社	1
137	4_作業療法学	1485	1_冊子	精神科医療の隔離・身体拘束	日本評論社	1
138	4_作業療法学	1486	1_冊子	精神科臨床を学ぶ: 症例集	日本評論社	1
139	4_作業療法学	1487	1_冊子	回復の人間学: 森田療法による「生きること」の転換	白揚社	1
140	4_作業療法学	1488	1_冊子	流れと動きの森田療法: 森田療法の新しい世界	白揚社	1
141	4_作業療法学	1489	1_冊子	精神科医はどのようにこころを読むのか	平凡社	1
142	4_作業療法学	1490	1_冊子	失語症論（精神医学重要文献シリーズHeritage）	みすず書房	1
143	4_作業療法学	1491	1_冊子	認知機能回復のための訓練指導マニュアル: 高次脳機能障害者を支援する	メディカ出版	1
144	4_作業療法学	1492	1_冊子	前頭葉機能不全その先の戦略: Rusk通院プログラムと神経心理ピラミッド	医学書院	1
145	4_作業療法学	1493	1_冊子	チームで取り組むせん妄ケア: 予防からシステムづくりまで	医歯薬出版	1
146	4_作業療法学	1495	1_冊子	高次脳機能障害のリハビリがわかる本: イラスト版（健康ライブラリー）	講談社	1
147	4_作業療法学	1496	1_冊子	せん妄の臨床: リアルワールド・プラクティス	新興医学出版社	1
148	4_作業療法学	1497	1_冊子	成人ADHDの認知行動療法: 実行機能障害の治療のために	星和書店	1
149	4_作業療法学	1498	1_冊子	明日からできる大人のADHD診療	星和書店	1
150	4_作業療法学	1499	1_冊子	病棟・ICUで出会うせん妄の診かた	中外医学社	1
151	4_作業療法学	1500	1_冊子	上肢運動障害の作業療法: 麻痺手に対する作業運動学と作業治療学の実際	文光堂	1
152	4_作業療法学	1501	1_冊子	生活を立て直す脳のリハビリ: みんなでわかる高次脳機能障害: 記憶障害編 家族とできる目的別・弱点克	保育社	1
153	4_作業療法学	1502	1_冊子	摂食障害および食行動異常予防に関する研究	ナカニシヤ出版	1
154	4_作業療法学	1503	1_冊子	解離の病歴	みすず書房	1
155	4_作業療法学	1505	1_冊子	心因性非てんかん性発作へのアプローチ	医学書院	1
156	4_作業療法学	1506	1_冊子	摂食障害治療ガイドライン	医学書院	1
157	4_作業療法学	1507	1_冊子	心の処方箋	沖縄タイムス社出版部	1
158	4_作業療法学	1508	1_冊子	依存症と家族	学陽書房	1
159	4_作業療法学	1509	1_冊子	解離新時代: 脳科学、愛着、精神分析との融合	岩崎学術出版社	1
160	4_作業療法学	1510	1_冊子	摂食障害からの回復支援: 自己治癒力を妨げない「消極的」精神療法のすすめ	岩崎学術出版社	1
161	4_作業療法学	1512	1_冊子	ギャンブル依存のための認知行動療法ワークブック	金剛出版	1
162	4_作業療法学	1513	1_冊子	解離の舞台: 症状構造と治療	金剛出版	1
163	4_作業療法学	1514	1_冊子	性依存症の治療: 暴走する性・彷徨う愛	金剛出版	1

購入図書明細書（1年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
164	4_作業療法学	1515	1_冊子	嘔吐恐怖症: 基礎から臨床まで	金剛出版	1
165	4_作業療法学	1516	1_冊子	依存症のすべて:「やめられない気持ち」はどこから来る? (こころライブラリー)	講談社	1
166	4_作業療法学	1517	1_冊子	心の傷を癒すということ: 大災害精神医療の臨床報告, 増補改訂版	作品社	1
167	4_作業療法学	1518	1_冊子	多重人格とボーダーライン	駿河台出版社	1
168	4_作業療法学	1519	1_冊子	不安障害の臨床	新興医学出版社	1
169	4_作業療法学	1520	1_冊子	アディクション・ケースブック:「物質関連障害および嗜癖性障害群」症例集	星和書店	1
170	4_作業療法学	1521	1_冊子	よくわかるギャンブル障害: 本人のせいにしない回復・支援	星和書店	1
171	4_作業療法学	1522	1_冊子	過食症:食べても食べても食べたくて	星和書店	1
172	4_作業療法学	1523	1_冊子	構造的解離:慢性外傷の理解と治療: 上巻 基本概念編	星和書店	1
173	4_作業療法学	1524	1_冊子	人はなぜ依存症になるのか: 自己治療としてのアディクション	星和書店	1
174	4_作業療法学	1525	1_冊子	不安の病	星和書店	1
175	4_作業療法学	1526	1_冊子	社交不安症UPDATE: エスシタロプラムによるアプローチを中心に	先端医学社	1
176	4_作業療法学	1527	1_冊子	対人関係療法でなおす社交不安障害: 自分の中の「社会恐怖」とどう向き合うか	創元社	1
177	4_作業療法学	1528	1_冊子	窃盗症: その理解と支援	中央法規出版	1
178	4_作業療法学	1529	1_冊子	焦らなくてもいい!拒食症・過食症の正しい治し方と知識	日東書院本社	1
179	4_作業療法学	1530	1_冊子	不安障害と双極性障害: ANXIETY DISORDERS and BIPOLAR DISORDERS	日本評論社	1
180	4_作業療法学	1531	1_冊子	神経質問答: 自覚と悟りへの道 2, 新版	白揚社	1
181	4_作業療法学	1533	1_冊子	認知症の作業療法: ソーシャルインクルージョンをめざして, 第2版	医歯薬出版	1
182	4_作業療法学	1534	1_冊子	認知症をもつ人への作業療法アプローチ: 視点・プロセス・理論	メジカルビュー社	1
183	4_作業療法学	1535	1_冊子	せん妄予防のコツ: 静岡がんセンターの実践	星和書店	1
184	4_作業療法学	1536	1_冊子	高齢者の妄想: 老いの孤独の一側面 (メンタルヘルス・ライブラリー 26)	批評社	1
185	4_作業療法学	1537	1_冊子	SCID-5-PD: DSM-5パーソナリティ障害のための構造化面接	医学書院	1
186	4_作業療法学	1538	1_冊子	成人期の自閉症スペクトラム診療実践マニュアル	医学書院	1
187	4_作業療法学	1539	1_冊子	大人の発達障害を診るということ: 診断や対応に迷う症例から考える	医学書院	1
188	4_作業療法学	1540	1_冊子	愛着崩壊: 子どもを愛せない大人たち (角川選書 507)	角川学芸出版	1
189	4_作業療法学	1541	1_冊子	パーソナリティ障害の認知療法: 全訳版, 改訂第2版	岩崎学術出版社	1
190	4_作業療法学	1543	1_冊子	パーソナリティ障害:診断と治療のハンドブック	金剛出版	1
191	4_作業療法学	1544	1_冊子	境界性パーソナリティ障害の治療: エビデンスに基づく治療方針	金剛出版	1
192	4_作業療法学	1545	1_冊子	完全図解アスペルガー症候群 (健康ライブラリー スペシャル)	講談社	1
193	4_作業療法学	1546	1_冊子	おとなの発達症のための医療系支援のヒント	星和書店	1
194	4_作業療法学	1547	1_冊子	境界性パーソナリティ障害=BPD: はれものにさわるような毎日をすごしている方々へ, 第2版	星和書店	1
195	4_作業療法学	1548	1_冊子	自閉症:ありのままに生きる: 未知なる心に寄り添い未知ではない心に	星和書店	1
196	4_作業療法学	1549	1_冊子	発達障害の精神病理: 1	星和書店	1

購入図書明細書（1年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
197	4_作業療法学	1550	1_冊子	自閉症遺伝子: 見つからない遺伝子をめぐって	中央公論新社	1
198	4_作業療法学	1551	1_冊子	自閉症もうひとつの見方:「自分自身」になるために	福村出版	1
199	4_作業療法学	1552	1_冊子	精神科デイケア学: 治療の構造とケアの方法	エム・シー・ミューズ	1
200	4_作業療法学	1553	1_冊子	さすらいの統合失調症対応・支援	プリメド社	1
201	4_作業療法学	1554	1_冊子	統合失調症: 1（精神医学重要文献シリーズHeritage）	みすず書房	1
202	4_作業療法学	1555	1_冊子	中井久夫と考える患者シリーズ: 2 統合失調症をほどく	ラグーナ出版	1
203	4_作業療法学	1556	1_冊子	“脳と心”からみた統合失調症の理解	医学書院	1
204	4_作業療法学	1557	1_冊子	統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害群（DSM-5セレクションズ）	医学書院	1
205	4_作業療法学	1558	1_冊子	統合失調症: 第1巻 当事者・家族がうれしい治療実践	医薬ジャーナル社	1
206	4_作業療法学	1559	1_冊子	統合失調症: 第2巻 当事者・家族に理解・評価してもらえた治療説明	医薬ジャーナル社	1
207	4_作業療法学	1560	1_冊子	統合失調症: 第3巻 効果のみられたチーム医療	医薬ジャーナル社	1
208	4_作業療法学	1561	1_冊子	統合失調症: 第4巻 わかってきた統合失調症治療	医薬ジャーナル社	1
209	4_作業療法学	1562	1_冊子	統合失調症: 第5巻 社会の中の統合失調症	医薬ジャーナル社	1
210	4_作業療法学	1563	1_冊子	家族のための統合失調症入門, 改訂版	河出書房新社	1
211	4_作業療法学	1564	1_冊子	統合失調症探究: 構造の中の主体性	岩崎学術出版社	1
212	4_作業療法学	1565	1_冊子	統合失調症の精神分析: 心的装置の「無底」と根源的アイデンティティ	金剛出版	1
213	4_作業療法学	1566	1_冊子	こころは内臓である: スキゾフレニアを腑分けする（講談社選書メチエ 667）	講談社	1
214	4_作業療法学	1567	1_冊子	統合失調症を生きる: 精神薬理学から人間学へ	新興医学出版社	1
215	4_作業療法学	1568	1_冊子	リカバリーをめざす統合失調症の認知行動療法ワークブック: 私の「ふつう」を取り戻すための技法を学ぶ	星和書店	1
216	4_作業療法学	1570	1_冊子	統合失調症からの回復を支える: 心理教育・地域生活支援・パートナーシップ	星和書店	1
217	4_作業療法学	1571	1_冊子	統合失調症の病態心理: 要説：状況意味失認－内因反応仮説	星和書店	1
218	4_作業療法学	1573	1_冊子	命令幻聴の認知行動療法	星和書店	1
219	4_作業療法学	1574	1_冊子	統合失調症の治療ポイント: 14の治癒例を通しての理解	創元社	1
220	4_作業療法学	1575	1_冊子	ホモ・ロクェンスの病: 言葉の処方と精神医学	日本評論社	1
221	4_作業療法学	1576	1_冊子	統合失調症の回復とはどういうことか（こころの科学叢書）	日本評論社	1
222	4_作業療法学	1577	1_冊子	「統合失調症」の本態を探る: 哲学まで進歩する精神病理学と科学として開かれた脳科学である認知行動	風詠社	1
223	4_作業療法学	1578	1_冊子	うつ病薬物治療のエクセレンス: ミルナシプランの治療経験からみえてくるもの	アルタ出版	1
224	4_作業療法学	1579	1_冊子	21世紀の新型うつ病:「非定型」うつ病との向き合い方	ぎょうせい	1
225	4_作業療法学	1580	1_冊子	YMRSを使いこなす	じほう	1
226	4_作業療法学	1581	1_冊子	うつ病臨床のエッセンス, 新装版	みすず書房	1
227	4_作業療法学	1582	1_冊子	心の疲労と画像で向き合う: PART2 うつの画像情報を見て治療する	みずほ出版新社	1
228	4_作業療法学	1583	1_冊子	女性のうつ病: ライフステージからみた理解と対応	メディカル・サイエンス・インター	1
229	4_作業療法学	1584	1_冊子	気分障害治療ガイドライン, 第2版	医学書院	1

購入図書明細書（1年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
230	4_作業療法学	1585	1_冊子	多様化したうつ病をどう診るか（精神科臨床エキスパート）	医学書院	1
231	4_作業療法学	1586	1_冊子	うつ病臨床のこんな疑問に答える: 脳科学からのアプローチ（DEPRESSION FRONTIER 2）	医薬ジャーナル社	1
232	4_作業療法学	1587	1_冊子	医師と患者・家族をつなぐうつ病のABC: 早期発見・早期治療のために	医薬ジャーナル社	1
233	4_作業療法学	1588	1_冊子	日常診療におけるうつ病治療指針: うつ病を見逃さない	医薬ジャーナル社	1
234	4_作業療法学	1589	1_冊子	双極性障害の認知行動療法	岩崎学術出版社	1
235	4_作業療法学	1590	1_冊子	「うつ」からの回復：新しい心理社会療法	金剛出版	1
236	4_作業療法学	1591	1_冊子	うつ病治療ハンドブック: 診療のコツ	金剛出版	1
237	4_作業療法学	1592	1_冊子	双極性障害（エビデンス・ベイスト心理療法シリーズ1）	金剛出版	1
238	4_作業療法学	1593	1_冊子	未熟型うつ病と双極スペクトラム: 気分障害の包括的理解に向けて	金剛出版	1
239	4_作業療法学	1594	1_冊子	「うつ」の舞台	弘文堂	1
240	4_作業療法学	1595	1_冊子	医者を悩ます「ニュータイプなうつ病」がわかる本（こころライブラリー）	講談社	1
241	4_作業療法学	1596	1_冊子	「社会的うつ病」の治し方: 人間関係をどう見直すか（新潮選書）	新潮社	1
242	4_作業療法学	1597	1_冊子	HAMDを使いこなす: ハミルトンうつ病評価尺度（HAMD）の解説と利用の手引き	星和書店	1
243	4_作業療法学	1598	1_冊子	うつ病診療における精神療法：10分間で何ができるか	星和書店	1
244	4_作業療法学	1599	1_冊子	精神病性うつ病: 病態の見立てと治療	星和書店	1
245	4_作業療法学	1600	1_冊子	双極性障害の生物学的治療ガイドライン：躁病急性期の治療: WFSBP（生物学的精神医学会世界連合）	星和書店	1
246	4_作業療法学	1601	1_冊子	単極性うつ病の生物学的治療ガイドライン: WFSBP（生物学的精神医学会世界連合）版: 第1部 大うつ病	星和書店	1
247	4_作業療法学	1602	1_冊子	双極性障害のすべて: 患者・家族・治療者のためのガイドブック	誠信書房	1
248	4_作業療法学	1603	1_冊子	うつを克服するためのポジティブサイコロジー練習帳	創元社	1
249	4_作業療法学	1604	1_冊子	現代うつ病の臨床: その多様な病態と自在な対処法	創元社	1
250	4_作業療法学	1605	1_冊子	うつ病治療の基礎知識（筑摩選書 0085）	筑摩書房	1
251	4_作業療法学	1606	1_冊子	鬱病のための食事と栄養療法	東洋出版	1
252	4_作業療法学	1607	1_冊子	うつ病の誤解と偏見を斬る	日本評論社	1
253	4_作業療法学	1608	1_冊子	うつ病医療の危機	日本評論社	1
254	4_作業療法学	1609	1_冊子	メンタルヘルスへのアプローチ: 臨床心理学,社会心理学,精神医学を融合して	ナカニシヤ出版	1
255	4_作業療法学	1610	1_冊子	災害時のこころのケア: サイコロジカル・ファーストエイド実施の手引き	医学書院	1
256	4_作業療法学	1611	1_冊子	精神保健サービス実践ガイド	日本評論社	1
257	4_作業療法学	1613	1_冊子	学校関係者のためのDSM-5	医学書院	1
258	4_作業療法学	1614	1_冊子	専門医から学ぶ児童・青年期患者の診方と対応（精神科臨床エキスパート）	医学書院	1
259	4_作業療法学	1615	1_冊子	ライブ講義発達障害の診断と支援	岩崎学術出版社	1
260	4_作業療法学	1616	1_冊子	発達障害の薬物療法: ASD・ADHD・複雑性PTSDへの少量処方	岩崎学術出版社	1
261	4_作業療法学	1617	1_冊子	子どもと大人の心の架け橋: 心理療法の原則と過程, 新訂増補	金剛出版	1
262	4_作業療法学	1618	1_冊子	児童青年精神医学セミナー: 1	金剛出版	1

購入図書明細書（1年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
263	4_作業療法学	1619	1_冊子	発達を支える!子どものリハビリテーション	三輪書店	1
264	4_作業療法学	1620	1_冊子	ハイパーアクティブ:ADHDの歴史はどう動いたか	星和書店	1
265	4_作業療法学	1621	1_冊子	思春期の精神科面接ライブ: こころの診察室から	星和書店	1
266	4_作業療法学	1622	1_冊子	発達障害領域の作業療法 (クリニカル作業療法シリーズ)	中央法規出版	1
267	4_作業療法学	1623	1_冊子	杉山登志郎著作集: 1 自閉症の精神病理と治療	日本評論社	1
268	4_作業療法学	1624	1_冊子	発達支援のむこうとこちら (こころの科学叢書)	日本評論社	1
269	4_作業療法学	1625	1_冊子	子どものこころ医療ネットワーク: 小児科＆精神科in埼玉 (メンタルヘルス・ライブラリー 29)	批評社	1
270	4_作業療法学	1626	1_冊子	自閉症回復への道しるべ: ニュートリジェノミックスによる自閉症回復へのガイドブック	ガイアブックス	1
271	4_作業療法学	1628	1_冊子	自閉症治療の臨床マニュアル	明石書店	1
272	4_作業療法学	1629	1_冊子	精神腫瘍学クリニカルエッセンス	新樹会創造出版	1
273	4_作業療法学	1630	1_冊子	カナダモデルで読み解く作業療法	シービーアール	1
274	4_作業療法学	1631	1_冊子	作業学, 改訂第2版 (作業療法学ゴールド・マスター・テキスト)	メジカルビュー社	1
275	4_作業療法学	1632	1_冊子	作業療法管理学入門	医歯薬出版	1
276	4_作業療法学	1634	1_冊子	手を診る力をきたえる	三輪書店	1
277	4_作業療法学	1635	1_冊子	福祉用具・住環境整備の作業療法 (クリニカル作業療法シリーズ)	中央法規出版	1
278	4_作業療法学	1636	1_冊子	OT症例レポート赤ペン添削ビフォー＆アフター	羊土社	1
279	4_作業療法学	1637	1_冊子	変われるのか?病院、地域: 精神保健福祉法改正を受けて (精神保健フォーラム 第7回)	批評社	1
280	4_作業療法学	1639	1_冊子	精神病院時代の終焉: 当事者主体の支援に向かって	晃洋書房	1
281	4_作業療法学	1640	1_冊子	医療・看護・介護のための睡眠検定ハンドブック	全日本病院出版会	1
282	4_作業療法学	1641	1_冊子	運動とメンタルヘルス: 心の健康に運動はどう関わるか	杏林書院	1
283	4_作業療法学	1642	1_冊子	マインドフルネスで不安と向き合う: 不安から自由になり,人生をとりもどす	星和書店	1
284	4_作業療法学	1643	1_冊子	「職場うつ」からの再生	金剛出版	1
285	4_作業療法学	1645	1_冊子	統合失調症犯罪研究	金剛出版	1
286	4_作業療法学	1646	1_冊子	臨床医のための司法精神医学入門	新興医学出版社	1
287	4_作業療法学	1647	1_冊子	詐病と精神鑑定	東京大学出版会	1
288	4_作業療法学	1648	1_冊子	ゆび織りで作るマフラー＆ショール: 編まずにざくざく、道具いらずで簡単にできる	河出書房新社	1
289	4_作業療法学	1649	1_冊子	はじめての手織りレッスン: 卓上織機の基本や糸の種類、織り方をわかりやすく解説	誠文堂新光社	1
290	4_作業療法学	1650	1_冊子	手織り大全: 織機の分類から織り図の見方・技法まですべてがわかる	誠文堂新光社	1
291	4_作業療法学	1651	1_冊子	こだわりの陶芸: だれも教えてくれなかった技法 (カルチャーシリーズ普及版)	グラフィック社	1
292	4_作業療法学	1652	1_冊子	陶芸をはじめよう: 陶芸入門講座: 材料・道具篇 土・ロクロ・釉薬・装飾道具を使いこなそう	阿部出版	1
293	4_作業療法学	1653	1_冊子	ゼロからの陶芸入門: コツをつかんで上達しよう	誠文堂新光社	1
294	4_作業療法学	1654	1_冊子	はじめてのオーブン陶芸: キッチンでつくるかわいい器	誠文堂新光社	1
295	4_作業療法学	1655	1_冊子	疑問に答える逆引陶芸技法: Q＆A276例・満載!	誠文堂新光社	1

購入図書明細書（1年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
296	4_作業療法学	1656	1_冊子	手びねりでつくる茶と花の器: 陶芸	誠文堂新光社	1
297	4_作業療法学	1657	1_冊子	陶芸 銅・マンガン・クロムを使った装飾技法: 金属顔料で新しい色彩表現に挑む	誠文堂新光社	1
298	4_作業療法学	1658	1_冊子	陶芸ろくろ成形のツボ: イラスト解説	誠文堂新光社	1
299	4_作業療法学	1659	1_冊子	陶芸道場: イラスト解説: 手びねり＆装飾の巻	誠文堂新光社	1
300	4_作業療法学	1660	1_冊子	練込・陶芸技法を極める: 陶土から磁土まで秘技公開	誠文堂新光社	1
301	4_作業療法学	1661	1_冊子	らくらく七輪陶芸塾: 成形から焼成まで	日東書院本社	1
302	4_作業療法学	1662	1_冊子	やさしい陶芸絵付け鉄絵の描き方: 酸化焼成で新しい表現 オリジナル図案付き	誠文堂新光社	1
303	4_作業療法学	1663	1_冊子	ちまっとかわいいメモ折り紙: 気持ちを伝えるアイデアがいっぱい!	PHP研究所	1
304	4_作業療法学	1664	1_冊子	遊ぶ!飾る!かわいい!折り紙ドールハウス: お屋敷・オープンカフェ・教会・クローゼット・食器etc.	PHP研究所	1
305	4_作業療法学	1665	1_冊子	おりがみ指人形オリパペ: 切らずに1枚で折る	エムディエヌコーポレーション	1
306	4_作業療法学	1666	1_冊子	切らずに1枚で折る爬虫類・両生類折り紙	エムディエヌコーポレーション	1
307	4_作業療法学	1667	1_冊子	クリエイティブ折り紙: 妖怪と干支と可愛い動物たち	ソシム	1
308	4_作業療法学	1668	1_冊子	暮らしを彩る四季のユニットおりがみ飾り	ナツメ社	1
309	4_作業療法学	1669	1_冊子	四季を彩るすてきなユニット折り紙: 作って飾れる64種（コツがわかる本）	メイツ出版	1
310	4_作業療法学	1670	1_冊子	リアル折り紙: 1枚の紙からつくる驚きのアート: 空を飛ぶ生きもの編	河出書房新社	1
311	4_作業療法学	1671	1_冊子	折り花: 折り紙でつくる四季の素敵な花々	河出書房新社	1
312	4_作業療法学	1672	1_冊子	折り紙を愉しむ: 木版本『折紙模様』を折る	芸艸堂	1
313	4_作業療法学	1673	1_冊子	季節のおりがみ花飾り: 折って切って簡単カワイイ♥	講談社	1
314	4_作業療法学	1674	1_冊子	かわいいどうぶつ折り紙	主婦と生活社	1
315	4_作業療法学	1675	1_冊子	大人の箸袋おりがみ: コミュ力が必ず上がる!	主婦の友社	1
316	4_作業療法学	1676	1_冊子	素敵なおりがみ雑貨: リビング・食卓を彩るインテリア雑貨、楽しく使えるステーショナリー全54作品を紹介	新星出版社	1
317	4_作業療法学	1677	1_冊子	実用おりがみ: 暮らしと四季を優雅に楽しむ	成美堂出版	1
318	4_作業療法学	1678	1_冊子	おりがみで作る入れ子の箱: さまざまな形の箱を組み合わせて楽しむ	誠文堂新光社	1
319	4_作業療法学	1679	1_冊子	おりがみ器をおる（こだわりおりがみ）	誠文堂新光社	1
320	4_作業療法学	1680	1_冊子	くす玉おりがみ花切子（おりがみ工房）	誠文堂新光社	1
321	4_作業療法学	1681	1_冊子	花のおりがみ（おりがみ倶楽部）	誠文堂新光社	1
322	4_作業療法学	1682	1_冊子	器のおりがみ: 暮らしで使える36作品（おりがみ倶楽部）	誠文堂新光社	1
323	4_作業療法学	1683	1_冊子	恐竜のおりがみ（おりがみ倶楽部）	誠文堂新光社	1
324	4_作業療法学	1684	1_冊子	犬のおりがみ: 犬の専門家が折る簡単だけどリアルな21種類（おりがみ倶楽部）	誠文堂新光社	1
325	4_作業療法学	1685	1_冊子	節句のおりがみ: お雛様、兜、七夕飾りなど五節句で使える40点（おりがみ倶楽部）	誠文堂新光社	1
326	4_作業療法学	1686	1_冊子	虫のおりがみ: おりがみ倶楽部	誠文堂新光社	1
327	4_作業療法学	1687	1_冊子	動物のおりがみ（おりがみ倶楽部）	誠文堂新光社	1
328	4_作業療法学	1688	1_冊子	包みと袋のおりがみ: 手紙やお礼を入れる・包む、便利な折り方76点	誠文堂新光社	1

購入図書明細書（1年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
329	4_作業療法学	1689	1_冊子	折り紙への招待: 創造のための基本テクニック	創元社	1
330	4_作業療法学	1690	1_冊子	暮らしを彩る京風おりがみ	淡交社	1
331	4_作業療法学	1691	1_冊子	気軽に楽しめるかわいい折り紙アクセサリー	池田書店	1
332	4_作業療法学	1692	1_冊子	おしゃれでかわいい折り紙＆小物: いつもの暮らしにカワイイをちょい足し	日東書院本社	1
333	4_作業療法学	1693	1_冊子	おりがみ幻想世界の生きものたち: 伝説・神話・ファンタジーを折る	日貿出版社	1
334	4_作業療法学	1694	1_冊子	フレーベルに学ぶ模様折り紙: 工夫と発見が楽しい!	日貿出版社	1
335	4_作業療法学	1695	1_冊子	ユニット折り紙ワンダーランド: つなげる、組み込む、変身させる－立体の相互関係を楽しむ（布施知子の	日貿出版社	1
336	4_作業療法学	1696	1_冊子	食べる・動かす・もてなす折り紙: 遊び心をくすぐる32作例	日貿出版社	1
337	4_作業療法学	1697	1_冊子	遊んで飾って使える折り紙: 暮らしの小物から楽しいおもちゃまで	日貿出版社	1
338	4_作業療法学	1698	1_冊子	おりがみパズル: かんたんなパーツを組み合わせて作る思いもよらない楽しい模様	日本ヴォーグ社	1
339	4_作業療法学	1699	1_冊子	季節のおりがみ壁飾り: 折ってつないで作る	日本ヴォーグ社	1
340	4_作業療法学	1700	1_冊子	鶴のおりがみ: Paper cranes (NOA BOOKS)	日本折紙協会	1
341	4_作業療法学	1701	1_冊子	かならず作れる美しいユニット折り紙: 全作品に組み方のポイント解説つき	日本文芸社	1
342	4_作業療法学	1702	1_冊子	誰でもかんたんにできるくす玉ユニット折り紙: 全41作品の折り方、組み方がわかりやすい!	日本文芸社	1
343	4_作業療法学	1703	1_冊子	ヌメ革クラフトハンドブック: エイジング、染色、金具つけ。基礎から応用までわかるレザークラフトの入門書	グラフィック社	1
344	4_作業療法学	1704	1_冊子	A4サイズの切り革で作るレザークラフト, 増補・改訂版 (Step Up Series)	スタジオタッククリエイティブ	1
345	4_作業療法学	1705	1_冊子	かわいい手作りの革小物: 簡単に作れる革の小物	スタジオタッククリエイティブ	1
346	4_作業療法学	1706	1_冊子	はじめてのレザークラフト: HAND SEWING LEATHER CRAFT	スタジオタッククリエイティブ	1
347	4_作業療法学	1707	1_冊子	レザーカービングの技法: LEATHER CARVING TECHNIQUES: フィギュアカービング編 (Professional	スタジオタッククリエイティブ	1
348	4_作業療法学	1708	1_冊子	レザークラフトの基本講座: 型紙＆製作手順9アイテム (Beginner Series)	スタジオタッククリエイティブ	1
349	4_作業療法学	1709	1_冊子	ワンデーレザークラフト: One Day Leather Craft: ケース・ポーチ・バッグ編	スタジオタッククリエイティブ	1
350	4_作業療法学	1710	1_冊子	革で作るステーショナリー: 楽しみながら作るしゃれた革小物	スタジオタッククリエイティブ	1
351	4_作業療法学	1711	1_冊子	革の編みとかがり: LEATHER BRAIDING＆LACING	スタジオタッククリエイティブ	1
352	4_作業療法学	1712	1_冊子	自分で作るすてきな革小物	スタジオタッククリエイティブ	1
353	4_作業療法学	1713	1_冊子	手縫いで作るサンダルとスリッパ: Leather Craft, 増補・改訂版	スタジオタッククリエイティブ	1
354	4_作業療法学	1714	1_冊子	手縫いの革小物: 今日作って、明日使える	マイナビ出版	1
355	4_作業療法学	1715	1_冊子	レザークラフトの便利帳: 革のすべてを知って作る	誠文堂新光社	1
356	4_作業療法学	1716	1_冊子	いちばんよくわかるはじめての革手縫い	日本ヴォーグ社	1
357	4_作業療法学	1717	1_冊子	スポーツ精神医学	診断と治療社	1
358	4_作業療法学	1718	1_冊子	作業療法の面接技術: ストーリーの共有を目指して	三輪書店	1
359	4_作業療法学	1719	1_冊子	広汎性発達障害の作業療法: 根拠と実践	三輪書店	1
360	4_作業療法学	1720	1_冊子	作業療法評価のエッセンス（作業療法ケースブック）	医歯薬出版	1
361	4_作業療法学	1721	2_電子	かくれ躁うつ病が増えている: なかなか治らない心の病気　電子書籍〈同時アクセス1〉	法研	1

購入図書明細書（1年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
362	4_作業療法学	1722	2_電子	実例でわかる介護老人保健施設利用の手引き: 老健の赤ひげ先生が教える　電子書籍<同時アクセス1>	法研	1
363	4_作業療法学	1723	2_電子	おとぎの国の夢折り紙　電子書籍<同時アクセス1>	朝日出版社	1
364	4_作業療法学	1724	2_電子	双極Ⅱ型障害という病　電子書籍<同時アクセス1>	勉誠出版	1
365	4_作業療法学	1725	2_電子	自己愛危機サバイバル: 摂食障害・醜形恐怖症・自己臭恐怖症の克服・治療　電子書籍<同時アクセ	中外医学社	1
366	4_作業療法学	1726	2_電子	自律神経失調症を知ろう　電子書籍<同時アクセス1>	南山堂	1
367	4_作業療法学	1727	2_電子	もしも「死にたい」と言われたら: 自殺リスクの評価と対応　電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
368	4_作業療法学	1728	2_電子	精神医療・診断の手引き: DSM-Ⅲはなぜ作られ、DSM-5はなぜ批判されたか　電子書籍<同時アク	金剛出版	1
369	4_作業療法学	1729	2_電子	誰にでもできる薬物依存症の診かた　電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
370	4_作業療法学	1730	2_電子	音楽に癒され,音楽で癒す: 音楽療法と精神医学/音楽創造　電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
371	4_作業療法学	1731	2_電子	統合失調症とのつきあい方: 対人援助職の仕事術, 新訂　電子書籍<同時アクセス1>	金剛出版	1
372	4_作業療法学	1732	2_電子	悪性症候群とその周辺疾患　電子書籍<同時アクセス1>	新興医学出版社	1
373	4_作業療法学	1733	2_電子	新・精神科デイケアQ&A　電子書籍<同時アクセス1>	中央法規出版	1
374	4_作業療法学	1734	2_電子	技を育む (精神医学の知と技)　電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
375	4_作業療法学	1735	2_電子	統合失調症: 第7巻 統合失調症と身体の健康　電子書籍<同時アクセス1>	医薬ジャーナル社	1
376	4_作業療法学	1736	2_電子	統合失調症: 第6巻 統合失調症のライフスタイル　電子書籍<同時アクセス1>	医薬ジャーナル社	1
377	4_作業療法学	1737	2_電子	統合失調症: 第8巻 患者さんの希望を社会資源につなげる　電子書籍<同時アクセス1>	医薬ジャーナル社	1
378	4_作業療法学	1738	2_電子	薬物依存とアディクション精神医学: SUBSTANCE USE AND ADDICTIVE DISORDER　電子書籍<同	金剛出版	1
379	4_作業療法学	1739	2_電子	クイズあなたならどう診る!?ジェネラリストのための精神症状: おまけ歌舞伎にも強くなる　電子書籍<同時	金芳堂	1
380	4_作業療法学	1740	2_電子	レジリアンスモデルによる統合失調症のサイコエデュケーション: チームで実践!, 改訂版　電子書籍<同	医薬ジャーナル社	1
381	4_作業療法学	1741	2_電子	精神と栄養: メンタルヘルスの新たな視点　電子書籍<同時アクセス1>	医薬ジャーナル社	1
382	4_作業療法学	1742	2_電子	自閉スペクトラム症の医療・療育・教育, 新版　電子書籍<同時アクセス1>	金芳堂	1
383	4_作業療法学	1743	2_電子	幻想としての〈私〉: アスペルガー的人間の時代　電子書籍<同時アクセス1>	勁草書房	1
384	4_作業療法学	1744	2_電子	精神科医遍歴五十年: 臨床精神医学の経験に学ぶ (精神医学の知と技)　電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
385	4_作業療法学	1745	2_電子	摂食障害治療最前線: NICEガイドラインを実践に活かす　電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
386	4_作業療法学	1746	2_電子	同時代の精神病理: ポリフォニーとしてのモダンをどう生きるか　電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
387	4_作業療法学	1747	2_電子	事例カンファレンスで学ぶ高次脳機能障害リハビリテーション: よりよい支援のためのヒント　電子書籍	三輪書店	1
388	4_作業療法学	1748	2_電子	子どもの不安障害と抑うつ (子どもの心の診療シリーズ 4)　電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
389	4_作業療法学	1749	2_電子	解離する生命　電子書籍<同時アクセス1>	みすず書房	1
390	4_作業療法学	1750	2_電子	統合失調症ケーススタディー: 症例が導く社会復帰・QOL向上への道 (Case Library Series)　電子書籍	メディカルレビュー社	1
391	4_作業療法学	1751	2_電子	さあ!やってみよう集団認知行動療法: うつ・不安への支援のために　電子書籍<同時アクセス1>	医学映像教育センター	1
392	4_作業療法学	1752	2_電子	POCKET精神科, 改訂2版　電子書籍<同時アクセス1>	金芳堂	1
393	4_作業療法学	1753	2_電子	統合失調症 (インフォームドコンセントのための図説シリーズ)　電子書籍<同時アクセス1>	医薬ジャーナル社	1
394	4_作業療法学	1754	2_電子	スウェーデンの精神科医療改革　電子書籍<同時アクセス1>	マイナビ出版	1

購入図書明細書（1年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
395	4_作業療法学	1755	2_電子	本当にわかる精神科の薬はじめの一歩: 具体的な処方例で経過に応じた薬物療法の考え方が身につく!,	羊土社	1
396	4_作業療法学	1756	2_電子	こうすればうまくいく!精神科臨床はじめの一歩　電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
397	4_作業療法学	1757	2_電子	自殺の危険: 臨床的評価と危機介入, 第3版　電子書籍<同時アクセス1>	金剛出版	1
398	4_作業療法学	1758	2_電子	神経症候障害学: 病態とエビデンスに基づく治療と理学療法　電子書籍<同時アクセス1>	文光堂	1
399	4_作業療法学	1759	2_電子	DSM-5を読み解く: 伝統的精神病理,DSM-Ⅳ,ICD-10をふまえた新時代の精神科診断: 2 統合失調症ス	中山書店	1
400	4_作業療法学	1760	2_電子	DSM-5を読み解く: 伝統的精神病理,DSM-Ⅳ,ICD-10をふまえた新時代の精神科診断: 5 神経認知障害	中山書店	1
401	4_作業療法学	1761	2_電子	メンタルクリニックでの薬物療法・身体療法の進め方(外来精神科診療シリーズ part1)　電子書籍<同時	中山書店	1
402	4_作業療法学	1762	2_電子	メンタルクリニックでの主要な精神疾患への対応: 1 発達障害,児童・思春期,てんかん,睡眠障害,認知症	中山書店	1
403	4_作業療法学	1763	2_電子	メンタルクリニックのこれからを考える(外来精神科診療シリーズ part3)　電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
404	4_作業療法学	1764	2_電子	精神医学エッセンシャル・コーパス: 日本の名著論文選集: 1 精神医学を学ぶ　電子書籍<同時アクセス	中山書店	1
405	4_作業療法学	1765	2_電子	精神医学キーワード事典　電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
406	4_作業療法学	1766	2_電子	精神科診療データブック　電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
407	4_作業療法学	1767	2_電子	脳とこころのプライマリケア: Primary Care in Psychiatry and Brain Science: 7 食事と性　電子書	シナジー	1
408	4_作業療法学	1768	2_電子	脳とこころのプライマリケア: Primary Care in Psychiatry and Brain Science: 2 知能の衰え　電	シナジー	1
409	4_作業療法学	1769	2_電子	脳とこころのプライマリケア: Primary Care in Psychiatry and Brain Science: 8 依存　電子書籍<	シナジー	1
410	4_作業療法学	1770	2_電子	脳とこころのプライマリケア: Primary Care in Psychiatry and Brain Science: 1 うつと不安　電子	シナジー	1
411	4_作業療法学	1771	2_電子	脳とこころのプライマリケア: Primary Care in Psychiatry and Brain Science: 4 子どもの発達と行動	シナジー	1
412	4_作業療法学	1772	2_電子	睡眠マネジメント: 産業衛生・疾病との係わりから最新改善対策まで　電子書籍<同時アクセス1>	エヌ・ティー・エス	1
413	4_作業療法学	1773	2_電子	脳とこころのプライマリケア: Primary Care in Psychiatry and Brain Science: 5 意識と睡眠　電子	シナジー	1
414	4_作業療法学	1774	2_電子	高次脳機能障害領域の作業療法 ―プログラム立案のポイント―(クリニカル作業療法シリーズ)　電子	中央法規出版	1
415	4_作業療法学	1775	2_電子	日常生活活動の作業療法(クリニカル作業療法シリーズ)　電子書籍<同時アクセス1>	中央法規出版	1
416	4_作業療法学	1776	2_電子	作業療法のクリニカル・クラークシップ「CCS」ガイド ―今こそ変えよう臨床実習!―　電子書籍<同時アク	三輪書店	1
417	4_作業療法学	1777	2_電子	作業療法実践の仕組み 事例編　電子書籍<同時アクセス1>	協同医書出版社	1
418	4_作業療法学	1783	1_冊子	Blueprints Psychiatry, 6th ed.	Lippincott Williams &	1
419	4_作業療法学	1784	1_冊子	Depression, 3rd ed. (Oxford Psychiatry Library Series)	Oxford U.P.	1
420	4_作業療法学	1785	1_冊子	Lewis's Child and Adolescent Psychiatry: A Comprehensive Textbook, 5th ed.	Lippincott Williams &	1
421	4_作業療法学	1786	1_冊子	Pediatric Skills for Occupational Therapy Assistants, 4th ed.	Mosby	1
422	4_作業療法学	1787	1_冊子	Theoretical Basis of Occupational Therapy, 3rd ed.	Slack, Inc.	1
423	5_電子ジャーナル	9001	5_電子ジャーナル	総合リハビリテーション　1973年(創刊号)～／医学書院／医学書院・MedicalFinder	医学書院	1
424	5_電子ジャーナル	9002	5_電子ジャーナル	理学療法ジャーナル　1967年(創刊号)～／医学書院／医学書院・MedicalFinder	医学書院	1
425	5_電子ジャーナル	9003	5_電子ジャーナル	BRAIN and NERVE　2007年～／医学書院／医学書院・MedicalFinder	医学書院	1
426	5_電子ジャーナル	9004	5_電子ジャーナル	臨床整形外科　2000年～／医学書院／医学書院・MedicalFinder	医学書院	1
427	5_電子ジャーナル	9005	5_電子ジャーナル	作業療法ジャーナル　2013年～／三輪書店／医学書院・MedicalFinder	三輪書店	1

購入図書明細書（1年次）

No.	領域	ID 〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
428	5_電子ジャーナル	9006	5_電子ジャーナル	脊椎脊髄ジャーナル　2015年～／三輪書店／医学書院・MedicalFinder	三輪書店	1
429	5_電子ジャーナル	9007	5_電子ジャーナル	地域リハビリテーション　2015年～／三輪書店／医学書院・MedicalFinder	三輪書店	1
430	5_電子ジャーナル	9008	5_電子ジャーナル	Cancer Board Square　2015年～／医学書院／医学書院・MedicalFinder	医学書院	1
				合計		430

購入図書明細書（2年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
1	1_基礎分野・周辺領域	1788	1_冊子	世界で一番美しい人体図鑑	エクスナレッジ	1
2	1_基礎分野・周辺領域	1789	1_冊子	からだの地図帳: The Atlas of the Human Body, 新版	講談社	1
3	1_基礎分野・周辺領域	1791	1_冊子	カラー写真で学ぶ骨・関節の機能解剖	医歯薬出版	1
4	1_基礎分野・周辺領域	1792	1_冊子	医療系学生のための図解生理学TEXT＆NOTE	診断と治療社	1
5	1_基礎分野・周辺領域	1793	1_冊子	臨床病態学: 総論, 第2版	ヌーヴェルヒロカワ	1
6	1_基礎分野・周辺領域	1794	1_冊子	臨床病態学: 3, 第2版	ヌーヴェルヒロカワ	1
7	1_基礎分野・周辺領域	1797	2_電子	実践!がんのリハビリテーション　電子書籍<同時アクセス1>	メヂカルフレンド社	1
8	1_基礎分野・周辺領域	1798	2_電子	生命倫理の基本概念（シリーズ生命倫理学 2）電子書籍<同時アクセス1>	丸善出版	1
9	1_基礎分野・周辺領域	1799	2_電子	安楽死・尊厳死（シリーズ生命倫理学 5）　電子書籍<同時アクセス1>	丸善出版	1
10	1_基礎分野・周辺領域	1800	2_電子	高齢者・難病患者・障害者の医療福祉（シリーズ生命倫理学 8）　電子書籍<同時アクセス1>	丸善出版	1
11	1_基礎分野・周辺領域	1801	2_電子	遺伝子と医療（シリーズ生命倫理学 11）　電子書籍<同時アクセス1>	丸善出版	1
12	1_基礎分野・周辺領域	1802	2_電子	看護倫理（シリーズ生命倫理学 14）　電子書籍<同時アクセス1>	丸善出版	1
13	1_基礎分野・周辺領域	1803	2_電子	医療制度・医療政策・医療経済（シリーズ生命倫理学 17）　電子書籍<同時アクセス1>	丸善出版	1
14	1_基礎分野・周辺領域	1804	2_電子	生命倫理のフロンティア（シリーズ生命倫理学 20）電子書籍<同時アクセス1>	丸善出版	1
15	1_基礎分野・周辺領域	1805	2_電子	医学英語表現辞典　電子書籍<同時アクセス1>	金芳堂	1
16	1_基礎分野・周辺領域	1806	2_電子	■ストレス百科事典　全5巻セット(分売不可)　電子書籍<同時アクセス1>	丸善出版	1
17	3_理学療法学	1816	2_電子	子どもの歩走跳: 筋電図からみた「体つくりの基本運動」　電子書籍<同時アクセス1>　電子書籍<同	歩行開発研究所	1
18	3_理学療法学	1817	2_電子	大田仁史の『ハビリス』を考える: リハビリ備忘録: 4 電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
19	3_理学療法学	1818	2_電子	漫画でみる生活期リハビリテーション　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
20	3_理学療法学	1819	2_電子	身体(カラダ)が求める運動とは何か: 法則性を活かした運動誘導　電子書籍<同時アクセス1>	文光堂	1
21	3_理学療法学	1820	2_電子	地域リハビリテーション論, Ver.7　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
22	3_理学療法学	1821	2_電子	死別の悲しみから立ち直るために（臨床死生学研究叢書 2）　電子書籍<同時アクセス1>	聖学院大学出版会	1
23	3_理学療法学	1822	2_電子	腰痛の病態別運動療法: 体幹筋機能向上プログラム 電子書籍<同時アクセス1>	文光堂	1
24	3_理学療法学	1823	2_電子	姿勢と歩行: 協調からひも解く　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
25	3_理学療法学	1824	2_電子	障害者のシーティング　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
26	3_理学療法学	1825	2_電子	PT・OTのための嚥下・栄養マネジメント: 明日から役立つ臨床の要点　電子書籍<同時アクセス1>	文光堂	1
27	3_理学療法学	1826	2_電子	手の運動を学ぶ: 手の役割と手の機能解剖との関係から運動を紐解き,臨床に活かす　電子書籍<同時	三輪書店	1
28	3_理学療法学	1827	2_電子	地域包括ケアにおけるPT・OTの役割: 個別地域ケア会議・介護予防事業から学ぶ　電子書籍<同時ア	文光堂	1
29	3_理学療法学	1828	2_電子	人間の運動学: ヒューマン・キネシオロジー　電子書籍<同時アクセス1>	協同医書出版社	1
30	3_理学療法学	1829	2_電子	リハビリのプロがすすめる健康寿命を延ばす1000冊 電子書籍<同時アクセス1>	日外アソシエーツ	1
31	3_理学療法学	1830	2_電子	手: その機能と解剖, 第6版　電子書籍<同時アクセス1>	金芳堂	1
32	3_理学療法学	2271	1_冊子	A Practical Approach to Musculoskeletal Medicine: Assessment, Diagnosis, Treatment, 4th ed.	Elsevier	1

購入図書明細書（2年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
33	3_理学療法学	2272	1_冊子	Core Topics in General & Emergency Surgery, 6th ed. (Companion to Specialist Surgical Practice)	Elsevier	1
34	3_理学療法学	2273	1_冊子	Mosby's Essential Sciences for Therapeutic Massage: Anatomy, Physiology, Biomechanics, and Pathology,	Mosby	1
35	3_理学療法学	2274	1_冊子	Pediatric Rehabilitation, Fifth Edition: Principles and Practice, 5th ed.	Demos Medical Publishing	1
36	3_理学療法学	2275	1_冊子	Sports and Soft Tissue Injuries: A Guide for Students and Therapists, 5th ed.	Routledge	1
37	4_作業療法学	1831	1_冊子	マインドケアフラワーセラピー: 認知症の予防、緩和に効果を示す	クリエイツかもがわ	1
38	4_作業療法学	1832	1_冊子	ケアする人も楽になる認知行動療法入門: BOOK1	医学書院	1
39	4_作業療法学	1833	1_冊子	リラクセーション法の理論と実際: ヘルスケア・ワーカーのための行動療法入門, 第2版	医歯薬出版	1
40	4_作業療法学	1834	1_冊子	家族・夫婦臨床の実践	金剛出版	1
41	4_作業療法学	1835	1_冊子	認知行動療法を提供する: クライアントとともに歩む実践家のためのガイドブック (Challenge the CBT)	金剛出版	1
42	4_作業療法学	1836	1_冊子	ACT〈アクセプタンス&コミットメント・セラピー〉ハンドブック: 臨床行動分析によるマインドフルなアプロー	星和書店	1
43	4_作業療法学	1837	1_冊子	自己変容をもたらすホールネスの実践: マインドフルネスと思いやりに満ちた統合療法	星和書店	1
44	4_作業療法学	1838	1_冊子	芸術と心理療法: 創造と実演から表現アートセラピーへ	誠信書房	1
45	4_作業療法学	1839	1_冊子	EMDRによる解離性障害・複雑性PTSDの治療: キャロル・フォーガッシュ講義録	二瓶社	1
46	4_作業療法学	1840	1_冊子	新世代の認知行動療法: The third-generation cognitive and behavioral therapies	日本評論社	1
47	4_作業療法学	1841	1_冊子	自閉症のある人のアニマルセラピー: 生活を豊かにする動物たちのちから	明石書店	1
48	4_作業療法学	1843	1_冊子	つながりから考える薬物依存症: 安心して失敗を語れる絆・居場所づくり	大修館書店	1
49	4_作業療法学	1844	1_冊子	リハビリおりがみ: 伝承おりがみから創作おりがみまで、きれいで簡単、楽しい60点 (高齢者のクラフトサロ	誠文堂新光社	1
50	4_作業療法学	1845	1_冊子	作業療法が生きる地域リハビリテーションのすすめ: いのち輝く生活の支援を目指して	シービーアール	1
51	4_作業療法学	1846	1_冊子	認知症短期集中リハビリテーションプログラムガイド	リベルタス・クレオ	1
52	4_作業療法学	1848	1_冊子	ダウン症のある成人に役立つメンタルヘルス・ハンドブック: 心理・行動面における強みと課題の手引き	遠見書房	1
53	4_作業療法学	1849	1_冊子	私の精神障害リハビリテーション論	金剛出版	1
54	4_作業療法学	1850	1_冊子	精神科リハビリテーション, 第2版	三輪書店	1
55	4_作業療法学	1851	1_冊子	精神科リハビリテーションの流儀: 援助者必携デイリーケアのエッセンス	文光堂	1
56	4_作業療法学	1852	1_冊子	不登校の児童・思春期精神医学, 増補	金剛出版	1
57	4_作業療法学	1853	1_冊子	発達性協調運動障害の評価と運動指導: 障害構造の理解に基づくアプローチ	ナップ	1
58	4_作業療法学	1854	1_冊子	自閉スペクトラム症の展開: 我が国における現状と課題	金剛出版	1
59	4_作業療法学	1855	1_冊子	ライフサイクルに沿った発達障害支援ガイドブック: 知ってほしい乳幼児から大人までのADHD・ASD・LD	診断と治療社	1
60	4_作業療法学	1857	1_冊子	緩和ケアにおける心理社会的問題	星和書店	1
61	4_作業療法学	1858	1_冊子	セックス・セラピー入門: 性機能不全のカウンセリングから治療まで	金原出版	1
62	4_作業療法学	1859	1_冊子	日本の睡眠学: 先達にきく	ライフ・サイエンス	1
63	4_作業療法学	1860	1_冊子	睡眠学: 1「眠り」の科学入門	北大路書房	1
64	4_作業療法学	1861	1_冊子	今日から実践!日常診療に役立つ行動医学・心身医学アプローチ (医学のあゆみBOOKS)	医歯薬出版	1

購入図書明細書（2年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
65	4_作業療法学	1862	1_冊子	エビデンスからみた森林浴のストレス低減効果と今後の展開: 心身健康科学の視点から	新興医学出版社	1
66	4_作業療法学	1863	1_冊子	レジリエンスを引き出す心療内科漢方入門	新興医学出版社	1
67	4_作業療法学	1864	1_冊子	内科患者のメンタルケアアプローチ: 循環器疾患編	新興医学出版社	1
68	4_作業療法学	1865	1_冊子	心身医学の最前線: 医療と心理療法の新たな展開 (アカデミア叢書)	創元社	1
69	4_作業療法学	1866	1_冊子	身体が語る心の声: 身体言語について	風詠社	1
70	4_作業療法学	1867	1_冊子	慢性疾患の認知行動療法: アドヒアランスとうつへのアプローチ	診断と治療社	1
71	4_作業療法学	1868	1_冊子	よくわかるSMARPP: あなたにもできる薬物依存者支援	金剛出版	1
72	4_作業療法学	1869	1_冊子	薬物依存症の回復支援ハンドブック: 援助者,家族,当事者への手引き	金剛出版	1
73	4_作業療法学	1870	1_冊子	CRAFT依存症者家族のための対応ハンドブック	金剛出版	1
74	4_作業療法学	1871	1_冊子	解離性障害とアルコール・薬物依存症を理解するためのセルフ・ワークブック	金剛出版	1
75	4_作業療法学	1872	1_冊子	アルコール・薬物依存症の再発予防ワークブック: ソブラエティを生きる	星和書店	1
76	4_作業療法学	1873	1_冊子	ぼくらのアルコール診療: シチュエーション別。困ったときの対処法	南山堂	1
77	4_作業療法学	1874	1_冊子	老年期の作業療法, 改訂第3版	三輪書店	1
78	4_作業療法学	1875	1_冊子	サイレンサー製作マニュアル: いびき・睡眠時無呼吸防止装置, 改訂版	永末書店	1
79	4_作業療法学	1876	1_冊子	見逃してはならないストレス診療チェックポイント: ストレスと戦うすばらしい心の力	医学と看護社	1
80	4_作業療法学	1878	1_冊子	「精神障害」とはなんだろう?: 「てんかん」からそのルーツをたずねて (「こころ学」シリーズ 1)	ジャパンマシニスト社	1
81	4_作業療法学	1879	1_冊子	史上最強図解これならわかる!精神医学: 基礎から学べる入門書	ナツメ社	1
82	4_作業療法学	1880	1_冊子	関係としての自己, 新装版	みすず書房	1
83	4_作業療法学	1881	1_冊子	再び「青年期」について (笠原嘉臨床論集)	みすず書房	1
84	4_作業療法学	1883	1_冊子	中井久夫集: 2 家族の表象	みすず書房	1
85	4_作業療法学	1884	1_冊子	中井久夫集: 5 執筆過程の生理学	みすず書房	1
86	4_作業療法学	1885	1_冊子	中井久夫集: 8 統合失調症とトラウマ	みすず書房	1
87	4_作業療法学	1886	1_冊子	腸内フローラとメンタルヘルス (腸内フローラシンポジウム 25)	ヤクルト・バイオサイエンス研究	1
88	4_作業療法学	1887	1_冊子	かかりつけ医のための精神症状対応ハンドブック	医学書院	1
89	4_作業療法学	1888	1_冊子	精神医学再考: 神経心理学の立場から (神経心理学コレクション)	医学書院	1
90	4_作業療法学	1889	1_冊子	精神病者私宅監置の実況: 現代語訳	医学書院	1
91	4_作業療法学	1891	1_冊子	リハビリテーションと精神医学	医歯薬出版	1
92	4_作業療法学	1892	1_冊子	不眠症治療のパラダイムシフト: ライフスタイル改善と効果的な薬物療法	医薬ジャーナル社	1
93	4_作業療法学	1893	1_冊子	精神科 (Simple Step SERIES)	海馬書房	1
94	4_作業療法学	1894	1_冊子	臨床脳科学: 心から見た脳 (脳と心のライブラリー)	岩崎学術出版社	1
95	4_作業療法学	1896	1_冊子	アンチスティグマの精神医学: メンタルヘルスへの挑戦	金剛出版	1
96	4_作業療法学	1897	1_冊子	語る記憶: 解離と語りの文化精神医学	金剛出版	1

購入図書明細書（2年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
97	4_作業療法学	1899	1_冊子	不眠の医療と心理援助: 認知行動療法の理論と実践	金剛出版	1
98	4_作業療法学	1900	1_冊子	保崎秀夫著作集: 1 心の病気とは何か/統合失調症の概念（ぐんま精神医学セレクション 1）	群馬病院出版会	1
99	4_作業療法学	1901	1_冊子	コレクティフ: サン・タンヌ病院におけるセミネール	月曜社	1
100	4_作業療法学	1902	1_冊子	現代精神医学事典: Encyclopedia of Contemporary Psychiatry, 縮刷版	弘文堂	1
101	4_作業療法学	1903	1_冊子	なぜ、日本の精神医療は暴走するのか	講談社	1
102	4_作業療法学	1905	1_冊子	Q&Aで理解する心の診察室	自由企画・出版	1
103	4_作業療法学	1906	1_冊子	精神医学・心理学・精神看護学辞典	照林社	1
104	4_作業療法学	1909	1_冊子	モデルで考える精神疾患	星和書店	1
105	4_作業療法学	1910	1_冊子	克服できるリストカット症候群	星和書店	1
106	4_作業療法学	1911	1_冊子	精神科教授の談話室	星和書店	1
107	4_作業療法学	1913	1_冊子	予防精神医学: 脆弱要因の軽減とレジリエンスの増強	星和書店	1
108	4_作業療法学	1914	1_冊子	精神病院の改革に向けて: 医療観察法批判と精神医療	青弓社	1
109	4_作業療法学	1915	1_冊子	「本」を遊ぶ: 神田橋條治書評集	創元社	1
110	4_作業療法学	1916	1_冊子	精神医学のひろがり: 拡張するフィールド（精神医学セミナー 2）	創元社	1
111	4_作業療法学	1917	1_冊子	自分の「異常性」に気づかない人たち: 病識と否認の心理	草思社	1
112	4_作業療法学	1918	1_冊子	シュレーバー回想録（中公クラシックス W81）	中央公論新社	1
113	4_作業療法学	1920	1_冊子	精神科レジデントハンドブック, 第3版	中外医学社	1
114	4_作業療法学	1921	1_冊子	心の医学, 普及版	朝倉書店	1
115	4_作業療法学	1922	1_冊子	精神医学を知る: メンタルヘルス専門職のために	東京大学出版会	1
116	4_作業療法学	1923	1_冊子	「いかがわしさ」の精神療法	日本評論社	1
117	4_作業療法学	1924	1_冊子	時代が締め出すこころ（精神科外来シリーズ）	日本評論社	1
118	4_作業療法学	1925	1_冊子	精神医療を歩く: 私の往診記	日本評論社	1
119	4_作業療法学	1927	1_冊子	うつ病から相模原事件まで: 精神医学ダイアローグ	批評社	1
120	4_作業療法学	1928	1_冊子	危機のなかで人間として生きる権利を!: 精神保健・医療・福祉の新たな地平に向けて（精神保健フォーラム	批評社	1
121	4_作業療法学	1929	1_冊子	精神科病院脱施設化論: 長期在院患者の歴史と現況、地域移行支援の理念と課題	批評社	1
122	4_作業療法学	1930	1_冊子	追悼藤澤敏雄の歩んだ道: 心病む人びとへの地域医療を担って	批評社	1
123	4_作業療法学	1931	1_冊子	心の病の「流行」と精神科治療薬の真実	福村出版	1
124	4_作業療法学	1932	1_冊子	精神病と統合失調症の新しい理解: 地域ケアとリカバリーを支える心理学	北大路書房	1
125	4_作業療法学	1934	1_冊子	統合失調症の精神症状論（精神医学重要文献シリーズHeritage）	みすず書房	1
126	4_作業療法学	1935	1_冊子	こころの病理学（京大人気講義シリーズ）	丸善	1
127	4_作業療法学	1936	1_冊子	臨床哲学の知: 臨床としての精神病理学のために	言視舎	1
128	4_作業療法学	1937	1_冊子	フィッシュ臨床精神病理学: 精神医学における症状と徴候	星和書店	1

購入図書明細書（2年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
129	4_作業療法学	1938	1_冊子	あいだと生命: 臨床哲学論文集	創元社	1
130	4_作業療法学	1939	1_冊子	一流の狂気: 心の病がリーダーを強くする	日本評論社	1
131	4_作業療法学	1940	1_冊子	こころの救命: あなたは精神科救急・急性期医療を知っていますか?: vol.1	NOVA出版	1
132	4_作業療法学	1941	1_冊子	非器質性・心因性疾患を身体診察で診断するためのエビデンス	シーニュ	1
133	4_作業療法学	1942	1_冊子	精神科の薬と患者ケアQ&A: 適切な対応と服薬アドヒアランス向上へ, 第3版	じほう	1
134	4_作業療法学	1943	1_冊子	精神科救急医療ガイドライン: 2015年版	へるす出版	1
135	4_作業療法学	1944	1_冊子	精神科作業療法の理論と技術	メジカルビュー社	1
136	4_作業療法学	1946	1_冊子	語呂で覚える!DSM-5	メディカル・サイエンス・インター	1
137	4_作業療法学	1947	1_冊子	精神科面接マニュアル, 第3版	メディカル・サイエンス・インター	1
138	4_作業療法学	1949	1_冊子	《すぐ調》精神科	医学書院	1
139	4_作業療法学	1952	1_冊子	DSM-5精神疾患の分類と診断の手引	医学書院	1
140	4_作業療法学	1953	1_冊子	エキスパートに学ぶ精神科初診面接: 臨床力向上のために	医学書院	1
141	4_作業療法学	1954	1_冊子	こころを診る技術: 精神科面接と初診時対応の基本	医学書院	1
142	4_作業療法学	1957	1_冊子	作業療法実践の理論	医学書院	1
143	4_作業療法学	1958	1_冊子	精神科医はそのときどう考えるか: ケースからひもとく診療のプロセス	医学書院	1
144	4_作業療法学	1959	1_冊子	精神科身体合併症マニュアル, 第2版	医学書院	1
145	4_作業療法学	1964	1_冊子	気になるコミュニケーション障害の診かた: The Hottest Topics on Adult Communication Disorders	医歯薬出版	1
146	4_作業療法学	1965	1_冊子	精神科・心療内科に用いられる漢方薬	医薬ジャーナル社	1
147	4_作業療法学	1966	1_冊子	臨床家のための自律訓練法実践マニュアル: 効果をあげるための正しい使い方	遠見書房	1
148	4_作業療法学	1967	1_冊子	レジリアンス・文化・創造	金原出版	1
149	4_作業療法学	1968	1_冊子	リカバリー: 希望をもたらすエンパワーメントモデル	金剛出版	1
150	4_作業療法学	1969	1_冊子	作業療法の知・技・理	金剛出版	1
151	4_作業療法学	1970	1_冊子	神経心理学的アセスメント・ハンドブック: HANDBOOK OF NEUROPSYCHOLOGICAL	金剛出版	1
152	4_作業療法学	1971	1_冊子	精神科クリニックにおける精神療法: 認知行動療法・マインドフルネス・森田療法をむすぶ弁証法的治療	金剛出版	1
153	4_作業療法学	1972	1_冊子	精神分析的精神療法セミナー: 発見・検討・洞察の徹底演習: 技法編	金剛出版	1
154	4_作業療法学	1973	1_冊子	面接技術の習得法: 患者にとって良質な面接とは?	金剛出版	1
155	4_作業療法学	1974	1_冊子	鈴木知準診療所における入院森田療法: 体験者の記録	三恵社	1
156	4_作業療法学	1976	1_冊子	精神科身体モニタリング塾	新興医学出版社	1
157	4_作業療法学	1977	1_冊子	電気けいれん療法: 医師と患者のためのガイド	新興医学出版社	1
158	4_作業療法学	1978	1_冊子	DIEPSS: A second-generation rating scale for antipsychotic-induced extrapyramidal symptoms	星和書店	1
159	4_作業療法学	1979	1_冊子	START:「心配な転帰」のリスクと治療反応性の短期アセスメント	星和書店	1
160	4_作業療法学	1980	1_冊子	向精神薬・身体疾患治療薬の相互作用に関する指針（日本総合病院精神医学会治療指針 5）	星和書店	1

購入図書明細書（2年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
161	4_作業療法学	1981	1_冊子	精神に疾患は存在するか	星和書店	1
162	4_作業療法学	1982	1_冊子	短期精神療法の理論と実際	星和書店	1
163	4_作業療法学	1983	1_冊子	反面教師としてのDSM: 精神科臨床診断の方法をめぐって	星和書店	1
164	4_作業療法学	1984	1_冊子	こころの病への発達論的アプローチ: DIRモデルに基づいた理解と関わり	創元社	1
165	4_作業療法学	1985	1_冊子	神田橋條治医学部講義	創元社	1
166	4_作業療法学	1986	1_冊子	向精神薬の使い方に差がつく本	中外医学社	1
167	4_作業療法学	1988	1_冊子	状況別に学ぶ内科医・外科医のための精神疾患の診かた	中山書店	1
168	4_作業療法学	1989	1_冊子	精神科医療面接	中山書店	1
169	4_作業療法学	1990	1_冊子	西園精神療法ゼミナール: 3 精神療法の現場から	中山書店	1
170	4_作業療法学	1991	1_冊子	精神科外来ハイリスク薬ハンドブック	南山堂	1
171	4_作業療法学	1992	1_冊子	精神・心理症状学ハンドブック, 第3版	日本評論社	1
172	4_作業療法学	1994	1_冊子	言葉で理解する森田療法: まったく新しい森田療法のかたち	白揚社	1
173	4_作業療法学	1995	1_冊子	森田療法のいま: 進化する森田療法の理論と臨床 (サイコ・クリティーク 14)	批評社	1
174	4_作業療法学	1996	1_冊子	睡眠障害診療ガイド	文光堂	1
175	4_作業療法学	1997	1_冊子	精神疾患の病態と向精神薬	薬事日報社	1
176	4_作業療法学	1998	1_冊子	精神医療の現実: 処方薬依存からの再生の物語	萬書房	1
177	4_作業療法学	1999	1_冊子	高次脳機能障害作業療法学, 改訂第2版 (作業療法学ゴールド・マスター・テキスト)	メジカルビュー社	1
178	4_作業療法学	2000	1_冊子	街を歩く神経心理学 (神経心理学コレクション)	医学書院	1
179	4_作業療法学	2002	1_冊子	高次脳機能障害ポケットマニュアル, 第3版	医歯薬出版	1
180	4_作業療法学	2003	1_冊子	高次脳機能障害のグループ訓練	三輪書店	1
181	4_作業療法学	2004	1_冊子	ADHD集中できない脳をもつ人たちの本当の困難: 理解・支援そして希望へ	診断と治療社	1
182	4_作業療法学	2005	1_冊子	大人のADHDワークブック	星和書店	1
183	4_作業療法学	2006	1_冊子	社会復帰をめざす高次脳機能障害リハビリテーション: 国立障害者リハビリテーションセンター	南江堂	1
184	4_作業療法学	2008	1_冊子	自信がもてる!せん妄診療はじめの一歩: 誰も教えてくれなかった対応と処方のコツ	羊土社	1
185	4_作業療法学	2009	1_冊子	依存という病癖の物語: 家族が苦悩から新生に向かう支援 (あるほんとの物語と事語 1)	あるほんと文芸房	1
186	4_作業療法学	2010	1_冊子	よくわかるアディクション問題: 依存症を知り、回復へとつなげる	へるす出版	1
187	4_作業療法学	2011	1_冊子	心的外傷の治療技法	みすず書房	1
188	4_作業療法学	2012	1_冊子	母と子で克服できる摂食障害: 過食症・拒食症からの解放	ミネルヴァ書房	1
189	4_作業療法学	2013	1_冊子	摂食障害のセルフヘルプ援助: 患者の力を生かすアプローチ	医学書院	1
190	4_作業療法学	2015	1_冊子	依存症からの脱出: つながりを取り戻す	海鳴社	1
191	4_作業療法学	2016	1_冊子	解離の構造: 私の変容と〈むすび〉の治療論	岩崎学術出版社	1
192	4_作業療法学	2017	1_冊子	強迫性障害治療のための身につける行動療法	岩崎学術出版社	1

購入図書明細書（2年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
193	4_作業療法学	2018	1_冊子	摂食障害との出会いと挑戦: アンチマニュアル的鼎談	岩崎学術出版社	1
194	4_作業療法学	2021	1_冊子	社交不安症の臨床: 評価と治療の最前線	金剛出版	1
195	4_作業療法学	2022	1_冊子	摂食障害の最新治療: どのように理解しどのように治療すべきか	金剛出版	1
196	4_作業療法学	2023	1_冊子	共依存症 心のレッスン	講談社	1
197	4_作業療法学	2024	1_冊子	天使の食べものを求めて: 拒食症へのラカン的アプローチ	三輪書店	1
198	4_作業療法学	2025	1_冊子	拒食症の克服	新興医学出版社	1
199	4_作業療法学	2026	1_冊子	エキスパートによる強迫性障害〈OCD〉治療ブック	星和書店	1
200	4_作業療法学	2027	1_冊子	わかりやすい「解離性障害」入門	星和書店	1
201	4_作業療法学	2028	1_冊子	過食症短期入院治療プログラム: 精神科のスキルを生かして摂食障害治療に取り組もう	星和書店	1
202	4_作業療法学	2029	1_冊子	実体験に基づく強迫性障害克服の鉄則, 増補改訂	星和書店	1
203	4_作業療法学	2030	1_冊子	摂食障害:見る読むクリニック: DVDとテキストでまなぶ	星和書店	1
204	4_作業療法学	2031	1_冊子	不安や心配を克服するためのプログラム: 治療者用ガイド	星和書店	1
205	4_作業療法学	2032	1_冊子	パニック: 不安発作を克服する認知行動療法メソッド (きっと上手くいく10の解決法シリーズ)	創元社	1
206	4_作業療法学	2033	1_冊子	内気・不安: 社会不安・対人ストレスを克服する認知行動療法メソッド (きっと上手くいく10の解決法シリー	創元社	1
207	4_作業療法学	2034	1_冊子	いまどきの依存とアディクション: プライマリ・ケア/救急における関わりかた入門	南山堂	1
208	4_作業療法学	2035	1_冊子	不安障害の認知行動療法	日本評論社	1
209	4_作業療法学	2036	1_冊子	神経症からの「回復の物語」: 森田療法を学び支えあった人たちの成長の記録	白揚社	1
210	4_作業療法学	2038	1_冊子	認知症の人のための作業療法の手引き	ワールドプランニング	1
211	4_作業療法学	2039	1_冊子	認知症のある人への作業療法 (クリニカル作業療法シリーズ)	中央法規出版	1
212	4_作業療法学	2040	1_冊子	境界例研究の50年 (笠原嘉臨床論集)	みすず書房	1
213	4_作業療法学	2041	1_冊子	自閉症スペクトラムの精神病理: 星をつぐ人たちのために	医学書院	1
214	4_作業療法学	2042	1_冊子	大人の発達障害ってそういうことだったのか	医学書院	1
215	4_作業療法学	2044	1_冊子	「こころの構造」からみた精神病理: 広汎性発達障害と統合失調症をめぐって	岩崎学術出版社	1
216	4_作業療法学	2045	1_冊子	境界性パーソナリティ障害治療ハンドブック:「有害な治療」に陥らないための技術	岩崎学術出版社	1
217	4_作業療法学	2046	1_冊子	自閉症スペクトラム辞典	教育出版	1
218	4_作業療法学	2047	1_冊子	パーソナリティ障害の認知療法: スキーマ・フォーカスト・アプローチ	金剛出版	1
219	4_作業療法学	2050	1_冊子	パーソナリティ障害の素顔: 致命的な欠陥をもつ人たち	星和書店	1
220	4_作業療法学	2051	1_冊子	境界性パーソナリティ障害サバイバル・ガイド: BPDとともに生きるうえで知っておくべきこと	星和書店	1
221	4_作業療法学	2052	1_冊子	自閉症とサヴァンな人たち: 自閉症にみられるさまざまな現象に関する考察	星和書店	1
222	4_作業療法学	2053	1_冊子	非定型精神病とカタトニア: 拒絶と服従から学ぶ症候学	星和書店	1
223	4_作業療法学	2054	1_冊子	大人の発達障害診療マニュアル: 7つのステップでわかる大人のASD・ADHD	中外医学社	1
224	4_作業療法学	2057	1_冊子	健常と病のはざま: 統合失調症を読み解く	プリメド社	1

購入図書明細書（2年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
225	4_作業療法学	2058	1_冊子	統合失調症: 2 (精神医学重要文献シリーズHeritage)	みすず書房	1
226	4_作業療法学	2059	1_冊子	忘れられない患者さん: 名医たちが語る統合失調症とは (ライフサイエンス選書)	ライフサイエンス出版	1
227	4_作業療法学	2060	1_冊子	中井久夫と考える患者シリーズ: 3 統合失調症は癒える	ラグーナ出版	1
228	4_作業療法学	2062	1_冊子	統合失調症薬物治療ガイドライン	医学書院	1
229	4_作業療法学	2064	1_冊子	行為と幻覚: レジリアンスを拓く統合失調症	金原出版	1
230	4_作業療法学	2067	1_冊子	アリピプラゾールを使いこなす	星和書店	1
231	4_作業療法学	2068	1_冊子	過感受性精神病: 治療抵抗性統合失調症の治療・予防法の追求	星和書店	1
232	4_作業療法学	2070	1_冊子	統合失調症が秘密の扉をあけるまで: 新しい治療法の発見は、一臨床家の研究から生まれた	星和書店	1
233	4_作業療法学	2071	1_冊子	統合失調症はどこから来てどこへ行くのか: 宗教と文化からその病理をひもとく	星和書店	1
234	4_作業療法学	2073	1_冊子	臨床家がなぜ研究をするのか: 精神科医が20年の研究の足跡を振り返るとき	星和書店	1
235	4_作業療法学	2074	1_冊子	新編分裂病を耕す (こころの科学叢書)	日本評論社	1
236	4_作業療法学	2075	1_冊子	統合失調症治療の再検討 (こころの科学叢書)	日本評論社	1
237	4_作業療法学	2076	1_冊子	現生人類の進化とうつ病: 脂肪酸はうつ病を治す	アルタ出版	1
238	4_作業療法学	2077	1_冊子	言葉の力、作業の力: 自己を対象とした事例研究を読み解く	シービーアール	1
239	4_作業療法学	2078	1_冊子	患者さんに説明できるうつ病治療	じほう	1
240	4_作業療法学	2079	1_冊子	双極性障害の時代: マニーからバイポーラーへ	みすず書房	1
241	4_作業療法学	2080	1_冊子	老年期うつ病の作業療法: 高齢者のやりがい・生きがいを見つけよう!	メジカルビュー社	1
242	4_作業療法学	2081	1_冊子	うつ病治療: 現場の工夫より	メディカルレビュー社	1
243	4_作業療法学	2082	1_冊子	双極性障害: 病態の理解から治療戦略まで, 第2版	医学書院	1
244	4_作業療法学	2083	1_冊子	抑うつ障害群 (DSM-5セレクションズ)	医学書院	1
245	4_作業療法学	2084	1_冊子	これだけは知っておきたい女性とうつ病: サインを見逃さないために, 改訂版	医薬ジャーナル社	1
246	4_作業療法学	2086	1_冊子	認知症などの器質性疾患の前触れとしてのうつ病・うつ状態 (DEPRESSION FRONTIER 1)	医薬ジャーナル社	1
247	4_作業療法学	2087	1_冊子	〈医師〉〈看護師〉〈患者・家族〉によるうつ病の本 (病気を生きぬく 2)	岩波書店	1
248	4_作業療法学	2088	1_冊子	うつを克服する10のステップ: セラピスト・マニュアル	金剛出版	1
249	4_作業療法学	2090	1_冊子	双極性障害のための認知行動療法ポケットガイド (Challenge the CBT)	金剛出版	1
250	4_作業療法学	2091	1_冊子	うつ病: 知る・治す・防ぐ	金芳堂	1
251	4_作業療法学	2092	1_冊子	うつ病の論理と臨床: Logic and Practice of Depression	弘文堂	1
252	4_作業療法学	2093	1_冊子	うつ病の臨床：現代の病理と最新の治療	最新医学社	1
253	4_作業療法学	2094	1_冊子	「うつ」がいつまでも続くのは、なぜ?: 双極Ⅱ型障害と軽微双極性障害を学ぶ	星和書店	1
254	4_作業療法学	2095	1_冊子	うつのためのマインドフルネス&アクセプタンス・ワークブック: ACT(アクセプタンス&コミットメント・セラ	星和書店	1
255	4_作業療法学	2096	1_冊子	抗うつ薬の真実: 抗うつ薬を飲む人、出す人へのメッセージ	星和書店	1
256	4_作業療法学	2097	1_冊子	双極うつ病: 包括的なガイド	星和書店	1

購入図書明細書（2年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
257	4_作業療法学	2098	1_冊子	双極性障害の対人関係社会リズム療法: 臨床家とクライアントのための実践ガイド	星和書店	1
258	4_作業療法学	2099	1_冊子	認知療法・認知行動療法治療者用マニュアルガイド	星和書店	1
259	4_作業療法学	2100	1_冊子	セラピストのための行動活性化ガイドブック: うつ病を治療する10の中核原則	創元社	1
260	4_作業療法学	2101	1_冊子	対人関係療法でなおす双極性障害: 躁うつ病への対人関係・社会リズム療法	創元社	1
261	4_作業療法学	2102	1_冊子	躁と鬱 (筑摩選書 0090)	筑摩書房	1
262	4_作業療法学	2103	1_冊子	うつ病の集団認知行動療法実践マニュアル: 再発予防や復職支援に向けて	日本評論社	1
263	4_作業療法学	2104	1_冊子	周産期のうつと不安の認知行動療法	日本評論社	1
264	4_作業療法学	2105	1_冊子	擬態うつ病/新型うつ病: 実例からみる対応法	保健同人社	1
265	4_作業療法学	2107	1_冊子	こころの健康と精神保健	医学出版社	1
266	4_作業療法学	2108	1_冊子	異国でこころを病んだとき: 在外メンタルヘルスの現場から	弘文堂	1
267	4_作業療法学	2109	1_冊子	注意欠陥/多動性障害の研究史: 時代の鏡に照らして見たクラマーとポルノウ	アルタ出版	1
268	4_作業療法学	2112	1_冊子	臨床家が知っておきたい「子どもの精神科」: こころの問題と精神症状の理解のために, 第2版	医学書院	1
269	4_作業療法学	2113	1_冊子	子どもの発達と情緒の障害: 事例からみる児童精神医学の臨床	岩崎学術出版社	1
270	4_作業療法学	2114	1_冊子	知りたかった!PT・OTのための発達障害ガイド	金原出版	1
271	4_作業療法学	2115	1_冊子	児童虐待 (エビデンス・ベイスト心理療法シリーズ 3)	金剛出版	1
272	4_作業療法学	2116	1_冊子	発達障害の薬物療法を考える (フィギュール彩 93)	彩流社	1
273	4_作業療法学	2117	1_冊子	不器用な子どもたちへの認知作業トレーニング	三輪書店	1
274	4_作業療法学	2118	1_冊子	メチルフェニデート徐放錠を用いたADHDの薬物療法と心理社会的治療	星和書店	1
275	4_作業療法学	2119	1_冊子	青年期PTSDの持続エクスポージャー療法: 治療者マニュアル	星和書店	1
276	4_作業療法学	2120	1_冊子	杉山登志郎著作集: 2 軽度発達障害への道	日本評論社	1
277	4_作業療法学	2121	1_冊子	僕のこころを病名で呼ばないで (精神科外来シリーズ)	日本評論社	1
278	4_作業療法学	2122	1_冊子	トラウマその成因と回復法	風詠社	1
279	4_作業療法学	2123	1_冊子	自閉症スペクトラムの症状を「関係」から読み解く: 関係発達精神病理学の提唱	ミネルヴァ書房	1
280	4_作業療法学	2125	1_冊子	自閉症, 新訂 (こころの科学叢書)	日本評論社	1
281	4_作業療法学	2126	1_冊子	患者の心を誰がみるのか: がん患者に寄り添いつづけた精神科医・丸田俊彦の言葉	岩崎学術出版社	1
282	4_作業療法学	2127	1_冊子	がんという病と生きる: 森田療法による不安からの回復	白揚社	1
283	4_作業療法学	2128	1_冊子	作業療法はおもしろい: あるパイオニアOTのオリジナルな半生	シービーアール	1
284	4_作業療法学	2129	1_冊子	作業処方: 症例の分析と思考プロセス	メジカルビュー社	1
285	4_作業療法学	2130	1_冊子	標準作業療法学: 専門分野: 地域作業療法学, 第3版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	1
286	4_作業療法学	2131	1_冊子	事例で学ぶ生活行為向上マネジメント	医歯薬出版	1
287	4_作業療法学	2132	1_冊子	Look at What You Can Do!: Real Stories of Occupational Therapy in Japan	三輪書店	1
288	4_作業療法学	2134	1_冊子	作業療法とドライブマネジメント	文光堂	1

購入図書明細書（2年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
289	4_作業療法学	2135	1_冊子	作業療法士まるごとガイド: 資格のとり方・しごとのすべて, 第3版 (まるごとガイドシリーズ 6)	ミネルヴァ書房	1
290	4_作業療法学	2136	1_冊子	行って見て聞いた精神科病院の保護室	医学書院	1
291	4_作業療法学	2137	1_冊子	精神病院体制の終わり: 認知症の時代に	青土社	1
292	4_作業療法学	2138	1_冊子	応用講座睡眠改善学	ゆまに書房	1
293	4_作業療法学	2139	1_冊子	安眠の科学 (B&Tブックス おもしろサイエンス)	日刊工業新聞社	1
294	4_作業療法学	2140	1_冊子	マインドフルネスのすべて:「今この瞬間」への気づき	丸善出版	1
295	4_作業療法学	2141	1_冊子	今日のメンタルヘルス, 改訂版 (放送大学教材)	放送大学教育振興会	1
296	4_作業療法学	2142	1_冊子	うつ病リワークプログラムの続け方: スタッフのために	南山堂	1
297	4_作業療法学	2145	1_冊子	精神鑑定への誘い: 精神鑑定を行う人のために、精神鑑定を学びたい人のために	星和書店	1
298	4_作業療法学	2146	1_冊子	死刑と精神医療 (メンタルヘルス・ライブラリー 30)	批評社	1
299	4_作業療法学	2147	1_冊子	ダンボール織りテクニックBOOK: 365日使える“お気に入り”がどんどん作れる!	誠文堂新光社	1
300	4_作業療法学	2148	1_冊子	はじめての裂き織りレッスン: 糸の種類・かけ方、基本の織り方などをわかりやすく解説	誠文堂新光社	1
301	4_作業療法学	2149	1_冊子	裂き織り大全: 各種技法から、裂き織りならではのコツ、伝承として残る地方の技法までを網羅	誠文堂新光社	1
302	4_作業療法学	2150	1_冊子	陶芸教室 (カルチャーシリーズ普及版)	グラフィック社	1
303	4_作業療法学	2151	1_冊子	基礎からわかるはじめての陶芸: 自分だけのやきものを作ろう! (基礎からわかるBOOK)	学研パブリッシング	1
304	4_作業療法学	2152	1_冊子	タタラと型でつくる花器: 暮らしを彩る器づくり「掛花入・一輪挿・角・三角・筒・変形花入」	誠文堂新光社	1
305	4_作業療法学	2153	1_冊子	プロの技から学ぶ人気作家15人の陶芸技法	誠文堂新光社	1
306	4_作業療法学	2154	1_冊子	型紙でかんたん陶芸歳時を彩る陶飾り: オーブン陶芸用粘土でもできる!	誠文堂新光社	1
307	4_作業療法学	2155	1_冊子	人気陶芸作家の凄技ファイル: 作陶のスキルを上げる極意がわかる	誠文堂新光社	1
308	4_作業療法学	2156	1_冊子	陶芸・さや鉢焼成の基本と応用: 電気窯・灯油窯・ガス窯による	誠文堂新光社	1
309	4_作業療法学	2157	1_冊子	陶芸実践100のポイント: 知っておきたい焼き物づくりの基礎知識	誠文堂新光社	1
310	4_作業療法学	2158	1_冊子	陶芸窯焚きマスターブック: 焼成の基本から窯詰め、窯焚きまでの技術を身につける	誠文堂新光社	1
311	4_作業療法学	2159	1_冊子	釉薬・加飾による新陶芸技法: 基本テクニックから応用までわかる, 増補改訂版	誠文堂新光社	1
312	4_作業療法学	2160	1_冊子	らくらくオーブン陶芸: クッキー感覚で手軽に焼ける	日貿出版社	1
313	4_作業療法学	2161	1_冊子	5回で折れる!折り紙おもちゃ: ずれても大丈夫初めてでもかんたん	PHP研究所	1
314	4_作業療法学	2162	1_冊子	ティーバッグの包み紙でゆかいな折り紙: パッケージをリサイクルしてティータイムを楽しく	PHP研究所	1
315	4_作業療法学	2163	1_冊子	おり紙マジックワンダーランド: 紙1枚であなたもマジシャン	いかだ社	1
316	4_作業療法学	2164	1_冊子	手間を楽しむ折り紙袋: 切らずに1枚で折る	エムディエヌコーポレーション	1
317	4_作業療法学	2165	1_冊子	1年中楽しむかわいい実用おりがみ: 日常生活を彩る、かわいくて使える折り紙	ソシム	1
318	4_作業療法学	2166	1_冊子	秀麗な折り紙: The Graceful of ORIGAMI	ナツメ社	1
319	4_作業療法学	2167	1_冊子	5回で折れるはじめてのおりがみあそび: こどもが夢中になる動物,乗り物,お菓子がいっぱい!	ベストセラーズ	1
320	4_作業療法学	2168	1_冊子	大人かわいいかんたん実用おりがみ: 作って使える(コツがわかる本)	メイツ出版	1

購入図書明細書（2年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
321	4_作業療法学	2169	1_冊子	リアル折り紙: 1枚の紙からつくる驚きのアート: 陸を歩く生きもの編	河出書房新社	1
322	4_作業療法学	2170	1_冊子	折り花アレンジメント: 折り紙でつくる季節の花で暮らしの中の小物づくり	河出書房新社	1
323	4_作業療法学	2171	1_冊子	いまいみさのおりがみ手紙: 毎日楽しめまごころ伝わるハッピー・クラフト	講談社	1
324	4_作業療法学	2172	1_冊子	おりがみで作る壁面かざり12か月: 保育園や福祉施設にも最適!	滋慶出版/土屋書店	1
325	4_作業療法学	2173	1_冊子	くらしの折り紙とちょこっと紙小物: かわいい紙を見つけたら	主婦の友社	1
326	4_作業療法学	2174	1_冊子	暮らしの折り紙とかわいい紙小物: 入れる、包む、敷く、重ねる、贈る、飾る…紙を折るだけの、役立つ手作	主婦の友社	1
327	4_作業療法学	2175	1_冊子	はじめてでも組めるくす玉おりがみ: 一番わかりやすい多面体おりがみの作り方	世界文化社	1
328	4_作業療法学	2176	1_冊子	おりがみあじさい折り: 藤本修三ワールド (おりがみ工房)	誠文堂新光社	1
329	4_作業療法学	2177	1_冊子	おりがみで作る箱: パーツを組むとできあがる器	誠文堂新光社	1
330	4_作業療法学	2178	1_冊子	おりがみ冬の行事: クリスマスから節分まで (大人のおりがみ)	誠文堂新光社	1
331	4_作業療法学	2179	1_冊子	喜ばれる季節の折り紙: 飾って贈って	池田書店	1
332	4_作業療法学	2180	1_冊子	飾って喜ばれる素敵な折り紙: インテリア・お祝いに暮らしを華やかに	池田書店	1
333	4_作業療法学	2181	1_冊子	おもしろ動物折り紙: かわいいけれど、キレがある!	日貿出版社	1
334	4_作業療法学	2182	1_冊子	かわいいポケット折り紙: 気軽に折れて楽しく使える	日貿出版社	1
335	4_作業療法学	2183	1_冊子	ユニット折り紙エッセンス: 布施知子のユニット集成	日貿出版社	1
336	4_作業療法学	2184	1_冊子	リース折り紙12か月: パーツを組み合わせて作る楽しい輪飾り	日貿出版社	1
337	4_作業療法学	2185	1_冊子	戦国武将の時代折り紙: 「かぶと」「家紋と付き物」「雅な器」	日貿出版社	1
338	4_作業療法学	2186	1_冊子	1年中楽しめる花の折り紙	日本ヴォーグ社	1
339	4_作業療法学	2187	1_冊子	みんなで楽しむ多面体おりがみ: 知恵のおもちゃ箱	日本ヴォーグ社	1
340	4_作業療法学	2188	1_冊子	ものづくりのための立体折紙: 2枚貼り折紙の提案 (NOA BOOKS 折紙造形シリーズ)	日本折紙協会	1
341	4_作業療法学	2189	1_冊子	おりがみ♥おてがみ: 手紙がかわいく変身!	日本文芸社	1
342	4_作業療法学	2190	1_冊子	カミキィの季節のおりがみ: 飾る・使う・贈る	日本文芸社	1
343	4_作業療法学	2191	1_冊子	暮らしを彩る実用折り紙	日本文芸社	1
344	4_作業療法学	2192	1_冊子	ヌメ革で作る手縫いのバッグ: 手縫いのための、便利な縫い目入り型紙つき	グラフィック社	1
345	4_作業療法学	2193	1_冊子	イチバンよくわかる革小物とバッグの教室	スタジオタックリエイティブ	1
346	4_作業療法学	2194	1_冊子	デザイナー木島慎哉が作る革小物 (Professional Series)	スタジオタックリエイティブ	1
347	4_作業療法学	2195	1_冊子	はじめての革カバン: 基本の道具で作れる6アイテム	スタジオタックリエイティブ	1
348	4_作業療法学	2196	1_冊子	レザーカービングの技法: LEATHER CARVING TECHNIQUES: シェリダンスタイル編 (Professional	スタジオタックリエイティブ	1
349	4_作業療法学	2197	1_冊子	レザークラフトベーシック: LEATHER CRAFT BASIC: 小物＆バッグ編 型紙＆作り方解説11アイテム	スタジオタックリエイティブ	1
350	4_作業療法学	2198	1_冊子	革でつくるアクセサリー: Leather accessories of handicraft	スタジオタックリエイティブ	1
351	4_作業療法学	2199	1_冊子	革で作るステーショナリー: MAKING OF LEATHER STATIONERY: 2 作り方＆型紙付き8アイテム	スタジオタックリエイティブ	1
352	4_作業療法学	2200	1_冊子	好みの革とパーツを選んで理想の手帳カバーを作る (Beginner Series)	スタジオタックリエイティブ	1

購入図書明細書（2年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
353	4_作業療法学	2201	1_冊子	手軽で簡単ハギレで作る革小物: HAND SEWING LEATHER CRAFT WITH SMALL LEATHER, 増補・	スタジオタッククリエイティブ	1
354	4_作業療法学	2202	1_冊子	手縫いで作る革のウォレット: LEATHER CRAFT, 改訂版	スタジオタッククリエイティブ	1
355	4_作業療法学	2203	1_冊子	革でつくるアクセサリーのレシピ: 好きな色と形で彩る。ちょっぴり贅沢で、個性的に。	マガジンランド	1
356	4_作業療法学	2204	1_冊子	手縫いの革小物レッスン: 革小物 バッグ アクセサリー	誠文堂新光社	1
357	4_作業療法学	2205	1_冊子	ミシンで作る革の小物とバッグ	日本ヴォーグ社	1
358	4_作業療法学	2206	1_冊子	もう独りにしないで: 解離を背景にもつ精神科医の摂食障害からの回復	星和書店	1
359	4_作業療法学	2209	1_冊子	作業療法学全書: 第7巻 作業治療学(4), 改訂第3版	協同医書出版社	1
360	4_作業療法学	2210	2_電子	精神科医隠された真実: なぜ心の病を治せないのか(プレミア健康選書)　電子書籍<同時アクセス1>	東洋経済新報社	1
361	4_作業療法学	2211	2_電子	確実に治るうつ、治らないうつ: 57の実例で見つかる、うつ病の抜け出し方　電子書籍<同時アクセス1>	誠文堂新光社	1
362	4_作業療法学	2212	2_電子	心に残る認知症の患者さんたち: 認知症医療のスペシャリストがつづる　電子書籍<同時アクセス1>	フジメディカル出版	1
363	4_作業療法学	2213	2_電子	究極の夢折り紙: 魔法のように立体化する　電子書籍<同時アクセス1>　電子書籍<同時アクセス1>	朝日出版社	1
364	4_作業療法学	2214	2_電子	いま求められる統合失調症診療の進め方: 面接、薬物療法から心理社会療法まで　電子書籍<同時アク	洋學社	1
365	4_作業療法学	2215	2_電子	拒食症身体治療マニュアル: 精神科医もできる!　電子書籍<同時アクセス1>　電子書籍<同時アクセス	金芳堂	1
366	4_作業療法学	2216	2_電子	EPDS活用ガイド: 産後うつ病スクリーニング法と産後健診での正しい対応　電子書籍<同時アクセス1>	南山堂	1
367	4_作業療法学	2217	2_電子	ギャンブル依存症サバイバル: パチンコ・スロット・競馬・競輪におぼれる人を救済するため、患者・家族・	中外医学社	1
368	4_作業療法学	2218	2_電子	摂食障害の語り: 〈回復〉の臨床社会学　電子書籍<同時アクセス1>	新曜社	1
369	4_作業療法学	2219	2_電子	わたしと統合失調症: 26人の当事者が語る発症のトリガー　電子書籍<同時アクセス1>	中央法規出版	1
370	4_作業療法学	2220	2_電子	精神医療は誰のため?: ユーザーと精神科医との「対話」　電子書籍<同時アクセス1>	協同医書出版社	1
371	4_作業療法学	2221	2_電子	精神療法家の仕事: 面接と面接者, 新版　電子書籍<同時アクセス1>	金剛出版	1
372	4_作業療法学	2222	2_電子	精神科のくすりハンドブック: 2016第2版　電子書籍<同時アクセス1>	総合医学社	1
373	4_作業療法学	2223	2_電子	認知関連行動アセスメント: 日常生活から高次脳機能障害を理解する　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
374	4_作業療法学	2224	2_電子	心療内科実践学: 入門から臨床研究まで　電子書籍<同時アクセス1>	フジメディカル出版	1
375	4_作業療法学	2225	2_電子	研修医のための精神科診療の実際　電子書籍<同時アクセス1>	新興医学出版社	1
376	4_作業療法学	2226	2_電子	精神疾患の脳科学講義　電子書籍<同時アクセス1>	金剛出版	1
377	4_作業療法学	2227	2_電子	生きると向き合う: わたしたちの自殺対策　電子書籍<同時アクセス1>	南山堂	1
378	4_作業療法学	2228	2_電子	起立性調節障害の診かた:「朝,起きられない」はこうして治せ　電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
379	4_作業療法学	2229	2_電子	自殺を防ぐ診療のポイント　電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
380	4_作業療法学	2230	2_電子	浜松医大流エビデンスに基づく精神療法実践集 電子書籍<同時アクセス1>	金芳堂	1
381	4_作業療法学	2231	2_電子	臨床現場で活かす!よくわかるMMPIハンドブック: 基礎編　電子書籍<同時アクセス1>	金剛出版	1
382	4_作業療法学	2232	2_電子	精神医学ハンドブック: 医学・保健・福祉の基礎知識, 第7版　電子書籍<同時アクセス1>	日本評論社	1
383	4_作業療法学	2233	2_電子	知っておきたいメンタルケアの知識: レジデント必携! 電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
384	4_作業療法学	2234	2_電子	プライマリケアの精神医学: 15症例,その判断と対応 電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1

購入図書明細書（2年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
385	4_作業療法学	2235	2_電子	摂食障害という生き方: その病態と治療　電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
386	4_作業療法学	2236	2_電子	精神科医療が目指すもの: 変転と不易の50年 (精神医学の知と技)　電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
387	4_作業療法学	2237	2_電子	記述的精神病理学の黎明: エスキロールとその時代 (精神医学の知と技)　電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
388	4_作業療法学	2238	2_電子	精神科治療の覚書, 新版 (日評ベーシック・シリーズ) 電子書籍<同時アクセス1>	日本評論社	1
389	4_作業療法学	2239	2_電子	「豹変する心」の現象学: 精神科臨床の現場から 電子書籍<同時アクセス1>	勁草書房	1
390	4_作業療法学	2240	2_電子	視床と臨床精神医学: 大脳の中心部からみた精神疾患 (精神医学の知と技)　電子書籍<同時アクセス1	中山書店	1
391	4_作業療法学	2241	2_電子	現代社会の新しい依存症がわかる本: 物質依存から行動嗜癖まで　電子書籍<同時アクセス1>	日本医事新報社	1
392	4_作業療法学	2242	2_電子	マインドフルネスを医学的にゼロから解説する本: 医療者のための臨床応用入門　電子書籍<同時アク	日本医事新報社	1
393	4_作業療法学	2243	2_電子	生活障害として診る発達障害臨床　電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
394	4_作業療法学	2244	2_電子	精神疾患と認知機能: 最近の進歩　電子書籍<同時アクセス1>	新興医学出版社	1
395	4_作業療法学	2245	2_電子	精神医学, 第12版 (MINOR TEXTBOOK)　電子書籍<同時アクセス1>	金芳堂	1
396	4_作業療法学	2246	2_電子	豚足に憑依された腕: 高次脳機能障害の治療　電子書籍<同時アクセス1>	協同医書出版社	1
397	4_作業療法学	2247	2_電子	高次脳機能障害: その評価とリハビリテーション, 第2版　電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
398	4_作業療法学	2248	2_電子	サイコネフロロジーの臨床: 透析患者のこころを受けとめる・支える　電子書籍<同時アクセス1>	メディカ出版	1
399	4_作業療法学	2249	2_電子	精神疾患の光トポグラフィー検査ガイドブック: NIRS波形の臨床判読, 改訂第2版　電子書籍<同時アクセ	中山書店	1
400	4_作業療法学	2250	2_電子	睡眠障害知る診る治す　電子書籍<同時アクセス1>	メジカルビュー社	1
401	4_作業療法学	2251	2_電子	〈電気ショック〉の時代: ニューロモデュレーションの系譜　電子書籍<同時アクセス1>	みすず書房	1
402	4_作業療法学	2252	2_電子	精神医療からみたわが国の特徴と問題点 (外来精神科診療シリーズ part3)　電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
403	4_作業療法学	2253	2_電子	メンタルクリニック運営の実際: 設立と経営,おもてなしの工夫 (外来精神科診療シリーズ part1)　電子書	中山書店	1
404	4_作業療法学	2254	2_電子	精神療法の技と工夫 (外来精神科診療シリーズ part1)　電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
405	4_作業療法学	2255	2_電子	メンタルクリニックでの主要な精神疾患への対応: 2 不安障害,ストレス関連障害,身体表現性障害,嗜癖	中山書店	1
406	4_作業療法学	2256	2_電子	DSM-5を読み解く: 伝統的精神病理,DSM-Ⅳ,ICD-10をふまえた新時代の精神科診断: 3 双極性障害お	中山書店	1
407	4_作業療法学	2257	2_電子	ICD-10精神科診断ガイドブック　電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
408	4_作業療法学	2258	2_電子	精神医学エッセンシャル・コーパス: 日本の名著論文選集: 2 精神医学を知る　電子書籍<同時アクセス	中山書店	1
409	4_作業療法学	2259	2_電子	四本足のあしながおじさん ―難病患者に対する支持的作業療法の経験―　電子書籍<同時アクセス1>	協同医書出版社	1
410	4_作業療法学	2260	2_電子	作業姿勢と自覚疲労 ―トヨタ生産方式は自覚疲労を高めるか―　電子書籍<同時アクセス1>	大学教育出版	1
411	4_作業療法学	2261	2_電子	精神障害作業療法入門　電子書籍<同時アクセス1>	協同医書出版社	1
412	4_作業療法学	2262	2_電子	片麻痺の作業療法 ―QOLの新しい次元へ―　電子書籍<同時アクセス1>	協同医書出版社	1
413	4_作業療法学	2263	2_電子	高齢期における認知症のある人の生活と作業療法 第2版　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
414	4_作業療法学	2264	2_電子	作業の科学 Vol.2(2000)　電子書籍<同時アクセス1>	協同医書出版社	1
415	4_作業療法学	2265	2_電子	作業の科学 Vol.3(2001)　電子書籍<同時アクセス1>	協同医書出版社	1
416	4_作業療法学	2266	2_電子	組みひも・作業療法への適用法 ―治療・援助・評価の手引き―　電子書籍<同時アクセス1>	協同医書出版社	1

購入図書明細書（2年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
417	4_作業療法学	2267	2_電子	事例でわかる人間作業モデル　電子書籍<同時アクセス1>	協同医書出版社	1
418	4_作業療法学	2268	2_電子	作業の科学 Vol.5(2003)　電子書籍<同時アクセス1>	協同医書出版社	1
419	4_作業療法学	2269	2_電子	作業の科学 Vol.6(2004)　電子書籍<同時アクセス1>	協同医書出版社	1
420	4_作業療法学	2270	2_電子	運動の成り立ちとは何か ―理学療法・作業療法のためのBiNI Approach―　電子書籍<同時アクセス1>	文光堂	1
421	4_作業療法学	2276	1_冊子	An Occupational Perspective of Health, 3rd ed.	Slack, Inc.	1
422	4_作業療法学	2277	1_冊子	Bruce & Borg's Psychosocial Frames of Reference: Theories, Models, and Approaches for Occupation-	Slack, Inc.	1
423	4_作業療法学	2278	1_冊子	Group Dynamics in Occupational Therapy: The Theoretical Basis and Practice Application of Group	Slack, Inc.	1
424	4_作業療法学	2279	1_冊子	Measuring Occupational Performance: Supporting Best Practice in Occupational Therapy, 3rd ed.	Slack, Inc.	1
425	4_作業療法学	2280	1_冊子	Sims' Symptoms in the Mind: Textbook of Descriptive Psychopathology, 6th ed.	Bailliere-Tindall	1
426	5_電子ジャーナル	9001	5_電子ジャーナル	総合リハビリテーション　1973年(創刊号)～／医学書院／医学書院・MedicalFinder	医学書院	1
427	5_電子ジャーナル	9002	5_電子ジャーナル	理学療法ジャーナル　1967年(創刊号)～／医学書院／医学書院・MedicalFinder	医学書院	1
428	5_電子ジャーナル	9003	5_電子ジャーナル	BRAIN and NERVE　2007年～／医学書院／医学書院・MedicalFinder	医学書院	1
429	5_電子ジャーナル	9004	5_電子ジャーナル	臨床整形外科　2000年～／医学書院／医学書院・MedicalFinder	医学書院	1
430	5_電子ジャーナル	9005	5_電子ジャーナル	作業療法ジャーナル　2013年～／三輪書店／医学書院・MedicalFinder	三輪書店	1
431	5_電子ジャーナル	9006	5_電子ジャーナル	脊椎脊髄ジャーナル　2015年～／三輪書店／医学書院・MedicalFinder	三輪書店	1
432	5_電子ジャーナル	9007	5_電子ジャーナル	地域リハビリテーション　2015年～／三輪書店／医学書院・MedicalFinder	三輪書店	1
433	5_電子ジャーナル	9008	5_電子ジャーナル	Cancer Board Square　2015年～／医学書院／医学書院・MedicalFinder	医学書院	1
				合計		433

購入図書明細書（3年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
1	1_基礎分野・周辺領域	2281	1_冊子	解剖学: イラスト・ふりがな付き (メディカル・イメージブック)	医歯薬出版	1
2	1_基礎分野・周辺領域	2282	1_冊子	好きになる解剖学: 自分の体をさわって確かめよう	講談社	1
3	1_基礎分野・周辺領域	2284	1_冊子	生理学: イラスト・ふりがな付き (メディカル・イメージブック)	医歯薬出版	1
4	1_基礎分野・周辺領域	2285	1_冊子	臨床病態学: 1, 第2版	ヌーヴェルヒロカワ	1
5	1_基礎分野・周辺領域	2286	1_冊子	運動器疾患の「なぜ?」がわかる臨床解剖学	医学書院	1
6	1_基礎分野・周辺領域	2287	2_電子	生理学テキスト, 第8版　　電子書籍<同時アクセス1>	文光堂	1
7	1_基礎分野・周辺領域	2288	2_電子	生活を支える高次脳機能リハビリテーション　電子書籍<同時アクセス1>　　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
8	1_基礎分野・周辺領域	2289	2_電子	嚥下リハビリテーションと口腔ケア (ポケットガイド)　電子書籍<同時アクセス1>	メヂカルフレンド社	1
9	1_基礎分野・周辺領域	2290	2_電子	脳死・移植医療 (シリーズ生命倫理学 3)　　電子書籍<同時アクセス1>	丸善出版	1
10	1_基礎分野・周辺領域	2291	2_電子	生殖医療 (シリーズ生命倫理学 6)　　電子書籍<同時アクセス1>	丸善出版	1
11	1_基礎分野・周辺領域	2292	2_電子	精神科医療 (シリーズ生命倫理学 9)　　電子書籍<同時アクセス1>	丸善出版	1
12	1_基礎分野・周辺領域	2293	2_電子	先端医療 (シリーズ生命倫理学 12)　　電子書籍<同時アクセス1>	丸善出版	1
13	1_基礎分野・周辺領域	2294	2_電子	医学研究 (シリーズ生命倫理学 15)　　電子書籍<同時アクセス1>	丸善出版	1
14	1_基礎分野・周辺領域	2295	2_電子	医療事故と医療人権侵害 (シリーズ生命倫理学 18)　電子書籍<同時アクセス1>	丸善出版	1
15	1_基礎分野・周辺領域	2296	2_電子	訪問で行う摂食・嚥下リハビリテーションのチームアプローチ　　電子書籍<同時アクセス1>	全日本病院出版会	1
16	1_基礎分野・周辺領域	2297	2_電子	身体のからくり事典　　電子書籍<同時アクセス1>	朝倉書店	1
17	3_理学療法学	2303	2_電子	訪問リハビリテーション7つの極意: プロフェッショナルになるための仕事の流儀　電子書籍<同時アクセス	法研	1
18	3_理学療法学	2304	2_電子	痛みの存在意義: 臨床哲学と理学療法学の視座　電子書籍<同時アクセス1>　　電子書籍<同時アクセ	大学教育出版	1
19	3_理学療法学	2305	2_電子	寝たきりからのリハビリウォーク: 在宅医療・介護　電子書籍<同時アクセス1>　　電子書籍<同時アクセス	歩行開発研究所	1
20	3_理学療法学	2306	2_電子	転倒予防のための棒体操: 運動機能と認知機能へのアプローチ　　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
21	3_理学療法学	2307	2_電子	ココロとカラダの痛みのための邪道な心理療法養成講座: 慢性疼痛編　　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
22	3_理学療法学	2308	2_電子	誰でもわかる動作分析: 私もこれで理解できました　電子書籍<同時アクセス1>	南江堂	1
23	3_理学療法学	2309	2_電子	ペイン・リハビリテーションを生きて　　電子書籍<同時アクセス1>	協同医書出版社	1
24	3_理学療法学	2310	2_電子	エンド・オブ・ライフケアとしての拘縮対策: 美しい姿で最期を迎えていただくために　　電子書籍<同時	三輪書店	1
25	3_理学療法学	2311	2_電子	関節可動域制限: 病態の理解と治療の考え方, 第2版　　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
26	3_理学療法学	2312	2_電子	骨・関節疾患の在宅医療 (在宅医療の技とこころ)　電子書籍<同時アクセス1>	南山堂	1
27	3_理学療法学	2313	2_電子	リハ栄養からアプローチするサルコペニアバイブル　電子書籍<同時アクセス1>	日本医事新報社	1
28	3_理学療法学	2314	2_電子	視能訓練士のための生理光学: 自分で作るワークブック　　電子書籍<同時アクセス1>	共立出版	1
29	3_理学療法学	2315	2_電子	サスペンション・エクササイズ: レッドコード・エクササイズからの進化　　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
30	3_理学療法学	2316	2_電子	ベッドサイド理学療法の基本技術・技能 (臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス)　　電子書籍<同時ア	文光堂	1
31	3_理学療法学	2317	2_電子	病態からみた理学療法: 臨床の「なぜ?どうして?」がわかる: 内科編　　電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
32	3_理学療法学	2318	2_電子	病態からみた理学療法: 臨床の「なぜ?どうして?」がわかる: 外科編　　電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
33	3_理学療法学	2319	2_電子	リハビリナース、PT、OT、STのための患者さんの行動から理解する高次脳機能障害: なぜ、患者さんはこん	メディカ出版	1

購入図書明細書（3年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
34	3_理学療法学	2320	2_電子	リハビリテーションのための臨床神経生理学　電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
35	3_理学療法学	2321	2_電子	標準徒手医学: 1 入門編　電子書籍<同時アクセス1>	医学映像教育センター	1
36	3_理学療法学	2322	2_電子	訪問呼吸ケア・リハビリテーション: 誰でもわかる在宅呼吸管理　電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
37	3_理学療法学	2323	2_電子	ケースで学ぶ徒手理学療法クリニカルリーズニング　電子書籍<同時アクセス1>	文光堂	1
38	3_理学療法学	2324	2_電子	再生医療とリハビリテーション　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
39	3_理学療法学	2325	2_電子	臨床動作分析: PT・OTの実践に役立つ理論と技術　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
40	3_理学療法学	2326	2_電子	卒前・卒後教育に役立つ理学療法士育成OJTテキスト　電子書籍<同時アクセス1>	文光堂	1
41	3_理学療法学	2327	2_電子	まるごと股関節これ1冊: 決定版!もう苦手とは言わせない　電子書籍<同時アクセス1>	メディカ出版	1
42	3_理学療法学	2328	2_電子	病態生理が見える整形外科早わかり図鑑: おどろくほどやさしくシンプルに　電子書籍<同時アクセス1>	メディカ出版	1
43	3_理学療法学	2329	2_電子	慢性痛の心理療法ABC　電子書籍<同時アクセス1>	文光堂	1
44	3_理学療法学	2330	2_電子	日常診療でよく出会う足病変の診かた　電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
45	3_理学療法学	2331	2_電子	理学療法のための筋力トレーニングと運動学習: 動作分析から始める根拠にもとづく運動療法　電子	羊土社	1
46	3_理学療法学	2332	2_電子	実践EBM心臓リハビリテーション: エビデンス診療ギャップとその対応　電子書籍<同時アクセス1>	文光堂	1
47	3_理学療法学	2333	2_電子	ID触診術: Individual Muscle Palpation, 第2版　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
48	3_理学療法学	2334	2_電子	リハビリテーションのための疾患ガイド　電子書籍<同時アクセス1>	医歯薬出版	1
49	3_理学療法学	2335	2_電子	図解運動療法ガイド　電子書籍<同時アクセス1>	文光堂	1
50	3_理学療法学	2336	2_電子	運動器診療最新ガイドライン　電子書籍<同時アクセス1>	総合医学社	1
51	3_理学療法学	2778	1_冊子	Campbell's Physical Therapy for Children, 5th ed.	Saunders	1
52	3_理学療法学	2779	1_冊子	Dreeben-Irimia's Introduction to Physical Therapist Practice for Physical Therapist Assistants, 3rd ed.	Jones & Bartlett Publishers Inc.	1
53	3_理学療法学	2780	1_冊子	Mosby's Fundamentals of Therapeutic Massage, 6th ed.	Mosby	1
54	3_理学療法学	2781	1_冊子	Physical Therapy Clinical Handbook for Ptas, 3rd ed.	Jones & Bartlett Publishers Inc.	1
55	3_理学療法学	2782	1_冊子	Stroke Rehabilitation: A Function-Based Approach, 4th ed.	Mosby	1
56	4_作業療法学	2337	1_冊子	ダンスセラピーの理論と実践: からだと心へのヒーリング・アート	ジアース教育新社	1
57	4_作業療法学	2338	1_冊子	ケアする人も楽になる認知行動療法入門: BOOK2	医学書院	1
58	4_作業療法学	2340	1_冊子	方法としての治療構造論: 精神分析的心理療法の実践	金剛出版	1
59	4_作業療法学	2341	1_冊子	スキーマ療法入門: 理論と事例で学ぶスキーマ療法の基礎と応用	星和書店	1
60	4_作業療法学	2342	1_冊子	認知療法・認知行動療法事例検討ワークショップ: 1	星和書店	1
61	4_作業療法学	2343	1_冊子	うつと不安の認知療法練習帳, 増補改訂版	創元社	1
62	4_作業療法学	2345	1_冊子	俳句療法/自治体病院経営 (俳句療法学会研究叢書第2巻)	富嶽出版	1
63	4_作業療法学	2347	1_冊子	精神現象を読み解くための10章 (PP選書-Problem & Polemic課題と争点-)	批評社	1
64	4_作業療法学	2349	1_冊子	介護の現場で使えるブロックおりがみ: 作って、飾って、指先から若くなる100作品	誠文堂新光社	1
65	4_作業療法学	2350	1_冊子	介護事業経営コンサルティング・マニュアル: 人材育成による差別化と合理化のための12カテゴリー別実	マネジメント社	1
66	4_作業療法学	2353	1_冊子	クレイジー・イン・ジャパン: べてるの家のエスノグラフィ (シリーズケアをひらく)	医学書院	1

購入図書明細書（3年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
67	4_作業療法学	2354	1_冊子	精神科デイケア必携マニュアル: 地域の中で生き残れるデイケア	金剛出版	1
68	4_作業療法学	2355	1_冊子	ケア会議で学ぶ精神保健ケアマネジメント	中央法規出版	1
69	4_作業療法学	2356	1_冊子	青年期女子における醜形恐怖心性とその関連要因	風間書房	1
70	4_作業療法学	2357	1_冊子	実際のつまずきに向き合う・予防する 子どものSSTプログラム: 発達障害・コミュニケーションが苦手な子の	ラピュータ	1
71	4_作業療法学	2358	1_冊子	感情への自然主義的アプローチ: 自閉症スペクトラムへの発達支援	金子書房	1
72	4_作業療法学	2359	1_冊子	自閉症スペクトラムとコミュニケーション: 理解コミュニケーションの視覚的支援	星和書店	1
73	4_作業療法学	2360	1_冊子	医療心理臨床の基礎と経験	日本評論社	1
74	4_作業療法学	2361	1_冊子	生体臓器移植ドナーの意思確認に関する指針（日本総合病院精神医学会治療指針 6）	星和書店	1
75	4_作業療法学	2364	1_冊子	睡眠学: 2 睡眠障害の理解と対応	北大路書房	1
76	4_作業療法学	2365	1_冊子	精神科ならではのファーストエイド: 搬送時サマリー実例付	医学書院	1
77	4_作業療法学	2366	1_冊子	心療内科実践ハンドブック: 症例に学ぶ用語集	マイライフ社	1
78	4_作業療法学	2367	1_冊子	ここまでわかった心身相関: 科学的にみたこころとからだの相互作用	診断と治療社	1
79	4_作業療法学	2368	1_冊子	心因性愁訴を極める: ジェネラリストのための実践的10症例	日本医事新報社	1
80	4_作業療法学	2369	1_冊子	病気は心がつくる	論創社	1
81	4_作業療法学	2370	1_冊子	薬物・アルコール依存症からの回復支援ワークブック	金剛出版	1
82	4_作業療法学	2371	1_冊子	薬物依存臨床の焦点	金剛出版	1
83	4_作業療法学	2372	1_冊子	アルコール・薬物依存臨床ガイド: エビデンスにもとづく理論と治療	金剛出版	1
84	4_作業療法学	2374	1_冊子	高機能アルコール依存症を理解する: お酒で人生を棒に振る有能な人たち	星和書店	1
85	4_作業療法学	2375	1_冊子	エビデンスに基づく高齢者の作業療法: ICF（国際生活機能分類）の適応と活用	ガイアブックス	1
86	4_作業療法学	2376	1_冊子	睡眠無呼吸症: 広がるSASの診療	朝倉書店	1
87	4_作業療法学	2378	1_冊子	急性一過性精神病	アルタ出版	1
88	4_作業療法学	2379	1_冊子	睡眠障害の対応と治療ガイドライン，第2版	じほう	1
89	4_作業療法学	2380	1_冊子	本心と抵抗: 自発性の精神病理	すぴか書房	1
90	4_作業療法学	2381	1_冊子	HOPEガイドブック: 救急医療から地域へとつなげる自殺未遂者支援のエッセンス	へるす出版	1
91	4_作業療法学	2382	1_冊子	「全体の科学」のために（笠原嘉臨床論集）	みすず書房	1
92	4_作業療法学	2384	1_冊子	精神医学と疾病概念（精神医学重要文献シリーズ Heritage）	みすず書房	1
93	4_作業療法学	2385	1_冊子	中井久夫集: 3 世界における索引と徴候	みすず書房	1
94	4_作業療法学	2386	1_冊子	中井久夫集: 6 いじめの政治学	みすず書房	1
95	4_作業療法学	2387	1_冊子	こころの病気を治すために「本当」に大切なこと: 意外と知らない精神科入院の正しい知識と治療共同体と	メディカルパブリッシャー	1
96	4_作業療法学	2388	1_冊子	安永浩セレクション	ライフメディコム	1
97	4_作業療法学	2389	1_冊子	はじめての精神科: 援助者必携，第2版	医学書院	1
98	4_作業療法学	2390	1_冊子	精神科レジデントマニュアル	医学書院	1
99	4_作業療法学	2392	1_冊子	臨床の詩学	医学書院	1

購入図書明細書（3年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
100	4_作業療法学	2393	1_冊子	学生のための精神医学, 第3版	医歯薬出版	1
101	4_作業療法学	2394	1_冊子	生命と現実: 木村敏との対話, 新装版	河出書房新社	1
102	4_作業療法学	2395	1_冊子	精神病理の形而上学	学樹書院	1
103	4_作業療法学	2396	1_冊子	クレイジー・ライク・アメリカ: 心の病はいかに輸出されたか	紀伊國屋書店	1
104	4_作業療法学	2397	1_冊子	〈認知〉行動療法から学ぶ精神科臨床ケースプレゼンテーションの技術	金剛出版	1
105	4_作業療法学	2398	1_冊子	シュリンクス: 誰も語らなかった精神医学の真実	金剛出版	1
106	4_作業療法学	2399	1_冊子	自傷行為治療ガイド, 第2版	金剛出版	1
107	4_作業療法学	2402	1_冊子	臨床家のための精神医学ガイドブック: DSM・ICD対応	金剛出版	1
108	4_作業療法学	2403	1_冊子	保崎秀夫著作集: 2 精神病と神経症/診断と治療/歩んだ道 (ぐんま精神医学セレクション 2)	群馬病院出版会	1
109	4_作業療法学	2404	1_冊子	ヒューマンファーストのこころの治療: 現代病が増えつづける日本の社会	幻冬舎メディアコンサルティング	1
110	4_作業療法学	2406	1_冊子	好きになる精神医学: こころの病気と治療の新しい理解, 第2版 (好きになるシリーズ)	講談社	1
111	4_作業療法学	2408	1_冊子	精神医学の羅針盤(コンパス): 精神科の五大陸をめぐる冒険	篠原出版新社	1
112	4_作業療法学	2409	1_冊子	精神医学徒然草: 教授室の窓辺から	新興医学出版社	1
113	4_作業療法学	2410	1_冊子	アンリ・エー入門: エーと現代の精神医学思想	新樹会創造出版	1
114	4_作業療法学	2412	1_冊子	進化精神医学: ダーウィンとユングが解き明かす心の病	世論時報社	1
115	4_作業療法学	2413	1_冊子	回復するちから: 震災という逆境からのレジリエンス	星和書店	1
116	4_作業療法学	2414	1_冊子	精神科リハビリテーション:スキルアップのための11講:見慣れているやり方を手放すと見えてくるものがある:	星和書店	1
117	4_作業療法学	2415	1_冊子	精神科臨床の星影: 安克昌、樽味伸、中井久夫、神田橋條治、宮沢賢治をめぐる時間	星和書店	1
118	4_作業療法学	2417	1_冊子	知っておきたい精神医学の基礎知識: サイコロジストとメディカルスタッフのために, 第2版	誠信書房	1
119	4_作業療法学	2418	1_冊子	あたらしい狂気の歴史: 精神病理の哲学	青土社	1
120	4_作業療法学	2419	1_冊子	私の臨床精神医学: 九大精神科講演録	創元社	1
121	4_作業療法学	2420	1_冊子	精神医学の概念デバイス: Concept Device f of Psychiatry	創元社	1
122	4_作業療法学	2422	1_冊子	こころの医学入門: 医療・保健・福祉・心理専門職をめざす人のために	中央法規出版	1
123	4_作業療法学	2423	1_冊子	沖縄の精神医療 (精神医学の知と技)	中山書店	1
124	4_作業療法学	2425	1_冊子	精神医学テキスト: 精神障害の理解と治療のために, 改訂第4版	南江堂	1
125	4_作業療法学	2426	1_冊子	精神医学への招待, 改訂3版	南山堂	1
126	4_作業療法学	2427	1_冊子	こころの病は、誰が診る?	日本評論社	1
127	4_作業療法学	2428	1_冊子	図説精神医学入門, 第4版	日本評論社	1
128	4_作業療法学	2429	1_冊子	精神医学を視る「方法」	日本評論社	1
129	4_作業療法学	2430	1_冊子	地域精神医療の真髄	日本評論社	1
130	4_作業療法学	2431	1_冊子	不眠症の認知行動療法: 治療者向けマニュアル	日本評論社	1
131	4_作業療法学	2432	1_冊子	こころの診療雑記: 精神科医の聴心記	批評社	1
132	4_作業療法学	2433	1_冊子	精神医療運動史: 精神医療から精神福祉へ (メンタルヘルス・ライブラリー 40)	批評社	1

購入図書明細書（3年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
133	4_作業療法学	2434	1_冊子	相模原事件が私たちに問うもの (メンタルヘルス・ライブラリー 38)	批評社	1
134	4_作業療法学	2435	1_冊子	睡眠障害に対する認知行動療法: 行動睡眠医学的アプローチへの招待	風間書房	1
135	4_作業療法学	2436	1_冊子	生活の中で診る: 精神科医・中澤正夫著作集	萌文社	1
136	4_作業療法学	2437	1_冊子	精神医学の科学哲学	名古屋大学出版会	1
137	4_作業療法学	2438	1_冊子	声と妄想: 臨床精神病理論文集成	医学出版社	1
138	4_作業療法学	2439	1_冊子	空間と表象の精神病理: Psychopathology of Intrapsychic Space and Image Function	岩崎学術出版社	1
139	4_作業療法学	2440	1_冊子	人の絆の病理と再生: 臨床哲学の展開	弘文堂	1
140	4_作業療法学	2441	1_冊子	応用人間学としてのパトス: 臨床から精神病理学へ	星和書店	1
141	4_作業療法学	2442	1_冊子	臨床哲学講義	創元社	1
142	4_作業療法学	2443	1_冊子	精神病理・精神療法の展開: 二重らせんから三重らせんへ	中山書店	1
143	4_作業療法学	2444	1_冊子	精神病理学の基本問題	日本評論社	1
144	4_作業療法学	2445	1_冊子	読むだけでコツがつかめる問診力トレーニング	アルタ出版	1
145	4_作業療法学	2446	1_冊子	精神医学的作業療法の実際: Occupational Therapy, 復刻版	シービーアール	1
146	4_作業療法学	2447	1_冊子	精神科薬物療法トレーニングブック (領域別アドバンスト薬剤師シリーズ 2)	じほう	1
147	4_作業療法学	2448	1_冊子	誤診のおこるとき: 精神科診断の宿命と使命, 新装版	みすず書房	1
148	4_作業療法学	2449	1_冊子	精神障害作業療法学, 改訂第2版 (作業療法学ゴールド・マスター・テキスト)	メジカルビュー社	1
149	4_作業療法学	2451	1_冊子	心の診療100ケース: プライマリ・ケアで押さえたい精神医学的キーポイント	メディカル・サイエンス・インター	1
150	4_作業療法学	2452	1_冊子	精神診療プラチナマニュアル, Grande	メディカル・サイエンス・インター	1
151	4_作業療法学	2456	1_冊子	DSM-5診断面接ポケットマニュアル	医学書院	1
152	4_作業療法学	2457	1_冊子	DSM時代における精神療法のエッセンス: こころと生活をみつめる視点と臨床モデルの確立に向けて	医学書院	1
153	4_作業療法学	2458	1_冊子	オープンダイアローグとは何か	医学書院	1
154	4_作業療法学	2460	1_冊子	モリソン先生の精神科診断講座	医学書院	1
155	4_作業療法学	2463	1_冊子	精神科初回面接	医学書院	1
156	4_作業療法学	2464	1_冊子	精神科退院支援ハンドブック: ガイドラインと実践的アプローチ	医学書院	1
157	4_作業療法学	2465	1_冊子	精神科臨床Q&A forビギナーズ: 外来診療の疑問・悩みにお答えします!	医学書院	1
158	4_作業療法学	2468	1_冊子	臨床が変わる!PT・OTのための認知行動療法入門	医学書院	1
159	4_作業療法学	2469	1_冊子	精神障害作業療法: 生活を支援する, 第2版	医歯薬出版	1
160	4_作業療法学	2470	1_冊子	精神科領域の服薬指導Q&A, 改訂版	医薬ジャーナル社	1
161	4_作業療法学	2471	1_冊子	病から幸せの道へ: ヘルスアート療法体験集	海鳥社	1
162	4_作業療法学	2472	1_冊子	レジリアンス－症候学・脳科学・治療学	金原出版	1
163	4_作業療法学	2473	1_冊子	家族心理教育から地域精神保健福祉まで: システム・家族・コミュニティを診る	金剛出版	1
164	4_作業療法学	2474	1_冊子	集団精神療法: 理論と実際	金剛出版	1
165	4_作業療法学	2475	1_冊子	性格と精神疾患: 性格類型による診立てと治療	金剛出版	1

購入図書明細書（3年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
166	4_作業療法学	2476	1_冊子	精神科医のための解決構築アプローチ: BECOMING A SOLUTION BUILDING PSYCHIATRIST	金剛出版	1
167	4_作業療法学	2477	1_冊子	精神分析的精神療法セミナー: 発見・検討・洞察の徹底演習: 障害編	金剛出版	1
168	4_作業療法学	2478	1_冊子	認知行動療法・薬物療法併用ガイドブック: エビデンスベイスト・アプローチ	金剛出版	1
169	4_作業療法学	2479	1_冊子	力動的集団精神療法: 精神科慢性疾患へのアプローチ	金剛出版	1
170	4_作業療法学	2480	1_冊子	「オープンダイアローグ」は本当に使えるのか:「現場」で活用するための多角的な検証（飢餓陣営せれ	言視舎	1
171	4_作業療法学	2481	1_冊子	作業療法覚書: 目からウロコの作業料理の本	三輪書店	1
172	4_作業療法学	2482	1_冊子	抗精神病薬をシンプルに使いこなすための EXERCISE	新興医学出版社	1
173	4_作業療法学	2484	1_冊子	精神科薬物療法グッドプラクティス: ワンランク上の処方をめざして	新興医学出版社	1
174	4_作業療法学	2486	1_冊子	DIEPSSを使いこなす: DIEPSSの解説と利用の手引き	星和書店	1
175	4_作業療法学	2487	1_冊子	SWNS-J手引き: 抗精神病薬治療下主観的ウェルビーイング評価尺度短縮版の日本語版	星和書店	1
176	4_作業療法学	2488	1_冊子	抗精神病薬受容体の発見ものがたり: 精神病の究明を目指して	星和書店	1
177	4_作業療法学	2489	1_冊子	精神科の専門家をめざす, 改訂新版	星和書店	1
178	4_作業療法学	2490	1_冊子	動機づけ面接法の適用を拡大する: 心理的問題と精神疾患への臨床適用	星和書店	1
179	4_作業療法学	2491	1_冊子	土屋流「当事者主体」的アプローチ	精神看護出版	1
180	4_作業療法学	2493	1_冊子	神田橋條治精神科講義	創元社	1
181	4_作業療法学	2494	1_冊子	精神疾患の理解と精神科作業療法, 第2版	中央法規出版	1
182	4_作業療法学	2495	1_冊子	精神科外来診療の実際	中山書店	1
183	4_作業療法学	2496	1_冊子	精神分析を考える（精神医学の知と技）	中山書店	1
184	4_作業療法学	2497	1_冊子	DSM-5を診断する	日本評論社	1
185	4_作業療法学	2498	1_冊子	精神科医はくすりを出すときこう考える	日本評論社	1
186	4_作業療法学	2499	1_冊子	精神科治療の進め方	日本評論社	1
187	4_作業療法学	2500	1_冊子	臨床家のためのDSM-5虎の巻	日本評論社	1
188	4_作業療法学	2501	1_冊子	女性はなぜ生きづらいのか: 森田療法で悩みや不安を解決する	白揚社	1
189	4_作業療法学	2502	1_冊子	精神病因論のひとつの試み: 自閉症理論から心の病の統一理論へ	批評社	1
190	4_作業療法学	2504	1_冊子	あらゆる診療科でよく出会う精神疾患を見極め、対応する: 適切な診断・治療と患者への説明、専門医との	羊土社	1
191	4_作業療法学	2505	1_冊子	成人期ADHD診療ガイドブック	じほう	1
192	4_作業療法学	2506	1_冊子	急性期から取り組む高次脳機能障害リハビリテーション: QOL向上のために今すぐできる日常生活援助	メディカ出版	1
193	4_作業療法学	2507	1_冊子	高次脳機能障害のリハビリテーション: 実践的アプローチ, 第3版	医学書院	1
194	4_作業療法学	2508	1_冊子	Q&Aでひも解く高次脳機能障害: QUESTIONS&ANSWERS:HIGHER BRAIN DYSFUNCTION	医歯薬出版	1
195	4_作業療法学	2509	1_冊子	脳損傷のリハビリテーション高次脳機能障害支援: 病院から在宅へ,そしてその先へ	医歯薬出版	1
196	4_作業療法学	2510	1_冊子	大人のADHD臨床: アセスメントから治療まで	金子書房	1
197	4_作業療法学	2511	1_冊子	リハビリスタッフ・支援者のためのやさしくわかる高次脳機能障害: 症状・原因・評価・リハビリテーションと支	秀和システム	1
198	4_作業療法学	2512	1_冊子	せん妄の臨床指針, 増補改訂（日本総合病院精神医学会治療指針 1）	星和書店	1

購入図書明細書（3年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
199	4_作業療法学	2516	1_冊子	生活を立て直す脳のリハビリ: みんなでわかる高次脳機能障害: 注意障害編 家庭・老健・デイケアセンター	保育社	1
200	4_作業療法学	2517	1_冊子	不定愁訴の診断と治療: よりよい臨床のための新しい指針	星和書店	1
201	4_作業療法学	2518	1_冊子	大切な人をパチンコから取り戻すために: 依存症を治し、縁を切らせるためにすべきこと	かざひの文庫	1
202	4_作業療法学	2523	1_冊子	条件反射制御法: 物質使用障害に治癒をもたらす必須の技法	遠見書房	1
203	4_作業療法学	2524	1_冊子	災害ストレス: 直接被災と報道被害 (角川oneテーマ21 C-202)	角川書店	1
204	4_作業療法学	2525	1_冊子	解離の病理: 自己・世界・時代	岩崎学術出版社	1
205	4_作業療法学	2526	1_冊子	精神科臨床における行動療法: 強迫性障害とその関連領域	岩崎学術出版社	1
206	4_作業療法学	2527	1_冊子	身体はトラウマを記録する: 脳・心・体のつながりと回復のための手法	紀伊國屋書店	1
207	4_作業療法学	2528	1_冊子	アディクションのメカニズム	金剛出版	1
208	4_作業療法学	2529	1_冊子	家族・援助者のためのギャンブル問題解決の処方箋: CRAFTを使った効果的な援助法	金剛出版	1
209	4_作業療法学	2530	1_冊子	性依存症のリアル	金剛出版	1
210	4_作業療法学	2531	1_冊子	対人恐怖と不潔恐怖: 日本文化と心理的性差の基底にあるもの	金剛出版	1
211	4_作業療法学	2532	1_冊子	依存学ことはじめ: はまる人生、はまりすぎない人生、人生の楽しみ方	晃洋書房	1
212	4_作業療法学	2533	1_冊子	災害ストレスの対処法: The Solution of the Stress in Disaster	講談社	1
213	4_作業療法学	2534	1_冊子	ポリヴェーガル理論入門: 心身に変革をおこす「安全」と「絆」	春秋社	1
214	4_作業療法学	2535	1_冊子	神経症の臨床病理	新興医学出版社	1
215	4_作業療法学	2536	1_冊子	汚染恐怖〈不潔恐怖〉: 強迫性障害の評価と治療 (認知行動療法:科学と実践)	世論時報社	1
216	4_作業療法学	2537	1_冊子	ギャンブル障害の治療:治療者向けガイド: 認知行動療法によるアプローチ	星和書店	1
217	4_作業療法学	2538	1_冊子	羽のない天使たちへ: 摂食障害の病理と治療	星和書店	1
218	4_作業療法学	2539	1_冊子	強迫性障害への認知行動療法: 講義とワークショップで身につけるアートとサイエンス	星和書店	1
219	4_作業療法学	2540	1_冊子	条件反射制御法入門: 動物的脳をリセットし,嗜癖・問題行動を断つ!	星和書店	1
220	4_作業療法学	2541	1_冊子	摂食障害から回復するための8つの秘訣: 回復者としての個人的な体験と摂食障害治療専門家として学ん	星和書店	1
221	4_作業療法学	2542	1_冊子	PTSDの伝え方: トラウマ臨床と心理教育	誠信書房	1
222	4_作業療法学	2543	1_冊子	対人関係療法でなおすトラウマ・PTSD: 問題と障害の正しい理解から対処法、接し方のポイントまで	創元社	1
223	4_作業療法学	2544	1_冊子	抗不安薬プラクティカルガイド: 今だから知っておきたい正しい使い方	中外医学社	1
224	4_作業療法学	2545	1_冊子	摂食障害の身体治療: チーム医療の実践を目指して	南山堂	1
225	4_作業療法学	2546	1_冊子	人を信じられない病: 信頼障害としてのアディクション	日本評論社	1
226	4_作業療法学	2547	1_冊子	森田療法で読む強迫性障害: その理解と治し方	白揚社	1
227	4_作業療法学	2548	1_冊子	彼女たちはなぜ万引きがやめられないのか?: 窃盗癖という病	飛鳥新社	1
228	4_作業療法学	2549	1_冊子	ギャンブル依存との向きあい方: 本人・家族・支援者のための	明石書店	1
229	4_作業療法学	2550	1_冊子	老いの心と臨床 (精神医学重要文献シリーズ Heritage)	みすず書房	1
230	4_作業療法学	2552	1_冊子	日常診療で出会う高齢者精神障害のみかた	中外医学社	1
231	4_作業療法学	2553	1_冊子	妄想論 (精神医学重要文献シリーズHeritage)	みすず書房	1

購入図書明細書（3年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
232	4_作業療法学	2554	1_冊子	成人の高機能広汎性発達障害とアスペルガー症候群: 社会に生きる彼らの精神行動特性	医学書院	1
233	4_作業療法学	2555	1_冊子	大人の発達障害ってそういうことだったのか: その後	医学書院	1
234	4_作業療法学	2556	1_冊子	自閉っ子と未来への希望: 一緒に仕事をしてわかった本当の可能性	花風社	1
235	4_作業療法学	2557	1_冊子	パーソナリティ障害の認知療法: ケースから学ぶ臨床の実際	岩崎学術出版社	1
236	4_作業療法学	2558	1_冊子	治療者と家族のための境界性パーソナリティ障害治療ガイド	岩崎学術出版社	1
237	4_作業療法学	2559	1_冊子	境界性パーソナリティ障害と離人症: その病態と治療	金剛出版	1
238	4_作業療法学	2560	1_冊子	ラクリモーサ: 濱田秀伯著作選集 (ぐんま精神医学セレクション 5)	群馬病院出版会	1
239	4_作業療法学	2561	1_冊子	ナルキッソスたちの憂鬱 (精神科医から診た“自己愛”PART3)	世論時報社	1
240	4_作業療法学	2562	1_冊子	パーソナリティ障害治る人,治らない人	星和書店	1
241	4_作業療法学	2563	1_冊子	境界性パーソナリティ障害ファミリーガイド	星和書店	1
242	4_作業療法学	2564	1_冊子	大人の自閉症スペクトラムのためのコミュニケーション・トレーニング・マニュアル	星和書店	1
243	4_作業療法学	2565	1_冊子	アスペルガー症候群への解決志向アプローチ: 利用者の自己決定を援助する	誠信書房	1
244	4_作業療法学	2567	1_冊子	統合失調症薬物治療ガイド: 患者さん・ご家族・支援者のために	じほう	1
245	4_作業療法学	2569	1_冊子	統合失調症の有為転変	みすず書房	1
246	4_作業療法学	2570	1_冊子	中井久夫と考える患者シリーズ: 1 統合失調症をたどる	ラグーナ出版	1
247	4_作業療法学	2571	1_冊子	中井久夫と考える患者シリーズ: 4 統合失調症と暮らす	ラグーナ出版	1
248	4_作業療法学	2573	1_冊子	統合失調症とその周辺: 離人症・対人恐怖症の重症例を中心に	岩崎学術出版社	1
249	4_作業療法学	2574	1_冊子	統合失調症と家族: 当事者を支える家族のニーズと援助法	金剛出版	1
250	4_作業療法学	2575	1_冊子	統合失調症を理解し支援するための認知行動療法 (Challenge the CBT)	金剛出版	1
251	4_作業療法学	2576	1_冊子	統合失調症の臨床病理	新興医学出版社	1
252	4_作業療法学	2578	1_冊子	我々の内なる狂気: 統合失調症は神経生物学的過程である	星和書店	1
253	4_作業療法学	2579	1_冊子	専門医がホンネで語る統合失調症治療の気になるところ	星和書店	1
254	4_作業療法学	2581	1_冊子	統合失調症治療イラストレイテッド (シリーズ治療・イラストレイテッド 1)	星和書店	1
255	4_作業療法学	2582	1_冊子	病気じゃないからほっといて: そんな人に治療を受け入れてもらうための新技法LEAP	星和書店	1
256	4_作業療法学	2583	1_冊子	統合失調症治療の新たなストラテジー: 非定型抗精神病薬によるアプローチ	先端医学社	1
257	4_作業療法学	2584	1_冊子	統合失調症のみかた,治療のすすめかた	中外医学社	1
258	4_作業療法学	2585	1_冊子	生活臨床の基本: 統合失調症患者の希望にこたえる支援	日本評論社	1
259	4_作業療法学	2586	1_冊子	近代という病いを抜けて: 統合失調症に学ぶ他者の眼差し (サイコ・クリティーク 10)	批評社	1
260	4_作業療法学	2587	1_冊子	精神医学の57年: 分子整合医学のもたらす希望	論創社	1
261	4_作業療法学	2588	1_冊子	生活習慣病に合併したうつ病を診る実地臨床医のためのうつ病診療Q&A	アルタ出版	1
262	4_作業療法学	2589	1_冊子	MADRSを使いこなす, 改訂第3版	じほう	1
263	4_作業療法学	2590	1_冊子	双極性気分障害の治療戦略	じほう	1
264	4_作業療法学	2591	1_冊子	心の疲労と画像で向き合う: ウツを眼で診る新たな取り組み	コアラブックス	1

購入図書明細書（3年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
265	4_作業療法学	2592	1_冊子	気分障害ハンドブック	メディカル・サイエンス・インター	1
266	4_作業療法学	2593	1_冊子	うつ病治療ガイドライン, 第2版	医学書院	1
267	4_作業療法学	2594	1_冊子	双極性障害の心理教育マニュアル: 患者に何を,どう伝えるか	医学書院	1
268	4_作業療法学	2595	1_冊子	うつ病の作業療法	医歯薬出版	1
269	4_作業療法学	2596	1_冊子	もしも患者に“うつ”を見つけたら: 緩和ケア・支持療法中の患者のこころの最前線 (Depression Frontier	医薬ジャーナル社	1
270	4_作業療法学	2597	1_冊子	実地医家のためのうつ病治療症例集: セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤(SNRI)デュロキセチ	医薬ジャーナル社	1
271	4_作業療法学	2598	1_冊子	「うつ」がこの世にある理由: 作られた病の知られざる真実	河出書房新社	1
272	4_作業療法学	2599	1_冊子	うつ病のTMS療法	金原出版	1
273	4_作業療法学	2600	1_冊子	うつ病の力動的精神療法	金剛出版	1
274	4_作業療法学	2601	1_冊子	新世紀うつ病治療・支援論: うつに対する統合的アプローチ	金剛出版	1
275	4_作業療法学	2603	1_冊子	「うつ」の構造	弘文堂	1
276	4_作業療法学	2604	1_冊子	生活習慣病としてのうつ病	弘文堂	1
277	4_作業療法学	2605	1_冊子	双極性障害の診断・治療と気分安定薬の作用機序	新興医学出版社	1
278	4_作業療法学	2606	1_冊子	「うつ」について: 現代の世界における薬物,診断,そして絶望	星和書店	1
279	4_作業療法学	2607	1_冊子	うつ病	星和書店	1
280	4_作業療法学	2608	1_冊子	精神科医がうつ病になった	星和書店	1
281	4_作業療法学	2609	1_冊子	双極性障害の生物学的治療ガイドライン:双極性うつ病急性期の治療: WFSBP(生物学的精神医学会世	星和書店	1
282	4_作業療法学	2610	1_冊子	大うつ病性障害の検証型治療継続アルゴリズムSTAR＊D〈Sequenced Treatment Alternatives to Relieve	星和書店	1
283	4_作業療法学	2611	1_冊子	気分障害は、いま: うつと躁を精神病理学から問い直す	誠信書房	1
284	4_作業療法学	2612	1_冊子	デュロキセチンのすべて	先端医学社	1
285	4_作業療法学	2613	1_冊子	気分障害の臨床を語る: 変わること、変わらないこと	創元社	1
286	4_作業療法学	2614	1_冊子	臨床家のための対人関係療法入門ガイド	創元社	1
287	4_作業療法学	2615	1_冊子	プライマリケアのためのうつ病再発予防10ステップガイド	中山書店	1
288	4_作業療法学	2616	1_冊子	うつ病の常識はほんとうか	日本評論社	1
289	4_作業療法学	2617	1_冊子	内因性うつ病からの回復: 精神科医が自ら綴る症例報告	日本評論社	1
290	4_作業療法学	2618	1_冊子	精神保健, 新版 第3版	医学出版社	1
291	4_作業療法学	2619	1_冊子	精神保健マニュアル, 改訂4版	南山堂	1
292	4_作業療法学	2620	1_冊子	小児期トラウマがもたらす病: ACEの実態と対策 (フェニックスシリーズ 68)	パンローリング	1
293	4_作業療法学	2621	1_冊子	DSM-5児童・青年期診断面接ポケットマニュアル	医学書院	1
294	4_作業療法学	2622	1_冊子	神経発達症群 (DSM-5セレクションズ)	医学書院	1
295	4_作業療法学	2623	1_冊子	イラストでわかる発達障害の作業療法	医歯薬出版	1
296	4_作業療法学	2624	1_冊子	乳幼児精神保健の基礎と実践: アセスメントと支援のためのガイドブック	岩崎学術出版社	1
297	4_作業療法学	2625	1_冊子	児童精神科の入院治療: 抱えること,育てること	金剛出版	1

購入図書明細書（3年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
298	4_作業療法学	2626	1_冊子	やさしいコグトレ: 認知機能強化トレーニング	三輪書店	1
299	4_作業療法学	2628	1_冊子	メンタライゼーションでガイドする外傷的育ちの克服: 〈心を見わたす心〉と〈自他境界の感覚〉をはぐくむア	星和書店	1
300	4_作業療法学	2629	1_冊子	青年期PTSDの持続エクスポージャー療法: 10代のためのワークブック	星和書店	1
301	4_作業療法学	2630	1_冊子	思春期こころのいる場所（精神科外来シリーズ）	日本評論社	1
302	4_作業療法学	2631	1_冊子	杉山登志郎著作集: 3 児童青年精神医学の新世紀	日本評論社	1
303	4_作業療法学	2632	1_冊子	やさしい発達障害論，増補新版（サイコ・クリティーク3）	批評社	1
304	4_作業療法学	2634	1_冊子	自閉症スペクトラムの謎を解く: 高機能アスペルガー障害は、話ことば獲得障害	花伝社	1
305	4_作業療法学	2636	1_冊子	自閉症とそだちの科学（こころの科学叢書）	日本評論社	1
306	4_作業療法学	2637	1_冊子	がんと緩和ケアの作業療法	三輪書店	1
307	4_作業療法学	2639	1_冊子	人間作業モデルで読み解く作業療法	シービーアール	1
308	4_作業療法学	2641	1_冊子	つくる・あそぶを治療にいかす作業活動実習マニュアル，第2版	医歯薬出版	1
309	4_作業療法学	2643	1_冊子	作業療法臨床実習マニュアル: 指導者と学生のために	三輪書店	1
310	4_作業療法学	2644	1_冊子	生活行為向上力の見つけ方: 作業・環境・園芸療法の理論とプログラム	青海社	1
311	4_作業療法学	2646	1_冊子	どもる体（シリーズケアをひらく）	医学書院	1
312	4_作業療法学	2647	1_冊子	女性作業療法士の子育て・介護・仕事: アクティブ・ワークライフバランスの方法	青海社	1
313	4_作業療法学	2648	1_冊子	地域における多機能型精神科診療所実践マニュアル: 乳幼児から成人までの地域包括ケアシステムを	金剛出版	1
314	4_作業療法学	2649	1_冊子	実践自己決定を支える精神科医療現場	大学教育出版	1
315	4_作業療法学	2650	1_冊子	眠りと体内時計を科学する	春秋社	1
316	4_作業療法学	2651	1_冊子	メンタルヘルスを学ぶ: 精神医学・内科学・心理学の視点から	ミネルヴァ書房	1
317	4_作業療法学	2652	1_冊子	レジリエンス: 人生の危機を乗り越えるための科学と10の処方箋	岩崎学術出版社	1
318	4_作業療法学	2653	1_冊子	職場結合性うつ病	金原出版	1
319	4_作業療法学	2654	1_冊子	災害精神医学入門: 災害に学び、明日に備える	金剛出版	1
320	4_作業療法学	2655	1_冊子	精神鑑定の乱用	金剛出版	1
321	4_作業療法学	2658	1_冊子	殺意の内景: 精神鑑定の現場から	無明舎出版	1
322	4_作業療法学	2659	1_冊子	ダンボール織り機で、手織りざぶとん: フサフサ、もこもこのあったか系から、裂き織りや自然素材の夏仕様	誠文堂新光社	1
323	4_作業療法学	2660	1_冊子	手織りを楽しむまきものデザイン200: 四季折々のストール、ショール、マフラーをつくる，増補改訂版	誠文堂新光社	1
324	4_作業療法学	2661	1_冊子	ちいさな織り機でちいさなおしゃれこもの: 空き箱・フレーム・厚紙・木っ端で作る	日本ヴォーグ社	1
325	4_作業療法学	2662	1_冊子	陶芸をはじめよう: 陶芸入門講座	阿部出版	1
326	4_作業療法学	2663	1_冊子	今日からはじめるやさしい陶芸入門: 気軽に焼きもの作りを楽しむ!	金園社	1
327	4_作業療法学	2664	1_冊子	タタラと型でつくる食器: 暮らしを彩る器づくり「陶板・皿・茶碗・鉢・陶膳」	誠文堂新光社	1
328	4_作業療法学	2665	1_冊子	化粧と施釉の大原則: 陶芸の基本を覚えてステップアップ	誠文堂新光社	1
329	4_作業療法学	2666	1_冊子	手びねりでつくる食の器: 陶芸	誠文堂新光社	1
330	4_作業療法学	2667	1_冊子	電動轆轤マスターブック: 陶芸本格派への一歩	誠文堂新光社	1

購入図書明細書（3年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
331	4_作業療法学	2668	1_冊子	陶芸の釉薬336の色彩帖: 21色の釉薬を土と焼き方と重ね掛けで彩り豊かに楽しむ	誠文堂新光社	1
332	4_作業療法学	2669	1_冊子	陶芸実践絵付けアイデア帖: 筆遊びからはじめる: 下絵付け編	誠文堂新光社	1
333	4_作業療法学	2670	1_冊子	粘土と釉薬の焼成見本帖1260: 市販材料を組み合わせて色選び	誠文堂新光社	1
334	4_作業療法学	2671	1_冊子	釉薬手づくり帖: だれでも簡単、レシピどおりに混ぜるだけ	誠文堂新光社	1
335	4_作業療法学	2672	1_冊子	はじめての釉薬: やき物がますます楽しくなる	廣済堂出版	1
336	4_作業療法学	2673	1_冊子	かわいい花のくす玉おりがみ: お部屋飾りに・プレゼントに	PHP研究所	1
337	4_作業療法学	2674	1_冊子	贈って喜ばれる季節の花と小物の折り紙	PHP研究所	1
338	4_作業療法学	2675	1_冊子	子どもと楽しむおり紙ワンダーランド	いかだ社	1
339	4_作業療法学	2676	1_冊子	切らずに1枚で折る折り紙昆虫記	エムディエヌコーポレーション	1
340	4_作業療法学	2677	1_冊子	1年中飾れるかわいい折り紙オーナメント: 日常生活を彩る、楽しく作るユニット折り紙	ソシム	1
341	4_作業療法学	2678	1_冊子	贈る・飾る・使う折り紙の箱と小物	ナツメ社	1
342	4_作業療法学	2679	1_冊子	プチかわいい折り紙レター＆メモ: おりがみ・ふせん・ノートでちょこっとメッセージ（メイツ出版のコツがわか	メイツ出版	1
343	4_作業療法学	2680	1_冊子	リアル折り紙: 1枚の紙からつくる驚きのアート	河出書房新社	1
344	4_作業療法学	2681	1_冊子	リアル折り紙: 1枚の紙からつくる驚きのアート: 水の中を泳ぐ生きもの編	河出書房新社	1
345	4_作業療法学	2682	1_冊子	毎日を彩る実用折り紙雑貨	学研パブリッシング	1
346	4_作業療法学	2683	1_冊子	おりがみ百科: 作って遊ぶ!飾って楽しい!	講談社	1
347	4_作業療法学	2684	1_冊子	おりがみ大百科: 最新版	実業之日本社	1
348	4_作業療法学	2685	1_冊子	簡単おりがみ大百科: 人気の150作品（主婦の友ベストBOOKS）	主婦の友社	1
349	4_作業療法学	2686	1_冊子	親子であそぼう!はじめてのおりがみ: やさしい手順でたのしく折れる	新星出版社	1
350	4_作業療法学	2687	1_冊子	おりがみ大図鑑136: 親子で遊んで楽しい!	成美堂出版	1
351	4_作業療法学	2688	1_冊子	おりがみで作るオーナメント: 1年中インテリアとして楽しめるくす玉、ユニットおりがみ	誠文堂新光社	1
352	4_作業療法学	2689	1_冊子	おりがみねじり折り（おりがみ工房 藤本修三ワールド）	誠文堂新光社	1
353	4_作業療法学	2690	1_冊子	おりがみ仏像をおる（豊彰流おりがみ）	誠文堂新光社	1
354	4_作業療法学	2691	1_冊子	喜ばれる素敵な折り紙: 贈り物に、おもてなしに	池田書店	1
355	4_作業療法学	2692	1_冊子	暮らしの折り紙: 飾る・使う・贈る	池田書店	1
356	4_作業療法学	2693	1_冊子	博士の実用夢折り紙: 使う・遊ぶ	朝日出版社	1
357	4_作業療法学	2694	1_冊子	オリガミ・ボックス: かわいい!使える!不思議な箱がいっぱい!	日貿出版社	1
358	4_作業療法学	2695	1_冊子	つなぎ折り鶴: 一枚の紙から折り出す「連鶴」の技	日貿出版社	1
359	4_作業療法学	2696	1_冊子	ユニット折り紙ファンタジー: 進化する美しい造形（布施知子のユニット集成）	日貿出版社	1
360	4_作業療法学	2697	1_冊子	使える、遊べる暮らしを楽しむアイデア折り紙: 楽しいおもちゃ、箱や袋物から折り紙アートまで52作品	日貿出版社	1
361	4_作業療法学	2698	1_冊子	本格折り紙ルート2	日貿出版社	1
362	4_作業療法学	2699	1_冊子	おりがみのはこどうぶつ: みんなで、つくろう!	日本ヴォーグ社	1
363	4_作業療法学	2700	1_冊子	一年中楽しめるおりがみ壁飾り: 指先を使っていきいき!	日本ヴォーグ社	1

購入図書明細書（3年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
364	4_作業療法学	2701	1_冊子	季節をつなぐ12か月のユニットおりがみ: 12 months with the unit origami (NOA BOOKS)	日本折紙協会	1
365	4_作業療法学	2702	1_冊子	かならず作れるユニット折り紙: 色とかたちで楽しむ多面体 (実用BEST BOOKS)	日本文芸社	1
366	4_作業療法学	2703	1_冊子	詳細ユニット折り紙: 無限に広がる世界を楽しむ	日本文芸社	1
367	4_作業療法学	2704	1_冊子	おり手紙: 折ってわたせる33の手紙	飛鳥新社	1
368	4_作業療法学	2705	1_冊子	300種類オーバーのトートバッグを作る: 組み合わせ自由自在! (Step Up Series)	スタジオタッククリエイティブ	1
369	4_作業療法学	2706	1_冊子	かがりで作る革小物: LACING LEATHER CRAFT	スタジオタッククリエイティブ	1
370	4_作業療法学	2707	1_冊子	はじめてのミシンレザークラフト: ベビーロック職業用ミシンで縫う (Beginner Series)	スタジオタッククリエイティブ	1
371	4_作業療法学	2708	1_冊子	ミシンで作るレザークラフト	スタジオタッククリエイティブ	1
372	4_作業療法学	2709	1_冊子	レザークラフトスタートブック: for Beginner's初心者でも安心	スタジオタッククリエイティブ	1
373	4_作業療法学	2710	1_冊子	レザークラフト技法事典: THE COMPLETE LEATHER CRAFT TECHNIQUE BOOK, 完全版	スタジオタッククリエイティブ	1
374	4_作業療法学	2711	1_冊子	革で作るショルダーバッグ: SHOULDER BAG MADE OF LEATHER (Step Up Series)	スタジオタッククリエイティブ	1
375	4_作業療法学	2712	1_冊子	革で作る二つ折り財布: TWO FOLD WALLET MADE OF LEATHER (Step Up Series)	スタジオタッククリエイティブ	1
376	4_作業療法学	2713	1_冊子	仕立ての差が出る本格トートバッグ (Professional Series)	スタジオタッククリエイティブ	1
377	4_作業療法学	2714	1_冊子	手作りの毎日使える革小物: 毎日使える8つの革小物	スタジオタッククリエイティブ	1
378	4_作業療法学	2715	1_冊子	縫わずに作るカンタン実用革小物: 型紙＆製作手順22アイテム (Beginner Series)	スタジオタッククリエイティブ	1
379	4_作業療法学	2716	1_冊子	縫わずにできる革テープのバッグと小物: ゆび織りで、かんたん。織って貼るだけのシンプル仕立て	河出書房新社	1
380	4_作業療法学	2717	1_冊子	手縫い革バッグの教科書: しっかり基本～役立つ応用	誠文堂新光社	1
381	4_作業療法学	2718	1_冊子	大作曲家の病跡学: ベートーヴェン,シューマン,マーラー	星和書店	1
382	4_作業療法学	2719	1_冊子	星降る震災の夜に: ある精神科医の震災日誌と断想 (サイコ・クリティーク 19)	批評社	1
383	4_作業療法学	2720	1_冊子	高次脳機能障害学, 第2版	医歯薬出版	1
384	4_作業療法学	2721	1_冊子	標準作業療法学: 専門分野: 高次脳機能作業療法学 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	1
385	4_作業療法学	2723	2_電子	ウルトラ図解うつ病: 正しい理解と適切な治療で元気を取り戻す　電子書籍<同時アクセス1>　電子書	法研	1
386	4_作業療法学	2724	2_電子	3・11と心の災害: 福島にみるストレス症候群　電子書籍<同時アクセス1>	大月書店	1
387	4_作業療法学	2725	2_電子	行動医学テキスト　電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
388	4_作業療法学	2726	2_電子	心身症臨床のまなざし　電子書籍<同時アクセス1>	新興医学出版社	1
389	4_作業療法学	2727	2_電子	精神障害を哲学する: 分類から対話へ　電子書籍<同時アクセス1>	東京大学出版会	1
390	4_作業療法学	2728	2_電子	MSPA〈発達障害の要支援度評価尺度〉の理解と活用 電子書籍<同時アクセス1>	勁草書房	1
391	4_作業療法学	2729	2_電子	やさしい統合失調症の自己管理, 改訂版　電子書籍<同時アクセス1>	医薬ジャーナル社	1
392	4_作業療法学	2730	2_電子	高次脳機能障害ファシリテーター養成講座　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
393	4_作業療法学	2731	2_電子	サイコパス・インサイド: ある神経科学者の脳の謎への旅　電子書籍<同時アクセス1>	金剛出版	1
394	4_作業療法学	2732	2_電子	事例で学ぶ禁煙治療のためのカウンセリングテクニック　電子書籍<同時アクセス1>	看護の科学社	1
395	4_作業療法学	2733	2_電子	ひきこもりに出会ったら: こころの医療と支援　電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
396	4_作業療法学	2734	2_電子	子どもから大人への発達精神医学: 自閉症スペクトラム・ADHD・知的障害の基礎と実践　電子書籍<同	金剛出版	1

購入図書明細書（3年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
397	4_作業療法学	2735	2_電子	プライマリ・ケアでうつを診たら: 見立てから治療まで、やさしくわかるうつ病診療　電子書籍<同時アクセ	羊土社	1
398	4_作業療法学	2736	2_電子	精神医療過疎の町から: 最北のクリニックでみた人・町・医療　電子書籍<同時アクセス1>	みすず書房	1
399	4_作業療法学	2737	2_電子	あなたも名医!「うつ状態」を知る・診る: おや?もしや?おかしいな?と思ったら (jmed 26)　電子書籍<同時	日本医事新報社	1
400	4_作業療法学	2738	2_電子	精神科薬物療法マニュアル　電子書籍<同時アクセス1>	南山堂	1
401	4_作業療法学	2739	2_電子	社会精神医学のいま: 疫学的精神医学へのアプローチ (精神医学の知と技)　電子書籍<同時アクセス1	中山書店	1
402	4_作業療法学	2740	2_電子	精神療法を学ぶ (精神医学の知と技)　電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
403	4_作業療法学	2741	2_電子	抗精神病薬プラクティカルガイド: どう選んでどう使う?電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
404	4_作業療法学	2742	2_電子	精神医学マイテキスト, 改訂2版　電子書籍<同時アクセス1>	金芳堂	1
405	4_作業療法学	2743	2_電子	精神科・身体合併症のリハビリテーション: 総合的な治療計画から実践まで　電子書籍<同時アクセス1	協同医書出版社	1
406	4_作業療法学	2744	2_電子	思春期の心の臨床: 面接の基本とすすめ方, 新訂増補　電子書籍<同時アクセス1>	金剛出版	1
407	4_作業療法学	2745	2_電子	高齢期領域の作業療法: プログラム立案のポイント, 第2版 (クリニカル作業療法シリーズ)　電子書籍<	中央法規出版	1
408	4_作業療法学	2746	2_電子	日本の精神医学この五〇年　電子書籍<同時アクセス1>	みすず書房	1
409	4_作業療法学	2747	2_電子	精神科と私: 20世紀から21世紀の60年を医師として生きて (精神医学の知と技)　電子書籍<同時アク	中山書店	1
410	4_作業療法学	2748	2_電子	脳波と精神神経症状 (精神医学の知と技)　電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
411	4_作業療法学	2749	2_電子	なぜ自殺は減らないのか: 精神病理学からのアプローチ　電子書籍<同時アクセス1>	勁草書房	1
412	4_作業療法学	2750	2_電子	岐路に立つ精神医学: 精神疾患解明へのロードマップ　電子書籍<同時アクセス1>	勁草書房	1
413	4_作業療法学	2751	2_電子	糖尿病とうつ: 双方向からのパスウェイ, 改訂版電子書籍<同時アクセス1>	医薬ジャーナル社	1
414	4_作業療法学	2752	2_電子	よくわかる精神科治療薬の考え方,使い方, 3版電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
415	4_作業療法学	2753	2_電子	こころの病気を学ぶ: 教科書と臨床と患者・家族をつなぐ本　電子書籍<同時アクセス1>	シナジー	1
416	4_作業療法学	2754	2_電子	摂食障害という生き方: 続 医療刑務所から見えてくるもの　電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
417	4_作業療法学	2755	2_電子	子どもの心の診療入門 (子どもの心の診療シリーズ 1)　電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
418	4_作業療法学	2756	2_電子	精神科処方ノート, 5版　電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
419	4_作業療法学	2757	2_電子	睡眠薬プラクティカルガイド: 正しい知識で誤用を防ぐ!　電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
420	4_作業療法学	2758	2_電子	子ども・大人の発達障害診療ハンドブック: 年代別にみる症例と発達障害データ集　電子書籍<同時ア	中山書店	1
421	4_作業療法学	2759	2_電子	DSM-5を読み解く: 伝統的精神病理,DSM-Ⅳ,ICD-10をふまえた新時代の精神科診断: 1 神経発達症	中山書店	1
422	4_作業療法学	2760	2_電子	DSM-5を読み解く: 伝統的精神病理,DSM-Ⅳ,ICD-10をふまえた新時代の精神科診断: 4 不安症群,強	中山書店	1
423	4_作業療法学	2761	2_電子	メンタルクリニックが切拓く新しい臨床: 外来精神科診療の多様な実践 (外来精神科診療シリーズ part1)	中山書店	1
424	4_作業療法学	2762	2_電子	診断の技と工夫 (外来精神科診療シリーズ part1)電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
425	4_作業療法学	2763	2_電子	メンタルクリニックでの主要な精神疾患への対応: 3 統合失調症,気分障害 (外来精神科診療シリーズ	中山書店	1
426	4_作業療法学	2764	2_電子	精神医学エッセンシャル・コーパス: 日本の名著論文選集: 3 精神医学を拡げる　電子書籍<同時アクセ	中山書店	1
427	4_作業療法学	2765	2_電子	精神科専門医のためのプラクティカル精神医学電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
428	4_作業療法学	2766	2_電子	精神・心理機能評価ハンドブック　電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
429	4_作業療法学	2767	2_電子	脳とこころのプライマリケア: Primary Care in Psychiatry and Brain Science: 6 幻覚と妄想　電子	シナジー	1

購入図書明細書（3年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
430	4_作業療法学	2768	2_電子	脳とこころのプライマリケア: Primary Care in Psychiatry and Brain Science: 3 こころと身体の相互	シナジー	1
431	4_作業療法学	2769	2_電子	作業の科学 Vol.1(1999)　電子書籍<同時アクセス1>	協同医書出版社	1
432	4_作業療法学	2770	2_電子	ひとと作業・作業活動 ―作業の知をとき技を育む― 新版　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
433	4_作業療法学	2771	2_電子	ひとと集団・場 ―治療や援助,支援における場と集団のもちい方―新版　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
434	4_作業療法学	2772	2_電子	作業の科学 Vol.7(2005)　電子書籍<同時アクセス1>	協同医書出版社	1
435	4_作業療法学	2773	2_電子	作業の科学 Vol.4(2002)　電子書籍<同時アクセス1>	協同医書出版社	1
436	4_作業療法学	2774	2_電子	精神障害と作業療法 ―病いを生きる、病いと生きる精神認知系作業療法の理論と実践―新版　電子	三輪書店	1
437	4_作業療法学	2775	2_電子	統合失調症・うつ病の作業療法の進め方（※）電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
438	4_作業療法学	2776	2_電子	身体領域の作業療法 ―プログラム立案のポイント― 第2版(クリニカル作業療法シリーズ)　電子書籍<	中央法規出版	1
439	4_作業療法学	2777	2_電子	理学療法・作業療法のための実践編BiNI Approach ―運動の成り立ちから導く,治療をシンプルにする法	文光堂	1
440	4_作業療法学	2783	1_冊子	Assistive Technologies: Principles and Practice, 4th ed.	Mosby	1
441	4_作業療法学	2784	1_冊子	Current Diagnosis & Treatment Psychiatry, 3rd ed. (Lange Current)	McGraw-Hill	1
442	4_作業療法学	2785	1_冊子	Introduction to Orthotics: A Clinical Reasoning and Problem-Solving Approach, 4th ed.	Mosby	1
443	4_作業療法学	2786	1_冊子	On Call Psychiatry, 4th ed. (On Call)	Elsevier Science	1
444	4_作業療法学	2787	1_冊子	The Neuroscience of Clinical Psychiatry, 3rd ed.	Lippincott Williams &	1
445	5_電子ジャーナル	9001	5_電子ジャーナル	総合リハビリテーション　1973年(創刊号)～／医学書院／医学書院・MedicalFinder	医学書院	1
446	5_電子ジャーナル	9002	5_電子ジャーナル	理学療法ジャーナル　1967年(創刊号)～／医学書院／医学書院・MedicalFinder	医学書院	1
447	5_電子ジャーナル	9003	5_電子ジャーナル	BRAIN and NERVE　2007年～／医学書院／医学書院・MedicalFinder	医学書院	1
448	5_電子ジャーナル	9004	5_電子ジャーナル	臨床整形外科　2000年～／医学書院／医学書院・MedicalFinder	医学書院	1
449	5_電子ジャーナル	9005	5_電子ジャーナル	作業療法ジャーナル　2013年～／三輪書店／医学書院・MedicalFinder	三輪書店	1
450	5_電子ジャーナル	9006	5_電子ジャーナル	脊椎脊髄ジャーナル　2015年～／三輪書店／医学書院・MedicalFinder	三輪書店	1
451	5_電子ジャーナル	9007	5_電子ジャーナル	地域リハビリテーション　2015年～／三輪書店／医学書院・MedicalFinder	三輪書店	1
452	5_電子ジャーナル	9008	5_電子ジャーナル	Cancer Board Square　2015年～／医学書院／医学書院・MedicalFinder	医学書院	1
				合計		452

購入図書明細書（4年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
1	1_基礎分野・周辺領域	1302	1_冊子	トートラ解剖学, 第2版	丸善	1
2	1_基礎分野・周辺領域	1304	1_冊子	ぜんぶわかる人体解剖図: 系統別・部位別にわかりやすくビジュアル解説	成美堂出版	1
3	1_基礎分野・周辺領域	1306	1_冊子	ペリー歩行分析: 正常歩行と異常歩行, 第2版	医歯薬出版	1
4	1_基礎分野・周辺領域	1308	1_冊子	入門運動生理学, 第4版	杏林書院	1
5	1_基礎分野・周辺領域	1790	1_冊子	入門人体解剖学, 改訂第5版	南江堂	1
6	1_基礎分野・周辺領域	1795	1_冊子	地域リハビリテーション論 Ver.6　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
7	1_基礎分野・周辺領域	1796	1_冊子	徹底ガイド!高次脳機能障害 ―ひと目でわかる基礎知識と患者対応―　電子書籍<同時アクセス1>	総合医学社	1
8	1_基礎分野・周辺領域	2283	1_冊子	解剖学アトラス	文光堂	1
9	1_基礎分野・周辺領域	1312	2_電子	終末期医療（シリーズ生命倫理学 4）　電子書籍<同時アクセス1>	丸善出版	1
10	1_基礎分野・周辺領域	1316	2_電子	医療情報（シリーズ生命倫理学 16）　電子書籍<同時アクセス1>	丸善出版	1
11	2_リハビリテーション学	2298	2_電子	地域リハビリテーション論 = Community based rehabilitation Ver.5　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
12	3_理学療法学	1807	1_冊子	脳卒中　376p	メジカルビュー社	1
13	3_理学療法学	1808	1_冊子	最新リハビリテーション医学　470p	医歯薬出版	1
14	3_理学療法学	1809	1_冊子	新編内部障害のリハビリテーション　497p　上月正博	医歯薬出版	1
15	3_理学療法学	1810	1_冊子	標準理学療法学　480p　運動療法学各論	医学書院	1
16	3_理学療法学	1811	1_冊子	テキスト物理療法学　270p　濱出茂治/烏野大	医歯薬出版	1
17	3_理学療法学	1812	1_冊子	脳卒中理学療法の理論と技術　497p	メジカルビュー社	1
18	3_理学療法学	1813	1_冊子	切断と義肢　535p　澤村誠志	医歯薬出版	1
19	3_理学療法学	1814	1_冊子	義肢製作マニュアル　310p	医歯薬出版	1
20	3_理学療法学	1815	1_冊子	新ブラッシュアップ理学療法～新たな技術を創造する臨床家88の挑戦～　367p　福井 勉	ヒューマン・プレス	1
21	3_理学療法学	2299	1_冊子	整形外科学テキスト　415p	南江堂	1
22	3_理学療法学	2300	1_冊子	リハビリテーション運動生理学　405p	メジカルビュー社	1
23	3_理学療法学	2301	1_冊子	よくわかる内部障害の運動療法　272p　上月正博/河村孝幸	医歯薬出版	1
24	3_理学療法学	2302	1_冊子	リハビリテーション義肢装具学　461p	メジカルビュー社	1
25	3_理学療法学	3001	2_電子	解剖・動作・エコーで導くFasciaリリースの基本と臨床: Fasciaの評価と治療　電子書籍<同時アクセス1>	文光堂	1
26	3_理学療法学	3002	2_電子	筋緊張に挑む: 筋緊張を深く理解し,治療技術をアップする! (臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス)	文光堂	1
27	3_理学療法学	3003	2_電子	リハビリに直結する!運動器画像の見かた　電子書籍<同時アクセス1>	羊土社	1
28	3_理学療法学	3004	2_電子	非特異的腰痛のリハビリテーション: Webで動画が見られる! (痛みの理学療法シリーズ)　電子書籍<同時	羊土社	1
29	3_理学療法学	3005	2_電子	知っておくべき!整形外科医の関節リウマチ診療ABC 電子書籍<同時アクセス1>	文光堂	1
30	3_理学療法学	3006	2_電子	“ながら力”が歩行を決める: 自立歩行能力を見きわめる臨床評価指標「F&S」　電子書籍<同時アクセス	協同医書出版社	1
31	3_理学療法学	3007	2_電子	一日10分家庭で行う手のリハビリ　電子書籍<同時アクセス1>	協同医書出版社	1
32	3_理学療法学	3008	2_電子	片麻痺: バビンスキーからペルフェッティへ　電子書籍<同時アクセス1>	協同医書出版社	1

購入図書明細書（4年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
33	3_理学療法学	3009	2_電子	片麻痺の人のためのリハビリガイド: 感じることで動きが生まれる　電子書籍<同時アクセス1>	協同医書出版社	1
34	3_理学療法学	3010	2_電子	脳卒中・脳外傷者のための自動車運転, 第2版　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
35	3_理学療法学	3011	2_電子	脳卒中患者だった理学療法士が伝えたい、本当のこと　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
36	3_理学療法学	3012	2_電子	脳卒中の神経リハビリテーション: 新しいロジックと実践　電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
37	3_理学療法学	3013	2_電子	パーキンソン病の医学的リハビリテーション　電子書籍<同時アクセス1>	日本医事新報社	1
38	3_理学療法学	3014	2_電子	リハビリテーションのための発達科学入門: 身体をもった心の発達　電子書籍<同時アクセス1>	協同医書出版社	1
39	3_理学療法学	3015	2_電子	発達障害の運動療法: ASD・ADHD・LDの障害構造とアプローチ　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
40	3_理学療法学	3016	2_電子	わかりやすい外科学　電子書籍<同時アクセス1>	文光堂	1
41	3_理学療法学	3017	2_電子	手術室の安全医学講座　電子書籍<同時アクセス1>	金芳堂	1
42	3_理学療法学	3018	2_電子	手術室の安全医学講座: Part2　電子書籍<同時アクセス1>	金芳堂	1
43	3_理学療法学	3019	2_電子	外科感染症診療マニュアル　電子書籍<同時アクセス1>	日本医事新報社	1
44	3_理学療法学	3020	2_電子	研修医のための見える・わかる外科手術:「どんな手術?何をするの?」基本と手順がイラスト300点でイメー	羊土社	1
45	3_理学療法学	3021	2_電子	周術期の体温管理: PERIOPERATIVE MANAGEMENT OF BODY TEMPERATURE (FOR	克誠堂出版	1
46	3_理学療法学	3022	2_電子	周術期モニタリング: PERIOPERATIVE MONITORING (FOR PROFESSIONAL	克誠堂出版	1
47	3_理学療法学	3023	2_電子	周術期循環管理: PERIOPERATIVE CIRCULATORY MANAGEMENT (FOR	克誠堂出版	1
48	3_理学療法学	3024	2_電子	周術期医療安全Q&A70: 周術期管理チームが創る多職種連携　電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
49	3_理学療法学	3025	2_電子	チーム医療による周術期管理まるわかり: 安全で質の高い術前術後管理を行うための、チーム内の役割と	羊土社	1
50	3_理学療法学	3026	2_電子	研修医のための外科の周術期管理ズバリおまかせ! 電子書籍<同時アクセス1>	羊土社	1
51	3_理学療法学	3027	2_電子	写真でわかる外傷基本手技: VISUAL TEXTBOOK OF TRAUMA CARE　電子書籍<同時アクセス1>	インターメディカ	1
52	3_理学療法学	3028	2_電子	創傷治癒の臨床: 治りにくいキズのマネージメント 電子書籍<同時アクセス1>	金芳堂	1
53	3_理学療法学	3029	2_電子	がんの理学療法 (理学療法MOOK 21)　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
54	3_理学療法学	3030	2_電子	がんのリハビリテーションQ&A　電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
55	3_理学療法学	3031	2_電子	縦隔の外科: 手術手技アトラス　電子書籍<同時アクセス1>	南山堂	1
56	3_理学療法学	3032	2_電子	ブラッシュアップ急性腹症　電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
57	3_理学療法学	3033	2_電子	若手医師のための脊椎外傷の診断・保存的治療・手術: 写真・WEB動画で理解が深まる (整形外科	メディカ出版	1
58	3_理学療法学	3034	2_電子	Cortical Bone Trajectory〈CBT〉法: 理想の軌道がここにある　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
59	3_理学療法学	3035	2_電子	MISt手技における経皮的椎弓根スクリュー法: 基礎と臨床応用　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
60	3_理学療法学	3036	2_電子	MISt手技における側方経路椎体間固定術〈LIF〉入門: OLIF・XLIFを中心に　電子書籍<同時アクセス1	三輪書店	1
61	3_理学療法学	3037	2_電子	脊椎脊髄の手術: Illustrated Surgery of Spine & Spinal Cord: 第2巻　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
62	3_理学療法学	3038	2_電子	脊椎装具に強くなる!Basics & Tips (臨床力up!Refresher Course 2)　電子書籍<同時アクセス1>	三輪書店	1
63	3_理学療法学	3039	2_電子	カラーアトラス脊椎・脊髄外科　電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1
64	3_理学療法学	3040	2_電子	しびれ,痛みの外来Q&A: 脊椎脊髄外来の疑問に答える, 改訂2版　電子書籍<同時アクセス1>	中外医学社	1

購入図書明細書（4年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
65	3_理学療法学	3041	2_電子	頚椎・胸椎の手術（整形外科手術イラストレイテッド）電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
66	3_理学療法学	3042	2_電子	腰椎の手術（整形外科手術イラストレイテッド）　電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
67	3_理学療法学	3043	2_電子	脊髄の手術（整形外科手術イラストレイテッド）　電子書籍<同時アクセス1>	中山書店	1
68	3_理学療法学	3044	2_電子	腰椎疾患up-to-date（別冊整形外科 No.63）　電子書籍<同時アクセス1>	南江堂	1
69	3_理学療法学	3045	2_電子	ゼロからマスター手・肘の鏡視下手術　電子書籍<同時アクセス1>	メジカルビュー社	1
70	3_理学療法学	3046	2_電子	急性期治療とその技法（スポーツ理学療法プラクティス）　電子書籍<同時アクセス1>	文光堂	1
71	4_作業療法学	1320	1_冊子	心的外傷後成長ハンドブック: 耐え難い体験が人の心にもたらすもの	医学書院	1
72	4_作業療法学	1324	1_冊子	トラウマセラピー・ケースブック: 症例にまなぶトラウマケア技法	星和書店	1
73	4_作業療法学	1328	1_冊子	感覚療法への招待	風間書房	1
74	4_作業療法学	1332	1_冊子	「老健」が、親の認知症からあなたを救う!: 特養、サ高住、老人ホームはやめなさい	WAVE出版	1
75	4_作業療法学	1336	1_冊子	子どもの怒りに対する認知行動療法ワークブック	金剛出版	1
76	4_作業療法学	1337	1_冊子	精神医学の潮流: 大阪大学精神医学教室120年の歩み	新興医学出版社	1
77	4_作業療法学	1340	1_冊子	大学生のアスペルガー症候群: Q&A	明石書店	1
78	4_作業療法学	1344	1_冊子	睡眠の生理と臨床: 健康を育む「ねむり」の科学, 改訂第3版	診断と治療社	1
79	4_作業療法学	1348	1_冊子	心身医学標準テキスト, 第3版	医学書院	1
80	4_作業療法学	1352	1_冊子	慢性疾患の認知行動療法: アドヒアランスとうつへのアプローチ	診断と治療社	1
81	4_作業療法学	1356	1_冊子	アルコール依存症治療革命	中外医学社	1
82	4_作業療法学	1358	1_冊子	高齢者のその人らしさを捉える作業療法: 大切な作業の実現	文光堂	1
83	4_作業療法学	1360	1_冊子	ストレス学ハンドブック	創元社	1
84	4_作業療法学	1362	1_冊子	メンタル医療: 原因解明と診断,治療の最前線（ファインケミカルシリーズ）	シーエムシー出版	1
85	4_作業療法学	1364	1_冊子	最新図解やさしくわかる精神医学: 治療と支援の「いま」がわかる	ナツメ社	1
86	4_作業療法学	1366	1_冊子	現代精神医学原論	みすず書房	1
87	4_作業療法学	1368	1_冊子	中井久夫集: 1 働く患者	みすず書房	1
88	4_作業療法学	1369	1_冊子	中井久夫集: 4 統合失調症の陥穽	みすず書房	1
89	4_作業療法学	1370	1_冊子	中井久夫集: 7 災害と日本人	みすず書房	1
90	4_作業療法学	1371	1_冊子	目立たぬものの精神病理	みすず書房	1
91	4_作業療法学	1372	1_冊子	不眠症診療&マネジメントマニュアル:「眠れません…」を解決する	メディカ出版	1
92	4_作業療法学	1373	1_冊子	自殺予防へのプロの対応: 医療従事者のための早期発見と治療	医学と看護社	1
93	4_作業療法学	1374	1_冊子	みるよむわかる精神医学入門	医学書院	1
94	4_作業療法学	1375	1_冊子	精神疾患・メンタルヘルスガイドブック: DSM-5から生活指針まで	医学書院	1
95	4_作業療法学	1376	1_冊子	対応困難事例に出会う医療者のためのメンタルヘルスの知識と技術	医学書院	1
96	4_作業療法学	1377	1_冊子	PT・OT基礎から学ぶ神経内科学ノート: 理学療法士・作業療法士, 第2版	医歯薬出版	1

購入図書明細書（4年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
97	4_作業療法学	1378	1_冊子	精神科リエゾンチームガイドブック: はじめ方からトラブル対応まで	医歯薬出版	1
98	4_作業療法学	1379	1_冊子	中井久夫との対話: 生命、こころ、世界	河出書房新社	1
99	4_作業療法学	1380	1_冊子	極論で語る睡眠医学	丸善出版	1
100	4_作業療法学	1381	1_冊子	精神科医がこころの病になったとき	紀伊國屋書店	1
101	4_作業療法学	1382	1_冊子	精神医学と哲学の出会い: 脳と心の精神病理	玉川大学出版部	1
102	4_作業療法学	1383	1_冊子	〈病い〉のスペクトル: 精神医学と人類学の遭遇	金剛出版	1
103	4_作業療法学	1384	1_冊子	ポジティブ精神医学	金剛出版	1
104	4_作業療法学	1386	1_冊子	恥の烙印: 精神的疾病へのスティグマと変化への道標	金剛出版	1
105	4_作業療法学	1392	1_冊子	現代精神医学の礎: 1 精神医学総論	時空出版	1
106	4_作業療法学	1393	1_冊子	現代精神医学の礎: 4 気分障害・非定型精神病/児童精神医学/精神科治療/社会精神医学・司法精神	時空出版	1
107	4_作業療法学	1413	1_冊子	TEXT精神医学, 改訂4版	南山堂	1
108	4_作業療法学	1428	1_冊子	精神病理学臨床講義, 第2版	弘文堂	1
109	4_作業療法学	1437	1_冊子	カプラン臨床精神医学テキスト: DSM-5診断基準の臨床への展開, 日本語版第3版	メディカル・サイエンス・インター	1
110	4_作業療法学	1438	1_冊子	精神科治療薬の考え方と使い方:「ストール精神薬理学エセンシャルズ」準拠, 第3版	メディカル・サイエンス・インター	1
111	4_作業療法学	1443	1_冊子	DSM-5精神疾患の診断・統計マニュアル	医学書院	1
112	4_作業療法学	1450	1_冊子	精神科診断戦略: モリソン先生のDSM-5徹底攻略case130	医学書院	1
113	4_作業療法学	1454	1_冊子	認知行動療法トレーニングブック, 第2版	医学書院	1
114	4_作業療法学	1458	1_冊子	症例に学ぶ精神科診断・治療・対応	金原出版	1
115	4_作業療法学	1464	1_冊子	精神症候学, 第2版	弘文堂	1
116	4_作業療法学	1467	1_冊子	精神疾患診断のための脳形態・機能検査法	新興医学出版社	1
117	4_作業療法学	1479	1_冊子	精神科医のためのケースレポート・医療文書の書き方実例集	中山書店	1
118	4_作業療法学	1494	1_冊子	高次脳機能障害のための認知リハビリテーション: 統合的な神経心理学的アプローチ	協同医書出版社	1
119	4_作業療法学	1504	1_冊子	強迫症状にいたる心理的メカニズム: 多母集団同時分析による日中青年の比較を通して (シリーズ・臨床	ミネルヴァ書房	1
120	4_作業療法学	1511	1_冊子	PTSDハンドブック: 科学と実践	金剛出版	1
121	4_作業療法学	1532	1_冊子	社会不安障害患者の安全確保行動に関する研究: 回避行動に関する新たな視点	風間書房	1
122	4_作業療法学	1542	1_冊子	自閉症スペクトラムの臨床: 大人と子どもへの精神分析的アプローチ	岩崎学術出版社	1
123	4_作業療法学	1569	1_冊子	社会認知ならびに対人関係のトレーニング〈SCIT〉治療マニュアル	星和書店	1
124	4_作業療法学	1572	1_冊子	統合失調症症候学: 続 精神症候学の復権を求めて	星和書店	1
125	4_作業療法学	1612	1_冊子	解離: 若年期における病理と治療, 新装版	みすず書房	1
126	4_作業療法学	1627	1_冊子	Autism: 自閉症スペクトラム障害	日本小児医事出版社	1
127	4_作業療法学	1633	1_冊子	人間作業モデル: 理論と応用, 改訂第4版	協同医書出版社	1
128	4_作業療法学	1638	1_冊子	作業療法士プロフェッショナル・ガイド: 作業療法士とは何か	文光堂	1

購入図書明細書（4年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
129	4_作業療法学	1644	1_冊子	巨大惨禍への精神医学的介入: 自然災害・事故・戦争・テロ等への専門的備え	弘文堂	1
130	4_作業療法学	1842	1_冊子	三つの文化を生きた一人の精神科医: 日本,中国,そして米国の各文化による性格形成への影響	星和書店	1
131	4_作業療法学	1847	1_冊子	介護老人施設・老人ホーム計画一覧: 2018-2019 地域包括ケア体制構築で2025年に挑む	産業タイムズ社	1
132	4_作業療法学	1856	1_冊子	医学と医療の行動科学, 普及版	朝倉書店	1
133	4_作業療法学	1877	1_冊子	ストレスと筋疼痛障害: 慢性作業関連性筋痛症	名古屋大学出版会	1
134	4_作業療法学	1882	1_冊子	精神医療、脱施設化の起源: 英国の精神科医と専門職としての発展1890-1930	みすず書房	1
135	4_作業療法学	1890	1_冊子	標準精神医学, 第7版 (Standard Textbook)	医学書院	1
136	4_作業療法学	1895	1_冊子	現代臨床精神医学: MODERN CLINICAL PSYCHIATRY, 改訂第12版	金原出版	1
137	4_作業療法学	1898	1_冊子	犯罪学と精神医学史研究	金剛出版	1
138	4_作業療法学	1904	1_冊子	現代精神医学の礎: 2 統合失調症・妄想	時空出版	1
139	4_作業療法学	1907	1_冊子	精神医学の基本問題: 精神病と神経症の構造論の展望, 復刻版 (創造古典選書)	新樹会創造出版	1
140	4_作業療法学	1908	1_冊子	精神科研修ノート, 改訂第2版 (研修ノートシリーズ)	診断と治療社	1
141	4_作業療法学	1912	1_冊子	精神科臨床倫理	星和書店	1
142	4_作業療法学	1919	1_冊子	パラダイム・ロスト: 心のスティグマ克服、その理論と実践	中央法規出版	1
143	4_作業療法学	1926	1_冊子	東京都立松沢病院130周年記念業績選集1919-1955: わが国精神医学の源流を辿る, 復刻	日本評論社	1
144	4_作業療法学	1933	1_冊子	精神医学 (メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ)	理工図書	1
145	4_作業療法学	1945	1_冊子	カプラン精神科薬物ハンドブック: エビデンスに基づく向精神薬療法, 第5版	メディカル・サイエンス・インター	1
146	4_作業療法学	1948	1_冊子	AASMによる睡眠および随伴イベントの判定マニュアル: ルール,用語,技術仕様の詳細, VERSION 2.5	ライフ・サイエンス	1
147	4_作業療法学	1950	1_冊子	DSM-5スタディガイド: 1冊で身につく診断と面接の技法	医学書院	1
148	4_作業療法学	1951	1_冊子	DSM-5診断トレーニングブック: 診断基準を使いこなすための演習問題500	医学書院	1
149	4_作業療法学	1955	1_冊子	パルス波ECTハンドブック	医学書院	1
150	4_作業療法学	1956	1_冊子	誤診症例から学ぶ認知症とその他の疾患の鑑別 (精神科臨床エキスパート)	医学書院	1
151	4_作業療法学	1960	1_冊子	精神科薬物相互作用ハンドブック	医学書院	1
152	4_作業療法学	1961	1_冊子	早期精神病の診断と治療	医学書院	1
153	4_作業療法学	1962	1_冊子	認知行動療法トレーニングブック: 統合失調症・双極性障害・難治性うつ病編	医学書院	1
154	4_作業療法学	1963	1_冊子	抑うつの鑑別を究める (精神科臨床エキスパート)	医学書院	1
155	4_作業療法学	1975	1_冊子	睡眠検査学の基礎と臨床	新興医学出版社	1
156	4_作業療法学	1987	1_冊子	精神科治療薬ハンドブック, 改訂7版	中外医学社	1
157	4_作業療法学	1993	1_冊子	認知行動療法事典	日本評論社	1
158	4_作業療法学	2001	1_冊子	認知リハビリテーション実践ガイド	医学書院	1
159	4_作業療法学	2007	1_冊子	脳血管障害の評価とアプローチ: 生活の行為を紡ぐ作業療法プラクティス	文光堂	1
160	4_作業療法学	2014	1_冊子	不安障害診療のすべて (精神科臨床エキスパート)	医学書院	1

購入図書明細書（4年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
161	4_作業療法学	2019	1_冊子	PTSD治療ガイドライン, 第2版	金剛出版	1
162	4_作業療法学	2020	1_冊子	モーズレイ摂食障害支援マニュアル: 当事者と家族をささえるコラボレーション・ケア	金剛出版	1
163	4_作業療法学	2037	1_冊子	社交不安障害における個人認知行動療法プログラム	風間書房	1
164	4_作業療法学	2043	1_冊子	発達障害支援の実際: 診療の基本から多様な困難事例への対応まで	医学書院	1
165	4_作業療法学	2048	1_冊子	自己愛性人格/解離性障害/躁うつ病の拡散: 精神医学における症例記述の復権のために	金剛出版	1
166	4_作業療法学	2049	1_冊子	妄想の臨床	新興医学出版社	1
167	4_作業療法学	2055	1_冊子	サイコパシー・ハンドブック	明石書店	1
168	4_作業療法学	2056	1_冊子	脳 運動プログラム回復セラピー: 失調症・パーキンソン症状・感覚障害	シービーアール	1
169	4_作業療法学	2061	1_冊子	外来で診る統合失調症 (精神科臨床エキスパート)	医学書院	1
170	4_作業療法学	2063	1_冊子	ベックの統合失調症の認知療法 (認知療法シリーズ)	岩崎学術出版社	1
171	4_作業療法学	2065	1_冊子	統合失調症の認知機能改善療法	金剛出版	1
172	4_作業療法学	2066	1_冊子	前頭葉・実行機能プログラム〈FEP〉: 認知機能改善のためのトレーニング実践マニュアル	新興医学出版社	1
173	4_作業療法学	2069	1_冊子	初期統合失調症, 新版	星和書店	1
174	4_作業療法学	2072	1_冊子	統合失調症症候学: 補 精神科臨床のあり方:批判と提言	星和書店	1
175	4_作業療法学	2085	1_冊子	気分障害の薬理・生化学: うつ病の脳内メカニズム研究:進歩と挑戦	医薬ジャーナル社	1
176	4_作業療法学	2089	1_冊子	治療者のための女性のうつ病ガイドブック	金剛出版	1
177	4_作業療法学	2106	1_冊子	自殺予防マニュアル: 地域医療を担う医師へのうつ状態・うつ病の早期発見と早期治療のために, 第3版	明石書店	1
178	4_作業療法学	2110	1_冊子	子どもの能力から考える発達障害領域の作業療法アプローチ, 改訂第2版	メジカルビュー社	1
179	4_作業療法学	2111	1_冊子	思春期・青年期のうつ病治療と自殺予防	医学書院	1
180	4_作業療法学	2124	1_冊子	自閉症: 幼児期精神病から発達障害へ	星和書店	1
181	4_作業療法学	2133	1_冊子	川モデル: 文化に適した作業療法	三輪書店	1
182	4_作業療法学	2143	1_冊子	災害精神医学	星和書店	1
183	4_作業療法学	2144	1_冊子	我が精神鑑定例: 1	時空出版	1
184	4_作業療法学	2207	1_冊子	はじめての精神科作業療法	中外医学社	1
185	4_作業療法学	2208	1_冊子	OT臨地実習ルートマップ	メジカルビュー社	1
186	4_作業療法学	2339	1_冊子	PTSD・物質乱用治療マニュアル: シーキングセーフティ	金剛出版	1
187	4_作業療法学	2344	1_冊子	10分でできる認知行動療法入門: 10分間CBTハンドブック第2版	日経BP社	1
188	4_作業療法学	2346	1_冊子	臨床現場で使える思春期心理療法の治療計画 (心理治療計画実践ガイド)	明石書店	1
189	4_作業療法学	2348	1_冊子	作業療法士が行うIT活用支援	医歯薬出版	1
190	4_作業療法学	2351	1_冊子	介護老人保健施設の作業療法	医歯薬出版	1
191	4_作業療法学	2352	1_冊子	介護老人保健施設運営のための基準と解釈	中央法規出版	1
192	4_作業療法学	2362	1_冊子	眠りの科学とその応用: 睡眠のセンシング技術と良質な睡眠に向けての研究開発, 普及版 (バイオテクノロ	シーエムシー出版	1

購入図書明細書（4年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
193	4_作業療法学	2363	1_冊子	睡眠とその障害のクリニカルクエスチョン200	診断と治療社	1
194	4_作業療法学	2373	1_冊子	新アルコール・薬物使用障害の診断治療ガイドライン: 厚生労働科学研究費補助金 障害者対策総合研	新興医学出版社	1
195	4_作業療法学	2377	1_冊子	ストレス科学事典: Encyclopedia of Stress Science	実務教育出版	1
196	4_作業療法学	2383	1_冊子	現代精神医学のゆくえ: バイオサイコソーシャル折衷主義からの脱却	みすず書房	1
197	4_作業療法学	2391	1_冊子	専門医をめざす人の精神医学, 第3版	医学書院	1
198	4_作業療法学	2400	1_冊子	精神障害の下部構造: 精神医学的思考様式の革新	金剛出版	1
199	4_作業療法学	2401	1_冊子	犯罪学と精神医学史研究: 2	金剛出版	1
200	4_作業療法学	2405	1_冊子	精神医学エッセンス, 第2版	弘文堂	1
201	4_作業療法学	2407	1_冊子	現代精神医学の礎: 3 神経心理学/脳器質性疾患・外因精神病	時空出版	1
202	4_作業療法学	2411	1_冊子	精神活動: 脳科学と新しい精神医学	新樹会創造出版	1
203	4_作業療法学	2416	1_冊子	精神障害と回復: リバーマンのリハビリテーション・マニュアル	星和書店	1
204	4_作業療法学	2421	1_冊子	マイノリティの精神医学: 疾病・障害・民族少数派を診つづけて	大正大学出版会	1
205	4_作業療法学	2424	1_冊子	精神医学: その基盤と進歩, 普及版	朝倉書店	1
206	4_作業療法学	2450	1_冊子	カプラン臨床精神医学Q&Aレビュー	メディカル・サイエンス・インター	1
207	4_作業療法学	2453	1_冊子	臨床睡眠検査マニュアル, 改訂版	ライフ・サイエンス	1
208	4_作業療法学	2454	1_冊子	DSM-5ガイドブック: 診断基準を使いこなすための指針	医学書院	1
209	4_作業療法学	2455	1_冊子	DSM-5を使いこなすための臨床精神医学テキスト	医学書院	1
210	4_作業療法学	2459	1_冊子	これからの退院支援・地域移行 (精神科臨床エキスパート)	医学書院	1
211	4_作業療法学	2461	1_冊子	抗精神病薬完全マスター (精神科臨床エキスパート)	医学書院	1
212	4_作業療法学	2462	1_冊子	重症化させないための精神疾患の診方と対応 (精神科臨床エキスパート)	医学書院	1
213	4_作業療法学	2466	1_冊子	他科からの依頼患者の診方と対応 (精神科臨床エキスパート)	医学書院	1
214	4_作業療法学	2467	1_冊子	認知行動療法トレーニングブック: 短時間の外来診療編	医学書院	1
215	4_作業療法学	2483	1_冊子	精神科救急のすべて	新興医学出版社	1
216	4_作業療法学	2485	1_冊子	脳画像でみる精神疾患	新興医学出版社	1
217	4_作業療法学	2492	1_冊子	思考活動の障害とロールシャッハ法: 理論・研究・鑑別診断の実際	創元社	1
218	4_作業療法学	2503	1_冊子	臨床精神科作業療法入門	文光堂	1
219	4_作業療法学	2513	1_冊子	脳卒中における臨床神経精神医学: 脳血管障害後の認知・行動・情動の障害, 第2版	星和書店	1
220	4_作業療法学	2514	1_冊子	高次脳機能障害の考えかたと画像診断	中外医学社	1
221	4_作業療法学	2515	1_冊子	PT・OTのための高次脳機能障害ABC	文光堂	1
222	4_作業療法学	2519	1_冊子	PTSDの医療人類学, 新装版	みすず書房	1
223	4_作業療法学	2520	1_冊子	神経症: その理論と治療, 新装版	みすず書房	1
224	4_作業療法学	2521	1_冊子	依存と嗜癖: どう理解し、どう対処するか (精神科臨床エキスパート)	医学書院	1

購入図書明細書（4年次）

No.	領域	ID〔必須情報・削除不可〕	媒体	書名等	出版社	数量
225	4_作業療法学	2522	1_冊子	摂食障害の認知行動療法	医学書院	1
226	4_作業療法学	2551	1_冊子	介護施設の精神科ハンドブック	新興医学出版社	1
227	4_作業療法学	2566	1_冊子	自閉症百科事典	明石書店	1
228	4_作業療法学	2568	1_冊子	サリヴァンの精神科セミナー, 新装版	みすず書房	1
229	4_作業療法学	2572	1_冊子	統合失調症: SCHIZOPHRENIA	医学書院	1
230	4_作業療法学	2577	1_冊子	クロザピン100のQ&A: 治療抵抗性への挑戦	星和書店	1
231	4_作業療法学	2580	1_冊子	統合失調症とその関連病態：ベッドサイド・プラクティス	星和書店	1
232	4_作業療法学	2602	1_冊子	双極性障害の家族焦点化療法	金剛出版	1
233	4_作業療法学	2627	1_冊子	青春期精神医学: 内科医,小児科医,若手精神科医のための	診断と治療社	1
234	4_作業療法学	2633	1_冊子	児童青年精神医学, 新版	明石書店	1
235	4_作業療法学	2635	1_冊子	自閉症のDIR治療プログラム: フロアタイムによる発達の促し	創元社	1
236	4_作業療法学	2638	1_冊子	義肢装具と作業療法: 評価から実践まで	医歯薬出版	1
237	4_作業療法学	2640	1_冊子	標準作業療法学: 専門分野: 作業療法評価学, 第3版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	1
238	4_作業療法学	2642	1_冊子	身体障害の作業療法, 改訂第6版	協同医書出版社	1
239	4_作業療法学	2645	1_冊子	図解作業療法技術ガイド: 根拠と臨床経験にもとづいた効果的な実践のすべて, 第3版	文光堂	1
240	4_作業療法学	2656	1_冊子	我が精神鑑定例: 2	時空出版	1
241	4_作業療法学	2657	1_冊子	妄想の医学と法学	中外医学社	1
242	4_作業療法学	2722	1_冊子	I・ADL: 作業療法の戦略・戦術・技術, 第3版	三輪書店	1
243	5_電子ジャーナル	9001	5_電子ジャーナル	総合リハビリテーション　1973年(創刊号)～／医学書院／医学書院・MedicalFinder	医学書院	1
244	5_電子ジャーナル	9002	5_電子ジャーナル	理学療法ジャーナル　1967年(創刊号)～／医学書院／医学書院・MedicalFinder	医学書院	1
245	5_電子ジャーナル	9003	5_電子ジャーナル	BRAIN and NERVE　2007年～／医学書院／医学書院・MedicalFinder	医学書院	1
246	5_電子ジャーナル	9004	5_電子ジャーナル	臨床整形外科　2000年～／医学書院／医学書院・MedicalFinder	医学書院	1
247	5_電子ジャーナル	9005	5_電子ジャーナル	作業療法ジャーナル　2013年～／三輪書店／医学書院・MedicalFinder	三輪書店	1
248	5_電子ジャーナル	9006	5_電子ジャーナル	脊椎脊髄ジャーナル　2015年～／三輪書店／医学書院・MedicalFinder	三輪書店	1
249	5_電子ジャーナル	9007	5_電子ジャーナル	地域リハビリテーション　2015年～／三輪書店／医学書院・MedicalFinder	三輪書店	1
250	5_電子ジャーナル	9008	5_電子ジャーナル	Cancer Board Square　2015年～／医学書院／医学書院・MedicalFinder	医学書院	1
				合計		250